青森県埋蔵文化財調査報告書　第370集

三内丸山(5)遺跡Ⅱ
近　野　遺　跡　Ⅶ

― 県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 ―

２００４年３月

青森県教育委員会

第２号土器棺墓大型壷形土器（図９－７）

第３号土器棺墓大型壷形土器（図10－４）

空中写真（昭和 50 年撮影　国土地理院発行）

基本層序Ａ（NW →）

基本層序Ｄ（Ｅ→）

近野遺跡Ｂ区

B 区西側遠景：平成 13 年（SE →）

B 区西側（真上→）

B 区中央：平成 14 年（SE →）

B 区中央（真上→）

B 区中央（NW →）

B 区東側：平成 15 年（N →）

近野遺跡 B 区

B 区第 18 号竪穴住居跡

B 区第 16・17・20 号竪穴住居跡

B 区第 19 号竪穴住居跡

B 区第 4 号竪穴住居跡

B 区第 2 号竪穴住居跡出土遺物

近野遺跡 B 区

序

近野遺跡は、特別史跡三内丸山遺跡の南に隣接し、縄文時代中期から後期と、平安時代の遺跡として周知されています。

県立美術館及び都市計画道路建設事業により平成12年度から調査を開始しました。平成13年から15年度は約72.600㎡という大規模な区域の発掘調査を行い、縄文時代と平安時代の多数の遺構と多量の遺物が発見されました。

これらの調査結果のうち、今年度は遺跡の西側の台地部分（A区・B区）について報告します。西側台地からは、平安時代の外周溝と掘立柱建物跡を伴う竪穴住居跡25軒をはじめ土坑や溝跡が検出され、多種多様な遺物が出土しました。これらから、近野遺跡周辺の平安時代の集落の営みについて新たな面を見いだせるものと期待されます。

なお、このほかの調査区域については来年度以降、順次報告する予定です。

本報告書が広く文化財の保護と研究に活用され、地域社会の歴史・文化への普及活動に資することに期待したいと存じます。

最後になりましたが発掘調査の実施と報告書作成にあたり御協力、御指導を賜りました関係各位に対しまして、厚く感謝を申し上げます。

平成15年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長　佐藤良治

例　言

1　本報告書は、県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴い平成 13 ～ 15 年度に実施した青森市三内丸山(5)遺跡・近野遺跡の発掘調査報告書である。近野遺跡については西側斜面（A 区）、西側台地（B 区）分の報告である。

2　この遺跡は、平成 10 年 3 月に青森県教育委員会が編集発行した『青森県遺跡地図』に、遺跡番号 01250（三内丸山(5)遺跡）、遺跡番号 01065（近野遺跡）として登録されている。

3　本報告書の編集・作成は三内丸山(5)遺跡が水谷真由美、近野遺跡が杉野森淳子・木村高・伊藤由美子・斉藤慶吏・成田滋彦・荒谷伸郎が担当した。さらに原稿執筆には工藤大・畠山昇・小笠原雅行･坂本真弓が加わった。原稿執筆者の氏名は各文末に、依頼原稿については文頭に記している。

4　資料の分析、鑑定については、下記の方に依頼した（敬称略）。

石器の石質鑑定	弘前大学理工学部教授　　柴　正敏
火山灰分析	弘前大学理工学部教授　　柴　正敏
	株式会社　古環境研究所
炭化木材樹種同定	株式会社　パレオ・ラボ
	パリノ・サーヴェイ株式会社
土壌分析	株式会社　古環境研究所
リン・カルシウム含量分析	株式会社　古環境研究所
赤色付着物分析	株式会社　吉田生物研究所
放射性炭素年代分析	株式会社　地球科学研究所
	パリノ・サーヴェイ株式会社

5　本書に掲載した遺跡の位置図は、国土地理院発行の「青森西部」2.5 万分の 1 地形図を加工したものである。

6　挿図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。

7　遺物写真の縮尺は不統一である。

8　堆積土の色及び土器の色については『新版標準土色帳』（小山正忠、竹原秀雄　1993）を用いた。堆積土中の混入物の大きさについては便宜的に次のとおり表記し、それ以外のものは適宜形状と大きさを記した。

・粒状　「小粒」＝粒経 2 ㎜以下、「中粒」＝ 2 ～ 5 ㎜程度、「大粒」＝ 5 ～ 10 ㎜程度

・塊状　「小塊」＝粒経 10 ㎜以下、「中塊」＝ 10 ～ 20 ㎜程度、「大塊」＝ 20 ～ 50 ㎜程度

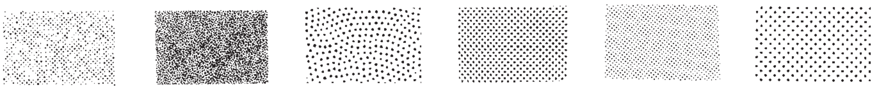
9　本稿で使用した遺構の略号は SI ＝竪穴住居跡、SK ＝土坑、SD ＝溝跡、SB ＝掘立柱建物跡、SN ＝焼土遺構、SR ＝土器埋設遺構、SX ＝その他の遺構とした。遺構の前に調査区名を付した。例えば BSK4 とは B 区第 4 号土坑の意である。

10　引用・参考文献は、第 2 編、第 3 編の巻末に示した。

11　発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12　遺物観察表の凡例は以下のとおりである。
遺物観察表は実測図に表現できない項目を中心とした。
13　挿図で使用した主なスクリーントーンとドットは以下の通りである。
三内丸山（5）遺跡
●　土器　　▲　石器　　★　土製品

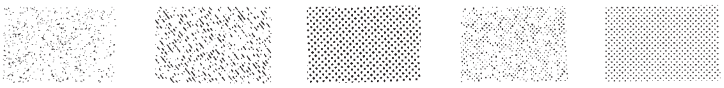
近野遺跡
（遺構）



焼　土　　炭化物　　粘　土　　白頭山火山灰　　柱　痕　　ロームブロック

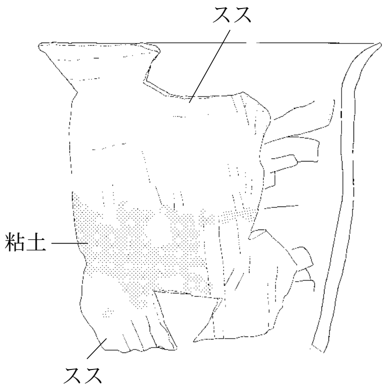
・住居跡の主軸方向はカマドの中心と真北との交わる角度を計測した。
表記例　N − 115° − E：北から東に 115 度の位置
W − 35° − N：北から西に 35 度の位置
・住居跡の床面積は壁溝を除く、内側の面積を 3 回計測した平均値である。
・—‥—‥—‥—‥—‥—　（二点破線）貼り床範囲
・—・—・—・—・—・—　（一点破線）硬化範囲

（遺物）



黒色付着物　赤色付着物　還元範囲　溶着剤　アスファルト

●・P　土器	◎　種子・分析試料
★　土製品	☆　石製品
■　羽口	□　鉄製品
▲　支脚	△・S　礫石器
＊　製塩土器	○・S　剥片石器
◎　焼成粘土塊	×・S　自然礫



14　発掘調査の実施及び報告書作成にあたり、下記の方々から御協力・御指導を頂いた。
井上哲郎、穴澤義功、鈴木三男、藤原弘明

目　　次

序
例言
目次
図版目次・写真目次
第１編　遺跡の概要
　第１節　調査に至る経緯…… 5
　第２節　遺跡の位置と周辺の遺跡…… 6
　第３節　調査方法…… 6
　第４節　近野遺跡周辺の地形及び地質について…… 7
第２編　三内丸山(5)遺跡Ⅱ
　第１章　調査概要
　　第１節　調査要項…… 14
　　第２節　調査経過…… 15
　　第３節　地形と基本層序…… 15
　第２章　検出遺構と出土遺物
　　第１節　縄文時代の遺構と遺物…… 17
　　第２節　平安時代の遺構…… 25
　　第３節　遺構外の出土遺物…… 28
　第３章　三内丸山(5)遺跡の土壌理化学分析及び脂肪酸分析 …… 33
　第４章　まとめ…… 40
　引用・参考文献…… 41
　遺物観察表…… 42
　写真図版…… 45
第３編　近野遺跡Ⅶ－Ａ区・Ｂ区－
　第１章　調査概要
　　第１節　調査要項…… 56
　　第２節　調査経過…… 59
　　第３節　基本層序…… 60
　第２章　検出遺構
　　第１節　遺構の概要…… 64
　　第２節　Ａ区・Ｂ区検出遺構…… 67
　　1.縄文時代の竪穴住居跡　2.土器埋設遺構、土器片集積遺構　3.平安時代の竪穴住居跡　4.掘立柱建物跡
　　5.溝跡　6.畠跡　7.焼土･炭化物集積遺構　8.柱列･ピット群　9.土坑
　第３章　出土遺物
　　第１節　遺物の概要……174
　　第２節　Ａ区出土遺物……174
　　第３節　Ｂ区出土遺物……175
　　1.縄文土器　2.土製品〈縄文〉　3.弥生土器、続縄文土器　4.剥片石器　5.礫石器　6.土師器･須恵器
　　7.土製品〈古代〉　8.焼成粘土塊　9.石製品　10.製塩土器　11.支脚　12.鉄関連遺物　13.近世以降の遺物
　第４章　自然科学分析
　　第１節　近野遺跡の火山灰分析……250
　　第２節　Ｂ区住居跡から出土した炭化木材の樹種について……255
　　第３節　畠跡(BSX8) 土壌分析 ……261
　　第４節　埋設土器のリン・カルシウム含量分析……271
　　第５節　青森県近野遺跡出土石器にみられる赤色付着物の調査……273
　　第６節　近野遺跡Ｂ区の放射性炭素年代分析結果 ……275
　第５章　まとめ……285
　引用・参考文献……287
　遺物観察表……289
　写真図版……317
報告書抄録

図版目次

図 1　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
図 2　調査区域図 …… 4
図 3　遺跡周辺の地形分類 …… 9
図 4　Ｂ区内のボーリング試料に基づく柱状図11
　－三内丸山(5)遺跡－
図 5　基本層序 …… 15
図 6　遺構配置図･試掘調査トレンチ位置図 16
図 7　土坑 …… 19
図 8　第 1 号土器棺墓 …… 20
図 9　第 2 号土器棺墓 …… 22
図 10　第 3 号土器棺墓 …… 24
図 11　第 2 号道跡 …… 26
図 12　第 1 号溝跡・第 1 号道跡 …… 27
図 13　遺構外の出土遺物(1)…… 29
図 14　遺構外の出土遺物(2)…… 30
図 15　遺構外の出土遺物(3)…… 31
図 16　遺構外の出土遺物(4)…… 33
　－近野遺跡Ａ・Ｂ区－
図 17　全体図 …… 62
図 18　基本層序 …… 63
図 19　遺構配置図 …… 65
図 20　第 14 号竪穴住居跡 ……109
図 21　土器埋設遺構、土器片集積遺構 ……110
図 22　第 1 号竪穴住居跡(1) ……111
図 23　第 1 号竪穴住居跡(2) ……112
図 24　第 2 号竪穴住居跡(1) ……113
図 25　第 2 号竪穴住居跡(2) ……114
図 26　第 4 号竪穴住居跡(1)、第 10・67 号土坑
　……115
図 27　第 4 号竪穴住居跡(2) ……117
図 28　第 4 号竪穴住居跡(3) ……118
図 29　第 3 号竪穴住居跡 ……119
図 30　第 5 号竪穴住居跡 ……120
図 31　第 8 号竪穴住居跡 ……120
図 32　第 6 号竪穴住居跡(1) ……121
図 33　第 6 号竪穴住居跡(2) ……122
図 34　第 6 号竪穴住居跡(3)、第 14 号土坑 123
図 35　第 6 号竪穴住居跡(4) ……124
図 36　第 7 号竪穴住居跡(1)、第 9 号溝跡…125
図 37　第 7 号竪穴住居跡(2) ……126
図 38　第 9 号竪穴住居跡 ……127
図 39　第 10・11 号竪穴住居跡(1)、
　第 7 号溝跡 ……129
図 40　第 10・11 号竪穴住居跡(2)……132
図 41　第 10・11 号竪穴住居跡(3)……133
図 42　第 21 号竪穴住居跡 ……134
図 43　第 12・13 号竪穴住居跡 ……135
図 44　第 15 号竪穴住居跡(1) ……137
図 45　第 15 号竪穴住居跡(2) ……138
図 46　第 16・17・20 号竪穴住居跡(1) …139
図 47　第 16 号竪穴住居跡(2) ……141
図 48　第 17 号竪穴住居跡(2) ……143
図 49　第 16・17 号竪穴住居跡(3)……144
図 50　第 20 号竪穴住居跡(2) ……145
図 51　第 18 号竪穴住居跡(1) ……146
図 52　第 18 号竪穴住居跡(2)、
　第 15・17 号溝跡 ……147
図 53　第 19 号竪穴住居跡(1)、第 21 号溝跡 149
図 54　第 19 号竪穴住居跡(2) ……151
図 55　掘立柱建物跡(1)……152
図 56　掘立柱建物跡(2)……153
図 57　溝跡(1)……154
図 58　溝跡(2)……155
図 59　溝跡(3)……156
図 60　溝跡(4)……157
図 61　溝跡(5)……158
図 62　溝跡(6)……159
図 63　溝跡(7)……160
図 64　溝跡(8)……161
図 65　溝跡(9)……162
図 66　柱列、畠跡、焼土･炭化物集積遺構…163
図 67　ピット群(1)……164
図 68　ピット群(2)……165
図 69　ピット群(3)……166
図 70　土坑(1)……167
図 71　土坑(2)……168

図 72　土坑(3)……169
図 73　土坑(4)……170
図 74　土坑(5)……171
図 75　土坑(6)……172
図 76　土坑(7)……173
図 77　第 14 号竪穴住居跡出土縄文土器(1) 194
図 78　第 14 号竪穴住居跡(2)、
　　土坑出土縄文土器 ……195
図 79　土器埋設遺構、土器片集積遺構
　　出土縄文土器 ……196
図 80　遺構外出土縄文土器(1)……197
図 81　遺構外出土縄文土器(2)……198
図 82　遺構外出土縄文土器(3)……199
図 83　遺構外出土縄文土器(4)……200
図 84　遺構外出土縄文土器(5)……201
図 85　遺構外出土縄文土器(6)……202
図 86　遺構外出土縄文土器(7)……203
図 87　遺構外出土縄文土器(8)……204
図 88　遺構外出土縄文土器(9)……205
図 89　遺構外出土縄文土器(10) ……206
図 90　遺構外出土縄文土器(11) ……207
図 91　遺構外出土縄文土器(12) ……208
図 92　遺構外出土縄文土器(13) ……209
図 93　遺構外出土縄文土器(14) ……210
図 94　遺構外出土縄文土器(15) ……211
図 95　遺構外出土縄文土器(16)、
　　土製品〈縄文〉 ……212
図 96　遺構外出土弥生土器、続縄文土器 …213
図 97　遺構内・遺構外出土剥片石器(1)……214
図 98　遺構外出土剥片石器(2)……215
図 99　遺構外出土剥片石器(3)……216
図 100　遺構外出土剥片石器(4) ……217
図 101　遺構内出土礫石器(1) ……218
図 102　遺構内出土礫石器(2) ……219
図 103　遺構内出土礫石器(3) ……220
図 104　遺構外出土礫石器(1) ……221
図 105　遺構外出土礫石器(2) ……222
図 106　遺構外出土礫石器(3) ……223
図 107　第 1 号・2 号竪穴住居跡出土土師器・
　　須恵器……224
図 108　第 4 号竪穴住居跡出土土師器・
　　須恵器……225
図 109　第 5 号・6 号竪穴住居跡(1)、第 14 号土
　　坑出土土師器・須恵器 ……226
図 110　第 6 号(2)・7 号竪穴住居跡出土土師器・
　　須恵器……227
図 111　第 9 号・10 号竪穴住居跡出土
　　土師器・須恵器(1)……228
図 112　第 10 号竪穴住居跡出土土師器・
　　須恵器(2) ……229
図 113　第 10 号竪穴住居跡出土須恵器(3)　230
図 114　第 10 号(4)・11 号竪穴住居跡出土
　　土師器・須恵器(1)……231
図 115　第 11 号竪穴住居跡出土土師器・
　　須恵器(2) ……232
図 116　第 12 号・13 号竪穴住居跡出土土師器・
　　須恵器……233
図 117　第 15 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器
　　……234
図 118　第 16 号竪穴住居跡出土土師器・
　　須恵器(1) ……235
図 119　第 16 号竪穴住居跡出土須恵器(2)　236
図 120　第 17 号・18 号竪穴住居跡出土
　　土師器・須恵器(1)……237
図 121　第 18 号竪穴住居跡出土土師器・
　　須恵器(2) ……238
図 122　第 19 号竪穴住居跡出土土師器・
　　須恵器……239
図 123　第 21 号竪穴住居跡、掘立柱建物跡、
　　土坑出土土師器・須恵器 ……240
図 124　溝跡出土土師器・須恵器 ……241
図 125　遺構外出土土師器・須恵器(1) ……242
図 126　遺構外出土土師器・須恵器(2) ……243
図 127　刻書 ……244
図 128　土製品〈古代〉(1)……245
図 129　土製品〈古代〉(2)、焼成粘土塊、石製品
　　……246
図 130　製塩土器 ……247
図 131　羽口・支脚 ……248
図 132　鉄関連・近世以降の遺物 ……249

写真目次

－三内丸山(5)遺跡－
写真 1　調査区全景 …… 45
写真 2　試掘調査(平成 11 年)トレンチ… 46
写真 3　試掘調査(平成 11 年)トレンチ(2)、本調査開始前風景 …… 47
写真 4　第 1・2・4・5・7 号土坑…… 48
写真 5　第 8・9 号土坑、第 1・2 号土器棺墓 …… 49
写真 6　第 2・3 号土器棺墓 …… 50
写真 7　第 1 号溝跡、第 1 号・2 号道跡 … 51
写真 8　第 2・3 号土器棺墓、第 5 号土坑出土遺物 …… 52
写真 9　第 1 号土器棺墓、第 2 号道跡、遺構外出土遺物(1)…… 53
写真 10　遺構外出土遺物(2)…… 54
－近野遺跡Ａ・Ｂ区－
写真 11　Ａ区・Ｂ区全景……317
写真 12　第 14 号竪穴住居跡 ……318
写真 13　土器埋設遺構、土器片集積遺構 …319
写真 14　第 1 号竪穴住居跡 ……320
写真 15　第 2 号竪穴住居跡 ……321
写真 16　第 3・5 号竪穴住居跡 ……322
写真 17　第 4 号竪穴住居跡(1) ……323
写真 18　第 4 号(2)・第 6 号竪穴住居跡(1)、第 10・67 号土坑 ……324
写真 19　第 6 号竪穴住居跡(2)、第 14 号土坑 ……325
写真 20　第 7 号竪穴住居跡(1)、第 9 号溝跡 326
写真 21　第 7 号(2)・8 号・9 号竪穴住居跡 327
写真 22　第 10・11 号竪穴住居跡(1)……328
写真 23　第 10・11 号竪穴住居跡(2)……329
写真 24　第 10・11 号(3)、第 12・13 号竪穴住居跡(1)……330
写真 25　第 12・13 号竪穴住居跡(2)……331
写真 26　第 15 号竪穴住居跡 ……332
写真 27　第 16・17・20 号竪穴住居跡(1) 333
写真 28　第 16・17・20 号(2)、第 21 号竪穴住居跡 ……334
写真 29　第 18 号竪穴住居跡 ……335
写真 30　第 19 号竪穴住居跡、第 15・17 号溝跡 ……336
写真 31　第 1・2・5 号掘立柱建物跡……337
写真 32　第 3・4 号掘立柱建物跡 ……338
写真 33　第 1・6・11 号溝跡 ……339
写真 34　第 8・10・13 号溝跡 ……340
写真 35　第 16・20・22 ～ 24 号溝跡 ……341
写真 36　焼土・炭化物集積遺構……342
写真 37　柱列、畠跡 ……343
写真 38　ピット群、その他 ……344
写真 39　土坑(1)……345
写真 40　土坑(2)……346
写真 41　土坑(3)……347
写真 42　土坑(4)……348
写真 43　土坑(5)……349
写真 44　土坑(6)……350
写真 45　土坑(7)……351
写真 46　土坑(8)……352
写真 47　遺構内出土縄文土器(1)……353
写真 48　遺構内(2)・遺構外出土縄文土器(1) ……354
写真 49　遺構外出土縄文土器(2)……355
写真 50　遺構外出土縄文土器(3)……356
写真 51　遺構外出土縄文土器(4)……357
写真 52　遺構外出土縄文土器(5)……358
写真 53　遺構外出土縄文土器(6)……359
写真 54　遺構外出土縄文(7)・弥生・続縄文土器、土製品〈縄文〉、剥片石器(1) ……360
写真 55　剥片石器(2)……361
写真 56　礫石器(1)……362
写真 57　礫石器(2)、土製品〈古代〉 ……363
写真 58　焼成粘土塊、石製品、製塩土器、支脚 ……364
写真 59　羽口、鉄関連遺物、土人形、古銭 365
写真 60　第 1・2・4 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器 ……366
写真 61　第 4・5・6 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器 ……367
写真 62　第 6・7・9 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器 ……368
写真 63　第 9・10 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器 ……369
写真 64　第 10・11 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器 ……370
写真 65　第 11・12・13 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器……371
写真 66　第 15・16 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器 ……372
写真 67　第 16・17 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器 ……373
写真 68　第 18・19・21 号竪穴住居跡、土坑、溝跡出土土師器・須恵器……374
写真 69　溝跡、遺構外出土土師器・須恵器…375
写真 70　陶器、磁器、土器 ……376

第１編　遺跡の概要

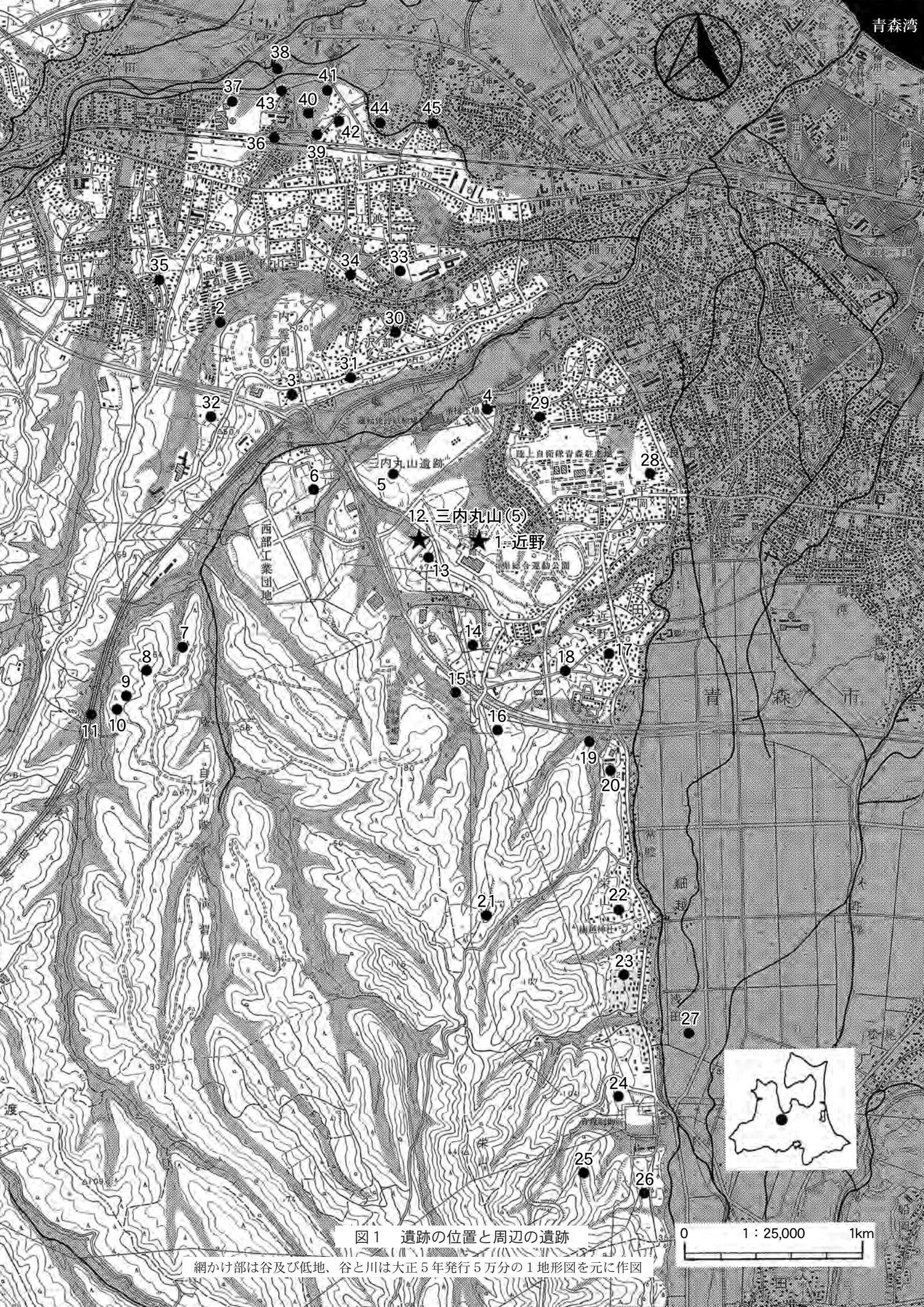


図１　遺跡の位置と周辺の遺跡

網かけ部は谷及び低地、谷と川は大正５年発行５万分の１地形図を元に作図

表１　周辺の遺跡

番号	遺跡名		時　期	報告書名等	刊行年	シリーズ	著者または発行者
1	近野	安田字近野	縄文（前～晩）、平安	近野遺跡（Ⅰ）発掘調査報告書	1974	県 12 集	青森県教育委員会
				近野遺跡発掘調査報告書（Ⅱ）	1975	県 22 集	青森県教育委員会
				近野遺跡発掘調査報告書（Ⅲ）・三内丸山	1977	県 33 集	青森県教育委員会
				近野遺跡発掘調査報告書（Ⅳ）	1979	県 47 集	青森県教育委員会
				近野遺跡Ⅴ	1997	県 216 集	青森県教育委員会
				市内遺跡発掘調査報告書	2001	市 59 集	青森市教育委員会
				近野遺跡	2003	市 68 集	青森市教育委員会
				近野遺跡Ⅵ	2002	県 315 集	青森県教育委員会
				近野遺跡Ⅶ（本書）	2004	県 370 集	青森県教育委員会
2	三内霊園	三内字平山	縄文（前・中）	三内霊園遺跡調査概報	1962	市１集	青森市教育委員会
3	三内沢部(1)	三内字沢部	縄文（早～後）、平安	三内沢部遺跡調査報告書	1978	県 41 集	青森県教育委員会
4	小三内	三内字丸山	縄文（前～後）、平安	小三内遺跡発掘調査報告書	1994	市 22 集	青森市教育委員会
				三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書	1994	市 23 集	青森市教育委員会
5	三内丸山	三内字丸山	縄文（前～後）、平安	三内丸山遺跡調査概報	1970	市４集	青森市教育委員会
				近野遺跡発掘調査報告書（Ⅲ）・三内丸山	1977	県 33 集	青森県教育委員会
				近野遺跡発掘調査報告書（Ⅳ）	1979	県 47 集	青森県教育委員会
				三内丸山Ⅰ遺跡調査報告書	1988	市 15 集	青森市教育委員会
				三内丸山(2)遺跡発掘調査概報	1993	市 18 集	青森市教育委員会
				三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書	1994	市 23 集	青森市教育委員会
				三内丸山(2)遺跡Ⅱ	1994	県 157 集	青森県教育委員会
				三内丸山(2)遺跡Ⅲ	1994	県 166 集	青森県教育委員会
				三内丸山(2)遺跡Ⅳ	1995	県 185 集	青森県教育委員会
				三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書	1996	市 28 集	青森市教育委員会
				三内丸山遺跡Ⅴ	1996	県 204 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡Ⅵ	1996	県 205 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡Ⅶ	1997	県 229 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡Ⅷ	1997	県 230 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡Ⅸ	1998	県 249 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡Ⅹ	1998	県 250 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅠ	1998	県 251 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅡ	1998	県 252 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅢ	1999	県 265 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅣ	2000	県 282 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅤ	2000	県 283 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅥ	2000	県 288 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅦ	2000	県 289 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅧ	2001	県 309 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅨ	2002	県 307 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡ⅩⅩ	2002	県 338 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡 21	2003	県 361 集	青森県教育委員会
				三内丸山遺跡 22	2003	県 362 集	青森県教育委員会
6	三内	三内字丸山	縄文（前～後）、平安	青森市三内遺跡	1978	県 37 集	青森県教育委員会
7	岩渡小谷(2)	岩渡字小谷	縄文（前～晩）、平安	岩渡小谷(2)遺跡	2001	県 300 集	青森県教育委員会
8	岩渡小谷(1)	岩渡字小谷	縄文・平安				
9	岩渡小谷(3)	岩渡字小谷	縄文（中）	岩渡小谷(3)(4)遺跡	2003	県 352 集	青森県教育委員会
10	岩渡小谷(4)	岩渡字小谷	縄文（前～晩）	岩渡小谷(3)(4)遺跡	2003	県 352 集	青森県教育委員会
11	熊沢	岩渡字熊沢	縄文（早～後）	熊沢遺跡	1978	県 38 集	青森県教育委員会
				熊沢遺跡	2000	市 48 集	青森市教育委員会
12	三内丸山(5)	三内字丸山	縄文（中～晩）	三内丸山(5)遺跡	1999	県 269 集	青森県教育委員会
				三内丸山(5)遺跡Ⅱ（本書）	2004	県 370 集	青森県教育委員会
13	三内丸山(3)	三内字丸山	平安				
14	三内丸山(4)	三内字丸山	縄文（前・中）、平安				
15	三内丸山(6)	三内字丸山	縄文（中・後）	三内丸山(6)遺跡Ⅰ	1999	県 257 集	青森県教育委員会
				三内丸山(6)遺跡Ⅱ	2000	県 279 集	青森県教育委員会
				三内丸山(6)遺跡Ⅲ	2001	県 307 集	青森県教育委員会
				三内丸山(6)遺跡Ⅳ	2002	県 327 集	青森県教育委員会
16	安田(2)	安田字近野	縄文（前・後）、弥生、平安	安田(2)遺跡	1999	県 255 集	青森県教育委員会
				安田(2)遺跡Ⅰ	2001	県 303 集	青森県教育委員会
				安田(2)遺跡Ⅱ	2002	県 321 集	青森県教育委員会
17	安田(1)	安田字近野	縄文（前）				
18	安田近野(1)	安田字近野	縄文（前～後）、平安				
19	栄山(3)	細越字栄山	縄文、弥生、平安	栄山(3)遺跡	2001	県 294 集	青森県教育委員会
20	細越館	細越字栄山	平安	「津軽半島における擦文土器の新資料」	1971		北林八洲晴
21	栄山(4)	細越字栄山	平安				
22	栄山(1)	細越字栄山	平安				
23	栄山(2)	細越字栄山	縄文、平安				
24	朝日山(2)	高田字朝日山	縄文、平安	朝日山遺跡Ⅱ	1993	県 152 集	青森県教育委員会
				朝日山遺跡Ⅲ	1994	県 156 集	青森県教育委員会
				朝日山(2)遺跡	2001	県 298 集	青森県教育委員会
				朝日山(2)遺跡Ⅲ	2002	県 316 集	青森県教育委員会
				朝日山(2)遺跡Ⅳ	2002	県 324 集	青森県教育委員会
				朝日山(2)遺跡Ⅴ	2002	県 225 集	青森県教育委員会
				朝日山(2)遺跡Ⅵ	2003	県 349 集	青森県教育委員会
				朝日山(2)遺跡Ⅶ	2003	県 350 集	青森県教育委員会
25	朝日山(3)	高田字朝日山	縄文、平安	朝日山遺跡Ⅱ	1993	県 152 集	青森県教育委員会
				朝日山遺跡Ⅲ	1994	県 156 集	青森県教育委員会
				朝日山(3)遺跡	1995	県 167 集	青森県教育委員会
				朝日山(3)遺跡	1997	県 215 集	青森県教育委員会
26	朝日山	高田字朝日山	縄文、平安、中世	朝日山遺跡	1984	県 87 集	青森県教育委員会
				朝日山遺跡Ⅱ	1993	県 152 集	青森県教育委員会
				朝日山遺跡Ⅲ	1994	県 156 集	青森県教育委員会
27	細越	細越字種元	縄文（晩）、平安	細越遺跡	1979	県 49 集	青森県教育委員会
28	浪館(2)	浪館字平岡	縄文（中・晩）				
29	浪館(1)	三内字丸山	縄文（前）				
30	三内沢部(2)	三内字沢部	縄文（中）				
31	三内沢部(3)	三内字沢部	縄文、平安	市内遺跡詳細分布調査報告書	1995	市 25 集	青森市教育委員会
32	三内沢部(4)	三内字沢部	平安	市内遺跡詳細分布調査報告書	1995	市 25 集	青森市教育委員会
33	江渡	石江字江渡	縄文（前）				
34	石江	石江字平山	縄文（前）				
35	新城平岡(3)	新城字平岡	平安	市内遺跡詳細分布調査報告書	1995	市 25 集	青森市教育委員会
36	新城平岡(2)	新城字平岡	縄文（後）、平安				
37	西高校	新城字平岡	弥生、平安				
38	西バイパス(1)	新城字平岡	縄文（前・後）、平安				
39	高間(1)	石江字高間	縄文（前）				
40	高間(2)	石江字高間	縄文（前・後）				
41	高間(3)	石江字高間	縄文（後）、平安				
42	高間(4)	石江字高間	縄文（前・後）				
43	高間(5)	石江字高間	縄文（前・後）				
44	高間(6)	石江字高間	縄文、平安				
45	岡部	石江字岡部	縄文				

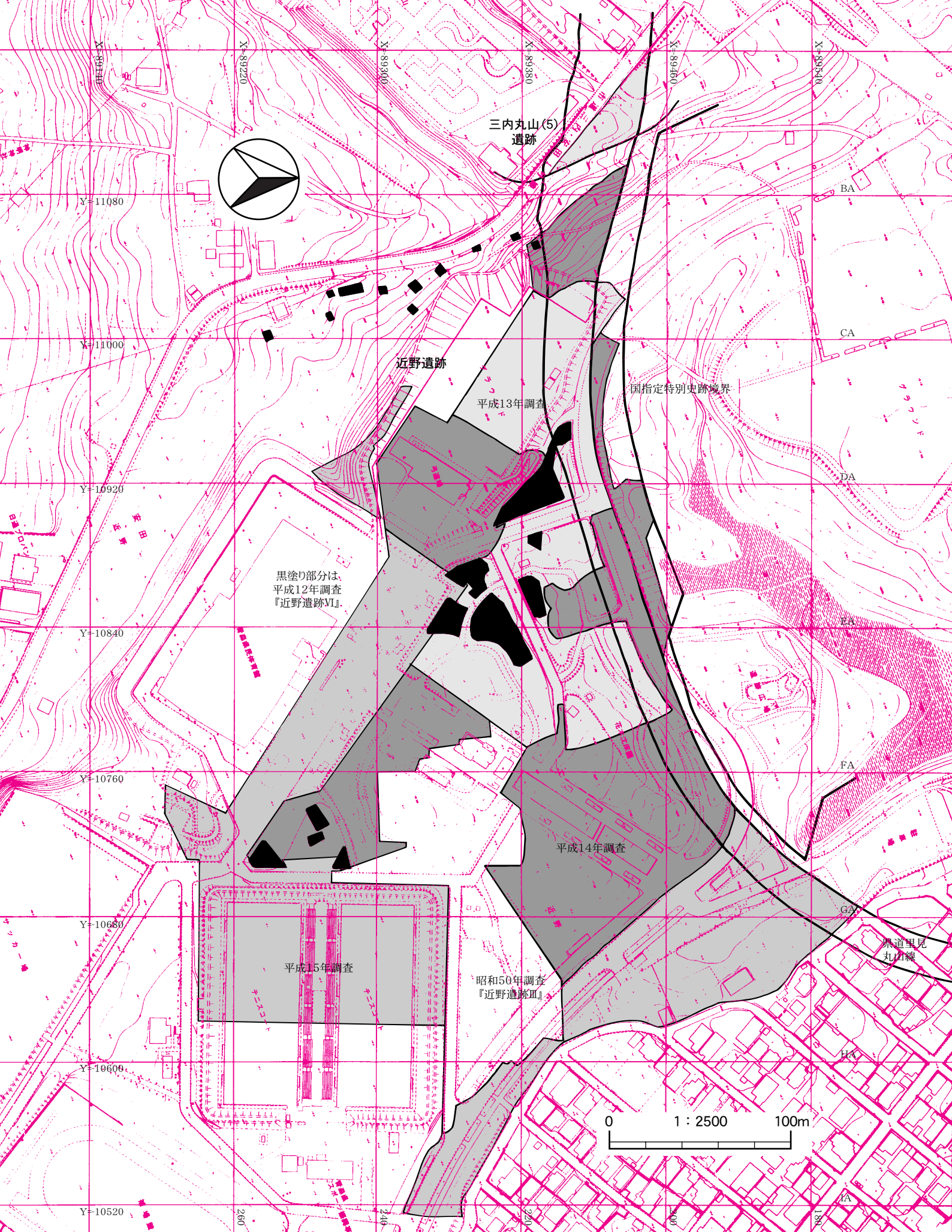

三内丸山(5)
遺跡
近野遺跡
国指定特別史跡境界
平成13年調査
平成14年調査
平成15年調査
昭和50年調査
『近野遺跡Ⅲ』
黒塗り部分は、
平成12年調査
『近野遺跡Ⅵ』.
県道里見
丸山線
X=89,140
X=89,220
X=89,300
X=89,380
X=89,460
X=89,540
Y=11080
Y=11000
Y=10920
Y=10840
Y=10760
Y=10680
Y=10600
Y=10520
BA
CA
DA
EA
FA
GA
HA
IA
0
1：2500
100m

図２　調査区域図

第１節　調査に至る経緯

青森県では、平成５年度に「総合芸術パーク基本構想」（美術館基本構想）を策定し、平成７年度に総合芸術パークの建設場所を青森市宮田地区へ移転予定の現総合運動公園跡地（近野遺跡地内）に決定した。総合芸術パークの核となる県立美術館については、平成９年度に「建設検討委員会」が組織され、平成 10 年度に「美術館建設基本計画」を策定、平成 11 年度に「青森県立美術館設計競技」が行われた。同年度には、事業を担当する県教育庁文化課美術館整備・芸術パーク構想推進室（現環境生活部美術館整備・芸術パーク構想推進課）から同課埋蔵文化財班（現文化財保護課埋蔵文化財グループ）に対して、近野遺跡地内に予定されている美術館建設場所について埋蔵文化財発掘調査の依頼があり、これを受けて、平成 12 年度から県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施することになった。

一方、県土木部都市計画課（現県土整備部都市計画課）の都市計画道路里見丸山線建設事業は、当初、近野遺跡に隣接する三内丸山（2）遺跡（現特別史跡三内丸山遺跡）地内に計画されていたが、野球場等の建設事業に伴う発掘調査の結果、縄文時代前期～中期の大集落が発見されたため、平成６年度には野球場・都市計画道路等の工事中止と三内丸山（2）遺跡の現状保存が決定された。このため、都市計画道路の取扱いについても関係機関が協議した結果、里見丸山線は近野遺跡地内に振り替えられることになり、平成７年度に県埋蔵文化財調査センター、平成 11 年度には県教育庁文化課が都市計画道路建設予定地の試掘・確認調査を実施し、発掘調査の必要範囲等を確定したうえで、平成 13 年度から県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施することになった。

なお、近野遺跡・三内丸山遺跡及びその周辺遺跡の発掘調査の進展により、平成 13 年度に県教育庁文化財保護課と青森市教育委員会文化財課が近野遺跡･三内丸山遺跡等の遺跡範囲の見直しを行い、その整理・統合等について協議した結果、近野遺跡の平成 11 年度の試掘・確認調査対象地区は、三内丸山（5）遺跡に編入されることになったので、この地区については、平成 13 年度に三内丸山（5）遺跡として発掘調査を実施した。

美術館建設事業及び都市計画道路里見丸山線建設事業に伴う近野遺跡の発掘調査は、現総合運動公園の移転計画（弓道場・洋弓場・体育館・テニスコート等の各施設の取り壊しと撤去、公園内樹木の移植や伐採等の予定）等に合わせて順次計画され、美術館建設事業分については、平成 12・14・15 年度、都市計画道路建設事業分については、平成 13 ～ 15 年度（平成 13 年度は三内丸山（5）遺跡も調査）に実施された。この間平成 14 年度の発掘調査では、美術館と都市計画道路の予定地で特別史跡三内丸山遺跡の集落と関連する縄文時代中期の集落とトチの水さらし場遺構等が発見されたため、美術館の工事を一時中止することになったが、文化庁等の指導を受けて関係機関が協議した結果、美術館の基本設計や都市計画道路のルート等を変更しない範囲でこれらの遺構を保存し、総合芸術パークと融合するような方法での展示・活用を検討することになった。その後も、発掘調査は美術館・都市計画道路の建設工事と併行して順次進められ、今回の４年次にわたる近野遺跡の発掘調査は平成 15 年度で予定通り終了した。（工藤）

第 2 節　遺跡の位置と周辺の遺跡

本節については『近野遺跡Ⅵ』(県埋文報第 315 集　2002）にて詳細に記載している。よって、本書では『近野遺跡Ⅵ』刊行以降の周辺の遺跡の状況について述べ、遺跡位置図（図 1）と遺跡一覧表（表 1）を掲載するに留める。近野遺跡の東端部は平成 14 年に市教育委員会にて調査され、縄文時代前期の竪穴住居跡と、早期から中期末葉の遺物が出土している。沖館川流域では下流左岸の三内沢部（3）遺跡が平成 15 年に調査され、縄文時代中期と平安時代の遺構が確認されている。中位段丘に位置する朝日山（2）遺跡では縄文時代晩期の土坑墓、平安時代の外周溝を伴う住居跡がこれまでの調査同様確認されている。平成 14 年以降、青森市西部で発掘調査が行われ(西バイパス遺跡群等)、縄文時代・平安時代の遺跡が確認されている。青森市西部の低地における遺跡の様相がわかりつつある。

第 3 節　調査方法

調査区名とグリッド設定については、平成 12 年に設定したものを使用した（『近野遺跡Ⅵ』参照)。新近野グリッド系は平面直角座標第Ⅹ系のⅩ＝ 90260、Ｙ＝－ 11160 を原点とし、原点から東方向のＹラインに二文字のアルファベットを、南方向のⅩラインには 3 桁の算用数字を付した。アルファベットはＡからＴまでの 20 文字を使用した。基点のＹラインを AA とし、4m 毎に AB・AC・・・AT とし、80m 毎に左側文字が繰り上がる。基点のⅩラインは 000 とし、4m 毎に 001・002 とした。グリッド原点は AA － 000 となる。グリッドの呼称は北東角の交点の値をアルファベット優先で読む（例：BA － 210)。

三内丸山（5）遺跡は AG － 204 ～ BE － 218 グリッド、近野遺跡Ａ区・Ｂ区は BA － 205 ～ FF － 260 グリッドに跨る。

注意したいのは、グリッドと公共座標値の増加方向が異なることである。公共座標の基点は南東隅にあたるが、グリッドの基点は北西隅にある。よって、グリッド値が増加するとともに、座標値は少なくなることになる。

標高は運動公園内にある測量基準点から、調査区内に移設した。

遺構確認は随時行い、各調査区単位で、発見順に遺構名を付し、原則として 1 ／ 20 で実測図を作成した。遺構の名称は頭に調査区、次に遺構種別と番号を付した（例：BSK10)。

遺構以外の出土遺物はグリッド単位で、原則として層位毎に取り上げた。

調査に当たっては、土層の堆積状況を観察するため適宜セクションベルトを設定し、土層注記は『標準土色帖』を用いた。土層の名称は、基本層序については表土から下位にローマ数字を、遺構内堆積土については上位から下位に算用数字を付すことを原則とした。

写真撮影は適宜行うこととし、カラーリバーサル、モノクローム、ネガカラーの各フィルムおよびデジタルカメラを使用した。

第４節　近野遺跡周辺の地形及び地質について

青森県立浪岡高等学校教諭　山　口　義　伸

青森平野は陸奥湾奥部に位置し、背後には八甲田山のなだらかな裾野が展開している。また平野の西側にも平滑な火山性の丘陵地が分布し、ほぼ南北に直線的に隣接している。平野部は北側に開放する三角州性低地であって、湾岸沿いに発達する砂堆の微高地により後背湿地となっている。なお、背後の丘陵地前縁には開析扇状地が小規模に分布している。青森平野の主な河川として、八甲田山に発源する入内川、堤川（荒川）、横内川、駒込川などがあり、また西方の丘陵地を発源とする新城川、沖館川などもあり、丘陵地を北流して陸奥湾に注いでいる。これらの河川のうち、西方の丘陵地に沿って北流する入内川は入内断層（活断層研究会 1991）に伴う構造谷である。この断層は平野部側が大きく沈降するという大規模な活断層であって、北部の湾岸部ほど落差が大きく約 500m に達するといわれる（青森県史編さん自然部会 2001）。

ところで、平野背後の裾野と西方の丘陵地は主に基盤岩を不整合に覆う火砕流堆積物で構成されている。火砕流堆積面は開析谷の発達により大きく開析されてはいるものの、面上は平野側に緩く傾斜する平滑面であって、特に西部丘陵地には青森空港が存在している。この火砕流は北八甲田山北東麓に位置する田代平カルデラに起因するもので、その流下時期は八甲田第 1 期火砕流堆積物が約 65 万年前、八甲田第 2 期火砕流堆積物が約 40 万年前と推定されている（村岡・長谷 1990、山口 2000）。

平野南部の裾野前縁部に分布する開析扇状地は十和田カルデラに起因する火砕流堆積物を構成層としている。横内川遊水地に立地する大矢沢野田（1）遺跡の発掘調査では、約 32,000 年前に流下した大不動浮石流凝灰岩と、約 13,000 年前の八戸浮石流凝灰岩が確認され、八戸浮石流凝灰岩直下からは針葉樹からなる埋没樹が報告されている。湾岸に分布する三角州性低湿地では十和田カルデラ起源の火砕流堆積物が地下に潜り込んでいるのが平野下のボーリング試料で確認されている。そして、火砕流堆積物直上には砂礫、砂、シルトなどの三角州性堆積物、砂及び有機質粘土などの湿地性堆積物が認められ、いずれも N 値が 5 未満の軟弱層となっている（青森県史編さん自然部会 2001）。

さて、本遺跡は青森市街地の南西方約 4km 点にあって、西部丘陵地を流れる沖館川下流域に位置し、北西側には特別史跡である三内丸山遺跡が隣接している（図 1）。

西部丘陵地東縁には、標高 60 ～ 80m の高位段丘（豆ノ坂段丘）、標高 20 ～ 50m の中位段丘、標高 10 ～ 18m の低位段丘（沖館段丘）の 3 段丘が分布している（中川 1972）。沖館川周辺では中位段丘と低位段丘がやや広く分布するが、他は小規模な分布を示すのみである。そして東側の平野部とはほぼ南北に直線的に隣接している。

本遺跡が立地する沖館段丘は幅約 2 ㎞で平野側に向かって緩やかに傾斜している。標高 10 ～ 18m であり、背後の丘陵地及び中位段丘とは比高約 20m の段丘崖で接している。この沖館段丘には三内丸山遺跡で検出された、いわゆる縄文の谷と呼ばれる「北の谷」や「南の谷」があり、さらに「南の谷」を支谷とする谷地形が本遺跡へ延びている。谷地形は公園整備により埋め立てられているが、発掘調査により古代の指標火山灰である白頭山苫小牧火山灰（B － Tm）と十和田 a 降下火山灰（To － a）を含む黒色腐植質土層までの深さが 5m 以上もあり、段丘面からみるとやや深い谷となってい

たことになる。なお、段丘東端は扇状地性の堆積物で被覆されており、その前縁部が平野へと緩やかに移行している。

次に調査区域内の各区の立地状況を見ると、B 区及び「南の谷」以南の三内丸山遺跡は背後の丘陵地に隣接した勾配の急な傾斜地である。特に EF － 240 グリッド周辺では基盤を刻む埋没谷が検出され、後述のように谷内から広葉樹の埋没樹が出土していた。C 区では運動公園整備により付近を流れる谷地形との比高差が 50cm 以下と小さく段丘構成層が大きく削平されていることが確認された。D 区には深い谷地形が存在し、後述のように崩落による張り出し部が谷内に認められた。

さて、青森県立美術館（仮称）新築工事地質調査によるボーリング試料をみると、近野遺跡 B 区では約 65 万年前に流下した八甲田第 1 期火砕流堆積物と岡町層が厚く堆積している。最下位の八甲田第 1 期火砕流堆積物は岩片及び軽石が多量に包含する、N 値 50 以上の緻密な軽石質凝灰岩として 4m 以上と厚く堆積している。火砕流堆積物直上には厚さ約 30m の岡町層が堆積しており、上半部は主に成層した細粒砂が、下半部では軽石質の砂と砂礫の互層をなしている（図 4)。

そして最上部には、N 値 10 以下の軟弱な低位段丘構成層が約 10m の厚さで堆積し、地表直下にはこの段丘の指標火山灰である千曳浮石が認められる。段丘堆積物の下部には有機質シルト層を挟在しながら八甲田第 2 期火砕流堆積物の再堆積相を示す塊状無層理の軽石質砂が岡町層を不整合に覆って堆積している。全体的に腐植物の混入が目立っている。中部には波長の長いクロスラミナを有する軽石質砂が堆積し、丘陵地から離れるにしたがって細粒砂の薄層を挟在する青灰色粘土へと側方変化している。そして上部は粘土を主体とし、丘陵地側では灰色～灰褐色を呈し東方の C 区では青灰色へと変化している。なお、上部質の下底部には埋没樹を包含する泥炭層が薄く堆積し、B 区西端では中部～下部を大きく浸食した V 字状の谷が確認された。この埋積谷は泥炭層の形成されていた時期に埋没樹を含む泥炭層によって埋積されている。

ところで、この低位段丘構成層の上部層である粘土層は乾燥状態で堅く締まっているが、いったん水分を含むと弛んでしまう。この粘土層を遺跡内で追跡すると、D 区の小谷筋では粘土層が地滑りによって崩落し、谷を塞き止めるような張り出しが認められる。この張り出し部分では縄文時代中期後半の遺物が覆われ、崩落物の上位には続縄文～古代の遺物が点在している。C 区でも不定形な遺構が確認され、粘土層と遺構内の埋め土に亀裂痕が認められた。この遺構は粘土採掘坑跡と考えられるが、粘土層と埋め土の亀裂を考えると、単に採掘後の地盤崩壊だけとは考えにくく、地滑りによる崩落など、廃絶後の地盤の変動を想定する必要がある。

次に、本遺跡の調査区域内における基本層序について述べる。記述にあたっては、1997 年に報告された『近野遺跡Ⅴ』(県埋文報第 216 集) に準拠した。調査区域はこの段丘面を刻む小谷の西半部で、北方には三内丸山遺跡内の「南の谷」が位置している。全体的に公園整地によりかなり削平され、基本層序の第Ⅰ層直下には低位段丘の指標火山灰である軽石層（第Ⅳ層）が位置することが多い（図 3)。

Ⅰ層　黒褐色土（10YR2/2）　厚さは平均的に約 30cm と厚い。上半部（Ⅰ a 層）は公園整備に伴う整地層であり、厚さは約 10cm である。固さがあるものの締まりに欠け、乾くとブロック状の割れが目立つ。軽石粒及び粘土粒、炭化粒などの混入が非常に目立つ。下半部（Ⅰ b 層）は整地前の耕作土あるいは表土である。黒褐色土（10YR3/2）を呈し、厚さが約 20cm と平均的である。粘性・湿性が多少あり、全体的に締まりに欠けソフトな感じがする。径 20mm 以下の軽石粒がかなり混入し、

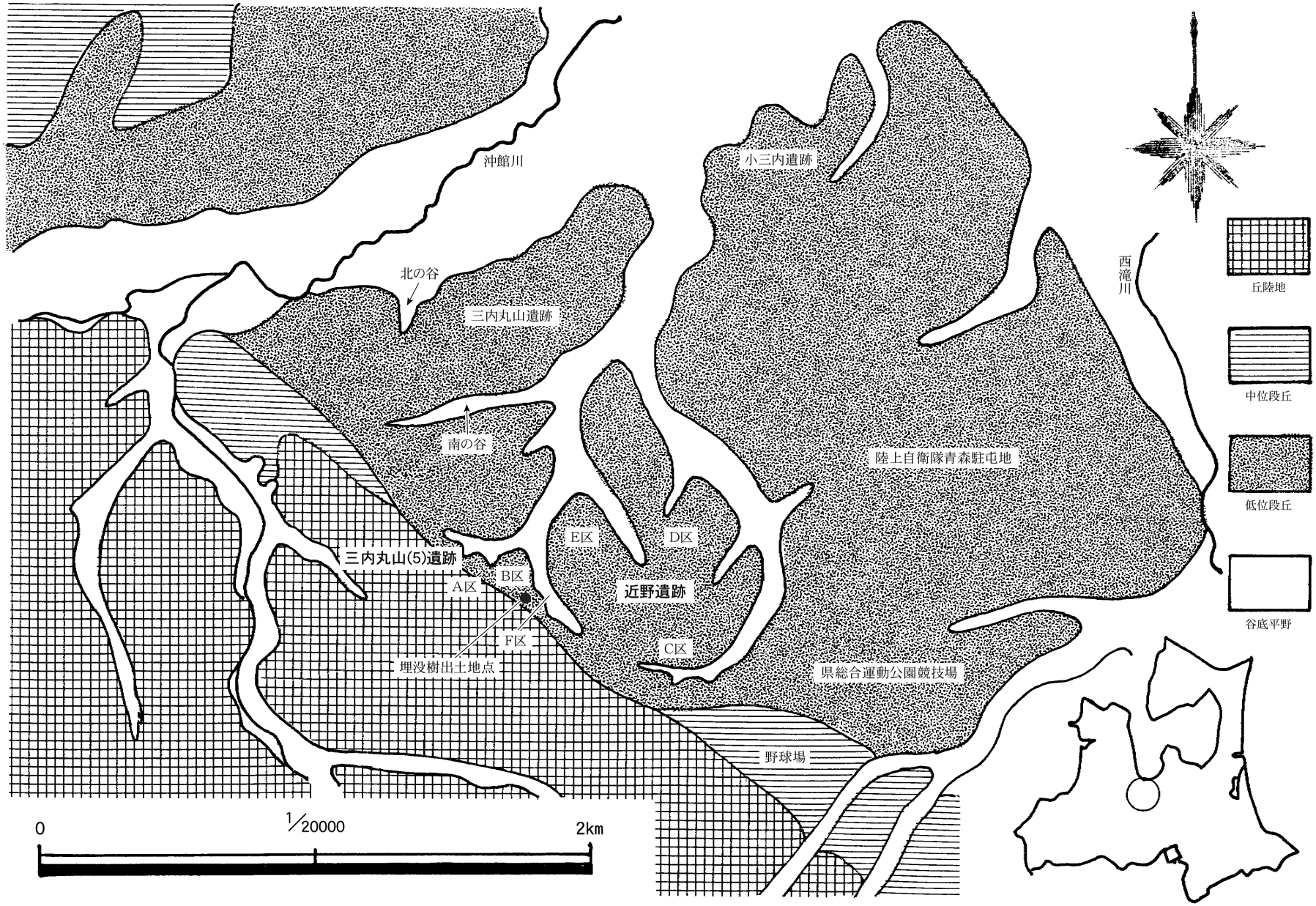


図３　遺跡周辺の地形分類

また粘土粒の混入も多少認められる。

Ⅱ層　黒色腐植質土（10YR1.7/1）　厚さが 5 ～ 15cm である。全体的に腐植質であり、やや粘土質でもある。谷地形の凹地においては本層中に白頭山起源の苫小牧火山灰（B － Tm）と十和田 a 降下火山灰（To － a）の 2 枚の細粒火山灰が薄く堆積している。上位の B － Tm は帯状に堆積し、下位の To － a はレンズ状あるいは小ブロック状に堆積している。なお､本層は古代の遺物包含層である。

Ⅲ層　暗褐色土（10YR3/4）　厚さが 10 ～ 20cm である。漸移層であり、粘性・湿性があるものの多少固さや締まりに欠ける。下位のⅣ層の混入状況により 2 層に細分される。上半部のⅢ a 層は粒子状の軽石が多量に混入し、全体的に土壌化が進み色調が暗い。下半部のⅢ b 層ブロック状の混入が目立ち、全体的に軽石質である。なお、Ⅲ a 層には縄文時代中期後半の遺物が包含されている 。

Ⅳ層　暗黄灰色細粒軽石層　厚さが約 50cm である。千曳浮石（東北地方第四紀研究グループ 1969)、碇ヶ関浮石（山口義伸 1993）に比定される。おそらく、約 12,000 年前の十和田火山起源の降下火山灰と推定される。一次的な堆積状況を示す層相は緻密堅固なラピリ質火山灰であり、上半部には径 5 ～ 10mm 大の軽石粒が含まれる。ただ、丘陵から離れた C 区では本層が水成堆積相を示し、薄成層した粘土質な軽石質砂であって、湿地性の環境下での堆積を示唆している。

Ⅴ層　黄褐色軽石質粘土層（10YR4/3）　厚さが 20 ～ 50cm である。本層は基盤岩の風化再堆積相であって、風化の著しい軽石粒を多量に含む砂質の軽石質粘土となっている。なお、最上部には暗色帯を示す粘土質の堅固なローム質粘土がある。本層の下位には灰白色粘土がやや厚く堆積していて、C 区では粘土採掘坑と推定される遺構が存在している。なお、この粘土層の直下には、図 4 で示したように、砂礫層や成層砂、シルト層など低位段丘を構成する堆積物が認められる。ただ最下部には、丘陵及び中位段丘の基盤をなす八甲田第 2 期火砕流堆積物の再堆積物が厚さ約 2m で堆積している。

引用文献

東北地方第四紀研究グループ（1969)『東北地方における第四紀海水準変化』「日本の第四系」地学団体研究会専報第 15 号

中川久夫（1972)『青森県の第四系』「青森県の地質」第二部　青森県

村岡洋文・長谷紘和（1990)『黒石地域の地質』地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅及び同説明書）地質調査所

活断層研究会（1991)『新編日本の活断層　分布図と資料』東京大学出版会

山口義伸（1993)『平川流域での十和田火山起源の浮石流凝灰岩について』「年報市史ひろさき」第 2 号　弘前市

青森県教育委員会（1997)『近野遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 216 集

山口義伸（2000)『第 1 章　第 3 節　津軽平野南部の地形発達』「新編　弘前市史　通史編Ⅰ（自然・原始)」弘前市

青森県教育委員会（2001)『生態系のタイムカプセル－青森県埋没林調査報告書－』

青森県史編さん自然部会（2001)『青森県史　自然編　地学』青森県

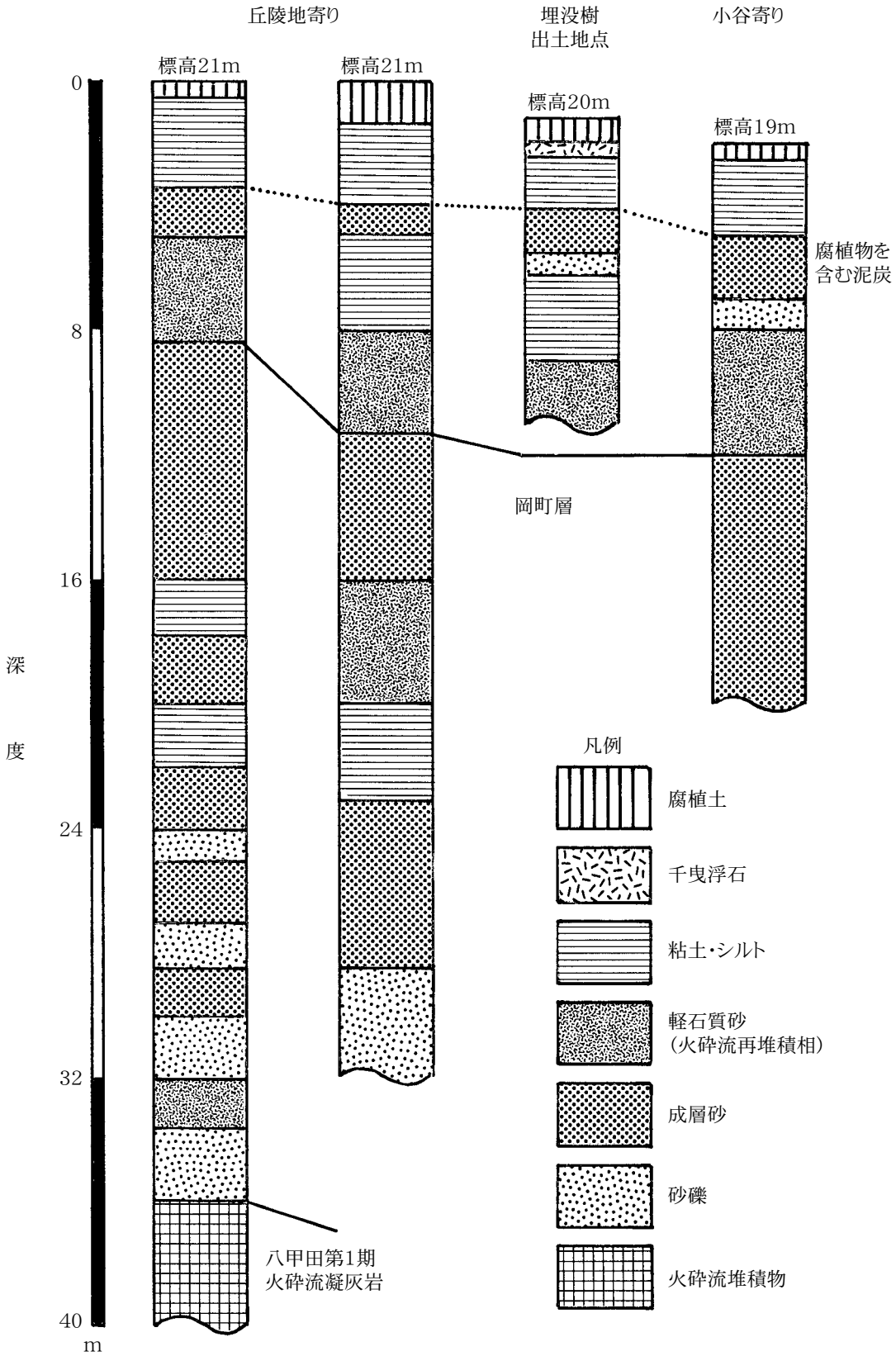


図４　Ｂ区内のボーリング試料に基づく柱状図

第２編　三内丸山（５）遺跡Ⅱ

第３号土器棺墓

第１章　調査概要

第１節　調査要項

１　調査目的

県道里見丸山線建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する三内丸山（５）遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

２　発掘調査期間　　平成 13 年４月 18 日～同年５月 31 日

３　遺跡名及び所在地　三内丸山（５）遺跡（青森県遺跡番号０１２５０）
青森市大字三内字丸山

４　調査面積　　１，５００平方メートル

５　調査委託者　　青森県県土整備部都市計画課

６　調査受託者　　青森県教育委員会

７　調査担当機関　　青森県埋蔵文化財調査センター

８　調査体制

調査指導員	村越　潔	青森大学社会学部教授	（考古学）
調査員	山口　義伸	青森県文化・スポーツ振興課総括主幹	（地質学）
		（現　青森県立浪岡高等学校教諭）	
	山田　昌久	東京都立大学人文学部助教授	（考古学）
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター		
	所長	中島　邦夫（現　青森県立郷土館長）	
	次長	成田　誠治（平成 14 年３月退職）	
	総務課長	西口　良一（現　商工観光労働部労政･能力開発課総括主幹）	
	調査第二課長	福田　友之（現　次長）	
	文化財保護主事	水谷　真由美	
		田中　珠美	
		（現　文化財保護課三内丸山遺跡対策室文化財保護主事）	
	調査補助員	岩間　陽子、田中　稔大	
		立花　聡美、佐々木順子	

第２節　調査経過

調査区内の現況は山林で、工事用仮設道路の痕跡が残っていた。仮設道路の東寄りには、総合運動公園を囲む柵が巡っており、道路側から捨てられたゴミ等が散乱する雑草地であった。

４月 18 日、調査器材等の搬入と環境整備をおこなった。調査区は中位段丘上の道路に隣接するため、危険箇所にはバリケードを設置して安全対策を講じた。調査区内を二分していた柵は、業者により撤去作業が行われた。翌日からトレンチを設定し、調査区内の遺構確認面までの深さと遺物の有無を確認した。仮設道路跡地は第Ⅳ層以下まで削平してつくられており、遺構は残されていなかった。調査区西側の平坦地（グリッド AL ライン以西）は表土が比較的薄く、人力で表土の除去をおこなった。５月７日には第Ⅱ層上面で道跡・溝跡を検出し、精査を開始した。

グリッド AN ライン以東、215 ライン以北は現況ではなだらかな傾斜地で、東側の調査区際付近に約１m程の段差があったが、トレンチ調査の結果、道路側から多量のゴミを主体とする廃棄土が押し出されて形成された平坦面で、本来はグリッド AL ライン付近から傾斜する斜面地であることが判明した。廃棄土の厚さは厚い部分で約３mにも及び、第Ⅱ層上面まで重機により表土を除去し、平安時代とみられる遺構のないことを確認した。第Ⅱ層上面では所々に白頭山火山灰の分布がみられ、土師器・須恵器片が散在していた。また、平成 11 年におこなわれた試掘調査トレンチを確認し、土嚢に覆われて保存されていた第１号土器棺墓を検出した。第Ⅲ層中位までの掘り下げは引き続き重機を使用した。遺構確認は第Ⅳ層上面でおこなった。５月 17 日、土坑・土器棺墓等縄文時代の遺構を確認し、精査を開始した。５月 22 日、高所作業車による空中撮影を行った。５月 29 日、第２号土器棺墓の大型壷形土器中から、土玉６点が出土。土器棺墓３基･土坑２基からは土壌サンプルを採取し、土器棺内の堆積土はすべて持ち帰ることとした。５月 31 日､予定通り作業を終了し､器材を撤収した。

第３節　地形と基本層序

本遺跡は沖館川右岸に広がる段丘上に位置する。中位段丘の縁から低位段丘へ至る斜面地で、北東側へ向かって傾斜している。調査区の標高は 29 ～ 34 mである。北側を国指定史跡の三内丸山遺跡、東～南側を近野遺跡Ａ地点と接しており、これまでは近野遺跡Ａ地点の一部として試掘調査が行われてきた。基本層序は第Ⅱ層についてⅡａ層とⅡｂ層とに細分している以外は近野遺跡と同様であるため、図５には簡単に土色等を記述するのに留めた。詳細は第１編第４節の地質を参照されたい。

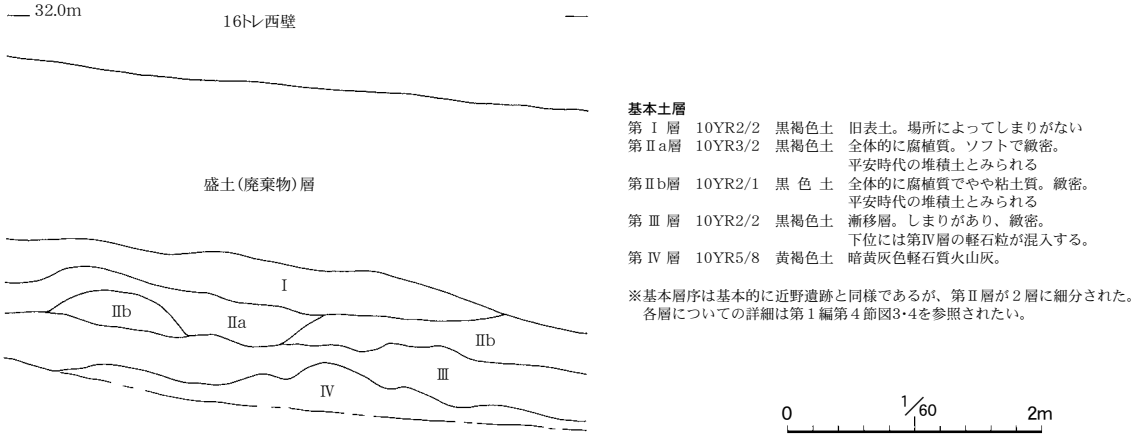


図５　基本層序

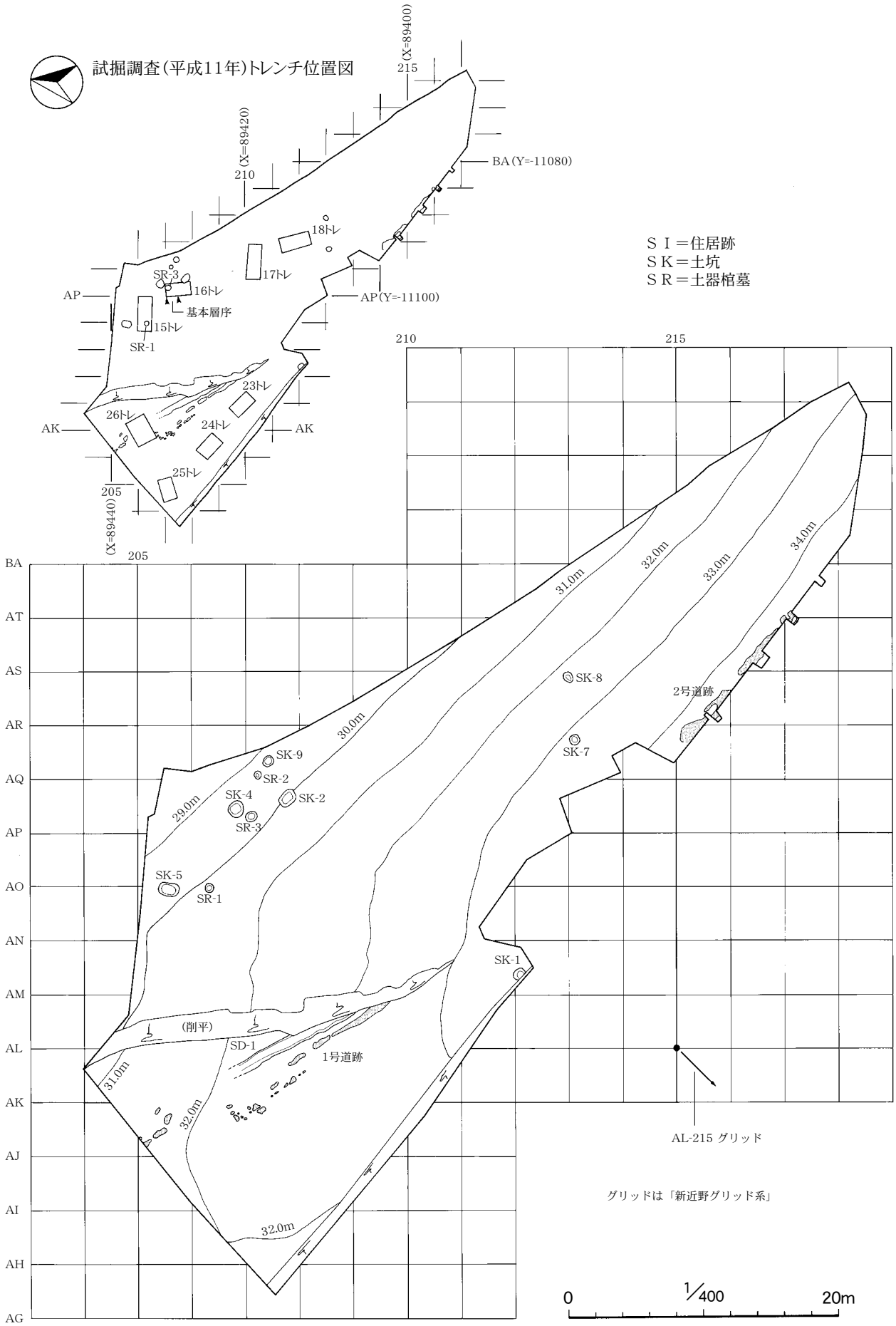


図６　遺構配置図・試掘調査トレンチ位置図

第２章　検出遺構と出土遺物

第１節　縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構と考えられるのは土坑６基、土器棺墓３基、道跡１条である。道跡とみられる遺構は南西側の調査区際の尾根上から、土坑４基と土器棺墓３基は調査区北東側の斜面上から比較的まとまって検出された。それ以外の遺構はわずかで、散在している。

第１号土坑（図７）　AN － 211 グリッドで確認した。確認面は第Ⅳ層上面で、標高 33.2 ｍの中位段丘上に位置する。調査区南側の境界上にあり、約１/ ３が現代の道路によって削平されている。開口部・底面形態は円形もしくは楕円形と推測される。底面は鍋底状で、壁面は外傾して立ち上がる。堆積土は黒褐色土の単層である。時期決定の目安となる遺物を欠くものの、第Ⅱ層上面では確認できなかったことから、本遺構の時期は縄文時代と考えられる。

第２号土坑（図７）　AQ － 207 グリッドの第Ⅳ層上面で、ぼんやりとした暗褐色土の楕円形のプランとして確認した。確認面の標高は 29.7 ｍで、北東側に傾斜する斜面上に位置する。開口部 123 × 96 ㎝、底面 114 × 77 ㎝の長方形を呈し、長軸方向は等高線に平行である。底面は概ね平坦で、南西壁・北西壁・南東壁では底面からほぼ垂直に、斜面下方にあたる北東壁ではやや外傾して立ち上がる。南隅のコーナー付近では段状に立ち上がる部分がみられる。堆積土は６層に分層され、人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、第Ⅳ層のロームが混入する。堆積状況から、第５・６層が堆積後一度掘り返し、第１～４層で埋め戻した様子が窺える。南側コーナーの壁が段状に立ち上がることと関連があると思われる。底面近くから扁平な自然礫が１点出土した。底面付近３箇所から土壌サンプルを採取し、脂肪酸分析及び理化学分析を行ったが、周囲の土壌に比べて脂肪酸・リン酸の富化は認められなかった。（第３章参照）。堆積土の状況や土器棺墓との位置関係から、縄文時代後期（十腰内Ⅰ式期）の遺構の可能性が高い。

第４号土坑（図７）　AQ － 206 グリッドの第Ⅳ層上面でぼんやりとした円形のプランを確認した。確認面の標高は 29.6 ｍで、北東側に傾斜する斜面上に位置する。北側を掘りすぎたが、開口部 130 ×（100）㎝、底面 104 ×（70）㎝の楕円形を呈する。長軸はほぼ東西方向を示し、等高線に対して斜交気味である。底面は北東側に向かって 15 ㎝傾斜し、北壁沿いから深さ 15 ㎝のピットが検出された。断面形は逆台形で、西壁ではほぼ垂直に、それ以外では外傾して立ち上がる。堆積土は５層に分層された。第１層は自然堆積の可能性があるが、第２層以下は第Ⅳ層の黄褐色土を主体とする人為堆積と考えられる。第２層には第Ⅳ層のブロックを混入し、第５層以外には炭化物を微量に混入する。遺物は出土しなかった。第４層の底面付近３箇所から土壌サンプルを採取し、脂肪酸分析及び理化学分析を行ったが、周囲の土壌に比べて脂肪酸・リン酸の富化は認められなかった。（第３章参照）。堆積土の状況や土器棺墓との位置関係から、縄文時代後期（十腰内Ⅰ式期）の遺構の可能性が高い。

第５号土坑（図７）　AO － 205 グリッドの第Ⅳ層上面から、円形の黒色のプランを確認した。確認

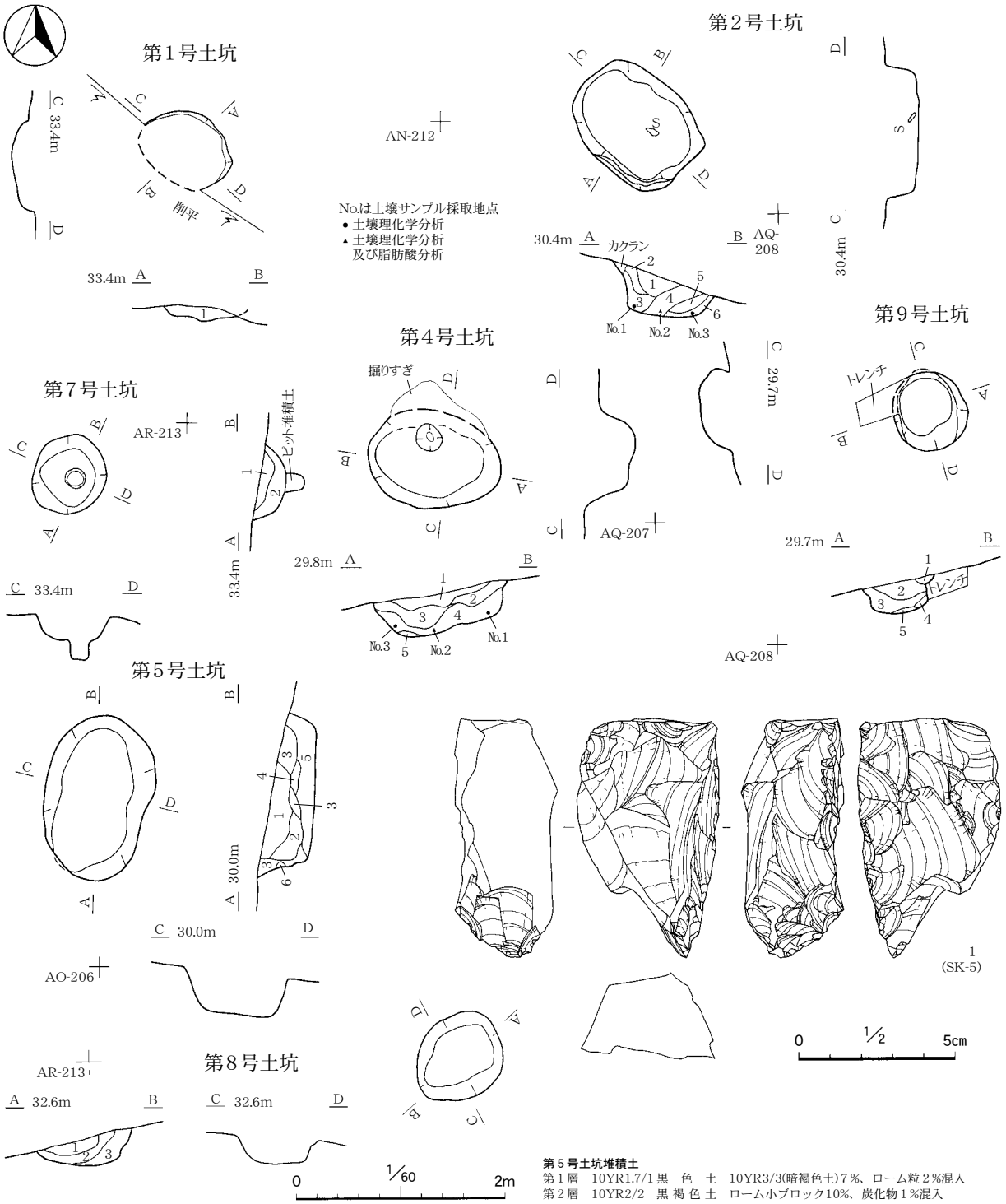
面の標高は 29.7 ｍで、北東側に傾斜する斜面上に位置する。開口部 158 × 104 ㎝、底面 140 × 70 ㎝の楕円形で、長軸はほぼ南北方向を示して等高線に斜交する。底面は概ね平坦である。断面形は箱状を呈し、壁はやや外傾しながら開口部に至る。堆積土は５層に分層した。第１層は自然堆積、第２層以下は人為堆積と考えられる。第２層が第３層を切る形で堆積することから、はじめに第３～５層が堆積し、掘り返した後第２層で埋め戻し、その上に第１層が自然堆積した可能性が考えられる。遺構確認面から、二次加工のある剥片１点が出土した。下端部と側縁部に刃部を作ろうとして粗雑に調整されているもので、埋め戻し土に混入したものとみられる。堆積土や土器棺墓との位置関係から縄文時代後期（十腰内Ⅰ式期）の土坑と考えられる。

第７号土坑（図７）　AR － 213 グリッドの第Ⅳ層上面で黒褐色土の不整形のプランを確認した。確認面の標高は 32.4 ｍで、北東側に傾斜する斜面上に位置する。開口部径 78 × 70 ㎝、底面径 53 × 48 ㎝の円形を呈する。底面は鍋底状で、中央に径 18 ㎝、深さ 20 ㎝のピット状の落ち込みがみられる。断面形は半円状を呈する。堆積土は２層に分層した。時期決定の目安となる遺物を欠くが、第Ⅱ層上では確認できなかったことから、本遺構の時期は縄文時代と考えられる。

第８号土坑（図７）　AS － 212 グリッドの第Ⅳ層上面で黒褐色土の不整形プランを確認した。確認面の標高は 32.4 ｍで、北東側に傾斜する斜面上に位置する。開口部径 88 × 58 ㎝、底面径 72 × 48 ㎝の不整楕円形で、長軸方向は等高線に直交する。底面は概ね平坦で、断面形は逆台形を呈し、壁は外傾して立ち上がる。堆積土は３層に分層され、人為堆積の様相を呈する。遺物は出土しなかった。本遺構は縄文時代後期とした第２・４・５・９号土坑と堆積土の状況が類似しており、同時期の可能性もあるが、それらと離れて位置しているため、時期は縄文時代としておく。

第９号土坑（図７）　AR － 207 グリッドの第Ⅳ層上面で不整形の暗褐色土のプランとして確認した。確認面の標高は 29.4 ｍで、北東側に傾斜する斜面上に位置する。開口部径 77 × 70 ㎝、底面径 50 ㎝の円形を呈する。底面は鍋底状で、西側･東側ではほぼ垂直に、北側ではオーバーハングしながら、南側ではなだらかに外傾して立ち上がる。堆積土は５層に分層され、人為堆積の様相を呈する。遺物は出土しなかった。本遺構は、堆積土や土器棺墓との位置関係から縄文時代後期の遺構と考えられる。

第１号土器棺墓（図８）［位置・確認］AO － 207 グリッドで検出した。平成 11 年度に行われた試掘調査の第 15 トレンチで検出され、土器棺の半分ほどが露出し、土嚢で覆われ埋め戻された状態で確認した。確認面の標高は 30.2 ｍである。　［土器棺］口縁部から胴部下半までの大型壷形土器が、口縁部を下にして斜面下方へ向かって斜位に埋没していた。土層断面図から、土器の輪積み痕を中心に土器が割れて潰れ気味になっているとみられ、倒立して埋設されたものが、斜面上方から下方へと加わる土圧によって倒れながら潰れた可能性が考えられる。本調査の確認状態は土器棺の約半分が第Ⅳ層から露出しており、胴部下半までの土器片までしか残されていなかったが、平成 11 年度の試掘調査で土器棺の底部が出土している。試掘調査が重機によって第Ⅳ層上面まで下げる方法で行われたため、本来の確認面や土器棺の底部・底部近くの土器片が巻き込まれてしまったと推定される。底部



第１号土坑堆積土
第１層　10YR2/2　黒 褐 色 土　ローム粒15%、炭化物・焼土粒１%未満混入

第２号土坑堆積土
第１層　10YR3/3　暗 褐 色 土　ローム粒７%、10YR1.7/1(黒色土)粒１%混入
第２層　10YR3/4　暗 褐 色 土　ローム粒２%、10YR1.7/1(黒色土)粒1%混入
第３層　10YR4/4　褐　色　土　ローム小ブロック30%、10YR1.7/1(黒色土)粒２%混入
第４層　10YR3/4　暗 褐 色 土　ローム粒７%、10YR1.7/1(黒色土)粒３%混入
第５層　10YR4/4　褐　色　土　ローム40%、10YR1.7/1(黒色土)粒１%混入
第６層　10YR3/3　暗 褐 色 土　ローム１%、10YR1.7/1(黒色土)粒１%混入

第４号土坑堆積土
第１層　10YR3/3　暗 褐 色 土　ローム小ブロック５%、ローム粒３%、炭化物１%混入
第２層　10YR4/4　褐　色　土　ローム小ブロック３%、ローム粒10%、炭化物２%混入
第３層　10YR4/4　褐　色　土　ロームブロック40%、ローム粒15%、
炭化物５%、焼土粒10%混入
第４層　10YR4/6　褐　色　土　ローム主体土。拳大粘土ブロック７%、炭化物３２%混入
第５層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　粘土層

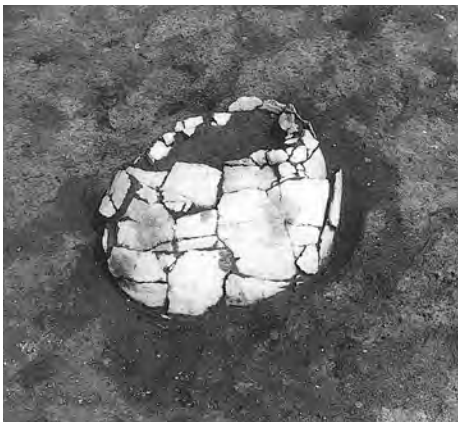
第５号土坑堆積土
第１層　10YR1.7/1黒　色　土　10YR3/3(暗褐色土)７%、ローム粒２%混入
第２層　10YR2/2　黒 褐 色 土　ローム小ブロック10%、炭化物１%混入
第３層　10YR2/3　黒 褐 色 土　ローム粒３%、炭化物１%混入
第４層　10YR4/6　褐　色　土　ローム小ブロック15%、炭化物３%混入
第５層　10YR4/6　褐　色　土　ローム粒１%混入

第７号土坑堆積土
第１層　10YR2/2　黒 褐 色 土　ローム粒２%、炭化物３%、焼土粒１%混入
第２層　10YR3/3　暗 褐 色 土　ローム粒12%、炭化物５%、焼土粒１%未満混入

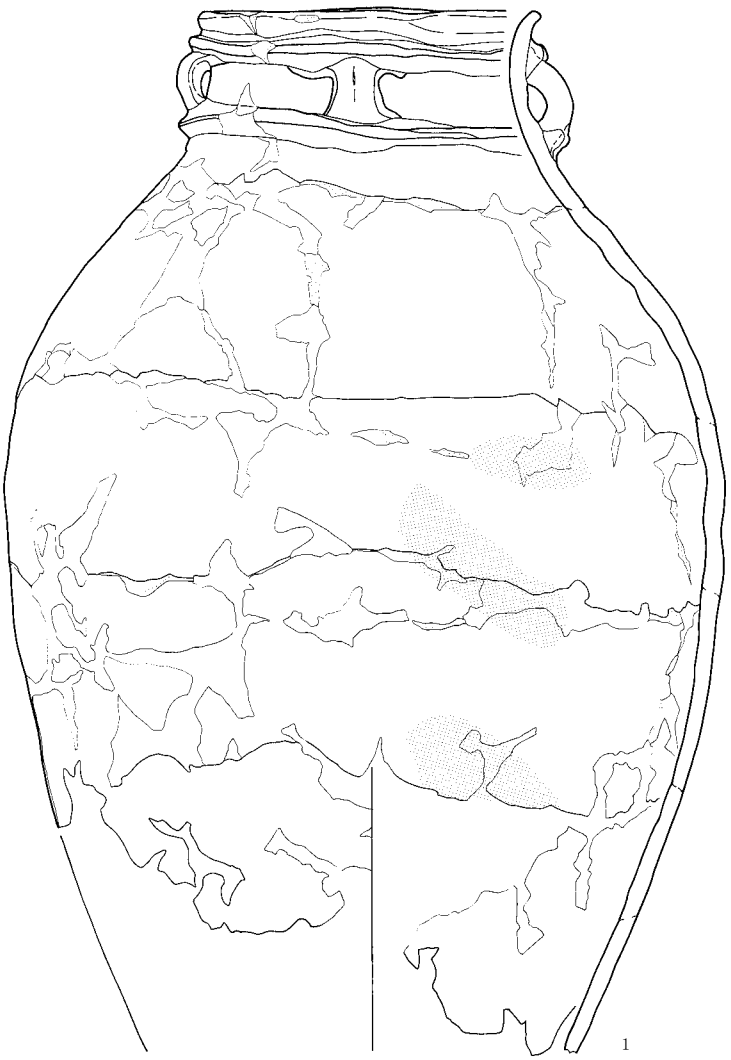
第８号土坑堆積土
第１層　10YR2/3　黒 褐 色 土　ローム粒５%、炭化物１%混入
第２層　10YR4/6　褐　色　土　ローム主体土。炭化物１%、
層上位に10YR3/4(暗褐色土)30%混入
第３層　10YR3/4　暗 褐 色 土　ローム粒10%、10YR1.7/1(黒色土)粒２%混入

第９号土坑堆積土
第１層　10YR3/3　暗 褐 色 土　ローム粒２%混入
第２層　10YR2/3　黒 褐 色 土　ローム粒３%、炭化物３%未満混入
第３層　10YR3/3　暗 褐 色 土　ローム粒７%、炭化物３%混入
第４層　10YR3/3　暗 褐 色 土　ローム粒１%、炭化物３%未満混入
第５層　10YR2/2　黒 褐 色 土　ローム粒１%、炭化物３%未満混入

図７　土坑

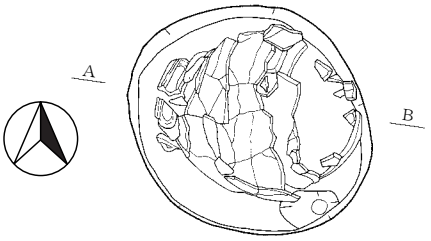


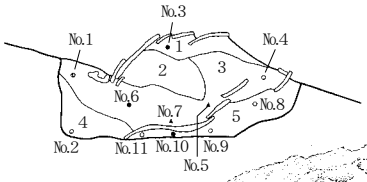
第１号土器棺墓確認状況（W→）

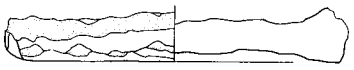


1

トーン部分黒斑

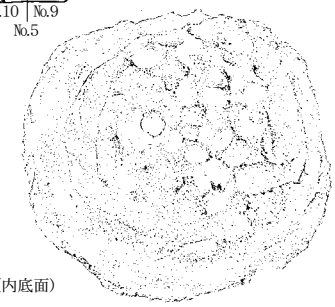






2

No.は土壌サンプル採取地点
• 土壌理化学分析
▲ 土壌理化学分析・脂肪酸分析
◦ 未分析試料



(内底面)

0　1/4　20cm

第１号土器棺墓堆積土

第１層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒5%、炭化物粒３%未満混入
第２層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物粒３%未満混入
第３層　10YR2/3　黒褐色土　10YR4/6(褐色土)10%、ローム粒7%、炭化物3%混入
第４層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒5%、炭化物粒３%未満混入
第５層　10YR3/4　暗褐色土　10YR4/4(褐色土)30%、ローム粒・炭化物3%未満混入

0　1/20　1m

図８　第１号土器棺墓

近くの胴部片は小片となり、排土にまぎれたとみられる。土器棺は口径 17.5 ㎝、底径 15.8 ㎝、頸部内径 15.0 ㎝、器高（55.5）㎝の大型壺形土器である。胴部最大径は胴部中央よりやや上位にあり、なで肩のプロポーションである。頸部と頸基部に２条の隆帯が巡り、隆帯間をつなぐ把手が４箇所にある。肩部から底部にかけては無文である。色調はにぶい黄橙色を呈し、所々に黒斑がみられる。約７～ 13 ㎝ごとに輪積み痕がみられる。底部片は円盤状を呈し、割れ口は剥離の数が多く、磨耗してやや丸みを帯びており、土圧による潰れに起因するものとしては不自然である。焼成後切断され、蓋として載せられて埋設された可能性が考えられる。　［土坑］開口部径 66 × 60 ㎝、底面径 60 × 55 ㎝の円形を呈し、確認面からの深さは 21 ㎝であった。底面はほぼ平坦であるものの所々に不整形のピット状の落ち込みがみられる。断面形は箱状である。　［堆積土］分層線は斜めに流れた状態で、土器棺内・外を含めて５層に分層された。第３層下半～５層は第Ⅳ層土とみられる褐色土が中～多量に混入し、土器棺埋設後の埋め戻し土・埋設後の流入土とみられる。第１・２層は黒褐色～暗褐色を呈し、褐色土の混入はあまりみられない。第１・３・５層の５地点で土壌理化学分析、第３層の２地点で脂肪酸分析を行った（第３章参照）。　［時期］他の２基と埋設時期に大きな隔たりはないと思われることから、縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式の新段階とみられる。

第２号土器棺墓（図９）　［位置・確認］AR － 207 グリッドに位置し、第Ⅲ層中位で、輪状になった土器の胴部下半の断面を確認した。確認面の標高は 29.4 ｍである。　［土器棺］倒立して埋設されている。本来の確認面及び底部・底部付近の胴部片は重機で第Ⅲ層を掘り下げる際に失われてしまった可能性がある。口径 16.6 ㎝、頸部内径 13.3 ㎝、器高 42.5 ㎝の大型壺形土器である。最大径は胴部中央付近にあり、なで肩であるが、頸部との差が大きいため第１号の土器棺よりも丸みがある。頸基部付近に２条、肩部に２条の隆帯が巡り、頸基部の隆帯間を５箇所の把手がつないでいる。把手の下位の文様帯は複段構成で、Ⅰ文様帯は、頸基部と肩部の隆帯間に隆帯によるモチーフがつくられ、それぞれの隆帯モチーフの間をＳ字状の２条単位の沈線文で充填している。胴部最大径付近には下位の文様区画帯である３条の横走沈線が巡り、肩部の２条単位の隆帯との間のⅡ文様帯には２条単位の沈線文が描かれている。隆帯上には竹管状工具の端部による刺突文がおよそ６㎜毎に施されている。沈線は幅２～３㎜、深さ１～２㎜で沈線内に筋がみられる。モチーフのところどころが途切れていたり浅くなっており、力やスピードが一定でなく粗雑に描いたという印象である。沈線による文様区画帯以下は無文である。色調は赤みがかった褐色で、所々に黒斑がみられる。土器の厚さは頸基部付近で 1.7 ㎝の最大値を測るほかはほぼ１㎝程度で一定し、肩部から胴部下半にかけて幅３～７㎝間隔で輪積み痕が観察される。　［土坑］土器棺の胴部最大径よりひとまわり大きい円形を呈し、開口部径 67 × 62 ㎝、底面径 43 × 40 ㎝、確認面からの深さ 38 ㎝である。底面は概ね平坦で、断面形は逆台形を呈し、やや開きながら立ち上がるが、北側のみ大きく開きながら段状に立ち上がる。　［堆積土］土器内は第１・２層、周囲は第３層の３層に分層された。暗褐色土と黒褐色土で構成される。土器内堆積土は第３層にくらべてしまりが弱い。第１～３層と土坑直下の第Ⅳ層の５箇所で土壌理化学分析、第２層で脂肪酸分析をおこなった（第３章参照）。　［出土遺物］土器棺内から、６点の土玉が出土した。土玉は平面的にはやや北西側、断面的には中～下位寄りに偏る傾向がみられる。６点とも、丸めた粘土の玉に棒状工具による貫通孔を通しただけの簡素なつくりで、それぞれは歪んだ球状を呈し、大き

第 2 号土器棺墓確認（NW →）

土玉検出状況（NE →）

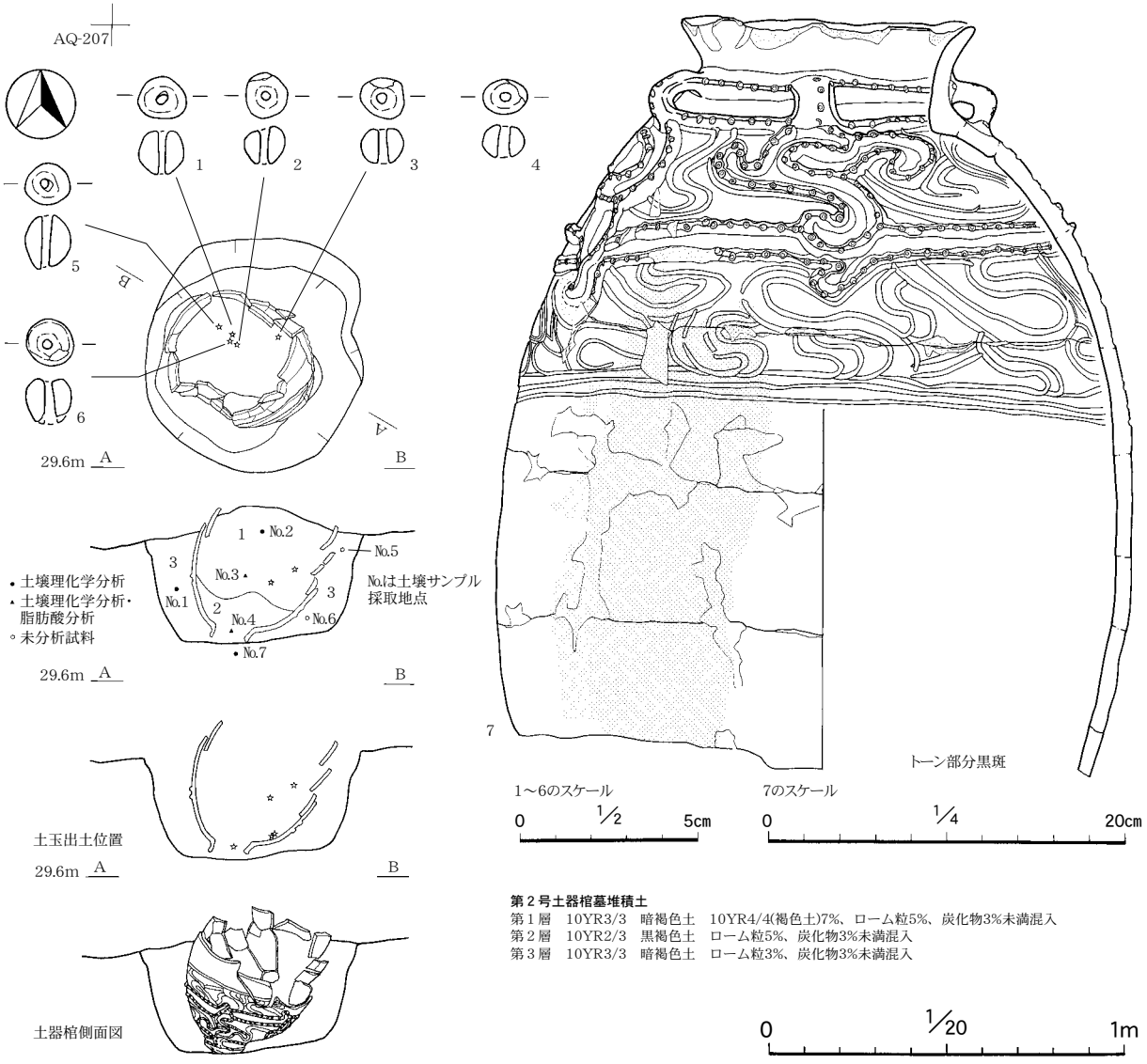


図 9　第 2 号土器棺墓

さは径 1.1 ～ 1.3 ㎝を測る。貫通孔の径は２～ 2.5 ㎜と一定することから、これらは同時につくられたものとみられる。　［時期］土器棺に施されたモチーフから、縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式（新）段階のものと考えられる。

第３号土器棺墓（図 10）　［位置・確認］AQ － 207 グリッドに位置する。第Ⅳ層上面で円形の暗褐色土プランを確認した。確認面の標高は 32.9 ｍである。　［土器棺］口縁部を上にして、斜位に埋設されている。４は土器棺として利用された完形の大型壷形土器で、図 10 －３を入れ子状に重ね、蓋としている。３・４ともに底部から口縁部に向けての軸がずれており、歪んだ土器である。４は口径 15.2 ㎝、頸部内径 10.0 ㎝、底径 15.1 ㎝、器高 59.8 ㎝を測り、最大径は胴部上半にある。土器棺にしては珍しくスレンダーなプロポーションである。口縁部と頸基部付近に隆帯が巡り、隆帯間の５箇所に把手がある。隆帯の下位には２条単位の横走沈線で区切られた３段の文様帯がみられる。Ⅰ・Ⅱ文様帯には入組渦巻文、Ⅱ文様帯下位には円弧文の沈線モチーフが施され、一応把手直下に文様単位がくるよう意識されているが、１周するうちに単位がずれ、３角形のモチーフ、上下段が入り組むモチーフができている。Ⅱ文様帯下位の円弧文から底部までは無文である。色調はにぶい黄橙色を呈し、所々に黒斑がみられる。頸部以下５～ 11 ㎝ごとに輪積み痕が観察されるが、それぞれ密着して接合することから、焼成後に輪積み痕の場所で切断したとは考えられない。沈線は幅３～５㎜、深さ１～３㎜で、丸棒状工具を用いて施文されたとみられる。沈線自体には途切れなどはみられず、第２号土器棺墓の土器棺よりは丁寧なつくりといえるが、モチーフの単位のずれなどからも、時間をかけてじっくりと製作された土器棺とはいい難い。３は口縁部の打ち欠かれた薄手の深鉢形土器で、底径 8.0 ㎝、器高（17.3）㎝を測る。色調は赤みがかった褐色を呈し、外面にはタール状の黒色付着物が付着している。胎土・焼成はよくなく、ポロポロと表面や割れ口が崩れる。底面には繊維の痕跡がみられる。外面の付着物・胎土のもろさから、日常的な道具として使用され、火の影響を受けている可能性もある。口縁部は輪積み痕の周辺で打ち欠かれているが、使用していて口縁部の破損したものの形を整えて転用したか、土器棺の蓋として転用するにあたって儀式的に打ち欠いたとみられる。モチーフは胴部上半に描かれ、下位の文様区画帯として３条の横走沈線が巡り、３条の縦位の沈線で４つの区画に分割し、中に沈線文による半割された「カニのハサミ状」と称されるモチーフが２段構成で描かれている。このモチーフの上位には文様区画体として横走沈線が巡っている。　［土坑］開口部径 87 × 80 ㎝の円形、底面径 73 × 61 ㎝の不整楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。断面形は箱状でほぼ垂直に立ち上がるが、北側はやや開きながら立ち上がる。　［堆積土］６層に分層された。第３・４層は土器棺埋設時の埋め戻し土とみられる。土器棺内はほとんど土壌が堆積しておらず、土圧によって土器が割れた時、中がほぼ空洞状態だったことがわかる。土器棺内は２層で、第５層は暗褐色土、第６層は黒色土である。両者ともしまりがなく、植物の根が入り込んでいる。第６層は押しつぶされた土器の間の層で、厚さ１～３㎝である。第１・２層は黒～黒褐色土で炭化物の混入がなく、土器棺が潰れてできた第３層上の窪みに堆積した自然堆積層とみられる。第４・６層の３箇所の土壌サンプルで脂肪酸分析をおこなった（第３章参照）。　［出土遺物］１・２が底面近くの第４層から出土した。同一個体である。１から、２叉状の小突起がつく深鉢形土器の口縁部とみられる。色調は赤褐色で内面は黒色を呈し、内外面ともによく磨かれている。土器棺埋設の際に、埋め戻し土に混入したものと考

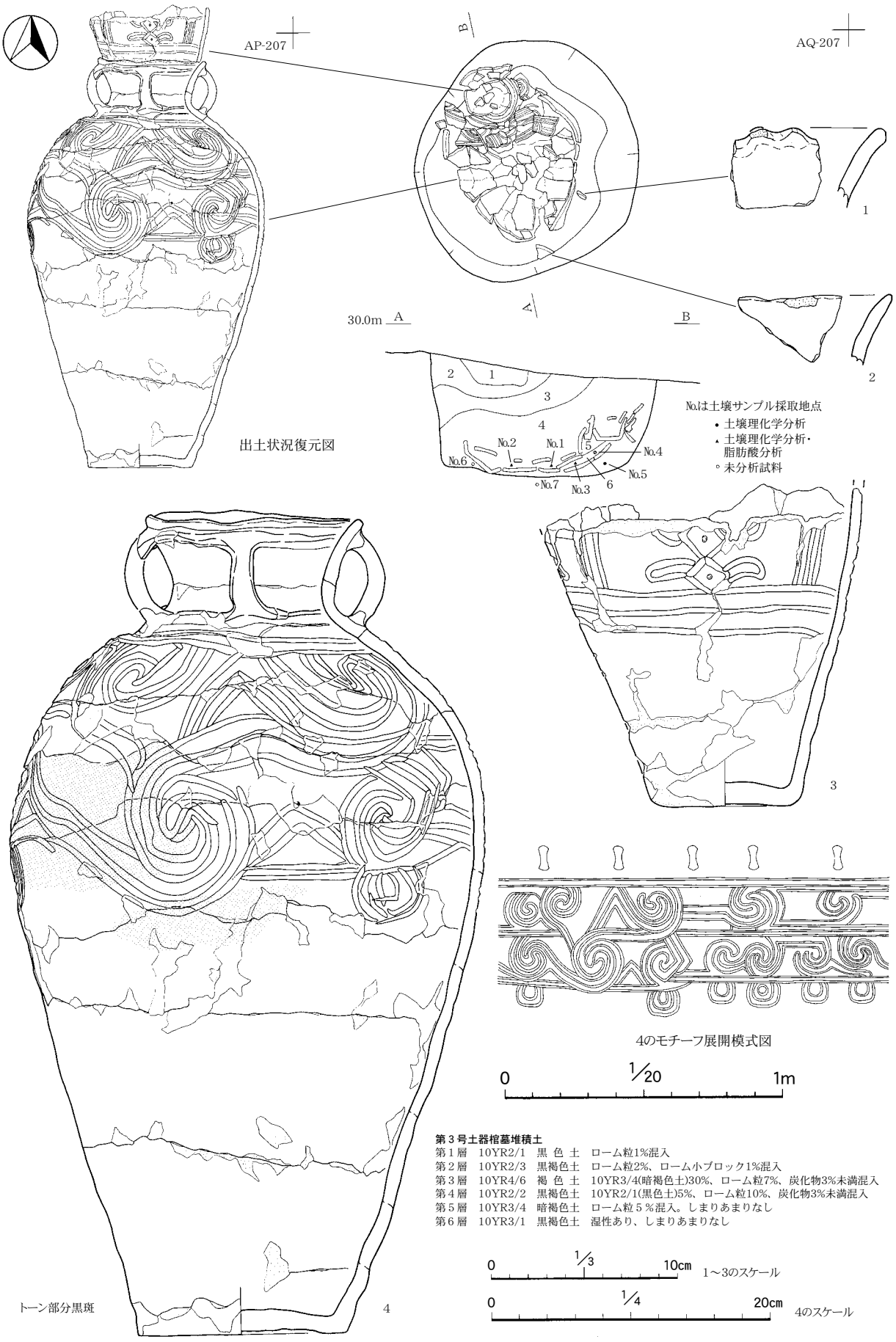

AP-207
AQ-207
B
A
30.0m A
B
出土状況復元図
1
2
3
4
5
6
No.1
No.2
No.3
No.4
No.5
No.6
No.7
No.は土壌サンプル採取地点
• 土壌理化学分析
▲ 土壌理化学分析・脂肪酸分析
◦ 未分析試料
4のモチーフ展開模式図
0　1/20　1m
第３号土器棺墓堆積土
第１層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%混入
第２層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒2%、ローム小ブロック1%混入
第３層　10YR4/6　褐 色 土　10YR3/4(暗褐色土)30%、ローム粒7%、炭化物3%未満混入
第４層　10YR2/2　黒褐色土　10YR2/1(黒色土)5%、ローム粒10%、炭化物3%未満混入
第５層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒５％混入。しまりあまりなし
第６層　10YR3/1　黒褐色土　湿性あり、しまりあまりなし
0　1/3　10cm　1～3のスケール
0　1/4　20cm　4のスケール
トーン部分黒斑
4

図 10　第３号土器棺墓

えられる。　［時期］土器棺と蓋の文様から、縄文時代後期前葉の十腰内Ⅰ式期（新段階）とみられる。蓋とした深鉢形土器よりも土器棺のモチーフがやや新しい様相を呈することから、土器棺のつくられた時期と、蓋の深鉢形土器のつくられた時期に時間差がある可能性があり、土器棺はあらかじめ用意され、埋設時に使用中の深鉢形土器を転用して蓋とした可能性もある。

第２号道跡（図 11）　AR － 215 ～ BA － 217 グリッドで検出された。南西側の調査区際に位置し、中位段丘上につくられた現代の道路の脇の第Ⅲ層上で検出した。確認面の標高は 34.3 ～ 34.5 ｍである。全体を調査することができなかったため形態は不明であるが、検出できた長さは 15.5 ｍ、最大幅は 90 ㎝、４～ 10 ㎝の厚さで硬化範囲が認められた。硬化した第Ⅲ層は４層に分層された。暗褐色土～黒褐色土でローム粒・焼土粒・炭化物を微量に混入し、堅くしまっている。本遺構は隣接する三内丸山遺跡から検出された整地された幅広の道跡とは違い、第Ⅲ層上が踏み固められただけの、尾根上をつたう細い獣道のような様相を呈する。AR － 215 付近の硬化面上及びその周辺から、縄文時代中期前葉を主体とする土器片 18 点、板状土偶が出土し、このうち土器片３点・土偶１点を図示した。図 11 －１の隆帯上にはコイル状に LR の原体を押圧している。円筒上層ａ～ｂ式の深鉢形土器の突起部分とみられる。図 11 －４の板状土偶はＬの原体の中央に結節を作り、結節部分で折って施文したものとみられる。出土遺物から、縄文時代中期前葉の遺構と考えられる。

第２節　平安時代の遺構

平安時代とみられる遺構は溝跡・道跡各１条である。これらは中位段丘上の平坦面から検出され、ほぼ並走するが、北東方向へ向かって角度が開いていくことから、一連の遺構ではないと考えられる。

第１号溝跡（図 12）　AL － 206 ～ AM － 208 グリッドの第Ⅱ層上面で検出された。確認面の標高は 32 ～ 32.6 ｍである。北側は試掘調査のトレンチ 26（図６参照）によって、南側は鉄塔敷設のために造成された仮設道路によって削平されているため、全体を調査することができなかったが、検出された長さは 18.6 ｍ、幅 68 ～ 90 ㎝、深さ約 10 ㎝の直線状を呈する。底面及び一部の壁面は１～４㎝の厚さで硬化している。トレンチ 26 以北の調査区際では、硬化面のみが検出されたが、溝跡の延長線上に位置するため、本溝跡の底面上の硬化面が残存しているものと考えられ、本溝跡は更に北側の調査区外へと伸延する。堆積土は４層に分層され、第３層の硬化面上位の第１・２層は黒色～黒褐色を呈し、自然堆積の様相を呈し、第Ⅱ層土に類似する。遺物は出土しなかった。

第１号道跡（図 12）　AK － 206 ～ AM － 209 グリッドの第Ⅱ層上面で検出された。確認面の標高は 32.3 ～ 32.8 ｍである。北側は試掘調査のトレンチ 26 によって、南側は鉄塔敷設のために造成された仮設道路によって削平されているため、全体を調査することができなかったが、検出された長さは 16.4 ｍ、幅 20 ～ 60 ㎝である。硬化面は厚さ２～６㎝の厚さを測り、上面の断面形は浅い皿状を呈する。硬化面を含めて２層に分層され、硬化面上には暗褐色土を中量混入する黒褐色土が堆積する。遺物は出土しなかった。平安時代の遺構と考えられる。

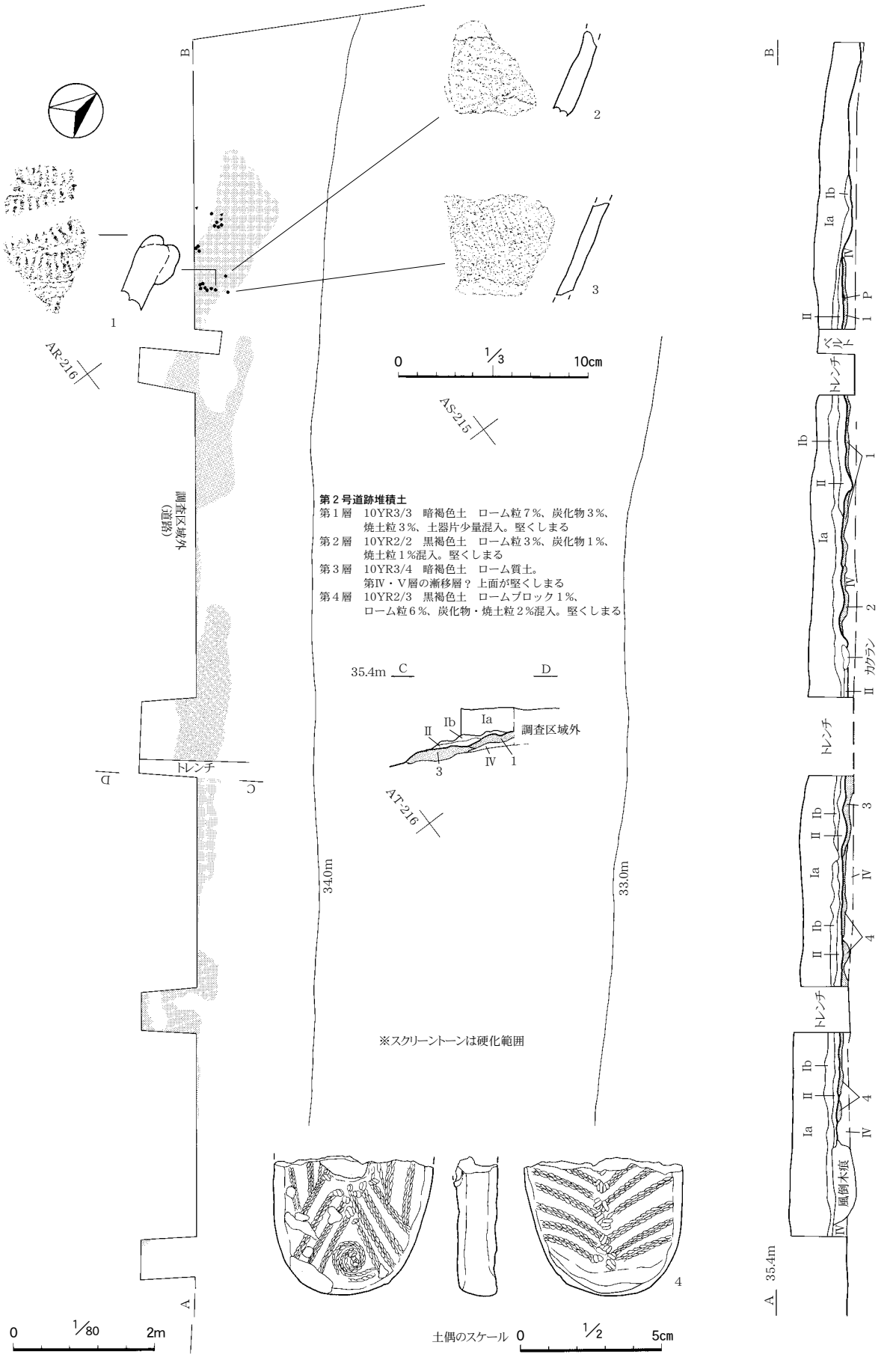
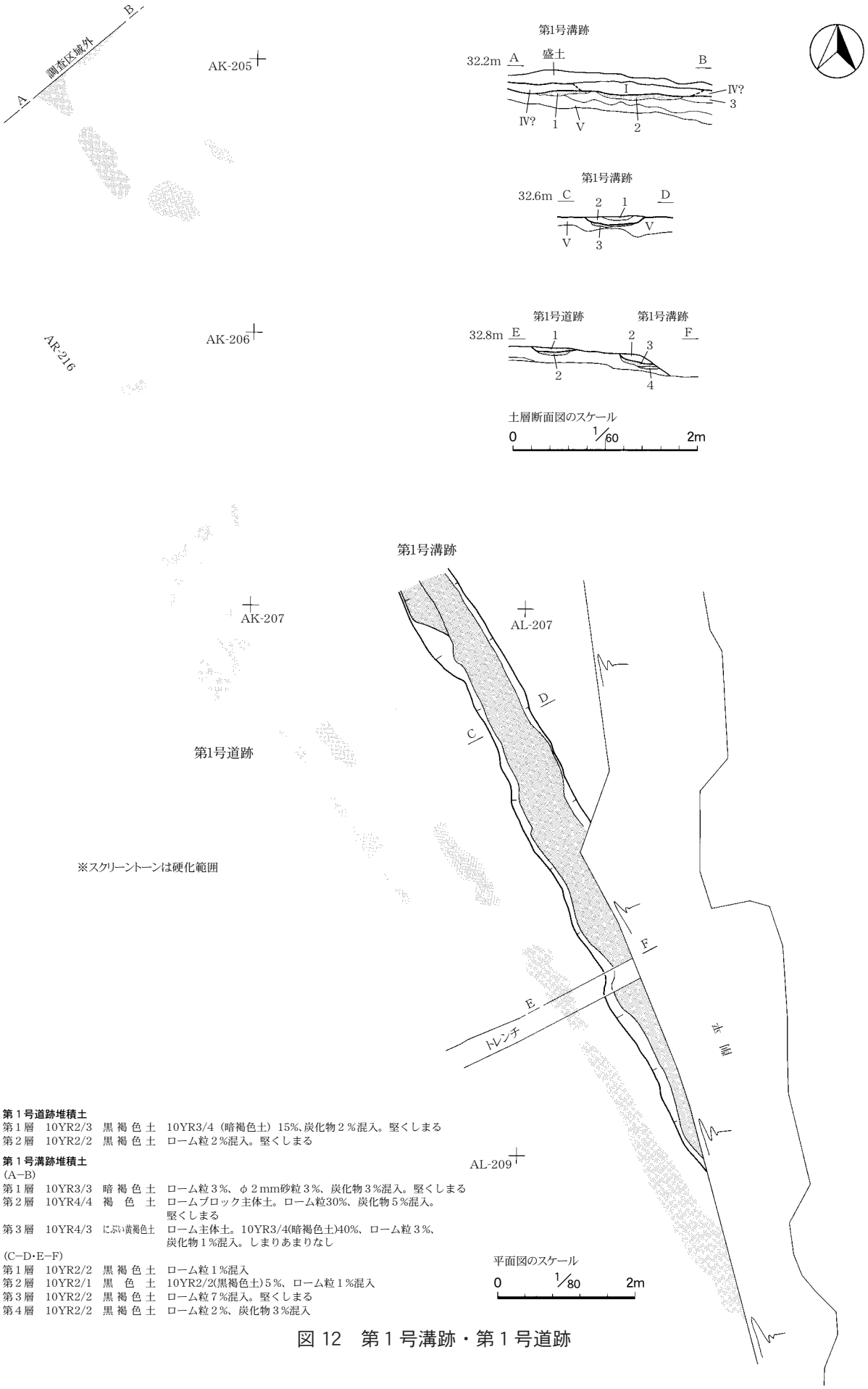

B
1
2
3
AR-216
AS-215
AT-216
0　1/3　10cm
調査区域外
(道路)
トレンチ
C
D
A
34.0m
33.0m
35.4m
第２号道跡堆積土
第１層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒７%、炭化物３%、
焼土粒３%、土器片少量混入。堅くしまる
第２層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒３%、炭化物１%、
焼土粒１%混入。堅くしまる
第３層　10YR3/4　暗褐色土　ローム質土。
第Ⅳ・Ⅴ層の漸移層？ 上面が堅くしまる
第４層　10YR2/3　黒褐色土　ロームブロック１%、
ローム粒６%、炭化物・焼土粒２%混入。堅くしまる
※スクリーントーンは硬化範囲
Ia
Ib
Ⅱ
Ⅳ
P
パルト
カクラン
風倒木痕
0　1/80　2m
土偶のスケール　0　1/2　5cm

図 11　第２号道跡



第１号道跡堆積土
第１層　10YR2/3　黒 褐 色 土　10YR3/4（暗褐色土）15%､炭化物２％混入。堅くしまる
第２層　10YR2/2　黒 褐 色 土　ローム粒２%混入。堅くしまる

第１号溝跡堆積土
(A−B)
第１層　10YR3/3　暗 褐 色 土　ローム粒３%、φ２mm砂粒３%、炭化物３%混入。堅くしまる
第２層　10YR4/4　褐　色　土　ロームブロック主体土。ローム粒30%、炭化物５%混入。堅くしまる
第３層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム主体土。10YR3/4(暗褐色土)40%、ローム粒３%、炭化物１%混入。しまりあまりなし
(C−D･E−F)
第１層　10YR2/2　黒 褐 色 土　ローム粒１%混入
第２層　10YR2/1　黒　色　土　10YR2/2(黒褐色土)５%、ローム粒１%混入
第３層　10YR2/2　黒 褐 色 土　ローム粒７%混入。堅くしまる
第４層　10YR2/2　黒 褐 色 土　ローム粒２%、炭化物３%混入

図 12　第１号溝跡・第１号道跡

第３節　遺構外の出土遺物

１　土器（図 13・14）

遺構外からは、縄文土器が平成 11 年度の試掘調査で 53 点・本調査で 427 点、ミニチュア１点、続縄文土器が１点出土した。縄文時代中期の遺物が約 300 点と最も多く、これに次ぐのは後期の遺物約 40 点である。これらのうち、73 点を図示した。破片が小片であるため時期を特定できないものも少なくないが、推定される時期については観察表に記した。

縄文土器　１～ 12 は縄文時代前期の土器である。円筒下層ａ～ｄ式と見られる小片が少数ずつ出土した。胎土はよくなく、摩滅している。口縁部破片には、網目状撚糸文（４）、横位・縦位・斜位の原体を押圧してモチーフを作り出すもの（２・５・６）、原体の押圧によって区画した口縁部文様帯内をＬＲ縄文・羽状縄文で充填したもの（１・３）がみられる。６は口唇部端面にＬＲ縄文を回転している。７には口縁部文様帯の境界に微隆帯が貼り付けられている。胴部～底部片にはいずれも単軸絡条体１類が施文されている。13 ～ 48・61 は縄文時代中期の土器である。円筒上層ａ～ｅ式・榎林式・最花式の土器片が出土している。上層ａ～ｃ式期の破片は僅かに出土したのみで、20 は隆帯で口縁部を飾り、隆帯間は竹管状工具の刺突とＬＲの原体押圧によって施文され、内面には太く深い沈線が施されている（写真－９）。19・21 は突起部分で、内面に盲孔がみられる。19 は環状・鋸歯状の細い隆帯で外面・口唇部端面を飾り、隆帯間には竹管状の刺突が施される。21 は隙間なく細い隆帯で突起を飾り、隆帯上にＲＬを押圧している。突起内面にもＶ字状に細い隆帯を貼り付け、同様にＲＬを押圧している。上層ｄ～ｅ式期の土器は遺構外から出土した縄文土器の中で最も多く出土したもので、22・24 は突起頂部以外の口唇部に幅広の隆帯を貼り付け、斜位に原体を押圧している。22 は羽状縄文上に、23 はＬＲ縄文＋結節回転上に細い粘土紐を貼り付けている。27 の口唇部には、斜位の短沈線が施される。35 の突起は山形を呈し、弧状の隆帯が貼り付けられ、隆帯上にＬＲ縄文を回転させている。口縁部文様帯は 27 ～ 29・31・35 ではＲＬ・ＬＲの横回転上に胸骨文・弧状文等の沈線文を施文している。30 は細い突起部分に隆帯が巻き付けられ、隆帯上・口唇部端面にはＲＬ縄文が施文されている。外面は口唇にそってＲ縄文、以下はＲＬ縄文が施文されている。38・39 は榎林式とみられ、39 の口唇部は肥厚して深い沈線が施されている。外面はＲＬ縄文の施文後に隆沈線でモチーフを作り出している。32 ～ 34 は最花式の土器片とみられ、肥厚した幅広の折返し口縁には 32 ではＲＬ縄文、33・34 は無文で磨かれている。32 の外面には方形化した楕円形文の一部が観察される。36・37・40 は地文上に縦位・横位・Ｊ字状の沈線文が施された榎林～最花式期の胴部片とみられる。49 ～ 57・59・60・62 ～ 67 は縄文時代後期の土器である。49・53 は方形文が施される。51 は波状口縁で貫通孔をもち、条痕文もしくは縦走する無節縄文の地文上に沈線文が施される。55・56 は隆沈線の手法で製作され、56 は入組文とみられる。これらの沈線文が施された土器はほぼ十腰内Ⅰ式の範疇におさまるもので、57 が赤褐色、それ以外はにぶい黄橙色と明るい色調を呈する。地文のみが施文された粗製土器には、網目状撚糸文（66）・単軸絡条体１類（67）・単節縄文（59・60・64）がみられる。このほか、無文土器が少数出土し（62・63）、このうち 63 は壺形土器とみられる。68 ～ 73 は縄文時代晩期の土器で、出土量は僅かである。68・69 は同一個体とみられる大洞Ｃ１式の半精製鉢形土器で、口縁部に列点文が施され、胴部以下には縦走するＬＲ

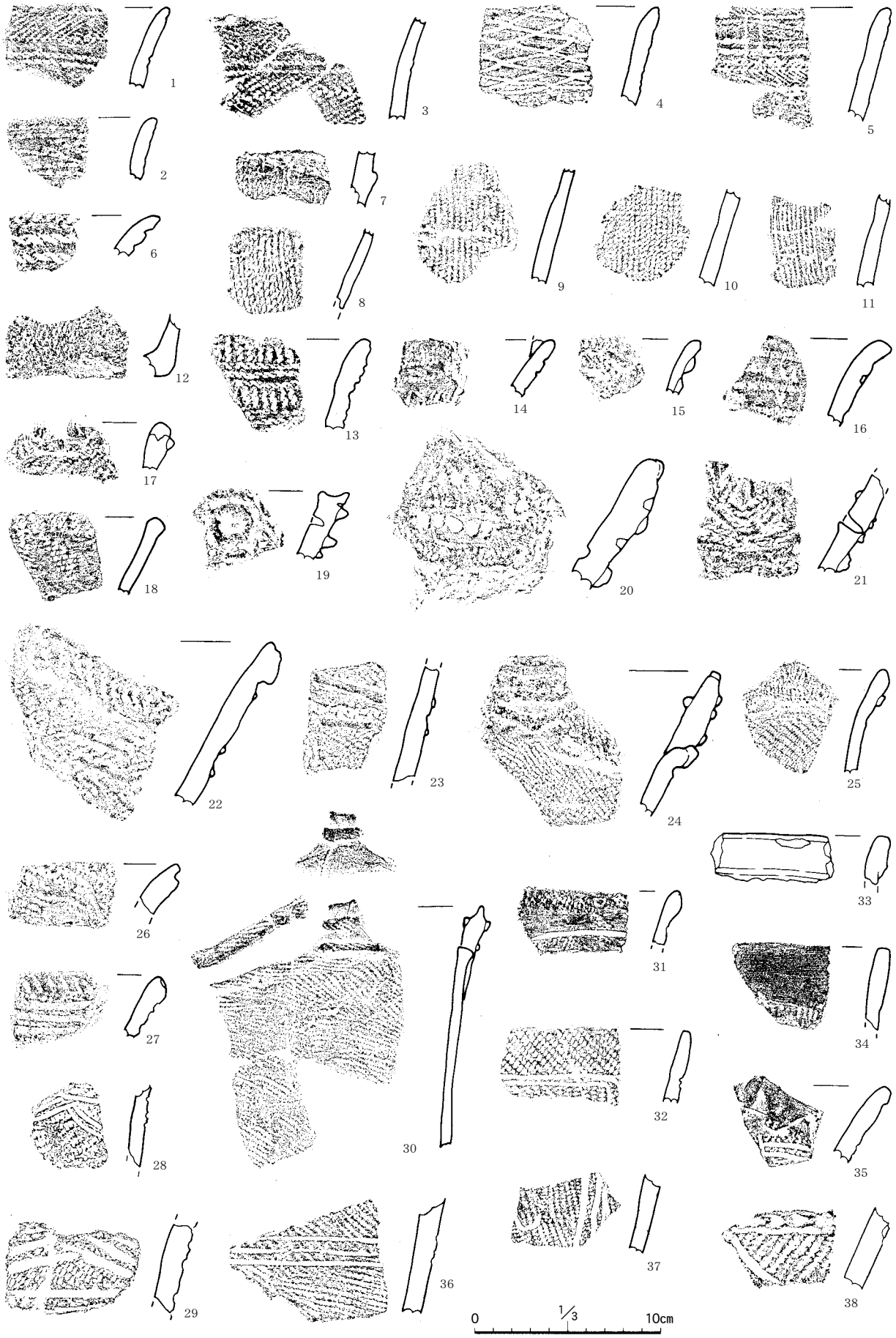


図 13　遺構外の出土遺物（１）

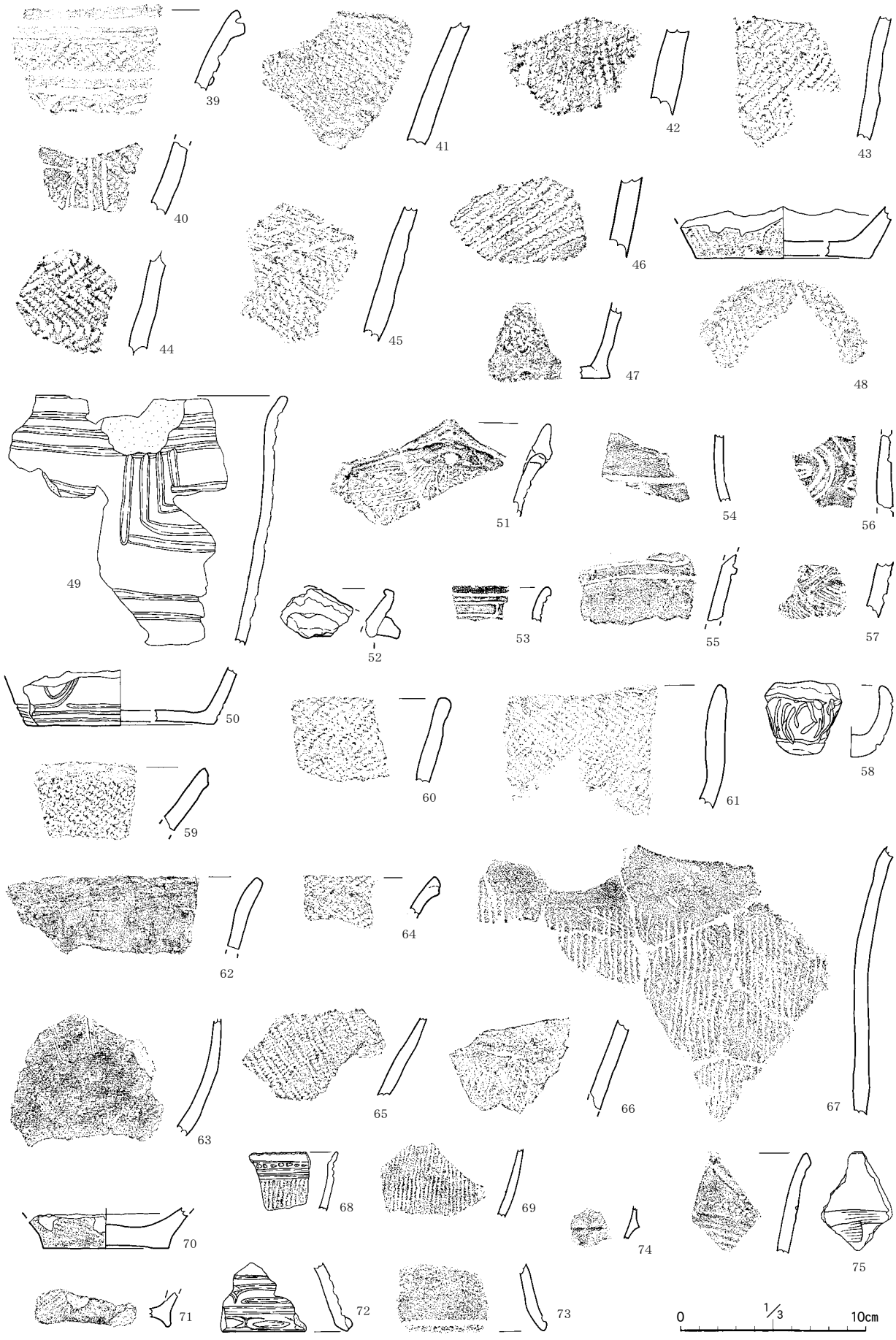


図 14　遺構外の出土遺物（2）

縄文が施文される。72・73 は高坏の台部で、72 は工字文・レンズ状付帯文が施文されている。74 は時期不明の土器片の一部で、器壁の薄さから縄文時代晩期以降とみられる。

続縄文土器　75 は続縄文時代後期の土器で、後北Ｃ２－Ｄ式の深鉢形土器の口縁部片で、１点出土したのみである。微隆起線文と縄縄文が施され、無文部には三角形列点文が施文される。内面は横方向のナデが観察される。色調は浅黄色を呈し、器面は磨耗している。

ミニチュア　１点出土した（58）。鉢形を呈し、上下を平行沈線で区画した胴部に二重と三重の円形文を交互に配置し、４単位のモチーフとなっている。十腰内Ｉ式に比定される。

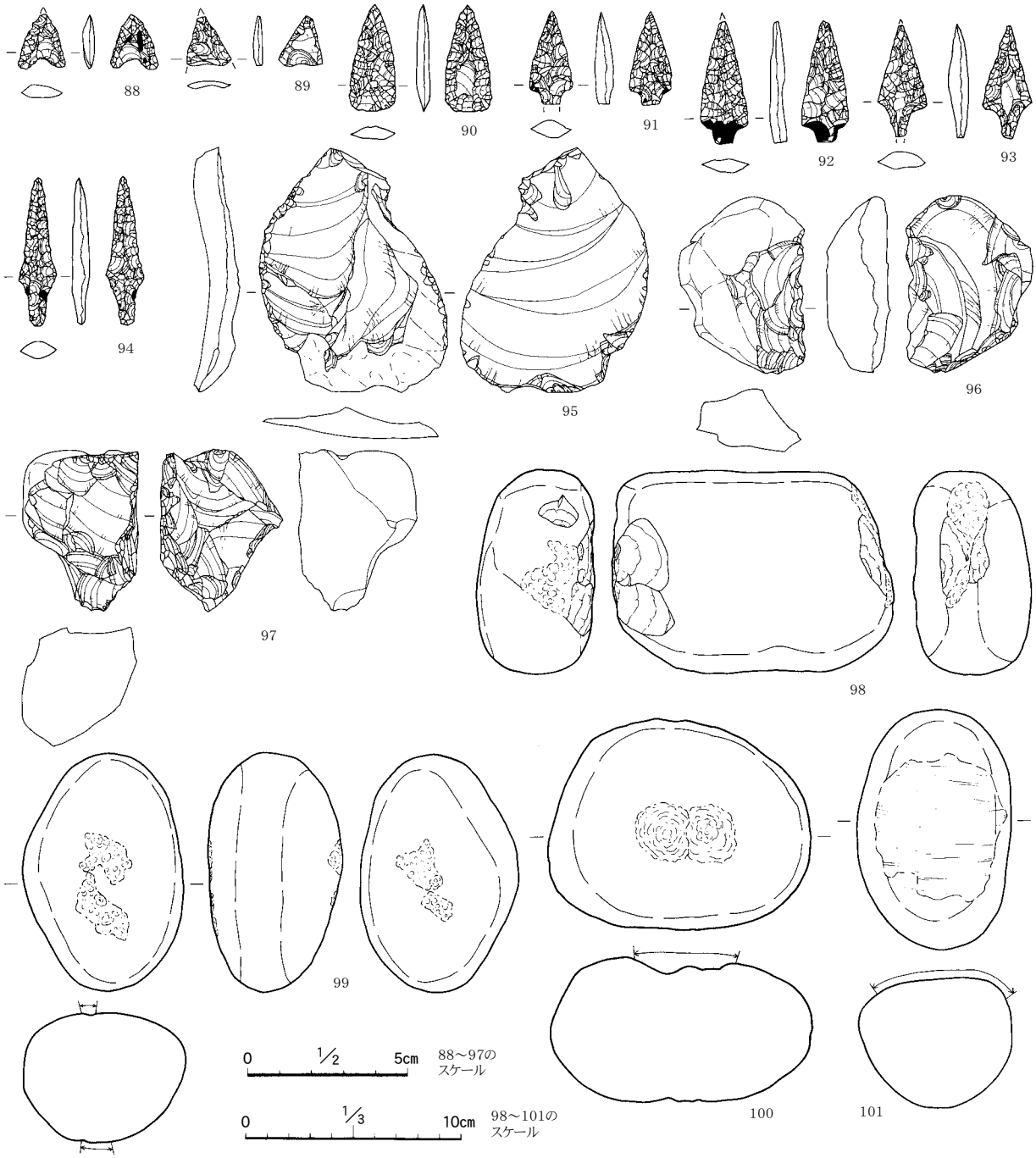


図 15　遺構外の出土遺物（３）

2　石器（図 15）

剥片及び剥片石器は石鏃 7 点、スクレイパー類 1 点、二次加工のある剥片 1 点、石核 1 点、剥片 18 点が出土し、10 点を図示した。石質は 91 の石鏃が玉髄、剥片に玉髄質珪質頁岩が 3 点みられる他はすべて珪質頁岩が使用されている。磨製石斧は刀部の小片が 1 点出土したが、図示しなかった。石質は頁岩である。礫石器は敲石 2 点、凹み石 1 点、磨石 1 点が出土し、すべてを図示した。

石鏃は有茎のもの（91 ～ 94）4 点、無茎のもの（88 ～ 90）3 点である。無茎のうち 2 点が凹基、1 点が平基で、88 の背面にはV字状にアスファルトが付着している。89 は両端部が欠損している。腹面は刃部にのみ調整が加えられる。91・92・94 の基部にはアスファルトが付着している。**スクレイパー類**は 1 点出土した（95）。背面に一部自然面を残した縦長の剥片を素材とし、背面の両側縁にのみ微細な剥離を加え、刃部を作り出している。**二次加工のある剥片**は 2 点出土し、1 点図示した（96）。背面には自然面が残存して丸みがある。背面の側縁に調整を加えているが、刃部は形成されていない。**石核**は 1 点出土し（97）、一部に自然面を残しており、側縁には石核の調整のための敲打による潰れが観察される。**敲石**は 2 点出土し、98 は扁平な安山岩の礫の長軸両端部を使用しており、縁辺部には敲打による剥離がみられる。99 は扁平な石英安山岩の礫の表裏面を使用しており、器面が荒れる程度の敲打痕が観察される。**凹石**は 1 点出土した（100）。厚みのある安山岩の礫を使用し、表面中央部に 2 箇所の凹みがみられる。**磨石**は 1 点出土した（101）。楕円形の流紋岩の礫を使用し、表面中央部に横方向の磨り痕が観察される。器面は滑らかであるが、平坦面は形成されていない。

3　土師器・須恵器・陶器（図 16）

土師器（76 ～ 79）　第Ⅱ層上面から散在して 10 点出土し、そのうち 4 点を図示した。76 は外面ロクロ調整、内面黒色処理、底部回転糸切後無調整の坏で、内面は横方向の後放射状にミガキが施される。77 は甕の胴部片で、輪積痕が明瞭である。砂粒を多量に混入し、胎土は良くない。78・79 は甕底部片で、78 は底部近くで強く屈曲する。底面には簾状圧痕がみられる。79 の底部は砂底である。

須恵器（80 ～ 86）　土師器同様散在して 16 点出土し、そのうち 7 点を図示した。80・81 はロクロ調整の坏で、同一個体の可能性がある。81 の外面には火ダスキ痕が観察される。やや厚手・大ぶりの坏である。82・83 は長頸壺の肩部で、頸基部の突帯がみられる。82 の突帯に比べ、83 の突帯は形骸化している。84 は長頸壺の底部である。やや幅の狭い丸みのある工具で密に菊花状に削り出している。85 は大甕の頸部である。木目と平行に 9 条の刻み目を入れた幅 3.6 ㎝の叩き板を使用し、頸部には斜位、肩部は縦位に叩き締めた後、頸部はロクロ調整で叩き目を消している。頸部の内面には横方向のナデが観察される。86 は大甕の胴部片である。木目に直交する刻み目を入れた敲き板で斜位に叩き締めた敲き目が観察される。破片の表裏面の割れ口部分には無数の小剥離が観察され、磨耗している。後世の撹乱のためか、須恵器大甕の小破片を何かに利用した痕跡かは不明である。

陶器（87）　斜面北側から 1 点出土した。唐津の擂鉢の口縁部近くの破片で、口縁部近くで屈曲して外反する。口縁には鉄釉がかけられ、釉薬が胴部に向かって垂れている。内外面はにぶい赤褐色、断面はやや赤みを帯びた灰色を呈する。肥前Ⅱ～Ⅲ期（17 世紀中～後葉）に比定される。

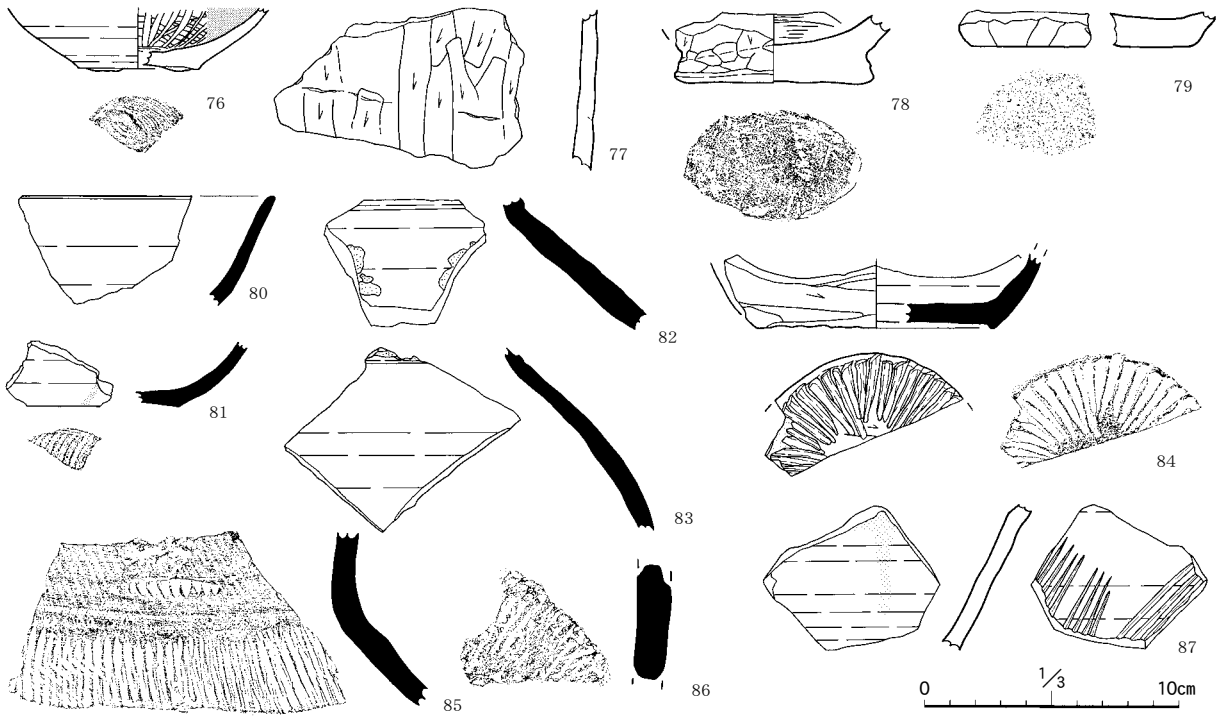


図 16　遺構外の出土遺物（４）

第３章　三内丸山（５）遺跡の土壌理化学分析及び脂肪酸分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

三内丸山（５）遺跡は、青森県青森市大字安田に所在し、沖館川南岸の標高約 30 ｍを測る中位段丘上に立地している。過去の発掘調査では、縄文時代中期～後期の住居跡、小竪穴遺構や土壙墓、平安時代の竪穴住居跡などが検出され、当該期に比定される土器や石器などが確認されている。今回は、近野遺跡Ａ区の隣接地で発掘調査が実施され、縄文時代後期前葉に相当する土器棺墓のほか、縄文時代の土坑・道跡などが検出されている。

分析調査は、当遺跡から検出された土坑や土器棺墓の用途や内容物に関する情報を得ることを目的として、これらの遺構から採取した土壌などを対象に土壌理化学分析および脂肪酸分析を実施する。なお、土壌理化学分析では、動物遺体や骨に多く含まれるリン酸とカルシウムの含量を測定する。さらに、植物体の影響を調べるために腐植含量の測定も実施する。

１．試料

試料は、第２・４号土坑（SK-2・4）、第１～３号土器棺墓（SR-1 ～ 3）、および基本層序から採取された土壌試料 35 点、第２・３号土器棺墓内に埋設された土器の底部片２点の計 37 点である。分析は、これら土壌試料などを対象に土壌理化学分析 23 点、脂肪酸分析 13 点を実施する。各遺構の概要を以下に記し、分析試料の詳細は結果とともに示す。

１）第２号土坑（SK-2）　第２号土坑は、隅丸長方形を呈す土坑で、堆積土は６層に分層されている。試料は、堆積土３層、４層、６層からそれぞれ採取された土壌３点である。これら試料について、土

壌理化学分析を実施し、堆積土４層ついては脂肪酸分析も実施する。

２）第３号土器棺墓（SR-3）　第３号土器棺墓は、土器棺と考えられる土器が埋設された円形を呈する土坑で、堆積土は４層に分層されている。試料は、堆積土４層、甕形土器内土壌および甕形土器直下の堆積土、さらに、遺構直下の地山から採取された土壌試料８点、さらに、土坑の底面から出土した甕形土器底部片１点である。土壌試料を対象に、土壌理化学分析５点、脂肪酸分析３点分析する。また、甕形土器底部片については、脂肪酸分析を実施する。

３）第４号土坑（SK-4）　第４号土坑は、楕円形を呈する土坑で、堆積土は５層に分層されている。試料は、土坑底部付近の堆積土４層から採取された土壌試料３点である。これら３点全点について土壌理化学分析を実施し、堆積土４層の中央部から採取した土壌については脂肪酸分析も実施する。

４）第１号土器棺墓（SR-1）　第１号土器棺墓は、土器棺と考えられる土器がほぼ横位に埋設された円形を呈する土坑で、堆積土は５層に分層されている。試料は、堆積土から採取された土壌試料 11 点、遺構直下の地山から採取された土壌１点である。これら土壌試料を対象に、土壌理化学分析５点、脂肪酸分析２点を実施する。

５）第２号土器棺墓（SR-2）　第２号土器棺墓は、土器棺と考えられる土器が逆位に埋設された円形を呈する土坑で、堆積土は３層に分層されている。堆積土１層の下部と堆積土２層からは土玉が出土している。試料は、堆積土から採取された土壌６点、遺構直下の地山から採取された土壌１点、さらに、埋設された土器１点である。これらの土壌試料を対象に土壌理化学分析５点、脂肪酸分析２点を実施する。また、埋設された大型壷形土器片について脂肪酸分析を実施する。

６）基本層序　三内丸山（５）遺跡で確認された基本層序は、現地表面から約 60 ～ 200cm 下までは盛土であり、その下部の包含層から各時代の遺物・遺構が確認される。基本層序の第Ⅱａ・Ⅱｂ層は平安時代の包含層であり、第Ⅲ層は縄文時代の包含層、いわゆる地山は第Ⅳ層とされている。試料は、第Ⅲ層および第Ⅳ層から採取された土壌２点である。これら土壌試料を対象に、土壌理化学分析２点、脂肪酸分析２点を実施する。

２．分析方法

（１）土壌理化学分析

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法、腐植はチューリン法でそれぞれ行った（土壌養分測定法委員会，1981）。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して 2.00mm の篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mm φのふるいを全通させる（微粉砕試料）。

風乾細土試料 2.00 ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約５ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P2O5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含

量（P2O5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

また、微粉砕試料 0.100 ～ 0.500 ｇを 100ml 三角フラスコに正確に秤りとり、0.4 Ｎクロム酸・硫酸混液 10ml を正確に加え、約 200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2％フェニルアントラニル酸液を指示薬に 0.2 Ｎ硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土％）を求める。これに 1.724 を乗じて腐植含量（％）を算出する。

（２）脂肪酸分析

分析は、坂井ほか（1996）に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。土壌試料は、約 100g 秤量する。土壌や土器が浸るに十分なクロロホルム：メタノール（２：１）を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸－メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップパックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。

脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム（ULBON，HR-SS-10，内径 0.25mm，長さ 30m）を装着したガスクロマトグラフィー（ＧＣ－ 14A，SHIMADZU）を使用する。注入口温度は 250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。

ステロールの分析は、キャピラリーカラム（Ｊ＆Ｗ　SCIENFIC，DB －１，内径 0.36mm、長さ 30m）を装着する。注入口温度は 320℃、カラム温度は 270℃恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

３．結果

（１）土壌理化学分析

結果を表１、図１に示す。遺構堆積土では、腐植含量が 0.79 ～ 5.65％（平均：3.17％）、リン酸含量が 0.50 ～ 1.38P2O5mg/g（平均：0.95P2O5mg/g）、カルシウム含量が 1.49 ～ 6.66CaOmg/（平均：4.37CaOmg/）である。各成分含量は、遺構間で多少異なる。ただし、同一遺構内における試料間の成分含量は有意差が認められない。対照試料である基本層序の成分含量は、第Ⅲ層と第Ⅳ層で異なる。第Ⅲ層では、腐植含量が 8.88％、リン酸含量が 1.50P2O5mg/g、カルシウム含量が 11.55CaOmg/ である。第Ⅳ層は、腐植含量が 2.70％、リン酸含量が 0.79P2O5mg/g、カルシウム含量が 11.55CaOmg/ である。各成分とも第Ⅲ層で高い。

（２）脂肪酸分析

結果を表２、図２に示す。脂肪酸組成をみると、いずれの試料も炭素数 18 以下の中級脂肪酸が多い。パルミチン酸（C16）とオレイン酸（C18:1）の割合が高く、ミリスチン酸（C14）、パルミトレイン酸（C16:1）、ステアリン酸（C18）等もみられる。炭素数が 20 以上の高級脂肪酸は少なく、アラキジン酸（C20）、エルカ酸（C22:1cis）などが微量に確認される程度である。

ステロールは、第１号土器棺墓の試料番号７を除き、１～２種類しか検出されてない。これらの試料では、コレステロールが非常に高い。SR-01 の試料番号７は、種類数が５種類と多い。他の試料と同様コレステロールの割合が高く、半数以上の割合を占める。

表１　土壌理化学分析結果

遺構名	試料名	層位等	日付	土性	土色	腐植含量(%)	P_2O_5 (mg/g)	CaO (mg/g)	備考
SK-2	1	堆積土３層	010521	LiC	10YR3/3 暗褐	2.14	0.80	4.01	
	2	堆積土４層	010521	LiC	10YR3/2 黒褐	3.29	1.04	5.84	
	3	堆積土６層	010521	LiC	10YR3/3 暗褐	2.54	1.03	4.27	
SR-3	1	土器内	010524	LiC	10YR3/2 黒褐	4.59	1.25	5.52	根混入
	2	土器内	010524	LiC	10YR2/2 黒褐	4.20	1.25	5.16	
	3	土器内２層	010524	CL	10YR3/2 黒褐	4.87	1.28	5.88	
	5	堆積土４層	010525	CL	10YR3/2 黒褐	4.42	1.11	4.70	
	堆積土4層	甕棺下	010525	LiC	10YR3/2 黒褐	4.50	1.01	5.75	
SK-4	1	堆積土４層	010521	LiC	10YR4/4 褐	1.38	0.56	1.70	
	2	堆積土４層	010521	LiC	10YR3/4 暗褐	1.25	0.50	3.81	
	3	堆積土４層	010521	LiC	10YR4/4 褐	1.20	0.63	4.43	
SR-1	3	堆積土１層	010529	LiC	10YR2/2 黒褐	5.65	1.14	2.83	
	5	堆積土３層	010529	LiC	10YR3/3 暗褐	3.58	0.99	1.61	
	6	堆積土３層	010529	LiC	10YR3/3 暗褐	2.72	0.90	2.41	
	7	堆積土３層	010529	LiC	10YR3/3 暗褐	3.46	1.02	1.88	
	10	堆積土４層	010529	LiC	10YR3/4 暗褐	2.01	0.71	1.49	
SR-2	1	堆積土３層	050530	LiC	10YR3/4 暗褐	3.63	0.93	6.36	
	2	堆積土１層	050530	LiC	10YR3/4 暗褐	3.60	0.89	6.66	
	3	堆積土１層	050530	LiC	10YR3/3 暗褐	3.23	0.93	6.48	
	4	堆積土２層	050530	LiC	10YR2/3 黒褐	3.56	1.38	6.65	
	7	底面・地山	050531	CL	10YR4/4 褐	0.79	0.59	4.29	
基本層序	Ⅲ層	Ⅲ層	010531	LiC	10YR2/1 黒	8.88	1.50	11.55	
	Ⅳ層	Ⅳ層	010531	LiC	10YR4/4 褐	2.70	0.79	2.13	

注１）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
注２）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
CL･･･埴壌土（粘土15～25%、シルト20～45%、砂3～65%）
LiC･･･軽埴土（粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%）

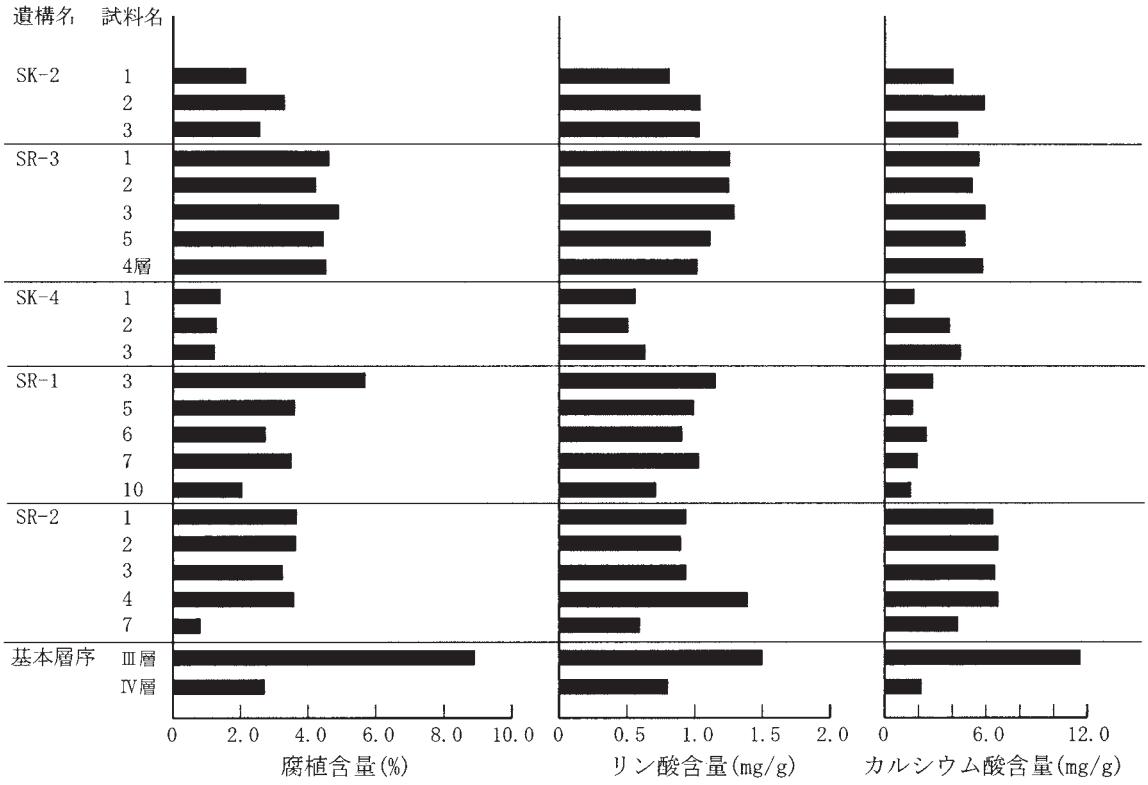


図１　土壌理化学組成

表２　脂肪酸分析結果

種類 / 試料番号	SK-2	SR-3				SK-4	SR-1		SR-2			基本層序	
	2	1	2	3	土器	2	5	7	3	4	土器	Ⅲ層	Ⅳ層
脂肪酸組成													
ミリスチン酸 (C14)	13.35	11.88	10.14	8.67	-	2.47	10.33	10.01	6.68	11.16	-	-	0.95
パルミチン酸 (C16)	32.68	30.29	36.98	37.63	25.88	11.64	25.41	31.58	26.76	32.66	27.55	26.49	26.63
パルミトレイン酸 (C16:1)	6.67	7.56	9.32	11.91	1.59	1.51	10.95	12.58	14.23	9.19	7.03	13.11	10.40
ステアリン酸 (C18)	5.95	4.98	6.65	9.77	5.82	4.54	7.90	11.85	8.50	6.90	6.87	4.85	6.56
オレイン酸 (C18:1)	39.92	36.07	33.05	27.56	60.87	79.85	41.77	27.14	36.19	34.57	52.07	40.12	46.61
リノール酸 (C18:2)	-	5.84	2.11	2.58	5.84	-	3.64	3.30	2.50	3.42	4.28	4.72	3.76
γリノレン酸 (C18:3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
αリノレン酸 (C18:3)	-	1.71	-	-	-	-	-	0.61	0.65	0.66	-	1.66	0.94
アラキジン酸 (C20)	1.44	1.68	1.73	-	-	-	-	-	-	-	2.20	-	-
イコセン酸 (C20:1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アラキドン酸 (C20:4)	-	-	-	-	-	-	-	-	1.52	-	-	0.51	-
ベヘン酸 (C22)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ドコセン酸 (C22:1trans)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エルカ酸 (C22:1cis)	-	-	-	0.39	-	-	-	1.13	0.65	0.42	-	-	1.03
イコサペンタエン酸(C20:5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リグノセリン酸 (C24)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.43	3.12
テトラコセン酸 (C24:1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ドコサヘキサエン酸(C22:6)	-	-	-	1.49	-	-	-	1.80	2.31	1.03	-	1.11	-
ステロール組成													
コプロスタノール	-	-	-	-	16.85	-	-	7.55	-	-	-	-	-
コレステロール	100.00	100.00	100.00	75.16	65.70	-	100.00	56.16	100.00	50.08	100.00	100.00	100.00
エルゴステロール	-	-	-	-	-	-	-	7.65	-	-	-	-	-
カンペステロール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スティグマステロール	-	-	-	24.84	17.45	-	-	5.61	-	-	-	-	-
シトステロール	-	-	-	-	-	-	-	23.04	-	49.92	-	-	-

＊　"-"は未検出を示す。

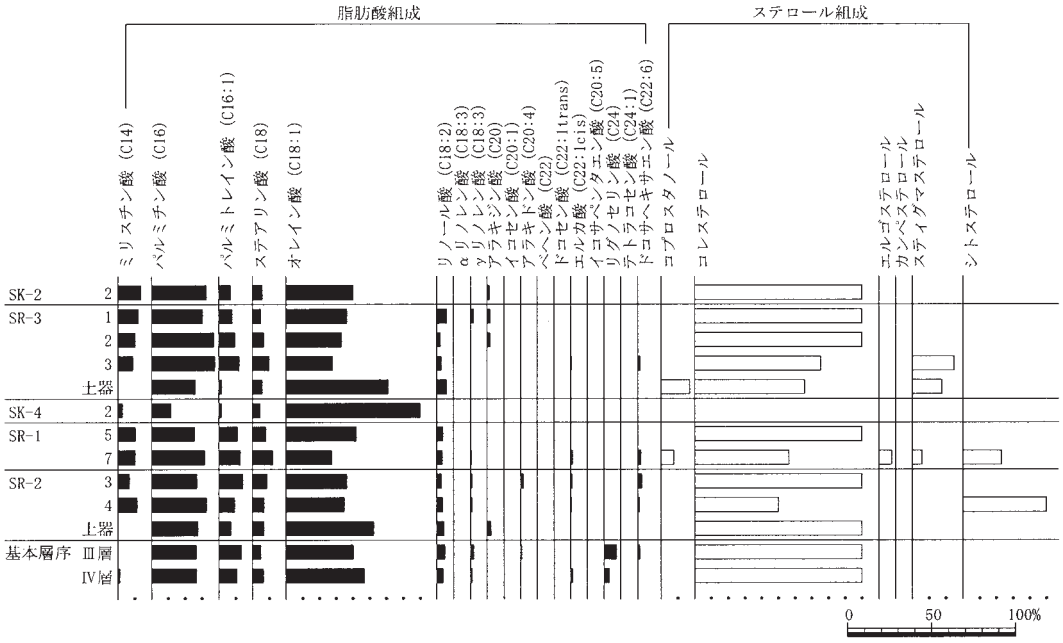


図２　脂肪酸・ステロール組成

４．考察

第２・４号土坑、第１～３号土器棺墓から採取した土壌の理化学成分は、各成分とも遺構間により多少差があるが、同一遺構内で採取された試料を比較するとばらつきはほとんど認めることはできない。これら試料の測定値は、対照試料である基本層序で縄文時代の包含層（第Ⅲ層）から採取した土壌の測定値よりも低い値である。ところで、リン酸が土壌中に普通に含まれる量、すなわち天然賦存量は、Bowen (1983)、Bolt & Bruggenwert (1980)、川崎ほか (1991)、天野ほか (1991) などの調査事例がある。これらの結果から推定される天然賦存量の上限値は、約 3.0P2O5mg/g 程度と考えられる。基本層序および土坑堆積土のリン酸含量は、天然賦存量の上限値よりいずれも低い値を示す。

また、カルシウムについてみると、その含量は、1.49 ～ 11.55CaOmg/g の変化がみられる。ただし、土壌中におけるカルシウムの天然賦存量は 1 ～ 50CaOmg/g とされていることから（藤貫，1979)、カルシウム含量の測定値も天然賦存量の範囲内にあると言える。リン酸とカルシウムの相関を調べてみると相関係数は 0.58 であり、強い相関関係を示さない。そのため、今回のカルシウム含量から遺体埋納について検討することは難しい。これに対し、腐植含量とリン酸の相関係数は 0.86 であり、強い正の相関関係を示す。すなわち、土坑堆積土と土器内土壌のリン酸は、少なからず土壌腐植の影響を受けていることが考えられる。そこで、最小二乗法により求めた回帰直線から正の方向へ逸脱する試料について調査を行った（図 3)。その結果、第 2 号土器棺墓の堆積土 2 層が正の方向へ逸脱することが認められた。これは、土壌腐植以外の要因でリン酸が富化されている可能性があることを示す。

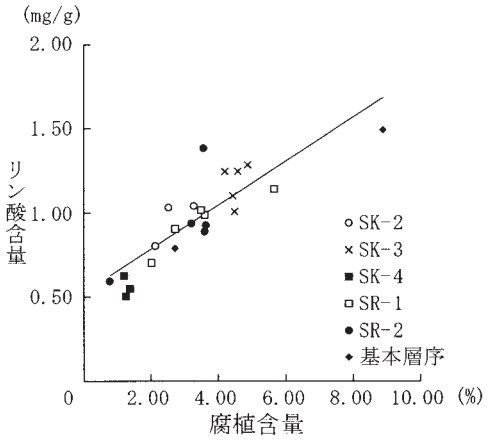


図 3　腐植とリン酸の相関

脂肪酸組成では、ミリスチン酸（C14)、パルミチン酸（C16)、パルミトレイン酸（C16:1)、ステアリン酸（C18)、オレイン酸（C18:1）などが多く検出されている。これらの脂肪酸は動物油、植物油ともに多く含まれる成分とされることから（島薗，1988)、これだけで種類の判別が難しい。また、中級脂肪酸の割合が高いのは、坂井・小林（1995）が指摘しているように、経年変化による分解に強いため、これら脂肪酸の割合が相対的に高くなっていると考えられる。脂肪酸分析においては、アラキジン酸（C20)、ベヘン酸（C22)、リグノセリン酸（C24）などの脂肪酸は、動物の脳や神経に多く含まれる脂肪酸とされ（中野 ,1993)、これが検出されることにより動物の関与が推定できるとされている (中野 ,1995)。また､イコサペンタエン酸 (EPA) やドコサヘキサエン酸 (DHA) は魚介類に多く (菅原ほか ,1987)、哺乳類の脳などにも含まれている（小林，1997)。今回の結果をみると、アラキジン酸（C20)、ベヘン酸（C22)、リグノセリン酸（C24）などの高級脂肪酸が非常に少なく、これらの一部が微量に検出されている程度である。この傾向は、遺構内、土器内土壌のほか、対照試料とした基本層序でも同様であることから、本遺跡に認められる土壌が共通して持つ特徴と考えられる。

ステロール組成は、検出されるステロールの種類数が少なく、その中でもコレステロールの割合が高い。今回のようにステロールの種類が少ない場合、抽出された量が微量なため感度が鈍く、偶発的に検出されたステロール組成を示している可能性がある。したがって、今回の分析結果は、コレステロールが相対的に高くなっている可能性があり、統計的な信頼性が低いと考えられる。

ところで、第 1 ～ 3 号土器棺墓のように縄文時代後期の遺体（遺骸）を収納し埋設されたと考えられる土器埋設遺構は、青森県内では 40 箇所以上確認されている。薬師前遺跡（青森県三戸郡倉石村）や堀合Ⅰ号遺跡（青森県南津軽郡平賀町）などの 10 遺跡からは、埋設された土器内から人骨などが出土しているが、このような例は極めて少ないとされている（葛西，1996)。本遺跡の南方に位置する小牧野遺跡（青森県青森市野沢）では、縄文時代後期に比定される環状列石をはじめ竪穴住居や土坑、土器埋設遺構などが検出されている。当遺跡では、土器埋設遺構や土坑から採取した土壌を対象にリン酸含量や残留脂質成分の分析調査が実施されており、その結果によると遺構外よりも遺構内

でリン酸含量が高く、また遺構内のリン酸含量の偏在性や残留脂肪酸の組成などから土坑墓の可能性などが示唆されている（小山，1996）。こうした人為的な埋納が行われると、土壌中の脂肪酸などは場所によって組成にばらつきが生じることがある。また、リン酸成分などの理化学成分も、人為的な埋納が行われた場合、その組成にばらつきが生じる事が確認されている（中根，1992：中根・馬場，1995：パリノ・サーヴェイ株式会社，1999 など）。今回の分析結果では、第２号土器棺墓を除く土坑では、小牧野遺跡の土坑や土器埋設遺構における調査結果（小山，1996）と異なり、土壌の理化学成分や脂肪酸組成に特異的な偏在は認められない。そのため、現状では遺体埋納の可能性については示唆できない。また、第２号土坑は、土壌腐植以外の要因と考えられるリン酸が富化されている可能性があるが、高級脂肪酸が全く検出されず、遺体埋納の可能性については断定できない。

今後、当地域における遺体埋納が想定される土坑や土器埋設遺構について、考古学的な所見を含めたこれまでの分析結果の検証やさらに多くの分析調査を実施し、改めて検証する必要がある。なお、発掘調査では、これらの遺構から人骨などの出土例が少ないことが指摘されていることから、土壌の理化学組成による遺体の痕跡の分析調査だけでなく、土壌中の微細遺物を対象とした分析なども含めて検証したいと考えている。

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.28-36.

Bowen,H.J.M.（1983）「環境無機化学 －元素の循環と生化学－」．浅見輝男・茅野充男訳，297p.，博友社［Bowen,H.J.M.（1979）Environmental Cemistry of Elements］.

Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.（1980）「土壌の化学」．岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳，　309p.，学会出版センター　［Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M.（1976）SOIL CHEMISTRY］，p.235-236.

土壌養分測定法委員会編（1981）「土壌養分分析法」．440p.，養賢堂.

藤貫　正（1979）カルシウム．地質調査所化学分析法，52，p.57-61，地質調査所.

葛西　勵（1996）再葬土器棺の特殊な埋納形態に関する一考察．青森市埋蔵文化財調査報告書第 30 集「小牧野遺跡発掘調査報告書」，　p.267-272，小牧野遺跡発掘調査会・青森市教育委員会.

川崎　弘・吉田　澪・井上恒久（1991）九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.23-27.

小林哲幸（1997）脂肪酸と脳の働き．「脂質栄養学シリーズ１　脳の働きと脂質」，日本脂質栄養学会監修／沖山治美・安藤　進編．p 7-26.

小山陽造（1996）青森市小牧の遺跡環状列石遺構の科学的調査．青森市埋蔵文化財調査報告書第 30 集「小牧野遺跡発掘調査報告書」，　p.212-222，小牧野遺跡発掘調査会・青森市教育委員会.

中根秀二（1992）１号方形周溝墓の自然科学的分析．「田園調布南２　都立田園調布高校内埋蔵文化財発掘調査報告書」，p.133-149，　都立学校遺跡調査会.

中根秀二・馬場健司（1995）周溝内における埋葬位置について．北区埋蔵文化財調査報告第 16 集「豊島馬場遺跡（本文編）」，p.314-325，　東京都北区教育委員会生涯学習推進課.

中野益男（1993）脂肪酸分析法．「第四紀試料研究法２　研究対象別分析法」，p.388-403，東京大学出版会.

中野益男（1995）脂肪酸分析の現状と課題．考古学ジャーナル ,386，p.2-8

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖.

パリノ･サーヴェイ株式会社（1999）豊島馬場遺跡の自然科学分析．北区埋蔵文化財調査報告第 25 集「豊島馬場遺跡Ⅱ」，p.312-331，　東京都北区教育委員会生涯学習推進課.

ペドロジスト懇談会編（1984）「土壌調査ハンドブック」．156p.，博友社.

坂井良輔・小林正史・藤田邦雄（1996）灯明皿の脂質分析．富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第７集「梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）　第二分冊」，p.24-37，財団法人　富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所.

坂井良輔・小林正史（1995）脂肪酸分析の方法と問題点．考古学ジャーナル ,386，p.9-16

菅原龍幸・加藤隆夫・高宮和彦・三浦　洋・田所忠弘・國崎直道（1987）食品学各論．270p.，建帛社.

島薗順雄（1988）標準栄養化学・生化学．205p.，医歯薬出版株式会社.

第４章　まとめ

調査の結果、中位段丘へ至る斜面北側から縄文時代後期前葉（十腰内Ⅰ式期）の土器棺墓３基、同時期とみられる土坑４基が比較的まとまって検出された。この他、縄文時代とみられる土坑３基、縄文時代中期とみられる道跡１条、平安時代とみられる溝跡１条・道跡１条が検出された。主な出土遺物は土器棺墓内から土器棺３点・土器棺の蓋として用いられた深鉢形土器１点・副葬品の土玉６点、遺構外から出土した続縄文土器（後北Ｃ２－Ｄ式）片１点である。遺構・遺物の密度は散発的で、以前に調査が行われた、中位段丘の平頂部を挟んだ西側の三内丸山(5)遺跡Ｂ区と類似した状況といえるが、過去の調査で検出された中期末葉～後期初頭の遺構・遺物は今回は皆無である。

十腰内Ⅰ式期の遺構・遺物が出土する周辺の遺跡は多くなく、隣接する近野遺跡・三内丸山遺跡、約１km 南の三内丸山(6)遺跡が挙げられ、近野遺跡からは土坑及び土壙墓群、包含層、平成 15 年度の調査区内から土器棺墓と土坑（未報告）、三内丸山遺跡から泥炭層、三内丸山(6)遺跡から住居跡・土坑・土壙墓・捨て場が検出されているのみである。いずれも沖館川へ合流する谷及びその小支谷沿いに位置するが、集落跡が検出されたのは三内丸山(6)遺跡のみである。本遺跡は集落から離れた小墓地の様相を呈し、遺物の類似性から近野遺跡の墓域を形成した人々との関わりが濃厚である。

検出した３基の土器棺は第２・３号土器棺のモチーフから十腰内Ⅰ式の新段階のものと考えられる。第１号土器棺墓の掘り方は浅く、他の２基の土器棺墓の掘り方は箱形にやや深く掘り込まれ、第１・２号土器棺は倒立して、第３号土器棺は斜位に埋設され、口縁部のない深鉢形土器を入れ子状に重ねて蓋としている。これらの土器棺は、葛西勵氏の「人骨を納めた再葬用の蔵骨器」との説が有力であり、実際平賀町堀合Ⅰ号遺跡、青森市山野峠遺跡、六ヶ所村弥栄平(1)遺跡、倉石村薬師前遺跡等県内各地の遺跡例から人骨が、青森市小牧野遺跡・倉石村館町Ⅱ遺跡などからは土壌分析の結果として人骨の存在を示唆するデータが得られている。本遺跡からは人骨または骨粉らしきものは残存しなかったが、副葬品の土玉の出土から、埋葬に関わる遺構であることは間違いないと思われる。第２・５号土坑が人為堆積後に一度掘り返されたような堆積状況を示すことから、周囲の土坑が一次埋葬用、土器棺墓が再葬用と想定し、３基の土器棺墓及び土坑２基について脂肪酸分析及び土壌理化学分析をおこなった。その結果基本層序の土壌に対して特異的な偏在はみられず、唯一第２号土坑堆積土のサンプルから土壌腐植以外の要因と考えられるリン酸の富化が認められたものの、残留する高級脂肪酸の検出が皆無であることから、遺体埋納の可能性を示唆するにはいたらなかった。

土器棺自体の観察からは、第３号土器棺の頸部内径が 10 ㎝と成人の頭蓋骨を収納するには狭いといえる。第１号土器棺・第２号土器棺は底部を切断して人骨を収納した可能性があるが、第３号土器棺は完形品として復元され、焼成前後に肩部の輪積み痕で切断したと考えるのが不自然な接合状況であることから、人骨の一部のみを埋納した可能性、３基すべてには埋納しなかった可能性、儀式的な行事となり、人骨が埋納されなくなった可能性などが考えられる。土器棺から副葬品が出土する例は非常に少なく、倉石村薬師前遺跡・岩手県大向上平遺跡（後期初頭）例が挙げられるが、いずれも「原則的に副葬品を入れない」土器棺の中の特別な例という印象を受ける。それに対し、本遺跡の第２号土器棺墓出土の土玉は粗雑なつくりであること、土器棺に描かれた２本組み沈線のモチーフが粗雑で

あることから、同種の意味をもつものではないように思われる。埋葬に関わる特殊な施設としての土器棺墓の用いられ方とともに、今後の調査例に注目していきたい。　（水谷）

〈引用参考文献〉

葛西　勵　2002『再葬土器棺墓の研究　縄文時代の洗骨葬』

鈴木　克彦　2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣

秋田県教育委員会　1993『一般国道７号八竜能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』（萱刈沢Ⅰ・Ⅱ遺跡）

財団法人北海道埋蔵文化財センター　1986『木古内町　建川１・新道４遺跡－津軽海峡線（北海道方）建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書（３）－』

青森市教育委員会　2001『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』青森市埋蔵文化財調査報告書　第 56 集

青森市教育委員会　1996『小牧野遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書　第 30 集

青森市教育委員会　1997『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書　第 35 集

青森県教育委員会　1999『三内丸山（1）遺跡Ⅰ』青森県埋蔵文化財調査報告書　第 257 集

青森県教育委員会　2000『三内丸山（1）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書　第 279 集

青森県教育委員会　2001『三内丸山（1）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書　第 307 集

青森県教育委員会　2002『三内丸山（1）遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書　第 327 集

（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2000『大向上平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書　第 325 集

土器観察表

図	番号	種類	出土地点	出土層位	器種	部位	施文文様・調整	時期	備考
8	1	縄文土器	第1号土器棺墓	底面	大型壷	略完形	無文、隆帯、把手(4箇所)	十腰内I	黒斑
8	2	縄文土器	15トレンチ	－	大型壷	底部	底部ケズリ、内面ユビアト	十腰内I	図8-1と同一個体、99試掘調査出土、底径16.8㎝、底部意図的に切断した可能性あり
9	7	縄文土器	第2号土器棺墓	底面	大型壷	略完形	把手(5箇所)・隆帯に連続刺突、2本組沈線文(波頭・S字状)	十腰内I	黒斑
10	1	縄文土器	第3号土器棺墓	4層	深鉢	口縁部	波頂部、無文	十腰内I	図10-2と同一個体
10	2	縄文土器	第3号土器棺墓	4層	深鉢	口縁部	無文	十腰内I	図10-1と同一個体
10	3	縄文土器	第3号土器棺墓	土器棺蓋	深鉢	胴～底部	沈線文(平行・縦走・蟹のハサミ状)、刺突、ミガキ	十腰内I	土器棺の蓋として転用、口縁部切断
10	4	縄文土器	第3号土器棺墓	底面	大型壷	完形	隆帯、把手(5箇所)、沈線文(入組渦巻・円弧)	十腰内I	黒斑
11	1	縄文土器	第2号道跡	Ⅲ層	深鉢	口縁部	突起、隆帯、LR押圧	円筒上層a～b	AS-215
11	2	縄文土器	第2号道跡	Ⅲ層	深鉢	胴部	RR(ヨコ)	中期	AS-215
11	3	縄文土器	第2号道跡	Ⅲ層	深鉢	胴部	RL(ヨコ)	中期	AS-215
13	1	縄文土器	AQ-207	Ⅳ層	深鉢	口縁部	LR押圧、結束第1種(LR・RL)	円筒下層a～b	繊維混入
13	2	縄文土器	AT-211	Ⅳ層	深鉢	口縁部	R押圧	円筒下層c～d	
13	3	縄文土器	AQ-207	Ⅳ層	深鉢	口縁部	LR押圧、結束第1種(LR・RL)	円筒下層a～b	図13-1と同一個体
13	4	縄文土器	18トレンチ	Ⅲ層	深鉢	口縁部	単軸絡条体5類	円筒下層b	
13	5	縄文土器	BB-217	Ⅳ層	深鉢	口縁部	RL(ヨコ)、RL押圧、結束第1種(LR・RL)	円筒下層d	BA-217・Ⅳ層と接合
13	6	縄文土器	AQ-205	Ⅳ層	深鉢	口縁部	LR押圧、口唇LR(ヨコ)	円筒下層d	
13	7	縄文土器	18トレンチ	Ⅲ層	深鉢	胴部	隆帯、単軸絡条体1類(L)	円筒下層b	99試掘調査出土
13	8	縄文土器	AT-215	Ⅳ層	深鉢	胴部	単軸絡条体1類(LR?)	円筒下層	
13	9	縄文土器	AQ-207	Ⅳ層	深鉢	胴部	単軸絡条体1類(L?)	円筒下層	
13	10	縄文土器	AQ-206	Ⅳ層	深鉢	胴部	単軸絡条体1類(LR)	円筒下層b?	
13	11	縄文土器	AK-205	Ⅳ層	深鉢	胴部	単軸絡条体1類(R)	円筒下層	
13	12	縄文土器	AR-211	Ⅳ層	深鉢	底部	単軸絡条体1類(LR)	円筒下層	
13	13	縄文土器	AQ-208	Ⅳ層	深鉢	口縁部	LR押圧	円筒上層a	
13	14	縄文土器	AQ-208	Ⅳ層	深鉢	口縁部	隆帯、LR押圧、R絡条体圧痕	円筒上層a	胎土良好
13	15	縄文土器	AQ-211	Ⅳ層	深鉢	口縁部	山形口縁、隆帯、LR押圧	円筒上層a	繊維混入
13	16	縄文土器	BB-217	Ⅳ層	深鉢	口縁部	R絡条体圧痕、C字状原体押圧	円筒上層a	繊維混入
13	17	縄文土器	AS-214	Ⅳ層	深鉢	口縁部	二叉状突起、L押圧、RL(タテ)	円筒上層a～b	口唇部剥落
13	18	縄文土器	AL-204	Ⅳ層	鉢	口縁部	L押圧、L(斜)	円筒上層d～e	
13	19	縄文土器	AS-211	Ⅳ層	深鉢	口縁部	突起、環状・鋸歯状隆帯、C字状刺突、内面に盲孔	円筒上層c	
13	20	縄文土器	AS-212	Ⅳ層	深鉢	口縁部	突起、隆帯、L押圧、C字状刺突	円筒上層c	
13	21	縄文土器	AK-208	Ⅳ層	深鉢	口縁部	突起、隆帯、RL押圧、内面に隆帯・RL押圧・盲孔	円筒上層c～d	
13	22	縄文土器	AR-209	Ⅳ層	深鉢	口縁部	隆帯、LR押圧、結束第1種(LR・RL)→隆帯	円筒上層d	図13-23と同一個体
13	23	縄文土器	AJ-207	Ⅳ層	深鉢	胴部	RL結節→隆帯	円筒上層d	図13-22と同一個体
13	24	縄文土器	AQ-208	Ⅳ層	深鉢	口縁部	突起、隆帯、R押圧、R(ヨコ)→沈線、内面に隆帯	円筒上層c～d	
13	25	縄文土器	AQ-211	Ⅳ層	深鉢	口縁部	山形口縁、隆帯、RL(0段多条)押圧、RL(0段多条・ヨコ)	円筒上層e	胎土良好
13	26	縄文土器	AL-205	Ⅳ層	深鉢	口縁部	LR押圧、R(ヨコ)	円筒上層e	
13	27	縄文土器	AR-213	Ⅳ層	深鉢	口縁部	口唇部斜沈線、口縁部沈線	円筒上層e	
13	28	縄文土器	BD-216	Ⅳ層	深鉢	胴部	LR(ヨコ)→沈線	円筒上層e	
13	29	縄文土器	AR-213	Ⅳ層	深鉢	胴部	RL(ヨコ)→沈線	円筒上層e	
13	30	縄文土器	AR-209	Ⅳ層	深鉢	口縁部	突起、隆帯、R(ヨコ)、RL(ヨコ)	円筒上層e	AQ-209・Ⅳ層と接合、口径(15.0)㎝
13	31	縄文土器	AJ-208	Ⅳ層	深鉢	口縁部	波状口縁、折返口縁、RL(ヨコ)→沈線	円筒上層e	
13	32	縄文土器	AS-214	Ⅳ層	深鉢	口縁部	平縁、折返口縁、RL(ヨコ)→沈線	最花	
13	33	縄文土器	AL-205	Ⅳ層	深鉢	口縁部	平縁、折返口縁、口縁部無文	最花	
13	34	縄文土器	AQ-207	Ⅳ層	深鉢	口縁部	平縁、折返口縁、口縁部無文、R(縦走)	最花	胎土良好
13	35	縄文土器	AQ-209	Ⅳ層	深鉢	口縁部	山形突起、折返口縁、LR(ヨコ)→沈線	円筒上層e	
13	36	縄文土器	AQ-211	Ⅳ層	深鉢	胴部	RL・RR合撚(ヨコ)→沈線	中期後葉	胎土良好

図	番号	種類	出土地点	出土層位	器種	部位	施文文様・調整	時期	備考
13	37	縄文土器	AT-211	Ⅲ層	深鉢	胴部	RL(ヨコ)→沈線	中期後葉	胎土良好
13	38	縄文土器	AM-211	Ⅳ層	深鉢	胴部	RL(タテ)→沈線→竹管状工具押引	榎林	
14	39	縄文土器	AJ-208	Ⅳ層	深鉢	口縁部	突起、口縁部肥厚、沈線、RL(タテ)→隆帯→沈線	榎林	
14	40	縄文土器	AQ-211	Ⅳ層	深鉢	胴部	RL(ヨコ)→沈線→磨消	中期	胎土良好
14	41	縄文土器	AS-210	Ⅳ層	深鉢	胴部	RLR(ヨコ)	円筒上層	繊維少量混入
14	42	縄文土器	AQ-209	Ⅳ層	深鉢	胴部	RL・RR合撚(タテ)	円筒上層	
14	43	縄文土器	AL-205	Ⅳ層	深鉢	胴部	結節回転、L(ヨコ)	中期	
14	44	縄文土器	AJ-208	Ⅳ層	深鉢	胴部	結束第1種(LR・RL)、内面ミガキ	中期	
14	45	縄文土器	AS-211	Ⅳ層	深鉢	胴部	R結節回転、RLR(ヨコ)	円筒上層	
14	46	縄文土器	AL-206	Ⅳ層	深鉢	胴部	RL・RR合撚(ヨコ)	円筒上層	
14	47	縄文土器	AT-211	Ⅲ層	深鉢	底部	LR?(ヨコ)	中期	
14	48	縄文土器	AL-209	Ⅳ層	深鉢	底部	RL(0段多条?・ヨコ)、底部多軸絡状体?	円筒上層	磨耗、底径9.4cm
14	49	縄文土器	AR-209	Ⅳ層	深鉢	口縁部	平縁、沈線文(平行・方形区画文)	十腰内I	口径(28.6)cm
14	50	縄文土器	AL-204	Ⅳ層	浅鉢	底部	平行沈線、沈線文	十腰内I	底径(10.2)cm
14	51	縄文土器	AQ-210	Ⅳ層	深鉢	口縁部	波状口縁、貫通孔	十腰内I?	
14	52	縄文土器	AL-205	Ⅳ層	壷?	口縁部	突起、把手、無文	十腰内I	
14	53	縄文土器	18トレンチ	Ⅲ層	鉢	口縁部	平行沈線・楕円形区画文→磨消	十腰内I	99試掘調査出土
14	54	縄文土器	AQ-209	Ⅳ層	深鉢	口縁部	沈線、ミガキ	十腰内I	
14	55	縄文土器	AL-208	Ⅳ層	?	胴部	隆沈線、磨消	十腰内I	
14	56	縄文土器	AR-209	Ⅳ層	鉢？	胴部	隆沈線、磨消	十腰内I	
14	57	縄文土器	AQ-207	Ⅳ層	深鉢	胴部	鋸歯状沈線	十腰内I	
14	59	縄文土器	AS-212	Ⅳ層	深鉢	口縁部	LR(タテ)	後期～晩期	
14	60	縄文土器	26トレンチ	Ⅲ層	深鉢	口縁部	RL(タテ)	十腰内I	口唇部剥落、99試掘調査出土
14	61	縄文土器	AS-211	Ⅳ層	深鉢	口縁部	結束第1種(LR・RL)	円筒上層	口径(13.2)cm
14	62	縄文土器	AR-208	Ⅳ層	深鉢	口縁部	平縁、無文	後期	口径(25.0)cm
14	63	縄文土器	AP-207	Ⅳ層	壷	胴部	無文	後期	
14	64	縄文土器	AK-209	Ⅳ層	深鉢	口縁部	口唇部LR(ヨコ)	後期	
14	65	縄文土器	AS-215	Ⅳ層	深鉢	胴部	LR(タテ)	後期～晩期	
14	66	縄文土器	26トレンチ	Ⅲ層	深鉢	胴部	単軸絡条体5類(R)	後期	99試掘調査出土
14	67	縄文土器	AK-208	Ⅳ層	深鉢	口縁部	波状口縁、単軸絡条体1類(R)	後期	AL-208・Ⅳ層と接合
14	68	縄文土器	AL-204	Ⅳ層	鉢	口縁部	小波状口縁、列点文、平行沈線、LR(縦走)	大洞C1	内面に炭化物付着、図10-69と同一個体
14	69	縄文土器	AL-204	Ⅳ層	鉢	胴部	LR(縦走)	大洞C1	内面に炭化物付着、図10-68と同一個体
14	70	縄文土器	AI-207	Ⅳ層	深鉢	底部	RL(ヨコ)	晩期	底径6.8cm
14	71	縄文土器	AR-212	Ⅳ層	台付鉢	台部	LR(ヨコ)	晩期	底径(8.4)cm
14	72	縄文土器	AJ-207	Ⅳ層	高坏	台部	A状小突起、工字文	大洞A	口径(9.2)cm
14	73	縄文土器	AR-208	Ⅳ層	高坏	台部	平行沈線	晩期	口径(16.6)cm
14	74	縄文土器	AJ-207	Ⅳ層	鉢？	胴部	隆沈線	大洞A?	
14	75	続縄文土器	表採	－	深鉢	口縁部	微隆起線文、列点文、内面ナデ	後北C2-D	
16	76	土師器	表採	－	坏	底部	外面ロクロ、内面ミガキ・黒色処理、底部回転糸切	平安時代	底径(4.8)cm
16	77	土師器	表採	－	甕	胴部	外面ケズリ	平安時代	
16	78	土師器	表採	－	甕	底部	外面ケズリ、内面ナデ、底部簾状圧痕	平安時代	底径(7.8)cm
16	79	土師器	表採	－	甕	底部	外面ケズリ、内面ユビナデ、底部砂底	平安時代	底径(6.2)cm
16	80	須恵器	表採	－	坏	口縁部	内外面ロクロ	平安時代	口径(14.8)cm
16	81	須恵器	表採	－	坏	底部	内外面ロクロ、底部回転糸切	平安時代	外面に火ダスキ痕、底径(5.4)cm
16	82	須恵器	表採	－	長頸壷	胴部	内外面ロクロ、頸基部突帯	平安時代	内面火ハジケ
16	83	須恵器	表採	－	長頸壷	胴部	内外面ロクロ、頸基部突帯	平安時代	
16	84	須恵器	表採	－	長頸壷	底部	外面ケズリ、底部菊花文	平安時代	
16	85	須恵器	AR-211	Ⅲ層	大甕	頸部	外面平行叩	平安時代	
16	86	須恵器	表採	－	大甕	胴部	外面平行叩	平安時代	割れ口に多数の小剥離
16	87	陶器	AQ-206	Ⅱ層	擂鉢	胴部	外面に鉄釉	17c中～後	肥前Ⅱ～Ⅲ期

石器計測表

図	番号	出土地点	出土層位	器種	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重さ(g)	石材	備考
7	1	SK-05	検出面	２次加工ある剥片	77.0	45.5	33.0	114.1	珪質頁岩	
15	88	AJ-208	Ⅳ層	石鏃	(17.0)	14.5	3.5	0.6	珪質頁岩	
15	89	表採	－	石鏃	(15.0)	(13.5)	3.0	0.4	珪質頁岩	欠損
15	90	AK-207	Ⅳ層	石鏃	33.0	14.0	4.0	1.7	珪質頁岩	
15	91	AP-207	Ⅳ層	石鏃	(29.0)	13.0	6.0	1.5	玉髄	基部欠損
15	92	AK-205	間層	石鏃	(38.0)	14.5	5.0	2.0	珪質頁岩	
15	93	AL-204	Ⅳ層	石鏃	(35.0)	15.0	6.0	2.1	珪質頁岩	基部欠損
15	94	AS-212	Ⅳ層	石鏃	46.0	11.5	5.5	1.7	珪質頁岩	
15	95	BC-216	Ⅳ層	スクレイパー類	77.0	69.0	15.0	41.7	珪質頁岩	
15	96	AT-215	Ⅳ層	２次加工ある剥片	55.0	39.5	20.0	41.9	珪質頁岩	
15	97	AQ-207	Ⅳ層	石核	51.0	36.5	38.0	65.0	珪質頁岩	
15	98	AS-211	Ⅳ層	敲石	132.0	95.0	55.0	984.3	安山岩	
15	99	AR-212	Ⅳ層	敲石	111.0	75.0	63.0	464.9	石英安山岩	
15	100	AR-213	Ⅳ層	凹み石	122.0	99.0	68.0	944.0	安山岩	
15	101	表採	－	磨石	112.0	72.0	61.0	660.8	流紋岩	

土製品計測表

図	番号	出土地点	出土層位	種類	重さ(g)	備考
9	1	第２号土器棺墓	土器棺内	土玉	1.7	13.5×11.5×厚さ12.0(㎜)
9	2	第２号土器棺墓	土器棺内	土玉	1.5	12.5×12.0×厚さ11.0(㎜)
9	3	第２号土器棺墓	土器棺内	土玉	1.5	13×12.5×厚さ11.5(㎜)、
9	4	第２号土器棺墓	土器棺内	土玉	1.3	13.0×10.0×厚さ9.0(㎜)
9	5	第２号土器棺墓	土器棺内	土玉	2.0	13.0×12.0×厚さ15.0(㎜)
9	6	第２号土器棺墓	土器棺内	土玉	2.0	13.5×13.0×厚さ12.0(㎜)、欠損
11	4	第２号道跡	Ⅲ層	板状土偶	43.9	Lを結節部で二つ折りして押圧、ヘソ部分粘土剥落
14	58	AP-212	Ⅳ層	ミニチュア	13.0	沈線文(円形文・平行沈線)

調査区から三内丸山遺跡・陸奥湾方向をのぞむ（SW →）

調査区東側（SE →）

調査区中央（SE →）

調査区全景（NW →）

写真１　調査区全景

第 16 号トレンチ完掘（S →）

第 18 号トレンチ完掘（N →）

第 17 号トレンチ完掘（W →）

第 23 号トレンチ完掘（NW →）

第 24 号トレンチ南壁土層（NW →）

同左トレンチ完掘（NW →）

第 25 号トレンチ完掘（NE →）

第 26 号トレンチ完掘（NE →）

写真 2　試掘調査（平成 11 年）トレンチ

第 15 号トレンチ北壁土層（S →）

同上トレンチ完掘（E →）

本調査開始前風景・西側（S →）

同上トレンチ土器棺墓（SR-3）検出状況（E →）

本調査開始風景・東側（SE →）

写真 3　試掘調査（平成 11 年）トレンチ（2）、本調査開始前風景

第 1 号土坑土層（NW →）

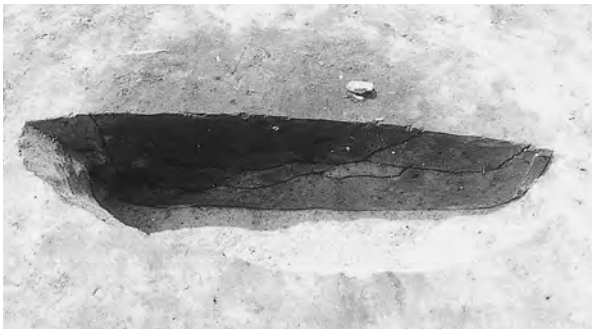
同左完掘（NW →）

第 2 号土坑土層（SE →）

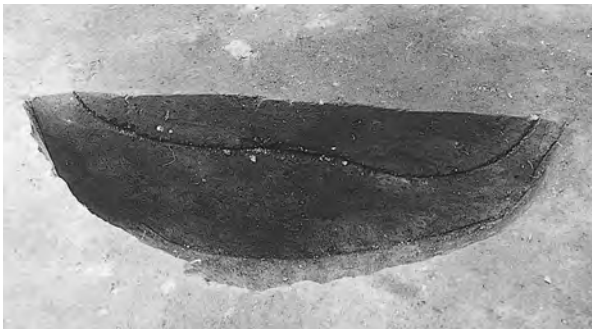
同左完掘（SE →）

第 4 号土坑土層（N →）

同左完掘（N →）


第 5 号土坑土層（E →）

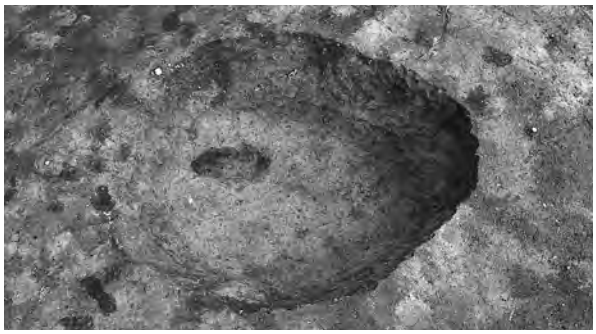
同左完掘（E →）


第 7 号土坑土層（E →）

同左完掘（N →）

写真４　第１・２・４・５・７号土坑

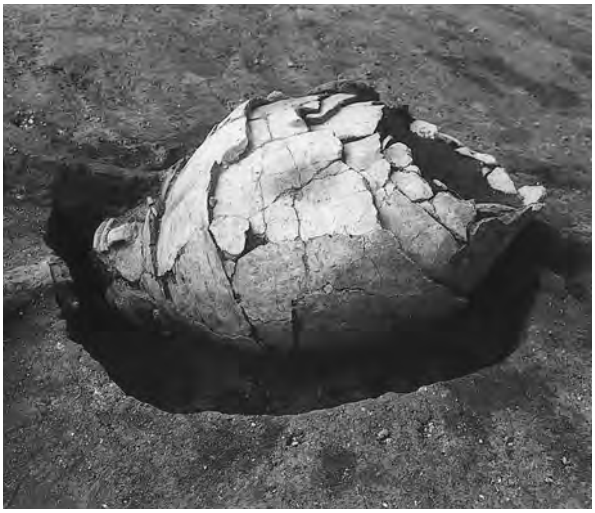
第 8 号土坑土層（NW →）



同左完掘（NW →）

第 9 号土坑土層（N →）

第 1 号土器棺墓完掘（S →）



第 1 号土器棺墓（S →）

同左土層（S →）

第 2 号土器棺墓（NE →）

同左土層（NE →）

写真 5　第 8・9 号土坑、第 1・2 号土器棺墓

第 2 号土器棺墓完掘（NE →）

第 3 号土器棺墓完掘（E →）

第 3 号土器棺墓土層（E →）

同左土器棺検出状況（E →）

同上口縁部拡大（S →）

同上蓋検出状況（E →）

第 3 号土器棺墓と第 4 号土坑（S →）

土器棺墓・土坑分布状況（S →）

写真 6　第 2・3 号土器棺墓

第 1 号溝跡確認（NW →）

第 1 号溝跡・第 1 号道跡完掘（NW →）

同左（NW →）

第 1 号溝跡・第 1 号道跡完掘（SE →）

第 1 号溝跡（右）・第 1 号道跡（左）土層（SE →）

第 1 号溝跡土層（SE →）

第 2 号道跡検出（NW →）

同左調査区際土層（NE →）

同左土層（NE →）

写真 7　第 1 号溝跡、第 1 号・2 号道跡

9－7

9－1

9－3

9－4

9－5

9－6

第2号土器棺墓

10－4

第5号土坑

7－1

第3号土器棺墓

10－3

10－1

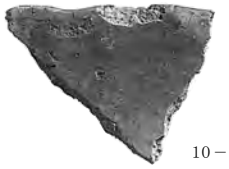

10－2

写真８　第２・３号土器棺墓、第５号土坑出土遺物

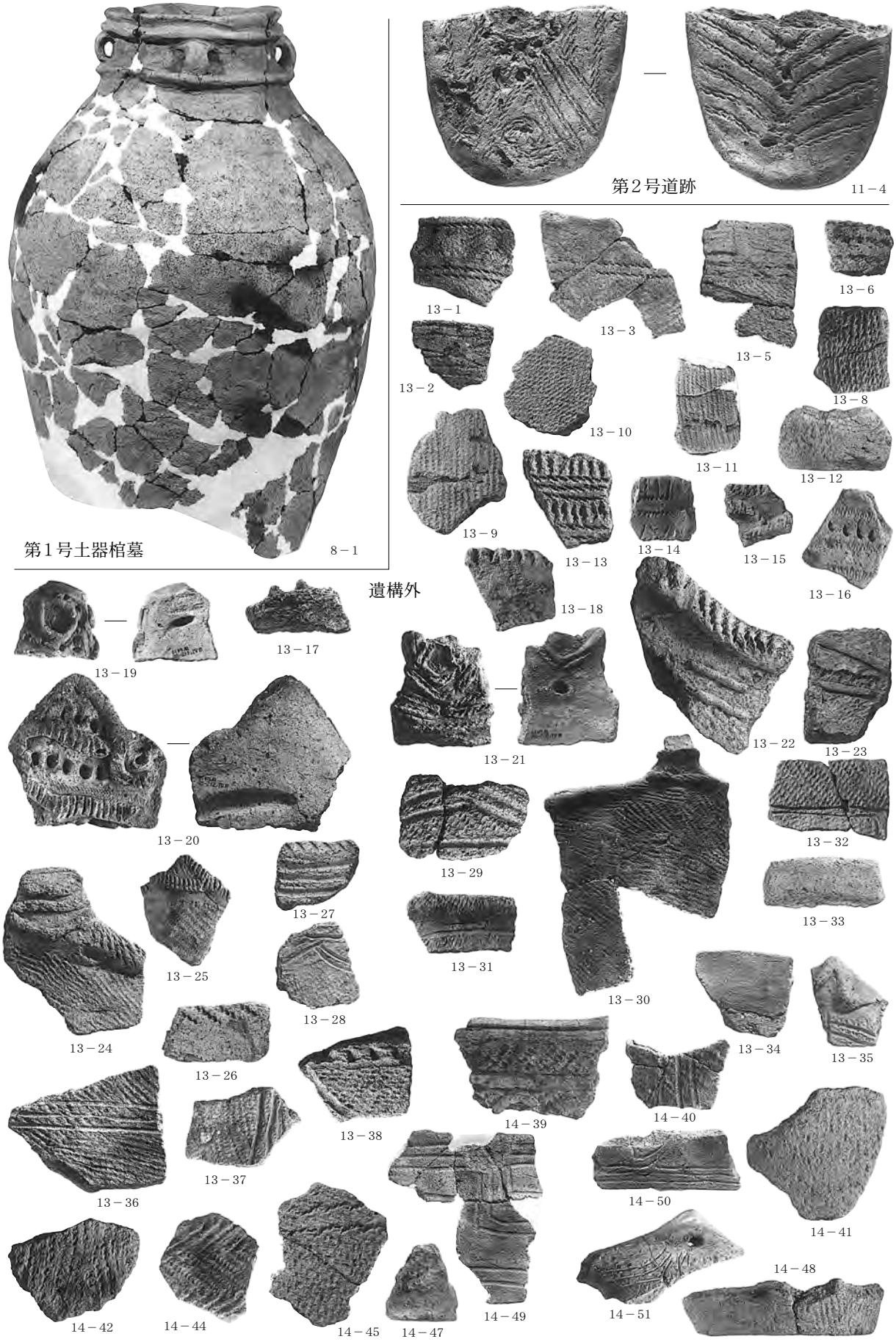


写真９　第１号土器棺墓、第２号道跡、遺構外出土遺物（１）

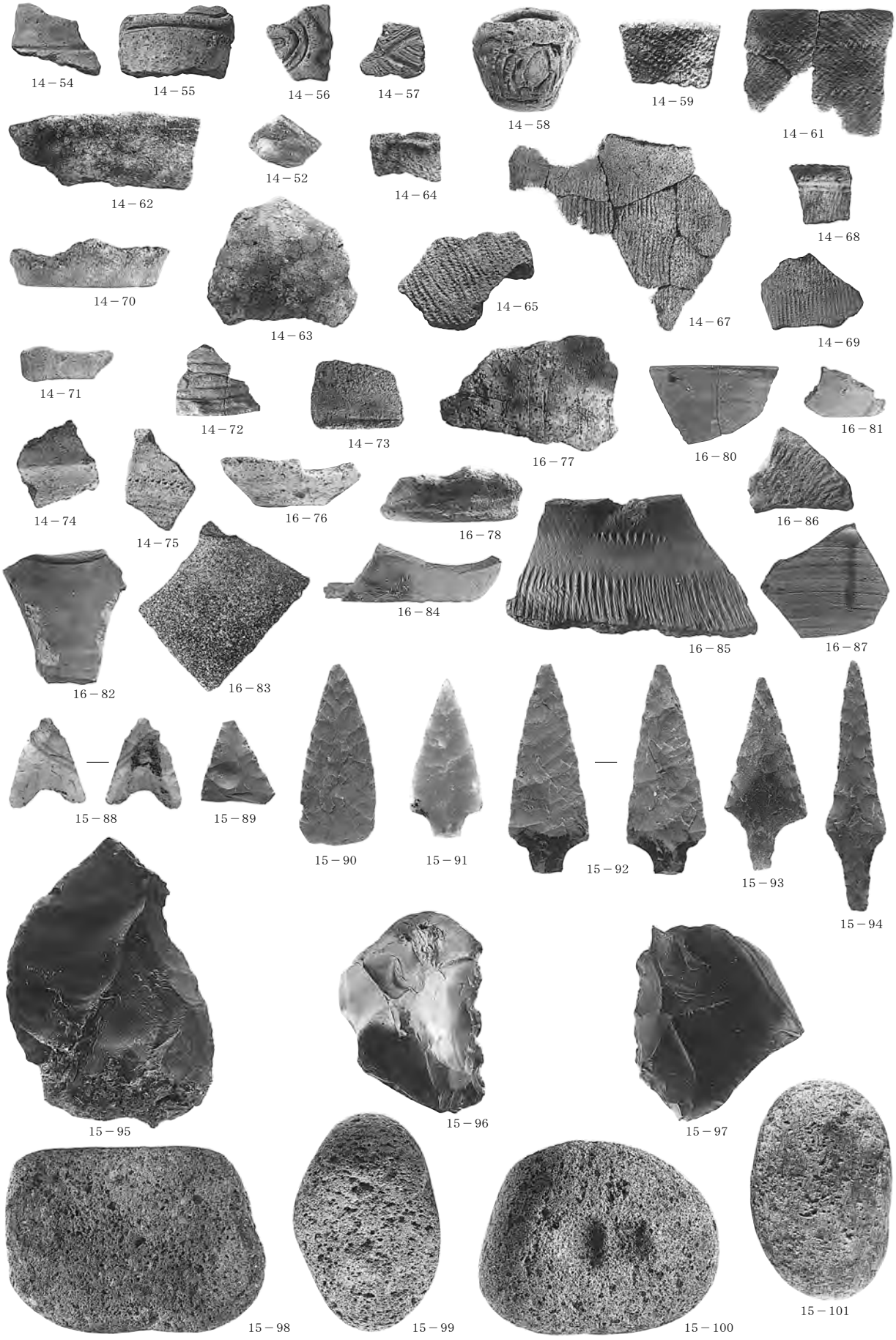


写真 10　遺構外出土遺物(２)

第３編　近野遺跡Ⅶ－Ａ区・Ｂ区－

Ｂ区（平成 14 年度）　南東→

第 1 章　調査概要

第 1 節　調査要項

1　調査目的

県立美術館及び県道里見丸山線建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する近野遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存して地域社会の文化財の活用に資する。

2　調査期間　　平成 13 年 4 月 18 日から同年 11 月 22 日
平成 14 年 4 月 15 日から同年 12 月 20 日
平成 15 年 4 月 17 日から同年 10 月 22 日

3　遺跡名及び所在地　　近野遺跡（青森県遺跡番号 01065）
青森市大字安田字近野 219、外

4　調査面積　　総面積　72,600 平方メートル
16,000 平方メートル（平成 13 年）
26,600 平方メートル（平成 14 年）
30,000 平方メートル（平成 15 年）
（本書掲載分）　A 区　　1,100 平方メートル（平成 14 年）
B 区　　22,400 平方メートル
8,400 平方メートル（平成 13 年：調査区西側）
6,600 平方メートル（平成 14 年：調査区中央）
7,400 平方メートル（平成 15 年：調査区東側）

5　調査委託者　　青森県環境生活部美術館整備・芸術パーク構想推進室
青森県県土整備部都市計画課

6　調査受託者　　青森県教育委員会

7　調査担当機関　　青森県埋蔵文化財調査センター

8　調査体制

（平成 13 年度）

調査指導員	村越　潔	青森大学社会学部教授	（考古学）
調　査　員	山口　義伸	青森県文化・スポーツ振興課総括主幹	
		（現　青森県立浪岡高等学校教諭）	（地質学）

山田　昌久　　東京都立大学人文学部助教授　　（考古学）

調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター

所　　長　　中島　邦夫（現　青森県立郷土館長）

次　　長　　成田　誠治（平成 14 年 3 月退職）

総務課長　　西口　良一（現　商工観光労働部労政・能力開発課総括主幹）

調査第二課長　　福田　友之（現　次長）

文化財保護主幹　　畠山　　昇

文化財保護総括主査　川口　　潤

（現　文化財保護課三内丸山遺跡対策室文化財保護主幹）

文化財保護主事　　小笠原　雅行（現　文化財保護主査）

杉野森　淳子、坂本　真弓

調査補助員　　浅利　康子、大石　悠治、片岡　典子、後藤　千春

森川　真佐子、藤原　咲子、高橋　明子

安達　智美、山内　教子、森内　麻美

（平成 14 年度）

調査指導員　村越　　潔　　青森大学教授　　（考古学）

調　査　員　柴　　正敏　　弘前大学理工学部教授　　（地質学）

葛西　　勵　　青森短期大学教授　　（考古学）

山田　昌久　　東京都立大学人文学部助教授　　（考古学）

渡辺　　誠　　元名古屋大学文学部教授　　（考古学）

岡村　道雄　　奈良文化財研究所協力調整官

（現　平城京跡発掘調査部長）　　（考古学）

調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター

所　　長　　佐藤　良治

次　　長　　福田　友之

総務課長　　工藤　和夫

調査第二課長　　成田　滋彦

文化財保護総括主査　川口　潤

（現　文化財保護課三内丸山遺跡対策室文化財保護主幹）

上野　茂樹（現　政策推進室総括主査）

文化財保護主査　　木村　高

文化財保護主事　　伊藤　由美子、杉野森　淳子、坂本　真弓

調査補助員　　田中　稔大、嶋中　加那子、片岡　典子、立花　聡美

森内　麻美、柴田　洋子、木村　友香、小林　いづみ

佐々木　順子、成田　議謙、佐藤　勝之、田中　綾

嶋守　亜季子、工藤　豪

（平成 15 年度）

調査指導員	藤沼　邦彦	弘前大学人文学部教授	（考古学）
調　査　員	柴　　正敏	弘前大学理工学部教授	（地質学）
	葛西　　勵	青森短期大学教授	（考古学）
	山田　昌久	東京都立大学人文学部助教授	（考古学）

調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター

所　　長	佐藤　良治
次　　長	福田　友之
総務課長	工藤　和夫
調査第三課長	工藤　　大
文化財保護主査	小笠原　雅行
文化財保護主事	伊藤　由美子、杉野森　淳子、坂本　真弓、斉藤　慶吏
調査補助員	伏見　友里、片岡　典子、木村　友香、佐々木順子
	成田　議謙、工藤　豪、田中　綾、嶋守亜季子
	沖崎　雅美、荒谷　伸朗、久米田さやか、市川裕子

報告書刊行計画について

調査開始当初は、調査年の翌年度に報告書を作成・刊行する方針であった。当事業の調査初年度（平成 12 年）の報告書は翌年度に刊行済み（『近野遺跡Ⅵ』）である。2 年目の平成 13 年調査分も当初の形で刊行する予定で進行していた。しかし、平成 14 年の調査では、谷（調査Ｆ区）から縄文時代の水さらし場遺構が発見され、保存が決定された時点で、その後の調査と報告書作成体制に検討がなされた。各調査区とも複数年に渡って調査されているため、調査が完了する平成 15 年から調査区毎に報告書を刊行することに変更した。現段階での報告書刊行計画は以下の通りである。

平成 13 年度－平成 12 年度調査分（調査Ａ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｆ区の一部）刊行済
　　第 315 集『近野遺跡Ⅵ』に収録
平成 14 年度－整理作業のみ、報告書刊行なし
平成 15 年度－西側の台地（調査Ａ区・Ｂ区）分刊行、本報告書：第 370 集『近野遺跡Ⅶ』
平成 16 年度－中央の台地（調査Ｅ区）分刊行予定
平成 17 年度－谷（調査Ｆ区）分刊行予定
平成 18 年度－南側の台地、東側の台地と谷（調査Ｃ区・Ｄ区）分刊行予定

第２節　調査経過

平成 13 年（B 区西側）

6 月 6 日に、調査機材等を搬入し、環境整備を行った。この時点では上物は完全に撤去されていたが、運動公園建設時の盛土が厚いため、重機を用いて盛土と旧表土の除去を行った。盛土が薄い斜面上位から除去し、除去した箇所の遺構確認を行った。7 月中旬には標高 18m 付近までの表土が除去され、遺構確認を行った。調査区の大半が運動公園建設時に基本層序第Ⅲ層まで、一部は第Ⅳ層まで大きく削平されていた。CK ラインから東の谷へ下る部分は第Ⅱ層の黒色土が残存し、遺物・遺構の残存状況が比較的良好であった。8 月中旬からは遺構精査に取りかかり、仮設道路振り替えにあたる第 1・21 号住居跡周辺を優先して精査を進めた。9 月始めには第 1 ～ 5 号竪穴住居跡および周辺の調査を終了した。道路の付け替え工事と排土の移動の間、B 区の調査を中断し、E 区・F 区の調査に入った。

道路付け替え工事完了後、DB ラインから東側部分の調査に入った。重機による盛土と旧表土の除去後、遺構確認を行った。台地上に平安時代の竪穴住居跡（BSI6）、谷へ下る緩斜面で縄文時代の住居跡（BSI14）と土坑、台地と谷へ下る斜面との境に溝跡が検出された。遺構精査は順調に進み、10 月下旬には精査を終えた。11 月に入り、遺構配置図作成と地形測量を行い、下旬にはラジコンヘリによる空中撮影を実施し、平成 13 年度の B 区の調査を完了した。

平成 14 年（A 区、B 区中央）

4 月 15 日から調査に入ったが、A 区・B 区の上物撤去および盛土の除去が完了するまでは E 区の調査を行った。5 月には運動公園内の排水管の移設に伴い、210 ラインから北へ 8m 幅を史跡境界線手前まで拡張し、粗掘りを行った。遺構・遺物は確認されなかった。

5 月中旬には雑木林の伐採・撤去が済んだ A 区の調査に着手した。A 区は斜面が急なため、標高 26m から下位を先に調査した。調査区北側の境界際に黒色土が比較的堆積し、少量ではあるが遺物が出土した。遺構は土坑が 1 基検出された。遺構精査終了後、斜面上位を調査したが、遺物は極僅かで、遺構は検出されなかった。6 月中旬で A 区の調査は完了した。

6 月下旬には EA ラインから EM ラインの谷に突き出た台地の調査を開始した。この部分も運動公園建設時に黒色土は削平されていた。遺構は平安時代の住居跡（BSI7）と土坑・溝跡が検出され、8 月末に精査を終了した。

14 年度の主体となる調査区中央は、6 月末に上物撤去が終了し、重機による盛土と表土の除去に入ったが、盛土が厚く堆積していたのと、排土置き場の確保が困難となり、除去作業は進展しなかった。8 月中旬から遺構確認を行った。前年度に比べると黒色土の残りは良好であったが、削平および撹乱が広範囲に斑状に入るため、他の箇所に比べ、遺構確認は容易ではなかった。9 月からは遺構精査に取りかかった。昨年度調査した遺構の延長である第 1・6 号溝跡から精査し、比較的重複の少ない北側から南側に移行しながら進めた。10 月半ばには第 10・11 号竪穴住居跡周辺を除き、精査は終了した。この住居跡周辺は B 区の中でも遺構外の遺物が集中する箇所である。遺構の重複がある上に削平もうけているため、遺構の認定が難しく、精査には時間を要し、11 月始めに終了した。10 月末

にはラジコンヘリによる空中撮影を行った。11 月には遺構配置図の作成と地形測量を行い、中旬には平成 14 年度のＢ区の調査を完了した。

平成 15 年（B 区東側）

4 月 17 日に器材を搬入し、調査区内の環境整備を行った。前年度同様、調査区全体の上物が撤去されていないため、上物撤去が完了した部分から重機で盛土と旧表土を除去し、遺構確認を行った。調査区東側から着手し、前年度との境である DN ラインまでの遺構確認を 5 月中旬頃まで行った。遺構は EP ～ FE ラインに縄文時代の遺構が確認され、EH ラインから西側に平安時代の遺構が密集していた。

南側の遺構確認と平行して、4 月下旬には前年度調査部分の山地側、CP から DF ラインの調査に入った。遺構の有無と堆積土の状況を把握するため、任意に 2 × 4m のトレンチを設定した。結果、住居跡と考えられる遺構が確認されたことと、遺構に近接するトレンチから遺物が出土することから、樹木の伐採後に全面調査することになった。5 月に入り、樹木の伐採後、重機で表土を除去し、遺構確認を行った。外周溝付の住居跡（BSI15）と土坑 4 基が確認された。遺構精査は 6 月上旬に終了した。

中心部である南側の調査区は 5 月中旬から遺構精査に入った。最初に調査区東端から着手し、6 月は西側の遺構が密集する部分に集中した。6 月末にラジコンヘリによる空中撮影を行い、7 月始めに遺構精査を終了した。上物撤去作業の都合上、Ｂ区の調査を一時中断し、Ｃ区・Ｄ区・Ｆ区の調査に移行した。

8 月からは、5 月に調査した山地部分の西側、CF から CP ラインの調査に入った。重機による表土除去後、遺構を確認次第、精査を行った。土坑 4 基・溝跡 1 条・柱列・掘立柱建物跡・炭化物集積遺構（BSX6）が検出され、8 月末で精査を終了した。

9 月は体育館入り口部分の撤去作業が 8 月に完了したことで、6 月に調査終了した区域から南西側に幅 10m・長さ 100m の範囲を調査した。この部分では溝跡・土坑・平安時代の畠跡（BSX8）が検出され、10 月上旬には精査を終了した。

平成 12 年度から、4 ヶ年に及ぶＢ区の調査は全て完了した。

第 3 節　基本層序

近野遺跡は沖館側右岸の中位～低位段丘に位置する。遺跡周辺の地形と地質については第 1 編第 4 節で詳細に記述している。本節ではＡ区とＢ区の層序についての概略を記述するに留める。使用する層序番号は第 1 編第 4 節に準拠する。

Ａ区は中位段丘の標高 22 ～ 30m の急傾斜地である。調査前の現状は雑木林である。第Ⅰ層の旧表土は厚さ 20 ～ 40 ㎝である。表土の直下は基本層序第Ⅲｂ層で、厚さは 10 ～ 20 ㎝と薄い。

Ｂ区は標高 16 ～ 22m の緩斜面である。昭和 50 年以前は後背地の丘陵から谷になだらかに下る斜面であった。運動公園建設時に標高 18 ～ 28m にわたる斜面は 2 ～ 5m 程大きく掘削され、緩やか

な傾斜面となっていた。場所によってはほぼ平らに削平されている。削平は基本層序第Ⅱ層または第Ⅲ層まで達する。この上に厚さ１～5mの厚さで盛土されていた。盛土を除去した地点で、旧表土および第Ⅱ層の黒色土が存在する場所は限定される。第４・５号竪穴住居跡から第１号竪穴住居跡へ下る斜面と第10・11号竪穴住居跡から第10号溝跡が下る斜面では黒色土が層状に確認できた。特にCN－218～CK－217にかけて残りは良好である。Ｂ区中央の第６号溝跡の上位部分の空白部は第Ⅳ層および一部第Ⅴ層まで大きく削平され、遺物・遺構は確認されなかった。中央から西側の黒色土が削平された面は粘土質の褐色または黄褐色ロームが露呈している。標高20mのラインが斜面の傾斜の変換点に相当する。若干の平地または浅い窪地が標高20mラインにみられるが、元々の地形か削平によるものかは判断できなかった。Ｂ区東側の第18～20号竪穴住居跡周辺はほぼ平らな地形で、暗褐色土の第Ⅲａ層が広がる。標高18m以下の谷際では粘土質の第Ⅲｂ層または第Ⅳ層のロームが露呈している。

基本層序確認用トレンチは標高20m前後の黒色土が比較的堆積している場所に設定した。うち１カ所（A）は第Ⅵ層まで掘り下げた。

第Ⅰ層：旧表土で、中位段丘面では厚さ30㎝ほど堆積する。低位段丘面では10～30㎝である。低位段丘面の盛土の直下は硬く締まりがある。

第Ⅱ層：黒色土を主体とする。場所によっては色調や締まり度合いで二分される。中位段丘では厚さ40㎝となる。この面では遺構は確認できなかった。平安時代の遺物を含む。

第Ⅲ層:黒褐色土または暗褐色土を主体とする。黒褐色土と褐色ロームとの漸移層である。場所によって、混入物や色調に差があり、細分される。基本層序Ａでは厚さ40㎝で、土壌の性質により、３つに細分される。砂質の第Ⅲａ層と粘土質の第Ⅲｂ層の境は不整合となり、大きく乱れる。第Ⅲａ層は炭化物や黒褐色土ブロックや褐色ロームが斑状に混入する。軽石質の第Ⅲｃ層はトレンチの東側に部分的にみられる。CIラインから東側の多くの遺構は第Ⅲ層で確認した。第Ⅲ層上位では縄文時代の遺物が出土する。平成12年度の調査ではＡ区から縄文時代前期の遺物が出土していた。今回もＡ区では前期～後期の遺物が出土している。Ｂ区からも前期の遺物は出土しているが、中期の遺物が最も多く出土している。

第Ⅳ層：暗褐色土または褐色土の浮石を主体とする。他の層に比べ混入物が少ないが、部分的に鉄分により褐色となる。Ｂ区西端と東端では、第Ⅳ層上面で遺構を確認した。

第Ⅴ層：褐色の粘土質ロームである。基本層序Ａで確認された厚さは約60㎝である。上位の第Ⅴａ層は混入物が少なく、全体に白い色調である。下位の第Ⅴｂ層は上位より硬質で、色調は暗い。ガラス質粒子を多量に含む。

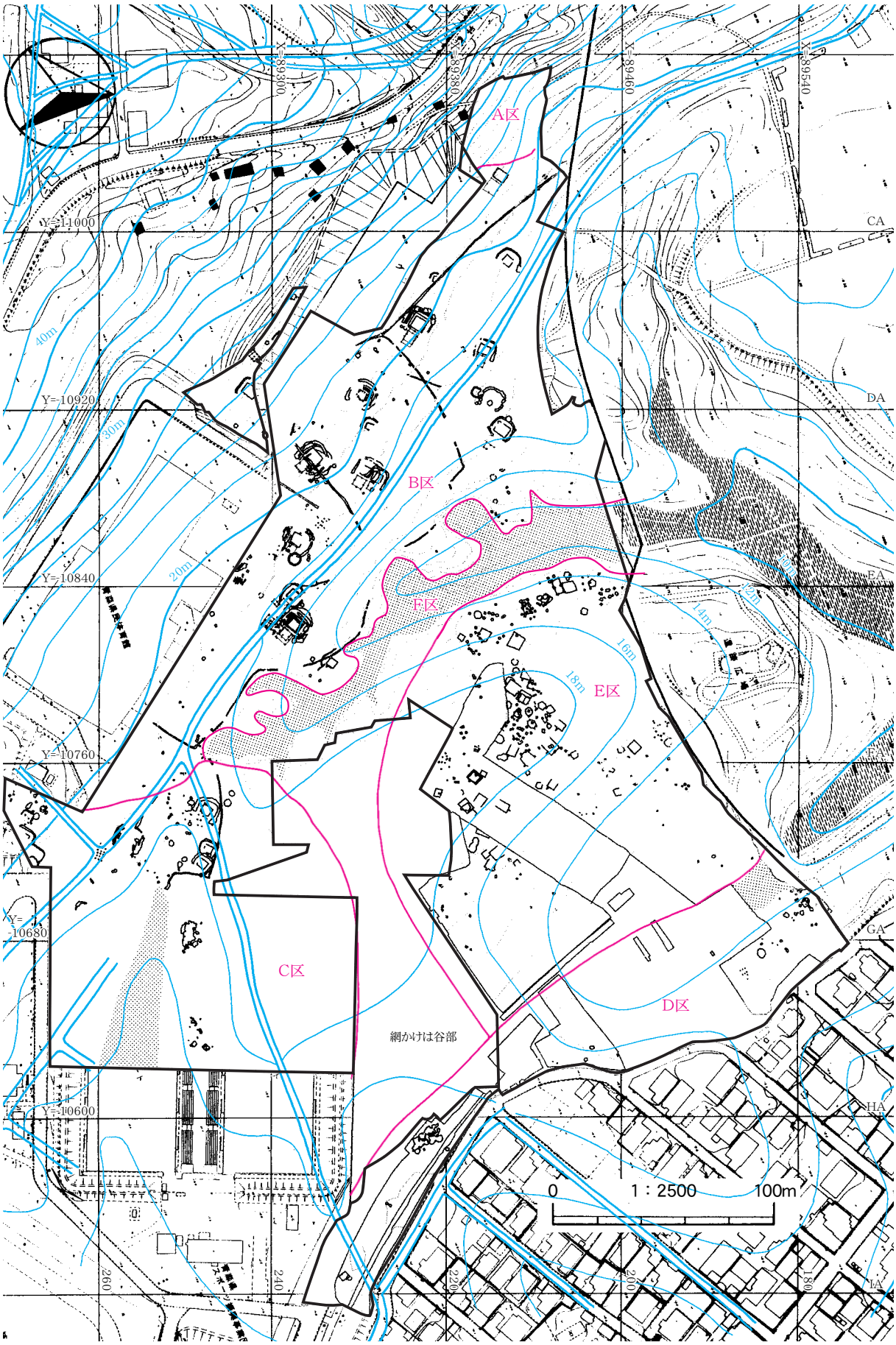
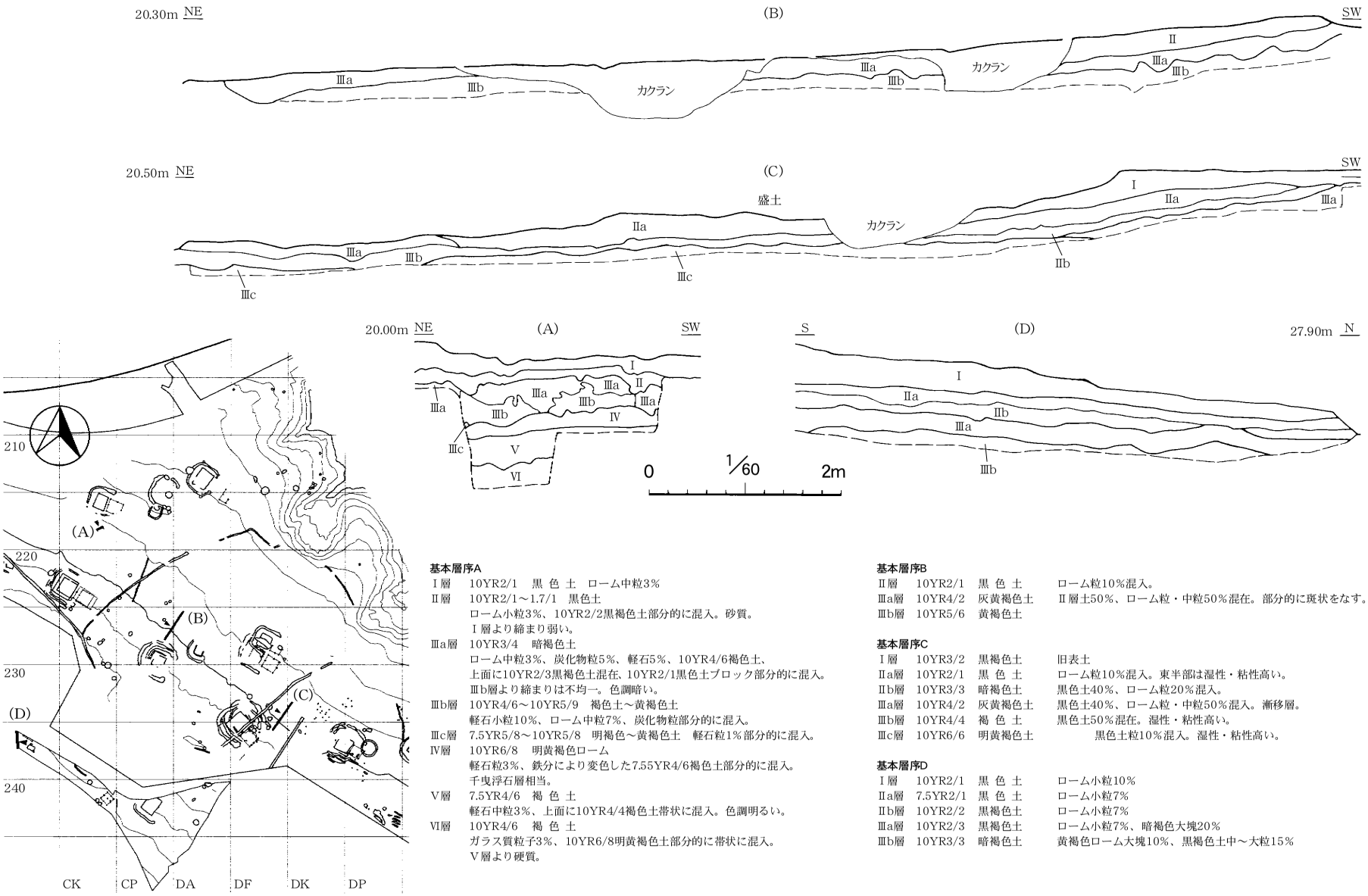


図 17　全体図（青色等高線は運動公園造成前の 1972 年時点のもの）



基本層序A

Ⅰ層	10YR2/1	黒 色 土　ローム中粒3%
Ⅱ層	10YR2/1～1.7/1	黒色土 ローム小粒3%、10YR2/2黒褐色土部分的に混入。砂質。 Ⅰ層より締まり弱い。
Ⅲa層	10YR3/4	暗褐色土 ローム中粒3%、炭化物粒5%、軽石5%、10YR4/6褐色土、 上面に10YR2/3黒褐色土混在、10YR2/1黒色土ブロック部分的に混入。 Ⅲb層より締まりは不均一。色調暗い。
Ⅲb層	10YR4/6～10YR5/9	褐色土～黄褐色土 軽石小粒10%、ローム中粒7%、炭化物粒部分的に混入。
Ⅲc層	7.5YR5/8～10YR5/8	明褐色～黄褐色土　軽石粒1%部分的に混入。
Ⅳ層	10YR6/8	明黄褐色ローム 軽石粒3%、鉄分により変色した7.55YR4/6褐色土部分的に混入。 千曳浮石層相当。
Ⅴ層	7.5YR4/6	褐 色 土 軽石中粒3%、上面に10YR4/4褐色土帯状に混入。色調明るい。
Ⅵ層	10YR4/6	褐 色 土 ガラス質粒子3%、10YR6/8明黄褐色土部分的に帯状に混入。 Ⅴ層より硬質。

基本層序B

Ⅱ層	10YR2/1	黒 色 土　ローム粒10%混入。
Ⅲa層	10YR4/2	灰黄褐色土　Ⅱ層土50%、ローム粒・中粒50%混在。部分的に斑状をなす。
Ⅲb層	10YR5/6	黄褐色土

基本層序C

Ⅰ層	10YR3/2	黒褐色土　旧表土
Ⅱa層	10YR2/1	黒 色 土　ローム粒10%混入。東半部は湿性・粘性高い。
Ⅱb層	10YR3/3	暗褐色土　黒色土40%、ローム粒20%混入。
Ⅲa層	10YR4/2	灰黄褐色土　黒色土40%、ローム粒・中粒50%混入。漸移層。
Ⅲb層	10YR4/4	褐 色 土　黒色土50%混在。湿性・粘性高い。
Ⅲc層	10YR6/6	明黄褐色土　黒色土粒10%混入。湿性・粘性高い。

基本層序D

Ⅰ層	10YR2/1	黒 色 土　ローム小粒10%
Ⅱa層	7.5YR2/1	黒 色 土　ローム小粒7%
Ⅱb層	10YR2/2	黒褐色土　ローム小粒7%
Ⅲa層	10YR2/3	黒褐色土　ローム小粒7%、暗褐色大塊20%
Ⅲb層	10YR3/3	暗褐色土　黄褐色ローム大塊10%、黒褐色土中～大粒15%

図 18　基本層序

第 2 章　検出遺構

第 1 節　遺構の概要

今回の報告はＢ区を主体とする。Ａ区では土坑が 1 基検出されたのみで、Ｂ区分とともに、土坑の項目で報告する。

遺跡の西側台地部分であるＢ区は緩斜面で、平安時代の遺構が主体である。竪穴住居跡 25 軒（拡張分も含む）、掘立柱建物跡 5 棟、溝跡 18 条、土坑 39 基、焼土・炭化物集積遺構 2 基、柱列、畠跡が検出された。遺構は調査区内に散在し、後世の削平分を考慮すると、本来中位段丘から谷付近まで遺構が西側台地全面に分布していたことが予想される。竪穴住居跡は外周溝と掘立柱建物跡を伴うものである。さらに、溝跡や土坑が付随する住居も多い。住居の軸方向は一定で、南東壁にカマドを設置している。6 軒の住居で建て替えが行われ、焼失家屋が 8 軒である。

縄文時代の遺構は竪穴住居跡 1 軒、土坑 13 基、土器片集積遺構 2 基、土器埋設遺構 1 基が検出された。DF ～ DP － 210 ～ 215 グリッドの谷へ下る斜面と調査区東端の FA ライン付近にまとまりがみられる。このほか、時代不明の土坑 35 基、柱穴群が検出されている。

遺構番号について

調査段階での遺構の認定は、住居跡に伴う外周溝と掘立柱建物跡については、溝跡（BSD）・掘立柱建物跡（BSB）の遺構番号は付けず、頭に区番号と住居跡番号を付して調査した。

BSI＊SD1	B区第＊号竪穴住居跡に伴う外周溝
BSI＊SD2	B区第＊号竪穴住居跡に伴う外周溝 2 条目
BSI＊SB1	B区第＊号竪穴住居跡に伴う掘立柱建物跡
BSI＊SB2	B区第＊号竪穴住居跡に伴う掘立柱建物跡 2 棟目

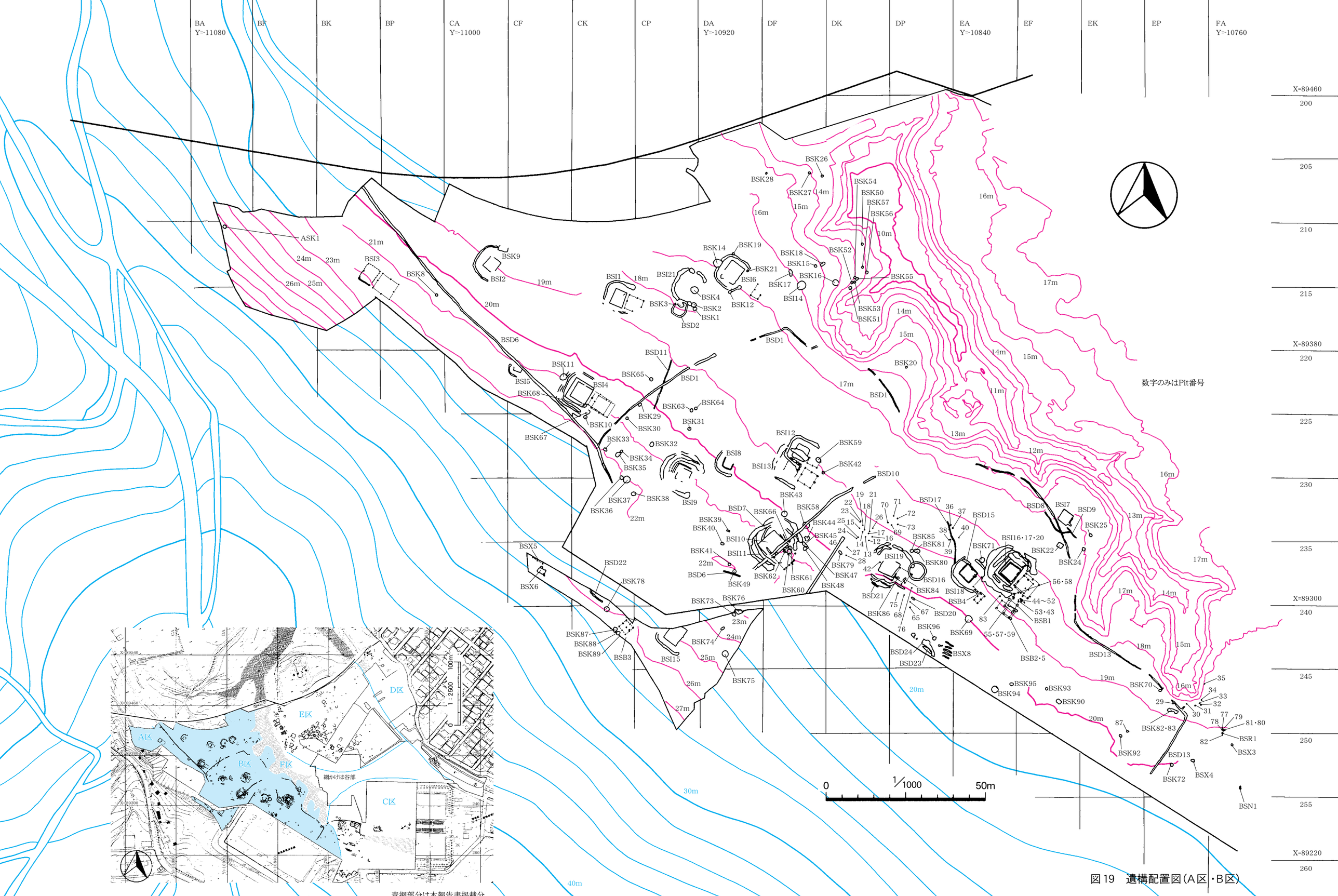
外周溝と掘立柱が複数あるものは、新旧関係を問わず、調査した順で SD1・2、SB1・2 とした。住居跡は拡張したものが 6 軒ある。これらの遺構番号は個別の住居番号を付したもの（BSI16・17・20、BSI10・11）と枝番を付したもの（BSI4A・4B、7A・7B、9A・9B）と統一されていない。報告書では調査時の住居番号はそのまま使用し、拡張前を第Ⅰ期、拡張後を第Ⅱ期・第Ⅲ期として記載することとした。

ピット（柱穴）については以下のように表記を区別した。

竪穴部のピット	Pit	BSI＊Pit◆：第＊号竪穴住居跡ピット◆
住居跡に伴う掘立柱建物跡のピット	PIT	BSI＊BSB●PIT◆：第＊号住居跡に伴う掘立柱建物跡●ピット◆
掘立柱建物跡のピット	PIT	BSB＊PIT◆：第＊号掘立柱建物跡ピット◆
上記以外のピット	BPit	BPit◆：B区第号ピット◆

その他の遺構（BSX）について

住居跡（SI）、土坑（SK）、溝跡（SD）、掘立柱建物跡（SB）、焼土遺構（SN）、土器埋設遺構（SR）以外の遺構は種別を問わず、検出した順で SX として番号を付した。BSX は 1 ～ 8 まで使用し、



青網部分は本報告書掲載分、
その他は次年度以降刊行

図19　遺構配置図（A区・B区）

BSX2 はＦ区の遺構に変更、BSX7 は欠番となった。

BSX1 は、Ｂ区北端で検出された帯状に広がる黒色土を指している（写真 38）。基本層序第Ⅳ層の褐色ローム面で確認した。黒色土は調査区北端から標高 20m の等高線に平行して、50m 程伸びる。全体に黄褐色ロームがブロック状（直径２～７㎝）に混在する。本遺跡の北側は特別史跡三内丸山遺跡である。Ｂ区と接する三内丸山遺跡側では道路跡が検出されている。本調査区で検出された部分は位置的に三内丸山遺跡の道路跡とつながる可能性が高いため、BSX1 として調査を行った。調査成果を検討した結果、BSX1 は三内丸山遺跡の道路跡に見られる硬化面がないこと、道路構築時の掘り込み面がみられないことから、これまでの道路跡の基準に該当しない。さらに、運動公園造成時に検出面から上部を破壊されているため、検出した黒色土が自然堆積によるものか、人為的な要因によるものなのか判断できない状況でもあった。以上から、この黒色土部分を遺構（道路跡）として認定しなかった。よって、次節の検出遺構には含めていない。

第２節　Ａ区・Ｂ区検出遺構

1. 縄文時代の竪穴住居跡

第 14 号竪穴住居跡（BSI14）（図 20・77・78・97・101）

［概要］形態や規模から、当初土坑番号（BSK13）を付して調査したが、底面がほぼ平坦であり、底面や壁際からピットや張り出しや炉と思われる施設が検出されたことから、住居として新たに遺構番号を付して報告する。

［位置］標高 18m 前後の緩傾斜地 DH・DI － 214・215 グリッドに位置する。

［平面形・規模］平面形は円形で、南西側が若干張り出すような形状である。この張り出しと住居跡の中心をとおる線を軸線とすると、長軸 2m80 ㎝、短軸 2m40 ㎝である。床面積は 4.5 ㎡である。

［堆積土］黒褐色土主体の４層に分層される。ロームブロックなどの混入物はほとんど観察されない。

［壁・床面］床は、住居跡の中央付近から北西側の範囲にロームが硬化した範囲が確認された。あまり明瞭でなく、地山との区別はつきにくい。全体的に地形と同じく、若干北東側に傾斜している。壁高は東側で８㎝、西側で 43 ㎝、南側で 24 ㎝、北側で 14 ㎝となり、床面からやや緩やかに立ち上がっている。

［炉］住居跡中央の床面に周囲の土と異なり、褐色土で炭化物が混入している範囲が確認された。この範囲は不整円形で、規模が 48 ㎝× 36 ㎝、床面からの深さ４㎝程である。中心部分が若干窪んでいる。検出面や位置・堆積土から地床炉であった可能性が高い。

［ピット］壁際で２基、床面で７基、計９基のピットを検出した。壁際の２基は壁を斜めに掘りこんでおり、ピット上面の規模はピット３が直径 28 ㎝、ピット４が直径 20 ㎝である。床面の７基は直径 10 ㎝程で、深さ２～ 10 ㎝である。柱穴の可能性があるピットがピット３・６・７・８である。配置からいえば、ピット３とピット 7、ピット６とピット８をそれぞれ結んだ線はいずれも長軸方向に平行である。ピットの間隔はピット３とピット７で 2m14 ㎝、ピット３とピット８で 1m、ピット８とピット６で 2m24 ㎝、ピット６とピット７で 96 ㎝である。ピット１もこれらのピットのほ

ぼ中間に位置し、柱穴とすれば、補助的役割を果たした可能性がある。
［その他］南西側の壁際で、ピットの周囲を土手状に残した施設（ピット 4）が検出された。壁際のピット内部は床面よりも 1・2 ㎝深く掘りこまれ、ピット底面から土手状部分までの高さは約 5 ㎝程である。上面で小型土器が出土している。
［出土遺物］縄文土器・石器が出土した。住居中央の検出面で深鉢形土器 1 個体が土圧によりつぶれ、南西側に拡散した状態である。3 層中では土器片がややまとまって出土しており、床面からは炉の南西側で土器片が出土している。このほか、欠損した磨製石斧が出土した。
［小結］住居跡の規模から考えれば、床面で検出されたピットが柱穴である可能性は高いと思われる。堆積土上面で出土した土器や壁際での付属施設の存在、住居跡中央に位置する地床炉などから、縄文時代中期中葉かこれ以前に住居が構築されたと考えられる。（坂本）

2. 土器埋設遺構、土器片集積遺構

土器埋設遺構（BSR1）（図 21・79）
［位置・確認］調査区東側の標高 19.0 ～ 19.10m の平坦面、FC － 249・250 グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層面で、土器片が輪状に分布するのを確認した。
［掘り方・堆積土］掘り方は明瞭にとらえることができなかったが、周囲の堆積土との色調の差や炭化物の混入状況で区別した。基本層序第Ⅳ層と第Ⅲ層との境まで掘り込まれ、上面は直径 80 ㎝のほぼ円形、底面は直径 40 ㎝の円形と思われる。土器内堆積土は掘り方埋土と類似の土質で、若干締まりが弱い程度である。土器内堆積土はリン・カルシウム含量分析を行った（第 4 章第 4 節参照）。
［土器］土器は直立した状態で設置されている。底部と胴部下半部が残存する。底径は 20 ㎝である。底部から胴部にかけて外反する形状であり、胴部下半部に一条の横位の粘土紐を巡らし、更に縦位の粘土紐を貼り付けている。粘土紐は両側縁部にナデの痕跡が確認される。大形な土器であり、甕棺とも考えられる。
［小結］土器の特徴から縄文時代後期の前十腰内Ⅰ式とみられる。

第 1 号土器片集積遺構（BSX3）（図 21・79）
［位置・確認］調査区東側の標高 19m の平坦面、FC － 250・251 グリッドに位置する。BSR1 から南東方向に 5m の距離である。基本層序第Ⅱ層面で、土器片が 80 ㎝四方に密集するのを確認した。標高 19.25 ～ 19.30m に分布する。
［掘り方・堆積土］掘り方は確認できなかった。
［土器］胴部上半分から口縁部が残存する。底部は出土しなかった。平口縁で無文の深鉢形である。焼成は不良で、整形は粗い調整である。
［小結］土器の特徴から縄文時代後期の十腰内Ⅰ式と考えられる。BSR1 の他に、10m 北方向の C 区では同時期の埋設土器（未報告）が存在することから、埋設土器の崩落したものとも考えられる。出土状況から、この場合、掘り方をもたない、もしくは浅い掘り方に設置された埋設土器が想定される。

第 2 号土器片集積遺構（BSX4）（図 21・79）

［位置・確認］調査区東側の標高 20m の極緩やかな斜面に位置する。BSR1 から南西方向に 10m 離れた、ET － 252 グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層面で、ロームに暗褐色土がブロック状に混在する上に土器片が散在した状況を確認した。土器片は 50 ㎝× 1m の範囲に広がり、標高 20.0 ～ 20.15m に分布する。

［掘り方・堆積土］土器片の周囲は黄褐色ロームを主体とするが、土器片は炭化物粒混じりの褐色土・暗褐色土から出土した。部分的に締まりの弱い黒褐色土が混入する。これらの堆積土を除去した面は中央に若干の窪みがあるが、全体に起伏が激しく、明瞭な立ち上がりもみられないことから、掘り方とは断定できなかった。暗褐色土の範囲と中央の窪みを図化した。

［土器］口頸部が内反する深鉢形である。文様は地文縄文地に横位と斜位の撚糸圧痕を施文している。

［小結］土器の特徴から縄文時代後期初頭の牛ヶ沢 3 式に相当するものと思われる。土器片の出土状況から埋設土器の崩落したものとも考えられる。（杉野森）

3. 平安時代の竪穴住居跡

第 1 号竪穴住居跡（BSI1）（図 22・23・107）

［概要］竪穴住居跡に外周溝と掘立柱建物跡が付属する建物跡である。標高 18 ～ 19m の北側緩傾斜地の、基本層序第Ⅲ層面で確認された。北西側・南西端部の外周溝、竪穴住居内床面の一部が削平を受けている。また、掘立柱建物跡を構成すると思われる南西のピットも検出されなかった。

［位置］CN － 214 ～ CQ － 216 グリッドに位置する。

竪穴部

［平面形・規模］東西壁は 6m94 ㎝、南北壁は 6m40 ㎝で、やや東西に長い方形である。床面積は 19.4 ㎡である。

［堆積土］8 層に分層できた。2・3 層中に白頭山火山灰を含む。6 ～ 8 層は掘り方埋土である。

［壁・床面］床は基本層序第Ⅳ層を掘りこみ、黒褐色土と鈍い黄褐色土で埋められ、平らにして使用している。壁は南から西側で 6 ～ 8 ㎝ほど検出され、ほぼ垂直に立ち上がっている。

［カマド］南壁中央からやや東側付近で、黒褐色土が薄く堆積した状態で燃焼部・両袖が検出された。カマドの煙道部及び煙出部は検出されなかった。主軸方向は N － 114° － E である。燃焼部は直径 45 ㎝の不整円形な広がりで、厚さ 3 ㎝程被熱し、ほぼ平坦である。カマド袖は左右とも残存し、灰白色粘土を用いて作られ、規模はおよそ長さ約 80 ㎝、幅 10 ～ 20 ㎝である。また、燃焼部の最奥中央では甕の胴下半～底部片が横倒しの状態で検出された。この土器片はかなり被熱した状態であることや、内部に焼土塊が堆積していること等から、支脚として使用され倒れた状態で出土したものと考えられる。この支脚の周囲から土師器破片が出土してる。これは同一個体で、支脚の上に設置されていた甕と思われる。また、被熱した燃焼部の直下に堆積する褐色土を掘り上げたところ、新たに焼土範囲が検出された。この焼土範囲も同じくカマドの燃焼部と考えられる。直径 40 ㎝程の不整円形な広がりで、厚さ 3 ㎝程被熱し、中央が皿状に窪んでいる。堆積状況から、古い燃焼部の上部にカマド 8 層土をいれてカマド底面の底上げをし、新しい燃焼部が形成されたものと思われる。

［壁溝］壁溝は北壁の西側、西壁の南側、南壁の西側で検出されている。幅 10 ㎝前後、深さ 10 ㎝前後で溝壁は比較的緩やかな立ち上がりである。

［ピット］周溝及び床面から 20 基のピットを検出した。このうち主柱穴は、ピット 1 ～ 4 である。柱穴の間隔は、ピット 3 とピット 2 では 2m95 ㎝、ピット 2 とピット 1 では 2m90 ㎝、ピット 1 とピット 4 では 2m30 ㎝、ピット 4 とピット 3 では 2m95 ㎝である。主柱穴は平面が楕円形状で、堆積土は埋め戻しによるものと考えられる。柱痕等は明瞭でなかった。このほか、壁際や壁溝内で検出した柱穴は壁柱穴と考えられる。壁柱穴は、北壁の柱穴間隔が 70 ㎝～ 1m10 ㎝と狭く、西壁では 1m50 ㎝と広い。柱穴は深さ 50 ㎝程深く掘りこまれているものもあり、主柱穴の補助的役割を果たしていると思われる。

［出土遺物］南壁側で遺物が多く出土している。土師器甕の胴部破片が多いため、復元できるものが少なかった。他に、須恵器甕の破片も出土している。

掘立柱部

［位置］竪穴部分と 85 ㎝離れた南側に 1 棟の掘立柱建物跡を検出した。［平面形・規模］南西角の柱穴が検出されなかったが、2 間× 2 間の掘立柱建物跡で、東西列が北から 2m ＋ 2m40 ㎝、4m40 ㎝、2m10 ㎝、南北列が西から 2m60 ㎝、4m80 ㎝、2m70 ㎝＋ 2m20 ㎝である。柱穴は直径 20 ～ 30 ㎝前後で、深さ 30 ～ 40 ㎝である。［堆積土］黒褐色土主体で柱痕や柱痕の抜き取り痕は見られなかった。

外周溝

［位置］住居跡の南東～北～南西の三方向に検出されたコの字形の外周溝である。南東端部は楕円形状に深く掘りこまれている。［平面形・規模］規模は幅 30 ～ 80 ㎝前後、深さ 20 ～ 50 ㎝で、断面形が逆台形状である。溝幅は西側では細く、平均するとおよそ 60 ㎝である。南東端部は深く掘りこまれ、深さはおよそ 80 ㎝である。溝の北東側底面には構築時の掘り込みによる掘削痕がみられる。溝は竪穴部から 1m30 ㎝～ 2m30 ㎝前後離れている。［堆積土］黒褐色土と暗褐色土主体の堆積土で、ロームブロックが多く混入している。部分的ではあるが上面に白頭山火山灰が広がる。［出土遺物］堆積土中から土器片が出土している。小片のものが多く、堆積時に混入したものと思われる。土師器と須恵器坏が出土している。

［小結］9 世紀後半に使用され、白頭山火山灰降下前に廃絶され埋没したものと思われる。　（坂本）

第 2 号竪穴住居跡（BSI2）（図 24・25・101・107・130）

［概要］外周溝を伴う竪穴住居跡である。標高 19m 前後の極緩やかな斜面に構築される。基本層序第Ⅲ層面で暗褐色土混じりの黒色土の不整方形プランで確認した。運動公園造成時の掘削により破壊された箇所が多く、一部住居床面まで削平されている。

［位置］調査区北西側の、CD・CE － 211 ～ 213 グリッドに位置する。

［重複］外周溝の北東端部が第 9 号土坑と重複する。火山灰の堆積状況から本住居跡が古い。

竪穴部

［平面形・規模］約 4.0 × 4.35m の南北方向が若干長い方形である。床面積は 14.5 ㎡である。

［堆積土］炭化物混じりの黒色土を主体とする。上部から、白頭山火山灰混じりの鈍い黄褐色土、炭化材混じりの黒褐色土、黒色土の順で堆積する。南側の東壁寄りに焼土ブロックが混入する。

［炭化材］北側で検出したが、残存状況はあまり良くなく土壌化している。板材が数点確認された。

炭素年代測定結果は８世紀後半から９世紀前半である。

［壁・床面］床は中央部に若干の高まりがみられる。硬化した部分は確認されなかった。住居中央部は基本層序第Ⅲ層まで掘り込まれて、そのまま床面としている。住居周辺部の壁から 30 ～ 50 ㎝離れた部分は基本層序第Ⅳ層まで掘り込まれ、ロームブロック混じりの暗褐色土で埋められている。壁の多くは削平され、北西壁のみ残存する。壁は床から垂直に立ち上がり、残存する壁高は 40 ㎝である。

［カマド］南東壁の東寄りに位置していたものと思われる。カマド本体は破壊され、焼土混じりの崩落した粘土が 1.15 × 4.5m の範囲に残存する。底面は僅かに被熱している。燃焼部、煙道部は検出されなかった。主軸方向はＮ－ 125°－Ｅである。

［壁溝］北側と南側は削平されているが、カマドを除き、住居をほぼ一巡していたものと思われる。上面幅は 20 ～ 30 ㎝、底面幅 20 ㎝、床面からの深さ 20 ～ 30 ㎝である。断面形は箱形を呈する。幅 20 ㎝前後の溝である。

［ピット］壁溝から５基検出された。内３基は壁溝の隅に位置する。南側は撹乱が深いため、検出できなかったが、壁溝の四隅に柱穴が存在していたものと思われる。底面はピット１と３が 25 × 15 ㎝の楕円形、ピット２が 15 ㎝の方形、ピット４が直径 15 ㎝の円形、ピット５が直径 10 ㎝の円形を呈する。［出土遺物］遺物は、主に土師器片が炭化材とほぼ同じ面または下位から出土している。破片が個体毎にまとまった状態が多く、西隅では土師器甕の破片がまとまっている。ほかに土師器塝・小ぶりの甕、砥石、敲き石なども出土している。

外周溝

［位置］住居跡から 2.7m 離れた西・北・東側に位置する。［形態・規模］上面幅 50 ～ 70 ㎝、底面幅 20 ～ 50 ㎝で、先端部に向かい幅がやや狭くなる。深さは 20 ～ 50 ㎝で、斜面上位の西端から斜面下位の東端へと傾斜している。西側と北側の底面には掘削時の円形の工具痕が残る。北側の工具痕部分はローム混じりの暗褐色土で埋められ、底面を硬く平らにしている。東側の底面は平坦で、断面形はＵ字形もしくは箱形を呈する。［堆積土］炭化物混じりの黒褐色土を主体とし、５層に区分される。西側の第３層中には白頭山火山灰が斑状に堆積する。［出土遺物］堆積土から土師器、縄文土器の破片が出土した。

［小結］９世紀後半に使用され、白頭山火山灰降下以前に廃絶され埋没した焼失家屋である。（杉野森）

第３号竪穴住居跡（BSI3）（図 29）

［概要］掘立柱建物を伴う住居跡である。標高 21.5 ～ 22m の斜面に構築される。表土直下の基本層序第Ⅳ層面で確認したが、運動公園造成時に住居床面まで、大きく削平されていた。斜面上方に壁溝が、斜面下方に壁柱穴が残存するのみである。外周溝は検出されなかった。

［位置］調査区北西側、BO ～ BQ － 213 ～ 215 グリッドに位置する。

竪穴部

［平面形・規模］柱穴と壁溝の配置から南北方向 5.8m、東西方向 4.4m の長方形で、床面積が約 21 ㎡の竪穴と推定される。主軸方向はＮ－ 125°－Ｅである。

［堆積土］［壁・床面］検出なし。

［カマド］検出されていないが、掘立部の位置から、住居東壁に存在していた可能性が高い。

［壁溝］南側で検出された。確認面幅 15 ～ 27 ㎝、底面幅 10 ～ 15 ㎝、深さ 8 ～ 15 ㎝である。断面形はＵ字形を呈する。
［ピット］6 基検出した。南側の 3 基は壁溝中に位置する。西側と北側の 3 基の柱穴は底面が僅かに残存する。ピット 1・2 は掘立部北側列と同列に位置すること、ピット 3 は壁溝とピット 1 と同列に位置することから、これらは壁柱穴と考えられる。ピットは直径 20 ㎝の方形である。
［出土遺物］なし。

掘立柱部

［位置］住居跡東側に位置する。住居からの距離は約 1m である。［形態・規模］2 間× 2 間の建物跡と思われる。南北列の西側は北から 2.6m ＋ 2.8m、東側は北から 2.7m ＋ 2.7m である、東西列の北側は西から 3.1m ＋ 3.0m、南側は西から 3.1m ＋ 3.2m である。柱穴は底面径 20 ㎝弱と、起伏が少なく平坦ではあるが、やや傾斜する。断面形は箱形を呈する。［出土遺物］なし。
［小結］時期を特定できる要素に欠ける。　（杉野森）

第 4 号竪穴住居跡（BSI4）（図 26 ～ 28・101・108・109・129・131・132）
［概要］竪穴住居跡に外周溝と掘立柱建物が付属する建物跡である。標高 21.4m ～ 21.6m の緩斜面上に構築されているが、北側の斜面下方は削平されていた。また、過去の試掘調査によっても竪穴住居の一部が破壊されている。火災住居跡であり、南東側で炭化材が検出されているが、おおむね、炭化材が検出できなかった部分が撹乱を受けているものと思われる。また、拡張が見られる住居跡でもあり、拡張前を第Ⅰ期、拡張後を第Ⅱ期として記述する。
［位置］CK ～ CN － 222 ～ 224 グリッドで確認した。
［重複］外周溝が第 6 号溝跡と重複し、これより古い。また、第 11 号土坑、第 68 号土坑と重複しており、これらの土坑よりも新しい。
［関連遺構］第 10・67 号土坑が付随する。
第Ⅱ期（拡張後）

竪穴部

［平面形・規模］おおむね東西壁は 6m60 ㎝、南北壁が 7m 前後の、南北に若干長い方形と思われる。床面積は 47.8 ㎡である。
［堆積土］11 層に分層出来た。炭化物（材）を含んだ黒褐色土が主体となっている。なお、レベル的には北側の第 10 層や第 11 層の暗褐色土や黒褐色土は本住居跡の堆積土ではない。
［炭化材］竪穴内南東部の床面直上から床面にかけて炭化材が検出された。ほとんどが板材であることから、板壁の存在が考えられる。樹種同定析結果（第 4 章第 2 節）から、板材にクリの木を多用し、トネリコ属も検出されている。炭素年代測定結果は 7 世紀後半から 9 世紀前半である。
［壁・床面］壁を確認できたのは南壁の一部のみで、その部分の壁高は約 10 ㎝である。他の壁は柱穴列の外側にあったものと思われる。床面は南側の半分ちかくを確認できたが、北側や東側、西側の縁辺部では確認できなかった。確認できた床面はほぼ平坦で硬いが、いくぶん北側（斜面下方向）に傾斜している。
［カマド］東壁の中央からやや南側に寄った場所に検出した。カマド中軸線は北 4：南 3 の割合で設

定されている。主軸方向はＮ－122°－Ｅである。カマド本体の遺存状況は不良で、焼土や焼成粘土塊等が南側から西側へ拡散した状態で検出された。灰白色粘土を用いてつくられているが、レンガ状に焼いた厚さ５㎝前後の粘土板のような破片も見られるので、これを主体に粘土で補強する方法でつくられた可能性がある。燃焼部は幅 50 ㎝前後、奥行き 95 ㎝でいくぶん窪み、中央には火床面が確認できた。支脚は検出されなかったが、カマドから約 1m ほど西側で、土製支脚の破片が出土している。このような検出状況からは、カマド破壊が行われた可能性が考えられる。また、住居外側へ焼土混じりの暗褐色土を幅30㎝、長さ1m10㎝ほど確認したが、カマド煙道部の痕跡と考えられる。

［壁溝］検出されなかった。

［ピット］竪穴内から 54 基のピットを検出したが、これには拡張前のものも含んでいる。このうち、ピット１とピット６は断面が皿状の浅いピットであり、何らかの施設跡と思われる。大半は柱穴と思われ、このうちピット２、４、５、９は本住居の主柱穴である。ピット２、５からは柱痕が確認されたが、いずれも断面が長方形で、長辺がカマド側を向いている。確認面における柱痕の大きさは、ピット２では 23 × 40 ㎝、ピット５では 20 × 32 ㎝である。なお、柱の間隔はピット２とピット５では 3m93 ㎝、ピット４とピット５では 3m60 ㎝である。また、壁際に検出した柱穴列は壁柱穴と考えられ、50 ㎝～ 80 ㎝の間隔で並んでいる。とくに、南壁際では９基の柱穴が 50 ㎝間隔で並んでいる。

［出土遺物］おおむね、炭化材を検出した部分から遺物が出土している。カマド右側周辺では復元可能な土師器・須恵器の甕や鍋・壷、台石に使用したと思われる礫、土製品が出土している。また、カマドの手前では、輪積みの土製支脚や羽口片、鉄滓付着の礫、鉄製品が出土している。この他に砥石、石製品、須恵器坏・壷、土師器坏、刻書のある須恵器皿などがある。

掘立柱部（BSI4SB1）

［位置］竪穴部分の東側に、２棟の掘立柱建物跡を検出した。新旧関係は明確な形で把握できなかったが、より外側に位置するものが拡張後のもの（SB1）と思われる。竪穴部分からは 2m10 ㎝離れている。［平面形・規模］北東の柱穴が１個検出できなかったが、２間×２間の建物跡と考えられる。建物の規模は、東西列の南側は、西から 2m90 ㎝＋ 2m90 ㎝、同北側は 2m65 ㎝＋α、南北列の西側は北から 2m25 ㎝＋ 2m15 ㎝である。

外周溝（BSI4SD1）

［位置］住居跡の北・西・南側の三方向に、２本の外周溝が検出された。外側を SD1、内側を SD2 として調査したが、外側の SD1 が第Ⅱ期に伴うと考えられる。［形態･規模］SD1 は幅 60 ～ 1m10 ㎝、深さ 30 ～ 40 ㎝の規模である。竪穴部分からは 2m 前後離れているが、北側の部分は確認できなかった。

第 10 号土坑（BSK10）（図 26）

［位置］東端から若干離れた場所に、土坑が検出されている。［形態・規模］短軸 90 ㎝、長軸 1m05 ㎝のほぼ円形で、深さ 38 ㎝である。

第Ⅰ期（拡張前）

竪穴部

［平面形・規模］全体を確認できなかったので、規模は不明である。壁柱穴のあり方から、西壁は 5m20 ～ 30 ㎝前後、南・北壁は 5m50 ㎝と考えることができる。推定床面積は 28.8 ㎡である。

［壁・床面］壁、床とも確認できなかった。
［カマド］確認できなかったが、東側に位置していたと考えられる。
［壁溝］検出されなかった。
［ピット］拡張後の第Ⅱ期住居のピット 2 とピット 9 の間に検出した柱穴列及びピット 4 と 9 を結んだ線と壁との中間に検出したピットが本住居の壁柱穴と思われる。
［出土遺物］なし。

掘立柱部（BSI4SB2）

［形態・規模］北側の部分が検出できなかったが、2 間× 2 間の建物跡と考えられる（SB2）。建物の規模は、東西列の南側が、西から 2m92 ㎝＋ 2m85 ㎝、南北列の西側が 2m40 ㎝、同東側のものは 2m30 ㎝である。

外周溝（BSI4SD2）

［平面形・規模］内側の SD2 が拡張前の住居に伴うと考えられる。幅 50 ～ 80 ㎝、深さ 30 ～ 60 ㎝の規模で、東側東端部分がもっとも深い。竪穴部分からは 2 ～ 2m80 ㎝前後離れており、北側のほうの距離が長い。［出土遺物］土玉が出土した。

第 67 号土坑（BSK67）（図 26）

［位置］外周溝南側の東端から若干離れた場所には土坑（BSK67）が検出されている。［形態・規模］土坑の半分が撹乱を受けているが、直径 1m48 ㎝の円形で、深さ 27 ㎝である。
［小結］竪穴住居の南側に掘立柱建物跡、北・西・東側の三方に外周溝、外周溝西端から 1m ほど離れた場所に土坑を伴った建物跡である。第Ⅰ期から第Ⅱ期へと拡張が行われ、これに伴って、他の施設も外側へ移っている。なお掘立柱建物については新旧関係を確認できる材料がないため、位置的な関係から判断したものである。出土遺物から、9 世紀後半に使用された住居跡で、出土遺物や住居の構造から B 区の中でも古い段階のものと思われる。（畠山・杉野森）

第 5 号竪穴住居跡（BSI5）（図 30・109）

［概要］竪穴住居跡に外周溝が付属する建物跡である。緩斜面上に構築されているが、大部分を破壊され、斜面上の上方部分での確認である。
［位置］CG － 221 グリッドで確認した。緩斜面に位置し、確認面での標高は 21.3 ～ 21.6m である。
［重複］斜面下方の北側は大きく削平されているのに加え、第 6 号溝跡にも破壊されている。

竪穴部

［平面形・規模］南側の部分しか検出できなかった。平面形は方形を基調とする形状であり、南壁は 2m40 ㎝である。残存する床面積は 2.7 ㎡である。住居跡の軸方向は N － 115° － E である。
［堆積土］確認面から床面まで 10 ㎝前後の深さしかないが、細かく 7 層に分層出来た。炭化物（材）を含んだ黒褐色土が主体となっている。
［炭化材］床面直上から床面にかけて若干の炭化材が検出された。多くは板材と思われる。壁際には腰板が検出されている。炭素年代測定結果は 8 世紀後半から 9 世紀初頭である。
［壁・床面］残存する壁高は 15 ㎝前後で、腰板（炭化材）が見られた。床面はほぼ平坦である。
［カマド］検出できなかった。

［壁溝］南壁の西側で検出できなかったが、ほかの場所で検出できた。幅 10 ～ 16 ㎝、深さ 10 ～ 16 ㎝である。
［ピット］２基のピットを検出した。ピット１は床面西側に検出され、17 ～ 33 ㎝の深い部分が３ヶ所検出されている。ピット２は壁溝からつながった状態で検出された。深さ 26 ㎝である。
［出土遺物］少量の遺物が、床面直上から床面にかけて出土している。床面から 13 ㎝上の堆積土から須恵器の壺の底部が出土している。

外周溝

［位置］住居跡の南側から西側にかけて、外周溝が検出された。住居跡からは1m30～40㎝離れている。
［平面形・規模］溝の幅は 35 ㎝前後、深さ 10 ～ 15 ㎝の浅い溝である。［堆積土］検出面で白頭山火山灰がブロック状に混入する。［出土遺物］なし。
［小結］類似遺構では、掘立柱建物跡が付随する場合が多いが、撹乱のため確認できなかった。出土遺物から９世紀後半以降に使用された住居跡と考えられる。（畠山）

第６号竪穴住居跡（BSI6）（図 32 ～ 35・101・109・110・128・129）
［概要］標高 16.5 ～ 17.5m の北側緩傾斜地で確認された竪穴住居跡に外周溝と掘立柱建物跡が付属する建物跡である。火災住居跡であり、竪穴内全体から炭化材を検出している。北西側の外周溝、竪穴住居内床面の一部が削平を受けている。外周溝は平成 12 年の調査では BSD3 として確認されたものである。
［位置］DC － 212 ～ DF － 215 グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。
［重複］調査当初、外周溝北西側の途中に土坑状の広く深い掘りこみが確認されたため、当初 BSK14 として調査したが、外周溝に付随するものとして取り扱うこととする。遺構番号は変更せず、そのままである。

竪穴部

［平面形・規模］東西壁は 5m、南北壁は 6m56 ㎝で、やや南北に長い方形である。床面積は 24.8 ㎡である。
［堆積土］８層に分層できた。第１層中に白頭山火山灰を含む。火山灰は住居内ではあまり検出されず、一部でブロック状に認められるのみである。その直下はローム混じりの土が堆積する。
［炭化材］住居跡中央から南西付近で、白頭山火山灰直下の床面直上及び床面上に検出された。炭化材の遺存状態はあまり良くないが、板状のものが主に検出され、同一方向に延びる炭化材のまとまりをいくつか想定できると思われる。樹種同定の結果、クリ、アサダ、アスナロ、モクレン属などが使用されている。炭化材の炭素年代測定結果は９世紀前半から 11 世紀前半である。
［壁・床面］床は、漸移層の第Ⅲ層上面に構築されている。住居中央付近は床と地山の境が明瞭でなく、起伏が大きい。東壁周辺と南西角でロームブロックが水平に広がる範囲（第５層土）を確認したが、これらは起伏があり、厚さも均一でない。全体的に南東方向に床が傾斜している。壁はその立ち上がりをほとんど確認できなかった。
［カマド］南壁中央からやや西側付近で南北約 1m50 ㎝、東西約 50 ㎝の焼土の広がりが確認され、白色粘土が塊状に広がっていた。カマドはこの下部で検出されている。焼土・粘土範囲はカマドの位

置よりも若干西側に広がっている。カマドの煙道部及び煙出部は検出されなかった。カマド燃焼部は直径 40 ㎝の不整円形で、厚さ 5 ～ 7 ㎝程被熱し、南壁側に向かってごく緩やかに立ち上がっている。カマド袖は左右とも残存し、規模は長さ 50 ㎝、幅 10 ～ 20 ㎝である。灰白色粘土と黄褐色土を用いて作られ、ほぼ垂直に立ち上がっている。また、燃焼部の最奥中央では甕の底部片を逆さにした状態の支脚が検出された。この支脚の上部には別個体の甕底部片が残存している（109 － 8）。この底部は住居内堆積土と BSK14 の堆積土から出土した遺物と接合した。カマドの構築方法としては、第Ⅲ層を掘りこみ、壁溝を灰黄褐色土の土で埋め、その上にカマド底面を構築したと思われる。このほか、南壁東側では焼土塊・白色粘土が混在した状態で集中する範囲が確認された。この範囲から遺構は確認できなかったが、堆積状況からカマド等の施設が廃棄された可能性もある。主軸方向はＮ － 128° － Ｅである。

［壁溝］壁溝は削平部分を除き、全周している。溝の規模は幅 15 ～ 35 ㎝、深さ 20 ～ 30 ㎝。北～北東壁側の溝は、幅 40 ㎝程度掘り込み、ロームブロック混じりの土で床側の溝を固めてから、幅 15 ㎝程にして使用している。壁側を溝として使用している。

［ピット］周溝及び床面から 31 基のピットを検出した。このうち主柱穴は、ピット 1・2・17・21 である。柱穴の間隔は、ピット 21 とピット 1 では 3m5 ㎝、ピット 1 とピット 2 では 2m83 ㎝、ピット 2 とピット 17 では 3m25 ㎝、ピット 17 とピット 21 では 2m70 ㎝である。このほか、壁際で検出したピットは壁柱穴と考えられ、70 ㎝～ 1m60 ㎝程の間隔で主柱穴配置の延長線上やその補助的役割を果たすものと並んでいる。また、西側の壁柱穴と東側壁柱穴のピット 5・18 など、ピットが重複しているものや近接して 2 基検出されているものもあり、柱を建て替えた可能性もある。また、南東隅付近では、直径 20 ㎝未満のピットが集中して検出された。これらのピットの機能は不明であるが、この上面では比較的厚く焼土が堆積しており、何らかの関係を持っていた可能性もある。

［土坑］北壁付近で検出されたピットは住居跡の床下土坑（BSI6SK1）と考えられる。平面形は隅丸長方形で規模は 82 ㎝× 64 ㎝、深さ 28 ㎝であり、堆積土上位に白頭山火山灰が混入している。

［出土遺物］カマド上部で遺物の集中範囲が見られ、この中に個体がまとまって出土したものもある。これらの中に、カマドに使用されたと思われるものも出土している。出土した遺物は土師器、須恵器、砥石、磨り石、土製品、羽口等である。床下土坑からは土師器片、礫、鉄製品が出土している。

掘立柱部

［位置］竪穴部と掘立柱部が離れているが、竪穴部の南北方向・東西方向と建物跡の二方向が同じ軸の方向であったため、本住居跡に伴うものとした。竪穴部と掘立柱部の距離は約 6m である。検出された柱穴は合わせて 5 基で、南東隅に柱穴が検出できなかったものの 2 間× 1 間に近い 1 棟の掘立柱建物跡が想定される。［平面形・規模］2 間× 1 間の建物跡の可能性もあるが、東西列が 2m20 ㎝＋ 1m94 ㎝、南北列が 2m60 ㎝、2m50 ㎝と不揃いな配置である。柱穴は直径 20 ～ 30 ㎝で、深さ 10 ㎝前後である。［堆積土］堆積土はいずれも黒色土主体で、中には焼土粒を含むものもある。

［小結］竪穴部と掘立柱部の距離が離れており、この中間にも何らかの施設が存在した可能性がある。

外周溝

［位置］住居跡の東～北～西の三方向に検出されたコの字形の外周溝である。溝の南西端は住居を囲むように屈曲している。［平面形・規模］外周溝の規模は幅 40 ～ 90 ㎝の範囲で、概ね 60 ㎝程度で

ある。深さ 50 ～ 60 ㎝で、断面形が逆台形状である。溝の南西端部・北西部・東端部はそれぞれ異なる形状であり、南西端は浅く広い皿状の掘りこみ、北西部は大きく深い土坑状で、東端は溝底面にピット状の深い掘りこみが見られる。北東側底面には構築時の掘り込みによる掘削痕が一部で確認できた。溝と竪穴部分からは 60 ㎝～ 1m90 ㎝前後離れている。［堆積土］黒色土主体の堆積土で、堆積土上位で白頭山火山灰の二次堆積が見られる。北西部の掘りこみでは堆積土中位で火山灰が確認されている。［出土遺物］北西部の掘りこみで底面直上から遺物がまとまって出土しているが、これ以外は堆積土中から、わずかに出土するのみである。

第 14 号土坑（BSK14）（図 32・34）

［位置］外周溝北西側の中央、DC － 212・213 グリッドに位置する。［平面形・規模］検出面は直径 2.8m の円形､底面は直径 2m の隅丸円形である。深さは検出面から 1m､外周溝底面から 40 ㎝である。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がり、途中から外反し、大きく開く。［堆積土］上位は黒褐色土と暗褐色土を主体とし、下位は褐色土と明褐色土が加わる。上位と下位はローム粒を全面に含むが、中位から下位にかけて白頭山火山灰がブロック状に混入し、下位で厚さ 15 ㎝弱の層状に堆積する（第 13 層)。［出土遺物］火山灰の上層から多量に出土した。そのうち 3 個体は住居の遺物と接合した。

［小結］白頭山火山灰降下直前に廃絶された住居跡と思われる。　（坂本）

第 7 号竪穴住居跡（BSI7）（図 36・37・110・131・132）

［概要］外周溝を伴う焼失家屋である。表土除去後、基本層序第Ⅳ層面で暗褐色土の方形プランを確認した。拡張が行われ、拡張後を第Ⅱ期、拡張前を第Ⅰ期とする。調査段階で第 9 号溝跡は遺構番号を別にしたが、堆積土に差がないことや溝の傾斜する方向から、外周溝の延長と考えられるため、住居跡に関連する遺構として報告する。

［位置］調査区東側、中央の谷に突き出た突端部、標高 17m の平坦面に構築される。EI ～ EK － 232 ～ 234 グリッドに位置する。

［重複］外周溝が第 8 号溝跡と重複する。新旧は不明である。

［関連遺構］第 9 号溝跡が外周溝の延長と考えられる。

第Ⅱ期（拡張後）

竪穴部

［平面形・規模］東西方向 3.38m、南北方向 4.0m の南北方向の伸びる長方形である。南東壁の両隅はやや張り出し気味である。床面積は 11.1 ㎡である。

［堆積土］暗褐色土を主体とし、ロームと炭化物・焼土が全面に含まれる。

［炭化材］床面で炭化材が確認された。床面中央を除く、壁際から 1m 内側に炭化物と炭化材が密集する。南西壁際には厚さ 5 ㎝以下の炭化材が並んで検出した。壁溝に設置された腰板と考えられる。このほか、板材が検出されている。使用された樹種はクリが少なく、トネリコ属・キハダ・ブナ属・スギなどが検出された。炭化材の炭素年代測定結果は 7 世紀後半から 8 世紀後半である。

［壁・床面］壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。残存する壁高は 10 ～ 15 ㎝である。床は基本層序第Ⅳ層まで掘り込まれている。掘り方底面は起伏が少なく、深さは床面から約 5 ㎝で、一部 10 ㎝に達する。掘り方は黒色土混じりの明褐色土で埋められている。床面は平坦である。

［カマド］南西壁の南際に位置し、燃焼部・煙道部の検出状況が良好である。主軸方向はＮ－ 128°－Ｅである。袖は粘土で構築され、幅 15 ㎝長さ 40 ㎝程である。残存する高さは 10 ㎝前後である。焚き口幅 55 ㎝である。燃焼部底面は 70 × 45 ㎝の範囲と広く被熱し、深さ 10 ㎝ほど焼土が堆積する。煙道部は長さ 1.58m 幅 55 ㎝である。燃焼部から緩やかに昇り、深さは検出面から 10 ㎝ほどである。断面形はＵ字形を呈するが、底面には凹凸がみられる。

［壁溝］カマドと北東壁で途切れるがほぼ一巡する。上面幅は北西壁で 10 ㎝、その他の壁では 15 ㎝である。底面幅は 5 ㎝とほぼ一定である。深さは床面から 20 ㎝で、断面形はＵ字形を呈する。南隅に柱穴と考えられるピットが存在する。深さは壁溝底面から 9 ㎝である。

［ピット］壁柱穴が 1 基確認された。

［土坑］土坑が 3 基検出された。土坑 1（SK1）は上面 45 × 90 ㎝・底面 35 × 60 ㎝・深さ 17 ㎝である。炭化物と焼土を斑状に含む褐色土が堆積する。土坑 2（SK2）は上面 30 × 45 ㎝・底面 25 × 40 ㎝・深さ 15 ㎝ほどである。隣接する土坑 1 同様、炭化物が混入し、焼土が厚く堆積する。土坑 3（SK3）はカマドの近くに位置し、規模は 60 × 40 ㎝・深さ 17 ㎝である。断面形は逆台形を呈する。復元可能な甕の破片が出土している。

［出土遺物］遺物はカマド周辺に集中し、羽口、土製品、土師器塝、鉄製品が出土している。床面出土遺物は他の住居に比べ多く、特に SK1・2 付近にまとまる。床面から土師器甕・坏が出土した。

外周溝

［位置］住居南側と西側に位置する。住居跡からの距離は 2.5m である。［形態・規模］北西から直線的に伸び、途中で東に緩やかに曲がる。幅は約 22 ㎝とほぼ一定であるが、湾曲部分は 30 ㎝と広がる。深さ 10 ～ 19 ㎝である。溝底面の傾きは一方向へではなく、西側の落ち込みから一方は南側へ、他方は北側へと下降する。底面には掘削時の工具痕がみられ、断面形はＵ字形を呈する。［堆積土］ローム と炭化物混じりの黒～褐色土を主体とする。［出土遺物］なし。

第 9 号溝跡（BSD9）（図 36）

［位置］第 7 号住居跡の南側、EK － 235 グリッドに位置する。［形態・規模］長さ 4.25m・幅 20 ～ 30 ㎝のやや蛇行する溝跡である。深さは約 10 ㎝である。北西から南東に下降する。［堆積土］外周溝同様、ロームと炭化物混じりの黒褐色土が堆積する。

第Ⅰ期（拡張前）

竪穴部

［平面形・規模］第Ⅱ期のカマド調査時に、30 ㎝南側にもう一つカマドを確認した。残存する南東壁長は 1.5m である。主軸方向は建て替え前の住居と同様と思われる。

［堆積土］ローム粒混じりの暗褐色土である。

［壁・床面］床は基本層状第Ⅳ層面を床面とし、建て替え後の住居より若干高い位置にある。壁は床から垂直に立ち上がり、残存する高さは 10 ㎝である。

［カマド］カマドは燃焼部分が検出された。本来、南東壁の中央または北寄りに位置していたものと思われる。燃焼部は粘土で構築された袖の一部が残存し、袖の規模は幅 10 ㎝・長さ 20 ㎝である。焚き口幅は約 30 ㎝である。火床面は検出されなかった。

［小結］本調査区の他の住居跡は南東壁をそのままとし他の 3 方向に拡張するが、本住居跡は南東壁

の南隅を基点に、軸を若干移動して拡張したものと考えられる。出土遺物から、９世紀代に使用されたものと思われる。（杉野森）

第８号竪穴住居跡（BSI8）（図 31）

［概要］外周溝を伴う住居跡である。基本層序第Ⅲ層で黒褐色土の方形プランで壁溝のみを確認した。北側は運動公園造成時に削平されている。

［位置］調査区中央、DC･DD － 228･229 グリッドに位置する。標高 20m 前後のほぼ平坦面である。

竪穴部

［平面形･規模］北側が削平されているが、南北方向に伸びる長方形である。東西方向は 3.26m である。南北方向は 3.66m が残存する。残存する床面積は 8.3 ㎡である。主軸方向はＮ － 116° －Ｅである。

［壁・床面］［カマド］［ピット］検出されなかった。

［壁溝］上面幅 20 ～ 30 ㎝・底面幅 15 ㎝の壁溝が巡る。深さは南壁では約 20 ㎝、東壁で 27 ㎝、西壁で 13 ㎝となる。断面形はＵ字形である。黒褐色土または黄褐色土が堆積する。

［出土遺物］なし。

外周溝

［位置］住居跡から西側に 1.9m、南側に 1.5m の距離に位置する。北側は削平により検出されなかった。

［形態・規模］平面形は半円状を呈する。南側にやや幅広の長円形の落ち込みを伴う。溝幅は西側が 60 ㎝で、南側に向かい徐々に広がり、南側では 90 ㎝に達し、さらに南端に向かい収縮する。底面は幅 30 ～ 40 ㎝である。溝の傾斜は南西隅が一番高く、南側と北側に下降する。深さは南西隅が 11 ㎝と一番浅く、最大 40 ㎝となる。南側の長円形の落ち込みは深さ 70 ㎝とさらに深くなる。溝底面には掘削時の工具痕が残る。［堆積土］黒褐色土を主体とし、一部褐色土が堆積する。［出土遺物］なし。

［小結］本調査区において最も小型の住居跡で、時期は不明である。（杉野森）

第９号竪穴住居跡（BSI9）（図 38・101・111・130）

［概要］外周溝を伴う住居跡で、拡張が行われている。基本層序第Ⅲ層面で確認した。遺構の大部分が削平を受け、特に住居の南側と東側は大きく破壊されている。住居は拡張後を第Ⅱ期、拡張前を第Ⅰ期とする。また、外周溝は拡張により作り替えられ、拡張前に伴う内側を SD1、拡張後に伴う外側を SD2 として調査を行った。

［位置］調査区中央標高 21m のほぼ平坦面、CS ～ DA － 228 ～ 231 グリッドに位置する。

第Ⅱ期（拡張後）

竪穴部

［平面形・規模］北東・北西側に拡張されている。残存する壁溝から、東西方向は約 5.6m である。南北方向は 5m のみ残存する。残存する床面積は 23.3 ㎡である。主軸方向はＮ － 118° －Ｅである。

［堆積土］黒褐色土を主体とする。全体に炭化物粒・焼土・ローム粒が含まれる。

［壁･床面］壁は全て削平され、立ち上がりを確認できなかった。床は基本層序第Ⅳ層まで掘り込まれ、掘り方底面には起伏があり、ローム混じりの黒褐色土で埋められている。床面は西から東に若干傾斜する。

［カマド］崩落したカマドの構築土が残存するのみである。暗褐色土と焼土混じりの粘土が 50 × 140 ㎝の範囲に残存し、炭化物粒が斑に混入する。土師器片も多量に出土している。カマドは南東壁の南寄りに位置していたと予想される。

［壁溝］3 方向の壁で確認され、残存する長さは北東壁 4.1m、南東壁 2.2m、北西壁 80 ㎝である。東隅で一端溝は途切れる。幅は北東・南東壁の 20 ～ 25 ㎝に対し、北西側は 55 ㎝と広い。底面幅も同様で、北東・南東側が 10 ㎝、北西側が 25 ㎝となる。深さは検出面から 10 ㎝未満で、断面形は箱形を呈する。

［ピット］ピットは 11 基確認され、ピット 7・10 が拡張後に伴うものである。ピット 10 は壁溝の柱穴である。平面形は方形で、深さは壁溝底面から 18.5 ㎝である。ピット 7 は 20 × 40 ㎝の楕円形である

［出土遺物］カマドから土師器甕の底部、口縁部片が出土した。床面から遺物は出土していない。

外周溝（BSI9SD2）

［位置］住居南側、西側、北側に位置する（SD2）。住居跡からの距離は北側・西側とも 2.7m である。南側もほぼ同距離上に位置するものと想定される。［形態・規模］平面形は U 字形を呈し、両端部は住居側に曲がる。幅は 1m 前後で、先端に向かいやや広くなる。北側では一部 70 ㎝と狭くなる。底面幅は 30 ～ 70 ㎝とばらつく。底面はやや起伏があるが、大半は平坦である。断面形は U 字形・箱形・逆台形となる。南端部は上面が直径 2m、底面が 1.8m の円形となる。底面は南西隅から一方は北側に、他方は南側に向かって下降する。上面からの深さは 30 ～ 50 ㎝である。南端部手前は上面 110 × 230 ㎝、底面 70 × 200 ㎝の長方形で溝の底面からさらに 10 ㎝掘り込まれている。［堆積土］黒褐色土を主体とする。下位はローム混じりの暗褐色土、その上に黒褐色土が堆積し、さらに上には火山灰が帯状に混入する。［出土遺物］土師器と須恵器甕・坏の破片、刻書土器、製塩土器片、砥石が多く出土している。

第Ⅰ期（拡張前）

竪穴部

［平面形・規模］壁溝と壁柱穴が残存する。一辺 4m の方形である。推定床面積は 13 ㎡である。主軸方向は拡張後と同じである。

［堆積土］残存していない。

［壁・床面］壁と床は拡張時に壊されている。

［カマド］検出されなかった。

［壁溝］4 壁で検出されている。本来は一巡するものと思われる。規模は上面幅 30 ㎝・底面幅 10 ～ 20 ㎝、深さは 10 ～ 18 ㎝である。

［ピット］壁柱穴が 10 基検出された（ピット 1 ～ 6、8 ～ 11）。ピット 10 は第Ⅰ期と第Ⅱ期に伴う。ピットの上面は楕円形または円形を呈し、底面は隅丸方形となる。

外周溝（BSI9SD1）

［位置］住居北側と西側で検出された（SD1）。南側は削平により検出できなかった。住居跡からの距離は 2m である。［形態・規模］コの字形を呈するものと思われる。西側は上面幅 40 ㎝・底面幅 20 ㎝と狭く、北側は上面幅 90 ～ 120 ㎝・底面幅 50 ～ 80 ㎝と端部に向かって広くなる。深さは 30 ～ 40 ㎝である。底面は SD2 に比べ起伏が多い。断面形は逆台形を呈する。［堆積土］ローム炭化物混じりの黒～褐色土を主体とする。人為堆積と思われる。［出土遺物］土師器甕・坏の破片が出土した。

［小結］火山灰の堆積状況から 10 世紀初頭以前に廃絶されたものと思われる。　（杉野森）

第 10・11 号竪穴住居跡（BSI10・11）（図 39 ～ 41・101・102・111 ～ 115・128 ～ 132）

［概要］外周溝と掘立柱建物跡を伴う。表土除去後、DA ～ DK － 232 ～ 239 グリッドの範囲では基本層序第Ⅱ層・Ⅲ層中に遺物が集中することで、遺構の存在を予想して掘り下げた。基本層序第Ⅲ層下位でローム粒が混入する暗褐色土の方形の落ち込みと２本の外周溝を検出した。先に外周溝の新旧を確認したが、住居跡の重複または拡張によるものかを判断できなかったため、西側寄りの新しい外周溝を第 10 号竪穴住居跡の外周溝（BSI10SD1）とし、東側の古い方を第 11 号竪穴住居跡に伴うもの（BSI11SD1）とした。竪穴部は BSI10 として掘り下げ、ピットは BSI10 に関連するものとして調査した。カマドは２つ検出し、袖の残存する西側のカマドを新しい住居に伴うもの（BSI10）、火床面のみの東側のカマドを BSI11 に伴うものとした。さらに、第 66 号土坑は整理段階で、遺物の接合状況や土坑の規模・配置から住居に伴うものと判断し、BSI10 ピット 32 に振り替えた。調査時に拡張の前後の認識が不十分であったため、カマドを除き BSI11 に伴う遺物を正確に捉えられていない。よって、ここでは竪穴部から出土した遺物は BSI10 として扱っている。

［位置］調査区中央、標高 20.5 ～ 21.5m の緩斜面に位置する。DF ～ DI － 233 ～ 236 グリッドに跨る。本住居跡の周辺には不整円形の土坑が集中する。

［重複］古い順から第７号溝跡→第 11 号住居跡（拡張前）→第 10 号住居跡（拡張後）→第 10 号溝跡と重複する。第 62 号土坑が接する。拡張前の第 11 号竪穴住居跡を第Ⅰ期、拡張後の第 10 号竪穴住居跡を第Ⅱ期として報告する。

第Ⅱ期：第 10 号竪穴住居跡（BSI10）（拡張後）

竪穴部

［平面形・規模］南西から北東方向が 7.05m、北西から南東方向が 6.4m の南北に広がる長方形である。床面積は 36 ㎡である。

［堆積土］調査時には 51 層に細分したが、火山灰を基準に上位から A ～ E 層の５つに大別される。火山灰の上位の A 層（1 ～ 3 層）は黒褐色土を主体とする。B 層は白頭山火山灰層である（4、6、33、35 層）。厚さは 10 ㎝で、ほぼ全面に堆積する。火山灰の下位は２つに区分され、C 層（7、9、11 層）は焼土化した黄褐色ロームや粘土層で、西壁際に堆積する。中央から東側は炭化材や焼土を含む黒褐色土が厚さ８㎝程で広く堆積する D 層（10、16 ～ 18、38 ～ 42、50 層）である。C・D 層の下位の E 層は黒褐色土と暗褐色土と黄褐色ロームがブロック状に混在する（19 ～ 24、26 ～ 29、43、46 ～ 49、51 層）。

［炭化材］炭化材は南西側に見られ、北東側には炭化物粒が散在する程度である。炭化材の残存状態は良好で、板材や角材がみられる。材の大きさや種類から、壁板もしくは天井を構成していた部材と思われる。樹種同定の結果、クリ、モクレン属、ヒノキ科の木材が検出された。炭素年代測定結果は 10 世紀代であった。

［壁・床面］調査段階で床面を正確に把握できなかった。カマドの火床面と堆積土の状況から、C・D 層（炭化物層）と E 層の境が床面と考えられる。南北方向で 20.90m、東西方向は西から東に傾斜し 20.90m ～ 20.80m が本来の床面の高さと推測される。よって、E 層は掘り方埋土に相当し、断面で見る限り、若干起伏のある床面と考えられる。壁は途中、屈曲して立ち上がる。

［カマド］南東壁の東 2：南 1 の割合で南寄りに位置し、燃焼部と煙道部が検出された。燃焼部の手前は BSD10 に削平されているが、残存状況は良好である。両袖とも芯材に扁平な礫を直立させ、周りを粘土で固めたものである。規模は左袖 20 × 100 ㎝、右袖 15 × 80 ㎝である。焚き口幅は 55 ㎝である。火床面は強く被熱し、深さ 10 ㎝に達する。火床面の上には焼化した暗褐色土や粘土が堆積する。これらはカマド天井部の崩落土と考えられる。煙道部は造成時に削平され掘り込みを確認できなかった。主軸方向はＮ－ 130°－Ｅである。カマド燃焼部から土師器坏が伏せられた状態で出土した。支脚に転用されたものと思われる。他に台石も出土している。

［壁溝］南隅が削平されているが、ほぼ全周するものと思われる。上面幅 25 ～ 40 ㎝、底面幅 10 ～ 20 ㎝、推定床面ラインの深さは 20 ～ 30 ㎝である。

［ピット］33 基検出され、29 基が本住居に関連する可能性がある。ピット 3・21・4・5・7・25・20・24 の 8 基が本住居跡の壁柱穴である。ピット 29 ～ 31 のいずれかは壁柱穴の可能性がある。配置からピット 9・10・11・33 を主柱穴として想定可能だが、規模・堆積土から決め手に欠ける。

［出土遺物］堆積土中から土師器・須恵器の破片、土製品、石製品、製塩土器片、支脚片、砥石が出土した。カマド周辺、特に東側に分布する。

掘立柱部

［位置］第 10 号住居跡の南側でピットが 15 基検出された。この内、9 個は規則的に配置され、建物跡として捉えた。掘立柱部は南東壁から僅か 20 ㎝の距離に位置する。［形態・規模］北東列 4.6m、南西列 4.8m、北西列 4.0m、南東列 4.2m のほぼ方形である。南東列は 5 個の柱穴がほぼ等間隔で並ぶ。北西列の中央は削平により、柱穴を検出できなかった。2 間× 2 間の掘立柱建物跡と思われる。柱穴は確認面で直径 30 ～ 50 ㎝、底面径 10 ～ 20 ㎝の円形である。検出面からの深さは 13 ～ 68 ㎝とばらつきがみられる。ピットの底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。［堆積土］15 基とも、ローム粒・炭化物粒が混入する黒褐色土を主体とする。部分的に褐色土やロームブロックが入る。

外周溝

［位置］住居跡の南・西・北側に位置する。住居跡からの距離はそれぞれ 2.8m、2.9m、2.6m である。［形態・規模］コの字形を呈する。端部は南側・北側とも住居側に湾曲する。西側と北側の幅は 70 ㎝～ 1m 前後とほぼ一定であるが、南端部は幅 1.7m と広がり、先端は方形を呈する。底面幅も上面同様、幅 50 ～ 70 ㎝と一定となるが、南端部は 1.3m と広がり、底面形状は長方形となる。底面の傾斜は南側と北側では小さいが、西側から北側へはなだらかに下降する。断面形はＵ字形・逆台形となる。［堆積土］暗褐色土・黒褐色土を主体とする。下層に比べ上層は締まりが強い。南端部には粘土・焼土塊が堆積する。上位に白頭山火山灰がレンズ状に堆積する。［出土遺物］東側先端部のクランク状の部分（BSI10SD1SK1）、長さ 2m 幅 1m 範囲に遺物が密集する。多量の土師器・須恵器の破片と土製品、鉄製品が出土している。

第Ⅰ期：第 11 号竪穴住居跡（BSI11）（拡張前）

竪穴部

［平面形・規模］［堆積土］［壁・床面］竪穴部は拡張時および、公園造成時に削平されているため、形状は不明である。堆積土は残存しない。

［カマド］南東壁に位置する。燃焼部は 40 × 60 ㎝の範囲で火床面が検出された。被熱は深さ 13 ㎝に達する。煙道部は明瞭な掘り方の痕跡はないが、堆積土が残存している。堆積土は焼土を多量に含む黒褐色土である。堆積土中から土製品、砥石として使用された礫が出土した。火床面の高さは拡張後（BSI10）のカマドの火床面と同じ高さである。

［壁溝］本住居跡に伴う明確な壁溝は確認されなかった。BSI10 カマド構築時に南東壁溝が完全に埋められていることから、南東壁溝は本住居でも使用された可能性が高い。

［ピット］ピット 22・26 は BSI10 カマド燃焼部の下に位置すること、ピット 16・32 は BSI10 の外側に位置することから、この４基は本住居跡に伴うものである。この他のピットも配置から使用していた可能性が考えられるものもある。

［出土遺物］カマド燃焼部と煙道部から出土したのみである。

外周溝

［位置］南東側に開口部をもつ。［形態・規模］南東側が開口部するコの字形を呈する。南側先端部は削平されている。幅はほぼ一定で、西から北側が 1.3m、南側は 70 ㎝～ 1m である。北側に楕円形・円形の落ち込みを有する。底面は SI10SD1 同様、西側から北側に下降する。断面形状は箱形・U 字形となる。［堆積土］黒褐色土を主体とする。北側の落ち込みから遺物と共に粘土･焼土塊がまとまって出土した。炭化材が部分的に混入する。［出土遺物］北側の円形･楕円形の落ち込み（BSI11SD1SK1）から出土している。羽口、土師器甕・坏、須恵器甕、製塩土器片、焼けた礫、磨石、鉄製品が出土している。

BSI11 の竪穴部について

拡張前後の外周溝とカマドの距離が一定であることから、拡張は西側に約２m 移動したものと予測される。さらにカマドの位置を BSI10 同様、東 2：南 1 とし、竪穴部の規模を同一に設定すると、竪穴部と外周溝の距離が 3 方向とも BSI10 とほぼ一致する。また、カマド火床面が同一の高さであることから､拡張時に床面の高さを拡張前と同じにして作り替えられたものと思われる。これらから、BSI11 の竪穴部は拡張後とほぼ同規模と考えられる。ピット 32 は北東隅寄りに位置する柱穴、ピット 33・9・21・4・22・26 が壁柱穴となる。BSI10 の竪穴部と BSI10SD1 東側の間は公園造成時に削平されているため、BSI11 の柱穴と壁溝も削平された可能性もある。

［小結］拡張は同規模のままで、東側から約 2m 西側に移動したものと思われる。火山灰降下前に廃絶された焼失家屋である。BSI11SD1SK1 の遺物が BSI10 の外周溝や竪穴部の遺物と接合することから、拡張時に拡張前の外周溝を埋めきらずに、拡張後も使用していたことがわかる。出土遺物が多種多量で､本住居周辺の遺構や遺構外からも同様の遺物が出土している。このような遺物の状況から、他の住居跡とは異なる使われ方をしていたことが予想される。9 世紀後半から 10 世紀初めの間に使用されたものと思われる。（杉野森）

第 12 号竪穴住居跡（BSI12）（図 43・116）

［概要］外周溝と掘立柱建物跡を伴う。基本層序第Ⅲ層上面でロームブロック混じりの暗褐色土の方形プランで確認した。外周溝と竪穴部は部分的に削平されている。

［位置］調査区中央の標高 19m の平坦面、DI ～ DK － 227・228 グリッドに位置する。

［重複］第 13 号竪穴住居跡と重複し、本遺構が古い。

竪穴部

［平面形・規模］中央部は第 13 号竪穴住居跡の外周溝に大きく削平されている。南北方向 4.5m、東西方向は北東壁 3.9m、南西壁 4.3m と一方が 30 ㎝長く、西隅がやや張り出す長方形である。床面積は 14.3 ㎡である。主軸方向はＮ－ 116°－Ｅである。

［堆積土］褐色土と黒褐色土が混在する。人為堆積と思われる。暗褐色土を主体とし、ロームと炭化物・焼土が全面に含まれる。

［壁・床面］壁・床面とも南西側で確認できたが、その他は削平され、壁溝のみである。基本層序第Ⅲ層下面まで掘り下げられ、そのまま床面としている。平坦である。壁は床から垂直に立ち上がり、確認できた壁高は 20 ㎝である。

［カマド］検出されなかった。外周溝に削平された南東壁南寄りに位置していたものと思われる。

［壁溝］ほぼ全周していたものと思われる。規模は上面幅 30 ㎝・底面幅 10 ㎝と一定である。南側壁溝の深さは床面から 20 ㎝である。西側の深さは確認面から 40 ㎝である。東側と北側も確認面から 35・20 ㎝となり、壁溝は南側を除く、3 方は床面から 40 ～ 60 ㎝深く作られたことが考えられる。底面には掘削時の工具痕がみられる。

［ピット］検出されなかった。

［出土遺物］南側で出土している。土師器・須恵器の破片が主で、甕・坏が出土している。

掘立柱部

［位置］住居跡から 1m 東に位置する。［形態・規模］柱穴が 5 基確認された。本来 2 間× 2 間の建物跡と思われる。北側は削平され、柱穴を確認できなかった。東西列は西から 2.0m ＋ 1.5m、南北列は西側 1.9m、東側が 2.0m である。東側のピット 5 は若干東寄りに位置する。ピットの規模は上面径 25 ㎝前後、底面径 15 ㎝前後の円形である。深さは 25 ～ 50 ㎝、断面形は箱形・Ｕ字形・Ｖ字形とばらつく。

［堆積土］ロームや白色粘土混じりの黒褐色土を主体とする。

外周溝

［位置］住居跡から南に 1.4m、西に 1.8m、北に 1.6m に位置する。［形態・規模］コの字形を呈するが、南側は住居跡から徐々に離れる。南側先端部はさらに反れる。北側端部は収縮する形状である。規模は上面幅 70 ～ 80 ㎝・底面幅 20 ～ 40 ㎝とほぼ一定であるが、北側端部は上面幅 1.1m・底面幅 80 ㎝、南側端部は上面幅 1.3m・底面幅 55 ㎝と、端部が広くなる。溝は南側から西側・北側へと下降する。深さは南側の 45 ㎝から北に向かうほど深くなり、北端部では 65 ㎝となる。南側底面には掘削時の工具痕が残る。断面形は南側端部で幅広の箱形になる以外は、Ｖ字または逆台形を呈する。［堆積土］ローム粒と炭化物混じりの黒褐色土を主体とする。部分的にロームブロックが凝縮する箇所がみられる。人為堆積と思われる。［出土遺物］土師器甕・坏の破片が出土した。

［小結］時期不明である。（杉野森）

第 13 号竪穴住居跡（BSI13）（図 43・102・116・128 ～ 130）

［概要］外周溝と掘立柱建物跡を伴う。基本層序第Ⅲ層上面で外周溝を確認でき、当初、溝跡（BSD12）として調査を行ったが、その後、コの字形の溝跡に囲まれた部分で規則的に配列されたピットを検出

し、これらのピットを住居跡の竪穴部と掘立部と認識した時点で、BSD12 を住居跡の外周溝とし、第 13 号竪穴住居跡（BSI13SD1）とした。竪穴部は床面まで削平され、壁柱穴が一部残るのみである。
［位置］調査区中央、DH ～ DJ － 227 ～ 230 グリッドに広がる。標高 19m の平坦面に構築される。
［重複］第 12 号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

竪穴部

［平面形・規模］東西方向は、壁柱穴の配置から約 5m である。南北方向は、壁柱穴のある北東壁と北西壁から外周溝の距離は 2m である。外周溝西側と住居跡までの距離を他の 2 方向と同じく 2m とすると、住居跡の南北方向は約 5m と推測される。住居跡は一辺約 5m の方形と推定され、推定床面積は 25 ㎡である。主軸方向は N － 123° － E である。
［堆積土］［壁・床面］［カマド］削平により、確認できなかった。
［壁溝］東隅に一部残る。残存する長さ 50 ㎝、確認面幅 25 ㎝、底面幅 15 ㎝、確認面からの深さ 15 ㎝である。黒褐色土と暗褐色土が堆積する。
［ピット］壁柱穴が 8 基確認された。確認面では長径 30 ～ 50 ㎝の楕円形、底面が直径 10 ～ 20 ㎝の円形を呈する。断面形は U 字形である。深さは 25 ～ 30 ㎝のものが多いが、ピット 7 は 53 ㎝とより深い。ピットとピットの間隔は北東壁で約 40 ㎝、北西壁で約 1m、南東壁で約 70 ㎝である。
［出土遺物］なし。

掘立柱部

［位置］竪穴部から 1.9m 東側に位置する。［形態・規模］2 間× 2 間の建物跡で、柱穴 9 基が確認された。規模は東西列 2.3m ＋ 2.3m、南北列が北から 2.3m ＋ 2.2m である。南北列東側中央のピット 6 が若干東に張り出す。柱穴は確認面で直径 30 ～ 40 ㎝、底面で直径 10 ～ 20 ㎝の円形である。深さは 35 ～ 62 ㎝と全体に深く、断面形は箱形を呈する。［堆積土］ローム混じりの黒褐色土を主体とする。

外周溝

［位置］住居跡の南・西・北側に位置する。住居跡からの距離は 1.9m である。［形態・規模］コの字形を呈する。西側と北側が一部途切れる。幅は南側で 1m 前後で、西・北側に向かい広くなり、最大幅は 1.9m となる。底面幅も南側の 40 ㎝から西側・北側に向かって広がり、最大幅 1m となる。底面は平坦となる箇所が多い。溝跡の壁は底面からやや垂直に立ち上がり、途中から外反する。断面形は逆台形を呈する。深さは 50 ～ 65 ㎝である。底面は西隅から北側に向かい下降する。もう一方は西隅から南側へ極々緩やかに傾く。南端部に直径 20 ㎝弱の円形のピットを有する。［堆積土］下位はローム塊混じりの褐色土が堆積し、人為堆積の可能性がある。上位は炭化物粒・焼土粒・ローム粒混じりの黒褐色土が堆積する。［出土遺物］堆積土から、土師器坏の破片が最も多い。他に土師器甕、須恵器片、製塩土器片、土玉、土製品、鉄製品、敲き石が出土した。
［小結］時期決定可能な要素に欠けるが、重複関係と外周溝・掘立部の規模が大型化することから本遺跡の中でも新しい段階のものと思われる。（杉野森）

第 15 号竪穴住居跡（BSI15）（図 44・45・102・117・128）

［概要］本住居跡は標高 24m ほどの、本遺跡の中では高い斜面上に位置する。北側は厚く削られ、比高差約 4m の崖状となっている。表土除去後、黒色土中の火山灰の広がりによって確認した。竪

穴と外周溝で構成されるが、掘立柱建物部については、確認作業を行ったものの、見落としている可能性が高い。本来的には他の住居跡と同様、3 つの要素が揃っていたものと思われる。また、南側では床面から不連続の溝が検出され、造り替えが行われた可能性がある。

［位置］CO ～ CS － 241 ～ 243 グリッドに位置する。

［重複］なし。ただし、北側が運動公園造成時に大きく削られている。

竪穴部

［平面形・規模］北東－南西 6.3m、北西－南東 5.75m の長方形を呈する。床面積は 26.1 ㎡である。

［堆積土］5 層に分層した。1 層には灰白色火山灰が多量に含まれる。竪穴部･壁溝からも検出されるが、特に顕著なのはそれらの間の部分である。この火山灰は肉眼観察では白頭山火山灰である。また、最下層の 4・5 層からは焼土が多量に出土した。これは住居跡南西からのみ検出されている。

［炭化材］［その他の施設］で述べる溝の南西側に沿うように炭化した板材が出土した。厚さは 2 ～ 3 ㎝で脆く取り上げはできなかった。炭素年代測定結果は 8 世紀後半から 9 世紀代である。

［壁･床面］壁は標高の高い南側でのみ確認された。ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は最大で 24 ㎝である。第Ⅳ層を床面とし、貼り床は明確ではない。硬化面はなく、非常に軟弱でわかりにくい。

［カマド］半地下式のカマドで、火床面と袖の一部が確認された。袖は白色粘土で構築される。火床面は壁から 50 ㎝離れた位置にあり、直径 30 ㎝の不整円形を呈する。主軸方位はＮ － 128° －Ｅである。

［壁溝］壁溝はカマド煙道部を除き全周する。底面は部分的に凹凸があるが、床面からの深さは最大で 30 ㎝ほどであるが、平均すると 15 ㎝前後である。

［ピット］9 基のピットを確認した。ピット 3・4 が古い段階の、ピット 1・2 が新しい段階の主柱穴の可能性があるが、北側に対応するピットを検出できなかったため、主柱穴配置は不明である。ピット 7 の底面中央には周囲より 8 ㎝ほど深い筋状の落ち込みが確認された。

［その他の施設］南東壁側で北西壁から南東壁に横断するように不連続の溝状の落ち込みを 2 条検出した。床面からの深さは内側で 11 ～ 20 ㎝、外側では 7 ～ 16 ㎝である。内側は南東壁側にも溝が延び、北東側の壁はそのままとして、当初 1 辺 4.4m の方形のプランの住居であった可能性が高い。

［出土遺物］床面およびカマド周辺から土師器甕、須恵器片、砥石、支脚が出土した。

外周溝

［平面形・規模］竪穴部を囲んでいたと思われるが、削平・攪乱により北西側しか残存していない。竪穴の壁に平行するように直線的で、南東側は大きく開口する。上幅は 60 ～ 95 ㎝である。［堆積土］最上層に白頭山火山灰を含み、以下は黒褐色土を主体とし、竪穴に近い部分では、焼土や炭化物が混入する。［壁・底面］壁は大部分が緩く外傾しながら立ち上がる。深さは 26 ～ 53 ㎝で、西側ほど深くなる。底面は西側で幅 15 ㎝ほどでＶ字状に近いが、南側ほど広くなる。［出土遺物］開口部に近い部分から土師器甕・壺、土鈴、須恵器片がまとまって出土した。

［小結］白頭山火山灰降下以前に廃絶･埋没した住居跡である。（小笠原）

第 16・17・20 号竪穴住居跡（BSI16・17・20）（図 46 ～ 50・102・118 ～ 120・130 ～ 132）

［概要］竪穴住居跡に外周溝と掘立柱建物跡が付属する建物跡である。標高 17.6m ～ 18.9m の緩傾斜地で、谷左岸の支流付近に位置している。住居内部の中央及び北東側外周溝の一部が削平を受けて

いる。全部で３軒の住居跡が確認され、２回目の拡張の住居跡を第 16 号住居跡（第Ⅲ期）、１回目の拡張を第 17 号住居跡（第Ⅱ期）、拡張前の住居跡を第 20 号住居跡（第Ⅰ期）として記述する。

［位置］EC － 235 ～ EH － 240 グリッドに位置する。住居の検出は第Ⅲ・Ⅳ層上面で、第 16 号住居跡はほぼ床面レベルで確認された。

［重複］第 16 号住居跡が最も新しく、続いて第 17 号住居跡、第 20 号住居跡の順に古くなっていく。住居・掘立柱建物跡の長軸方向が同じであることや南東壁側のピットが共通して使用された可能性があり、これら３軒の住居は拡張された可能性が高い。以下に各住居跡で述べる。

第Ⅲ期：第 16 号住居跡（BSI16）（拡張２回目）

竪穴部

［平面形・規模］東西壁は 6m94 ㎝、南北壁は 6m40 ㎝で、やや東西に長い方形である。床面積は 40.9 ㎡である。住居の軸方向は N － 130° － E である。

［堆積土］床面直上での検出で、上部には焼土が混入している。床面の数㎝上部には白頭山火山灰の広がりがみられる。

［炭化材］住居跡中央北西壁付近の床面直上から床面で２点の板材と思われる炭化材が検出された。炭素年代測定の結果は８世紀後半から 10 世紀後半であった。［壁・床面］床面は、第Ⅲ層の漸移層に構築され、住居の北東～北西の一部では、ロームブロック主体の厚さ約３㎝の貼り床を確認した。床面は地形と同じく南から北に向かってやや傾斜している。壁はほとんど検出されなかった。

［カマド］南壁側の中央からやや西側で焼土と白色粘土の広がりを確認し、この下部からカマドを検出した。煙道部及び煙出部、カマド袖は検出されなかった。燃焼部と考えられる焼土範囲は 80 × 50 ㎝の不整楕円形で、厚さ 13 ㎝程被熱し、中央がやや窪んでいる。白色粘土範囲は南壁そばで検出され、50 ㎝× 30 ㎝の不整形である。

［壁溝］壁溝は北東の削平部と南西角を除き、ほぼ全周している。西壁は幅 15 ～ 30 ㎝、深さ 20 ㎝であるが、東壁は深さ 10 ㎝未満の検出である。

［ピット］壁溝及び床面から 21 基のピットを検出したが、これには拡張前のものも含まれる可能性がある。このうち主柱穴は、ピット１～４・11・14・24 まで確認できた。主柱穴配置で不揃いであるが、拡張前の住居跡の主柱穴配置や検出面から、ピット１・２・３・４・11・14・18・24 であると思われる。ピット 11 と 24 は、柱穴配置から考えると補助的役割をする壁柱穴ともいえるが、ピット 14・１・３とピット 18・２・４の主柱穴間隔が不揃いであることから主柱穴に含めている。柱穴間隔は、ピット 14 とピット１では 2m18 ㎝、ピット１とピット３では 2m50 ㎝、ピット 18 とピット２では 1m70 ㎝、ピット２とピット４では 3m60 ㎝、ピット３とピット 11 では 2m30 ㎝である。これらの主柱穴以外に、ピット 22 はピット４・11 の中間に位置し、壁溝に接して検出されたピット６はピット 14・１・３を結んだ主柱穴配置のほぼ延長線上に位置することから、補助的役割が想定できる。ピット１からは柱痕が確認され、平面形はほぼ円形で掘り方よりもやや北東側に位置している。確認面での柱痕の規模は直径 22 ㎝で、１層には白頭山火山灰が混入している。このほか、壁際や壁溝内で検出した柱穴は壁柱穴と考えられる。壁柱穴はピット５・15・25・26 等が検出されたが、とくに規則性などは見られなかった。

［その他］竪穴部から外に掘りこまれている溝を１条検出した。壁の南東角から東側に延びる溝で、

拡張前の外周溝を先に調査したため、確認ができたのは外周溝の手前までである。溝の規模は長さ約 1m80 ㎝、幅約 30 ㎝、深さ約 10 ㎝で、東側に向かって若干傾斜している。暗褐色土主体の堆積土で 3 層に分層される。南西角には住居の外側に向かってピット状に掘りこまれた痕跡が見られる。上部からは掘りこみが確認できなかった。確認面からの深さが 20 ㎝前後である。南西角は壁溝が確認されず、何らかの施設があった可能性もある。

［出土遺物］炭化材を検出した付近やカマド付近から破片となって遺物が出土している。出土した遺物は土師器、須恵器、製塩土器、石器等である。

掘立柱部

［位置］竪穴部分の南側に 2 棟の掘立柱建物跡を検出し、そのうち、外側の 1 棟と思われる。［平面形・規模］2 間× 1 間の建物跡と考えられ、東西列が 5m64 ㎝～ 5m74 ㎝、南北列の西側が北から 2m46 ㎝＋ 2m80 ㎝、同東側が北から 2m64 ㎝＋ 2m80 ㎝である。柱穴は直径 30 ㎝から 50 ㎝前後で、深さ 30 ～ 40 ㎝である。この内、ピット 4 とピット 13 は柱痕と思われる痕跡（1 層）が確認できた。ピット 4 は 2 本の柱痕が重複していた可能性もある。このほかのピット 15 ～ 17・19・20 については不明であるが、掘立柱建物跡外側に近接して掘りこまれており、第 16 号住居跡に伴う可能性が高い。

外周溝

［位置］住居跡の南東～北～南西の三方向に検出された 2 条の外周溝と東側で検出された 1 条の外周溝のうち、最も外側を囲むもので、第 16 号住居跡に伴うものと考えられる。［平面形・規模］外周溝の規模は幅 1m20 ㎝前後、深さ 10 ～ 30 ㎝で、断面形が皿状である。東端部・北西角部・西端部にはピット状の広く深い掘り込みがある。溝の北東側底面には構築時の掘り込みによる掘削痕がみられる。溝と竪穴部分からは 2 ～ 2.2m 前後離れている。［堆積土］黒色土主体の堆積土で、住居跡西側では堆積土上から中位に、東側では堆積土中位に白頭山火山灰がレンズ状に堆積する。肉眼では確認できなかったが十和田 a 火山灰が確認された。また、西端のピット状掘りこみからは焼土ブロックが検出されている。［出土遺物］東端部・西端部のピット状の掘りこみ、北側で炭化材が検出された。板状・角状に加工されたものが大半である。東端部・西端部・北西角部の掘りこみから土師器等の遺物が多く出土した。堆積土上位で出土したものの多くは須恵器甕の破片である。

第Ⅱ期：第 17 号住居跡（BSI17）（拡張 1 回目）

竪穴部

［平面形・規模］東西壁は 6m24 ㎝、南北壁は 5m40 ㎝で、東西に長い長方形である。南壁の大部分を第 16 号住居跡と共有している。床面積は約 29.2 ㎡である。

［堆積土］住居内は第 16 号住居跡を構築する際に埋められており、黒褐色土・暗褐色土が主体である。

［壁・床面］西側から北側の壁溝付近で、床を貼っている状況が確認された。ロームブロック主体である。

［カマド］第 16 号住居跡に伴うカマドと同じ場所に位置している。第 16 号住居跡のカマド燃焼部の被熱の深さが 13 ㎝と非常に厚く、第 16 号住居跡カマドと第 17 号住居跡カマドに明瞭な区別が見られないことから、カマドを新たに作り替えるのではなく、手直しをしながら使用した可能性が高い。カマドの状態や規模は第 16 号住居跡と同じと考えられる。また、燃焼部直下で掘り方らしい痕跡も見られ、燃焼部を中心として長さ約 1m20 ㎝、幅 35 ㎝ほど南北方向に広がっている。燃焼部に接した西側には 73 ㎝× 55 ㎝の円形ピットが検出された。断面形が皿状で深さ 10 ㎝程の内部に土器片

が集中している。カマドと何らかの関係を持ったピットの可能性もある。

［壁溝］東壁中央の一部を除いてほぼ全周している。北・西壁側の周溝では、構築の際に幅 20 ㎝程度掘り込み、ロームブロック混じりの土で埋め、幅 10 ㎝程の規模で使用している。掘り込みを埋める際は、隙間なく固めながら溝を埋めたと思われる。

［ピット］壁溝及び床面から 10 基のピットが検出された。このうち、主柱穴はピット１・２・３・11・13・14・18・24 と考えられる。これらは、第 16 号住居跡でも引き続き使用されると考えられる。ピット 13 からは柱痕が確認され、柱穴の北西側に位置している。

［その他］このほか、ピット 19 は床面を掘りこんでおり、床下土坑と考えられる。平面形は円形で規模は 90 ㎝× 72 ㎝、皿状の断面形状である。遺物は出土しなかった。

［出土遺物］床面には土師器・須恵器・製塩土器片が散在し、カマド周辺には土師器片が集中する。

掘立柱部

［位置］竪穴部分の南側に２棟の掘立柱建物跡を検出し、そのうち、より外側のものと思われる。第 16 号住居跡のものと同じであるが、住居南壁の大部分を共有していることから、同様に考えた。

外周溝

［位置］内側の南東～北～南西方向をほぼコの字形に巡る外周溝が本住居跡に伴うと考えられる。外周溝は西・北西の一部でいったん途切れている。東端は第 16 号住居跡外周溝と重複している。［平面形・規模］西側は幅が広く浅い形状で、幅 60 ㎝～ 1m20 ㎝、深さ５～ 20 ㎝であるが、東側では幅 30 ～ 50 ㎝ほどになり非常に狭くなる。東端部及び西端部はやや広く深いピット状の掘りこみが見られる。溝と竪穴部分とは 1m40 ㎝から 2m 前後離れている。［堆積土］ロームブロックを多く含む堆積土で、埋め戻された可能性がある。［出土遺物］小破片が出土している。東端のピット状の掘りこみでは他に比べると遺物が多く出土している。このほか、砥石が出土した。

第Ⅰ期：第 20 号住居跡（BSI20）（拡張前）

竪穴部

［平面形・規模］東西壁は 5m、南北壁は 4m10 ㎝で、やや東西に長い方形である。床面積は約 18.1 ㎡である。主軸方向はＮ－ 114°－Ｅである。

［堆積土］住居内は第 17 号住居跡を構築する際に黄褐色土や黒褐色土で埋められている。

［壁・床面］西側壁溝付近と住居中央北壁付近で、ロームブロック主体で床を貼っている状況が確認された。西側壁から住居中央方向に約 50 ～ 80 ㎝の幅で掘り方範囲が見られ、この掘り方のために貼り床を構築したと考えられる。

［カマド］南壁側の中央からやや東側で焼土の広がりを確認した。煙道部及び煙出部、カマド袖は検出されなかった。カマドの主軸方向は不明である。燃焼部と考えられる焼土範囲は 60 × 40 ㎝の不整楕円形で、厚さ３～５㎝程被熱し、中央がやや窪んでいる。

［壁溝］南壁中央・南西角の一部を除いてほぼ全周している。南・西壁側の周溝では、幅８～ 13 ㎝と狭いが、北・東壁の壁溝は幅 20 ～ 30 ㎝である。深さは東・西壁がおよそ５～ 15 ㎝、南・北壁が約 10 ～ 20 ㎝である。

［ピット］本住居跡の床面を検出した段階で、ピット２基（ピット 12・20）が検出され、位置と形状から主柱穴であると思われる。これらに伴うピットとしてピット 14・17 が考えられ、これらの柱

間隔はピット 14 とピット 20 で 3m70 ㎝、ピット 20 とピット 12 で 3m14 ㎝、ピット 12 とピット 17 で 3m60 ㎝である。ただ、ピット 14・17 は壁溝の外側に位置しているため、主柱穴配置にやや疑問が残る。

［出土遺物］なし。

掘立柱部

［位置］竪穴部分の南側に 2 棟の掘立柱建物跡を検出し、そのうち、内側のものと思われる。［平面形・規模］一部柱穴が検出できなかったものもあるが、概ね 2 間× 2 間の建物跡と考えられる。東西列の北側が東から 2m50 ㎝＋ 1m80 ㎝、2m36 ㎝＋ 1m75 ㎝、南北列の東側が北から 1m60 ㎝＋ 2m14 ㎝、4m20 ㎝、3m80 ㎝である。柱穴は直径 32 ㎝～ 52 ㎝前後で、深さ 30 ～ 45 ㎝である。このほか、ピット 2･18 は他の南北列と平行しており、この掘立柱に伴う可能性が高い。［堆積土］ピット 1・5 など、柱の抜き取りを示すような堆積状況も見られたが、はっきりしなかった。埋め戻したような痕跡の見られる堆積状況が多い。

外周溝

［位置］住居跡東側で内側の外周溝と接する溝が本住居跡に伴うと考えられる。東側のみ検出した。南端はやや曲線的になり、住居跡南東角まで延びるが、北端は第 17 号住居跡に伴う外周溝と重複しておりはっきりしない。しかし、ほかに掘り込みも見られないため、東側で終結すると考えられる。［平面形・規模］広範囲にわたって焼土混じり堆積土が検出されたために確認できた。深さ 10 ㎝未満で浅く、底面は起伏が大きい。竪穴部分とは 2m 程離れている。［堆積土］焼土を含む堆積土で、埋め戻された可能性がある。

［小結］竪穴住居跡の南側に掘立柱建物跡、西・北・東側の三方に外周溝を伴う建物跡である。第 20 号→第 17 号→第 16 号住居跡へと拡張が行われ、これに伴って他の施設も外側へと広がっている。竪穴住居内は一度住居内を埋め戻し、平らにしてから新たに拡張している。最後に拡張した住居跡では外周溝および住居跡内から炭化材が検出されており、焼失家屋であったと思われる。掘立柱建物跡の柱穴、一部の主柱穴については新旧関係を確認できる材料に乏しかったため、位置関係から判断したものである。第Ⅱ期床面から須恵器が出土することから、第Ⅱ期以降は 9 世紀後半に使用され、火山灰降下以前に廃絶され、火山灰降下時には埋没途中であった住居跡と考えられる。（坂本）

第 18 号竪穴住居跡（BSI18）（図 51・52・102・103・120・121・129・130）

［概要］竪穴住居に外周溝と掘立柱建物が付属する建物跡である。標高約 19m 付近の緩斜面、基本層序第Ⅳ層上面で検出した。竪穴部床面を多量の炭化物が覆っており、焼失家屋と考えられる。

［位置］DT ～ EC － 236 ～ 239 グリッドに位置する。

［重複］竪穴部と外周溝が第 15 号溝跡と重複し、本住居跡が新しい。掘立柱部が第 4 号掘立柱建物跡と重複するが、新旧は確認できなかった。外周溝東側の末端は第 16 号竪穴住居跡外周溝に接し、出土遺物と火山灰堆積状況から本住居跡が古い可能性が高い。

［関連遺構］第 17 号溝跡（BSD17）が外周溝北側で接続しており、本住居跡に関連するものと思われる。さらに、BSD17 の両側にあるピット 36 ～ 40 は BSD17 に関連するものと考えられる。

竪穴部

［平面形・規模］北東・南西壁は 4m30 ㎝、北西・南東壁は 4m40 ㎝で、平面形は正方形である。床面積は約 19 ㎡である。

［堆積土］黒褐色土主体の自然堆積土、炭化物を多量に含む黒色土層、黄褐色粘土をブロック状に含む掘り方埋土に大別できる。第 7 層は皿状に堆積しており、住居中央では床面に接している。なお、床面中央の堆積土の火山灰分析を行った結果、示準となる火山灰は明確に検出されなかった。

［炭化材］床面直上で多量の炭化物が出土している。特に南東壁南隅に厚く堆積する。炭化物の炭素年代測定結果は 8 世紀後半から 9 世紀後半である。

［壁・床面］残存する壁の高さは約 22 ㎝である。床面は北側の一部を除いて貼り床が施されており、カマド周辺と床面中央で著しく硬化している。

［カマド］南東壁東寄りの約 1m の範囲にローム粒と炭化物混じりの灰黄褐色粘土が堆積し、その下位でカマドを検出した。カマドの残存状況は良好で、燃焼部と煙道部を検出した。カマド構造は半地下式で、東 1：西 3 の割合で南東壁東寄りに設置されている。燃焼部は灰白色粘土で構築された両袖が残存し、中央には土製支脚が直立した状態で出土した。火床面は直径 40 ㎝で薄く赤変する程度である。カマド主軸方向は N － 130° － E である。

［壁溝］カマドを除く壁面に一巡する。幅 16 ㎝～ 38 ㎝、確認面からの深さは約 40 ㎝である。

［ピット］床面で 6 基のピットを検出した。明確な主柱穴は確認できなかった。ピット 1 は直径 24 ㎝で床面中央やや西側に位置する。堆積土に焼土粒を多く含む。ピット 2 は直径 18 ㎝、床面中央に位置する。

［出土遺物］遺物の多くは堆積土中からの出土であり、床面で土師器片がわずかに出土している。堆積土の遺物はカマドのある南東側にまとまり、土師器・須恵器の甕・坏の破片、礫石器、砥石などが出土している。

掘立柱部

［位置］竪穴部の南東側に位置する。竪穴部南東壁と掘立柱部北側東西列間の距離は約 1m70 ㎝である。［平面形・規模］南東の柱穴が 1 基検出できなかったが、1 間× 1 間の建物跡と考えられる。建物の規模は、東西列 4m、南北列 3m40 ㎝である。北東の柱穴の西側のピット 2 に抜き取り痕が認められた。

外周溝

［位置］竪穴部の東、北、西側より 2m 前後離れた位置にめぐる。［形態・規模］溝は連続しておらず、北－南で弧状をなすものと北東－東で弧状をなすものの二つに分かれる。幅 45 ㎝～ 1m20 ㎝、確認面からの深さ 18 ㎝～ 40 ㎝である。北側で浅くなる傾向が認められた。西側先端部に 80 ㎝× 1m60 ㎝の楕円形の土坑が付属する。底面は外周溝底面より約 15 ㎝高い位置にある。［堆積土］ローム粒、炭化物を含む黒褐色土を主体とする。［出土遺物］南西側の上位から多量の遺物が出土した。土師器・須恵器坏、鉄製品、磨り石、敲き石などが出土した。

第 17 号溝跡（BSD17）（図 52）

［位置］外周溝北西側中央から分岐し、北方向に伸びる。EA － 233･234、EB － 234 ～ 236 グリッドに跨る。［平面形・規模］全長約 13m、上面幅 16 ～ 28 ㎝、底面幅 10 ～ 18 ㎝の溝である。底面

には鋤先状の工具痕が部分的に残る。外周溝との分岐点から北になだらかに下降する。［堆積土］外周溝の堆積土と類似する。焼土粒、炭化物を含む。

［小結］出土した遺物の大半は床面より上位の堆積土に含まれており、住居廃絶後の窪みに廃棄されたものである可能性が高い。火山灰の堆積状況及び火山灰分析の結果から白頭山火山灰降下前に堆積土が住居跡を覆ったものと考えられる。出土遺物から、9 世紀後半に使用されていたと考えられる。

（斉藤）

第 19 号竪穴住居跡（BSI19）（図 53・54・103・122）

［概要］本住居跡は緩斜面上に造られ、竪穴、外周溝、掘立柱建物跡で構成される。2 度の造り替えが確認されたが上面の削平が著しく、且つ北側が大きく攪乱を受け、残存状態は極めて悪い。古い段階のものから、第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期と呼称し、それぞれについて記載する。外周溝については、大きく 2 重に巡る外側を BSI19SD1、内側を BSI19SD2 とした。また当初、別遺構としていた BSD19 は BSI19SD2 とクランク状に連結することが判り、BSD19 も関連するものとして、ここで扱うことにする。

［位置］DN ～ DQ － 235 ～ 238 グリッドに位置する。

［重複］外周溝の東端が BSD16 と重複し、本遺構が古い。BSI19SD1 の北西側は一部が排水管埋設により削平され、南端が風倒木により攪乱を受けている。盛土除去後に床面の一部と火焼面を確認した。

第Ⅲ期（拡張 2 回目）

［平面形・規模］平面形は方形と思われるが、床面の一部のみの確認であるため、詳細は不明である。規模についても同様である。

［堆積土］確認できなかった。

［壁･床面］壁は確認されなかった。確認された床面は基本層序第Ⅳ層上面に厚さ 10 ㎝ほど貼り床し、ほぼ平坦で堅緻である。

［カマド］火床面のみを確認した。焼土は直径 55 ～ 60 ㎝ほどの円形に広がる。被熱の状態で 2 層に分層した。

［ピット］確認できなかった。

［出土遺物］なし。

外周溝（BSI19SD1）

［平面形・規模］竪穴部を円形に囲む。西側と南東側が大きく開口する。また、北側も 45 ㎝ほど途切れる部分がある。上面幅は 25 ～ 60 ㎝で、南側で崩落によるものと見られるやや広くなる部分がある。北側の西端は土坑状に円形に掘り込まれる。［堆積土］細分した部分もあるが、原則として黒褐色土を主体とし 3 層に分層した。第 3 層はローム粒の混入が多く観察された。第 1・2 層は混入物が少なく、これらは自然堆積と思われる。検出面で白頭山火山灰が部分的に確認された。また肉眼では確認できなかったが、火山灰分析の結果、十和田 a 火山灰の混入が確認された。［壁・底面］壁は大部分が緩く外傾しながら立ち上がる。深さは 70 ～ 40 ㎝で、北西側の溝は概して浅い。ただし土坑状の落ち込み部は 45 ㎝ほどの深さである。底面は（落ち込みというよりは）緩く波打つような状態である。［出土遺物］北側の東端底面付近から土師器がまとまって出土した。溝全体の出土量は拡

張前より多い。

第 21 号溝跡（BSD21）（図 53）

［平面形・規模］長さ 2m30 ㎝ほどで、直線的である。上幅は 20 ～ 30 ㎝である。［壁・底面］壁の立ち上がりは急である。深さは 7 ～ 10 ㎝と浅い。底面は緩く波打つような状態である。［堆積土］黒色土を主体とし、ローム粒や炭化物をごくわずかに含む。自然堆積と思われる。［出土遺物］遺物は出土しなかった。

第Ⅱ期（拡張 1 回）

竪穴部

［平面形・規模］平面形は方形と思われるが、南東隅のみの確認であるため、詳細は不明である。規模についても同様である。

［堆積土］床面残存部でごくわずかに確認した。黒褐色土を主体とする。第 2 層は第Ⅱ期の貼床堆積土か第Ⅰ期の住居内堆積土か判断できなかった。

［壁・床面］壁は第Ⅲ期によって削られた可能性もあるが、残存部は最大 7 ㎝で、緩く立ち上がる。基本層序第Ⅳ層を床面とし、断面観察では厚さ 5 ～ 10 ㎝ほどに貼り床を施している。残存範囲ではほぼ平坦である。

［カマド］火床面のみ確認した。焼土は直径 48 ～ 53 ㎝ほどの隅丸方形状に広がる。被熱の状態から 3 層に分層した。

［柱穴］確認できなかった。

［出土遺物］第 2 層から、須恵器坏・壷の破片、砥石が出土した。

第Ⅰ期（拡張前）

竪穴部

［平面形・規模］北側が大きく攪乱を受けているが、北東－南西 4.9m、北西－南東 5.0m の方形を呈する。カマドを南東壁側に想定すると、主軸方位はＮ－ 126°－Ｅである。

［堆積土］第 3 層の壁溝堆積土を確認した。

［壁・床面］壁は、南側は拡張後の住居によって、北側は攪乱と削平によって不明である。基本層序第Ⅴ層をそのまま床面としたと見られる。

［壁溝］壁際には、一部途切れる部分もあるが、壁溝が巡る。南側のコーナーでは壁溝がかみ合わない。幅 14 ～ 34 ㎝、深さ 5.2 ～ 25.8 ㎝である。北側が削られているため、概して浅い。

［カマド］［柱穴］確認できなかった。

［出土遺物］壁溝から土師器片が出土した。

掘立柱部

［平面形・規模］周辺からピットが 8 基検出された。各ピットはいずれも円形ないし不整円形で、直径は 28 ～ 40 ㎝である。これらのうちピット 1・2・3・4 が建物跡を構成し、第Ⅰ期に伴うものと思われる。［壁・底面］壁はどれも垂直気味に立ち上がる。底面は平坦ないし中心がややくぼむ。［堆積土］いずれもローム粒を含む。明確に柱痕を確認できたものはなかった。［出土遺物］ピットから土師器・須恵器の破片が出土した。

外周溝（BSI19SD2）

［平面形・規模］北側は 5m ほど確認されたものを SD2 とした。南側はやや直線的で、クランク状に屈曲する。上幅は 20 ～ 100 ㎝で、南東側が概して狭い。［堆積土］ロームブロックなど混入物が多く、全体的に人為堆積的な様相を示す。［壁・底面］壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。南東側は立ち上がりが急である。深さは 15 ～ 30 ㎝ほどで、北側で円形に落ち込む部分では 58 ㎝と深くなる。底面はほぼ平坦である。［出土遺物］土師器甕・坏、須恵器の破片が出土した。拡張後に比べ、遺物は少ない。

［小結］遺物の出土状況と火山灰の堆積状況から、9 世紀後半に使用・廃絶し、10 世紀初頭には外周溝が埋没していたものと思われる。（小笠原）

第 21 号竪穴住居跡（BSI21）（図 42・123・129・130）

［位置］北側の緩傾斜地で、谷本流の左岸の CS ～ DB － 214 ～ 216 グリッドに位置する。2000 年度の調査で一部確認し、報告されている（『近野遺跡Ⅵ』2002）。溝のみの検出であったことから当初、溝番号（BSD5）を付して調査を行った。溝の内部からは遺構が全く検出されなかったが、形状・規模、出土遺物等から、平安時代の住居跡に伴う外周溝である可能性が高いため、住居跡の一部として扱い、新たに住居番号を付して報告する。竪穴部・掘立柱部とも削平されている。

［重複］2000 年度の調査時点で確認された B 区第 2 号溝跡と重複し、本遺構が古い。このほか第 2 号土坑（BSK2）、第 5 号土坑（BSK5）がすでに報告されているが、2001 年度に全面調査した際、位置関係や遺構の形状から、本遺構の南側に連なる溝の一部であることがわかった。

外周溝

［形状・規模］西・北・東側の三方向にコの字形に検出された。北東側は途中で途切れ、南東端部がやや内側に屈曲している。北西端部は円形に広がる。溝は上面幅 80 ㎝～ 1m30 ㎝、底面幅 20 ～ 80 ㎝、深さ 20 ～ 60 ㎝で、断面はほぼ逆台形状である。北東側の溝はやや浅く、断面形は皿状を呈する。［堆積土］西側の堆積土は暗褐色土主体で、東側は黒褐色土主体である。東側の一部には 50 ㎝前後の範囲で焼土ブロックが 3 カ所検出された。［出土遺物］北側と東側から遺物が出土している。焼土ブロックがある東側の底面付近には製塩土器片がまとまっている。東側の先端部の上層から土製品 2 点が出土した。このほか、土師器・須恵器片も出土している。

［小結］年代を判断づける要素が少ないが、B 区の特徴としての 10 世紀前半以前に使用されたものと考えられる。（坂本）

4. 掘立柱建物跡

第 1 号掘立柱建物跡（BSB1）（図 55・123）

ED ～ EF － 239 ～ 246 グリッド、第 16 号住居跡外周溝の南側に隣接する。基本層序第Ⅳ層上面で検出した。第 2 号掘立柱建物跡、第 5 号掘立柱建物跡と重複する。新旧は不明である。東西方向柱列 3m、南北方向柱列 2m60 ㎝の 1 間× 1 間の建物である。長軸方向は W － 55° － N である。直径 50 ㎝、深さ 50 ㎝の規模のピット 4 基で構成されている。柱痕は直径約 12 ㎝で、建物廃絶後、柱は全て抜き取られており、抜き取り穴は人為的に埋め戻されている。ピット 3 の抜き取り穴埋土

から須恵器片と土師器片が出土した。（斉藤）

第２号掘立柱建物跡（BSB2）（図 55）

ED ～ EF － 239 ～ 241 グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層上面で検出した。第１号掘立柱建物跡、第５号掘立柱建物跡と重複している。第５号掘立柱建物跡より新しい。東西方向柱列 3m、南北方向柱列 5m70 ㎝の１間× ３間の建物である。長軸方向は W － 55° － N である。柱の掘り方の直径は 28 ～ 32 ㎝、確認面からの深さが 30 ～ 48 ㎝のピット８基で構成されている。柱痕は直径約 12 ㎝で、建物廃絶後、ピット２とピット６については柱を抜き取っている。それ以外のピットでは柱の切り取りが行われている。（斉藤）

第３号掘立柱建物跡（BSB3）（図 56）

標高 26m 前後の傾斜地で、CO・CP － 241・242 グリッドに位置する。第Ⅳ層上面で検出した。北西方向柱列、南西方向柱列ともに２間× ２間の総柱建物跡で、平面形はほぼ正方形であるが、10 ㎝程北西方向に長い。長軸方向は W － 45° － N である。規模は、北西方向柱列は西側のピット１・４・７で 3m17 ㎝、東側のピット３・６・９で 3m14 ㎝、南西方向柱列は南側のピット７～９で 3m25 ㎝、北側のピット１～３で 3m2 ㎝である。いずれのピットも柱痕を確認出来なかった。柱穴掘り方は、直径 24 ～ 42 ㎝で、深さは 13 ～ 34 ㎝である。平面形はピット２・３が楕円形、他は円形で、堆積土は黒色土主体である。遺物は出土せず、遺構の構築時期は不明である。（坂本）

第４号掘立柱建物跡（BSB4）（図 56）

第 18 号竪穴住居跡外周溝の南側末端に隣接し、第 18 号住居跡掘立部と重複する。EA・EB － 238・239 グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層上面で検出した。東西方向柱列 1m70 ㎝、南北方向柱列 3m20 ㎝の１間× ２間の建物である。長軸方向は N － 40° － E である。直径 28 ～ 34 ㎝、確認面からの深さ 26 ～ 54 ㎝の規模のピット６基で構成されている。柱痕は直径約 12 ㎝である。（斉藤）

第５号掘立柱建物跡（BSB5）（図 55）

第 16 号住居跡外周溝の南側、ED ～ EF － 239 ～ 241 グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層上面で検出した。第１号掘立柱建物跡、第２号掘立柱建物跡と重複している。第２号掘立柱建物跡よりも古い。規模は東西方向柱列 2m60 ㎝、南北方向柱列 3m20 ㎝の１間× １間の建物である。長軸方向は N － 37° － E である。第２号掘立柱建物跡の柱穴によって掘り方、抜き取り穴の堆積土が切られている。直径約 30 ㎝、深さ 26 ～ 30 ㎝のピット４基で構成されている。（斉藤）

5. 溝　跡

B 区で検出した溝跡は 18 基である。調査段階では 24 番まで付してあるが、整理段階で住居跡の外周溝に振り替わったものがある。溝跡の中で竪穴住居跡に付随するものは竪穴住居跡の項目で記載している。

第 2 号溝跡（BSD 2 ）『近野遺跡Ⅵ』収録
第 9 号溝跡（BSD 9 ）　第 7 号竪穴住居跡に付随　（図 36）
第 17 号溝跡（BSD17）　第 18 号竪穴住居跡に付随　（図 52）
第 21 号溝跡（BSD21）　第 19 号竪穴住居跡に付随　（図 53）
第 3 号溝跡（BSD 3 ）　第 6 号竪穴住居跡外周溝（BSI6SD1）に変更
第 5 号溝跡（BSD 5 ）　第 21 号竪穴住居跡外周溝（BSI21SD1）に変更
第 12 号溝跡（BSD12）　第 13 号竪穴住居跡外周溝（BSI13SD1）に変更
第 19 号溝跡（BSD19）　第 19 号竪穴住居跡外周溝（BSI19SD1）に変更
欠　番　：第 4 号溝跡（BSD 4 ）、第 14 号溝跡（BSD14）、第 18 号溝跡（BSD18）

第 1 号溝跡（BSD1）（図 57・58・124）

調査区中央部の南側から北側に位置する。CM － 227 グリッドから途中削平を受けながら北東に真っ直ぐに走り、DG － 218 グリッドで 90° 向きを変え南東に走る。DH － 219 グリッドで、再び北東に向きを変え谷に続く。さらに途中削平をうけるが、DN － 221 グリッドから DP － 224 グリッドまで南東に走る。標高は 21.9 ～ 16.6m である。CM － 227 グリッド付近で BSD6 と重複し本遺構が新しい。また DQ － 222 グリッド付近で BSD11 と重複し、本遺構が新しい。検出長は 79.5m で幅 20 ～ 80 ㎝、深さ 6 ～ 40 ㎝ある。ローム混じりの黒色土が堆積し、白頭山火山灰が混じるところもある。土師器・須恵器の破片が出土している。（伊藤）

第 6 号溝跡（BSD6）（図 59・60・103・124）

BN － 206 ～ CN － 230 グリッドに跨る。基本層序第Ⅳ層で確認した。CM － 227 グリッドで BSD1 と重複し、本遺構が古い。北西から南東にほぼ直線的に延びる。BSD1 と重複する CM － 227 グリッド付近で幅がやや広がり、南東端で収束する。北東端は調査区外に延びる。検出長は 121.2m、上面幅 28 ～ 120 ㎝で、深さ 30 ～ 56.9 ㎝である。断面形は逆台形となり、底面には工具痕が残る。堆積土はローム粒・ブロックを含む黒褐色土を主体とする。CN － 230 グリッドから南側は基本層序第Ⅳ層下位まで大きく削平されているため、溝は検出されなかった。DB － 237 グリッドから南側で一部確認された。残存長 4m20 ㎝、上面幅 35 ㎝前後、底面幅 20 ㎝である。土師器・須恵器の破片、砥石が出土している。（伊藤）

第 7 号溝跡（BSD7）（図 39）

［概要］第 10・11 号竪穴住居跡の竪穴部と外周溝の間で検出され、DG・DH － 233 ～ 235 グリッドに位置する。第 10・11 号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も古い。攪乱・外周溝構築により北側が、竪穴部構築の際、東・南西側が削平されたと思われる。本来の平面形状から想定すると、北側や南西側は溝が連続する可能性は高いと考えられるが、東側では検出されなかった。このため平面形は、東・北・西の三方向を囲むコの字形に巡ると推定される。残存部分は北西側の溝、北東側の溝、南東側の溝の 3 条が検出されている。北西側の溝は長さ約 2m50 ㎝、幅 25 ～ 45 ㎝、深さ約 20 ㎝で、断面形は U 字形で、底面の起伏が大きい。北東側の溝は長さ約 1m、幅約 35 ㎝、深さ 40 ～ 50 ㎝で、断面形は逆台形で、底面に起伏がある。南東側の溝は長さ約 1m25 ㎝、幅 20 ㎝、深さ 10 ～ 20 ㎝

である。断面形は逆台形で、底面は平坦である。
［堆積土］堆積土については、北西側の溝は黒褐色土主体の単層であるが、北東側の溝は堆積土中位にローム塊・焼土・炭化物粒を大量に含む。南東側の溝は黒褐色土主体でローム塊を混入している。
［出土遺物］出土遺物は北東側で比較的遺物が多く出土し、土師器等がまとまって出土している。このほか須恵器・土製品等が出土している。
［小結］北東側の溝と南東側の溝は第 10･11 号住居跡外周溝の東西部分と主軸方向がほぼ同じである。このことから、本遺構は外周溝として構築中に何らかの理由で途中廃絶した溝跡である可能性が高い。または２～ 3m 程の小型の住居跡の外周溝であった可能性も残る。出土遺物と重複する住居跡の推定年代から平安時代、9 世紀代のものと考えられる。（坂本）

第 8 号溝跡（BSD8）（図 61）

調査区北東の EF － 230 ～ EJ － 236 グリッドに跨る。標高は 16.4 ～ 17.4m である。基本層序第Ⅳ層で確認した。谷際に弧を描くように南東に走る。第 7 号竪穴住居跡外周溝と EI － 234 グリッドでほぼ直行するかたちで重複するが、新旧は不明である。北西から南東にやや弧を描くように延び、41.2m を検出した。両端は収束する。幅 20 ～ 40 ㎝、深さ 4.1 ～ 23.1 ㎝である。底面は平坦で、壁は底から上へやや広がり、断面系はＵ字形を呈する。堆積土はローム粒・黄橙色土を含む黒色土を主体とする。（伊藤）

第 10 号溝跡（BSD10）（図 64・103・124）

調査区中央の DE － 237 から DN － 224 グリッドに跨る。標高は 18.2 ～ 21.5m である。基本層序第Ⅳ層で確認した。第 10・11 号住居跡及び第 58 号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。南西から北東へほぼ直線的に延びる。検出長は 45.0m である。北東部で一部削平されている。壁は底面から上に広がるＵ字形を呈する。上面幅 50 ～ 100 ㎝、深さ 19.6 ～ 48 ㎝である。底面は平坦である。堆積土はローム粒を含む黒色土を主体とし、焼土・炭化物が混入する。出土遺物は第 10・11 号竪穴住居跡と重複する部分から多量に出土し、住居跡の遺物と接合する。敲磨器、土師器・須恵器、土製品、鉄製品が出土している。（伊藤）

第 11 号溝跡（BSD11）（図 57）

調査区西側の CQ － 224 から CR － 220 グリッドに跨る。標高は 19.1 ～ 20.4m である。基本層序第Ⅳ層で確認した。第 1 号溝跡と重複するが、新旧は不明である。南東から北西に直線的に延び、検出長は 16.2m、幅 20 ～ 40 ㎝、深さ４～ 23 ㎝である。底は平坦で、壁はほぼ真っ直ぐに立ち上がる。堆積土はローム粒を含む黒褐色土を主体とする。（伊藤）

第 13 号溝跡（BSD13）（図 63・64・124）

EJ ～ ES － 239 ～ 253 グリッドに跨る。標高は 17 ～ 20.1m である。多くは基本層序第Ⅳ層で確認したが、ER ～ ES － 247 ～ 248 グリッド付近は基本層序第Ⅴ層で確認した。EP － 250 グリッドから北東に走り、ES － 248 グリッドで 90 度向きを変えて北西に走る。EJ － 241 グリッドで北

に向きを変え、EJ － 239 グリッドまで走る。検出長 58.8m、幅 12 ～ 80 ㎝、深さ 3.3 ～ 45.6 ㎝である。断面形はＵ字形で、底面には工具痕が残る。堆積土は黒褐色土を主体とし、焼土が含まれる。また白頭山火山灰が混入しているところもある。出土遺物は土師器・須恵器の破片である。谷への落ち際に位置することから、北側の BSD1 から続く一連の溝と思われる。（伊藤）

第 15 号溝跡（BSD15）（図 52）

第18号住居跡竪穴部の北側と第18号住居跡外周溝の途切れる箇所に接する。EB･EC － 236 グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層上面で検出した。長さ 3.2m、幅 80 ㎝、深さ 25 ㎝の直線的な溝跡である。底面幅は 10 ～ 60 ㎝とばらつく。本遺構の堆積土が第 18 号住居跡の外周溝、竪穴部の堆積土に切られているため、これらよりも古いと考えられる。（斉藤）

第 16 号溝跡（BSD16）（図 64・124）

DQ・DR － 236・237 グリッドに位置する。表土除去後、基本層序第Ⅳ層上面で確認した。BSI19SD1 と重複し、本遺構が新しい。外径 5.8 ～ 5.9m、内径 4.7 ～ 4.8m の円形を呈する。上幅 40 ～ 65 ㎝、下幅は 10 ～ 25 ㎝である。堆積土は西側では黒色土主体で、東側では下位に黒色土、上位に黒褐色土が堆積する。C ライン付近では壁の崩落が観察される。壁は急な立ち上がりの部分もあるが、大半は 60° 前後で外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦で、凹凸はない。確認面からの深さは 30 ～ 35 ㎝である。出土遺物は須恵器・土師器甕の破片と小型土器が出土した。（小笠原）

第 20 号溝跡（BSD20）（図 65）

DR － 239 グリッドにあり、基本層序第Ⅳ層で確認した。標高は 20.3m である。北西から南東に走る。検出長 1.34m、幅 48 ～ 56 ㎝、深さ 11.6 ～ 11.6 ㎝である。黒色土が堆積する。（伊藤）

第 22 号溝跡（BSD22）（図 65・124）

中位段丘の標高 26m、CM － 238・239、CN － 239 グリッドに位置する。南東から北西に走り、途中から北方向に伸びる。北側は削平されている。全長 6m、上面幅 45 ～ 50 ㎝、底面幅が 20 ～ 30 ㎝である。深さ 10 ～ 30 ㎝で、底面は南東端部から北方向に下降する。断面形は箱形に近い。堆積土上位から土師器片が出土している。配置と形状から竪穴住居跡の外周溝の一端の可能性も高い。（杉野森）

第 23・24 号溝跡（BSD23・24）（図 65・103・124・132）

［概要］北側の緩傾斜地で、標高 20 ～ 21m に位置する。第 23 号・24 号溝跡は近接しており、主軸方向も同じことから、関連性が窺える。確認面は基本層序第Ⅳ層上面で、これより上部は削平を受けている。両遺構とも調査区の外側北西方向に延びていたものと考えられる。第 23 号溝跡の北西側が一部途切れているが、調査区境界の土層断面から、ほぼ同時期に廃絶された可能性が高く、同じ遺構とした。

第 23 号溝跡（BSD23）

［位置］DR ～ DT － 242 ～ 243 グリッドに位置し、北西から南東方向に構築された溝で、南東端部付近ではやや南側に方向を変えてカーブしている。溝跡中央に広く深い円形のピット状掘り込みが見られる。

［形状・規模］溝の規模は長さ 9m80 ㎝、幅 80 ㎝～ 1m8 ㎝で、深さ約 20 ～ 30 ㎝である。底面はほぼ平坦で、底面から緩やかに立ち上がる。北東側の溝はやや浅く、断面形が皿状になる。底面は起伏が大きい。

［堆積土］堆積土全体にローム塊・炭化物粒を混入する。中央の円形ピット状掘り込みや南東端部では堆積土中位で炭化材を数点検出した。とくに南東端部では炭化材とともに焼土が多量に混入している。北西側の調査区境界断面では遺構検出面上位に白頭山火山灰が堆積しているのが確認されている。

［出土遺物］出土遺物は南東端部・円形ピット状掘り込みで比較的多く遺物が出土している。中央が深く窪んだ礫石器と須恵器の甕･坏の破片、土師器の小振りな甕、石器、鉄関連遺物等が出土している。

［小結］溝の一部であるためはっきりしないが、形状・規模、主軸方向等から、平安時代の竪穴住居跡に伴う外周溝であった可能性もある。この場合、溝から焼土･炭化材を検出しており焼失家屋であったことが想定される。出土遺物や白頭山火山灰の堆積状況から、本遺構は平安時代前葉かこれ以前に使用されたと考えられる。

第 24 号溝跡（BSD24）

DS・DT － 243 グリッドに位置し、北西から南東方向に構築された溝で、規模は長さ 3m32 ㎝、幅 38 ㎝～ 80 ㎝、深さ 15 ～ 20 ㎝である。底面はほぼ平坦で、緩やかに立ち上がる。堆積土は黒褐色土主体で全体的にローム塊を含む。南東端部の堆積土中位で土師器２点が出土している。土師器坏･甕の破片が出土している。

［小結］第 23 号溝跡同様、住居跡の外周溝とも考えられる。出土遺物から、本遺構は平安時代前葉かこれ以前に使用されたと考えられる。（坂本）

6. 畠跡

畠跡（BSX8）（図 66）

谷左岸は谷に向かって緩やかに傾斜する地形で、谷の支流に挟まれた舌状台地の上部、標高 20.5m 付近に位置する。南側と北側の各支流とは直線距離にしてそれぞれ約 60m、70 ～ 75m 離れている。遺構は基本層序第Ⅱ層の黒色土堆積土中から、白頭山火山灰が数列にわたって列状に検出されたことから、畠跡の可能性を考慮し調査を行った。なお、検出面上面は削平を受けており、上部の状況は不明である。また、調査区境界の部分に位置しており、畠跡は南西方向の調査区外へ広がっている可能性がある。

DT － 243、EA － 242 ～ 244 グリッドに位置し、緩傾斜地の地形と平行して 6 条の畝間（a ～ f）が並列している。畝間 f は畝間 b の西側に隣接しており、畝間が連続する可能性が高い。畝間は北西－南東方向に主軸があり、およそ W － 70° － N 前後である。

畝間の規模は、畝間 a で長さ 2m98 ㎝、最大幅 40 ㎝、深さ 1 ～ 5 ㎝、畝間 b で長さ 2m35 ㎝、最大幅 44 ㎝、深さ 2 ～ 3 ㎝、畝間 c で長さ 3m、最大幅 54 ㎝、深さ 5 ㎝、畝間 d で長さ 3m4 ㎝、

最大幅 55 ㎝、深さ 4 ～ 8 ㎝、畝間 e で長さ 2m20 ㎝、最大幅 40 ㎝、深さ 5 ～ 6 ㎝、畝間 f で長さ 1m38 ㎝、最大幅 50 ㎝、深さ 2 ～ 5 ㎝である。畝間 b と畝間 f を合わせた長さは 4m40 ㎝である。堆積土は黒色土の単層で、第Ⅱ層土が混入している。第Ⅱ層と第Ⅲ層の層理面には水流の影響と思われる酸化帯が一部に観察される。また、畝間 a と畝間 b の地山は土が攪乱された状況がみられるが、第Ⅲ層土堆積時に何らかの自然作用があったためと考えられる。

畝間は全体的に浅く、断面形は皿状である。断面観察から、畝間 a は火山灰が薄くレンズ状に堆積している。畝間 b は地形上部から火山灰が流れ込み、二次堆積の状況が確認された。畝間 c は断面形状が U 字状で底面に火山灰が塊状に堆積している。畝間 d では底面に起伏があり、火山灰の堆積状況は、上面が密で、底面ではまばらである。畝間 e は底面付近で火山灰がレンズ状に堆積し、上部では地形上部からの流れ込みによる堆積が確認された。

畝も畝間と同様ほぼ地形に平行に作られている。畝間 a と畝間 b に挟まれた畝 a － b とすると、畝 a － b、畝 b － c、畝 c － d、畝 d － e の 4 条が確認される。残存する畝幅は、畝 a － b が 60 ～ 1m20 ㎝、畝 b － c が 40 ～ 60 ㎝、畝 c － d が 50 ～ 68 ㎝、畝 d － e が 60 ～ 70 ㎝で、畝 a － b の北西側が広がるものの、およそ 60 ㎝前後の幅をもつ畝と想定される。

土壌分析からはイネの作付けについて少なからずともあることを示唆された（第 4 章第 3 節参照）。

出土遺物は、畝間 c から土師器片、礫石器が出土した。このほか遺構周辺のほぼ同一の平坦面からは平安時代の土師器・須恵器、縄文土器、石器類、陶磁器などの小片が出土している。黒色土の堆積が薄く、上部の削平や水流等で遺物が混在しているものと思われる。

［小結］畝間及び畝が、緩傾斜地に平行に配置しており、数列がほぼ同じ幅で並列して作られていることから、いずれの畝でも作付された作物が同一のものである可能性が高い。本遺構は白頭山火山灰の降下時期から、10 世紀前葉かこれ以前に構築されたと考えられる。（坂本）

7. 焼土・炭化物集積遺構

焼土遺構（BSN1）（図 66・132）

FD － 254 グリッドで検出した。遺構上面は削平され全体形状は不明である。長軸 2m20 ㎝、短軸 1m8 ㎝程の大きさで不整楕円状に焼土が広がる。色調で 2 層に区分される。厚さは約 15 ㎝である。土師器と椀形鍛冶滓が出土した。（斉藤）

焼土・炭化物集積遺構（BSX6）（図 66）

［概要］標高 26.5m 前後の傾斜地で、CI － 236・237 グリッドに位置する。基本層序第Ⅳ層上面でカマド底面が残存しているような白色粘土と焼土の広がりを確認した。当初、竪穴住居跡のカマドと考え、住居番号を付して調査したが、床面や柱穴・壁溝などが確認できなかったことから、住居跡の可能性は低いと考えられた。このような燃焼施設に関連するものとして、隣接して炭化物を含むピット 2 が検出されている。また、ピット 1 も燃焼施設を中心としてピット 2 と対をなして検出されている。これらの遺構は非常に関連性が高いと考えられたため、一連の遺構としてまとめて報告する。

［燃焼部］白色粘土と焼土の広がりは、南東側に白色粘土が、北西側に焼土の広がりが見られる。白色粘土は平面形が不整な長方形で、長軸 84 ㎝・短軸 64 ㎝で、中央部分は被熱により赤く変色し、

U 字形を呈する。焼土範囲は不整形で長軸 40 ㎝・短軸 23 ㎝で堅く焼けた面がほぼ水平に広がっている。被熱の深さは 2 ㎝程度である。

［ピット］ピット 1 は長軸 50 ㎝・短軸 30 ㎝の楕円形で、深さ 24 ㎝である。ピット 2 は平面形が円形で直径 60 ㎝、深さ 10 ㎝である。底面は非常に不整形で、浅い皿状のピットである。ピット 1・2 は上部が黒色土主体の堆積土である。ピット 2 の第 2 層上面には 5 ～ 10 ㎝程度の炭化物が検出されている。炭素年代測定の結果は 9 世紀代であった。

［小結］北側に黒褐色土の広がりが検出されたが、掘り込み等も見られず、自然堆積と考えられる。燃焼部とピット 2 がどのような機能を持っていたかは不明であるが関連する可能性は非常に高い。構築時期を決定するような遺物は出土せず、遺構の構築時期は不明である。　（坂本）

8. 柱列・ピット群

ピット（小柱穴）は 100 基近く確認された。その内、確認段階で、掘立柱建物跡と認められるものは SB のピットとして、列をなすものを柱列（BSX5）のピットとして調査した。調査終了段階で検討の結果、9 基のピットが掘立柱建物跡のピットに変更になった。

BPit10、11、60、61、62、63	第４号掘立柱建物跡（BSB4）
BPit41、66、84	第18号竪穴住居跡に伴う掘立柱建物跡（BSI18SB1）

柱列（BSX5）（図 66）

標高 26.5m 前後の傾斜地で、CH・CI － 236 グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層上面で北西方向にピット列が検出された。調査区北側が削平されており、この部分に柱列と関連する遺構が存在する可能性もある。ピット 1 ～ 3 のうち、ピット 1・2 の間隔が 1m74 ㎝、ピット 2・3 の間隔が 1m94 ㎝である。これらのピットの長軸方向は W － 60° － N である。いずれのピットも柱痕や抜き取り痕を確認出来なかった。柱穴掘り方は、直径 28 ～ 32 ㎝で、平面形はピット 2・3 が楕円形、ピット 1 は円形である。ピット 2 は北側に浅い掘り込みが見られ、ピット 3 は底面が細長い長方形状となる。ピット深さは 26 ～ 38 ㎝である。堆積土は黒色土主体である。遺物は出土せず、遺構の構築時期は不明である。　（坂本）

ピット群（図 67 ～ 69・103）

柱穴は 61 基検出し、調査区中央と東側に分布する。基本層序第Ⅲ層で確認したが、東側の F 区谷の落ち際で検出したピットは第Ⅳ層で確認した。中央部分では、DN ～ DO － 233 ～ 236 グリッドに 17 基が、DO ～ DQ － 232 ～ 234 グリッドに 5 基が、DP ～ DR － 237 ～ 240 グリッドに 8 基が、ED ～ EF － 239 グリッドに 18 基がそれぞれまとまりをもって分布する。また東側では ER ～ ET － 246 ～ 247 グリッドの F 区谷本流の落ち際に 7 基が、EB － 249 ～ 250 グリッドに 6 基が分布する。標高は中央が 18.1 ～ 20.0m、東側が 17.9 ～ 18.4m である。掘り方の平面形は、円形・楕円形・不整形と様々である。規模は直径が 12 ～ 42 ㎝、深さが 6 ～ 42 ㎝である。直径 20 ～ 30 ㎝、深さ 12 ～ 26 ㎝のものが多い。柱痕は確認されなかった。堆積土は、黒褐色土を主体とし、黄褐色粘土の粒子やブロックが含まれる。ピット 30 ～ 35 は白頭山火山灰を含む。また炭化物や焼土を含むも

のもある。出土遺物は、ピット 17・20・21 から土師器の小破片、ピット 16 から磨り石の破片が出土した。

［小結］調査区中央に分布するピットは、しっかりとした構造はもたないものの建物であった可能性がある。また､調査区東側のピット 29 ～ 35 はＦ区谷本流に注ぐ BSD13 と CSD1（C 区第 1 号溝跡：未報告）との間に、谷の縁を沿うように位置している。BSD13、CSD1 とピット 30 ～ 35 は、共に堆積土に白頭山火山灰を含み、同時期に存在していた可能性がある。（伊藤）

9. 土坑

Ａ区で 1 基、Ｂ区で 88 基検出された。調査段階では 96 基をＢ区の土坑としたが、堆積土・形状・出土遺物等を検討した結果、遺構番号を変更したものが 9 基ある。

第 5 号土坑（BSK 5 ）	第21号竪穴住居跡外周溝（BSI21SD1）に変更
第13号土坑（BSK13）	第14号竪穴住居跡（BSI14）に変更
第66号土坑（BSK66）	第10号竪穴住居跡Pit32に変更
欠番：第 6 号（BSK 6 ）、第7号（BSK 7 ）、第19号（BSK19）、第23号（BSK23） 第77号（BSK77）、第91号（BSK91）土坑	

88 基の土坑の中で、竪穴住居跡に付随する 3 基は竪穴住居跡の項目で詳細を記載している。

第14号土坑（BSK14）	第 6 号竪穴住居跡に付随（図34）
第10号土坑（BSK10）	第 4 号竪穴住居跡に付随（図26）
第67号土坑（BSK67）	第 4 号竪穴住居跡に付随（図26）

なお、第 1 号～ 4 号土坑（BSK1 ～ 4）は『近野遺跡Ⅵ』にて既に報告済みであるが、これらとＡ区の土坑 1 基を含めて以下の基準で分類をした。なお､BSK1 ～ 4 の図はここでは掲載していない。

土坑は 89 基検出した。平安時代の土坑が半数を占める。時代毎で 3 群（Ⅰ～Ⅲ群）に大別した。さらに形状で 3 類（a ～ c 類）、規模で 3 つ（i ～ iii）に細分した。

＜時代＞	＜形状＞	＜規模＞
Ⅰ群：縄文時代	a 類：方形	i）長軸 1m 未満
Ⅱ群：平安時代	b 類：円形	ii）長軸 1m ～ 2m
（Ⅱ群）平安時代の可能性が高いもの	c 類：不整形	iii）長軸 2m 以上
Ⅲ群：時代不明		

Ⅰ群：縄文時代の土坑　（図 70・78・97）

縄文時代の土坑は 14 基検出された（BSK4・15・50 ～ 57・75・87 ～ 89）。配置から 3 つのグループに分かれる。

A）中位段丘斜面に位置する土坑：BSK75・87 ～ 89

BSK87 ～ 89 は CN － 241・242 グリッド、BSK75 は DC・DD － 243・244 グリットに位置する。標高は 24.5 ～ 26.5m である。基本層序第Ⅳ層面で検出されている。平面形・底面とも円形で、壁は

底面からほぼ直立する。規模は 88 が直径 50 ㎝と小形で、他は 1m ～ 1m20 ㎝となる。堆積土は上位に黒褐色土、下位に暗褐色土・褐色土が堆積する。ローム粒・炭化物粒が混入し、比較的締まりがある。下位が崩落土または人為堆積で、上位が自然堆積の様相を呈する。出土遺物は BSK89 から土器片（図 78 － 22）が出土した。

B）台地から谷へ下る斜面に位置する土坑：BSK15・50 ～ 57

BSK15 は標高 15m の DK － 213 グリッドに位置する。平面形は上面・底面とも円形である。壁は底面から直立するが上面近くで内傾する。さらに、中位に一部平坦面を有する。堆積土は黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積する。中位から石槍（図 97 － 3）が出土した。BSK50 ～ 57 は谷近くの標高 12 ～ 13m の、急斜面に位置する。等高線に平行するように分布する。斜面下の谷では水場関連の遺構が位置する。形状はほぼ円形であるがややいびつである。底面と壁の境は不明瞭で、底面・壁面に起伏がみられる。断面形はＵ字形・いびつな台形となる。全体的に形状にまとまりがみられないが、規模は直径 40 ～ 60 ㎝の範疇におさまる。深さは地形上 14 ～ 42 ㎝とばらつく。堆積土はローム混じりの黒褐色土を主体とする。締まりは強くない。底面から常に水分がしみ出る状態である。このような状況と配置から水場関連の土坑で、常時または一時的に種子等を保管した土坑とも考えられる。BSK50・51 から縄文土器片が出土した。

C）低位段丘面に位置する土坑：BSK4（『近野遺跡Ⅵ』掲載）

BSK4 はフラスコ状の円形土坑である。人為堆積の様相を呈し、十腰内Ⅰ式の土器がまとまって出土している。

Ⅱ群：平安時代の土坑　（図 71 ～ 73・103・123・129・132）

平安時代の土坑は 32 基である。形状を a 類：方形、b 類：円形、c 類：不整形の 3 つに細分した。

a 類：方形

BSK9・22・24・32・74・76・79 の 7 基が確認された。

ii）長軸 1m ～ 2m 未満のもの（BSK24・32・74・79）

BSK74･79 はやや楕円形気味の長方形を呈する。規模は長軸約 1m で、どちらも底面に起伏がある。堆積土は黒褐色土を主体とする。BSK32･76･79 から須恵器･土師器の破片（図 123）が出土している。

iii）長軸 2m 以上のもの（BSK9・22・76）

上面・底面ともほぼ正方形を呈するものである。BSK9 は下位に白頭山火山灰ブロックを帯状に含む。底面は基本層序第Ⅳ層まで掘り込まれ、暗褐色土で埋められている。底面には起伏があり、部分的に硬く締まる。堆積土中から土師器坏（図 123 － 5）･甕の破片、石製品（図 129 － 21）が出土した。BSK76 は、底面に凹凸があり、壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。西側壁際では最深部で 6 ㎝の溝状に落ち込みがあり、凹凸も見られる。堆積土上位から中位にかけて、南西側に遺物が密集する。須恵器の壺・甕の破片（図 123 － 21・22）と刀子（図 132 － 10）が出土している。

b 類：円形

上面・底面とも円形の土坑は 17 基（BSK1・2・11・14・16・43・49・58・60・67・69・71・78・80・81・85・92）である。

BSK16･92 と住居に付随する BSK14･67 を除く、10 基は竪穴住居跡外周溝に近接する位置にある。

外周溝から 5m 以内に位置するものが多い。

BSK11　　：BSI4SD1 の北側
BSK43・58　：BSI10SD1 の東側
BSK49　　：BSI10SD1 の西へ 8m
BSK60　　：BSI10 の南側
BSK71　　：BSI16SD1 の北側
BSK80・81・85：BSI19SD1 の東側
BSK69　　：BSI16SD1 の西へ 10m
BSK78　　：BSD22（住居跡外周溝の可能性あり）の西側

i）長軸 1m 未満のもの（BSK49・80・81・85・92）
ii）1m ～ 2 ㎜未満のもの（BSK1・2・43・58・60・67・71・78）
iii）2m 以上のもの（BSK11・14・16・69）

底面はおおかた平坦であるが、部分的に起伏がみられる。壁も起伏をもつもが大半で、BSK43 は途中でくびれを有する。断面形は箱形、台形、皿状となる。断面形が箱形のものは壁面に凹凸が少なく、筒状を呈するものもみられる。

堆積土中に白頭山火山灰を含むものが 5 基（BSK14・43・49・71・78）ある。特に火山灰が層状に厚く堆積する BSK71 は BSI18 に接し、BSI16 に近接する。この火山灰は BSI18 では確認されず、BSI16 にて外周溝下位または中位で検出されている。BSK71 は BSI16 とほぼ同時期に埋没したものと思われる。

BSI10 に隣接する BSK60 は白色粘土と焼土が塊状で壁寄りに堆積する。粘土層の中から台石と思われるほぼ一個体の礫の破片（図 103 － 7）が混在していた。

BSK92 を除き、堆積土中から土師器・須恵器の破片が出土している。中でも BSK60 からの出土が目立つ（図 123）。

c 類：不整形

形が一定でない土坑が 8 基（BSK25・44・61・62・68・70・82・83）ある。上面は円形または楕円形を呈するが、いびつである。一部張り出すもの（BSK44）、溝状をなすもの（BSK83）もある。底面・壁面とも起伏があり、壁の立ち上がりは不明瞭である。全体に起伏があり、底面と壁の境が不明瞭なものである。底面は、平坦面をなすものが少なく、平坦面をなしても小さいものである。

規模は BSK68 の長軸 1m86 ㎝を最大に、最小 70 ㎝までとばらつく。深さは約 30 ㎝前後で、BSK61 が 60 ㎝と深い。

BSK70 は西側が円形をなし、東側は溝状をなす。堆積土は黒褐色土を主体とし、締まりと湿性がある。BSK82・83 は形がいびつで、底面と壁の境は不明瞭で、全体に凹凸がある。堆積土はしまりの弱い黒褐色土で、縄文土器と土師器が出土している。他の土坑と堆積土の様相が異なり、風倒木痕とも考えられる。BSK61 は b 類の BSK60 と同様の堆積土を呈する。

（Ⅱ群）：平安時代の可能性のある土坑（図 73・74）

平安時代の遺物は出土していないが、形状、堆積土や配置から平安時代の土坑の可能性が高いもので、7 基（BSK33・34・35・45・46・47・48）検出した。長軸 65 ㎝～ 1m70 ㎝の円形および楕

円形で、深さ 20 ～ 30 ㎝の浅い土坑である。断面形は皿状、箱形を呈する。堆積土は底面付近に褐色・黄褐色土が堆積し、上位に炭化物粒混じりの黒褐色土が堆積する。

Ⅲ群：時代不明の土坑（図 74 ～ 76）

火山灰や出土遺物がなく、時代を特定できない土坑である。Ⅰ～Ⅱ群以外のＢ区土坑 35 基とＡ区第 1 号土坑（ASK1）の 36 基である。

規模で 3 つにわけ、平面形で 2 類に細分した。

i）長軸 1m 未満のもの：13 基（BSK8・12・20・21・26・27・28・30・41・42・64・86・93）

平面形は円形で、底面が平坦をなすものが主体である。断面形は箱形・U 字形が多い。中には平面形が隅丸方形のもの（BSK41）、不整円形のもの（BSK27）もある。BSK20･41 は底面が小さく、断面形がすり鉢状となる。

ii）長軸 1m ～ 2m 未満のもの

a 類：方形（BSK18・39・73・84・90）

b 類：円形（ASK1、BSK29・31・36・38・40・59・63・65・72・95・96）

a 類の内、BSK18、39、73、84 は長軸：短比 2：1 の長方形となる。18 は谷へ続くなだらかな斜面に位置し、地形の傾斜に沿うように底面が下降している。4 基とも短軸断面形は皿状をなす。ASK1 は底面が上面より広がり、BSK36 は中位にくびれを持つフラスコ状を呈する。BSK72 からは礫石器（図 103 － 6）が出土している。

iii）長軸 2m 以上のもの

a 類：方形（BSK17）

b 類：円形（BSK3・37・94）

BSK17 は長円形で掘り込みの浅い土坑である。縄文土器が出土しているが、第Ⅰ群の縄文時代の土坑に比べ、堆積土等をみても縄文時代と認定できる要素が少ないため、ここでは時代不明の土坑に含めている。b 類は底面が平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。BSK37 は中位から大きく外傾する。

（杉野森）

土坑計測表（A区）

土坑番号	図	グリッド	規模（cm）			備考	遺物	分類
			検出面	底面	深さ			
1	74	BD−210	105×100	105×100	50	急斜面に位置		Ⅲbii

土坑計測表（B区）− 1

土坑番号	図	グリッド	規模（cm）			備考	遺物	分類
			検出面	底面	深さ			
1	＊	DA−216	130×110	108×90	10	Ⅵ報告済み。BSI21SD1周辺		Ⅱbii
2	――	――	――	――	――	Ⅵ報告済み。BSI21SD1に変更	――	――
3	＊	CT−216	206×154	140×100	40	Ⅵ報告済み。BSI21SD1周辺		Ⅲbiii
4	＊	DA−215	256×210	210×180	70	Ⅵ報告済み。断面フラスコ状	土器：十腰Ⅰ内式	Ibiii
5	――	――	――	――	――	Ⅵ報告済み。BSI21SD1に変更	――	――
6	――	――	――	――	――	欠番	――	――
7	――	――	――	――	――	欠番	――	――
8	74	CA−215	84×76	78×58	36	円形。断面筒状		Ⅲbi
9	71	CF−211・212	300×(180)	256×(150)	64	B−Tm火山灰下位に堆積。BSK9←BSI2SD1と重複	土師器・縄文土器・石製品	Ⅱaiii
10	26	CL・CM−225	106×90	66×62	40	BSI4SD1の南側、BSI4付随		Ⅱbii
11	71	CK−221・222	220×(164)	160×116	48	BSI4SD2←BSK11と重複	土師器・縄文土器	Ⅱbiii
12	74	DD−215	68×−	66×−	22	大部分削平、形状不明。断面浅皿状。BSI6SD1に隣接		Ⅲ−i
13	――	――	――	――	――	SI14に変更	――	――
14	34	DC−212・213	293×(292)	248×218	91	BSI6SD1と重複、BSI6付随	土師器・縄文土器	Ⅱbiii
15	70	DK−213	84×73	50×46	82	柱痕有り。断面筒状	石槍	Ibi
16	71	DL−214	196×176	184×160	32	浅皿状	土師器・縄文土器	Ⅱbii
17	74	DI−213	206×96	100×54	18	断面皿状	縄文土器	Ⅲaiii
18	74	DK−213	158×80	64×42	34			Ⅲaiii
19	――	――	――	――	――	欠番	――	――
20	74	DR−221	76×68	38×14	70	円形。平安以降の土坑?		Ⅲbiii
21	74	DE−213	64×58	56×52	35	円形。断面箱形		Ⅲbiii
22	71	EJ−235	226×184	208×163	9	方形		Ⅱaiii
23	――	――	――	――	――	欠番	――	――
24	71	EL−235	114×114	102×99	15			Ⅱaii
25	73	EL−234	136×80	100×75	15			Ⅱcii
26	74	DK−206	82×66	68×56	24			Ⅲbi
27	74	DJ−205・206	79×70	64×17	26	断面フラスコ状		Ⅲci
28	74	DG−205・206	73×64	54×50	18			Ⅲci
29	75	CQ−224	104×86	20×14	36			Ⅲbii
30	75	DG−225	80×76	57×54	25			Ⅲai
31	75	DA−223・224	108×95	44×24	24			Ⅲbii
32	71	CR−227	148×116	124×100	32		土師器・縄文土器	Ⅱaii
33	74	CN−227	126×105	81×78	25			(Ⅱ)bii
34	73	CO−227	94×68	84×64	24	円形。断面浅箱形		(Ⅱ)bi
35	73	CO−227・228	168×120	154×104	30	円形。断面浅箱形		(Ⅱ)bii

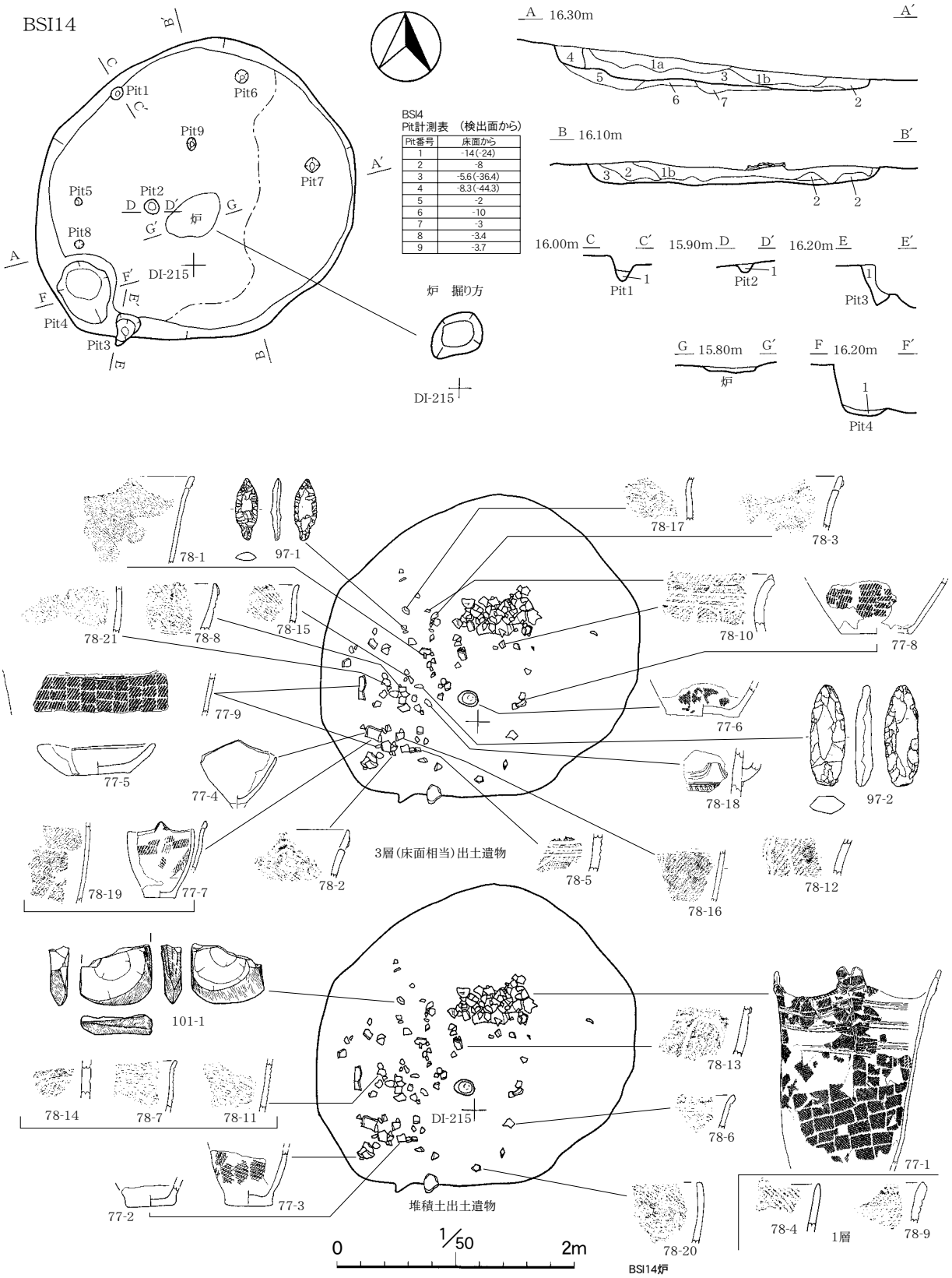
土坑計測表（Ｂ区）－２

土坑番号	図	グリッド	規模（cm）			備考	遺物	分類
			検出面	底面	深さ			
36	75	CO−229・230	124×115	97×89	66	円形。断面筒状。BSK37と隣接		Ⅲbii
37	75	CO・CQ−229・230	224×211	150×146	79	円形。断面筒状。BSK36と隣接		Ⅲbiii
38	75	CP−231	148×137	125×107	22	円形。断面皿状		Ⅲbii
39	75	DD−234	108×56	80×38	14			Ⅲaii
40	75	DC−235	111×79	85×56	12	円形。断面皿状		Ⅲbii
41	75	DD−236	94×90	8×8	16			Ⅲbi
42	75	DK−229	86×80	62×56	19			Ⅲbi
43	72	DH−232	180×166	126×116	60	円形。	土師器・縄文土器	Ⅱbii
44	73	DJ−234	166×139	36×13	26	不整形。底面凹凸	土師器・縄文土器	Ⅱcii
45	74	DJ−234	110×(105)	78×66	24	BSK46←BSK45と重複。断面浅皿状		(Ⅱ)cii
46	74	DJ−235	98×78	14×7	28	BSK46←BSK45と重複。BSK47と隣接。底面起伏あり		(Ⅱ)ci
47	74	DJ−235	64×43	28×7	8	BSK46と隣接。円形。底面起伏あり		(Ⅱ)bii
48	74	DJ−235	120×110	88×77	24	円形。底面起伏有り	縄文土器	(Ⅱ)bii
49	72	CS−237	104×103	75×72	99	BSD6の東端に位置。円形。断面筒状	土師器	Ⅱbi
50	70	DN−211	76×63	37×35	45	谷斜面に立地。水場関連?	縄文土器	Ici
51	70	DM−214・215	102×89	49×48	34	谷斜面に立地。水場関連?	縄文土器	Icii
52	70	DM・DN−214	78×69	35×32	14	谷斜面に立地。水場関連?		Ibi
53	70	DN−214	70×64	60×38	42	谷斜面に立地。水場関連?		Ici
54	70	DN−214	78×72	34×58	12	谷斜面に立地。水場関連? BSK55と隣接		Ici
55	70	DN−214	97×85	32×56	45	谷斜面に立地。水場関連? BSK54と隣接		Ici
56	70	DO−213	96×85	74×44	29	谷斜面に立地。水場関連?		Ici
57	70	DN−213	73×60	42×36	37	谷斜面に立地。水場関連?		Ici
58	72	DJ−233	220×190	166×125	41	BSD10←BSK58と重複	土師器・縄文土器	Ⅱbii
59	76	DK−228	162×130	142×100	28	断面皿状		Ⅲbii
60	73	DH・DI−235	146×127	124×108	35	BSI10に隣接	土師器・縄文土器	Ⅱbii
61	73	DI−235	130×80	(20)×(19)	36		土師器・鉄関連	Ⅱci
62	73	DH−235	94×89	74×66	76		土師器	Ⅱci
63	75	DA−254	108×90	98×94	32	円形。断面箱形		Ⅲbii
64	75	DA−254	94×86	92×82	24	円形。断面箱形	縄文土器	Ⅲbi
65	76	CR−222	106×103	95×92	24	円形。断面箱形		Ⅲbii
66						BSI10Pit32に変更		
67	26	CM−224	150×132	138×−	18	BSI4SD2の東端に位置、BSI4に付随		Ⅱbii
68	73	CK−223	186×120	1327×79	36	BSI4←BSK68と重複	鉄関連	Ⅱcii
69	72	EB・EC−241・242	220×213	208×194	27	円形。浅い	縄文	Ⅱbiii
70	73	ER−246	99×60	36×22	21			Ⅱci
71	72	ED−236	166×154	124×110	37	BSI16に関連?B−Tm火山灰混入	土師器・縄文土器	Ⅱbii

土坑計測表（B 区）－ 3

土坑番号	図	グリッド	規模（cm）			備考	遺物	分類
			検出面	底面	深さ			
72	76	ES−252	99×86	80×73	28	円形	礫石器	Ⅲbii
73	76	DD−240	(138)×100	68×60	28	上部削平。断面皿状		Ⅲaii
74	71	DC−241	122×76	100×44	13	長方形。浅い	縄文	Ⅱaii
75	70	DC･DD−243･244	204×176	124×117	94	円形。深い		Ibiii
76	71	DD･DE−240	222×(140)	183×(124)	48	1/2削平。方形。底面凹凸	土師器･縄文土器･鉄関連	Ⅱaiii
77	―	―	―	―	―	欠番	―	―
78	72	CN−240	164×157	115×106	50	円形。B−Tm火山灰混入	土師器	Ⅱbii
79	71	DL･DM−235	131×74	102×68	30		土師器･須恵器･縄文土器	Ⅱaii
80	72	DR･DS−235	96×−	74×66	76	円形。BSK81と重複	土師器･縄文土器	Ⅱbi
81	72	DS−235	120×−	96×96	30	円形。BSK80と重複	土師器	Ⅱbi
82	73	ES−248	116×77	96×44	42	不整形。BSK83と重複	土師器･須恵器･鉄関連	Ⅱcii
83	73	ER･ES248	225×96	210×56	26	BSK82と重複	縄文土器	Ⅱciii
84	76	DR−237･238	120×58	132×50	21			Ⅲaii
85	72	DR5−235	120×98	67×66	34	円形	土師器	Ⅱbi
86	76	DQ−237	70×66	56×49	11	小型円形。浅い		Ⅲbi
87	70	CO−241	128×123	108×104	34	円形。BSK88と重複		Ibii
88	70	CO−241･242	62×(40)	52×(36)	26	円形。BSK87と重複		Ibi
89	70	CO−242	123×105	96×83	44	円形	縄文土器	Ibii
90	76	EI−247	162×110	155×108	20			Ⅲaii
91	―	―	―	―	―	欠番	―	―
92	72	EO−250	99×76	80×57	49			Ⅱbi
93	76	EH−246	87×73	66×60	28		縄文土器	Ⅲ　i
94	76	EE−246	210×194	162×132	42	円形	縄文土器	Ⅲbiii
95	76	EF−246	118×92	72×45	40			Ⅲbii
96	76	DT−242	104×102	94×86	24	円形		Ⅲbii

・検出面・底面とも、長軸はそれぞれの最大長を、短軸は長軸に対し直角ラインでの最大値を計測した。
・深さは検出面から最も深い値を表記した。
・規模欄の（　）付数値は残存値、－は計測不可能を表す。
・備考の「□←△と重複」は新←旧を示す。



BSI4
Pit計測表　（検出面から）

Pit番号	床面から
1	-14(-24)
2	-8
3	-5.6(-36.4)
4	-8.3(-44.3)
5	-2
6	-10
7	-3
8	-3.4
9	-3.7

BSI14堆積土

1a層	10YR1.7/1	黒　色　土	ローム粒3%、炭化粒2%
1b層	10YR2/2	黒褐色土	ローム中～大粒10%、焼土中～大粒10%、炭化物小～中粒5%
2層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒3%、黒色土粒
3層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒5%、炭化粒1%
4層	10YR4/4	褐　色　土	ローム塊2%
5層	10YR3/1	黒褐色土	ローム小粒・塊5%。掘り方埋土
6層	10YR6/3	鈍い黄橙色ローム	10YR4/1褐灰色土10%。掘り方埋土
7層	10YR5/4	鈍い黄橙色ローム	炭化物大粒1%、10YR5/1褐灰色土10%。掘り方埋土

BSI14炉
1層　10YR4/6　褐　色　土　ローム粒1%、炭化物粒1%

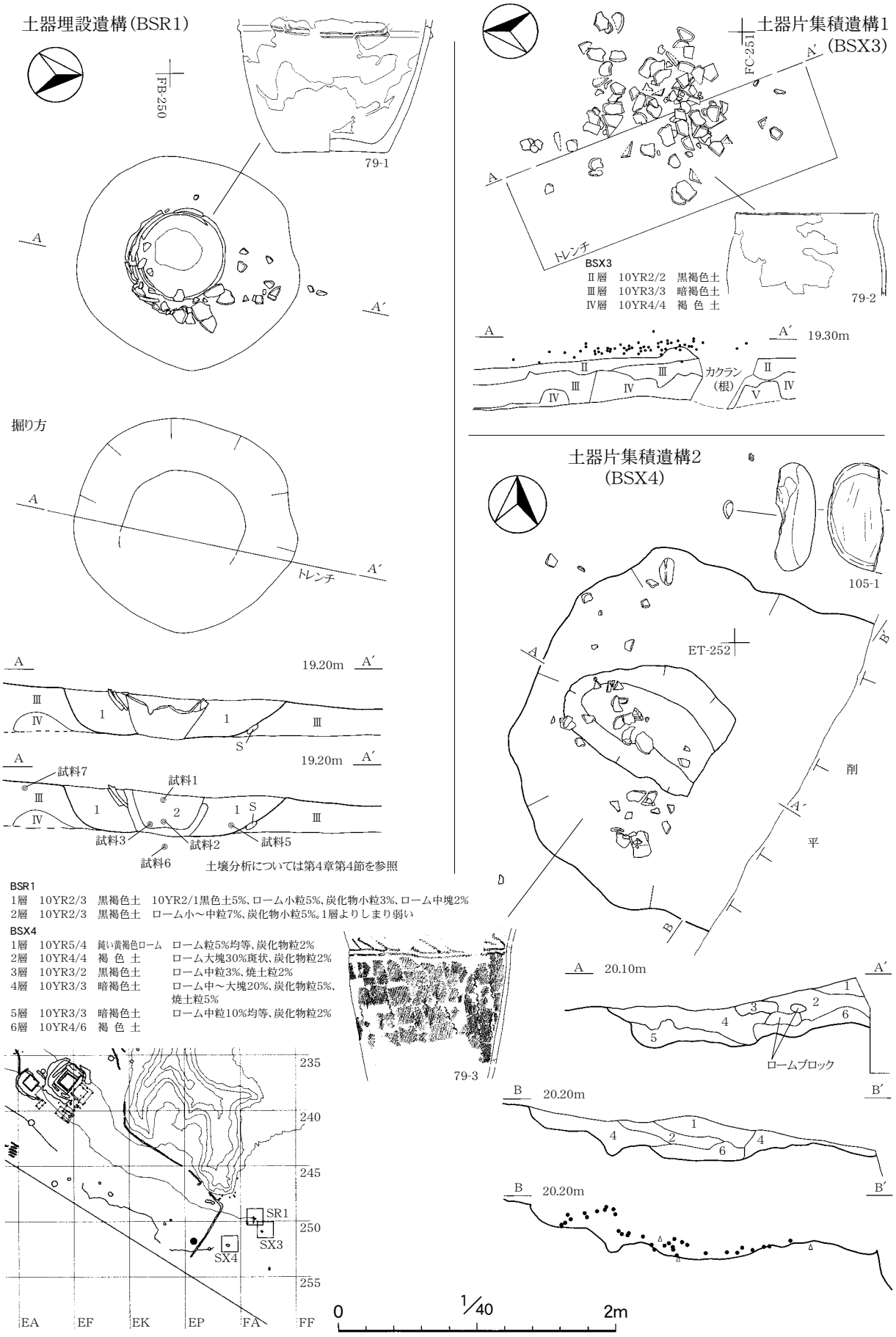
BSI14Pit1
1層　10YR4/4　褐　色　土　ローム粒1%、炭化物粒1%

BSI14Pit2
1層　10YR4/4　褐　色　土　ローム粒1%、炭化物粒1%

BSI14Pit3
1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%

BSI14Pit4
1層　10YR3/4　暗　色　土　ローム粒1%、炭化物粒1%

図 20　第 14 号竪穴住居跡



0　1/40　2m

図 21　土器埋設遺構、土器片集積遺構

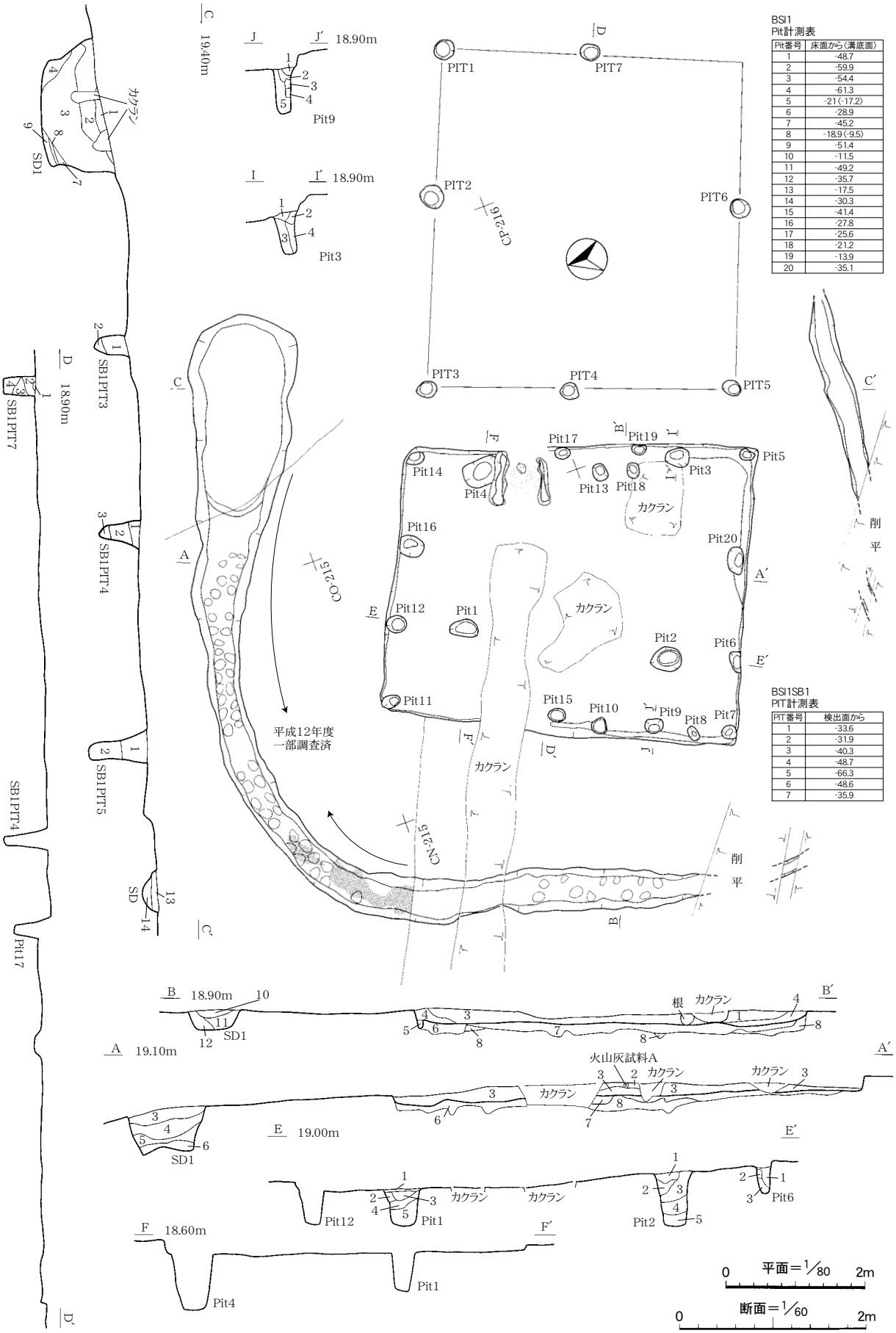
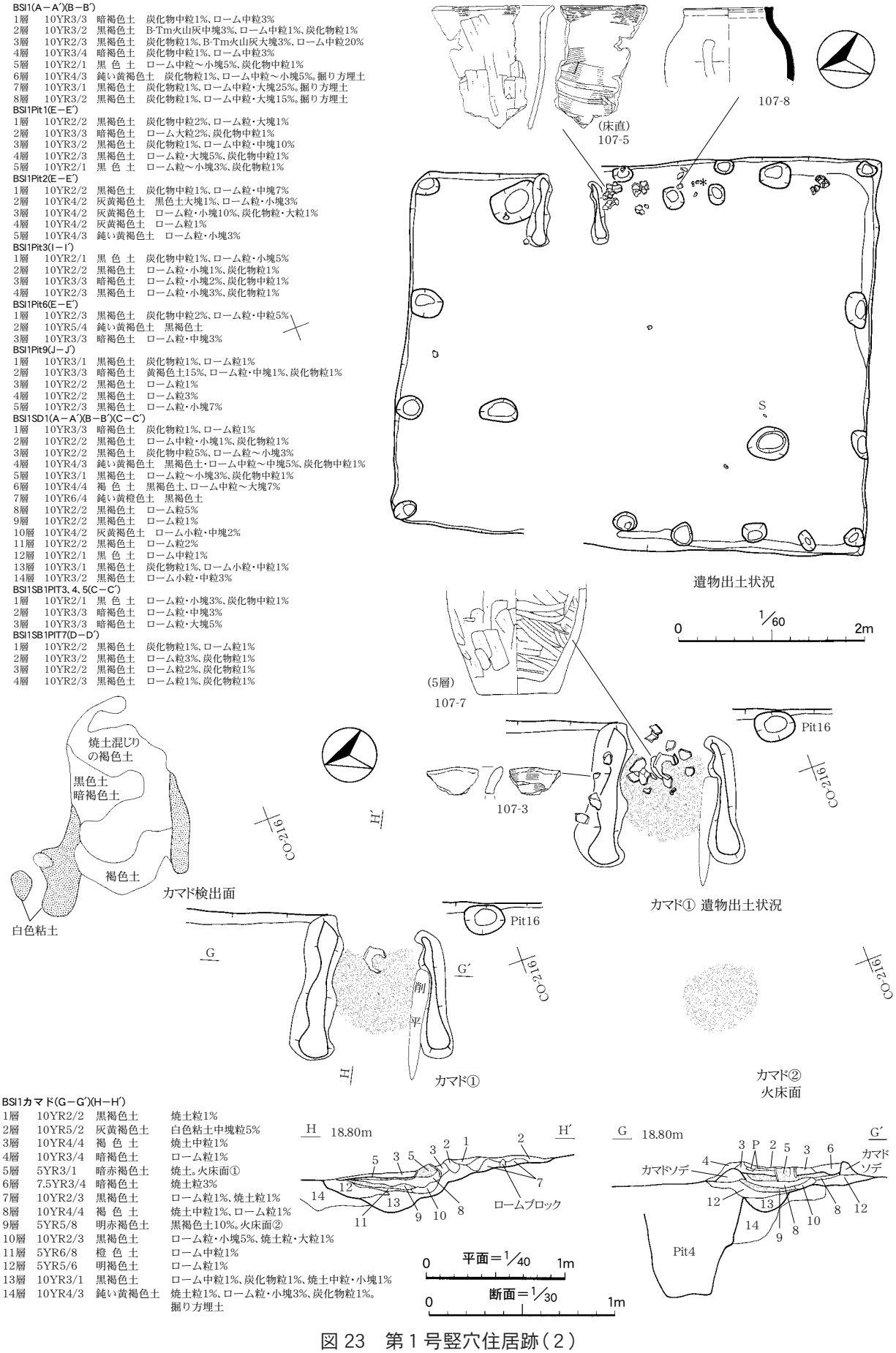


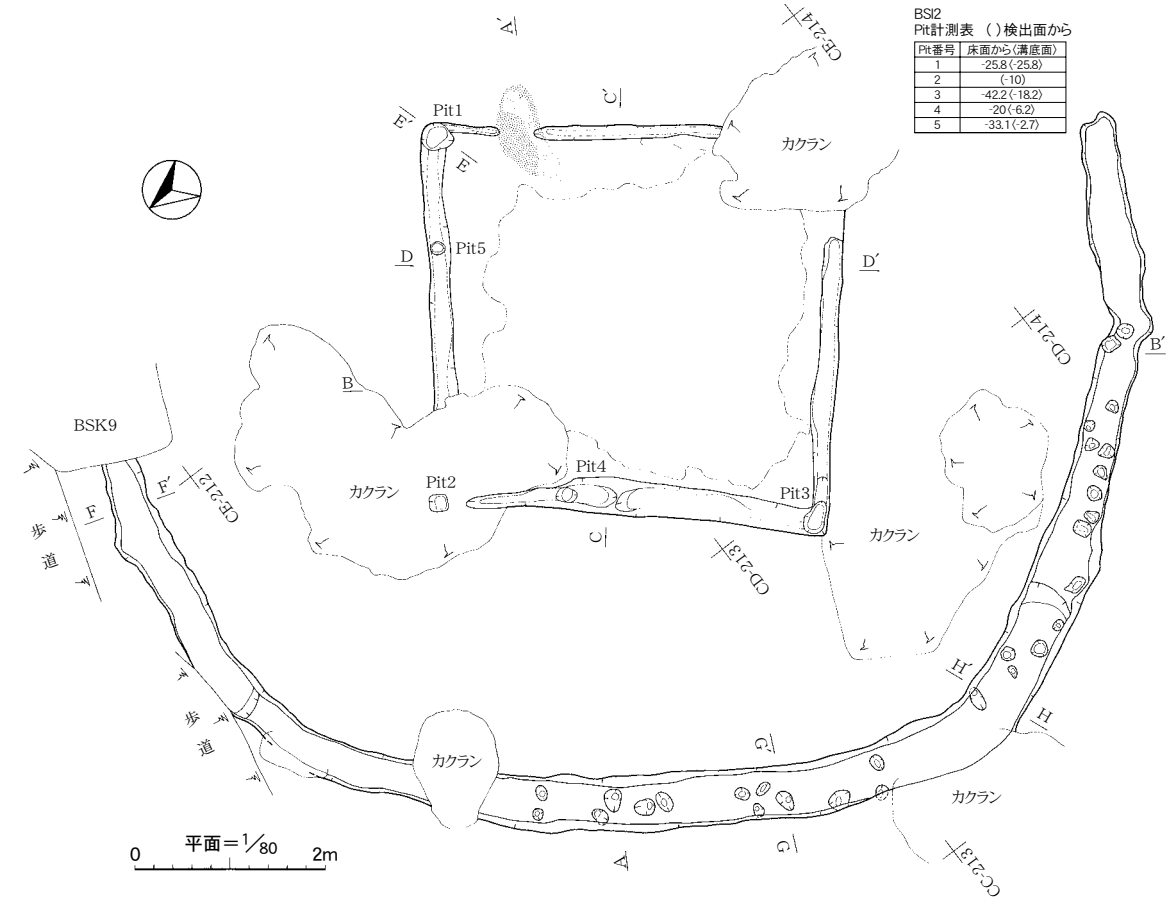
図 22　第１号竪穴住居跡（１）

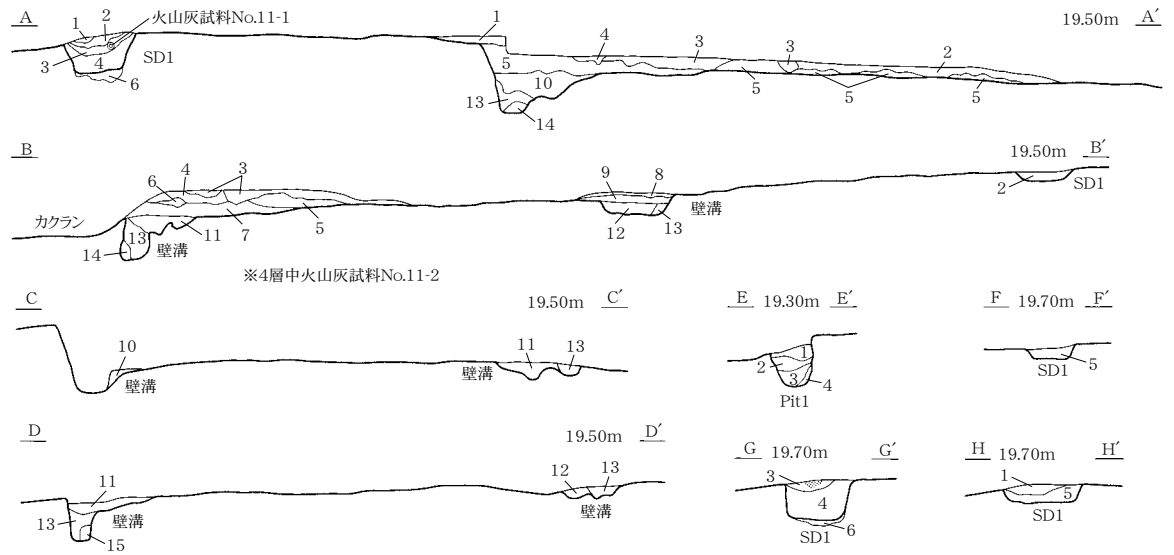
BSI1(A－A′)(B－B′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物中粒1%、ローム中粒3%
2層　10YR3/2　黒褐色土　B-Tm火山灰中塊3%、ローム中粒1%、炭化物粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物粒1%、B-Tm火山灰大塊3%、ローム中粒20%
4層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物中粒1%、ローム中粒3%
5層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒～小塊5%、炭化物中粒1%
6層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　炭化物粒1%、ローム中粒～小塊5%。掘り方埋土
7層　10YR3/1　黒褐色土　炭化物粒1%、ローム中粒・大塊25%。掘り方埋土
8層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物粒1%、ローム中粒・大塊15%。掘り方埋土
BSI1Pit1(E－E′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物中粒2%、ローム粒・大塊1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム大粒2%、炭化物中粒1%
3層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物粒1%、ローム中粒・中塊10%
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒・大塊5%、炭化物中粒1%
5層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒～小塊3%、炭化物粒1%
BSI1Pit2(E－E′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物中粒1%、ローム粒・中塊7%
2層　10YR4/2　灰黄褐色土　黒色土大塊1%、ローム粒・小塊3%
3層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒・小塊10%、炭化物粒・大粒1%
4層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒1%
5層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒・小塊3%
BSI1Pit3(I－I′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　炭化物中粒1%、ローム粒・小塊5%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒・小塊1%、炭化物粒1%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒・小塊2%、炭化物中粒1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒・小塊3%、炭化物粒1%
BSI1Pit6(E－E′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物中粒2%、ローム粒・中粒5%
2層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　黒褐色土
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒・中塊3%
BSI1Pit9(J－J′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　炭化物粒1%、ローム粒1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　黄褐色土15%、ローム粒・中塊1%、炭化物粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%
5層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒・小塊7%
BSI1SD1(A－A′)(B－B′)(C－C′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物粒1%、ローム粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒・小塊1%、炭化物粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物中粒5%、ローム粒～小塊3%
4層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　黒褐色土・ローム中粒～中塊5%、炭化物中粒1%
5層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒～小塊3%、炭化物中粒1%
6層　10YR4/4　褐 色 土　黒褐色土、ローム中粒～大塊7%
7層　10YR6/4　鈍い黄橙色土　黒褐色土
8層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%
9層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%
10層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム小粒・中塊2%
11層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%
12層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒1%
13層　10YR3/1　黒褐色土　炭化物粒1%、ローム小粒・中粒1%
14層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小粒・中粒3%
BSI1SB1PIT3、4、5(C－C′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒・小塊3%、炭化物中粒1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒・中塊3%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒・大塊5%
BSI1SB1PIT7(D－D′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物粒1%、ローム粒1%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%



BSI1カマド(G－G′)(H－H′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒1%
2層　10YR5/2　灰黄褐色土　白色粘土中塊粒5%
3層　10YR4/4　褐 色 土　焼土中粒1%
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒1%
5層　5YR3/1　暗赤褐色土　焼土。火床面①
6層　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒3%
7層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒1%、焼土粒1%
8層　10YR4/4　褐 色 土　焼土中粒1%、ローム粒1%
9層　5YR5/8　明赤褐色土　黒褐色土10%。火床面②
10層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒・小塊5%、焼土粒・大粒1%
11層　5YR6/8　橙 色 土　ローム中粒1%
12層　5YR5/6　明褐色土　ローム粒1%
13層　10YR3/1　黒褐色土　ローム中粒1%、炭化物粒1%、焼土中粒・小塊1%
14層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　焼土粒1%、ローム粒・小塊3%、炭化物粒1%。掘り方埋土

図 23　第 1 号竪穴住居跡（2）





BSI2(A－A′)(B－B′)
1層　10YR3/1　黒褐色土
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　上部に火山灰小塊5%、全体に2.5YR7/6ローム小塊3%、炭化物粒1%、カマド付近に2.5YR5/8焼土小塊
3層　10YR4/1　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒疎に1%。東側に炭化物小塊
4層　10YR3/2　黒褐色土　B-Tm火山灰30%
5層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒5%、上面にB-Tm火山灰小粒・小塊3%、炭化物粒1%
6層　10YR2/1　黒 色 土　炭化物粒・小塊3%
7層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒1%、焼土ブロック1%
8層　10YR6/8　明黄褐色ローム　ローム粒5%。9層より締まりあり
9層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒10%
10層　2.5Y6/3　鈍い黄色ローム　黒色土混在。壁溝掘り方埋土
11層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物粒5%、ローム粒1%、10YR4/6褐色土混在。壁溝掘り方埋土
12層　10YR3/3　暗褐色土　10YR2/3黒褐色土、10YR4/6褐色土。壁溝掘り方埋土
13層　10YR2/1　黒 色 土　締まり弱い。砂質
14層　10YR5/4　鈍い黄褐色ローム　ローム粒2%
15層　10YR4/4　褐 色 土　黄褐色ローム中塊10%。締まりあり

BSI2Pit1(E－E′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック中塊3%、炭化物粒1%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック中塊5%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小粒3%
4層　10YR4/4　褐 色 土　3層土3%

BSI2SD1(F－F′)(G－G′)(H－H′)
1層　10YR2/1　黒 色 土
2層　10YR3/1　黒褐色土　炭化物粒10%
3層　10YR3/2　黒褐色土　B-Tm火山灰50%混在
4層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物粒10%
5層　10YR2/2　黒褐色土　下方に2.5YR7/6明黄褐色土ローム中塊50%
6層　10YR3/4　暗褐色土　ローム大粒・小塊20%、炭化物中粒7%。掘り方埋土

図 24　第２号竪穴住居跡（１）

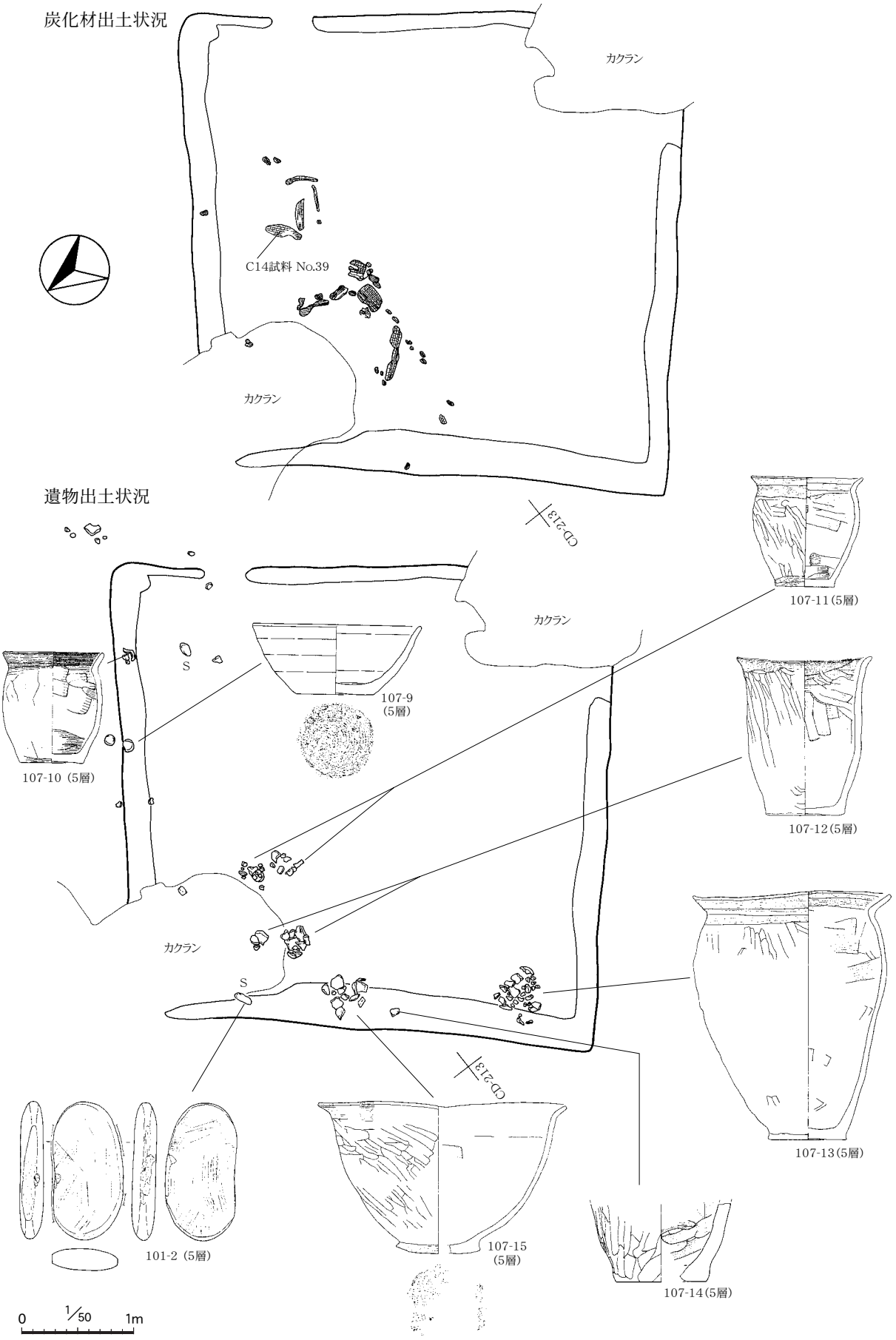


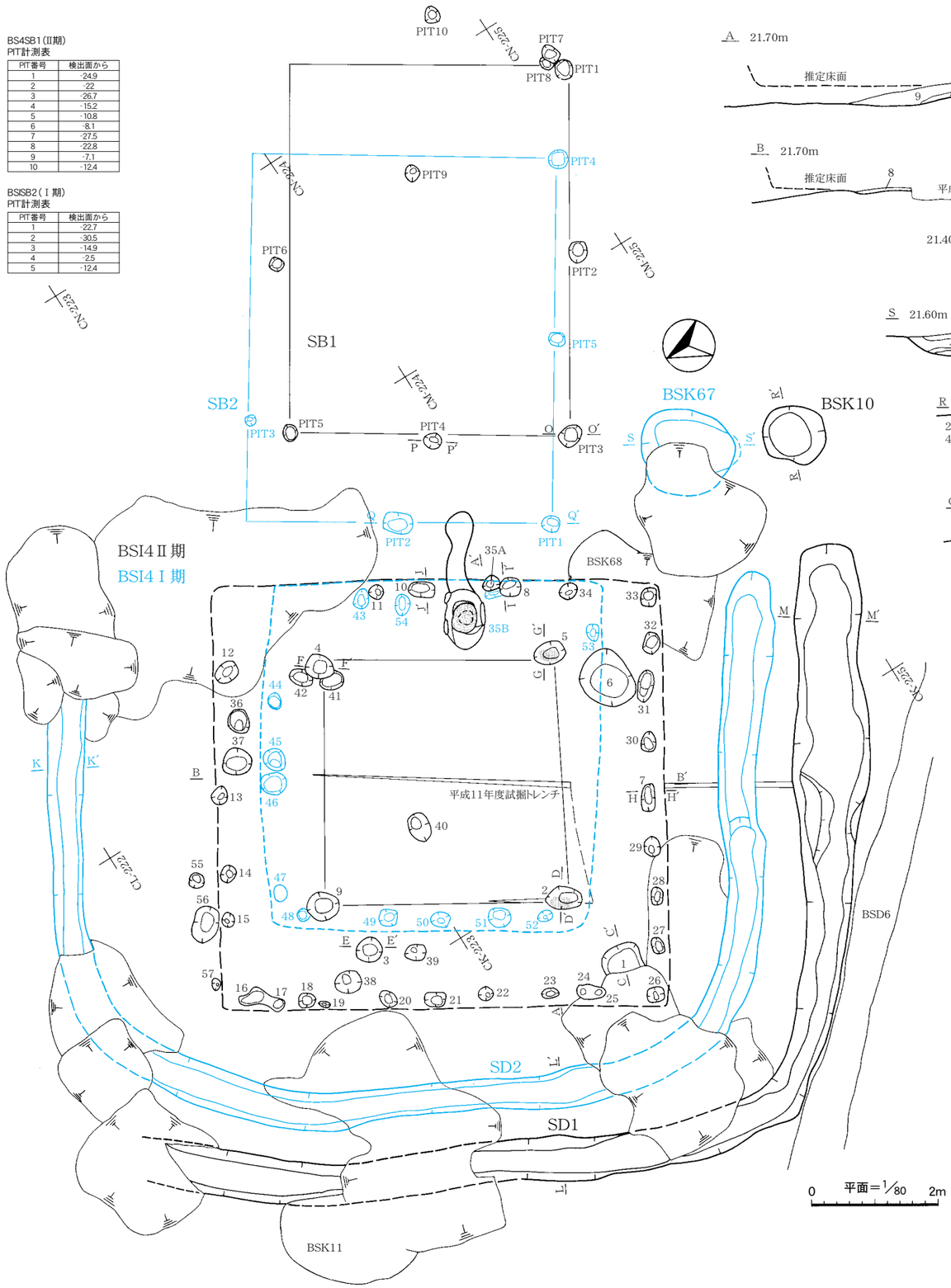
図 25　第 2 号竪穴住居跡（2）

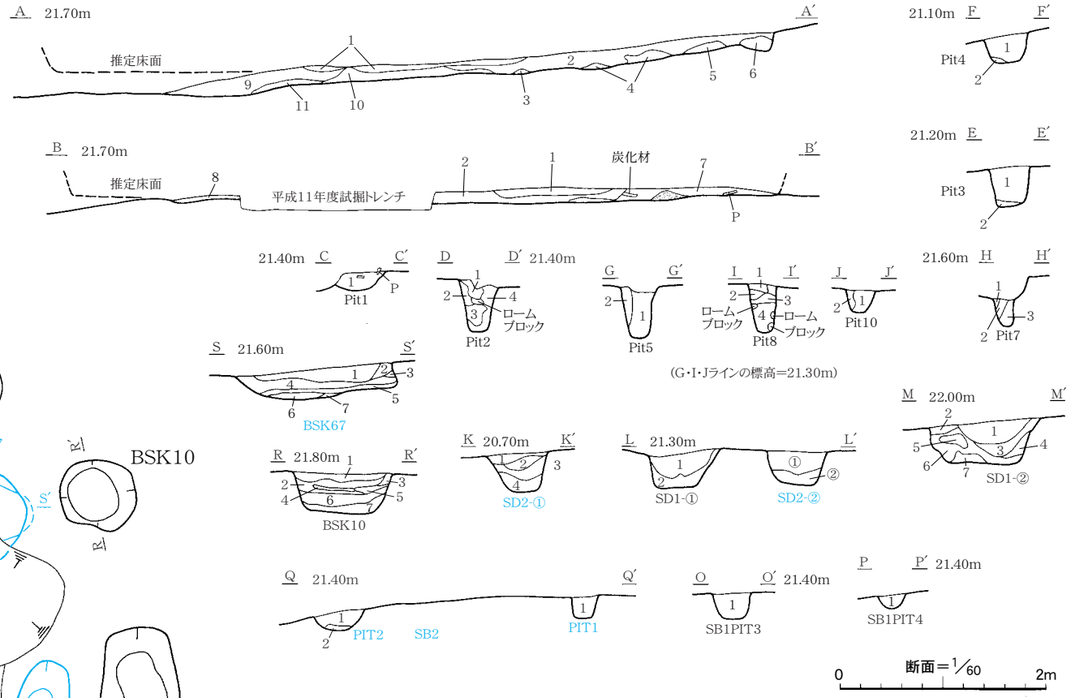
BS4SB1(II期)
PIT計測表

PIT番号	検出面から
1	-24.9
2	-22
3	-26.7
4	-15.2
5	-10.8
6	-8.1
7	-27.5
8	-22.8
9	-7.1
10	-12.4

BSSB2(Ⅰ期)
PIT計測表

PIT番号	検出面から
1	-22.7
2	-30.5
3	-14.9
4	-2.5
5	-12.4





BSI4Ⅱ期
Pit計測表

Pit番号	床面から
1	-13.9
2	-51.4
3	-40.2
4	-34.7
5	-48.2
6	-41.4
7	-33.6
8	-47.7
9	-25.5
10	-27
11	-29.1
12	-52.3
13	-27.5
14	19.4
15	-33.3
16	-32.6
17	-14.4
18	-17.7
19	-13.2
20	-15
21	-32.6
22	-5.6
23	-84.9
24	-38.5
25	-29.1
26	-23
27	-10.8
28	-34
29	-46
30	-47.5
31	-29.6
32	-50.2
33	-27.4
34	-43.9
35	-23.5
36	-52.5
37	-21.1
38	-19.9
39	-12.6
40	-20.1
41	-14
42	-25.6
55	-34.6
56	-38.5
57	-28.4

BSI4Ⅰ期
Pit計測表

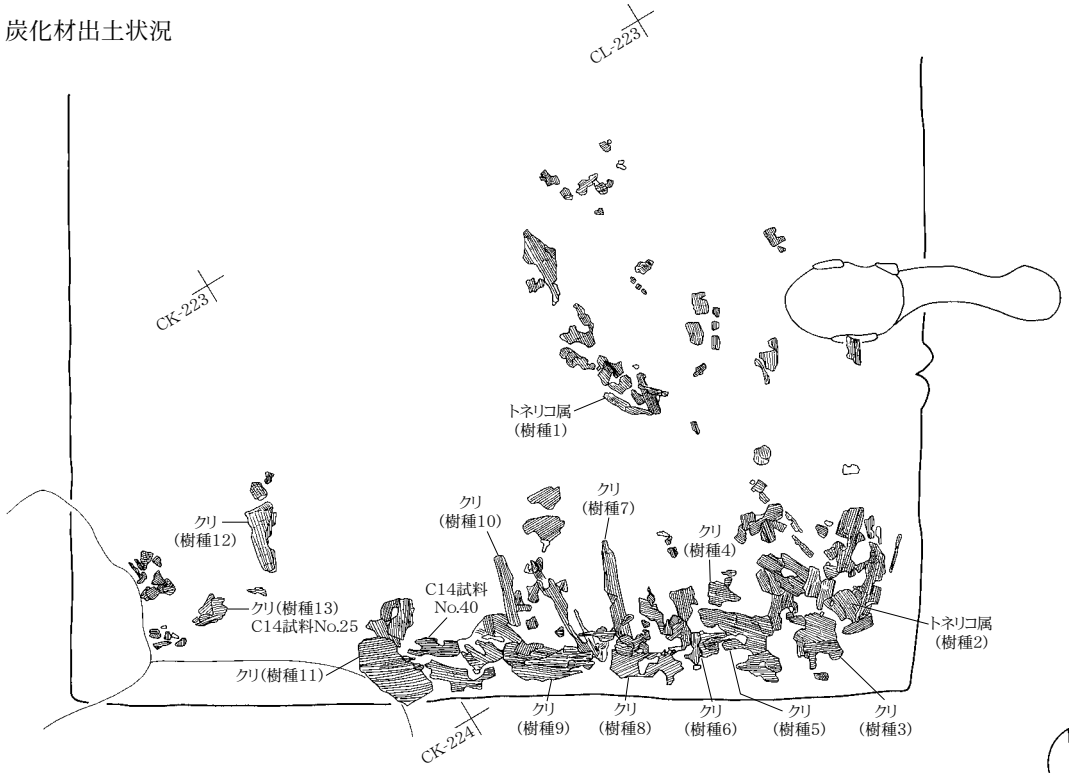
Pit番号	床面から
43	-11.4
44	-20
45	-41
46	-8.6
47	-10.7
48	-6.4
49	-38.3
50	-32.1
51	-35
52	-12.5
53	-30.4
54	-15.9

BSI4(A－A′)(B－B′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物(φ2～10mm)20%、ロームブロック(φ2～10mm)3%、焼土(φ2～5mm)2%、10YR3/3暗褐色土
2層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物(φ1～10mm)5%、ロームブロック(φ1～5mm)3%、焼土(φ2～3mm)2%
3層　10YR4/6　褐　色　土　焼土(φ1～2mm)1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロック(φ1～10mm)2%、炭化物(φ1～3mm)1%、焼土(φ1～2mm)1%、10YR2/3黒褐色土
5層　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック(φ2～3mm)2%、炭化物(φ1～10mm)2%、焼土(φ2～3mm)1%
6層　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロック(φ1～3mm)2%、炭化物(φ1～2mm)1%、焼土(φ1～2mm)1%
7層　10YR2/2　黒褐色土　焼土30%、ローム(φ3～5mm)3%、炭化物(φ5～15mm)2%・(φ1～2mm)1%
8層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物(φ2～3mm)1%、焼土(φ1～2mm)1%
9層　10YR2/1　黒　色　土　ロームブロック(φ1～2mm)3%、炭化物(φ1～3mm)2%、焼土(φ1～2mm)1%
10層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1～2mm)1%、焼土(φ1～2mm)1%
11層　10YR4/4　褐　色　土　炭化物(φ1～2mm)1%
BSI4Pit1(C－C′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物(φ5～15mm)5%、焼土(φ2～10mm)2%、ローム(φ2～5mm)1%
BSI4Pit2(D－D′)
1層　7.5YR2/2　黒褐色土　炭化粒・焼土粒微量、ロームブロック(φ10mm)
2層　10YR3/4　暗褐色土　炭化材微量、ロームブロック(φ20mm)
3層　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量
4層　10YR6/8　明黄褐色土　炭化粒・焼土粒微量、ロームブロック(φ20mm)少量、ローム粒多量
BSI4Pit3(E－E′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　φ50～70mmロームブロック微量、炭化材・ローム粒少量
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化粒微量
BSI4Pit4(F－F′)
1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム(φ2～10mm)2%、炭化物(φ1～2mm)1%、焼土(φ1～2mm)1%
2層　10YR4/4　褐　色　土　ローム(φ5～10mm)30%、炭化物(φ1～2mm)1%
BSI4Pit5(G－G′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム(φ1～2mm)3%・(φ5～20mm)2%、炭化物(φ2～5mm)2%、焼土(φ2～3mm)1%
2層　10YR4/6　褐　色　土　炭化物(φ1～2mm)1%
BSI4Pit7(H－H′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物(φ1～2mm)1%
2層　10YR4/6　褐　色　土　ロームブロック(φ50mm)大2個
3層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物(φ2～3mm)1%
BSI4Pit8(I－I′)
1層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物(φ1～2mm)1%、ローム(φ2～3mm)1%、ロームブロック20mm大1個
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム(φ1～2mm)2%、炭化物(φ1～2mm)1%、焼土(φ1～2mm)1%
3層　10YR3/4　暗褐色土　ローム(φ1～2mm)1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム(φ2～10mm)3%
BSI4Pit10(J－J′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム(φ3～10mm)2%、炭化物(φ2～5mm)1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム(φ5～20mm)3%、炭化物(φ1～2mm)1%

BSI4SD1-①(L－L′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム(φ1～3mm)5%、焼土(φ1～2mm)2%、炭化物(φ1～3mm)1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム(φ10～50mm)30%、焼土(φ1～5mm)1%
BSI4SD1-②(M－M′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム(φ5～30mm)5%、焼土(φ1～10mm)3%
2層　10YR2/1　黒　色　土　ローム(φ1～2mm)2%、焼土(φ1～2mm)1%
3層　10YR2/1　黒　色　土　ローム(φ5～10mm)3%、焼土(φ1～2mm)1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロック(φ1～50mm)3%
5層　10YR3/4　暗褐色土　ローム(φ2～5mm)2%、焼土(φ1～2mm)1%、炭化物(φ1～2mm)1%
6層　10YR2/3　黒褐色土　ローム(φ1～50mm)5%、焼土(φ1～2mm)1%、炭化物(φ1～2mm)1%
7層　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック(φ20～50mm)30%、焼土(φ1～2mm)1%
BSI4SD2-①(K－K′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム(φ2～5mm)2%、焼土(φ1～2mm)1%
2層　10YR2/1　黒　色　土　ローム(φ1～2mm)2%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム(φ10～30mm)5%、炭化物10mm1個
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム(φ10～30mm)7%、炭化物(φ1～2mm)1%
BSI4SD2-②(L－L′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　焼土(φ1～2mm)1%、10YR4/6褐色土7%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム(φ5～10mm)2%
BSI4SB1PIT3(O－O′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　炭化粒(φ0.3～1.5mm)極少量
BSI4SB1PIT4(P－P′)
1層　10YR3/3　暗褐色土
BSI4SB2PIT1(Q－Q′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　ローム(φ5～10mm)3%、焼土(φ1～2mm)1%
BSI4SB2PIT2(Q－Q′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム(φ10～30mm)7%、炭化物(φ1～2mm)1%
2層　10YR2/1　黒　色　土　ローム(φ5～20mm)5%、焼土(φ1～2mm)1%
BSK10(R－R′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小～大粒極少量
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小・中粒、炭化物小粒極少量
3層　10YR4/4　褐　色　土
4層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物小～大粒極少量
5層　10YR2/2　黒褐色土
6層　10YR4/4　褐　色　土　ローム小～大粒・塊少量、焼土中粒・炭化物小粒極少量
7層　10YR3/3　暗褐色土　焼土小粒極少量、10YR4/6褐色土塊多量
BSK67(S－S′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ロームブロック中・大粒5%、炭化物小粒2%、焼土小粒1%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック中・大粒5%、焼土小粒1%
3層　10YR5/8　黄褐色土　ロームブロック小粒1%
4層　10YR2/1　黒　色　土　ロームブロック大粒3%、炭化物小粒2%、焼土中粒2%
5層　10YR4/4　褐　色　土　ロームブロック大粒7%、焼土小粒1%
6層　10YR3/2　黒褐色土　ロームブロック大粒3%、焼土小粒1%
7層　10YR4/6　褐　色　土　10YR3/4暗褐色土大粒2%

図26　第４号竪穴住居跡(１)、第10・67号土坑

炭化材出土状況



遺物出土状況

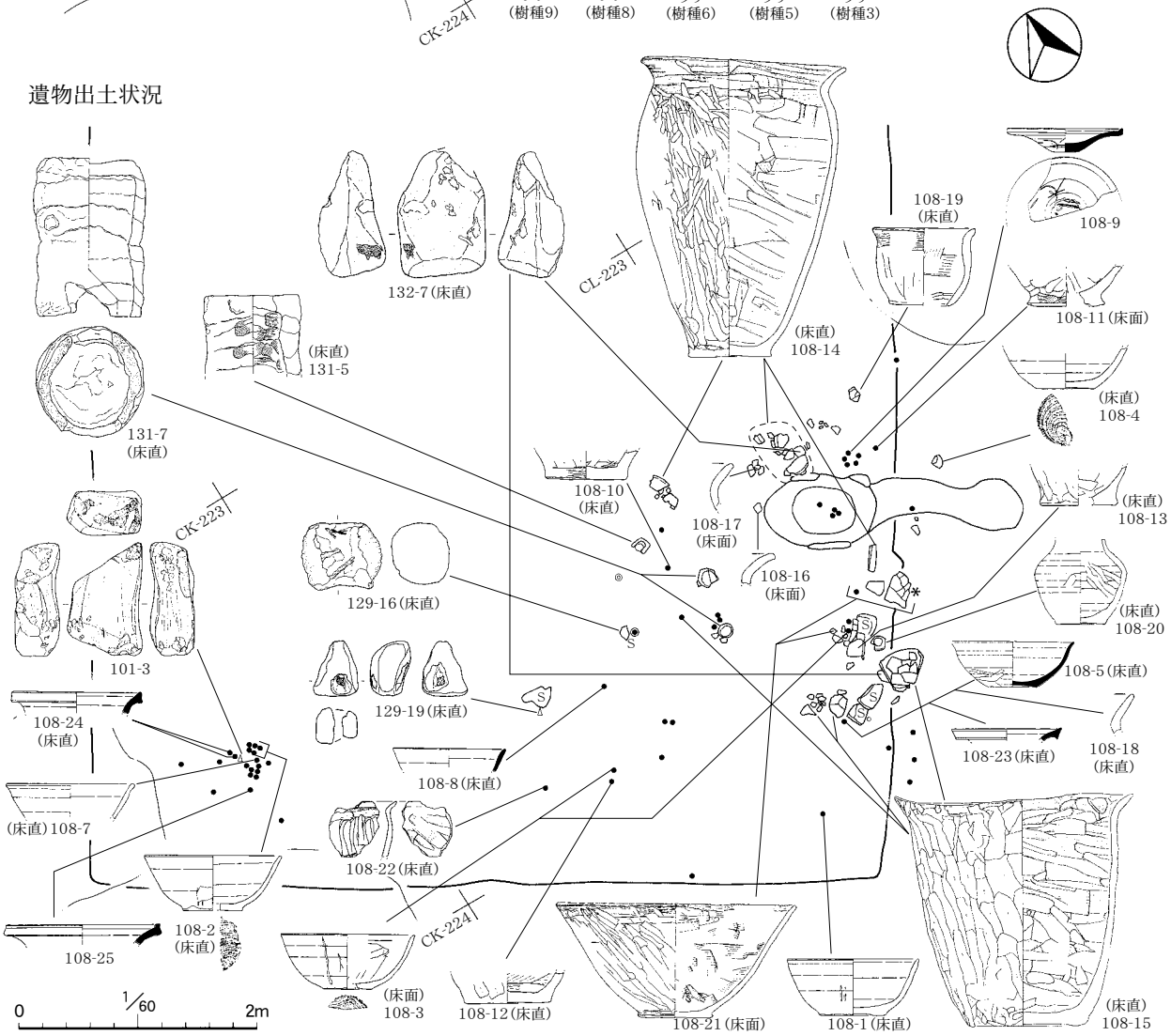


図 27　第４号竪穴住居跡（２）

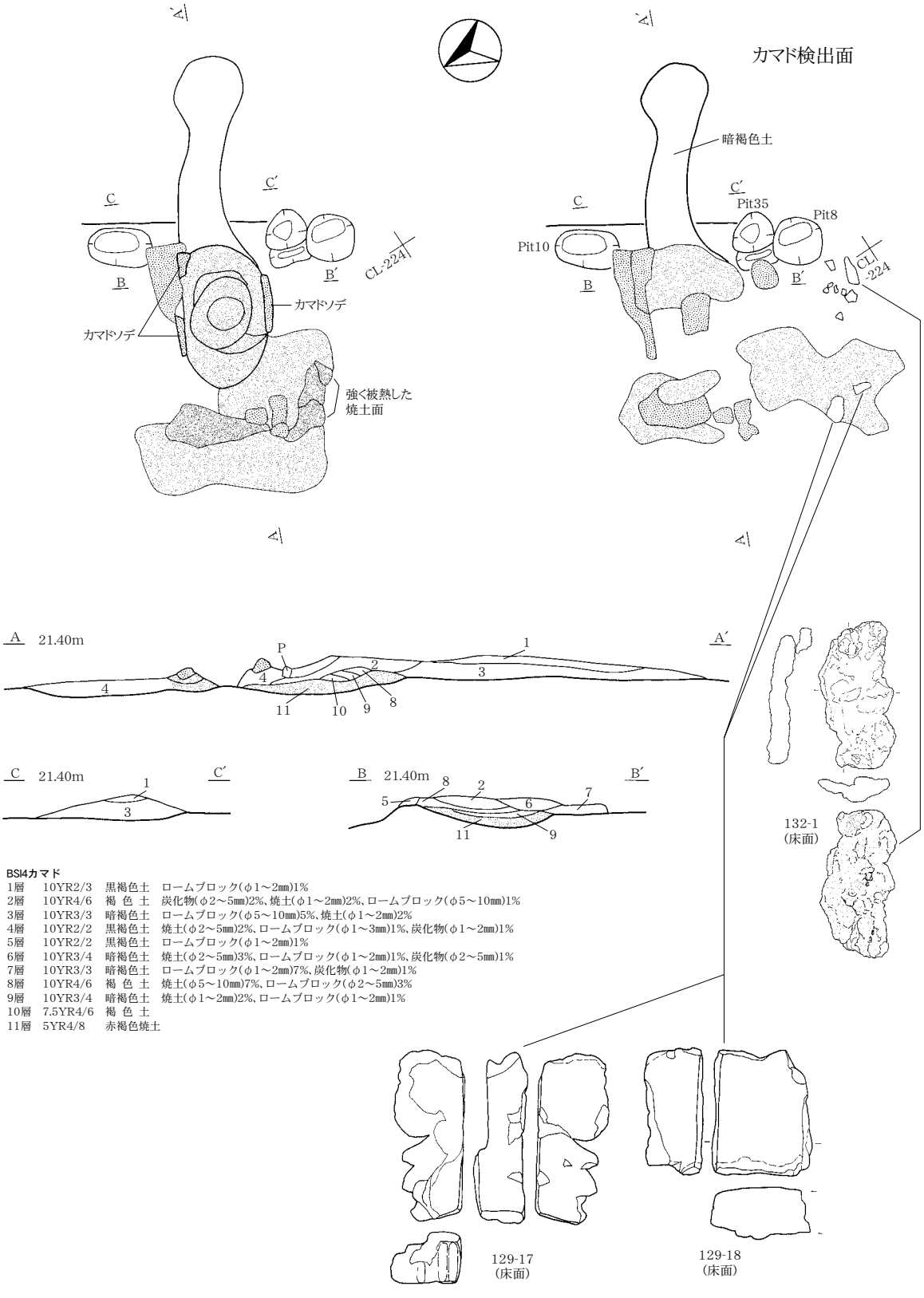
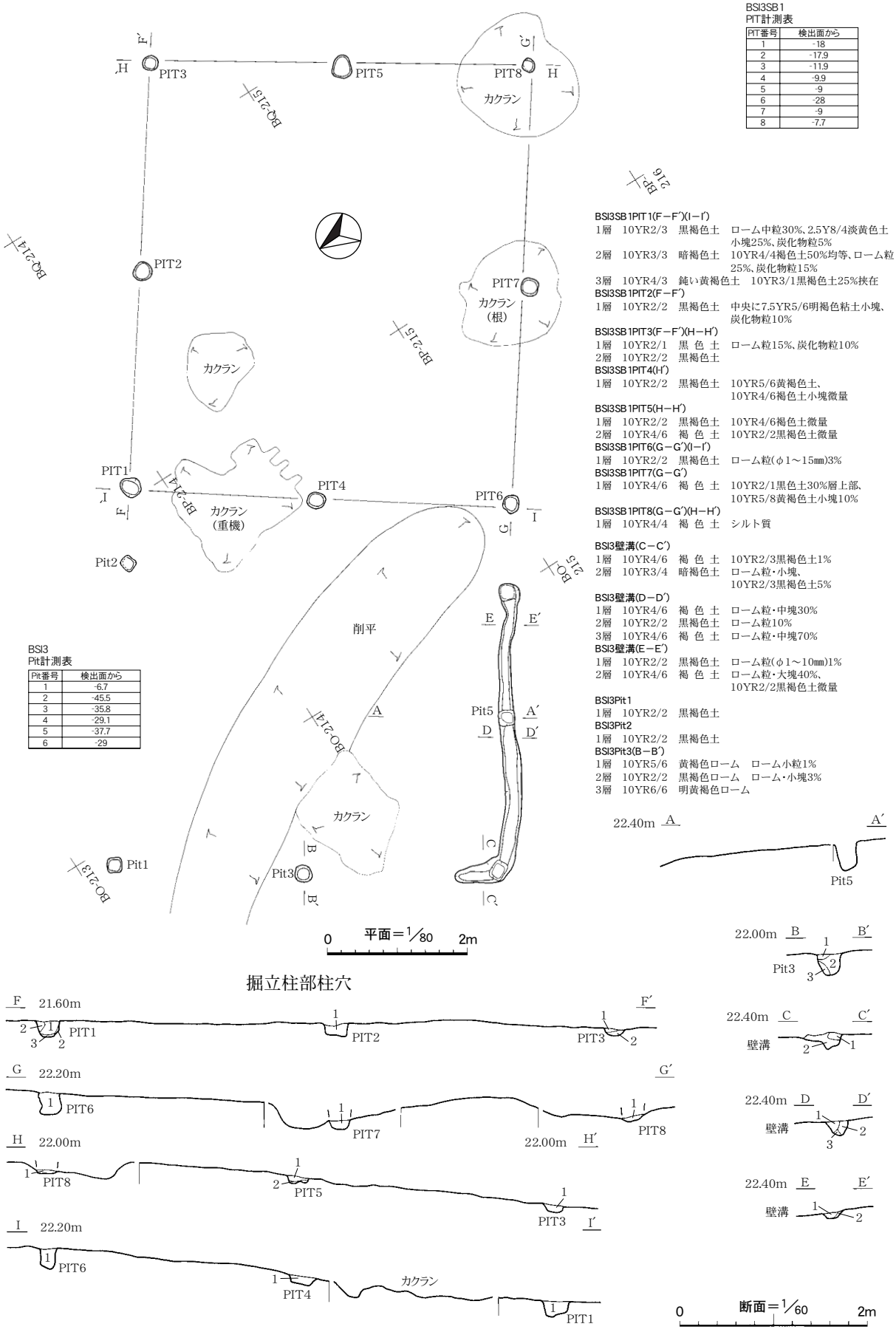


図 28　第 4 号竪穴住居跡（3）



BSI3SB1
PIT計測表

PIT番号	検出面から
1	-18
2	-17.9
3	-11.9
4	-9.9
5	-9
6	-28
7	-9
8	-7.7

BSI3
Pit計測表

Pit番号	検出面から
1	-6.7
2	-45.5
3	-35.8
4	-29.1
5	-37.7
6	-29

BSI3SB1PIT1(F－F′)(I－I′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒30%、2.5Y8/4淡黄色土小塊25%、炭化物粒5%
2層　10YR3/3　暗褐色土　10YR4/4褐色土50%均等、ローム粒25%、炭化物粒15%
3層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　10YR3/1黒褐色土25%挟在

BSI3SB1PIT2(F－F′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　中央に7.5YR5/6明褐色粘土小塊、炭化物粒10%

BSI3SB1PIT3(F－F′)(H－H′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒15%、炭化物粒10%
2層　10YR2/2　黒褐色土

BSI3SB1PIT4(H′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR5/6黄褐色土、10YR4/6褐色土小塊微量

BSI3SB1PIT5(H－H′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/6褐色土微量
2層　10YR4/6　褐 色 土　10YR2/2黒褐色土微量

BSI3SB1PIT6(G－G′)(I－I′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～15㎜)3%

BSI3SB1PIT7(G－G′)
1層　10YR4/6　褐 色 土　10YR2/1黒色土30%層上部、10YR5/8黄褐色土小塊10%

BSI3SB1PIT8(G－G′)(H－H′)
1層　10YR4/4　褐 色 土　シルト質

BSI3壁溝(C－C′)
1層　10YR4/6　褐 色 土　10YR2/3黒褐色土1%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒・小塊、10YR2/3黒褐色土5%

BSI3壁溝(D－D′)
1層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒・中塊30%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒10%
3層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒・中塊70%

BSI3壁溝(E－E′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～10㎜)1%
2層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒・大塊40%、10YR2/2黒褐色土微量

BSI3Pit1
1層　10YR2/2　黒褐色土

BSI3Pit2
1層　10YR2/2　黒褐色土

BSI3Pit3(B－B′)
1層　10YR5/6　黄褐色ローム　ローム小粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色ローム　ローム・小塊3%
3層　10YR6/6　明黄褐色ローム

掘立柱部柱穴

図 29　第３号竪穴住居跡

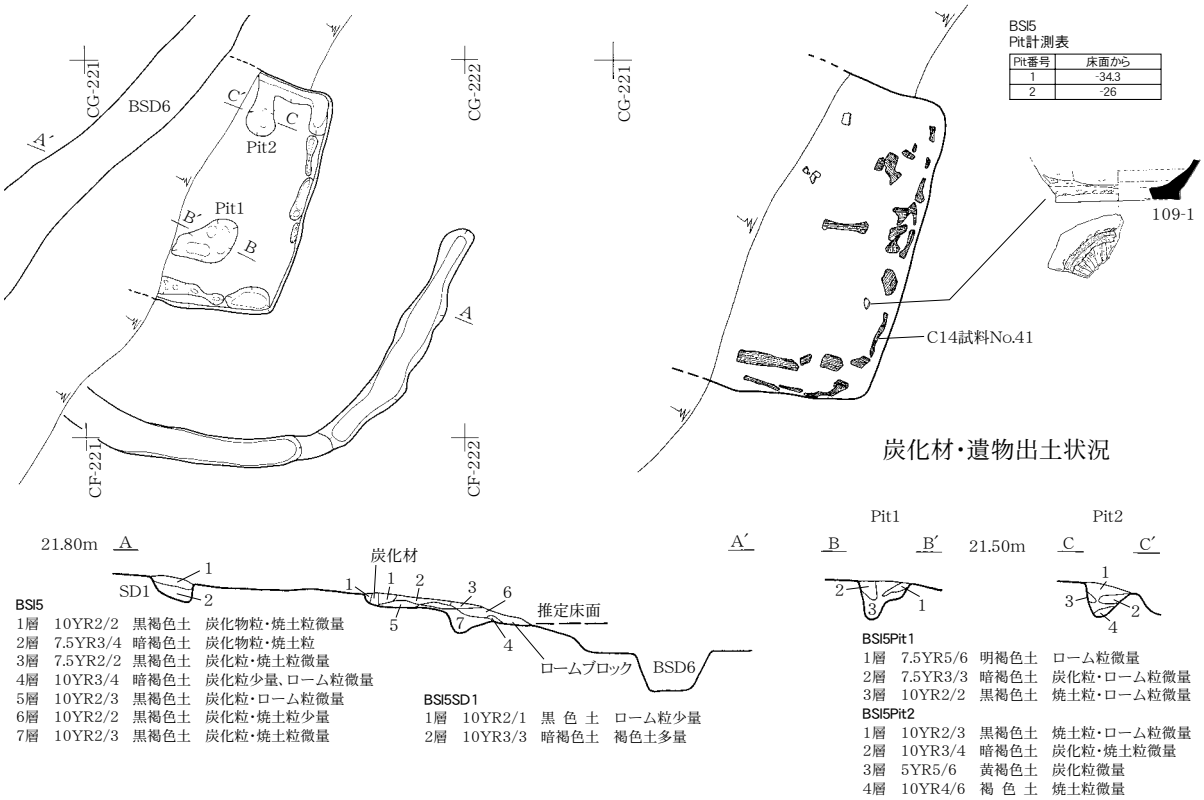


図 30　第 5 号竪穴住居跡

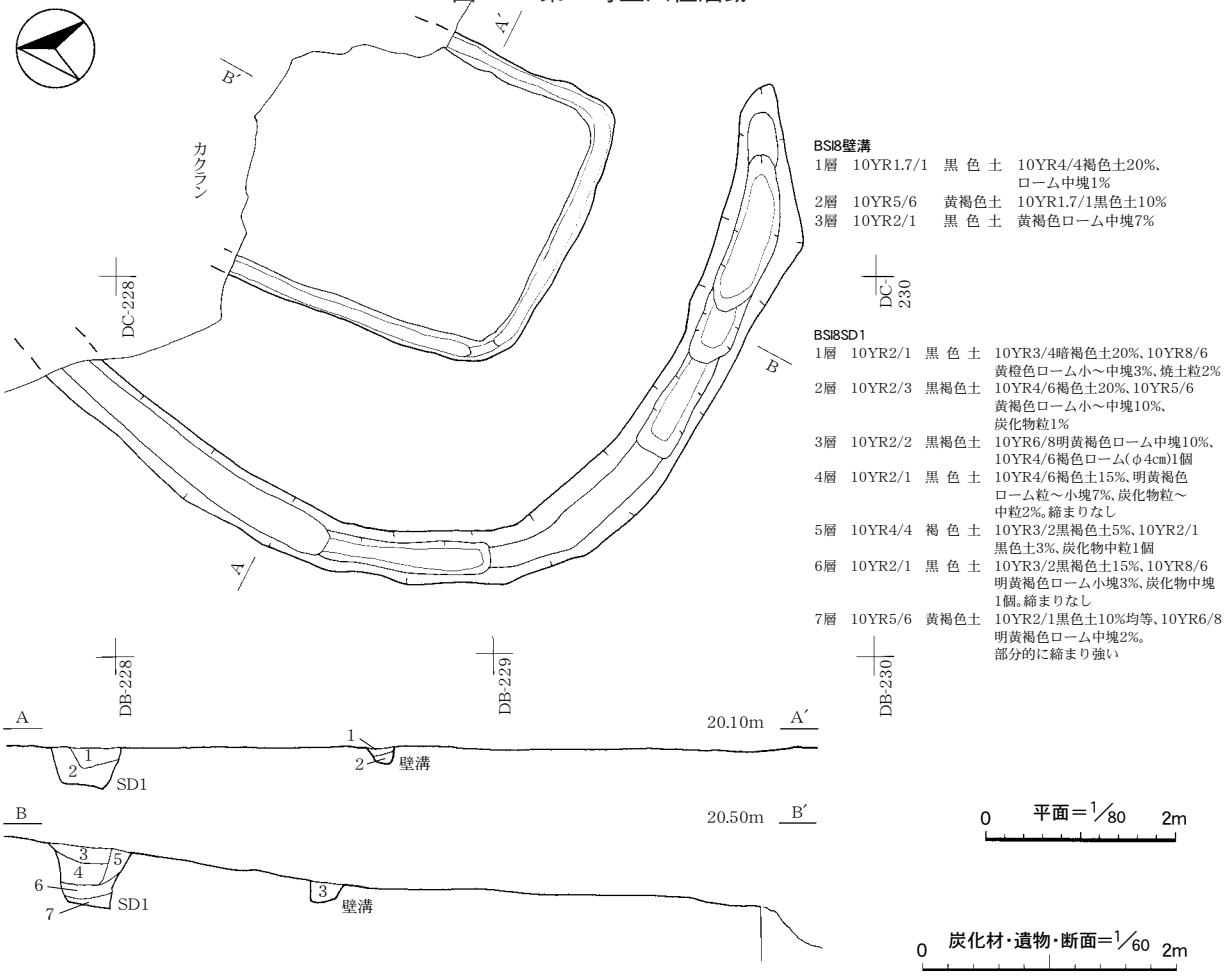


図 31　第 8 号竪穴住居跡

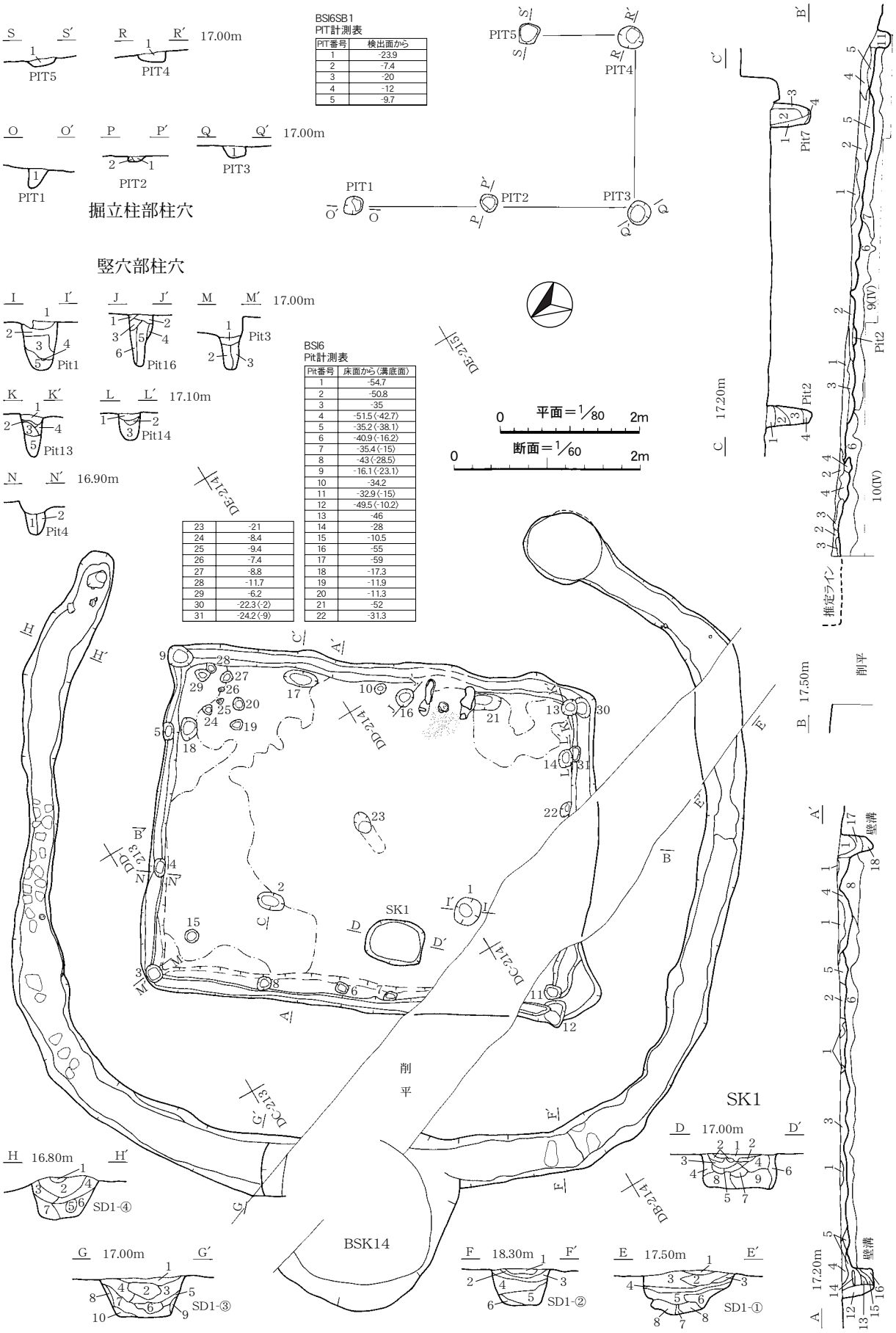


図 32　第６号竪穴住居跡（１）

BSI6(A－A′)(B－B′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム大粒3%、炭化物中粒1%、B-Tm火山灰
2層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒5%、炭化物中粒1%
3層　10YR6/4　鈍い黄褐色土　ロームとの混合土。焼土粒1%
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒3%、黒色土粒1%
5層　10YR5/6　黄褐色土　ローム塊と暗褐色土の混合土
6層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒1%。掘り方埋土
7層　10YR2/3　黒褐色土　黒色土ブロック。掘り方埋土
8層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒1%。掘り方埋土
9層　10YR4/4　褐 色 土　基本層序第Ⅳ層相当
10層　10YR7/4　鈍い黄橙色土　基本層序第Ⅳ層相当
11層　10YR3/1　暗褐色土　ローム粒微量
12層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒・炭化物粒3%
13層　10YR4/4　褐 色 土　ローム中粒10%、炭化物粒5%
14層　10YR4/6　褐 色 土　ローム小粒・大塊10%、炭化物小粒3%
15層　10YR3/2　暗褐色土　ローム小～大粒・炭化物粒2%
16層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小・中粒3%、炭化物粒2%
17層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%
18層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒10%、炭化物粒1%

BSI6SK1(D－D′)
1層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　ローム塊3%、B-Tm火山灰5%
2層　B-Tm火山灰層
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒1%、炭化物大粒15%
4層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物中粒1%
5層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム中粒1%
6層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%
7層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒5%、炭化物中粒1%
8層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒5%、炭化物中粒1%
9層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%

BSI6Pit1(I－I′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物粒3%
2層　10YR4/4　褐 色 土　ローム粒5%、炭化物粒3%
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒5%、焼土粒3%
4層　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒5%
5層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒5%

BSI6Pit2(C－C′)
1層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒10%
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　黒褐色土10%
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒5%、黒褐色土5%
4層　10YR3/2　黒褐色土　ローム中粒5%

BSI6Pit3(M－M′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒3%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒5%
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・小塊5%

BSI6Pit4(N－N′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム塊5%、炭化物粒1%

BSI6Pit13(K－K′)
1層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒3%、炭化物粒2%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒2%、炭化物粒1%
3層　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒3%、炭化物粒3%
4層　10YR4/4　褐 色 土　ローム粒2%、炭化物粒2%
5層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%

BSI6Pit14(L－L′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%
2層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒5%、炭化物粒2%
3層　10YR4/4　褐 色 土　ローム粒5%、炭化物粒1%

BSI6Pit16(J－J′)
1層　10YR2/3　黒褐色土
2層　10YR4/3　暗褐色土　ローム粒2%、炭化物粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒1%
4層　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒2%、炭化物粒3%
5層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒2%、炭化物粒5%
6層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒3%、炭化物粒3%

BSI6Pit17(C－C′)
1層　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒・塊5%、炭化物粒3%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒3%、炭化物粒2%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒・大塊10%、炭化物粒1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%

BSI6SD1-①(E－E′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　B-Tm火山灰粒2%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒2%、焼土粒2%
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%、炭化物粒3%、火山灰粒2%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒3%、焼土粒2%
5層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%、炭化物粒5%、焼土粒2%
6層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒5%、炭化物粒5%、焼土粒3%
7層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%
8層　10YR3/3　暗褐色土　ローム塊20%、炭化物粒10%、焼土粒3%

BSI6SD1-②(F－F′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　B-Tm火山灰粒2%
2層　10YR2/2　黒褐色土　B-Tm火山灰40%、炭化粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒2%、焼土粒2%
4層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%、炭化物粒5%、焼土粒2%
5層　10YR3/3　暗褐色土　ローム塊20%、炭化物粒10%、焼土粒3%
6層　10YR4/6　褐 色 土　炭化物粒5%、焼土粒5%

BSI6SD1-③(G－G′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　炭化粒1%
2層　10YR5/6　黄褐色土　暗褐色土との混合土。ローム粒1%
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒3%
5層　10YR2/3　黒褐色土　B-Tm火山灰下部に塊状に堆積
6層　10YR3/3　暗褐色土　B-Tm火山灰塊状に堆積
7層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒7%
8層　10YR7/6　明黄褐色土　壁の崩落
9層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒1%
10層　10YR4/4　褐 色 土　底面直上の土

BSI6SD1-④(H－H′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　B-Tm火山灰下部に塊状に点在
2層　10YR6/4　鈍い黄褐色土　黒褐色土主体で、B-Tm火山灰が塊状
3層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物粒1%、B-Tm火山灰1%
4層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物粒1%
5層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　黒褐色土
6層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物粒3%、ローム粒1%
7層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　ローム塊と黒褐色土の混合土

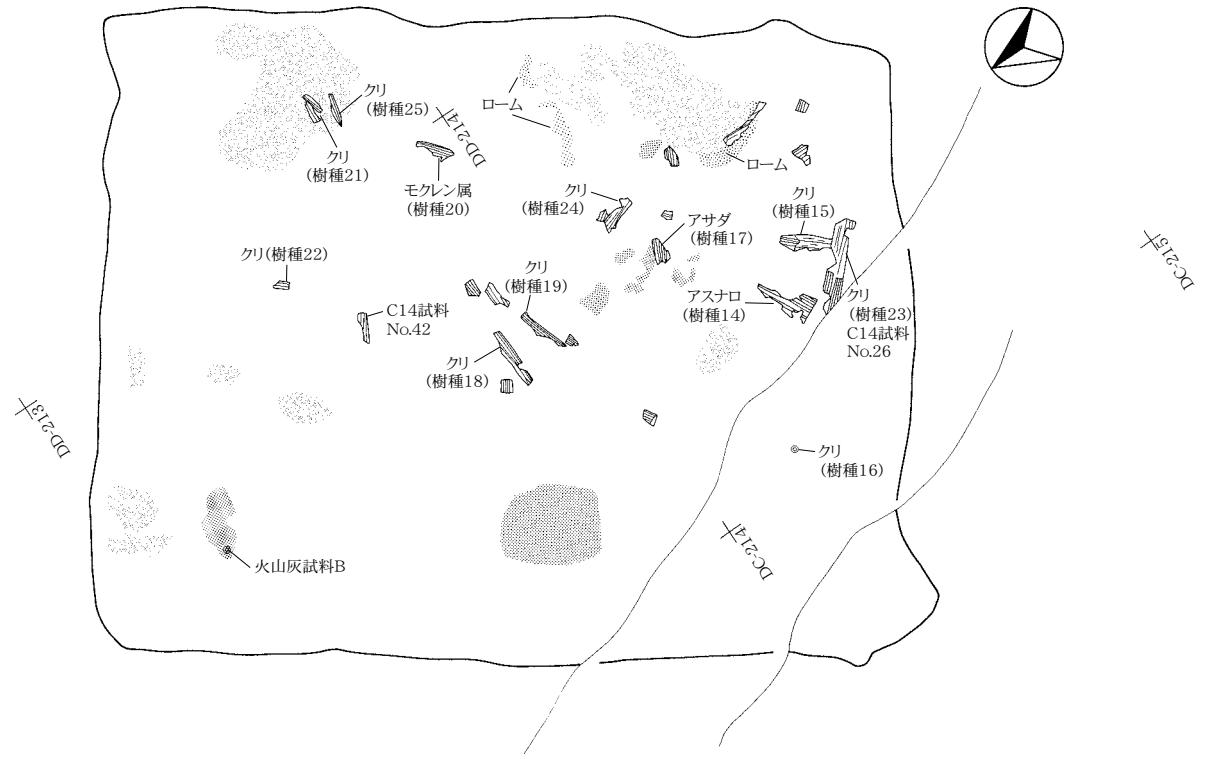
BSI6SB1PIT1(O－O′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒2%、焼土小粒2%

BSI6SB1PIT2(P－P′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒3%
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム小粒2%、焼土小粒2%

BSI6SB1PIT3(Q－Q′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒・中塊

BSI6SB1PIT4(R－R′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　焼土小～中粒7%、ローム小粒3%

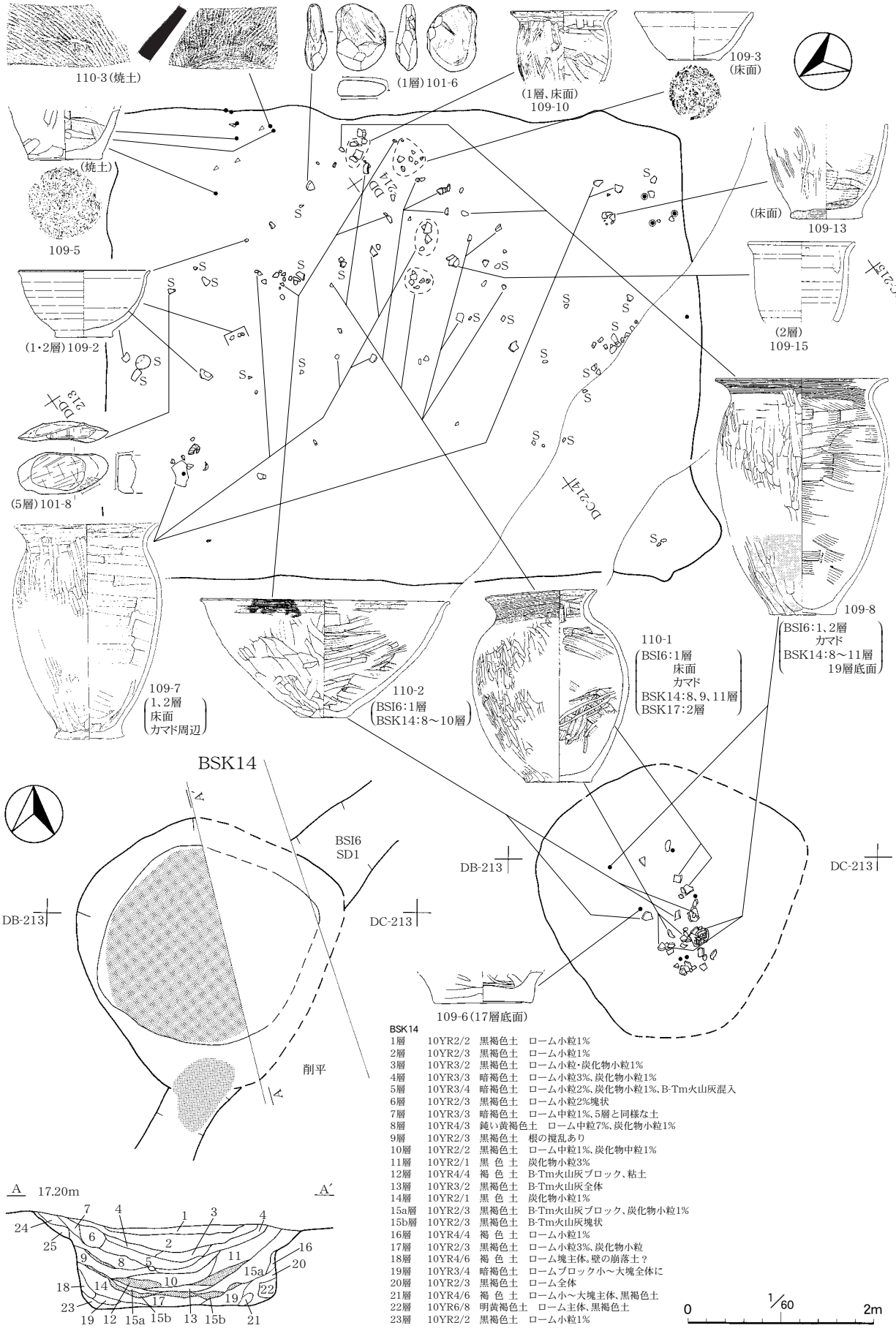
BSI6SB1PIT5(S－S′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小粒3%、焼土小粒2%



炭化材、火山灰検出状況

0　1/60　2m

図 33　第 6 号竪穴住居跡（2）

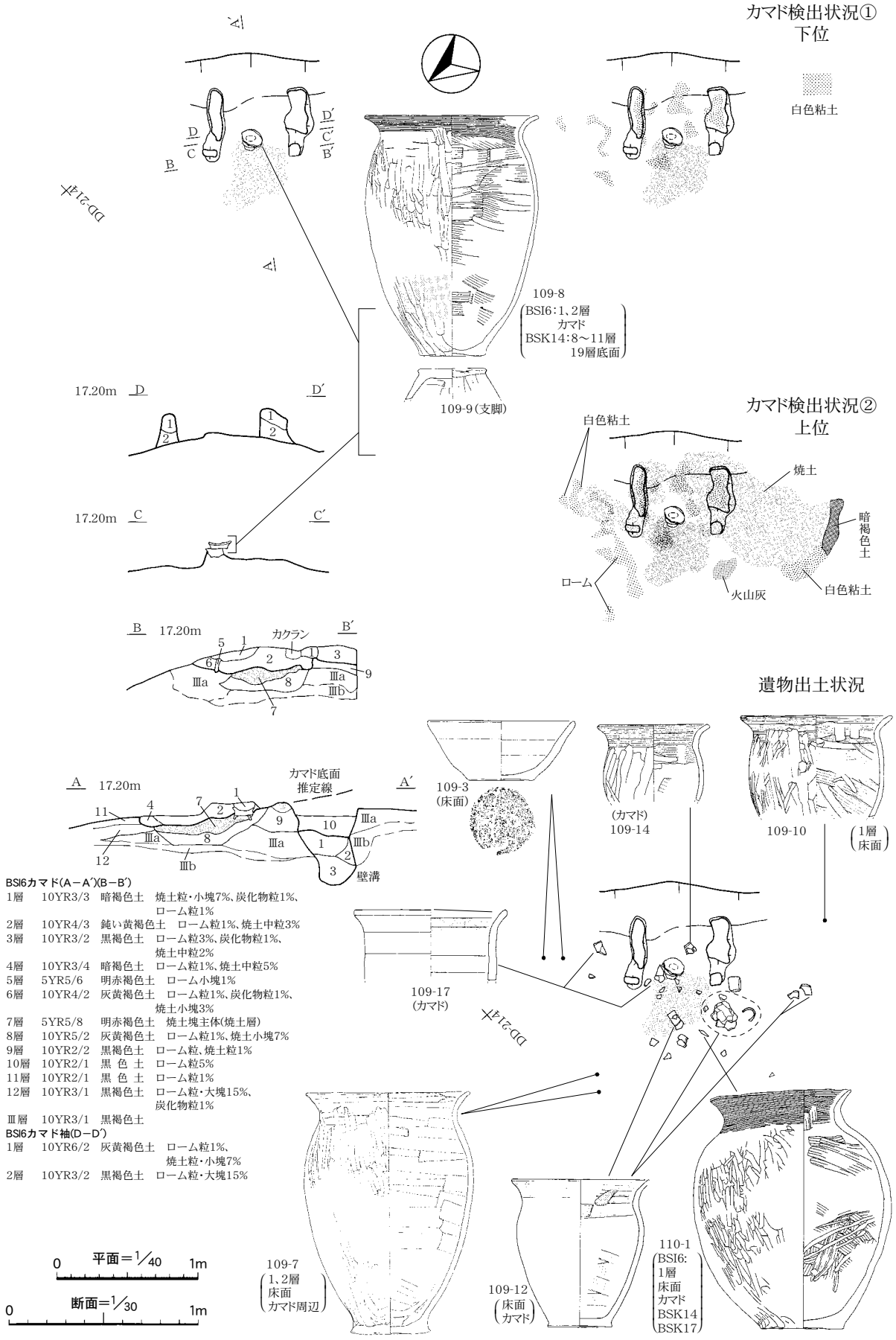


BSK14

1層	10YR2/2	黒褐色土　ローム小粒1%
2層	10YR2/3	黒褐色土　ローム小粒1%
3層	10YR3/2	黒褐色土　ローム小粒・炭化物小粒1%
4層	10YR3/3	暗褐色土　ローム小粒3%、炭化物小粒1%
5層	10YR3/4	暗褐色土　ローム小粒2%、炭化物小粒1%、B-Tm火山灰混入
6層	10YR2/3	黒褐色土　ローム小粒2%塊状
7層	10YR3/3	暗褐色土　ローム中粒1%、5層と同様な土
8層	10YR4/3	鈍い黄褐色土　ローム中粒7%、炭化物小粒1%
9層	10YR2/3	黒褐色土　根の撹乱あり
10層	10YR2/2	黒褐色土　ローム中粒1%、炭化物中粒1%
11層	10YR2/1	黒　色　土　炭化物小粒3%
12層	10YR4/4	褐　色　土　B-Tm火山灰ブロック、粘土
13層	10YR3/2	黒褐色土　B-Tm火山灰全体
14層	10YR2/1	黒　色　土　炭化物小粒1%
15a層	10YR2/3	黒褐色土　B-Tm火山灰ブロック、炭化物小粒1%
15b層	10YR2/3	黒褐色土　B-Tm火山灰塊状
16層	10YR4/4	褐　色　土　ローム小粒1%
17層	10YR2/3	黒褐色土　ローム小粒3%、炭化物小粒
18層	10YR4/6	褐　色　土　ローム塊主体。壁の崩落土？
19層	10YR3/4	暗褐色土　ロームブロック小～大塊全体に
20層	10YR2/3	黒褐色土　ローム全体
21層	10YR4/6	褐　色　土　ローム小～大塊主体、黒褐色土
22層	10YR6/8	明黄褐色土　ローム主体、黒褐色土
23層	10YR2/2	黒褐色土　ローム小粒1%

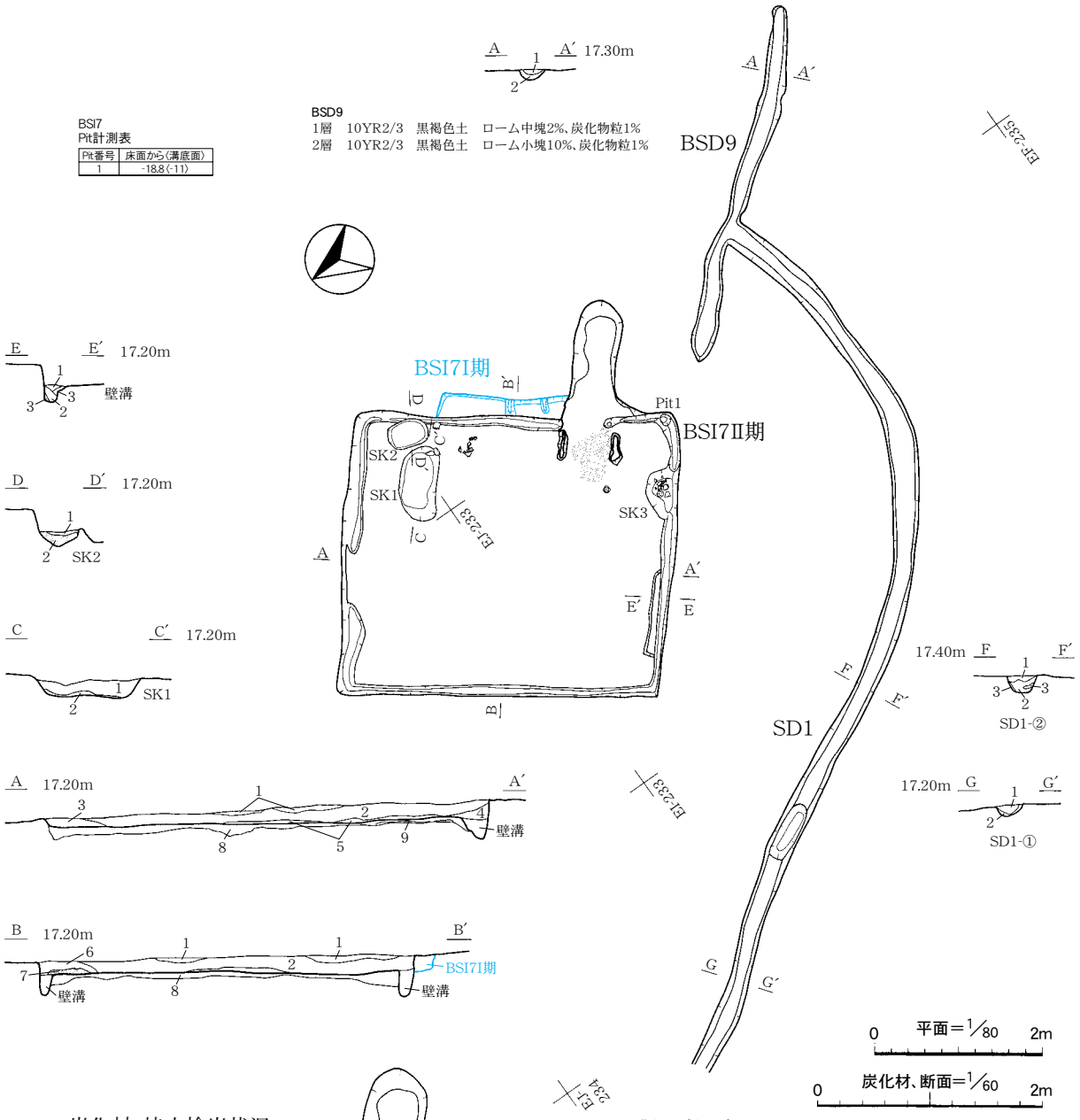
0　1/60　2m

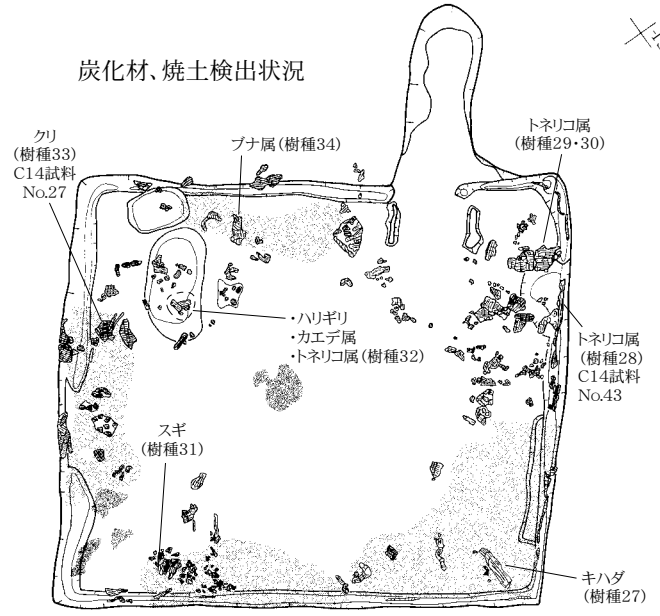
図 34　第６号竪穴住居跡（３）、第 14 号土坑



BSI6カマド(A－A′)(B－B′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　焼土粒・小塊7%、炭化物粒1%、ローム粒1%
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒1%、焼土中粒3%
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%、焼土中粒2%
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒1%、焼土中粒5%
5層　5YR5/6　明赤褐色土　ローム小塊1%
6層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%、焼土小塊3%
7層　5YR5/8　明赤褐色土　焼土塊主体(焼土層)
8層　10YR5/2　灰黄褐色土　ローム粒1%、焼土小塊7%
9層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒、焼土粒1%
10層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒5%
11層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%
12層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒・大塊15%、炭化物粒1%
Ⅲ層　10YR3/1　黒褐色土
BSI6カマド袖(D－D′)
1層　10YR6/2　灰黄褐色土　ローム粒1%、焼土粒・小塊7%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・大塊15%

図 35　第 6 号竪穴住居跡(4)





BSI7 II 期(A－A′)(B－B′)
1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム中粒5%、炭化物粒2%、焼土粒1%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック30%、ローム中粒10%、炭化物中塊5%、焼土粒3%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中塊30%、筋状に炭化物小塊3%、焼土中粒3%、浮石2%
4層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒5%、炭化物粒3%、焼土粒2%
5層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒3%、炭化物中塊5%、5YR3/6暗赤褐色焼土7%
6層　10YR4/6　褐　色　土　10YR3/4暗褐色土10%、ローム中粒5%、炭化物中粒3%、焼土粒2%
7層　5YR4/8　赤褐色焼土　炭化物中粒3%、ローム粒2%、浮石1%
8層　10YR6/6　明黄褐色土　掘り方埋土。10YR2/1黒色土5%。締まり強い
9層　2.5YR4/6　赤褐色焼土　掘り方埋土

BSI7SK1(C－C′)
1層　10YR4/6　褐　色　土　焼土中塊15%南側に集中、炭化物中塊10%、ローム中塊3%
2層　7.5YR5/6　明褐色土　ローム中粒1%、焼土粒1%。粘土質

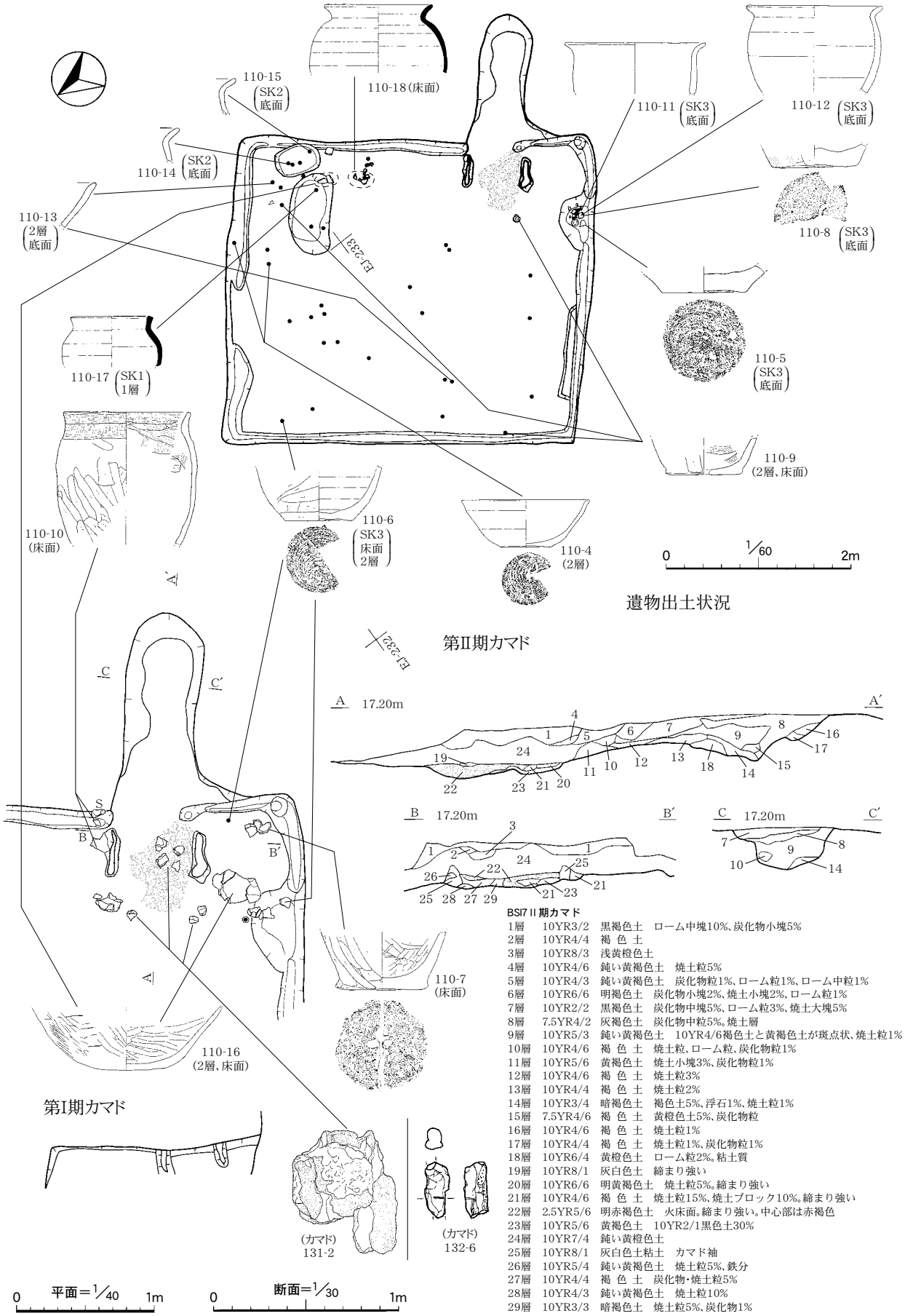
BSI7SK2(D－D′)
1層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物・焼土中粒10%、ローム中塊3%、ローム粒1%、10YR5/8黄褐色土
2層　10YR4/6　褐　色　土　焼土中粒50%、炭化物粒2%

BSI7 II 期壁溝(E－E′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物10%、焼土ブロック10%、ローム粒5%
2層　10YR4/4　褐　色　土　10YR2/1黒色土を3層との境目に含む
3層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　湿性・粘性極めて強い

BSI7SD1-①(G－G′)
1層　10YR4/4　褐　色　土　ローム粒5%斑点状、炭化物粒1%
2層　10YR4/6　褐　色　土　ローム粒2%、炭化物粒1%

BSI7SD1-②(F－F′)
1層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒5%斑点状
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒5%、炭化物中粒1%
3層　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%

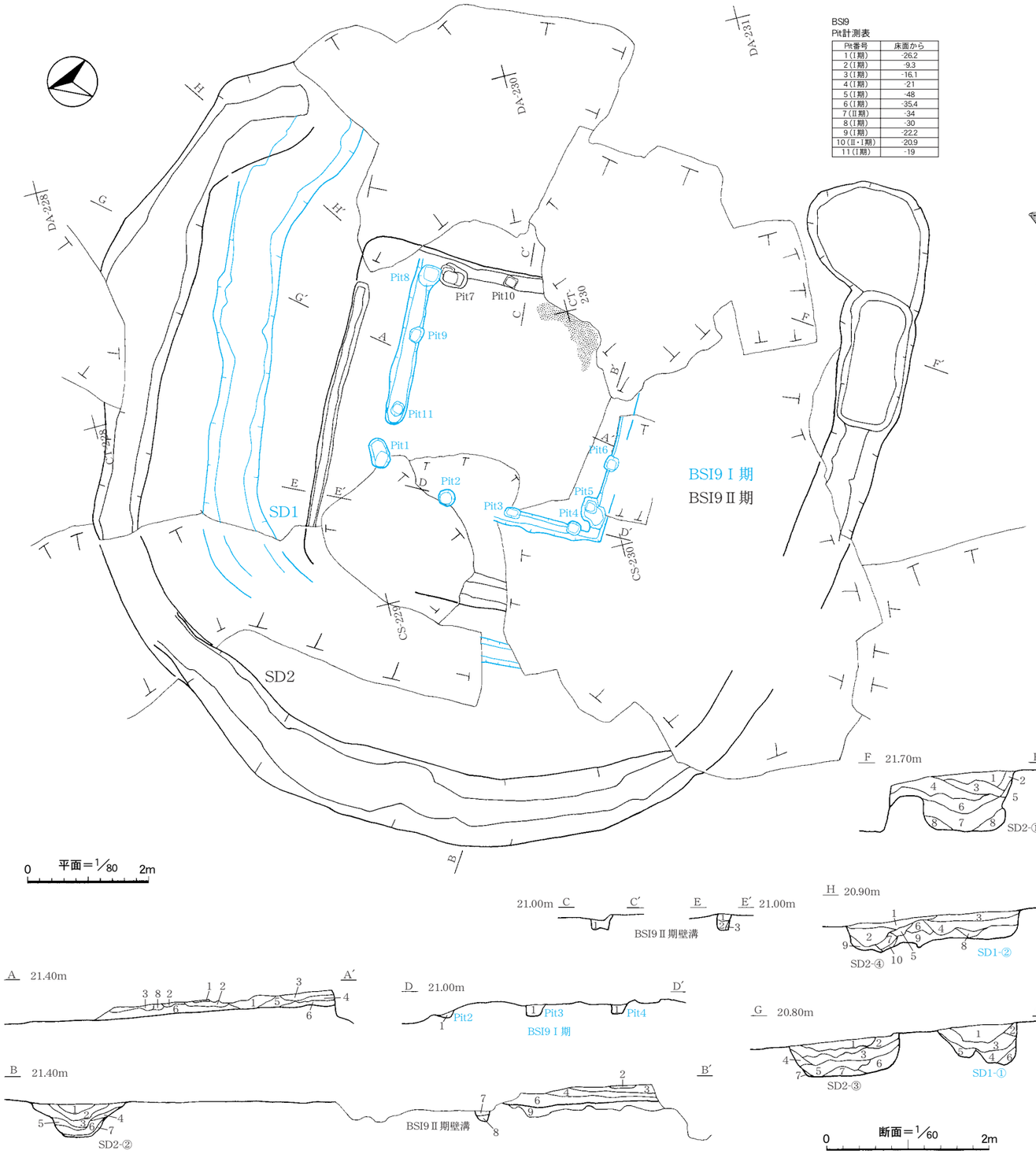
図 36　第７号竪穴住居跡（１）、第９号溝跡



BSI7Ⅱ期カマド

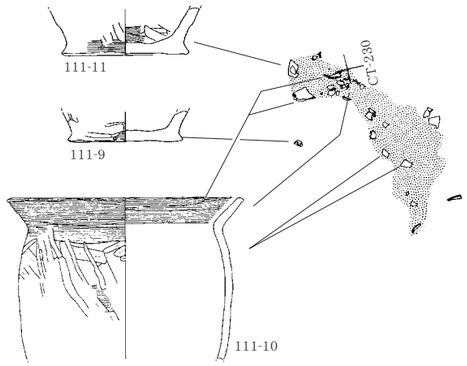
1層	10YR3/2	黒褐色土　ローム中塊10%、炭化物小塊5%
2層	10YR4/4	褐 色 土
3層	10YR8/3	浅黄橙色土
4層	10YR4/6	鈍い黄褐色土　焼土粒5%
5層	10YR4/3	鈍い黄褐色土　炭化物粒1%、ローム粒1%、ローム中粒1%
6層	10YR6/6	明褐色土　炭化物小塊2%、焼土小塊2%、ローム粒1%
7層	10YR2/2	黒褐色土　炭化物中塊5%、ローム粒3%、焼土大塊5%
8層	7.5YR4/2	灰褐色土　炭化物中粒5%。焼土層
9層	10YR5/3	鈍い黄褐色土　10YR4/6褐色土と黄褐色土が斑点状、焼土粒1%
10層	10YR4/6	褐 色 土　焼土粒、ローム粒、炭化物粒1%
11層	10YR5/6	黄褐色土　焼土小塊3%、炭化物粒1%
12層	10YR4/6	褐 色 土　焼土粒3%
13層	10YR4/4	褐 色 土　焼土粒2%
14層	10YR3/4	暗褐色土　褐色土5%、浮石1%、焼土粒1%
15層	7.5YR4/6	褐 色 土　黄橙色土5%、炭化物粒
16層	10YR4/6	褐 色 土　焼土粒1%
17層	10YR4/4	褐 色 土　焼土粒1%、炭化物粒1%
18層	10YR6/4	黄橙色土　ローム粒2%。粘土質
19層	10YR8/1	灰白色土　締まり強い
20層	10YR6/6	明黄褐色土　焼土粒5%。締まり強い
21層	10YR4/6	褐 色 土　焼土粒15%、焼土ブロック10%。締まり強い
22層	2.5YR5/6	明赤褐色土　火床面。締まり強い。中心部は赤褐色
23層	10YR5/6	黄褐色土　10YR2/1黒色土30%
24層	10YR7/4	鈍い黄橙色土
25層	10YR8/1	灰白色土粘土　カマド袖
26層	10YR5/4	鈍い黄褐色土　焼土粒5%、鉄分
27層	10YR4/4	褐 色 土　炭化物・焼土粒5%
28層	10YR4/3	鈍い黄褐色土　焼土粒10%
29層	10YR3/3	暗褐色土　焼土粒5%、炭化物1%

図 37　第 7 号竪穴住居跡（2）



BSI9
Pit計測表

Pit番号	床面から
1（Ⅰ期）	-26.2
2（Ⅰ期）	-9.3
3（Ⅰ期）	-16.1
4（Ⅰ期）	-21
5（Ⅰ期）	-48
6（Ⅰ期）	-35.4
7（Ⅱ期）	-34
8（Ⅰ期）	-30
9（Ⅰ期）	-22.2
10（Ⅱ・Ⅰ期）	-20.9
11（Ⅰ期）	-19



カマド崩落土（NW→）

0 1/40 1m

カマド崩落土遺物出土状況

BSI9(A－A′)(B－B′)
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　焼土中粒5%、ローム粒2%均等
2層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物中粒2%、焼土中粒2%斑状、ローム大塊(φ60×40㎜)1個、ローム中粒30%均等
3層　10YR2/1　黒 色 土　火山灰小粒2%斑状、炭化物粒2%、斑状焼土中粒1%、ローム中粒5%均等
4層　10YR2/2　黒褐色土　2.5Y6/4鈍い黄色火山灰50%の混合土
5層　5YR4/4　鈍い赤褐色土　10YR2/1黒色土30%均等、ローム粒2%、炭化物中粒1%
6層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物大塊1個、ローム大粒15%均等、炭化物大粒2%、火山灰中粒2%斑状
7層　10YR3/2　黒褐色土　壁溝堆積土。ローム粒1%均等
8層　10YR3/2　黒褐色土　壁溝堆積土。ローム中粒8%均等
9層　10YR2/1　黒 色 土　掘り方埋土。ローム大粒10%均等

BSI9Ⅱ期壁溝(C－C′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色土40%、ローム粒2%、ローム中塊1個

BSI9Ⅱ期壁溝(E－E′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　褐色土大塊1個、ローム中塊1個
2層　10YR3/2　黒褐色土
3層　10YR3/4　暗褐色土　黒褐色土25%

BSI9Ⅰ期Pit1・2・3(D－D′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　褐色ローム中塊7%、黄褐色ローム小塊2%、炭化物粒2%

BSI9SD2-①(F－F′)、②(B－B′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　明黄褐色火山灰20%、炭化物粒3%
2層　10YR2/2　黒褐色土　明褐色土10%、ローム粒3%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物粒3%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒10%、ローム中粒3%、炭化物粒2%
5層　10YR4/4　褐 色 土　黒褐色土40%
6層　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色土15%、ローム粒8%
7層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色土7%、ローム粒5%
8層　10YR4/6　褐 色 土　黒褐色土10%、ローム中塊1個

BSI9SD2-③(G－G′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　10YR6/4鈍い黄橙色火山灰8%、明黄褐色ローム粒～中塊5%、5YR4/8赤褐色焼土中粒2%、炭化物粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色ローム粒～中塊3%、火山灰・炭化物粒～中粒1%
3層　10YR2/1　黒 色 土　10YR1.7/1黒色土1%、黄褐色ローム・明黄褐色ローム粒～大塊50%均等、炭化物粒～中粒2%、粘り強い
4層　10YR1.7/1　黒 色 土　10YR4/3鈍い黄褐色ローム中塊～大塊10%、黄褐色ローム粒5%、粘り強い
5層　10YR1.7/1　黒 色 土　明黄褐色ローム中粒1%、炭化物中粒1%
6層　10YR3/2　黒褐色土　鈍い黄褐色ローム・明黄褐色ローム小塊～大塊10%、炭化物粒・焼土粒1%
7層　10YR5/6　黄褐色ローム　10YR1.7/1黒色土2%、明黄褐色ローム中塊25%、明赤褐色焼土中粒・炭化物中粒2%

BSI9SD1-①(G－G′)
1層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　10YR2/1黒色土10%、黄褐色ローム～明黄褐色ローム中塊15%、炭化物粒2%
2層　10YR3/2　黒褐色土　10YR4/4褐色土20%、ローム中塊1個、黄褐色ローム小塊2%、炭化物粒1%
3層　10YR2/1　黒 色 土　黄褐色ローム粒～中塊10%、炭化物粒～中粒3%
4層　10YR5/6　黄褐色ローム　10YR2/1黒色土20%、ロームブロック30%
5層　10YR5/8　明黄褐色ローム　10YR1.7/1黒色土2%、5YR3/6暗赤褐色焼土小塊1個
6層　10YR4/6　褐 色 土　10YR2/1黒色土1%、黄褐色ローム中塊1個。締まりなし

BSI9SD2-④、SD1-②(H－H′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　鈍い黄褐色火山灰45%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、焼土小塊3%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒2%、ローム中塊1%、焼土1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色土15%、ローム中粒3%、炭化物粒1%、焼土1%
5層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%
6層　10YR2/3　黒褐色土　鈍い黄褐色土10%、焼土小塊1個
7層　10YR2/3　黒褐色土　鈍い黄褐色火山灰20%、ローム粒3%
8層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中塊5%、炭化物中粒1%、焼土小塊1個
9層　10YR5/6　黄褐色ローム　黒褐色土10%
10層　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色ローム35%

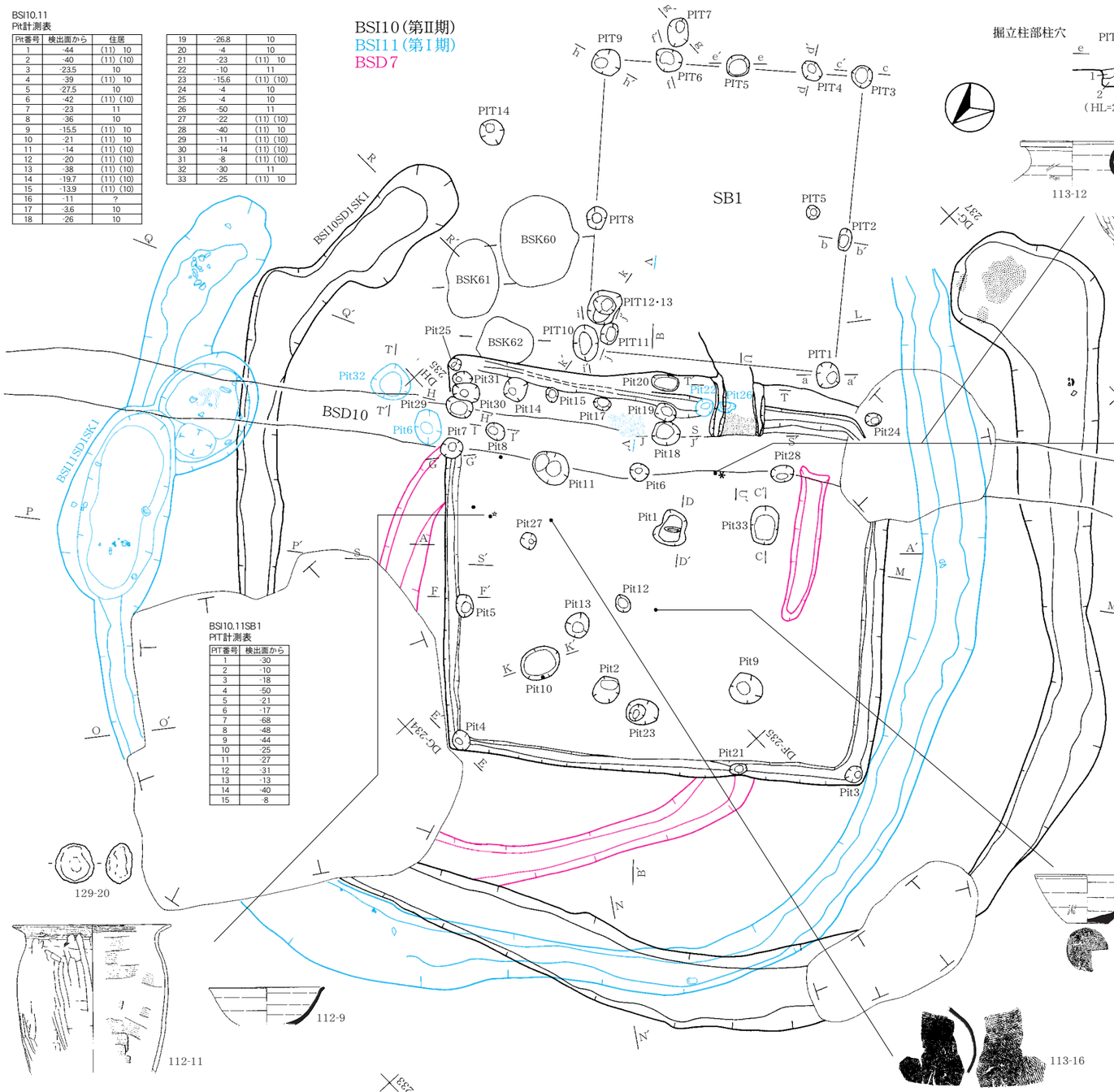
図38　第９号竪穴住居跡

BSI10.11
Pit計測表

Pit番号	検出面から	住居
1	-44	(11) 10
2	-40	(11) (10)
3	-23.5	10
4	-39	(11) 10
5	-27.5	10
6	-42	(11) (10)
7	-23	11
8	-36	10
9	-15.5	(11) 10
10	-21	(11) 10
11	-14	(11) (10)
12	-20	(11) (10)
13	-38	(11) (10)
14	-19.7	(11) (10)
15	-13.9	(11) (10)
16	-11	?
17	-3.6	10
18	-26	10

19	-26.8	10
20	-4	10
21	-23	(11) 10
22	-10	11
23	-15.6	(11) (10)
24	-4	10
25	-4	10
26	-50	11
27	-22	(11) (10)
28	-40	(11) 10
29	-11	(11) (10)
30	-14	(11) (10)
31	-8	(11) (10)
32	-30	11
33	-25	(11) 10

BSI10(第Ⅱ期)
BSI11(第Ⅰ期)
BSD7



BSI10.11SB1
PIT計測表

PIT番号	検出面から
1	-30
2	-10
3	-18
4	-50
5	-21
6	-17
7	-68
8	-48
9	-44
10	-25
11	-27
12	-31
13	-13
14	-40
15	-8

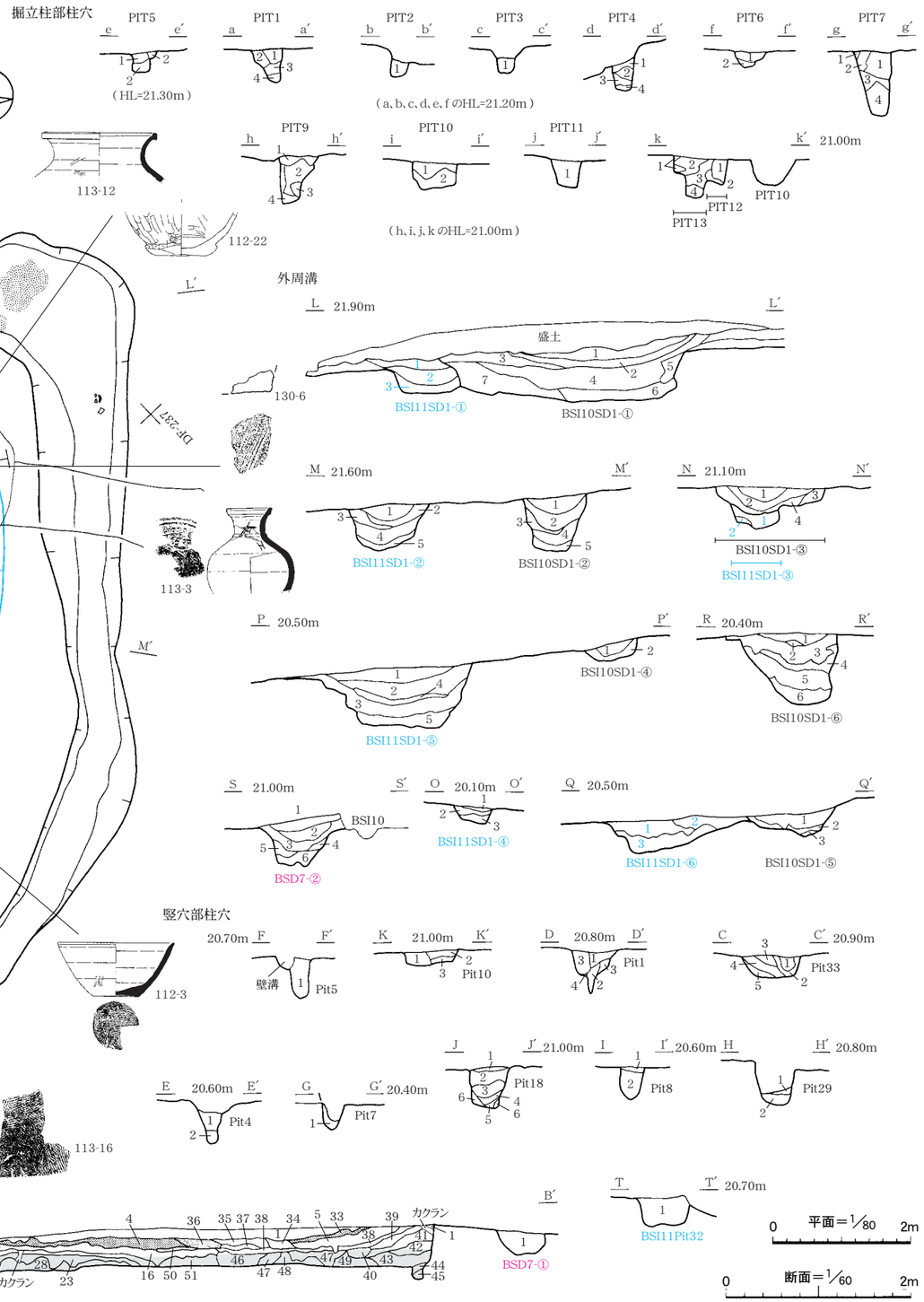


図39　第10・11号竪穴住居跡(1)、第7号溝跡

BSI10(A－A′)(B－B′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%均等、ローム小塊1%、炭化物粒・焼土粒1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　焼土粒～小塊1%、ローム粒・炭化物粒1%
3層　10YR3/2　黒褐色土　10YR2/2黒褐色土15%、ローム粒～中塊5%、炭化物粒～中粒4%、焼土粒1%
4層　10YR5/6　黄褐色土　10YR4/3鈍い黄褐色土40%、炭化物粒～大塊5%、ローム粒～中塊2%
5層　10YR4/6　褐　色　土　10YR2/2黒褐色土7%、ローム粒～中塊5%、炭化物粒～中塊3%、焼土小～中粒2%
6層　10YR3/2　黒褐色土　黄褐色火山灰20%、ローム粒～中塊3%、炭化物小～中粒3%、焼土粒1%
7層　10YR3/3　暗褐色土　10YR4/4褐色土7%、炭化物粒～小塊10%、5YR5/8明赤褐色焼土7%、ローム中塊2%
8層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%均等、焼土粒2%、炭化物粒1%
9層　10YR4/4　褐　色　土　10YR3/2黒褐色土3%、10YR2/1黒色土2%、ローム粒～中塊15%、炭化物粒～小塊7%、火山灰ブロック中塊3%
10層　10YR2/1　黒　色　土　5YR5/8明赤褐色焼土15%、炭化物粒3%、ローム中粒1%
11層　10YR4/4　褐　色　土　10YR3/2黒褐色土3%、10YR1.7/1黒色土2%、黄褐色火山灰中粒～大塊15%、ローム中粒～中塊10%、炭化物粒～中粒3%、焼土粒2%
12層　10YR2/2　黒褐色土　10YR3/2黒褐色土7%、10YR4/6褐色土3%、ローム粒～中塊15%、炭化物中粒5%均等
13層　10YR2/1　黒　色　土　10YR4/4褐色土3%、ローム粒～小塊5%、炭化物中粒5%均等、焼土中塊1個、締まり強い
14層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/4褐色土10%、ローム粒～小塊5%、炭化物中粒3%、焼土中粒2%
15層　10YR4/6　褐　色　土　ローム小塊～中塊10%、炭化物粒～大粒5%、焼土小塊2%
16層　10YR2/2　黒褐色土　焼土中粒3%、火山灰中粒2%、炭化物粒1%、ローム小塊1%、10YR7/4鈍い黄橙色粘土2%
17層　10YR2/1　黒　色　土　ローム中粒～小塊5%、5YR4/8赤褐色焼土2%、鈍い黄橙色粘土中粒～中塊2%、7.5YR4/4褐色土(φ1×3cm) 炭化物粒～中塊3%
18層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～小塊3%、焼土粒～中粒3%、炭化物粒～中塊5%、粘土粒1%
19層　10YR3/3　暗褐色土　10YR4/4・4/6褐色土大塊、ローム小塊2%、炭化物中粒～中塊2%、焼土中粒1%、粘土中粒小塊1%
20層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/6褐色土大塊3%、ローム中粒～中塊10%、炭化物粒～小塊4%、10YR8/4浅黄色粘土中塊1個
21層　10YR2/3　黒褐色土　10YR7/4鈍い黄橙色粘土粒～中塊5%(φ3×5cm)15%、焼土小塊・炭化物小塊・ローム粒3%上部に凝集
22層　10YR2/1　黒　色　土　粘土粒～小塊7%、焼土中粒5%上部に凝集、炭化物粒～小塊2%、ローム粒～小塊2%
23層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/3鈍い黄褐色土10%、10YR1.7/1黒色土7%、10YR4/2褐色土 ローム粒～小塊2%、焼土小塊2%、炭化物粒1%
24層　10YR3/3　暗褐色土　10YR1.7/1黒色土10%、10YR2/2黒褐色土7%、焼土中粒3%、炭化物粒～大塊3%
25層　10YR1.7/1黒　色　土　10YR4/4褐色土1%、ローム中粒1%
26層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/4褐色土5%、ローム中塊10%、炭化物粒～中粒5%、焼土中粒1%
27層　10YR2/1　黒　色　土　ローム小塊5%、炭化物粒～小塊3%
28層　10YR4/6　褐　色　土　10YR2/2黒褐色土10%、炭化物粒1%、焼土粒1%
29層　10YR4/6　褐　色　土　10YR1.7/1黒色土2%、炭化物粒1%
30層　10YR4/4　褐　色　土　ローム小塊・炭化物中粒2%、締まりなし。BSD7堆積土
31層　10YR1.7/1黒　色　土　ローム中塊5%、炭化物中粒2%。締まりなし。BSD7堆積土
32層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム小粒～大塊35%。BSD7堆積土
33層　2.5Y4/6　オリ-ブ褐色火山灰　10YR3/4暗褐色土7% 炭化物粒～小塊3% ローム中粒1%
34層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒～小塊8%、焼土粒2%
35層　10YR5/8　黄褐色土　10YR5/6黄褐色火山灰20%、10YR3/2黒褐色土3%
36層　10YR3/3　暗褐色土　7.5YR4/6褐色焼土15%、10YR1.7/1黒色土7%、炭化物粒7%、ローム中粒～小塊1%
37層　10YR2/2　黒褐色土　焼土10%、ローム粒3%、炭化物中塊1個
38層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒～中塊8%、炭化物粒3%、焼土粒2%
39層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒～小塊7%、炭化物粒1%
40層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒～小塊7%、炭化物粒1%、焼土粒1%
41層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～中塊20%、炭化物粒2%
42層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒4%、炭化物粒1%、ローム大塊1個
43層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒～大塊50%、焼土小塊1%、ローム左半分に集中
44層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒7%、炭化物粒1%
45層　10YR2/1　黒　色　土　ローム小塊10%、炭化物粒1個
46層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中塊7%、ローム粒1%、炭化物粒1%
47層　10YR2/2　黒褐色土　10YR1.7/1黒色土20%、ローム粒～中塊13%、焼土小塊1%
48層　10YR5/8　黄褐色ローム　10YR3/2黒褐色土15%、10YR2/1黒色土1%
49層　10YR5/8　黄褐色ローム　7.5YR5/8明褐色ローム20%、10YR3/2黒褐色土10%
50層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物小塊1%、焼土粒1%
51層　10YR3/3　暗褐色土　10YR3/2黒褐色土30%、10YR4/4褐色土20%、炭化物小塊・ローム粒1%

BSI10Pit33(C－C′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物小塊1%。非常に脆い
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中塊5%、炭化物中粒少量
3層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒～中塊20%。硬い
4層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒～中塊10%
5層　10YR3/1　黒褐色土

BSI10Pit1(D－D′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物中粒5%、焼土中粒1%、ローム中粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物粒5%。非常にぼそぼそしている
3層　10YR3/4　暗褐色土　ローム中粒10%
4層　10YR1.7/1黒　色　土　硬く締まる

BSI10Pit4(E－E′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物粒3%、ローム粒3%
2層　10YR5/6　黄褐色土

BSI10Pit5(F－F′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒1%

BSI10Pit7(G－G′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒3%、焼土粒1%

BSI10Pit8(I－I′)
1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒～中粒15%。硬く締まる
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒3%

BSI10Pit10(K－K′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%
2層　10YR2/1　黒　色　土　10YR3/3暗褐色土15%
3層　10YR3/3　暗褐色土　褐色土小塊1%

BSI10Pit18(J－J′)
1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム中粒7%、焼土中粒1%、炭化物粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒1%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒3%
4層　10YR2/2　黒褐色土　褐色ローム僅か
5層　10YR1.7/1黒　色　土　ローム粒1%、締まりあり
6層　10YR4/6　褐　色　土　ローム小塊との混合土

BSI10Pit29(H－H′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒3%
2層　10YR5/6　黄褐色土　ローム小塊～中塊全体

BSI10SD1-①(L－L′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　黄褐色火山灰5%、炭化物粒3%、焼土粒1%
2層　10YR5/6　黄褐色火山灰　B-Tm火山灰層、10YR3/1黒褐色土40%、炭化物粒5%、焼土粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　10YR2/1黒色土5%、ローム粒～中塊10%、炭化物粒3%、焼土粒1%、火山灰1%
4層　10YR2/1　黒　色　土　10YR3/4暗褐色土(φ6×9cm)、ローム粒5%均等、炭化物粒～中塊7%、焼土粒1%
5層　10YR3/4　暗褐色土　10YR4/6褐色土10%、10YR2/1黒色土7%、炭化物粒1%
6層　10YR2/1　黒　色　土　10YR2/3黒褐色土(φ6×10cm)、焼土粒～大粒7%、炭化物粒～中塊5%、ローム中粒1%
7層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中塊10%斑状、炭化物粒～中粒5%、焼土粒1%

BSI10SD1-②(M－M′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　黒褐色土30%、ローム粒3%、焼土1%
2層　10YR5/4　鈍い黄褐色火山灰　黒褐色土40%、ローム粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒4%
4層　10YR1.7/1黒　色　土　ローム粒1%
5層　10YR2/2　黒褐色土　褐色土10%、ローム粒2%

BSI10SD1-③(N－N′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、焼土1%
2層　10YR5/4　鈍い黄褐色火山灰　黒褐色土40%、ローム中粒5%
3層　10YR2/3　黒褐色土　褐色土30%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物粒3%

BSI10SD1-④(P－P′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　黒色土10%、褐色土2%斑状、ローム粒2%、炭化物粒1%
2層　10YR4/6　褐色ローム　暗褐色土40%、ローム粒2%、炭化物粒1%

BSI10SD1-⑤(Q－Q′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、灰黄褐色粘土中塊1個
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中塊2%、浅黄橙色ローム小塊1%
3層　10YR5/8　明褐色ローム　明黄褐色ローム30%

BSI10SD1-⑥(R－R′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒4%、焼土粒2%、ローム中粒1%、炭化物粒1%
2層　10YR5/6　黄褐色火山灰　黒褐色土、炭化物小塊
3層　10YR2/1　黒　色　土　黒褐色土30% ローム粒4% 赤褐色ローム中粒3%
4層　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色土13%、ローム粒3%、赤褐色ローム粒2%、炭化物粒2%
5層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒・小塊4%、炭化物粒1%、鈍い黄橙色粘土小塊1%
6層　10YR2/3　黒褐色土　浅黄橙色粘土大塊、ローム小～中粒4%、黒褐色土3%斑状、焼土粒1%

BSI10SB1PIT1(a－a′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　黒色土10%、ローム粒4%、焼土粒2%
2層　10YR2/3　黒褐色土　黒色土7%、ローム粒3%
3層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒2%、炭化物粒1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小塊1%、炭化物粒1%

BSI10SB1PIT2(b－b′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒3%、ローム中塊1%。硬い

BSI10SB1PIT3(c－c′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　7.5YR4/6褐色土5%。右側締まりあり

BSI10SB1PIT4(d－d′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR2/1黒色土20%、ローム粒4%
2層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小塊4%、ローム粒3%
4層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒2%、ローム小塊1%

BSI10SB1PIT5(e－e′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色土35%、ローム小塊1%

BSI10SB1PIT6(f－f′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒3%、ローム小塊3%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒1%

BSI10SB1PIT7(g－g′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土20%、ローム粒3%、ローム小塊1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒8% ローム小塊7% 黒色土小塊2%
3層　10YR4/4　褐　色　土　10YR4/6褐色土35%、10YR3/3暗褐色土10%
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒3%、ローム小塊1%、黒色土大塊2個

BSI10SB1PIT9(h－h′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR2/1黒色土20%、ローム粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土30%、ローム粒1%
3層　10YR4/6　褐　色　土　10YR2/1黒色土中粒1%
4層　10YR4/6　褐　色　土　10YR5/8黄褐色土20%

BSI10SB1PIT10(i－i′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　10YR5/4黄褐色土15%、10YR8/3浅黄橙色粘土粒3%、ローム粒2%、ローム小塊1%

BSI10SB1PIT11(j－j′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR2/1黒色土25%、2.5YR7/2灰黄色粘土小塊1%、10YR5/8黄橙色土中塊2%、ローム粒3%、ローム小塊2%

BSI10SB1PIT12(k－k′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　10YR3/4暗褐色土30%、ローム粒3%、炭化物粒2%、焼土粒1%
2層　10YR5/6　黄褐色土　10YR3/4暗褐色土40%、ローム粒2%。ぼそぼそしている

BSI10SB1PIT13(k－k′)
1層　10YR5/8　黄褐色土　10YR2/3黒褐色土40%
2層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒4%、10YR8/2灰白色粘土小塊1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒6%、10YR8/2灰白色粘土粒2%、焼土小塊1%、炭化物粒1%、ローム小塊1%
4層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒2%

BS111P (T－T′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒～小塊3%、焼土小・中粒2%、炭化物中粒1%

BSI11SD1-①(L－L′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～小塊3%、炭化物粒2%
2層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒～中粒2%、炭化物粒2%
3層　10YR1.7/1黒　色　土　10YR4/6黄褐色土20%、ローム中塊2%、炭化物粒2%

BSI11SD1-②(M－M′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　黒褐色土30%、ローム粒3%、焼土1%
2層　10YR5/4　鈍い黄褐色火山灰　黒褐色土40%、ローム粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒3%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒4%、炭化物中粒1%、焼土1%
5層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒10%、ローム大塊3%

BSI11SD1-③(N－N′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒4%、炭化物粒1%、焼土1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒3%

BSI11SD1-④(O－O′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　黒褐色土20%、ローム粒2%
2層　10YR2/2　黒褐色土　黒色土10%、褐色土7%、焼土粒2%
3層　7.5YR5/8　明褐色ローム　黒色土5%

BSI11SD1-⑤(P－P′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒3%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物粒3%、暗赤褐色土中塊3%
3層　10YR2/1　黒　色　土　暗褐色土25%、ローム粒5%、焼土粒2%
4層　5YR3/6　赤褐色土焼土　ローム粒3%、ローム中塊1%
5層　10YR4/6　褐色ローム　暗褐色土30%、ローム小～中塊4%

BSI11SD1-⑥(Q－Q′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　黒褐色土20%、ローム小～中粒5%、焼土小～中塊3%
2層　10YR6/8　明褐色ローム　7.5YR4/6褐色ローム20%、黒褐色土8%
3層　10YR5/8　暗褐色ローム　黄褐色土13%、ローム中塊10%、黒褐色土小～中塊5%

BSD7－①　(B－B′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　黄褐色土7%、ローム粒2%、炭化物粒1%、焼土粒1%

BSD7－②　(S－S′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒4%、ローム中塊2%、焼土小塊1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中塊12%、ローム小塊3%、炭化物
3層　10YR2/1　黒　色　土　炭化物小～中塊6%、焼土小～中塊3%、鈍い黄橙色粘土2%、ローム中塊1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物粒2%、炭化物小塊1%、ローム中塊1%
5層　10YR3/3　暗褐色土　焼土粒3%、炭化物粒2%
6層　10YR3/2　黒褐色土　黄褐色土40%、焼土中粒2%、炭化物粒2%

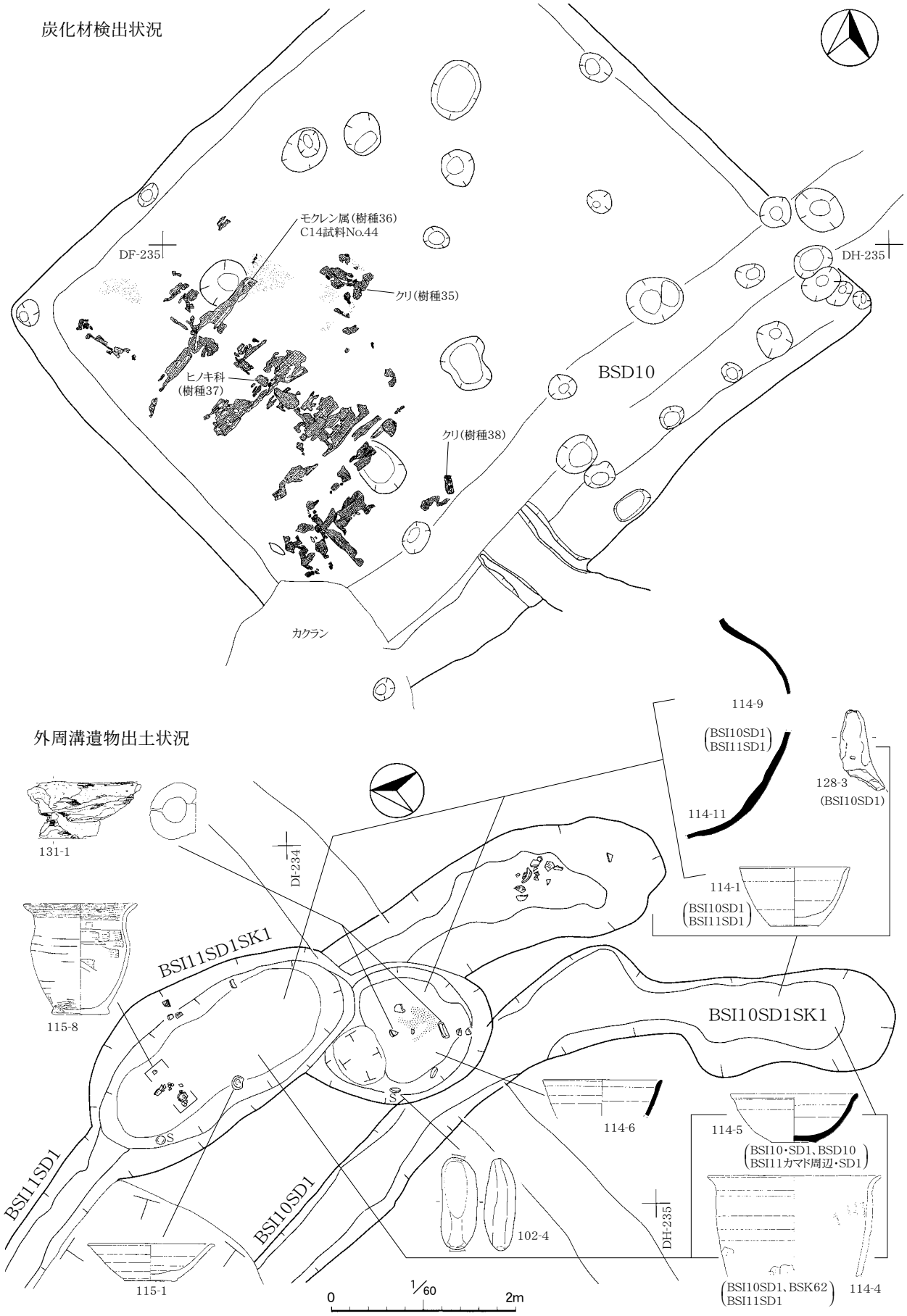
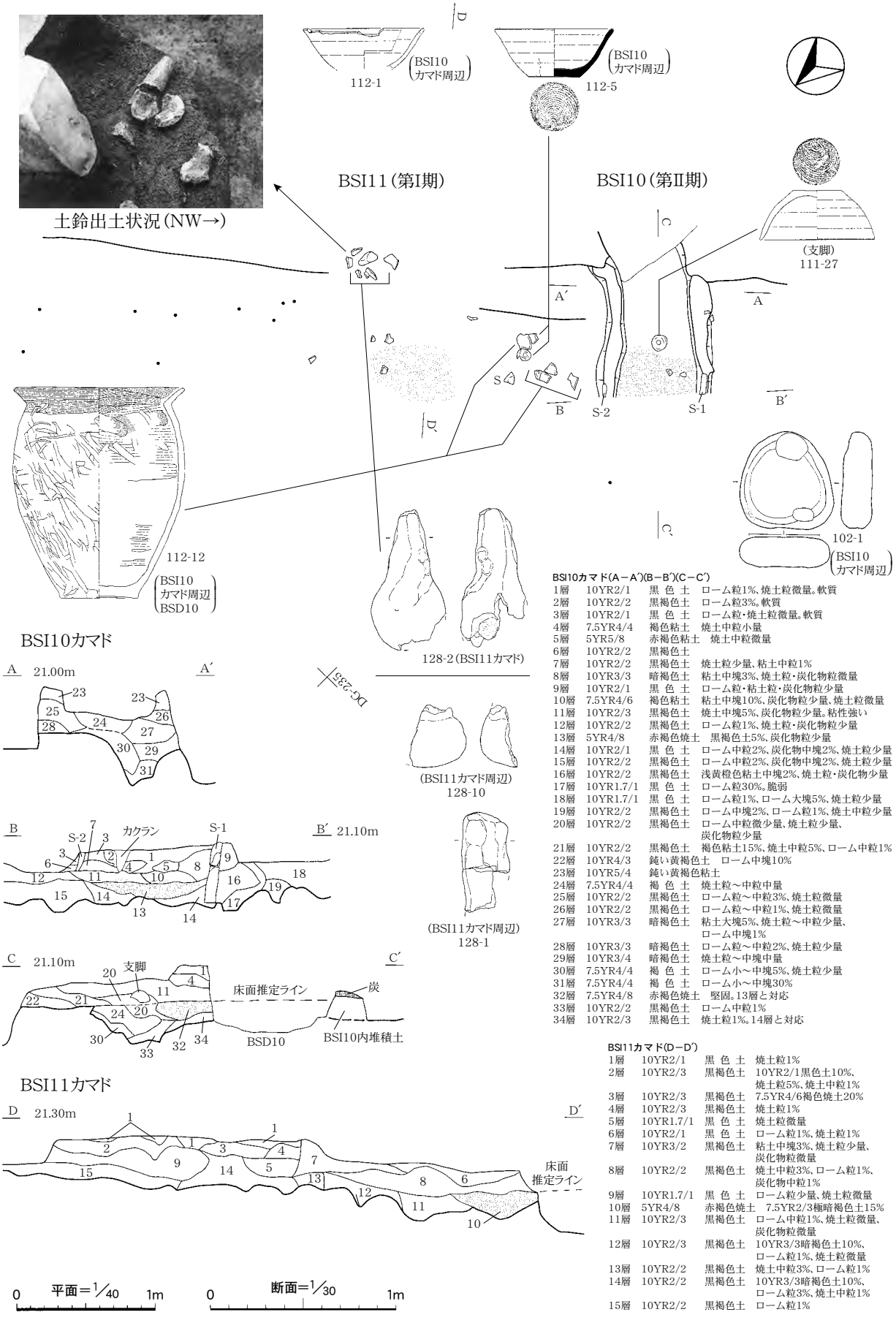


図 40　第 10・11 号竪穴住居跡（2）



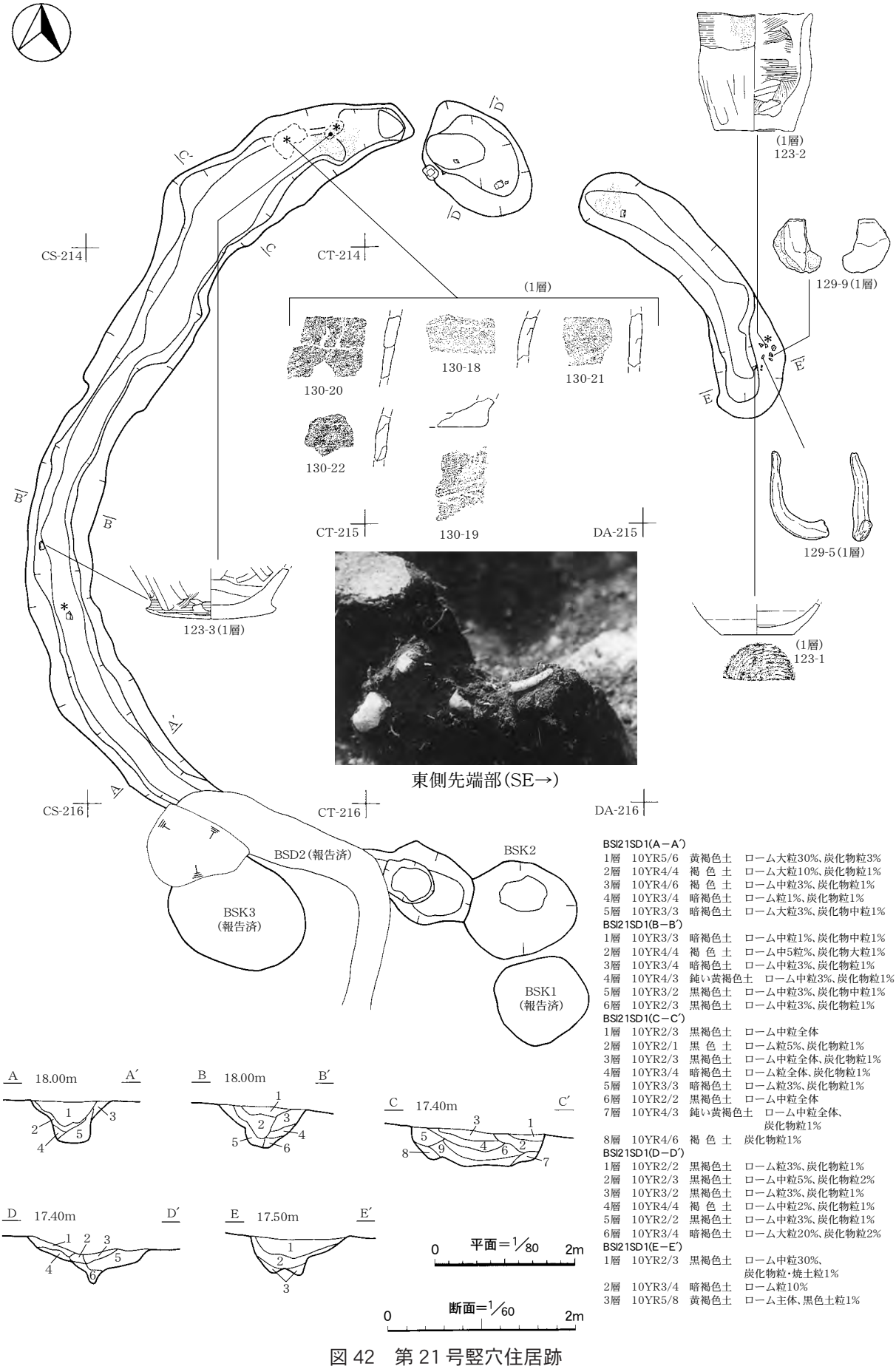
BSI10カマド(A－A′)(B－B′)(C－C′)

1層	10YR2/1	黒 色 土	ローム粒1%、焼土粒微量。軟質
2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒3%。軟質
3層	10YR2/1	黒 色 土	ローム粒・焼土粒微量。軟質
4層	7.5YR4/4	褐色粘土	焼土中粒小量
5層	5YR5/8	赤褐色粘土	焼土中粒微量
6層	10YR2/2	黒褐色土	
7層	10YR2/2	黒褐色土	焼土粒少量、粘土中粒1%
8層	10YR3/3	暗褐色土	粘土中塊3%、焼土粒・炭化物粒微量
9層	10YR2/1	黒 色 土	ローム粒・粘土粒・炭化物粒少量
10層	7.5YR4/6	褐色粘土	粘土中塊10%、炭化物粒少量、焼土粒微量
11層	10YR2/3	黒褐色土	焼土中塊5%、炭化物粒少量。粘性強い
12層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒1%、焼土粒・炭化物粒少量
13層	5YR4/8	赤褐色焼土	黒褐色土5%、炭化物粒少量
14層	10YR2/1	黒 色 土	ローム中粒2%、炭化物中塊2%、焼土粒少量
15層	10YR2/2	黒褐色土	ローム中粒2%、炭化物中塊2%、焼土粒少量
16層	10YR2/2	黒褐色土	浅黄橙色粘土中塊2%、焼土粒・炭化物少量
17層	10YR1.7/1	黒 色 土	ローム粒30%。脆弱
18層	10YR1.7/1	黒 色 土	ローム粒1%、ローム大塊5%、焼土粒少量
19層	10YR2/2	黒褐色土	ローム中塊2%、ローム粒1%、焼土中粒少量
20層	10YR2/2	黒褐色土	ローム中粒微少量、焼土粒少量、炭化物粒少量
21層	10YR2/2	黒褐色土	褐色粘土15%、焼土中粒5%、ローム中粒1%
22層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	ローム中塊10%
23層	10YR5/4	鈍い黄褐色粘土	
24層	7.5YR4/4	褐 色 土	焼土粒～中粒中量
25層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒～中粒3%、焼土粒微量
26層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒～中粒1%、焼土粒微量
27層	10YR3/3	暗褐色土	粘土大塊5%、焼土粒～中粒少量、ローム中塊1%
28層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒～中粒2%、焼土粒少量
29層	10YR3/4	暗褐色土	焼土粒～中塊中量
30層	7.5YR4/4	褐 色 土	ローム小～中塊5%、焼土粒少量
31層	7.5YR4/4	褐 色 土	ローム小～中塊30%
32層	7.5YR4/8	赤褐色焼土	堅固。13層と対応
33層	10YR2/2	黒褐色土	ローム中粒1%
34層	10YR2/3	黒褐色土	焼土粒1%。14層と対応

BSI11カマド(D－D′)

1層	10YR2/1	黒 色 土	焼土粒1%
2層	10YR2/3	黒褐色土	10YR2/1黒色土10%、焼土粒5%、焼土中粒1%
3層	10YR2/3	黒褐色土	7.5YR4/6褐色焼土20%
4層	10YR2/3	黒褐色土	焼土粒1%
5層	10YR1.7/1	黒 色 土	焼土粒微量
6層	10YR2/1	黒 色 土	ローム粒1%、焼土粒1%
7層	10YR3/2	黒褐色土	粘土中塊3%、焼土粒少量、炭化物粒微量
8層	10YR2/2	黒褐色土	焼土中粒3%、ローム粒1%、炭化物中粒1%
9層	10YR1.7/1	黒 色 土	ローム粒少量、焼土粒微量
10層	5YR4/8	赤褐色焼土	7.5YR2/3極暗褐色土15%
11層	10YR2/3	黒褐色土	ローム中粒1%、焼土粒微量、炭化物粒微量
12層	10YR2/3	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土10%、ローム粒1%、焼土粒微量
13層	10YR2/2	黒褐色土	焼土中粒3%、ローム粒1%
14層	10YR2/2	黒褐色土	10YR3/3暗褐色土10%、ローム粒3%、焼土中粒1%
15層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒1%

図 41　第 10・11 号竪穴住居跡（3）



BSI21SD1(A－A′)
1層　10YR5/6　黄褐色土　ローム大粒30%、炭化物粒3%
2層　10YR4/4　褐 色 土　ローム大粒10%、炭化物粒1%
3層　10YR4/6　褐 色 土　ローム中粒3%、炭化物粒1%
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%
5層　10YR3/3　暗褐色土　ローム大粒3%、炭化物中粒1%

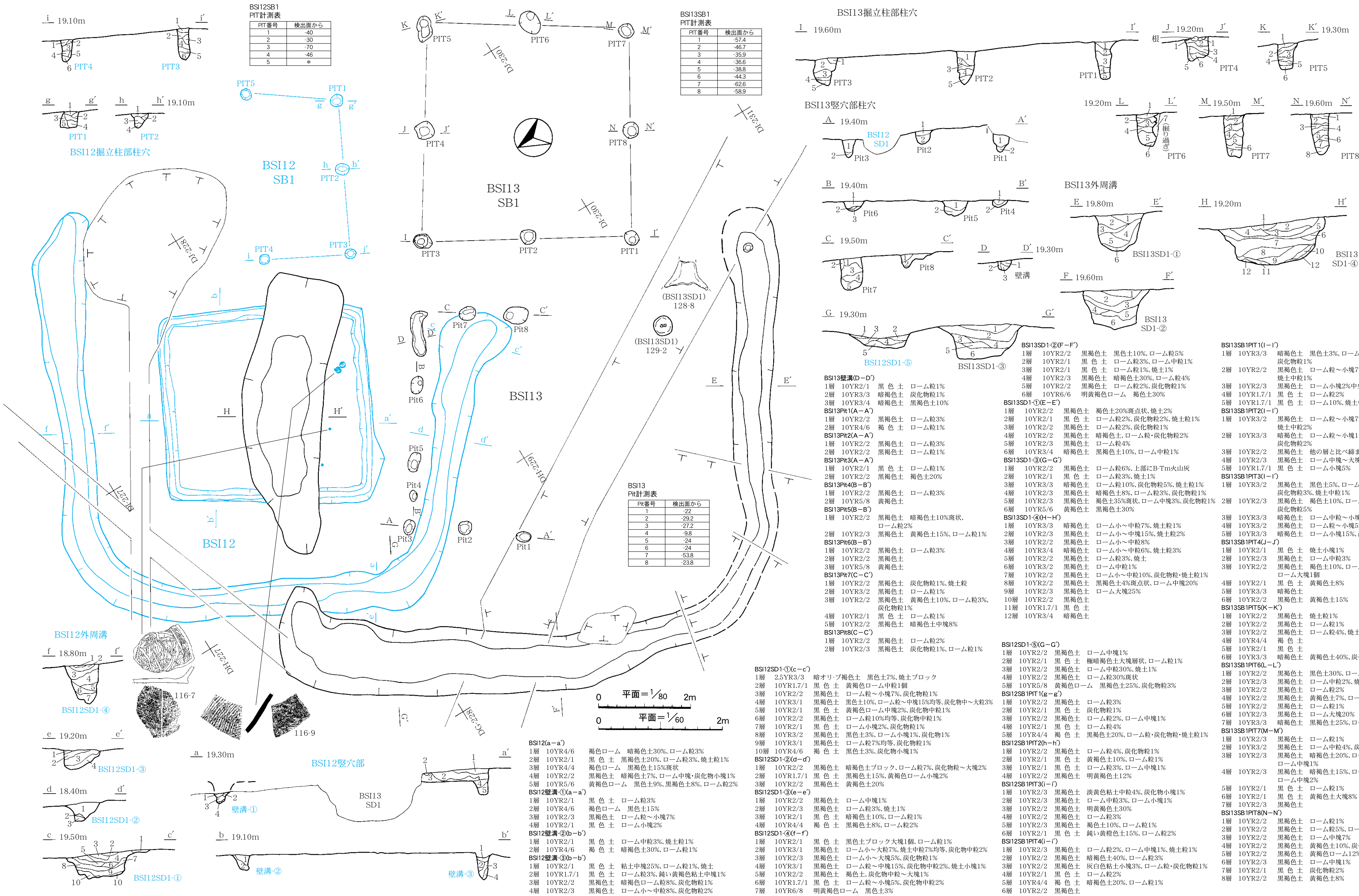
BSI21SD1(B－B′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒1%、炭化物中粒1%
2層　10YR4/4　褐 色 土　ローム中5粒%、炭化物大粒1%
3層　10YR3/4　暗褐色土　ローム中粒3%、炭化物粒1%
4層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム中粒3%、炭化物粒1%
5層　10YR3/2　黒褐色土　ローム中粒3%、炭化物中粒1%
6層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒3%、炭化物粒1%

BSI21SD1(C－C′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒全体
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒5%、炭化物粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒全体、炭化物粒1%
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒全体、炭化物粒1%
5層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%
6層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒全体
7層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム中粒全体、炭化物粒1%
8層　10YR4/6　褐 色 土　炭化物粒1%

BSI21SD1(D－D′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒5%、炭化物粒2%
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%
4層　10YR4/4　褐 色 土　ローム中粒2%、炭化物粒1%
5層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒3%、炭化物粒1%
6層　10YR3/4　暗褐色土　ローム大粒20%、炭化物粒2%

BSI21SD1(E－E′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒30%、炭化物粒・焼土粒1%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒10%
3層　10YR5/8　黄褐色土　ローム主体、黒色土粒1%

図 42　第 21 号竪穴住居跡



BSI12SB1
PIT計測表

PIT番号	検出面から
1	-40
2	-30
3	-70
4	-46
5	*

BSI13SB1
PIT計測表

PIT番号	検出面から
1	-57.4
2	-46.7
3	-35.9
4	-36.6
5	-38.8
6	-44.3
7	-62.6
8	-58.9

BSI13
Pit計測表

Pit番号	検出面から
1	-22
2	-29.2
3	-27.2
4	-9.8
5	-24
6	-24
7	-53.8
8	-23.8

BSI12(a－a′)
1層　10YR4/6　褐色ローム　暗褐色土30%、ローム粒3%
2層　10YR2/1　黒 色 土　黒褐色土20%、ローム粒3%、焼土粒1%
3層　10YR4/4　褐色ローム　黒褐色土15%斑状
4層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色土7%、ローム中塊・炭化物小塊1%
5層　10YR5/6　黄褐色ローム　黒色土9%、黒褐色土8%、ローム粒2%
BSI12壁溝-①(a－a′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%
2層　10YR4/6　褐色ローム　黒色土15%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒～小塊7%
4層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小塊2%
BSI12壁溝-②(b－b′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒3%、焼土粒1%
2層　10YR4/6　褐 色 土　暗褐色土30%、ローム粒1%
BSI12壁溝-③(b－b′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　粘土中塊25%、ローム粒1%、焼土
2層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒3%、鈍い黄褐色粘土中塊1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色ローム粒8%、炭化物粒1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小～中粒8%、炭化物粒2%

BSI12SD1-①(c－c′)
1層　2.5YR3/3　暗オリーブ褐色土　黒色土7%、焼土ブロック
2層　10YR1.7/1　黒 色 土　黄褐色ローム中粒1個
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～小塊7%、炭化物粒1%
4層　10YR3/1　黒褐色土　黒色土10%、ローム粒～中塊15%均等、炭化物中～大粒3%
5層　10YR2/1　黒 色 土　黄褐色ローム中塊2%、炭化物中粒1%
6層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒10%均等、炭化物中粒1%
7層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小塊2%、炭化物粒1%
8層　10YR3/2　黒褐色土　黒色土3%、ローム小塊1%、炭化物1%
9層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒7%均等、炭化物粒1%
10層　10YR4/6　褐 色 土　黒色土3%、炭化物小塊1%
BSI12SD1-②(d－d′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色土ブロック、ローム粒7%、炭化物粒～大塊2%
2層　10YR1.7/1　黒 色 土　黒褐色土15%、黄褐色ローム小塊2%
3層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色土20%
BSI12SD1-③(e－e′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中塊1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒3%、焼土1%
3層　10YR2/1　黒 色 土　暗褐色土10%、ローム粒1%
4層　10YR4/4　褐 色 土　黒褐色土8%、ローム粒2%
BSI12SD1-④(f－f′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　黒色土ブロック大塊1個、ローム粒1%
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小～大粒7%、焼土中粒7%均等、炭化物中粒2%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小～大塊5%、炭化物粒1%
4層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒～中塊15%、炭化物中粒2%、焼土小塊1%
5層　10YR2/2　黒褐色土　褐色土、炭化物中粒～大塊1%
6層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒～小塊5%、炭化物中粒2%
7層　10YR6/8　明黄褐色ローム　黒色土3%

BSI13壁溝(D－D′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物粒1%
3層　10YR3/4　暗褐色土　黒褐色土10%
BSI13Pit1(A－A′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%
2層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒1%
BSI13Pit2(A－A′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%
BSI13Pit3(A－A′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　褐色土20%
BSI13Pit4(B－B′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%
2層　10YR5/8　黄褐色土
BSI13Pit5(B－B′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色土10%斑状、ローム粒2%
2層　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色土15%、ローム粒1%
BSI13Pit6(B－B′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%
2層　10YR2/2　黒褐色土
3層　10YR5/8　黄褐色土
BSI13Pit7(C－C′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物粒1%、焼土粒
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色土10%、ローム粒3%、炭化物粒1%
4層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%
5層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色土中塊8%
BSI13Pit8(C－C′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%
2層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物粒1%、ローム粒1%

BSI13SD1-②(F－F′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　黒色土10%、ローム粒5%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%、ローム中粒1%
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%、焼土1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色土30%、ローム粒4%
5層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒1%
6層　10YR6/6　明黄褐色ローム　褐色土30%
BSI13SD1-①(E－E′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　褐色土20%斑点状、焼土2%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒2%、炭化物粒2%、焼土粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色土、ローム粒・炭化物粒2%
5層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒4%
6層　10YR3/4　暗褐色土　黒褐色土10%、ローム中粒1%
BSI13SD1-③(G－G′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒6%、上部にB-Tm火山灰
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%、焼土1%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒10%、炭化物粒5%、焼土粒1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色土8%、ローム粒3%、炭化物粒1%
5層　10YR2/3　黒褐色土　褐色土35%斑状、ローム中塊3%、炭化物粒1%
6層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土30%
BSI13SD1-④(H－H′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小～中粒7%、焼土粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小～中塊15%、焼土粒2%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小～中粒8%
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム小～中粒6%、焼土粒3%
5層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、焼土
6層　10YR3/2　黒褐色土　ローム中粒1%
7層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小～中粒10%、炭化物粒・焼土粒1%
8層　10YR2/2　黒褐色土　黒褐色土4%斑点状、ローム中塊20%
9層　10YR2/3　黒褐色土　ローム大塊25%
10層　10YR2/2　黒褐色土
11層　10YR1.7/1　黒 色 土
12層　10YR3/4　暗褐色土

BSI12SD1-⑤(G－G′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中塊1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　極暗褐色土大塊層状、ローム粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒30%、焼土1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒30%斑状
5層　10YR5/8　黄褐色ローム　黒褐色土25%、炭化物粒3%
BSI12SB1PIT1(g－g′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%
2層　10YR2/1　黒 色 土　炭化物粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%、ローム中塊1%
4層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒4%
5層　10YR4/4　褐 色 土　黒褐色土20%、ローム粒・炭化物粒・焼土粒1%
BSI12SB1PIT2(h－h′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒4%、炭化物粒1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　黄褐色土10%、ローム粒1%
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%、ローム中塊1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　明黄褐色土12%
BSI12SB1PIT3(i－i′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　淡黄色粘土中粒4%、炭化物小塊1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒3%、ローム小塊1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　明黄褐色土30%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%
5層　10YR2/3　黒褐色土　褐色土10%、ローム粒1%
6層　10YR2/1　黒 色 土　鈍い黄橙色土15%、ローム粒2%
BSI12SB1PIT4(i－i′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒2%、ローム中塊1%、焼土粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色土40%、ローム粒3%
3層　10YR2/2　黒褐色土　灰白色粘土小塊3%、ローム粒・炭化物粒1%
4層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒2%
5層　10YR4/4　褐 色 土　暗褐色土20%、ローム粒1%
6層　10YR2/2　黒褐色土

BSI13SB1PIT1(I－I′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　黒色土3%、ローム粒～小塊15%、炭化物粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～小塊7%、炭化物粒2%、焼土中粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小塊2%中央に凝集
4層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒2%
5層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム10%、焼土中粒3%
BSI13SB1PIT2(I－I′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒～小塊7%、炭化物粒3%、焼土中粒2%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒～小塊15%、焼土粒3%、炭化物粒2%
3層　10YR2/2　黒褐色土　他の層と比べ締まりなし
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中塊～大塊3%
5層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム小塊5%
BSI13SB1PIT3(I－I′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　黒色土5%、ローム粒～中塊7%、炭化物粒3%、焼土中粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　褐色土10%、ローム粒～小塊7%、炭化物粒5%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒～小塊7%、炭化物粒3%
4層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒～小塊5%
5層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小塊15%、炭化物粒2%
BSI13SB1PIT4(J－J′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　焼土小塊1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒3%
3層　10YR2/2　黒褐色土　褐色土10%、ローム粒1%、ローム大塊1個
4層　10YR2/1　黒 色 土　黄褐色土8%
5層　10YR3/3　暗褐色土
6層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色土15%
BSI13SB1PIT5(K－K′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒4%、焼土粒1%、炭化物粒1%
4層　10YR4/4　褐 色 土
5層　10YR2/1　黒 色 土
6層　10YR3/3　暗褐色土　黄褐色土40%、炭化物粒1%
BSI13SB1PIT6(L－L′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　黒色土30%、ローム中粒5%、焼土粒2%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒2%、焼土粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%
4層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色土7%、ローム粒3%
5層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%
6層　10YR2/3　黒褐色土　ローム大塊20%
7層　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土25%、ローム粒5%
BSI13SB1PIT7(M－M′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒1%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム中粒4%、炭化物粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色土20%、ローム粒4%、ローム中塊1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色土15%、ローム粒3%、ローム中塊2%
5層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%
6層　10YR2/1　黒 色 土　黄褐色土大塊8%
7層　10YR2/3　黒褐色土
BSI13SB1PIT8(N－N′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、ローム中塊2%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中塊7%
4層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色土10%、炭化物粒1%
5層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色ローム12%、炭化物小塊1個
6層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中塊1%
7層　10YR2/1　黒 色 土　炭化物粒2%
8層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色土8%

図43　第12・13号竪穴住居跡

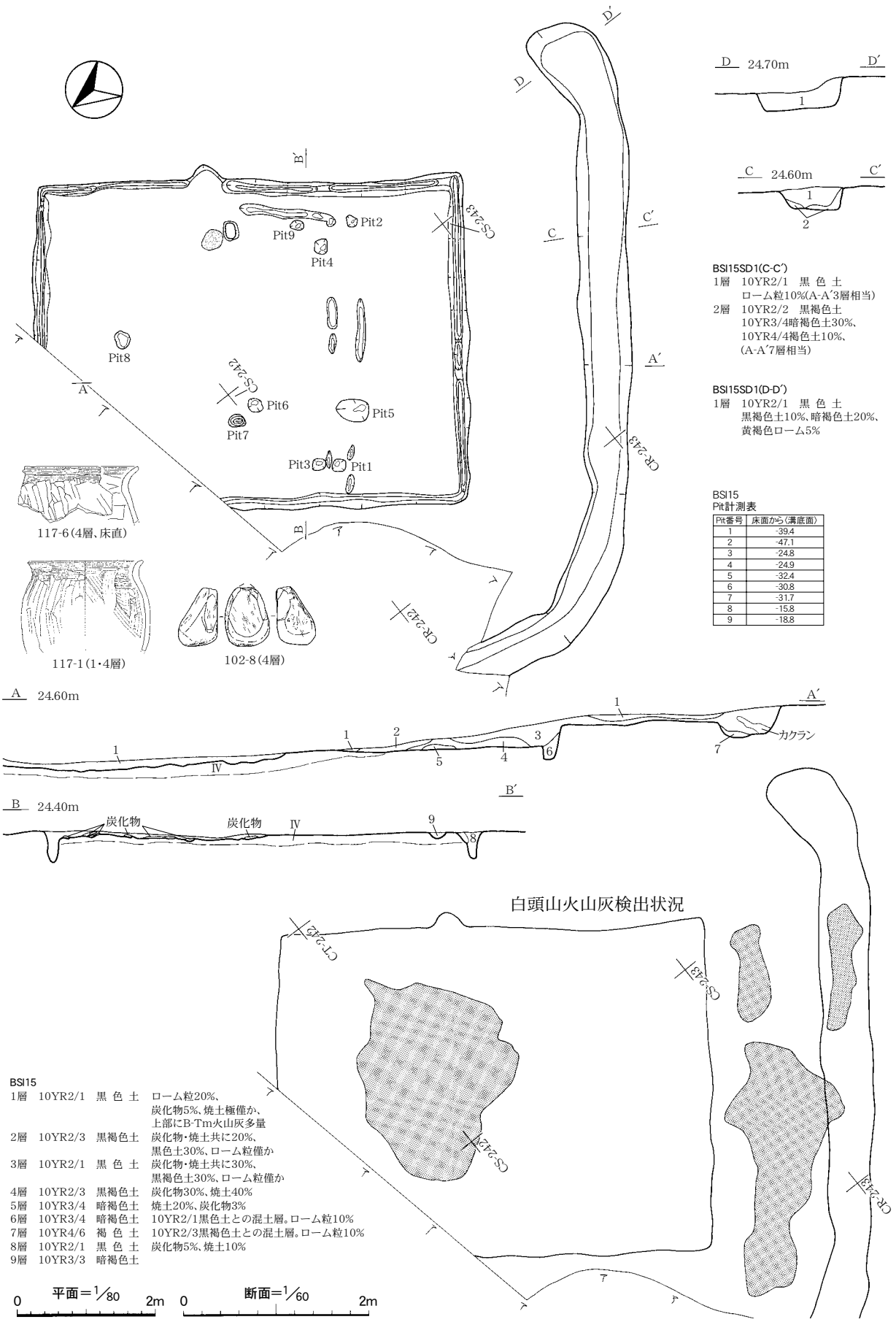
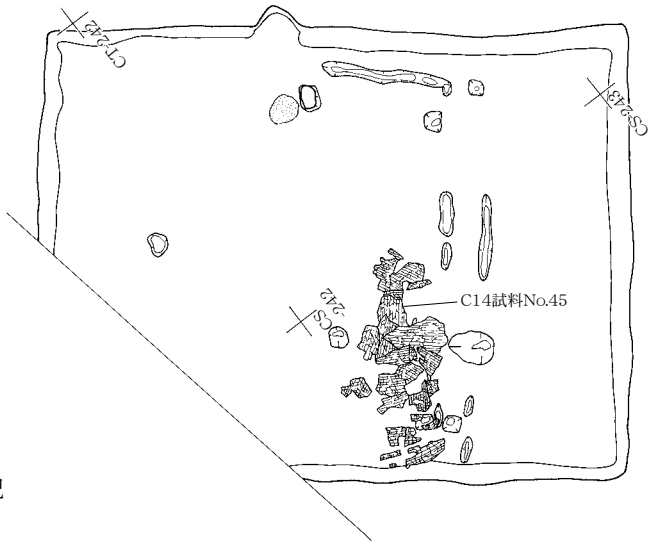
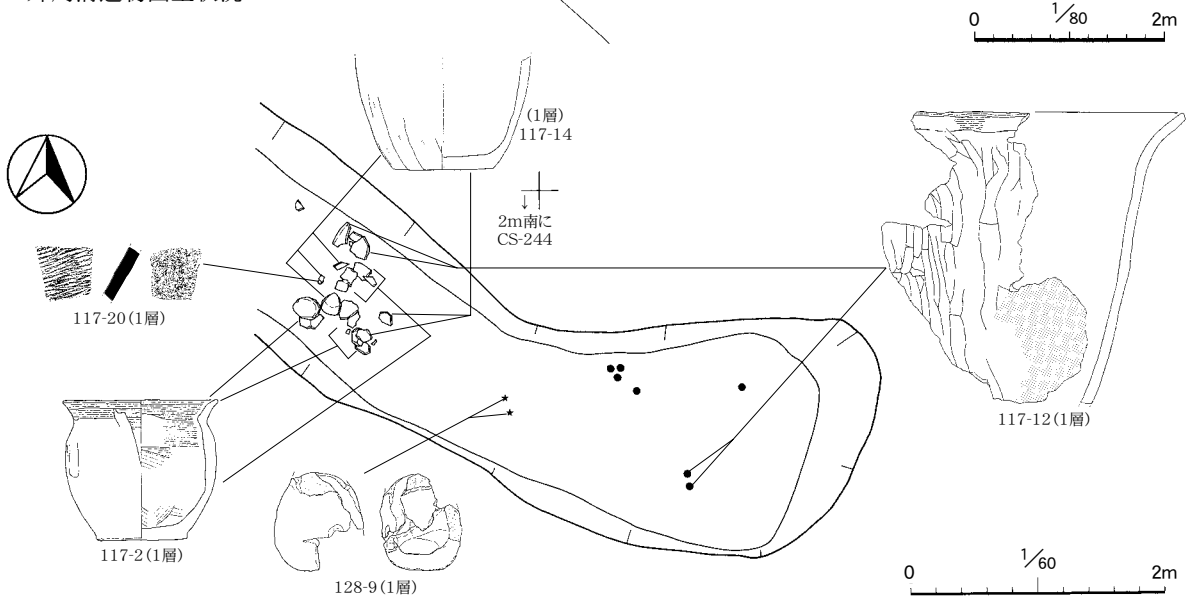


図 44　第 15 号竪穴住居跡（１）

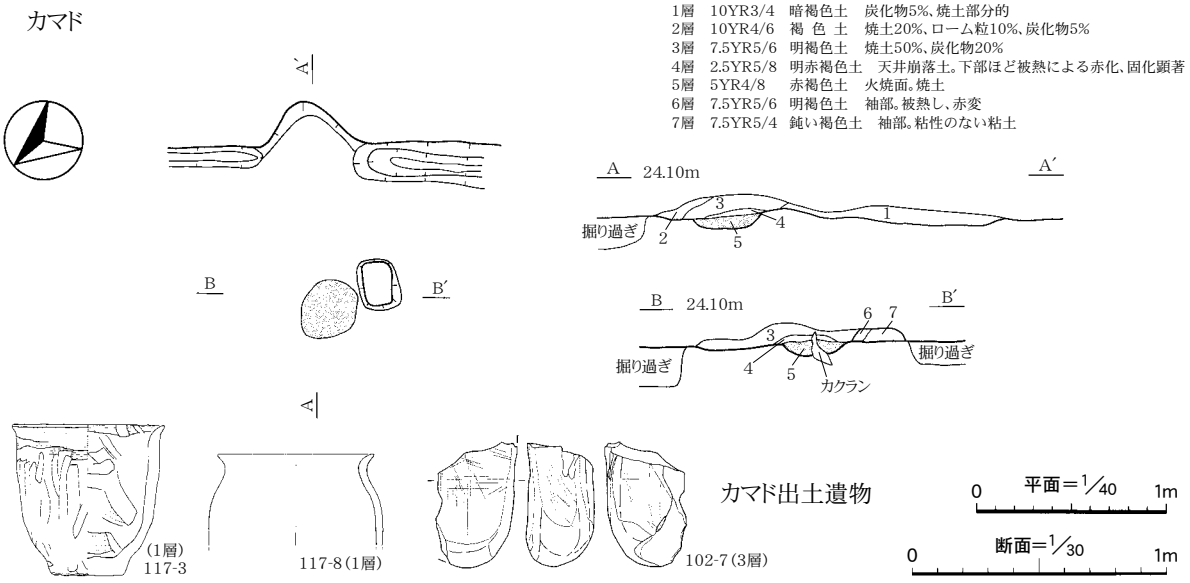
炭化材検出状況



外周溝遺物出土状況



カマド

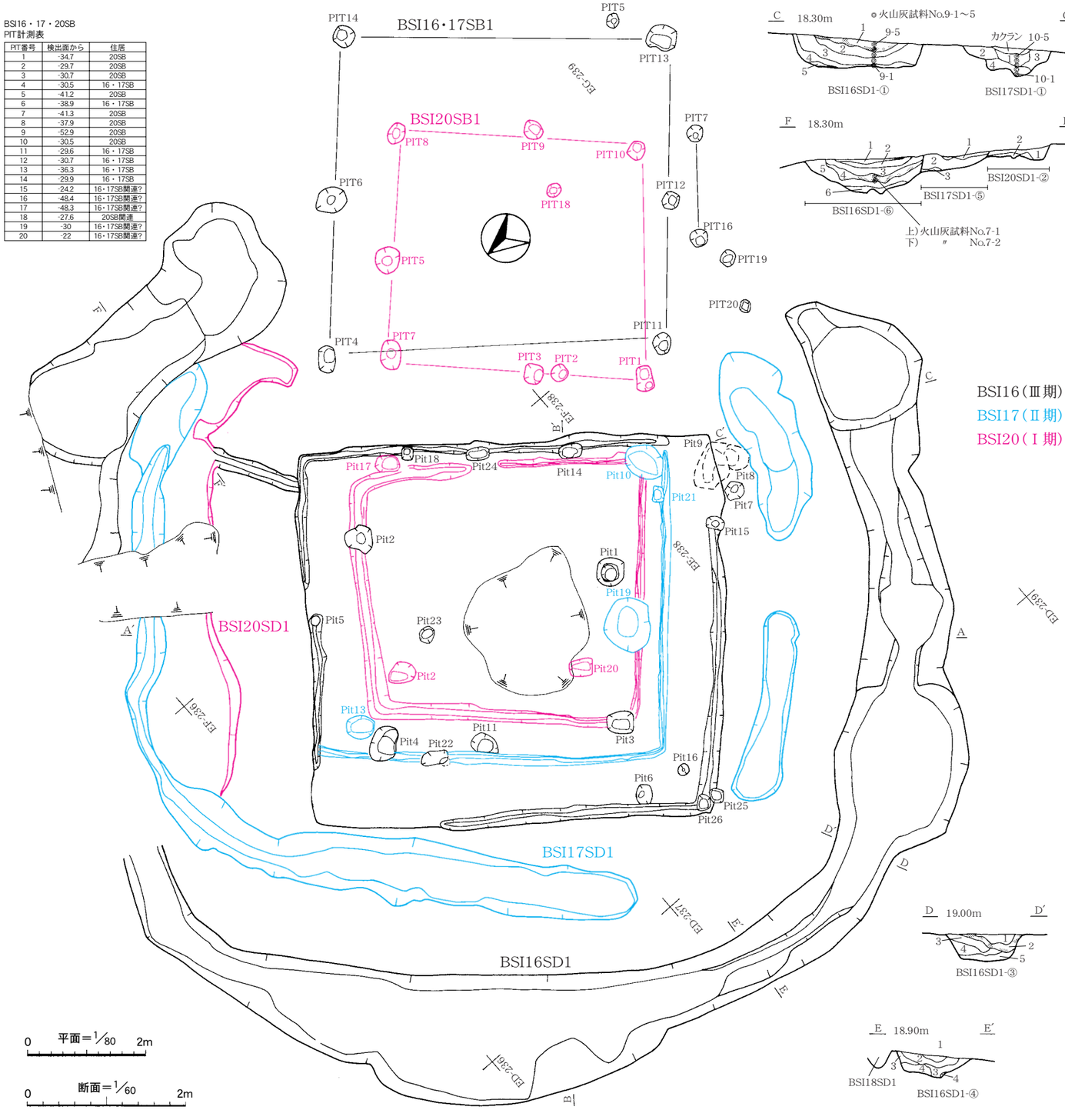


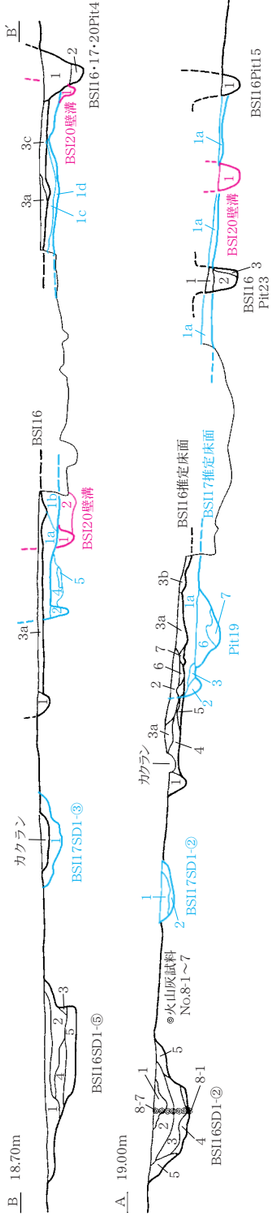
カマド出土遺物

図 45　第 15 号竪穴住居跡（2）

BSI16・17・20SB
PIT計測表

PIT番号	検出面から	住居
1	-34.7	20SB
2	-29.7	20SB
3	-30.7	20SB
4	-30.5	16・17SB
5	-41.2	20SB
6	-38.9	16・17SB
7	-41.3	20SB
8	-37.9	20SB
9	-52.9	20SB
10	-30.5	20SB
11	-29.6	16・17SB
12	-30.7	16・17SB
13	-36.3	16・17SB
14	-29.9	16・17SB
15	-24.2	16・17SB関連?
16	-48.4	16・17SB関連?
17	-48.3	16・17SB関連?
18	-27.6	20SB関連
19	-30	16・17SB関連?
20	-22	16・17SB関連?





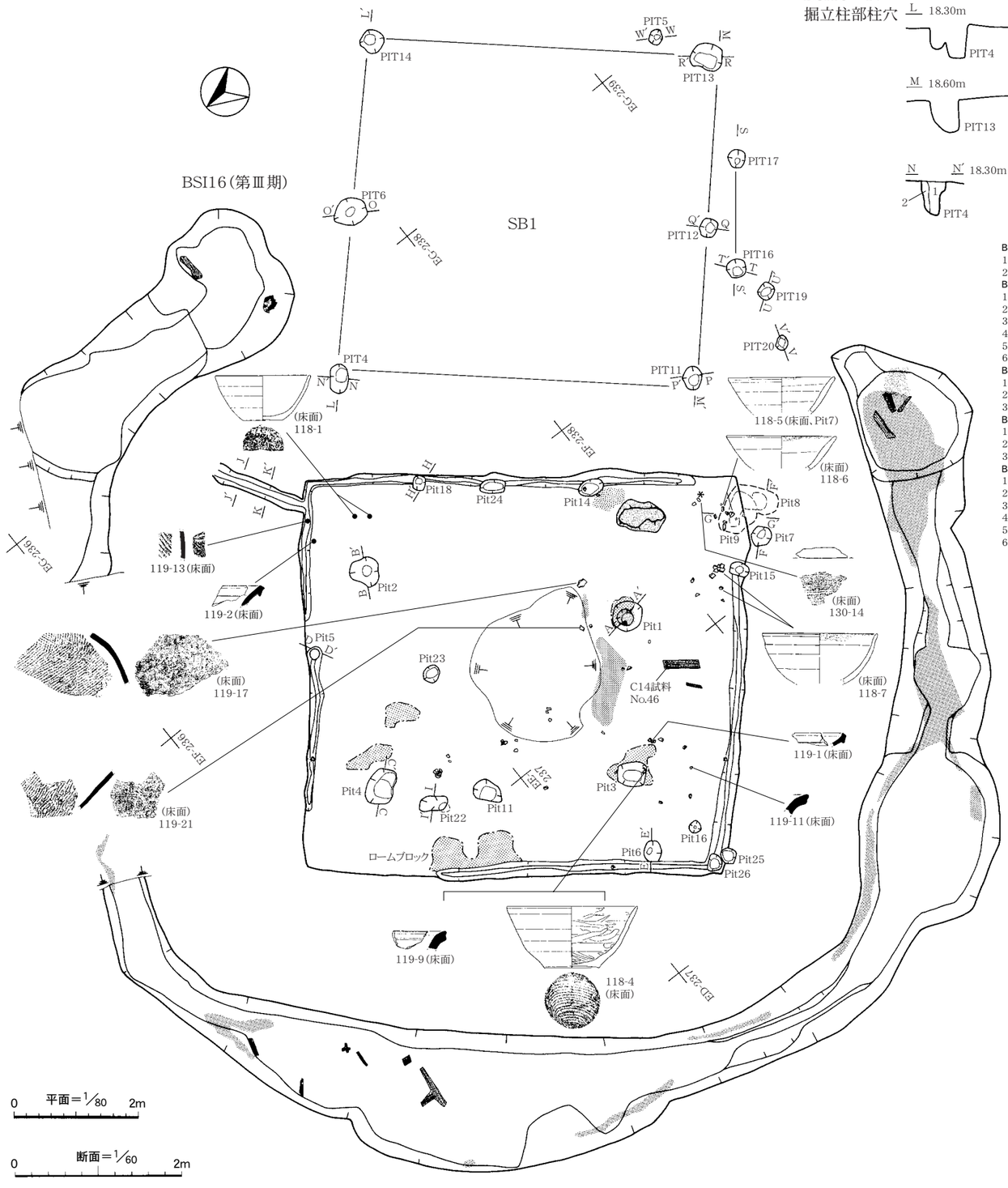
BSI16堆積土(A－A′)(B－B′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒～大粒・焼土中粒～大粒10%、炭化物粒～中粒5%
2層　10YR3/3　暗褐色土　鈍い褐色土が右側に凝集、焼土大粒・炭化物大粒～大塊20%、ローム中粒5%均等
3a層　10YR5/2　灰黄褐色土　ローム大粒・焼土中粒・炭化物粒5%均等
3b層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　焼土粒・炭化物粒5%、ローム中粒～大粒10%均等
3c層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～小塊20%、焼土粒～大塊10%、炭化物中粒・灰白色土粒～中粒5%
4層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　焼土中粒10%、ローム粒・炭化物粒5%均等
5層　10YR2/3　黒褐色土　焼土中粒10%、炭化物粒5%均等
6層　10YR3/3　暗褐色土　焼土粒～中粒10%、炭化物粒・ローム粒5%均等
7層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒・焼土中粒・炭化物中粒5%均等
BSI16・17・20Pit14(B－B′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物粒～中粒55%、ローム中粒・焼土中粒10%
2層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　黒褐色土20%、ローム中粒10%、炭化物粒5%、焼土粒5%、粘土小塊30%
BSI16SD1-①(C－C′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　層下部に火山灰が極厚。ローム粒・焼土粒1%
2層　10YR2/1　黒　色　土　炭化物粒～大粒5%、ローム粒3%、焼土粒2%、火山灰粒1%
3層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒7%、焼土中・大粒・炭化物粒・中粒3%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム3%、焼土粒2%、炭化物粒1%
5層　10YR5/6　黄褐色土　炭化物粒2%、焼土粒1%、部分的に黒褐色土、締まりあり
BSI16SD1-②(A－A′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　火山灰中粒～大粒30%、炭化物中粒・焼土粒5%
2層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒～中粒10%、焼土粒・炭化物中粒5%、火山灰粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒～大粒30%、焼土中粒・炭化物中粒10%、粘土小塊5%
4層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　粘土大塊50%、黒褐色土20%、ローム中塊・炭化物粒5%
5層　10YR3/3　暗褐色土　粘土中塊・焼土中粒10%、ローム小塊・炭化物中粒5%
BSI16SD1-③(D－D′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒20%、炭化物中粒5%
2層　10YR3/2　黒褐色土　火山灰大塊40%、ローム粒～中粒10%、炭化物中粒5%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒～中粒30%、焼土粒・炭化物中粒5%、
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～中粒10%、炭化物中粒・焼土粒5%
5層　10YR2/2　黒褐色土　粘土大塊20%、黒色土大塊10%、炭化物中粒・焼土粒・ローム粒5%。
黄褐色土との混合土
BSI16SD1-④(E－E′)
1層　10YR1.7/1　黒　色　土　火山灰3%、炭化物粒・焼土粒2%
2層　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒1%、中央部にB-Tm火山灰が凝集
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒2%、焼土粒・炭化物粒1%
4層　10YR5/6　黄褐色土　黒色土との混合土
BSI16SD1-⑤(B－B′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒・焼土粒～中粒・炭化物粒5%
2層　10YR2/3　黒褐色土　火山灰粒～大粒20%、焼土中粒10%、ローム粒・炭化物粒5%
3層　10YR2/1　黒　色　土　焼土粒・ローム粒・炭化物粒5%
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒～中粒10%、粘土中塊・炭化物粒・焼土粒～中粒5%
5層　10YR1.7/1　黒　色　土　粘土大塊20%斑点状、ローム粒～中粒・焼土粒・炭化物粒5%
BSI16SD1-⑥(F－F′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒～中粒10%、ローム粒・炭化物粒5%、
2層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒～中粒・焼土粒～中粒・炭化物粒5%
3層　10YR1.7/1　黒　色　土　焼土粒・ローム粒・炭化物粒5%
4層　10YR3/2　黒褐色土　火山灰大塊40%斑点状、ローム粒・炭化物粒・焼土粒5%
5層　10YR2/3　黒褐色土　焼土粒1%、炭化物粒2%、部分的に黒褐色土、締まりあり
6層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/6褐色土との混合土。ローム中塊10%、年度ブロック0%下に濃集、
焼土粒5%、炭化物粒5%均等
BSI17堆積土(A－A′)(B－B′)
1a層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒～中粒10%、焼土粒～中粒・炭化物粒5%
1b層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒～中粒10%、焼土粒～中粒・炭化物粒～中粒5%
1c層　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色土との混合土。焼土粒～中粒・ローム粒～大粒・粘土大塊10%、
炭化物粒5%
1d層　10YR5/6　黄褐色土　ローム主体、炭化物粒・焼土中粒5%
2層　10YR1.7/1　黒　色　土　ローム粒10%、焼土粒・炭化物粒5%、壁溝堆積土
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～小塊10%、焼土粒・炭化物粒5%
4層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土との混合土。粘土小塊～中塊40%、
焼土粒～中粒・炭化物粒・ローム粒5%、掘り方埋土
5層　10YR4/6　褐　色　土　黒褐色土20%、焼土中粒・炭化物粒5%、掘り方埋土
6層　10YR2/1　黒　色　土　粘土中塊～大塊20%、焼土中粒・炭化物粒・ローム粒5%、Pit19堆積土
7層　10YR6/6　明黄褐色土　粘土中塊40%、炭化物中粒10%、ローム小塊5%、Pit19堆積土
BSI17SD1-①(C－C′)、⑤(F－F′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　焼土粒2%、ローム粒・炭化物大粒1%
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒7%、焼土粒5%、炭化物粒1%
3層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒3%、焼土粒1%
4層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土15%、焼土粒1%
BSI17SD1-②、④(A－A′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒10%、焼土中粒・炭化物粒～中粒5%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒・焼土中粒10%、炭化物粒5%
BSI17SD1-③(B-B′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒・ローム大塊10%、焼土中粒・炭化物粒5%
BSI20堆積土(A－A′)(B－B′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒・焼土粒3%、壁溝堆積土
2層　10YR4/4　褐　色　土　ローム中粒2%、炭化物粒1%、掘り方埋土
BSI20SD1-①(A－A′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～中粒10%、焼土粒・炭化物中粒5%
BSI20SD1-②(F－F′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒～大粒・焼土粒～大塊10%、炭化物中粒～大粒・灰白色土粒5%
2層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　ローム大塊30%、焼土中粒～大粒5%、炭化物粒5%、黒褐色土20%

BSI16・17・20
Pit計測表　（　）は検出面から

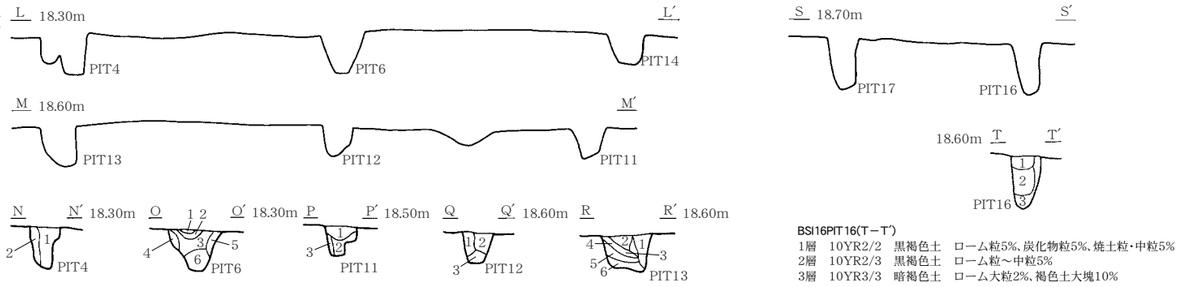
Pit番号	床面から	住居
1	-53.8	16・17
2	-46.6	16・17
3	-56	16・17
4	-52.5	16
5	-27	16
6	-25.4	16
7	-25.4	16
8	-16	16
9	-34.9	16
10	-16	17
11	-59	16・17
12	(-56)	20
13	-34	17
14	-22	16・17・20
15	-34.4	16
16	-15.4	16
17	-47	20
18	-44	16・17
19	-21.9	17
20	(-38.1)	20
21	-36	17
22	-17.9	16
23	-22.5	16
24	-27.1	16・17
25	-27.7	16
26	-37.7	16

図46　第16・17・20号竪穴住居跡(1)

BSI16（第Ⅲ期）



BSI16・17
掘立柱部柱穴



BSI16・17SB1PIT4(N－N′)
1層　10YR4/4　褐 色 土　火山灰大塊5%斑点状、ローム中粒～大塊20%、炭化物中粒5%、鉄分粒5%
2層　10YR3/3　暗褐色土　火山灰中塊

BSI16・17SB1PIT6(O－O′)
1層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒～中粒3%、褐色土粒1%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒～中粒5%
4層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒～中粒3%、褐色土粒1%
5層　10YR4/4　褐 色 土　褐色土粒3%
6層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒～大粒5%

BSI16・17SB1PIT11(P－P′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒3%、灰白色粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒・大粒3%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒・大粒2%

BSI16・17SB1PIT12(Q－Q′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒～中粒5%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～大粒2%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒2%

BSI16・17SB1PIT13(R－R′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒～大粒10%、粘土中塊5%、黒色土粒5%、鉄分粒3%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒～中塊10%、黒色土粒5%、鉄分中粒5%、灰白色粒3%
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒～小塊5%、粘土小塊15%、鉄分粒3%、黒色土粒5%、灰白色粒2%
4層　10YR5/6　黄褐色土　ローム大塊30%、黒褐色土20%、鉄分粒5%
5層　10YR2/2　黒褐色土　鉄分粒10%、ローム粒5%、粘土中塊5%
6層　10YR4/6　褐 色 土　粘土大塊30%、黒褐色土粒10%、鉄分粒5%

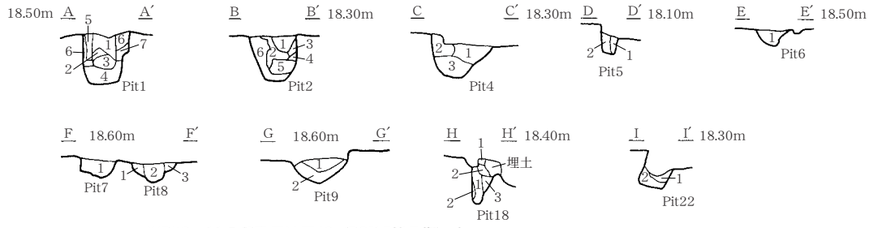
BSI16PIT16(T－T′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物粒5%、焼土粒・中粒5%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒～中粒5%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム大粒2%、褐色土大塊10%

BSI16PIT19(U－U′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒～中粒3%、炭化物粒5%、焼土粒3%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム大粒20%、焼土中～大粒5%、炭化物粒～中粒3%

BSI16PIT20(V－V′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～中粒5%、炭化物粒2%、焼土粒5%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒～中粒10%、焼土中粒2%、炭化物粒3%

BSI16PIT15(W－W′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、焼土粒3%、ローム大粒5%、炭化物粒5%

竪穴部柱穴



※Pit3、11の断面図は図48（BSI17第Ⅱ期）中

BSI16Pit1(A－A′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物粒・大塊20%、焼土小塊10%、焼土小～中粒・火山灰粒5%
2層　10YR2/2　黒褐色土　焼土小～中粒・ローム粒・炭化物粒5%
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒10%、炭化物粒5%
4層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒10%、炭化物粒・焼土粒5%、湿性あり
5層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小～大粒30%、粘土小塊・焼土中粒・炭化物粒5%
6層　10YR4/4　褐 色 土　ローム粒・粘土中塊10%、焼土中粒・炭化物小～中粒5%
7層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小～大粒20%、焼土小～中粒・炭化物粒5%

BSI16Pit2(B－B′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒～中粒10%、ローム粒・炭化物中粒5%、B-Tm火山灰粒～中粒5%
2層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物中粒～中塊10%、ローム粒・焼土粒5%
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒～大粒10%、焼土粒・炭化物粒5%
4層　10YR3/4　暗褐色土　粘土大塊10%、焼土粒・炭化物粒・ローム粒5%
5層　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒～中粒20%、ローム粒～中粒・炭化物粒～中塊10%、粘土小塊5%
6層　10YR4/4　褐 色 土　ローム粒～中塊10%、焼土粒5%、炭化物粒5%

BSI16Pit4(C－C′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒～大粒15%、炭化物粒・焼土粒～大粒・炭化物粒～中粒5%
2層　10YR4/4　褐 色 土　ローム粒～大塊60%、炭化物中粒10%、焼土粒～中粒5%
3層　10YR1.7/1　黒 色 土　粘土塊5%中央に凝集、ローム粒～大粒・焼土粒～中粒・炭化物粒5%

BSI16Pit5(D－D′)
1層　10YR2/1　黒 色 土
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒～大粒10%、焼土粒～中粒・炭化物粒～中粒5%

BSI16Pit6(E－E′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～大粒10%、焼土粒～大粒・炭化物粒～中粒5%

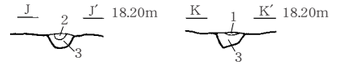
BSI16Pit7(F－F′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒～中塊10%、焼土粒・炭化物粒5%

BSI16Pit8(F－F′)
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒～大粒・炭化物粒・焼土粒5%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒～中粒・焼土粒～中粒・炭化物粒5%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～大粒10%、焼土粒・炭化物粒5%

BSI16Pit9(G－G′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒～大粒・焼土粒～大粒10%、炭化物中粒5%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒～大塊・焼土粒・炭化物中粒5%

BSI16Pit18(H－H′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒・炭化物粒・焼土小粒・中粒5%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒10%、焼土粒・炭化物粒5%
3層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土10%、焼土粒・炭化物中粒5%

BSI16Pit22(I－I′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム大塊10%右側に凝集、炭化物粒5%、ローム粒10%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～中粒10%、焼土中粒2%、炭化物粒5%



BSI16溝(J－J′)(K－K′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　鉄分粒1%
2層　10YR5/6　黄褐色土　ローム全体
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒～中塊7%、鉄分粒1%

図47　第16号竪穴住居跡（2）

BSI17Pit3(D－D′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒～中粒・焼土粒～中粒10%、炭化物粒～中粒5%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～中粒・焼土粒5%
3層　10YR4/4　褐 色 土　ローム粒～中塊30%、炭化物粒～中粒10%、焼土中粒5%
4層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒～中粒・焼土粒～中粒・炭化物粒10%
5層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒～大粒・炭化物粒10%、焼土粒5%
BSI17Pit10(G－G′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒～中粒・焼土粒～中粒10%、炭化物粒～中粒5%
BSI17Pit11(E－E′)
1層　10YR4/6　褐 色 土　黒褐色土と黄褐色土との混合土。炭化物中粒5%
2層　10YR4/6　褐 色 土　黒色土粒10%、炭化物粒・焼土中粒5%
3層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物粒10%、ローム粒・焼土粒5%
4層　10YR4/4　褐 色 土　ローム粒・焼土粒～中粒・炭化物粒10%
5層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物粒～中粒10%、ローム粒・焼土粒5%
BSI17Pit13(B－B′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒～小塊10%、焼土粒～中粒・炭化物粒～大粒5%
2層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒～中塊・炭化物粒・焼土粒～中粒5%
3層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物粒～大粒10%、ローム粒・焼土中粒5%。全体に軟質
4層　10YR5/8　黄褐色土　ローム全体。焼土粒～中粒10%、炭化物中粒5%、粘土大塊10%斑状
5層　10YR3/4　暗褐色土　ローム中粒～大粒20%、炭化物中粒・粘土大塊10%、焼土中粒5%
BSI17Pit21(F－F′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム大塊上部に凝集、炭化物粒・焼土中粒5%
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　粘土中塊20%、ローム小塊10%、炭化物中粒5%

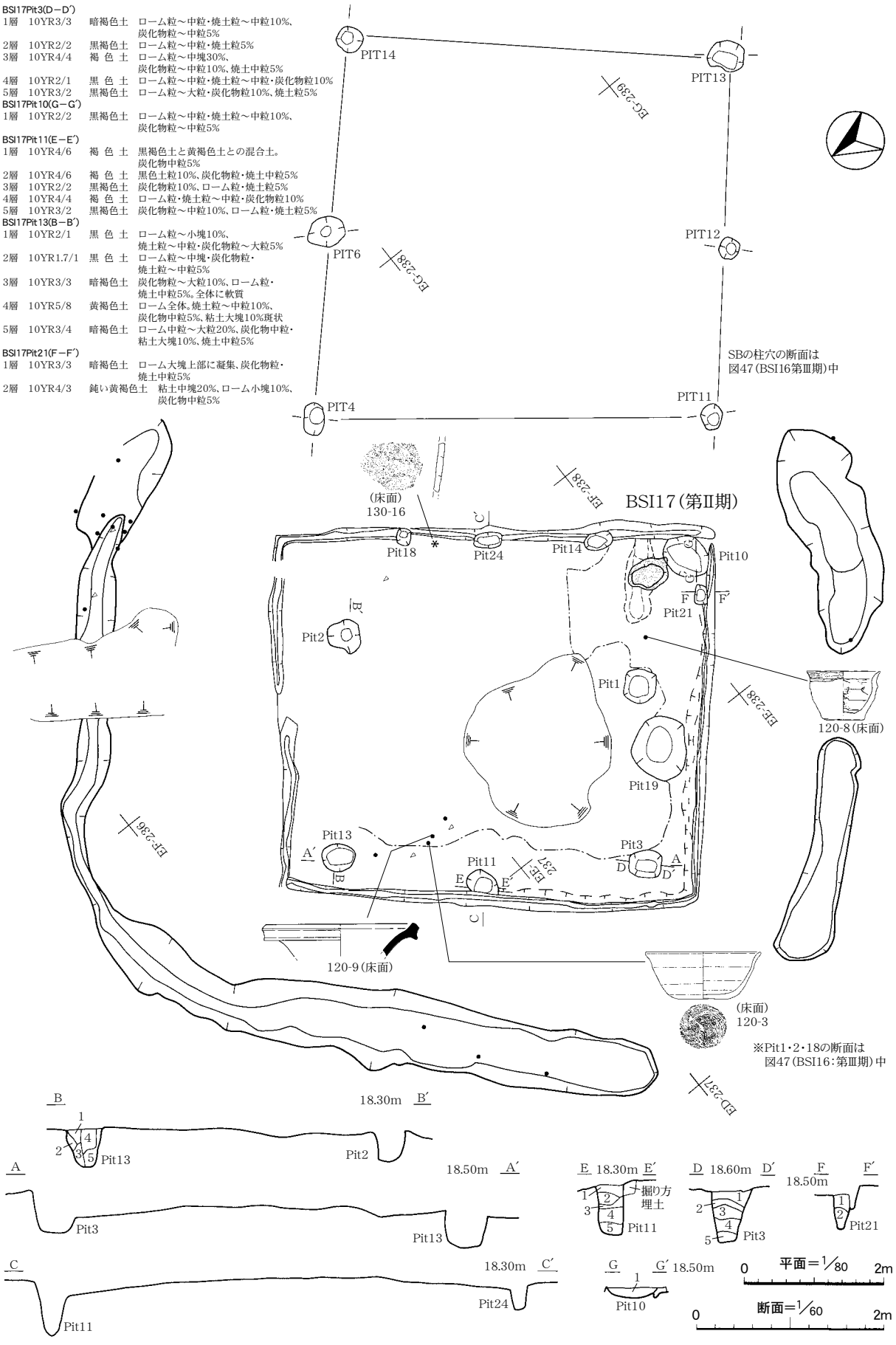
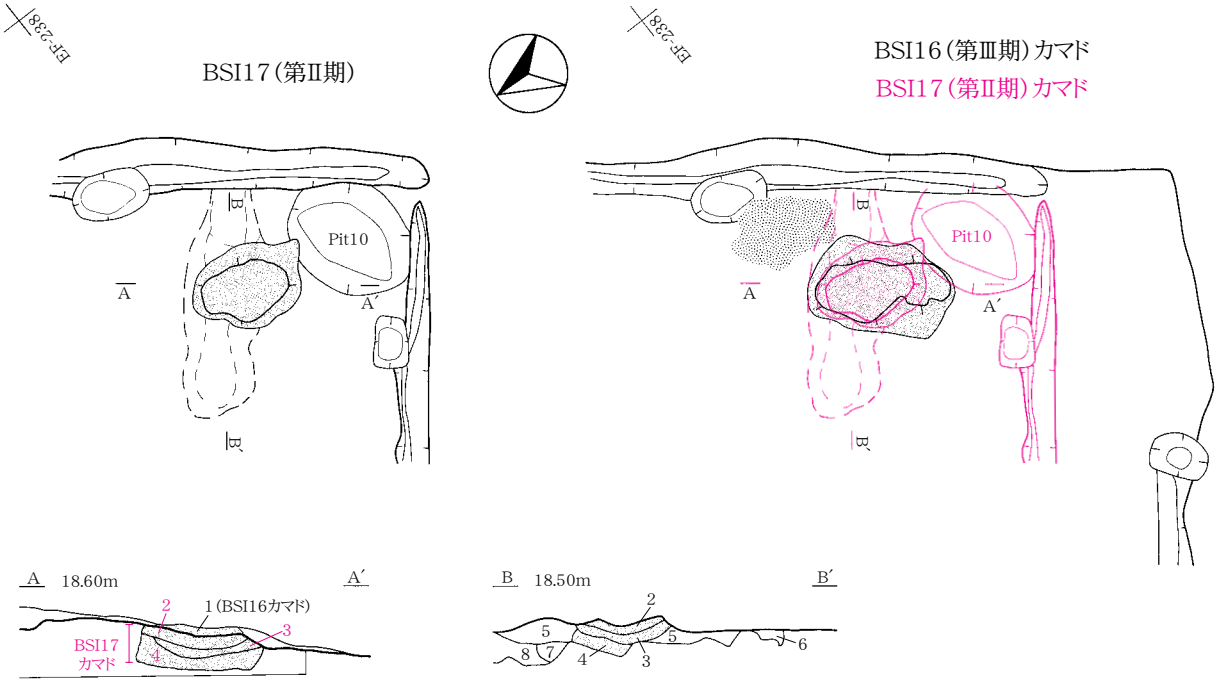
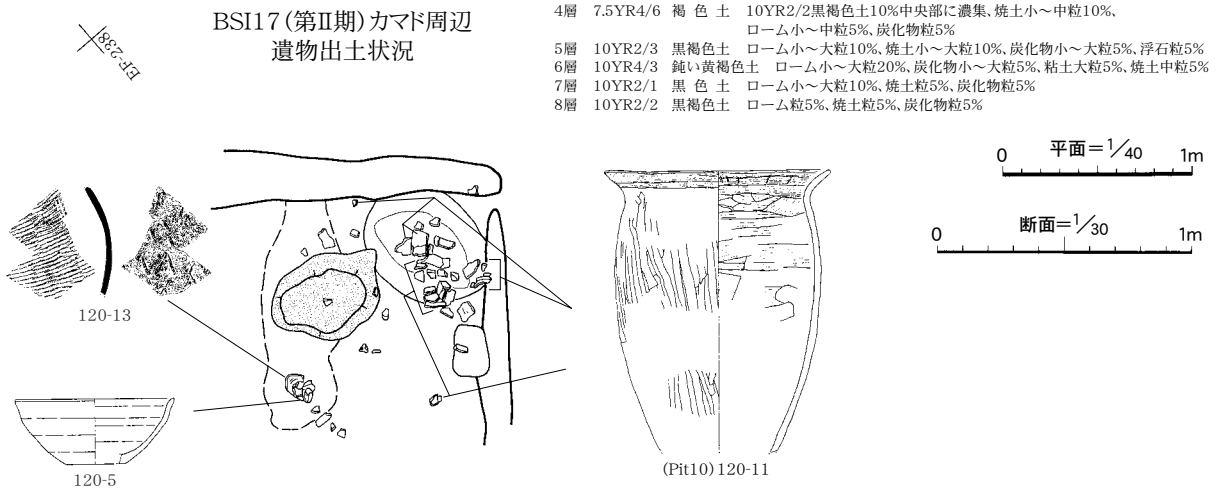


図 48　第 17 号竪穴住居跡（2）



BSI16・17カマド（A－A′）（B－B′）

1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/4褐色土20%、焼土中粒30%、焼土粒20%、炭化物大粒10%、炭化物中粒10%、ローム中粒5%均等
2層	5YR4/8	赤褐色土	ロームブロック20%、炭化物粒5%、焼土層
3層	10YR4/4	褐 色 土	ローム中粒・中塊5%、焼土小～中粒5%、炭化物小～中粒5%
4層	7.5YR4/6	褐 色 土	10YR2/2黒褐色土10%中央部に濃集、焼土小～中粒10%、ローム小～中粒5%、炭化物粒5%
5層	10YR2/3	黒褐色土	ローム小～大粒10%、焼土小～大粒10%、炭化物小～大粒5%、浮石粒5%
6層	10YR4/3	鈍い黄褐色土	ローム小～大粒20%、炭化物小～大粒5%、粘土大粒5%、焼土中粒5%
7層	10YR2/1	黒 色 土	ローム小～大粒10%、焼土粒5%、炭化物粒5%
8層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒5%、焼土粒5%、炭化物粒5%



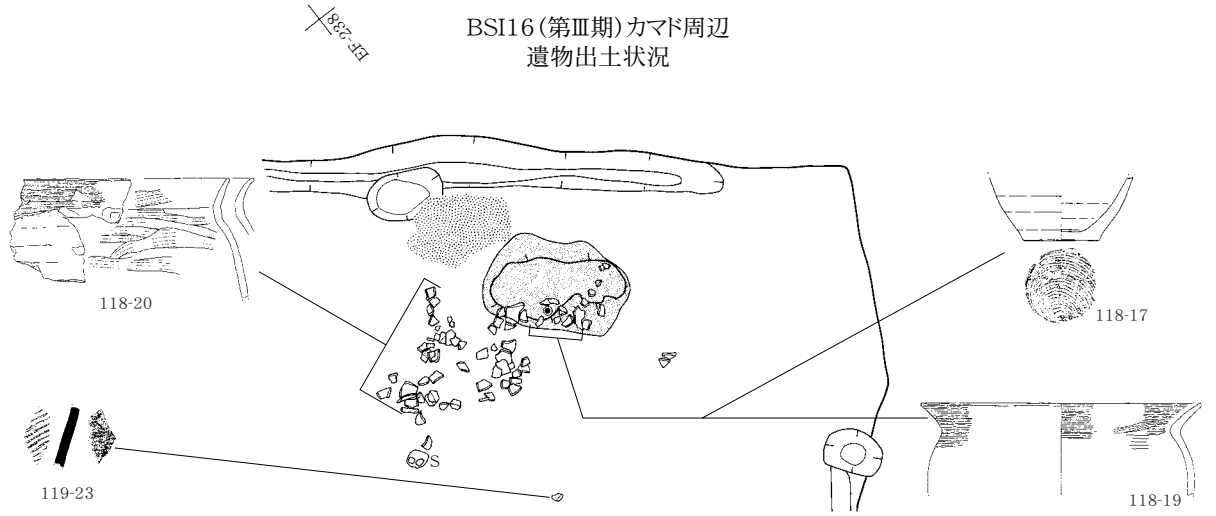


図 49　第 16・17 号竪穴住居跡（3）

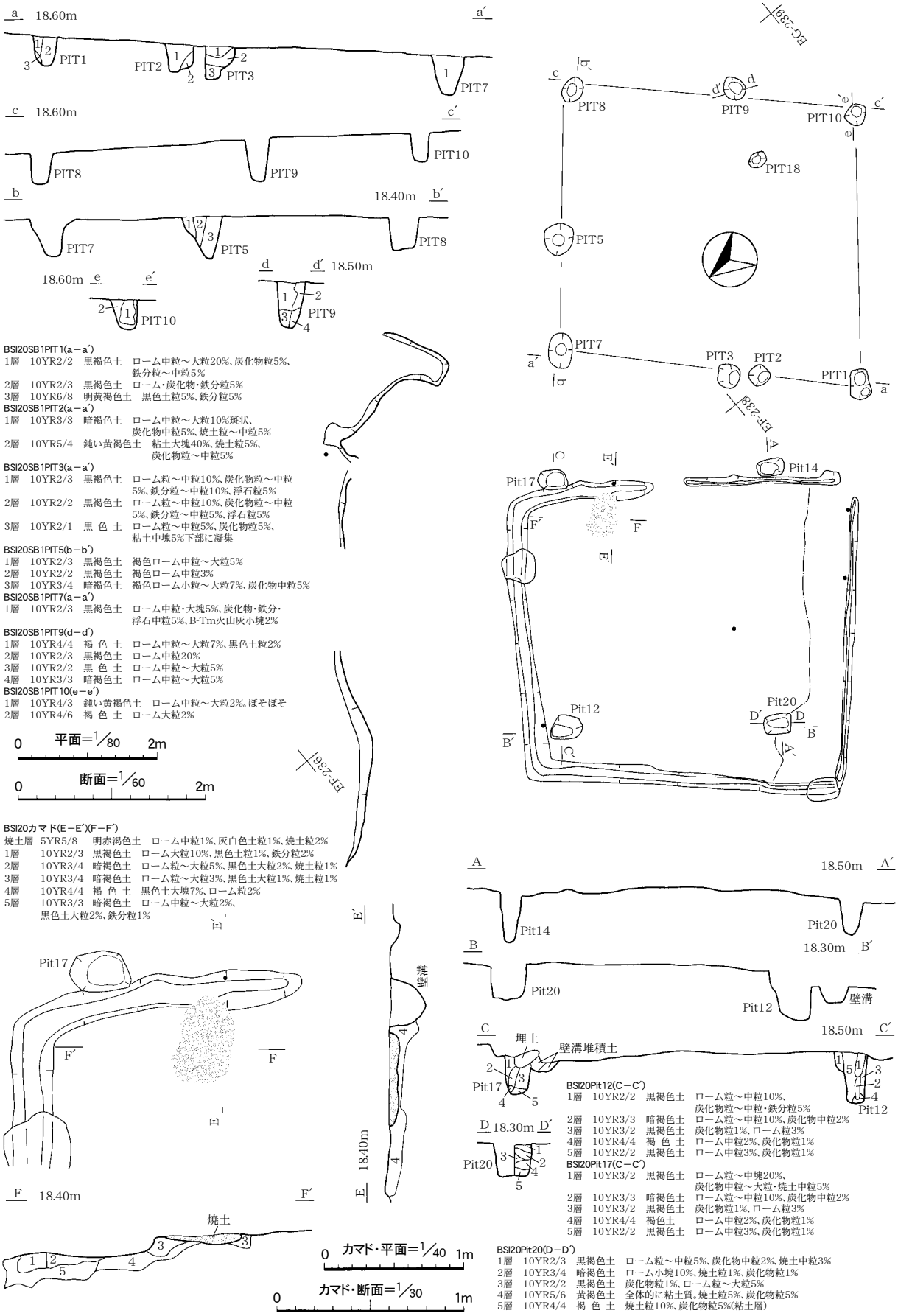
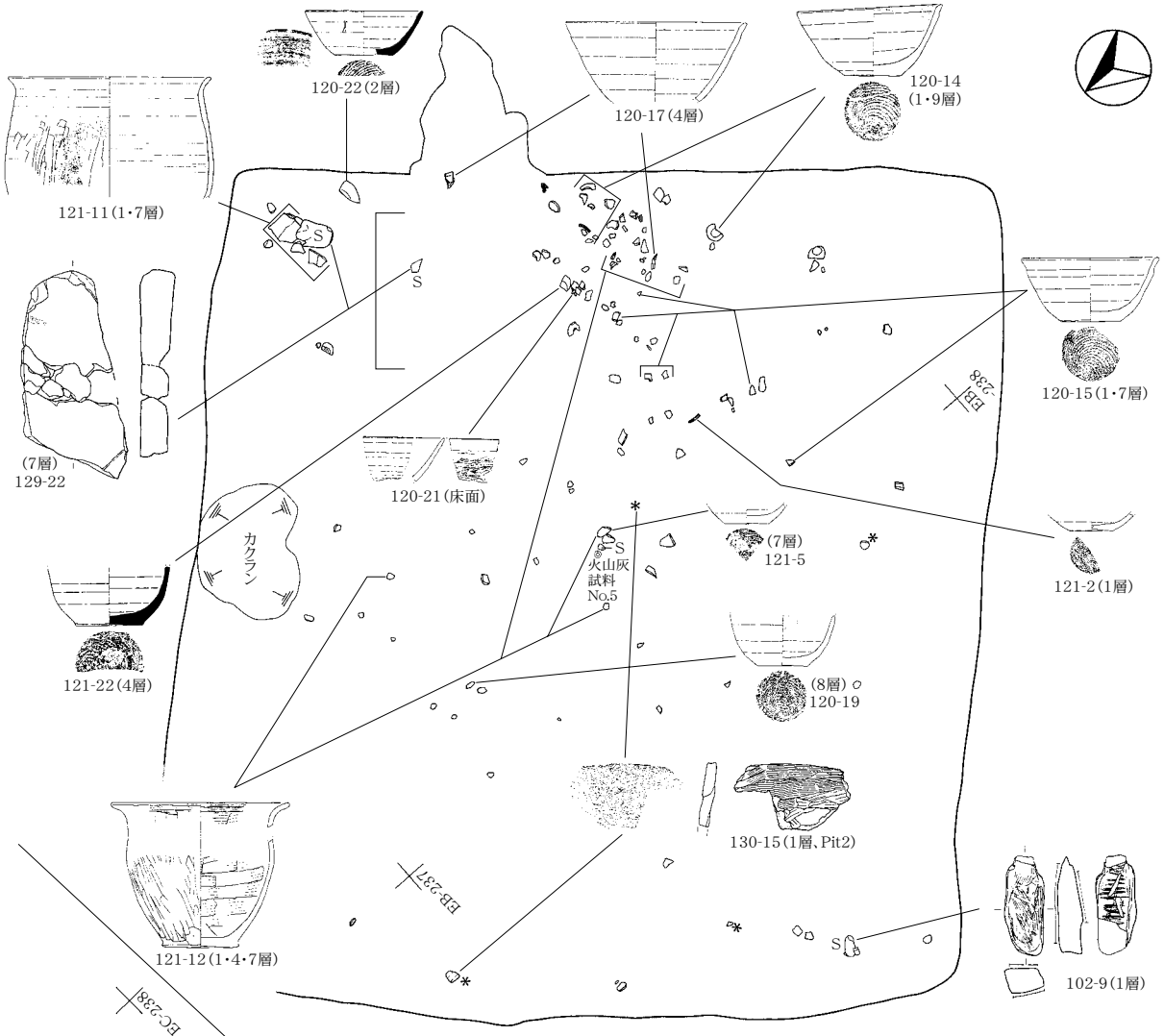
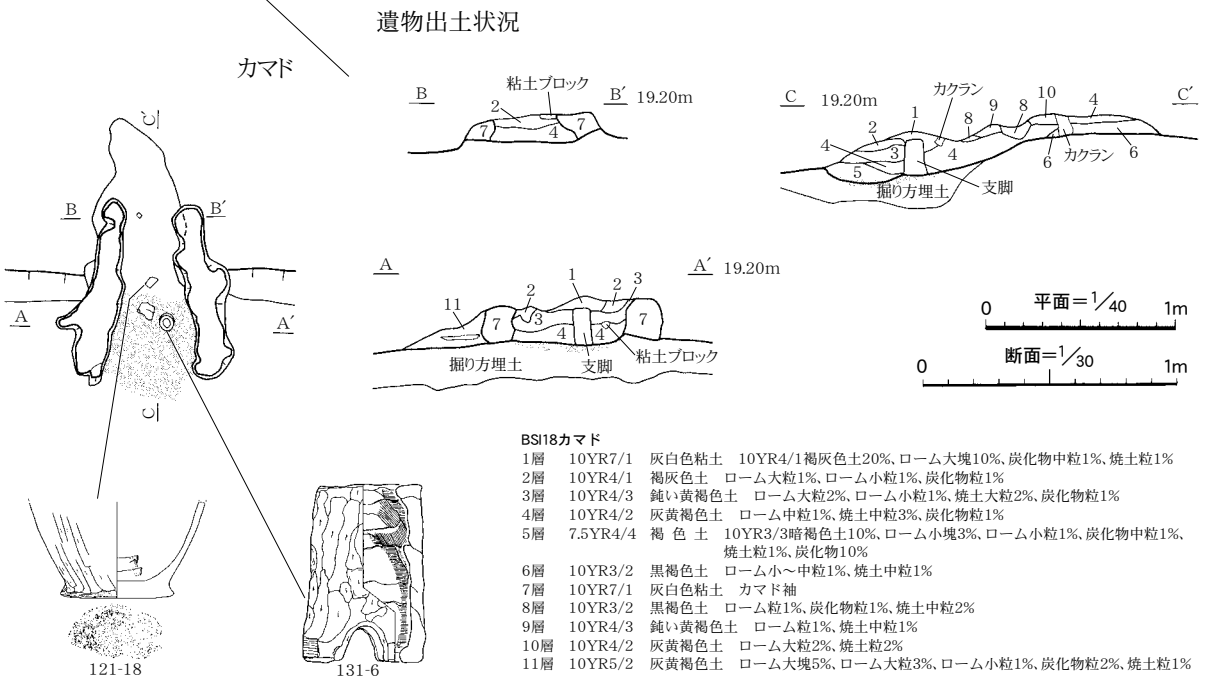


図 50　第 20 号竪穴住居跡（２）





BSI18カマド

1層	10YR7/1	灰白色粘土　10YR4/1褐灰色土20%、ローム大塊10%、炭化物中粒1%、焼土粒1%
2層	10YR4/1	褐灰色土　ローム大粒1%、ローム小粒1%、炭化物粒1%
3層	10YR4/3	鈍い黄褐色土　ローム大粒2%、ローム小粒1%、焼土大粒2%、炭化物粒1%
4層	10YR4/2	灰黄褐色土　ローム中粒1%、焼土中粒3%、炭化物粒1%
5層	7.5YR4/4	褐 色 土　10YR3/3暗褐色土10%、ローム小塊3%、ローム小粒1%、炭化物中粒1%、焼土粒1%、炭化物10%
6層	10YR3/2	黒褐色土　ローム小～中粒1%、焼土中粒1%
7層	10YR7/1	灰白色粘土　カマド袖
8層	10YR3/2	黒褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%、焼土中粒2%
9層	10YR4/3	鈍い黄褐色土　ローム粒1%、焼土中粒1%
10層	10YR4/2	灰黄褐色土　ローム大粒2%、焼土粒2%
11層	10YR5/2	灰黄褐色土　ローム大塊5%、ローム大粒3%、ローム小粒1%、炭化物粒2%、焼土粒1%

図 51　第 18 号竪穴住居跡（1）

BSI18(A－A′)(B－B′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム中塊5%、ローム中粒3%、ローム小粒3%、炭化物粒2%
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム塊3%、焼土粒少量
3層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒1%均等、炭化物粒極少量
4層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム小・中粒5%均等、炭化物粒1%疎ら
5層　10YR3/2　黒褐色土　ローム大粒、焼土中粒、炭化物粒
6層　10YR3/2　黒褐色土　下位にローム粒1%、上位に炭化物粒1%、焼土粒極少量
7層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小～大塊・粒3%、炭化物小～大塊・粒10%
8層　10YR5/3　鈍い黄褐色土　明黄褐色ローム50%混在
9層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒・炭化物粒3%均等、カマド崩落土混入
10層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%斑状、炭化物粒1%均等、3層よりローム質若干強い
11層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒極少量
12層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%斑状、炭化物粒1%均等、3層よりローム質若干強い
13層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%
14層　10YR4/6　褐 色 土　10YR3/4暗褐色土20%、ローム大塊10%、ローム小粒10%、貼床
15層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム30%、炭化物10%、ローム粒1%、炭化物粒1%、焼土粒1%
16層　10YR6/8　明黄褐色土　暗褐色土20%、ローム小粒～大塊15%、炭化物粒5%、掘り方埋土
BSI18Pit1(C－C′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　焼土塊3%均等、炭化物粒1%
BSI18Pit2(D－D′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%均等、炭化物粒1%疎ら
2層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒1%均等
3層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒1%均等、ローム中粒1%均等
4層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒3%斑点状、炭化物粒極少量
BSI18Pit3(E－E′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒3%上方に濃集、ローム質土が斑点状
BSI18Pit4(F－F′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒3%均等、炭化物粒極少量
BSI18Pit5(G－G′)
1層　10YR5/3　鈍い黄褐色土　ローム3%
BSI18Pit6(H－H′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒7%、炭化物粒1%、明黄褐色土極少量、焼土粒極少量
BSI18SB1PIT1(N－N′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒1%均等、ローム中粒極少量、炭化物粒1%均等
BSI18SB1PIT2(O－O′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒1%均等、ローム中粒極少量、炭化物粒1%均等
BSI18SB1PIT3(P－P′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%
3層　10YR4/4　褐 色 土　10YR3/2黒褐色土40%、ローム粒1%、炭化物粒1%

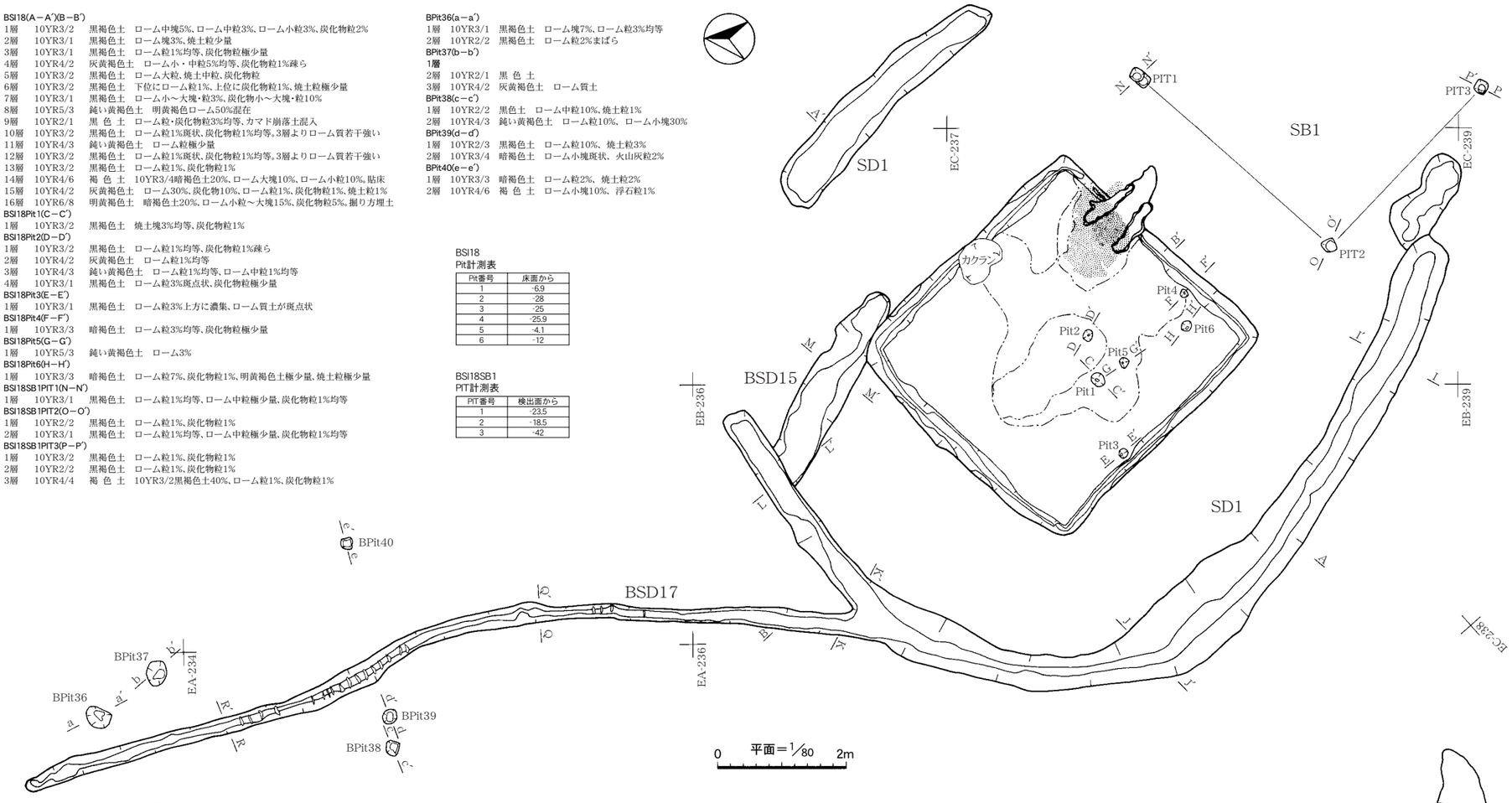
BPit36(a－a′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム塊7%、ローム粒3%均等
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%まばら
BPit37(b－b′)
1層
2層　10YR2/1　黒 色 土
3層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム質土
BPit38(c－c′)
1層　10YR2/2　黒色土　ローム中粒10%、焼土粒1%
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒10%、ローム小塊30%
BPit39(d－d′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒10%、焼土粒3%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム小塊斑状、火山灰粒2%
BPit40(e－e′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒2%、焼土粒2%
2層　10YR4/6　褐 色 土　ローム小塊10%、浮石粒1%

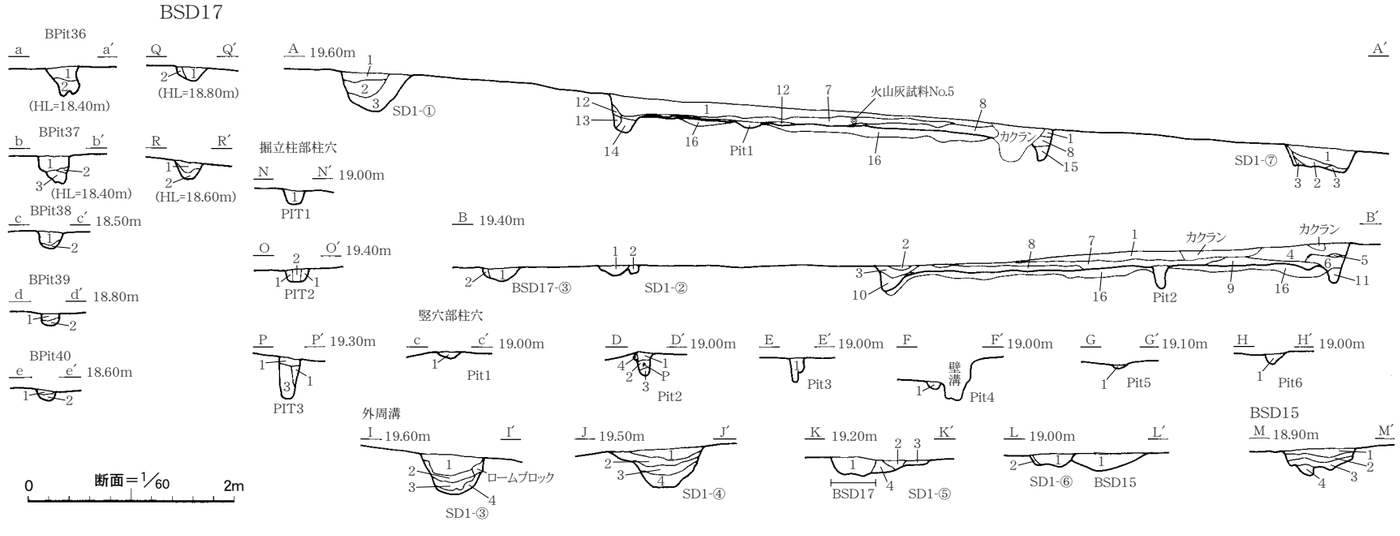
BSI18
Pit計測表

Pit番号	床面から
1	-6.9
2	-28
3	-25
4	-25.9
5	-4.1
6	-12

BSI18SB1
PIT計測表

PIT番号	検出面から
1	-23.5
2	-18.5
3	-42





BSI18SD1-①(A－A′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム大粒1%、ローム中粒1%、ローム小粒2%、炭化物大粒1%、炭化物小粒1%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム大粒5%、ローム中粒1%、ローム小粒2%、炭化物粒1%、焼土中粒1%、10YR5/4鈍い黄褐色土10%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム大粒5%、ローム中粒3%、ローム小粒2%、炭化物大粒1%
BSI18SD1-②(B－B′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物粒20%、10YR5/3鈍い黄褐色土10%、ローム粒3%、炭化物中粒2%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒1%
BSI18SD1-③(I－I′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒3%、浮石3%、焼土中粒1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒5%、焼土粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小塊10%
4層　10YR5/8　黄褐色土　炭化物粒2%
BSI18SD1-④(J－J′)
1層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム中塊2%、ローム小塊5%、ローム中粒2%、ローム小粒2%、炭化物中粒2%、焼土粒1%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム大塊10%、ローム小塊2%、ローム中粒2%、ローム小粒2%、炭化物中粒2%、焼土粒1%
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム中塊1%、ローム中粒1%、ローム小粒1%、炭化物粒2%、焼土粒1%、10YR5/2灰黄褐色土20%、黒色土30%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中塊2%、ローム中粒2%、ローム小粒1%、黒色土40%
BSI18SD1-⑤(K－K′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　10YR5/4鈍い黄褐色土10%、ローム粒5%、焼土粒1%、炭化物粒1%、BSD17堆積土
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒2%、焼土粒1%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒1%
4層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒1%
BSI18SD1-⑥(L－L′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒3%、焼土粒1%
2層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒1%
BSI18SD1-⑦(A－A′)
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒5%、ローム小塊3%、焼土粒3%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒5%、火山灰大粒1%
3層　10YR4/4　褐 色 土　ローム中粒斑状、焼土粒2%
BSD15(M－M′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒5%、炭化物小粒3%、白灰色小粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小粒7%、炭化物小粒2%、白灰色小粒2%、ローム中粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物小粒2%、ローム小塊1%、ローム小粒1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小粒40%、ローム中塊10%
BSD17-①(Q－Q′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒10%、焼土粒10%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム小塊全体的に斑状に混入。焼土粒3%
BSD17-②(R－R′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小塊30%、焼土粒1%
2層　10YR4/6　褐 色 土
BSD17-③(B－B′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム大粒5%、ローム小粒3%、炭化物大粒3%、炭化物小粒2%
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム粒2%、炭化物小粒2%、焼土粒1%

炭化物検出状況

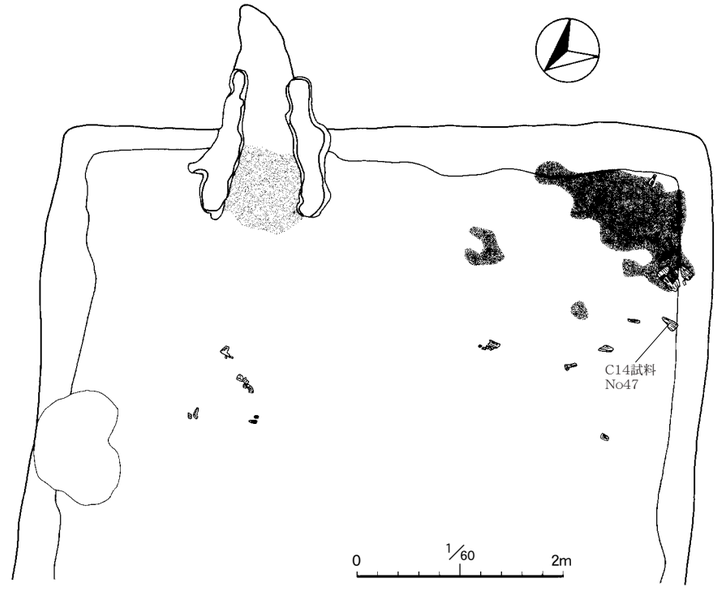
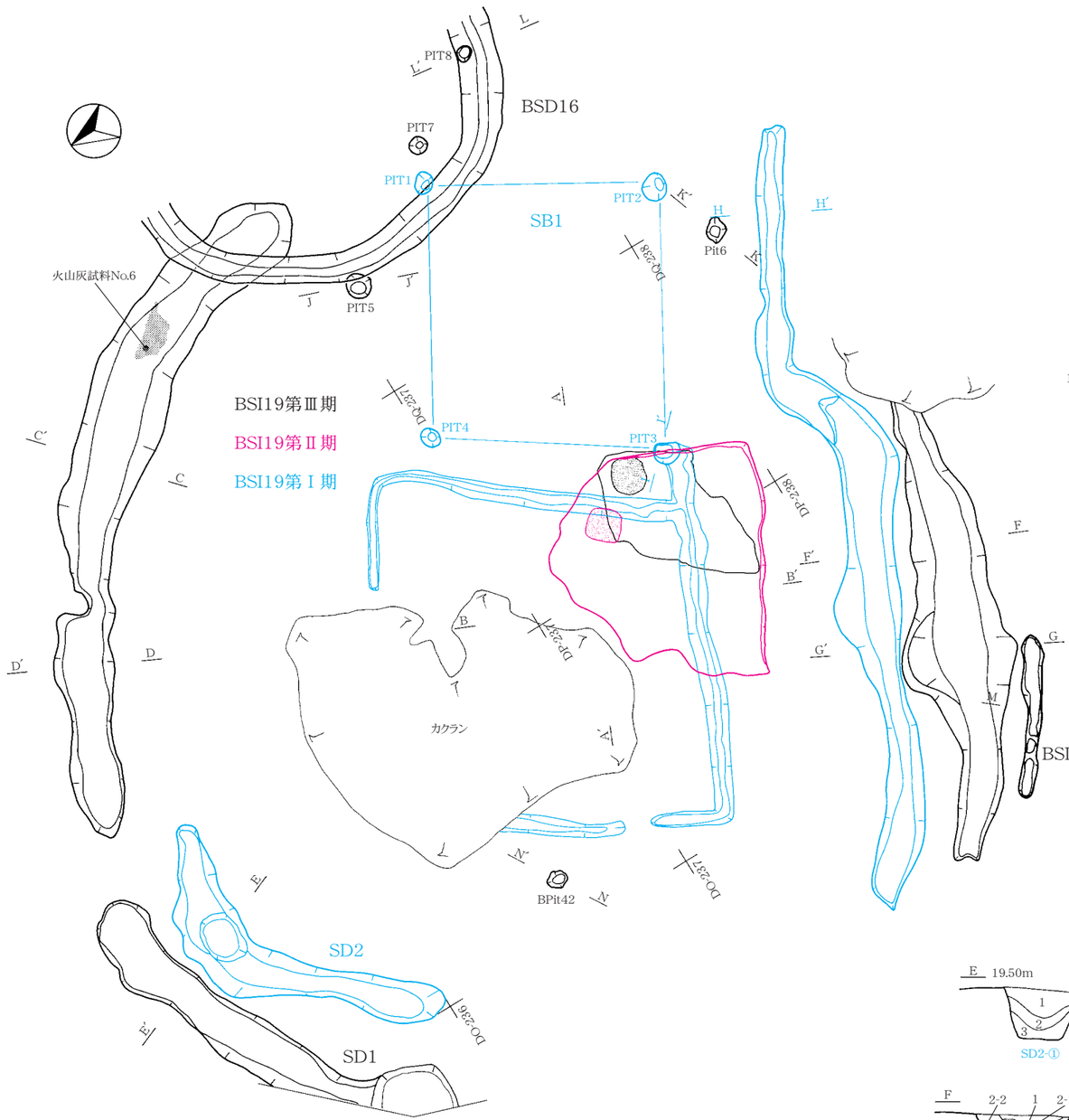
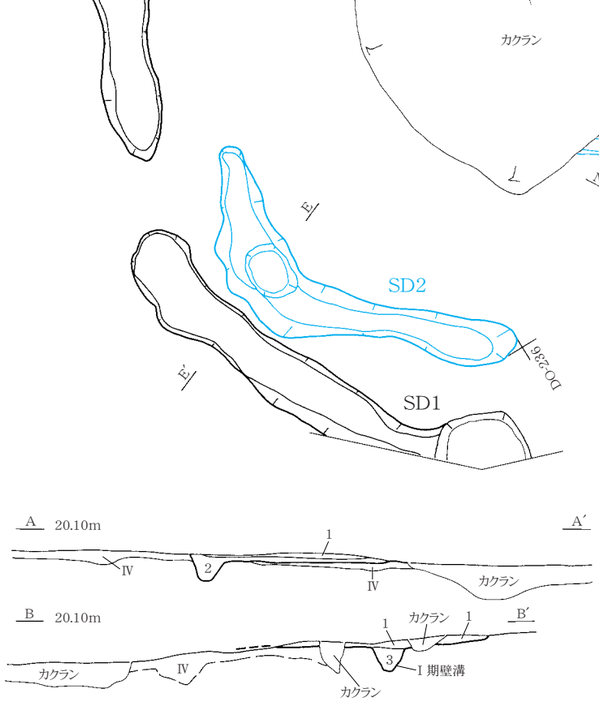
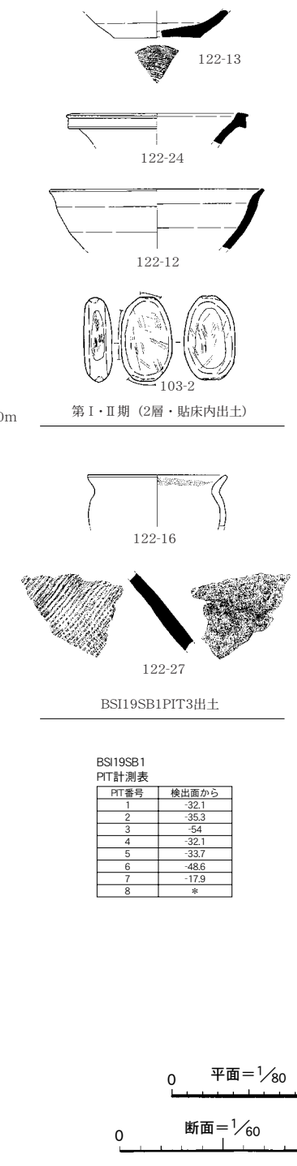


図52　第18号竪穴住居跡(２)、第15・17号溝跡

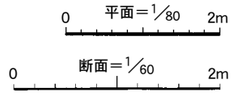






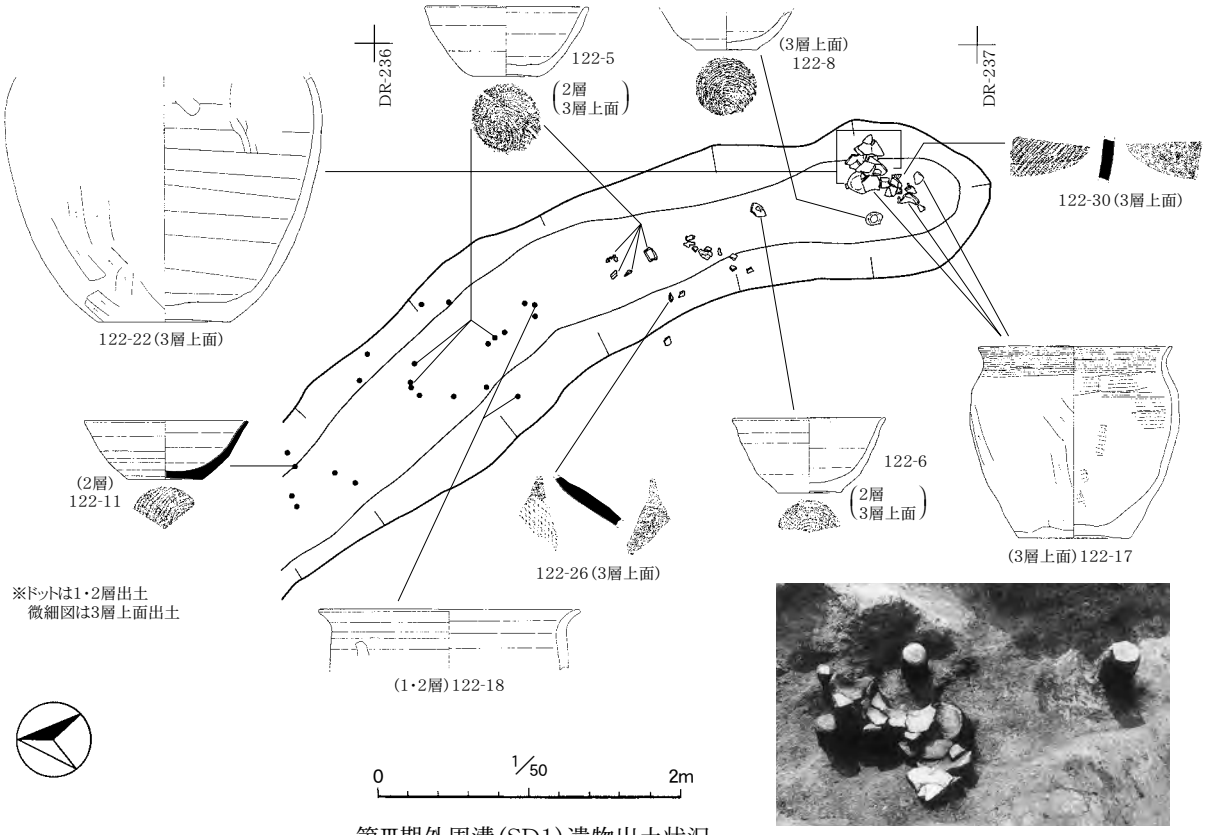
BSI19SB1
PIT計測表

PIT番号	検出面から
1	-32.1
2	-35.3
3	-54
4	-32.1
5	-33.7
6	-48.6
7	-17.9
8	*



BSI19(A－A′)(B－B′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物5%、ローム粒2%
2層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物7%、ローム粒3%、貼床もしくは旧住居の堆積土？
3層　10YR2/1　黒　色　土　炭化物極少量。旧住居の周溝堆積土
BSI19SD1-①(C－C′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒10%、炭化物3%、確認面にB-Tm火山灰
2層　10YR2/1　黒　色　土　炭化物極少量、壁際にローム塊(崩落土)
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム塊(φ30mm)10%、炭化物極少量
BSI19SD1-②(D－D′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物・焼土5%、締まり強い
BSI19SD1-③(E－E′)
1層　10YR4/6　褐　色　土　黒褐色土多量、ローム粒・炭化物5%
BSI19SD1-④(G－G′)
1-1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒20%、炭化物5%
1-2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒20%、炭化物5%
1-3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒3%、炭化物2%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物2%
3-1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒10%、粒径下部ほど大きい、炭化物5%
3-2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒10%、炭化物2%
BSI19SD1-⑤(F－F′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物3%、ローム粒5%、焼土極小量
2-1層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒3%、焼土極少量
2-2層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物2%、ローム粒極少量
2-3層　10YR2/1　黒　色　土　炭化物極少量
3-1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物2%、ローム粒極少量
3-2層　10YR2/3　黒褐色土　中位にローム粒ブロック
BSI19SD2-①(E－E′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒20%、炭化物7%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒15%、南側で粒径大きい、炭化物3%。1層より色調暗い
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒20%、壁際で粒径大きい、炭化物3%
BSI19SD2-②(G－G′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒20%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒10%
BSI19SD2-③(F－F′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物2%、ローム粒5%
2層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物2%
3層　10YR2/2　黒褐色土　褐色土15%、ローム粒10%
BSI19SD2-④(H－H′)
1層　10YR1.7/1　黒　色　土　黄褐色ローム40%
BSI19PIT5(J－J′)
1層　10YR2/1　黒　色　土　ローム粒40%、炭化物10%、焼土粒5%
BSI19PIT6(K－K′)
1層　10YR1.7/1　黒　色　土　ローム粒50%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒40%
BSD21(M－M′)
1層　10YR1.7/1　黒　色　土　黒褐色土30%、ローム粒・炭化物1%
BPit42(N－N′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒30%、褐色土20%

図53　第19号竪穴住居跡（1）、第21号溝跡



第Ⅲ期外周溝(SD1)遺物出土状況

SD1先端部(E→)

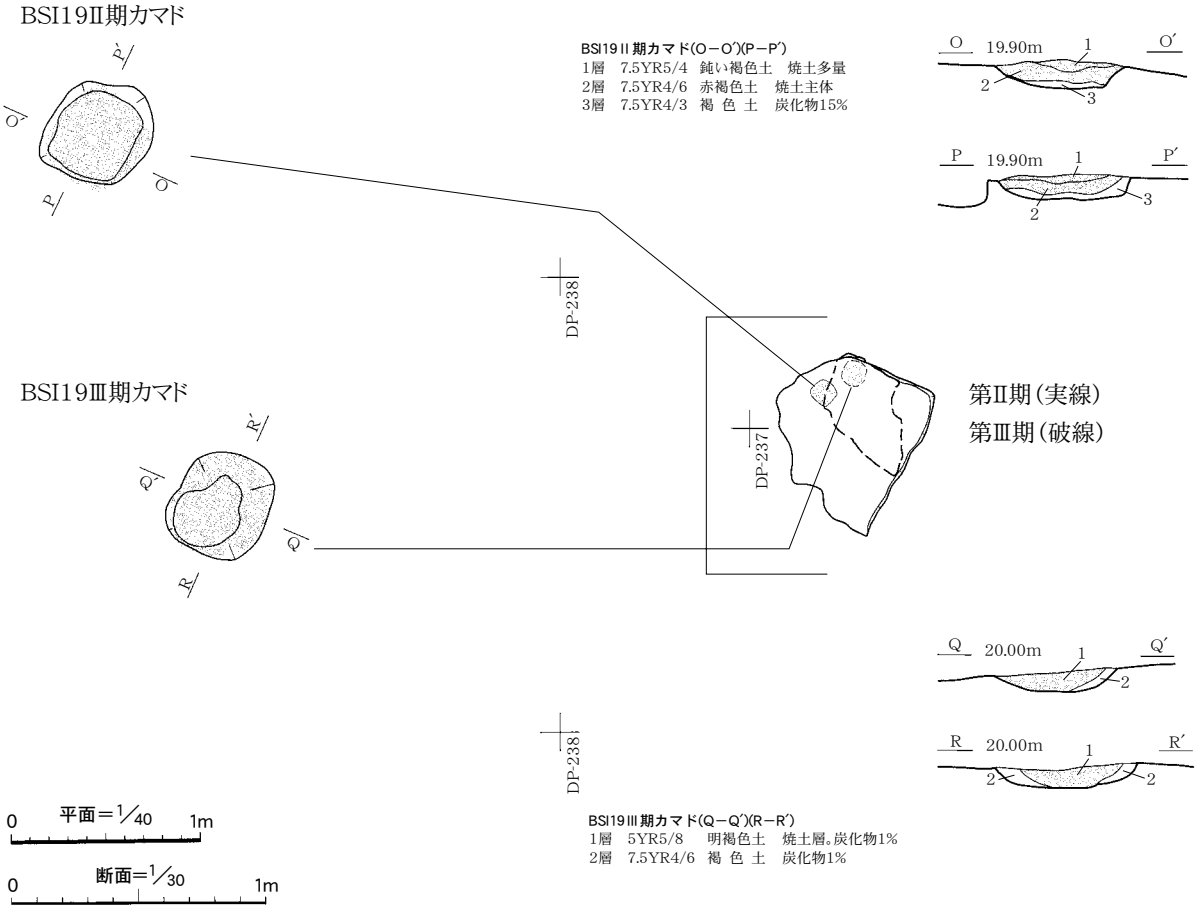
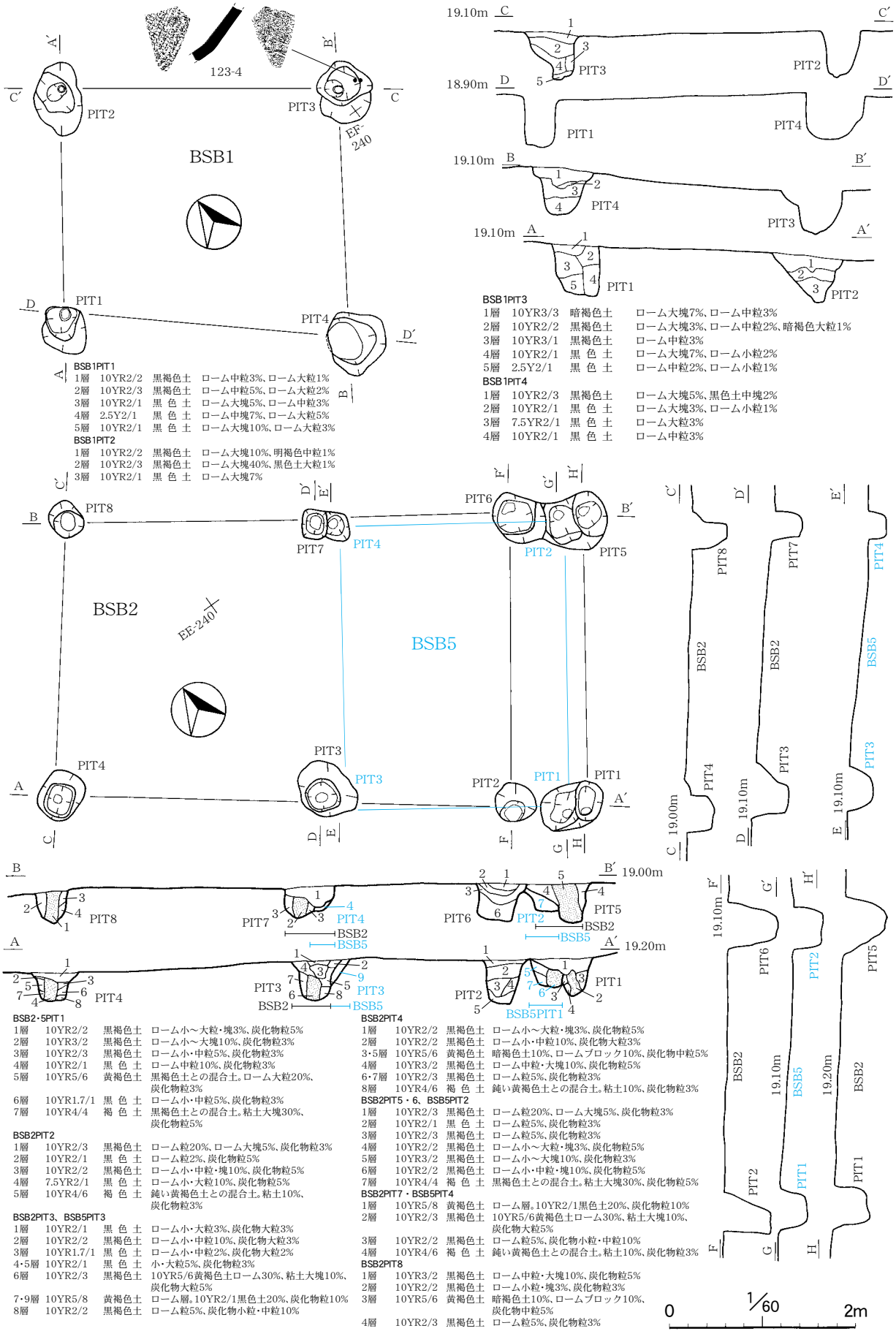


図 54　第 19 号竪穴住居跡(２)



BSB1PIT1

1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム中粒3%、ローム大粒1%
2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム中粒5%、ローム大粒2%
3層	10YR2/1	黒　色　土	ローム大塊5%、ローム中粒3%
4層	2.5Y2/1	黒　色　土	ローム中塊7%、ローム大塊5%
5層	10YR2/1	黒　色　土	ローム大塊10%、ローム大粒3%

BSB1PIT2

1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム大塊10%、明褐色中粒1%
2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム大塊40%、黒色土大粒1%
3層	10YR2/1	黒　色　土	ローム大塊7%

BSB1PIT3

1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム大塊7%、ローム中粒3%
2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム大塊3%、ローム中粒2%、暗褐色大粒1%
3層	10YR3/1	黒褐色土	ローム中粒3%
4層	10YR2/1	黒　色　土	ローム大塊7%、ローム小粒2%
5層	2.5Y2/1	黒　色　土	ローム中粒2%、ローム小粒1%

BSB1PIT4

1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム大塊5%、黒色土中塊2%
2層	10YR2/1	黒　色　土	ローム大塊3%、ローム小粒1%
3層	7.5YR2/1	黒　色　土	ローム大粒3%
4層	10YR2/1	黒　色　土	ローム中粒3%

BSB2・5PIT1

1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム小～大粒・塊3%、炭化物粒5%
2層	10YR3/2	黒褐色土	ローム小～大塊10%、炭化物粒3%
3層	10YR2/3	黒褐色土	ローム小・中粒5%、炭化物粒3%
4層	10YR2/1	黒　色　土	ローム中粒10%、炭化物粒3%
5層	10YR5/6	黄褐色土	黒褐色土との混合土。ローム大粒20%、炭化物粒3%
6層	10YR1.7/1	黒　色　土	ローム小・中粒5%、炭化物粒3%
7層	10YR4/4	褐　色　土	黒褐色土との混合土。粘土大塊30%、炭化物粒5%

BSB2PIT2

1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒20%、ローム大塊5%、炭化物粒3%
2層	10YR2/1	黒　色　土	ローム粒2%、炭化物粒5%
3層	10YR2/2	黒褐色土	ローム小・中粒・塊10%、炭化物粒5%
4層	7.5YR2/1	黒　色　土	ローム小・大粒10%、炭化物粒5%
5層	10YR4/6	褐　色　土	鈍い黄褐色土との混合土。粘土10%、炭化物粒3%

BSB2PIT3、BSB5PIT3

1層	10YR2/1	黒　色　土	ローム小・大粒3%、炭化物大粒3%
2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム小・中粒10%、炭化物大粒3%
3層	10YR1.7/1	黒　色　土	ローム小・中粒2%、炭化物大粒2%
4・5層	10YR2/1	黒　色　土	小・大粒5%、炭化物粒3%
6層	10YR2/3	黒褐色土	10YR5/6黄褐色土ローム30%、粘土大塊10%、炭化物大粒5%
7・9層	10YR5/8	黄褐色土	ローム層。10YR2/1黒色土20%、炭化物粒10%
8層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒5%、炭化物小粒・中粒10%

BSB2PIT4

1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム小～大粒・塊3%、炭化物粒5%
2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム小・中粒10%、炭化物大粒3%
3・5層	10YR5/6	黄褐色土	暗褐色土10%、ロームブロック10%、炭化物中粒5%
4層	10YR3/2	黒褐色土	ローム中粒・大塊10%、炭化物粒5%
6・7層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒5%、炭化物粒3%
8層	10YR4/6	褐　色　土	鈍い黄褐色土との混合土。粘土10%、炭化物粒3%

BSB2PIT5・6、BSB5PIT2

1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒20%、ローム大塊5%、炭化物粒3%
2層	10YR2/1	黒　色　土	ローム粒5%、炭化物粒3%
3層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒5%、炭化物粒3%
4層	10YR2/2	黒褐色土	ローム小～大粒・塊3%、炭化物粒5%
5層	10YR3/2	黒褐色土	ローム小～大塊10%、炭化物粒3%
6層	10YR2/2	黒褐色土	ローム小・中粒・塊10%、炭化物粒5%
7層	10YR4/4	褐　色　土	黒褐色土との混合土。粘土大塊30%、炭化物粒5%

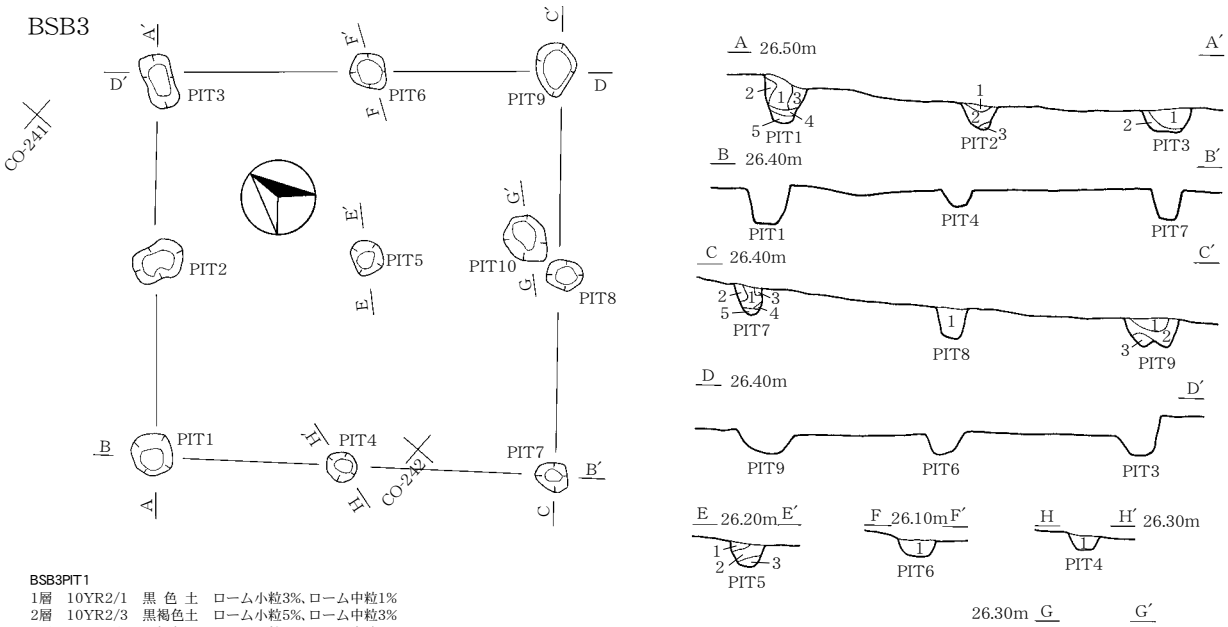
BSB2PIT7・BSB5PIT4

1層	10YR5/8	黄褐色土	ローム層。10YR2/1黒色土20%、炭化物粒10%
2層	10YR2/3	黒褐色土	10YR5/6黄褐色土ローム30%、粘土大塊10%、炭化物大粒5%
3層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒5%、炭化物小粒・中粒10%
4層	10YR4/6	褐　色　土	鈍い黄褐色土との混合土。粘土10%、炭化物粒3%

BSB2PIT8

1層	10YR3/2	黒褐色土	ローム中粒・大塊10%、炭化物粒5%
2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム小粒・塊3%、炭化物粒3%
3層	10YR5/6	黄褐色土	暗褐色土10%、ロームブロック10%、炭化物中粒5%
4層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒5%、炭化物粒3%

図 55　掘立柱建物跡（1）



BSB3PIT1
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒3%、ローム中粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小粒5%、ローム中粒3%
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒3%、ローム中塊1%
4層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小粒2%、ローム中粒5%
5層　10YR3/4　暗褐色土　ローム小粒3%、ローム大粒5%

BSB3PIT2
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小粒3%、ローム大粒2%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒3%、ローム中粒5%
3層　10YR3/4　暗褐色土　ローム小粒2%、ローム大粒10%

BSB3PIT3
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒5%、ローム大粒3%
2層　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土大塊20%、ローム大塊10%

BSB3PIT4
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム大粒7%、炭化物小粒1%

BSB3PIT5
1層　10YR4/6　褐 色 土　ローム中粒2%、黒褐色土大粒2%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒3%、ローム大粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中塊2%、ローム大粒5%

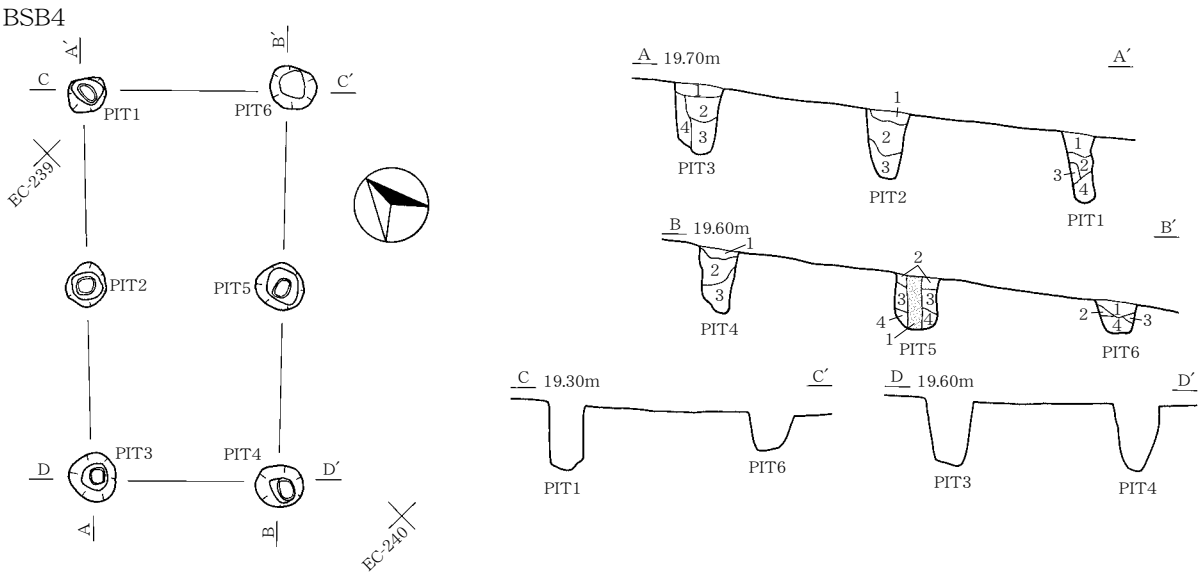
BSB3PIT6
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小粒3%、ローム中塊5%

BSB3PIT7
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒3%、ローム中粒1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　黒色土小粒1%、ローム大粒5%
3層　10YR3/4　暗褐色土　ローム大粒5%、ローム中粒2%
4層　10YR3/3　暗褐色土　ローム大粒7%、炭化物小粒1%
5層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒3%、ローム中粒2%

BSB3PIT8
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒5%、ローム中粒2%

BSB3PIT9
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒2%、ローム小粒5%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒2%、ローム大粒5%
3層　10YR3/4　暗褐色土　ローム小粒3%、ローム中粒10%

BSB3PIT10
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小粒2%、ローム中粒1%



BSB4PIT1
1層　10YR4/1　褐灰色土　ローム塊5%斑状、ローム粒3%、炭化物粒1%
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒1%
3層　10YR5/4　鈍い黄褐色土
4層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%

BSB4PIT2
1層　10YR3/1　黒褐色土　炭化物粒1%、ローム粒極少量
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム塊3%斑状、ローム粒3%、炭化物粒1%
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%均等

BSB4PIT3
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小粒2%均等
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小塊2%、ローム小粒1%、黒色土中塊3%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒3%
4層　10YR3/3　暗褐色土　ローム大塊2%、ローム大粒5%

BSB4PIT4
1層　10YR3/1　黒褐色土　炭化物粒1%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒1%、ローム中粒3%、炭化物粒1%。土器多量
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒3%

BSB4PIT5
1層　10YR2/3　黒褐色土　明褐色ローム中粒3%
2層　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色ローム中粒3%、黄褐色ローム大塊10%
3層　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色ローム小粒1%、黄褐色ローム大粒7%
4層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色ローム小粒3%、黄褐色ローム中粒1%、焼土小粒1%

BSB4PIT6
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒3%均等、炭化物粒1%
2層　10YR1/1　黒 色 土
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%均等、炭化物粒極少量
4層　10YR8/6　黄橙色土　ロームブロック

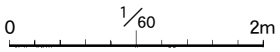


図 56　掘立柱建物跡（２）

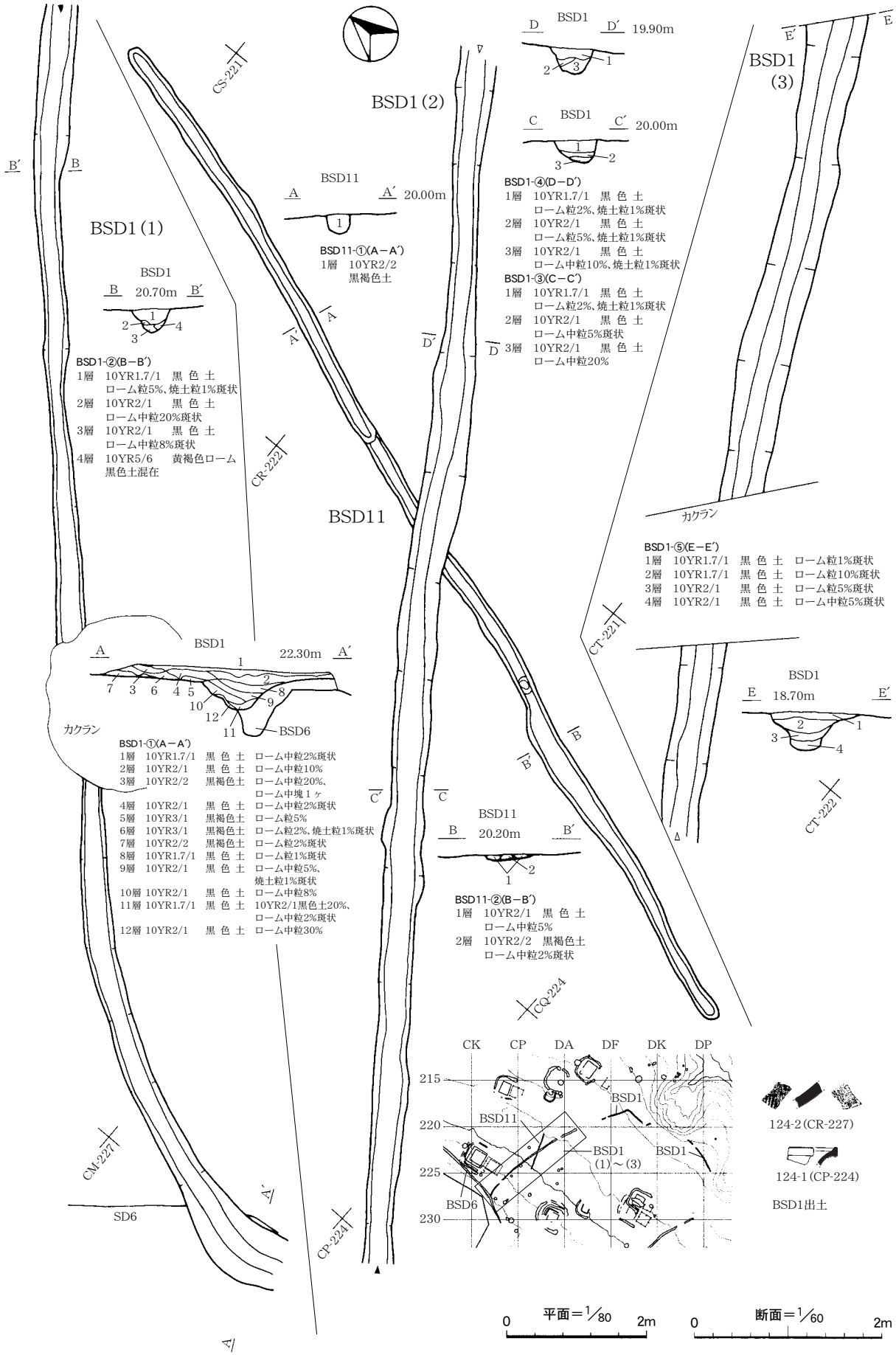

BSD1 (1)
BSD1 (2)
BSD1 (3)
BSD11
CS-221
CR-222
CM-227
CP-224
CQ-224
CT-221
CT-222
BSD1
B 20.70m B′
BSD1-②(B－B′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土 ローム粒5%、焼土粒1%斑状
2層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒20%斑状
3層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒8%斑状
4層 10YR5/6 黄褐色ローム 黒色土混在
BSD11
A A′ 20.00m
BSD11-①(A－A′)
1層 10YR2/2 黒褐色土
D BSD1 D′ 19.90m
C BSD1 C′ 20.00m
BSD1-④(D－D′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土 ローム粒2%、焼土粒1%斑状
2層 10YR2/1 黒 色 土 ローム粒5%、焼土粒1%斑状
3層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒10%、焼土粒1%斑状
BSD1-③(C－C′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土 ローム粒2%、焼土粒1%斑状
2層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒5%斑状
3層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒20%
カクラン
BSD1-⑤(E－E′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土 ローム粒1%斑状
2層 10YR1.7/1 黒 色 土 ローム粒10%斑状
3層 10YR2/1 黒 色 土 ローム粒5%斑状
4層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒5%斑状
BSD1
E 18.70m E′
A BSD1 22.30m A′
BSD6
BSD1-①(A－A′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土 ローム中粒2%斑状
2層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒10%
3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒20%、ローム中塊１ヶ
4層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒2%斑状
5層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒5%
6層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒2%、焼土粒1%斑状
7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒2%斑状
8層 10YR1.7/1 黒 色 土 ローム粒1%斑状
9層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒5%、焼土粒1%斑状
10層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒8%
11層 10YR1.7/1 黒 色 土 10YR2/1黒色土20%、ローム中粒2%斑状
12層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒30%
BSD11
B 20.20m B′
BSD11-②(B－B′)
1層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒5%
2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒2%斑状
SD6
CK CP DA DF DK DP
215
220
225
230
BSD1
BSD11
BSD1 (1)～(3)
BSD6
124-2 (CR-227)
124-1 (CP-224)
BSD1出土
0 平面＝1/80 2m
0 断面＝1/60 2m

図 57　溝跡（1）

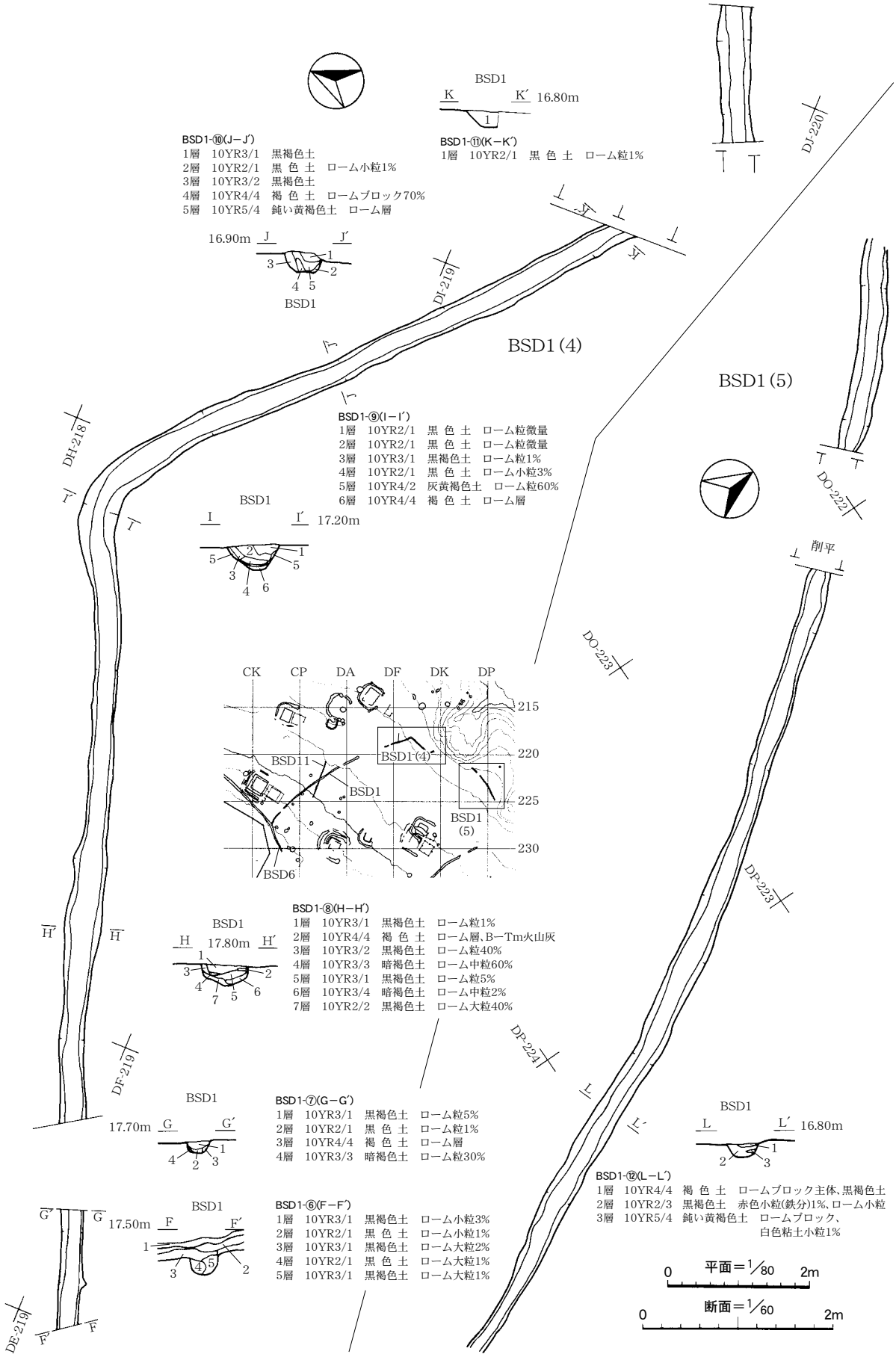

BSD1
K　K′ 16.80m
1
BSD1-⑪(K－K′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%
BSD1-⑩(J－J′)
1層　10YR3/1　黒褐色土
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒1%
3層　10YR3/2　黒褐色土
4層　10YR4/4　褐 色 土　ロームブロック70%
5層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　ローム層
16.90m　J　J′
BSD1
DJ-220
DJ-219
BSD1(4)
BSD1(5)
BSD1-⑨(I－I′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒微量
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒微量
3層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒1%
4層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒3%
5層　10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒60%
6層　10YR4/4　褐 色 土　ローム層
BSD1
I　I′ 17.20m
DH-218
DO-222
削平
DO-223
CK　CP　DA　DF　DK　DP
215
220
225
230
BSD11
BSD1(4)
BSD1
BSD1
(5)
BSD6
DP-223
BSD1-⑧(H－H′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒1%
2層　10YR4/4　褐 色 土　ローム層、B－Tm火山灰
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒40%
4層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒60%
5層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒5%
6層　10YR3/4　暗褐色土　ローム中粒2%
7層　10YR2/2　黒褐色土　ローム大粒40%
BSD1
H　17.80m　H′
DP-224
DF-219
BSD1
17.70m　G　G′
BSD1-⑦(G－G′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒5%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%
3層　10YR4/4　褐 色 土　ローム層
4層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒30%
BSD1
L　L′ 16.80m
BSD1-⑫(L－L′)
1層　10YR4/4　褐 色 土　ロームブロック主体、黒褐色土
2層　10YR2/3　黒褐色土　赤色小粒(鉄分)1%、ローム小粒
3層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　ロームブロック、
白色粘土小粒1%
BSD1
17.50m　F　F′
BSD1-⑥(F－F′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小粒3%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒1%
3層　10YR3/1　黒褐色土　ローム大粒2%
4層　10YR2/1　黒 色 土　ローム大粒1%
5層　10YR3/1　黒褐色土　ローム大粒1%
DE-219
平面＝1/80
断面＝1/60
0
2m

図 58　溝跡（２）

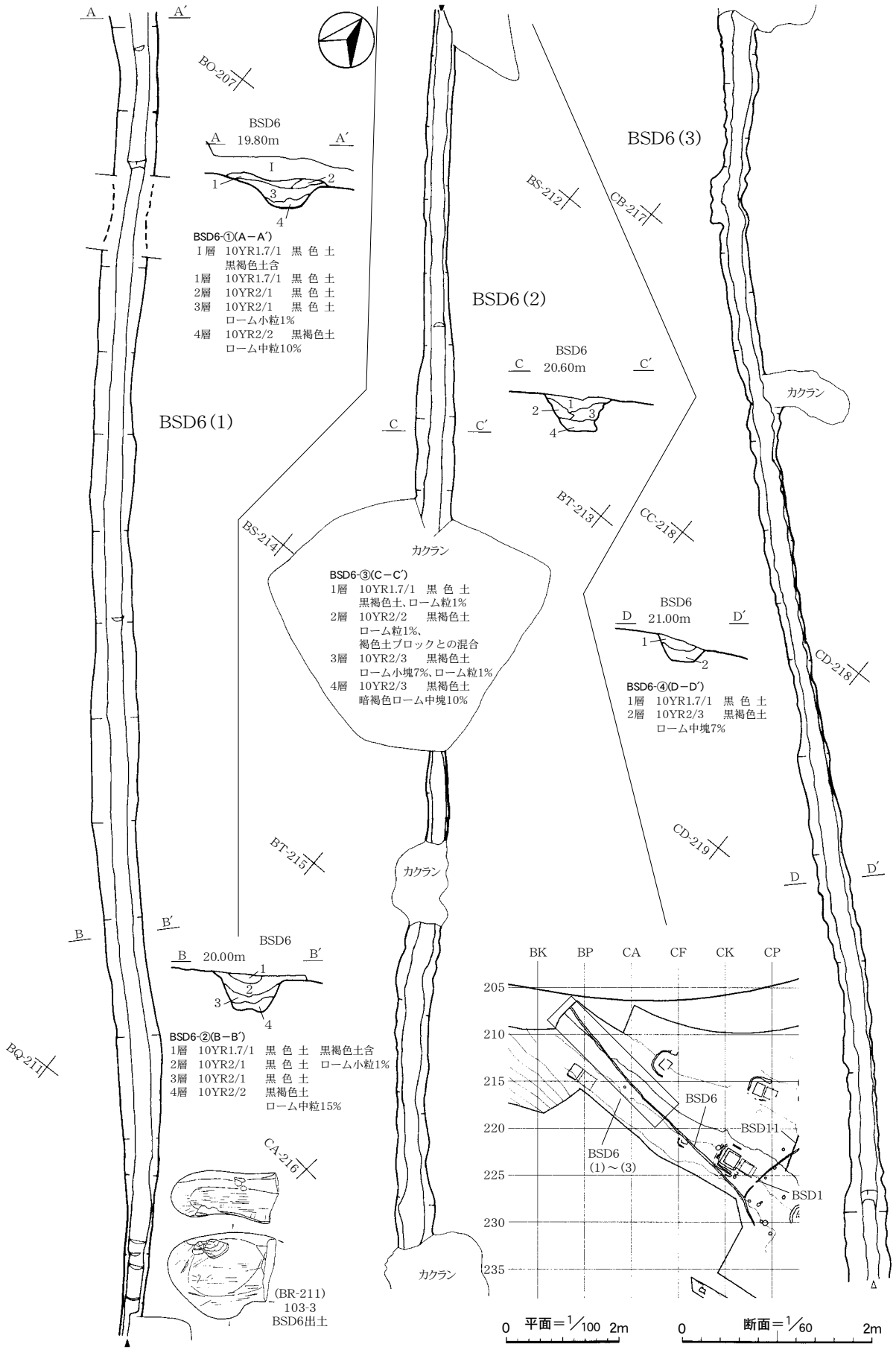

BSD6 (1)
BSD6 (2)
BSD6 (3)
BO-207
BS-212
CB-217
BS-214
BT-213
CC-218
BT-215
CD-219
CD-218
BQ-211
CA-216
カクラン
BSD6
A 19.80m A′
BSD6-①(A－A′)
Ⅰ層 10YR1.7/1 黒 色 土
黒褐色土含
1層 10YR1.7/1 黒 色 土
2層 10YR2/1 黒 色 土
3層 10YR2/1 黒 色 土
ローム小粒1%
4層 10YR2/2 黒褐色土
ローム中粒10%
BSD6
C 20.60m C′
BSD6-③(C－C′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土
黒褐色土、ローム粒1%
2層 10YR2/2 黒褐色土
ローム粒1%、
褐色土ブロックとの混合
3層 10YR2/3 黒褐色土
ローム小塊7%、ローム粒1%
4層 10YR2/3 黒褐色土
暗褐色ローム中塊10%
BSD6
D 21.00m D′
BSD6-④(D－D′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土
2層 10YR2/3 黒褐色土
ローム中塊7%
BSD6
B 20.00m B′
BSD6-②(B－B′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土 黒褐色土含
2層 10YR2/1 黒 色 土 ローム小粒1%
3層 10YR2/1 黒 色 土
4層 10YR2/2 黒褐色土
ローム中粒15%
(BR-211)
103-3
BSD6出土
BK BP CA CF CK CP
205
210
215
220
225
230
235
BSD6
BSD11
BSD6
(1)～(3)
BSD1
0 平面＝1/100 2m
0 断面＝1/60 2m

図 59　溝跡（3）

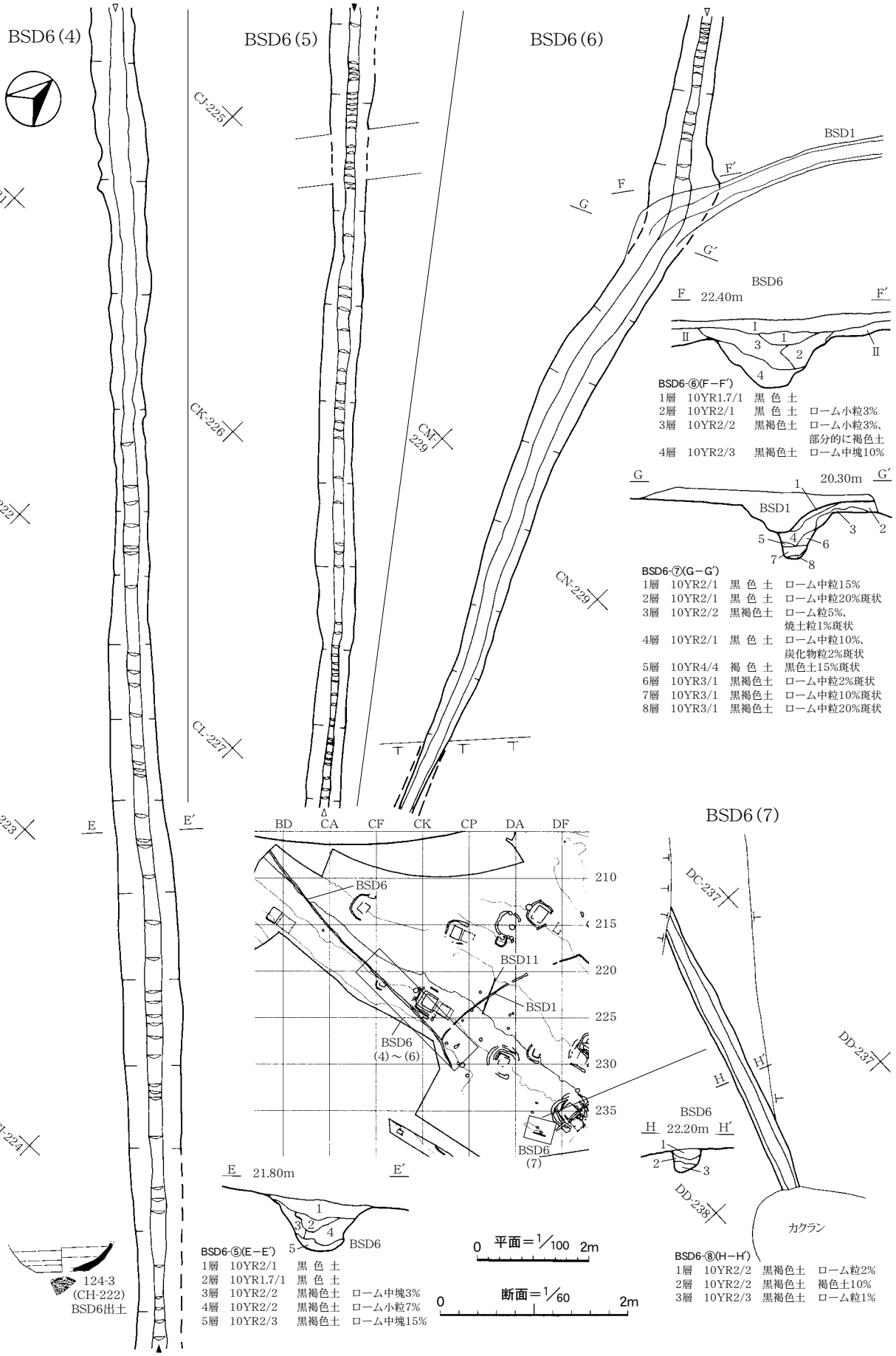

BSD6(4)
BSD6(5)
BSD6(6)
BSD6(7)
CJ-225
CF-231
CK-226
CG-222
CL-227
CH-223
CI-224
CM-229
CN-229
DC-237
DD-237
DD-238
BSD1
BSD6
BSD11
BSD6 (4)～(6)
BSD6 (7)
BD CA CF CK CP DA DF
210
215
220
225
230
235
E 21.80m E′
F 22.40m F′
G 20.30m G′
H 22.20m H′
BSD6-⑤(E－E′)
1層 10YR2/1 黒 色 土
2層 10YR1.7/1 黒 色 土
3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中塊3%
4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム小粒7%
5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム中塊15%
BSD6-⑥(F－F′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土
2層 10YR2/1 黒 色 土 ローム小粒3%
3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム小粒3%、部分的に褐色土
4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム中塊10%
BSD6-⑦(G－G′)
1層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒15%
2層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒20%斑状
3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒5%、焼土粒1%斑状
4層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒10%、炭化物粒2%斑状
5層 10YR4/4 褐 色 土 黒色土15%斑状
6層 10YR3/1 黒褐色土 ローム中粒2%斑状
7層 10YR3/1 黒褐色土 ローム中粒10%斑状
8層 10YR3/1 黒褐色土 ローム中粒20%斑状
BSD6-⑧(H－H′)
1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒2%
2層 10YR2/2 黒褐色土 褐色土10%
3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒1%
カクラン
124-3
(CH-222)
BSD6出土
0 平面＝1/100 2m
0 断面＝1/60 2m

図 60　溝跡（４）

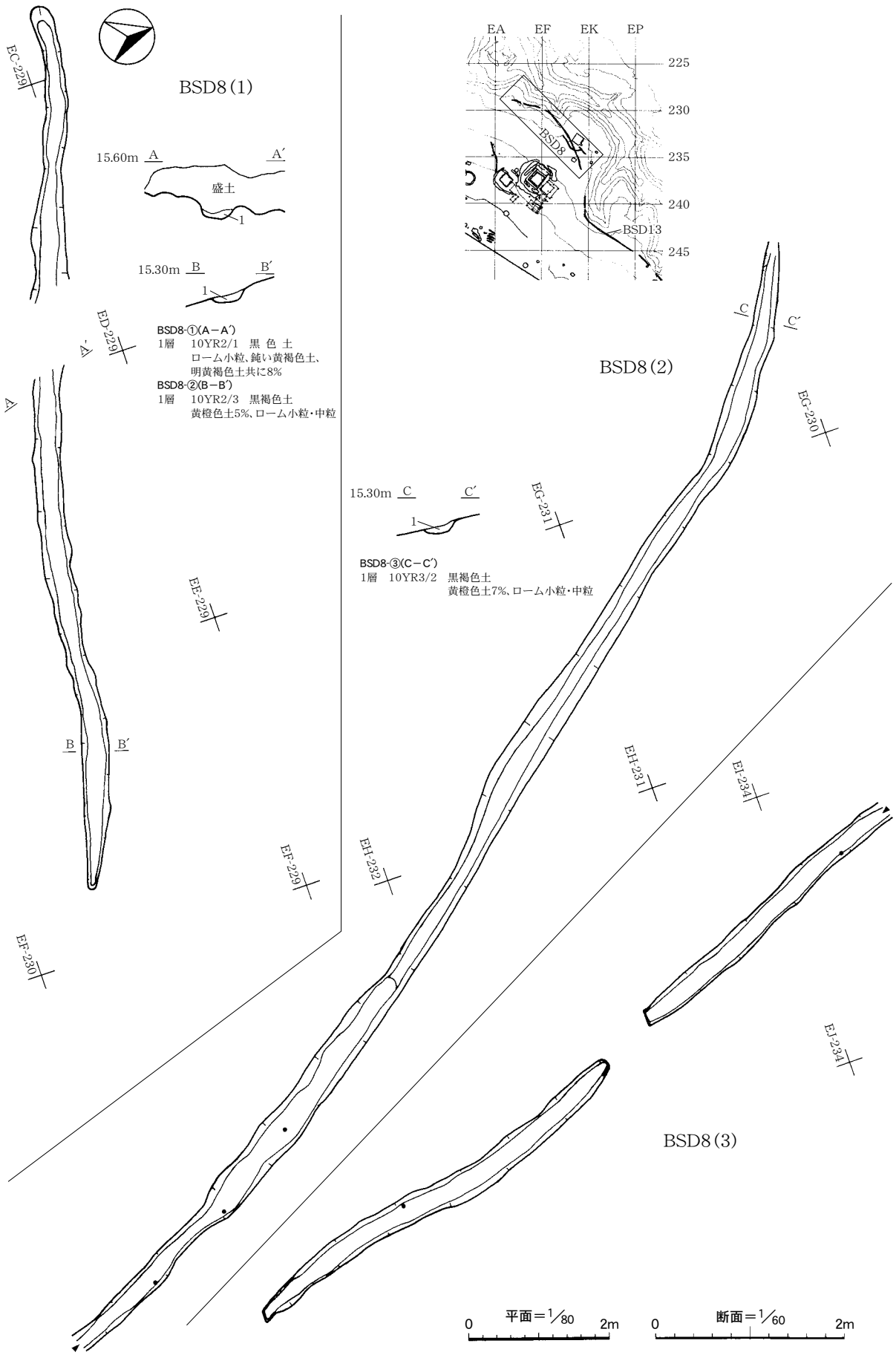

BSD8(1)
BSD8(2)
BSD8(3)
EA
EF
EK
EP
225
230
235
240
245
BSD8
BSD13
EC-229
ED-229
EE-229
EF-229
EF-230
EG-230
EG-231
EH-231
EH-232
EI-234
EJ-234
15.60m A A′
盛土
1
15.30m B B′
1
BSD8-①(A－A′)
1層　10YR2/1　黒 色 土
ローム小粒、鈍い黄褐色土、
明黄褐色土共に8%
BSD8-②(B－B′)
1層　10YR2/3　黒褐色土
黄橙色土5%、ローム小粒・中粒
15.30m C C′
1
BSD8-③(C－C′)
1層　10YR3/2　黒褐色土
黄橙色土7%、ローム小粒・中粒
平面＝1/80
0
2m
断面＝1/60
0
2m

図 61　溝跡（5）

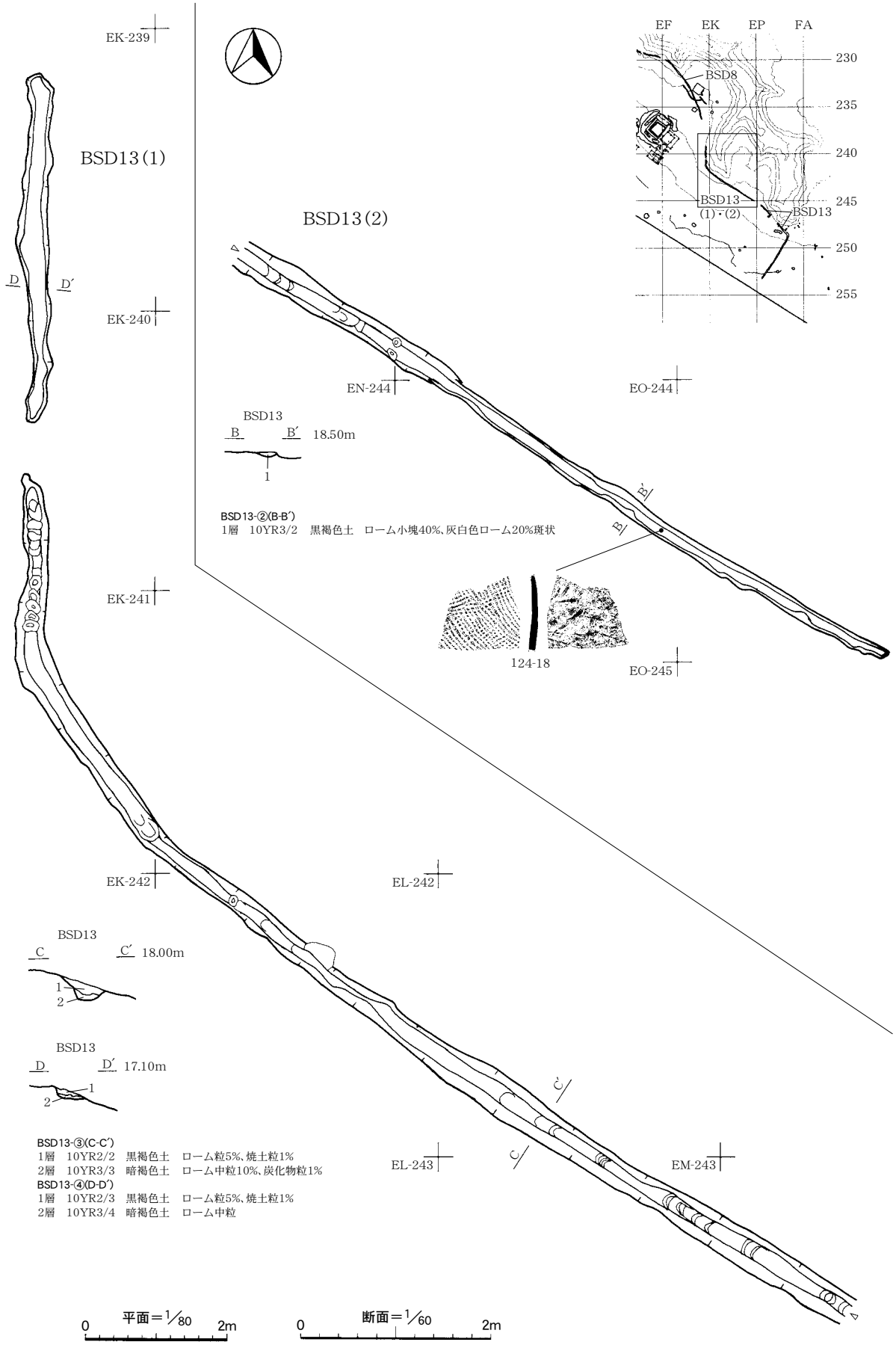

EK-239
BSD13(1)
D
D′
EK-240
EK-241
EK-242
EL-242
EL-243
EM-243
BSD13(2)
EN-244
EO-244
EO-245
BSD13
B
B′ 18.50m
1
BSD13-②(B-B′)
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小塊40%、灰白色ローム20%斑状
124-18
BSD13
C
C′ 18.00m
1
2
BSD13
D
D′ 17.10m
1
2
BSD13-③(C-C′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、焼土粒1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒10%、炭化物粒1%
BSD13-④(D-D′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒5%、焼土粒1%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム中粒
EF
EK
EP
FA
230
235
240
245
250
255
BSD8
BSD13
(1)・(2)
BSD13
平面＝1/80
0
2m
断面＝1/60
0
2m

図 62　溝跡（６）

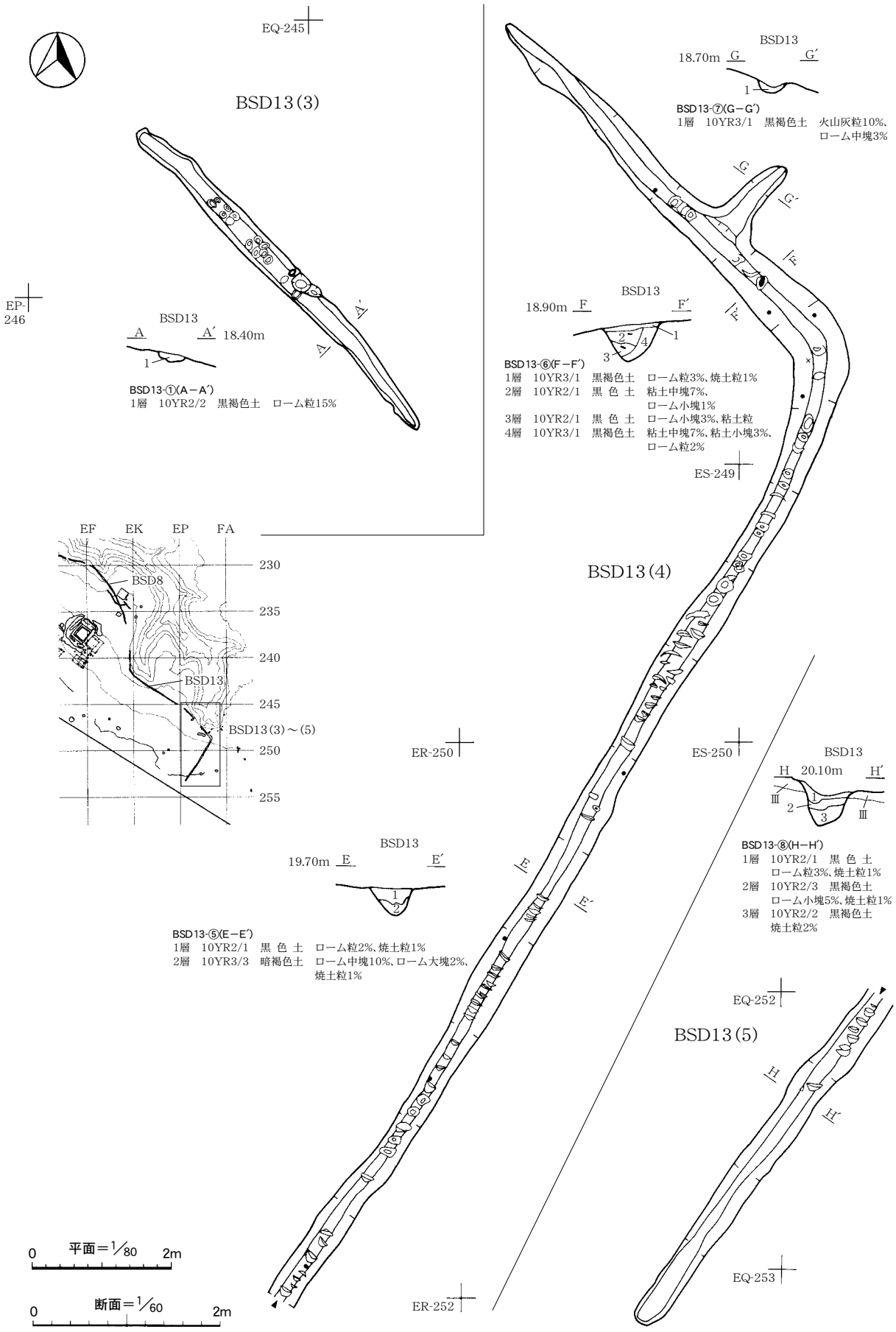

EQ-245
BSD13(3)
EP-246
BSD13
A　A′　18.40m
1
BSD13-①(A－A′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒15%
EF　EK　EP　FA
230
235
240
245
250
255
BSD8
BSD13
BSD13(3)～(5)
BSD13
18.70m　G　G′
1
BSD13-⑦(G－G′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　火山灰粒10%、ローム中塊3%
BSD13
18.90m　F　F′
BSD13-⑥(F－F′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒3%、焼土粒1%
2層　10YR2/1　黒色土　粘土中塊7%、ローム小塊1%
3層　10YR2/1　黒色土　ローム小塊3%、粘土粒
4層　10YR3/1　黒褐色土　粘土中塊7%、粘土小塊3%、ローム粒2%
ES-249
BSD13(4)
ER-250
ES-250
BSD13
19.70m　E　E′
BSD13-⑤(E－E′)
1層　10YR2/1　黒色土　ローム粒2%、焼土粒1%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中塊10%、ローム大塊2%、焼土粒1%
BSD13
H　20.10m　H′
BSD13-⑧(H－H′)
1層　10YR2/1　黒色土　ローム粒3%、焼土粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小塊5%、焼土粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒2%
EQ-252
BSD13(5)
EQ-253
ER-252
0　平面＝1/80　2m
0　断面＝1/60　2m

図 63　溝跡（7）

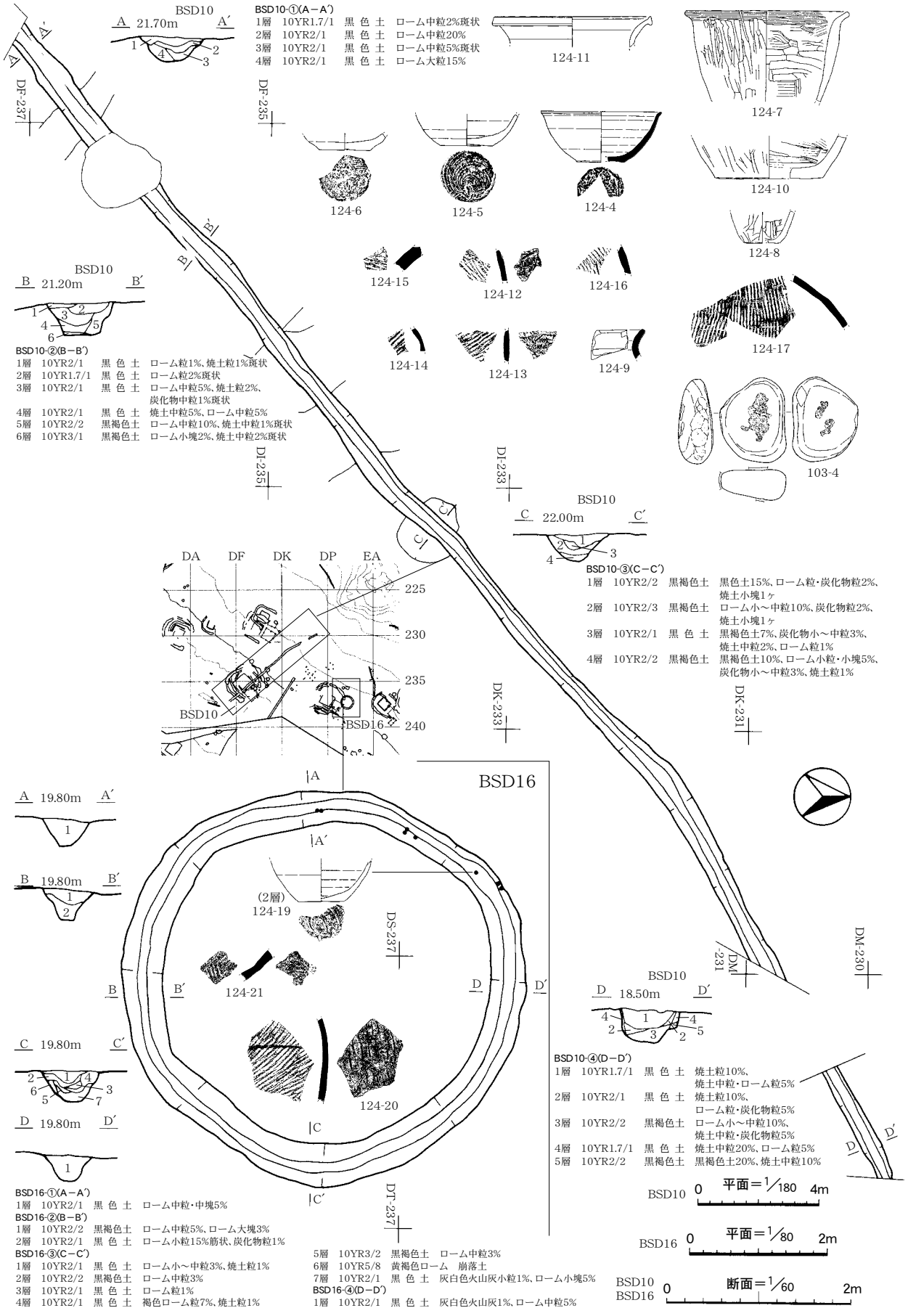

BSD10
A 21.70m A′
BSD10-①(A－A′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土 ローム中粒2%斑状
2層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒20%
3層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒5%斑状
4層 10YR2/1 黒 色 土 ローム大粒15%
124-11
124-7
124-10
124-8
124-6
124-5
124-4
124-15
124-12
124-16
124-17
124-14
124-13
124-9
103-4
DF-237
DF-235
DF-233
DK-233
DK-231
DM-230
DM-231
DS-237
DT-237
BSD10
B 21.20m B′
BSD10-②(B－B′)
1層 10YR2/1 黒 色 土 ローム粒1%、焼土粒1%斑状
2層 10YR1.7/1 黒 色 土 ローム粒2%斑状
3層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒5%、焼土粒2%、炭化物中粒1%斑状
4層 10YR2/1 黒 色 土 焼土中粒5%、ローム中粒5%
5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒10%、焼土中粒1%斑状
6層 10YR3/1 黒褐色土 ローム小塊2%、焼土中粒2%斑状
BSD10
C 22.00m C′
BSD10-③(C－C′)
1層 10YR2/2 黒褐色土 黒色土15%、ローム粒・炭化物粒2%、焼土小塊1ヶ
2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム小～中粒10%、炭化物粒2%、焼土小塊1ヶ
3層 10YR2/1 黒 色 土 黒褐色土7%、炭化物小～中粒3%、焼土中粒2%、ローム粒1%
4層 10YR2/2 黒褐色土 黒褐色土10%、ローム小粒・小塊5%、炭化物小～中粒3%、焼土粒1%
DA DF DK DP EA
225
230
235
240
BSD10
BSD16
BSD16
A 19.80m A′
B 19.80m B′
C 19.80m C′
D 19.80m D′
(2層)
124-19
124-21
124-20
BSD10
D 18.50m D′
BSD10-④(D－D′)
1層 10YR1.7/1 黒 色 土 焼土粒10%、焼土中粒・ローム粒5%
2層 10YR2/1 黒 色 土 焼土粒10%、ローム粒・炭化物粒5%
3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム小～中粒10%、焼土中粒・炭化物粒5%
4層 10YR1.7/1 黒 色 土 焼土中粒20%、ローム粒5%
5層 10YR2/2 黒褐色土 黒褐色土20%、焼土中粒10%
BSD16-①(A－A′)
1層 10YR2/1 黒 色 土 ローム中粒・中塊5%
BSD16-②(B－B′)
1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒5%、ローム大塊3%
2層 10YR2/1 黒 色 土 ローム小粒15%筋状、炭化物粒1%
BSD16-③(C－C′)
1層 10YR2/1 黒 色 土 ローム小～中粒3%、焼土粒1%
2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム中粒3%
3層 10YR2/1 黒 色 土 ローム粒1%
4層 10YR2/1 黒 色 土 褐色ローム粒7%、焼土粒1%
5層 10YR3/2 黒褐色土 ローム中粒3%
6層 10YR5/8 黄褐色ローム 崩落土
7層 10YR2/1 黒 色 土 灰白色火山灰小粒1%、ローム小塊5%
BSD16-④(D－D′)
1層 10YR2/1 黒 色 土 灰白色火山灰1%、ローム中粒5%
BSD10 0 平面＝1/180 4m
BSD16 0 平面＝1/80 2m
BSD10 BSD16 0 断面＝1/60 2m

図 64　溝跡（８）

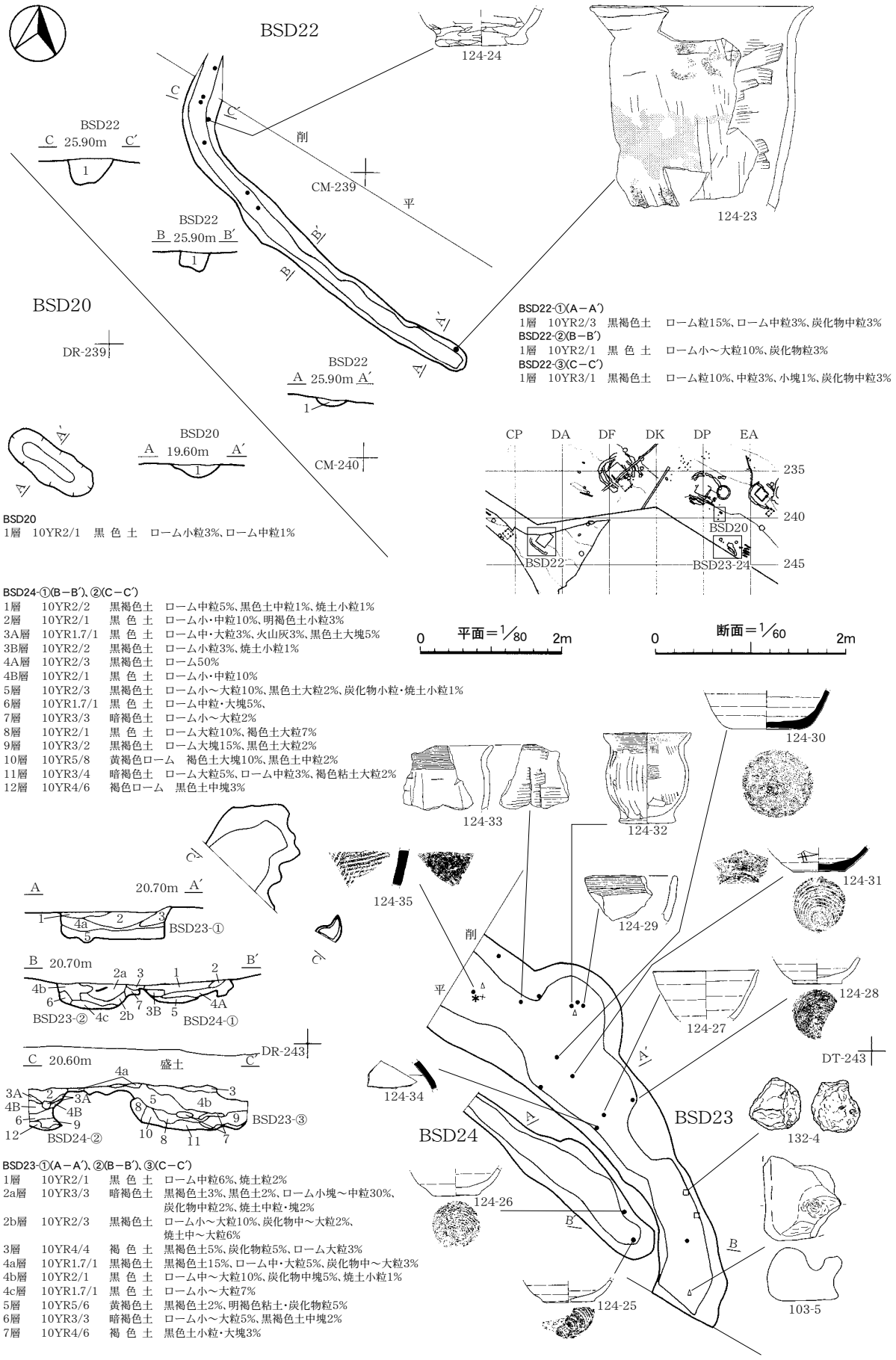

BSD22
124-24
124-23
削
平
CM-239
BSD22
C 25.90m C′
BSD22
B 25.90m B′
BSD22
A 25.90m A′
BSD20
DR-239
BSD20
A 19.60m A′
CM-240
BSD22-①(A－A′)
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒15%、ローム中粒3%、炭化物中粒3%
BSD22-②(B－B′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小～大粒10%、炭化物粒3%
BSD22-③(C－C′)
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒10%、中粒3%、小塊1%、炭化物中粒3%
BSD20
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒3%、ローム中粒1%
CP DA DF DK DP EA
235
240
245
BSD20
BSD22
BSD23-24
BSD24-①(B－B′)、②(C－C′)
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒5%、黒色土中粒1%、焼土小粒1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小・中粒10%、明褐色土小粒3%
3A層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム中・大粒3%、火山灰3%、黒色土大塊5%
3B層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒3%、焼土小粒1%
4A層　10YR2/3　黒褐色土　ローム50%
4B層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小・中粒10%
5層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小～大粒10%、黒色土大粒2%、炭化物小粒・焼土小粒1%
6層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム中粒・大塊5%、
7層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小～大粒2%
8層　10YR2/1　黒 色 土　ローム大粒10%、褐色土大粒7%
9層　10YR3/2　黒褐色土　ローム大塊15%、黒色土大粒2%
10層　10YR5/8　黄褐色ローム　褐色土大塊10%、黒色土中粒2%
11層　10YR3/4　暗褐色土　ローム大粒5%、ローム中粒3%、褐色粘土大粒2%
12層　10YR4/6　褐色ローム　黒色土中塊3%
平面＝1/80
断面＝1/60
0 2m
124-33
124-32
124-30
124-31
124-35
124-29
124-28
124-27
124-34
124-26
124-25
132-4
103-5
DT-243
BSD23
BSD24
BSD23-①
BSD23-②
BSD23-③
BSD24-①
BSD24-②
DR-243
A 20.70m A′
B 20.70m B′
C 20.60m C′
盛土
BSD23-①(A－A′)、②(B－B′)、③(C－C′)
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒6%、焼土粒2%
2a層　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土3%、黒色土2%、ローム小塊～中粒30%、炭化物中粒2%、焼土中粒・塊2%
2b層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小～大粒10%、炭化物中～大粒2%、焼土中～大粒6%
3層　10YR4/4　褐 色 土　黒褐色土5%、炭化物粒5%、ローム大粒3%
4a層　10YR1.7/1　黒褐色土　黒褐色土15%、ローム中・大粒5%、炭化物中～大粒3%
4b層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中～大粒10%、炭化物中塊5%、焼土小粒1%
4c層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム小～大粒7%
5層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土2%、明褐色粘土・炭化物粒5%
6層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小～大粒5%、黒褐色土中塊2%
7層　10YR4/6　褐 色 土　黒色土小粒・大塊3%

図 65　溝跡（9）

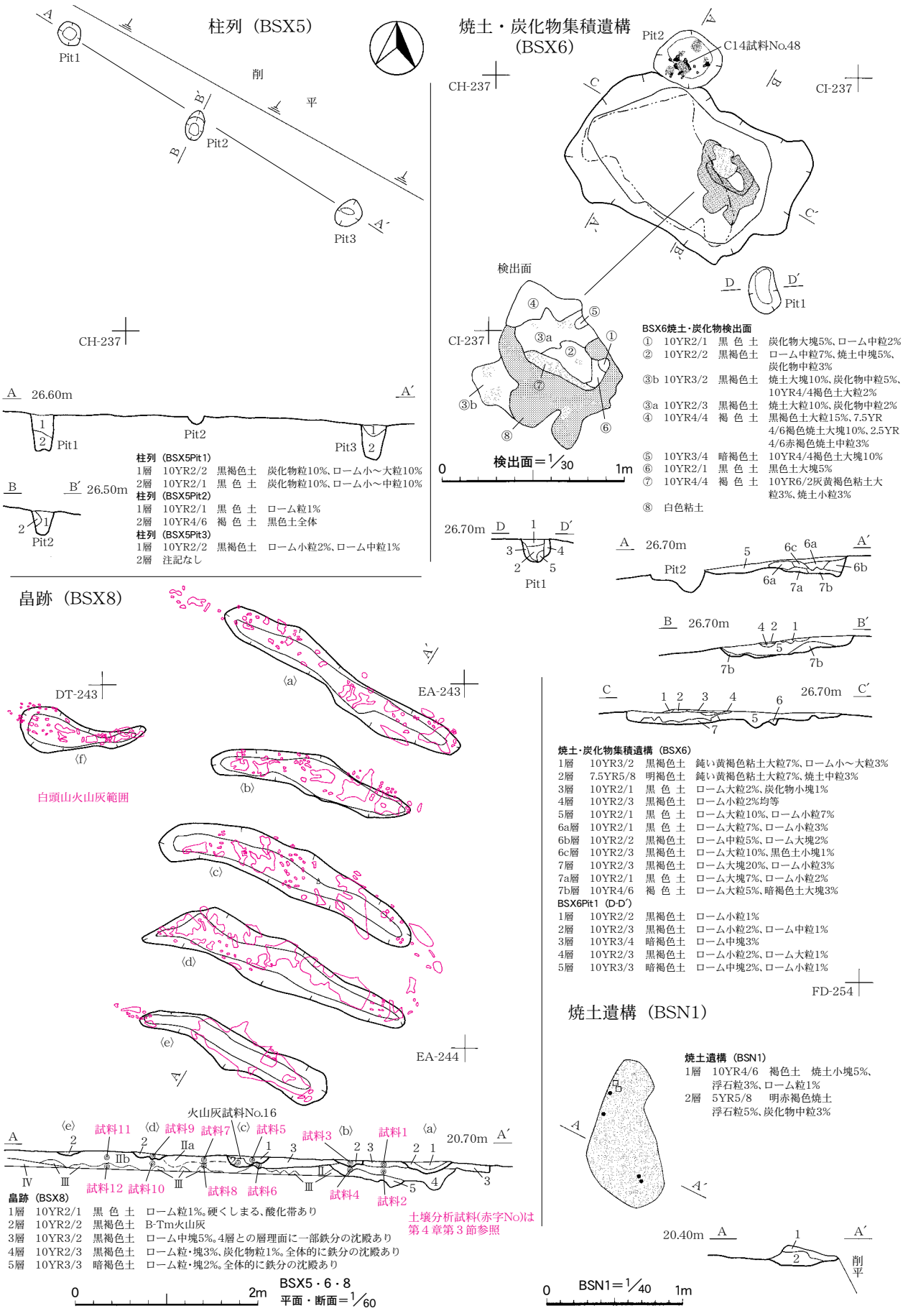
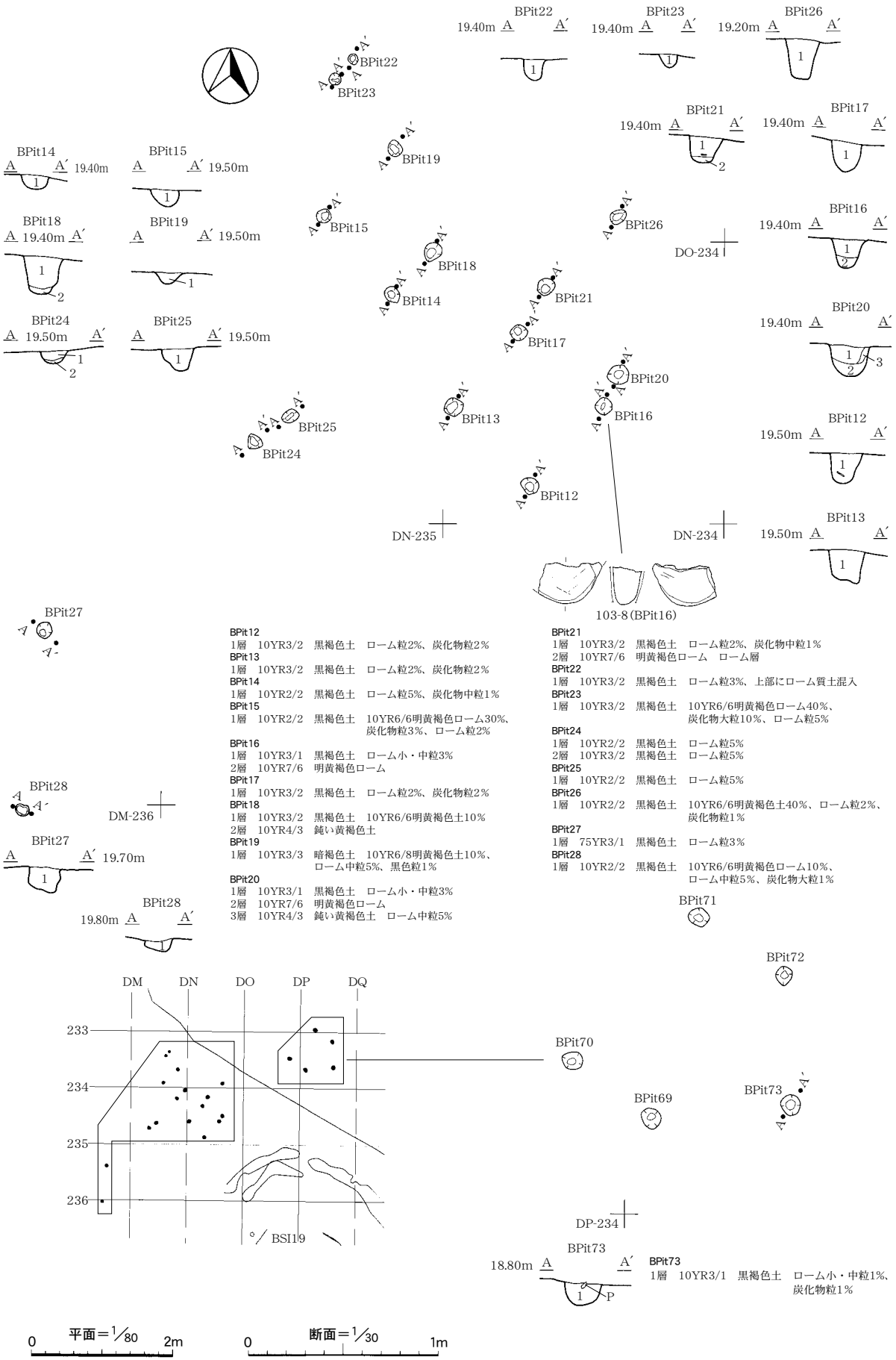


図 66　柱列、畠跡、焼土・炭化物集積遺構



BPit12
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒2%

BPit13
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒2%

BPit14
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物中粒1%

BPit15
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム30%、炭化物粒3%、ローム粒2%

BPit16
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小・中粒3%
2層　10YR7/6　明黄褐色ローム

BPit17
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒2%

BPit18
1層　10YR3/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色土10%
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土

BPit19
1層　10YR3/3　暗褐色土　10YR6/8明黄褐色土10%、ローム中粒5%、黒色粒1%

BPit20
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小・中粒3%
2層　10YR7/6　明黄褐色ローム
3層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム中粒5%

BPit21
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒2%、炭化物中粒1%
2層　10YR7/6　明黄褐色ローム　ローム層

BPit22
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒3%、上部にローム質土混入

BPit23
1層　10YR3/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム40%、炭化物大粒10%、ローム粒5%

BPit24
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒5%

BPit25
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%

BPit26
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色土40%、ローム粒2%、炭化物粒1%

BPit27
1層　75YR3/1　黒褐色土　ローム粒3%

BPit28
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR6/6明黄褐色ローム10%、ローム中粒5%、炭化物大粒1%

BPit73
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小・中粒1%、炭化物粒1%

図 67　　ピット群（1）

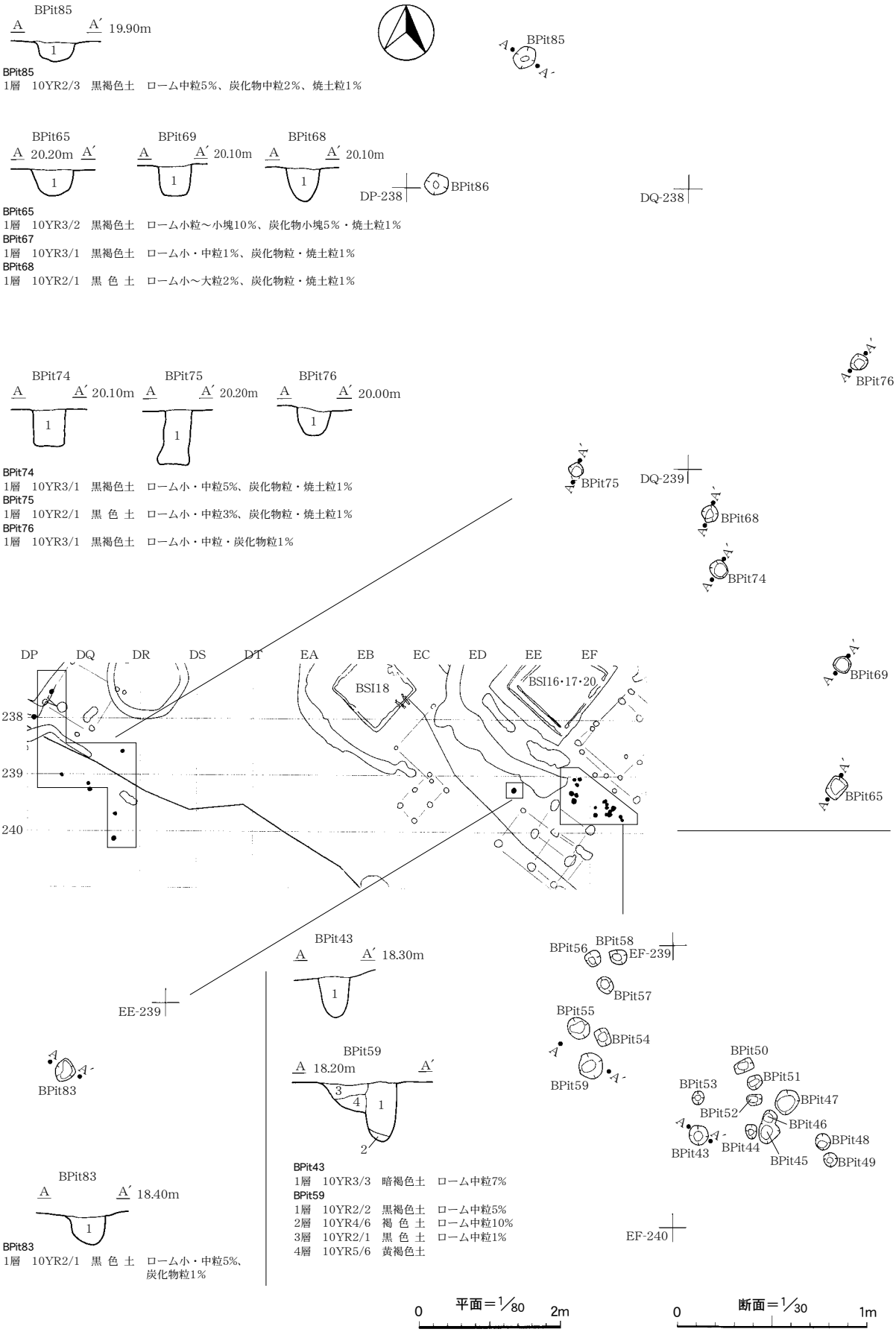

BPit85
A A´ 19.90m
1
BPit85
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒5%、炭化物中粒2%、焼土粒1%
BPit65
A 20.20m A´
1
BPit69
A A´ 20.10m
1
BPit68
A A´ 20.10m
1
DP-238
BPit86
DQ-238
BPit65
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小粒～小塊10%、炭化物小塊5%・焼土粒1%
BPit67
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小・中粒1%、炭化物粒・焼土粒1%
BPit68
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小～大粒2%、炭化物粒・焼土粒1%
BPit74
A A´ 20.10m
1
BPit75
A A´ 20.20m
1
BPit76
A A´ 20.00m
1
BPit74
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小・中粒5%、炭化物粒・焼土粒1%
BPit75
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小・中粒3%、炭化物粒・焼土粒1%
BPit76
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小・中粒・炭化物粒1%
DP DQ DR DS DT EA EB EC ED EE EF
238
239
240
BSI18
BSI16・17・20
EE-239
BPit43
A A´ 18.30m
1
BPit59
A 18.20m A´
3 4 1 2
BPit43
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒7%
BPit59
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒5%
2層　10YR4/6　褐 色 土　ローム中粒10%
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒1%
4層　10YR5/6　黄褐色土
BPit83
A A´ 18.40m
1
BPit83
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小・中粒5%、炭化物粒1%
BPit56 BPit58 EF-239
BPit57
BPit55
BPit54
BPit59
BPit50
BPit51
BPit53
BPit47
BPit52
BPit46
BPit48
BPit43
BPit44
BPit45
BPit49
EF-240
BPit76
BPit75
DQ-239
BPit68
BPit74
BPit69
BPit65
0 平面＝1/80 2m
0 断面＝1/30 1m

図 68　ピット群（２）

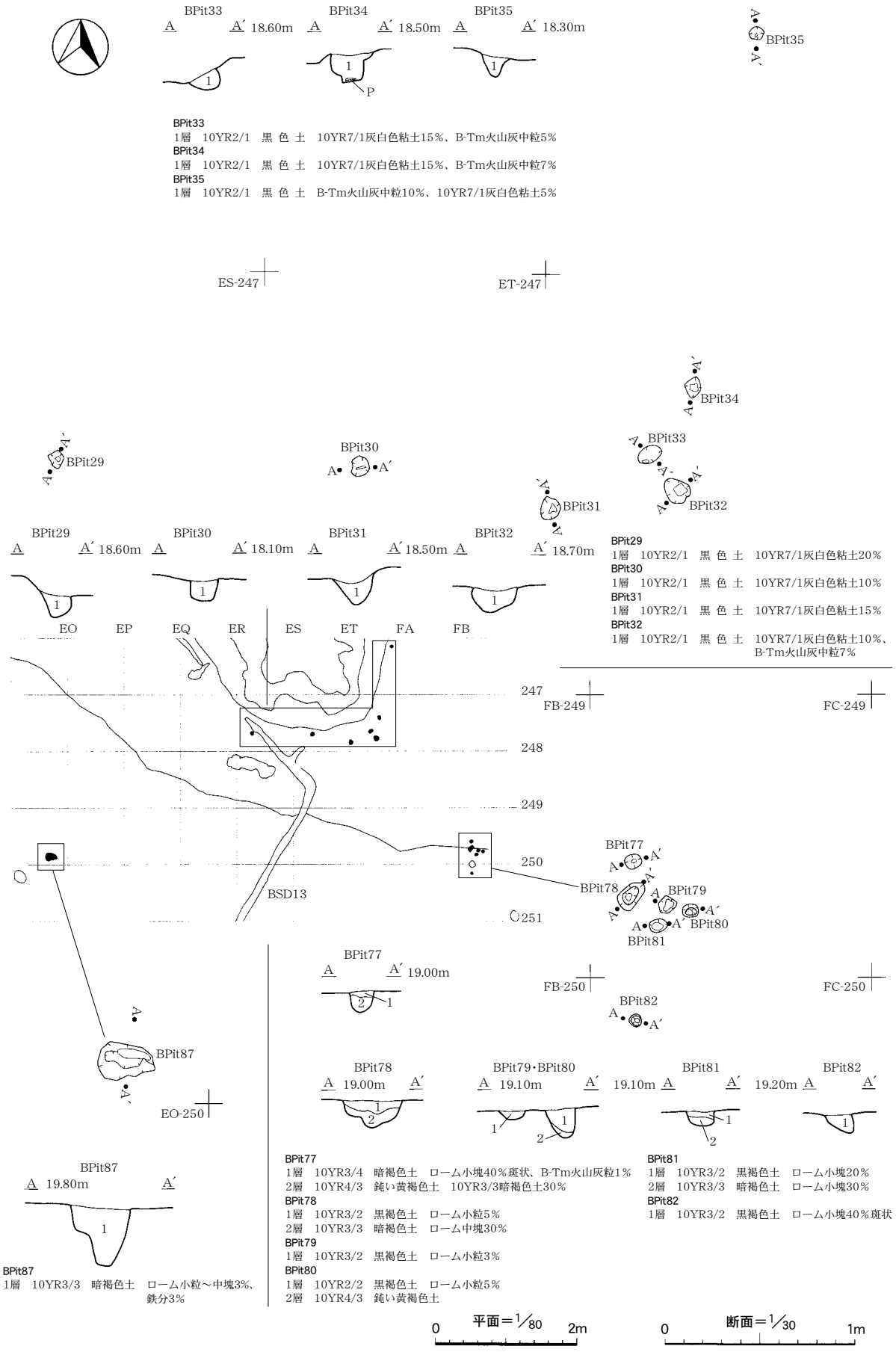
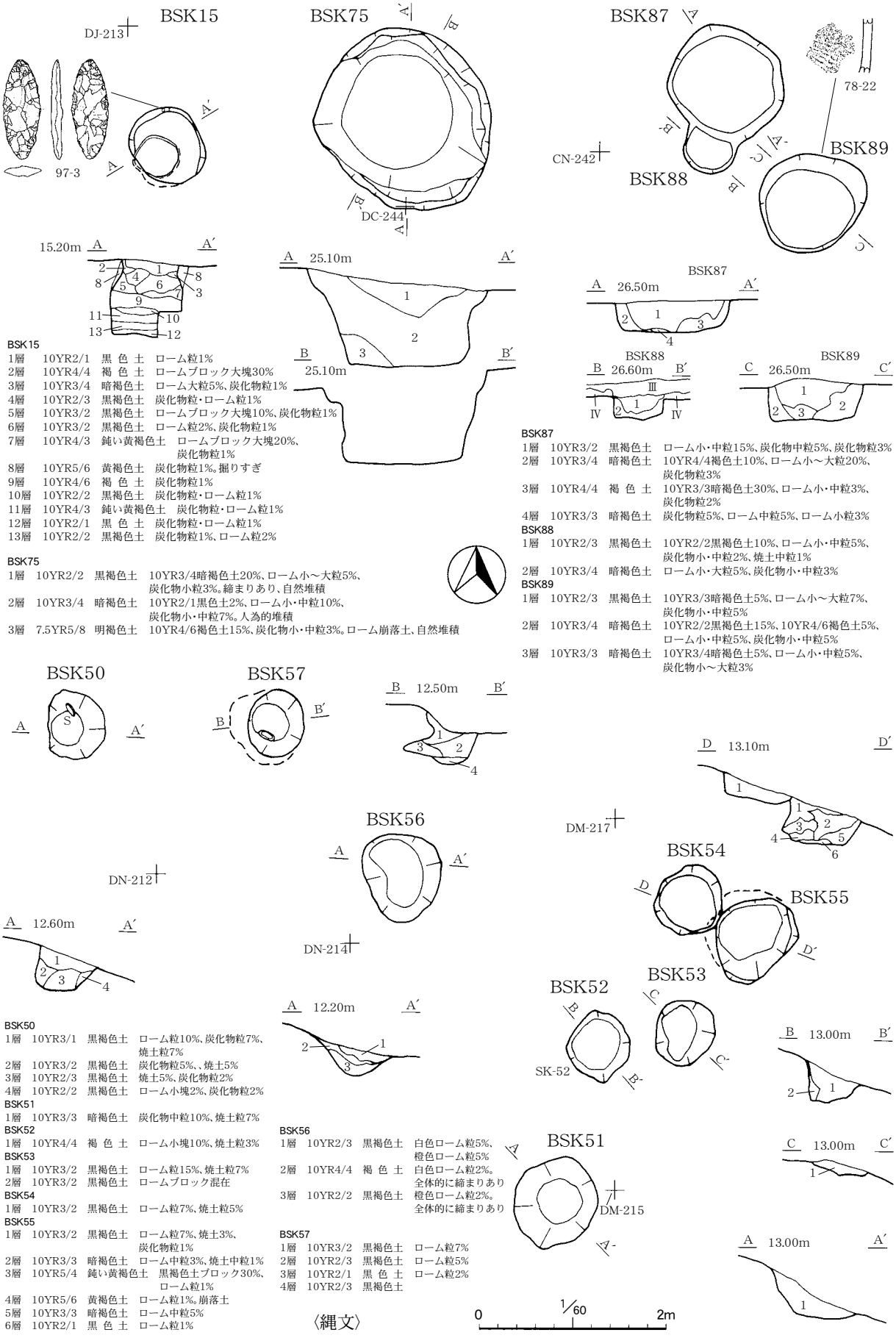

BPit33
A A′ 18.60m
BPit34
A A′ 18.50m
BPit35
A A′ 18.30m
P
BPit33
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR7/1灰白色粘土15%、B-Tm火山灰中粒5%
BPit34
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR7/1灰白色粘土15%、B-Tm火山灰中粒7%
BPit35
1層　10YR2/1　黒 色 土　B-Tm火山灰中粒10%、10YR7/1灰白色粘土5%
ES-247
ET-247
BPit29
BPit30
BPit31
BPit32
BPit33
BPit34
BPit29
A A′ 18.60m
BPit30
A A′ 18.10m
BPit31
A A′ 18.50m
BPit32
A A′ 18.70m
BPit29
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR7/1灰白色粘土20%
BPit30
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR7/1灰白色粘土10%
BPit31
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR7/1灰白色粘土15%
BPit32
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR7/1灰白色粘土10%、B-Tm火山灰中粒7%
EO EP EQ ER ES ET FA FB
247
248
249
250
251
FB-249
FC-249
BSD13
BPit77
BPit78
BPit79
BPit80
BPit81
BPit77
A A′ 19.00m
FB-250
FC-250
BPit82
BPit87
EO-250
BPit78
A 19.00m A′
BPit79・BPit80
A 19.10m A′
BPit81
19.10m A A′
BPit82
19.20m A A′
BPit87
A 19.80m A′
BPit77
1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム小塊40%斑状、B-Tm火山灰粒1%
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　10YR3/3暗褐色土30%
BPit78
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小粒5%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中塊30%
BPit79
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小粒3%
BPit80
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒5%
2層　10YR4/3　鈍い黄褐色土
BPit81
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小塊20%
2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小塊30%
BPit82
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小塊40%斑状
BPit87
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小粒～中塊3%、鉄分3%
0 平面＝1/80 2m
0 断面＝1/30 1m

図 69　ピット群（3）



BSK15

1層	10YR2/1	黒 色 土　ローム粒1%
2層	10YR4/4	褐 色 土　ロームブロック大塊30%
3層	10YR3/4	暗褐色土　ローム大粒5%、炭化物粒1%
4層	10YR2/3	黒褐色土　炭化物粒・ローム粒1%
5層	10YR3/2	黒褐色土　ロームブロック大塊10%、炭化物粒1%
6層	10YR3/2	黒褐色土　ローム粒2%、炭化物粒1%
7層	10YR4/3	鈍い黄褐色土　ロームブロック大塊20%、炭化物粒1%
8層	10YR5/6	黄褐色土　炭化物粒1%、掘りすぎ
9層	10YR4/6	褐 色 土　炭化物粒1%
10層	10YR2/2	黒褐色土　炭化物粒・ローム粒1%
11層	10YR4/3	鈍い黄褐色土　炭化物粒・ローム粒1%
12層	10YR2/1	黒 色 土　炭化物粒・ローム粒1%
13層	10YR2/2	黒褐色土　炭化物粒1%、ローム粒2%

BSK75

1層	10YR2/2	黒褐色土　10YR3/4暗褐色土20%、ローム小～大粒5%、炭化物小粒3%。締まりあり、自然堆積
2層	10YR3/4	暗褐色土　10YR2/1黒色土2%、ローム小・中粒10%、炭化物小・中粒7%。人為的堆積
3層	7.5YR5/8	明褐色土　10YR4/6褐色土15%、炭化物小・中粒3%。ローム崩落土、自然堆積

BSK87

1層	10YR3/2	黒褐色土　ローム小・中粒15%、炭化物中粒5%、炭化物粒3%
2層	10YR3/4	暗褐色土　10YR4/4褐色土10%、ローム小～大粒20%、炭化物粒3%
3層	10YR4/4	褐 色 土　10YR3/3暗褐色土30%、ローム小・中粒3%、炭化物粒2%
4層	10YR3/3	暗褐色土　炭化物粒5%、ローム中粒5%、ローム小粒3%

BSK88

1層	10YR2/3	黒褐色土　10YR2/2黒褐色土10%、ローム小・中粒5%、炭化物小・中粒2%、焼土中粒1%
2層	10YR3/4	暗褐色土　ローム小・大粒5%、炭化物小・中粒3%

BSK89

1層	10YR2/3	黒褐色土　10YR3/3暗褐色土5%、ローム小～大粒7%、炭化物小・中粒5%
2層	10YR3/4	暗褐色土　10YR2/2黒褐色土15%、10YR4/6褐色土5%、ローム小・中粒5%、炭化物小・中粒5%
3層	10YR3/3	暗褐色土　10YR3/4暗褐色土5%、ローム小・中粒5%、炭化物小～大粒3%

BSK50

1層	10YR3/1	黒褐色土　ローム粒10%、炭化物粒7%、焼土粒7%
2層	10YR3/2	黒褐色土　炭化物粒5%、、焼土5%
3層	10YR2/3	黒褐色土　焼土5%、炭化物粒2%
4層	10YR2/2	黒褐色土　ローム小塊2%、炭化物粒2%

BSK51

1層	10YR3/3	暗褐色土　炭化物中粒10%、焼土粒7%

BSK52

1層	10YR4/4	褐 色 土　ローム小塊10%、焼土粒3%

BSK53

1層	10YR3/2	黒褐色土　ローム粒15%、焼土粒7%
2層	10YR3/2	黒褐色土　ロームブロック混在

BSK54

1層	10YR3/2	黒褐色土　ローム粒7%、焼土粒5%

BSK55

1層	10YR3/2	黒褐色土　ローム粒7%、焼土3%、炭化物粒1%
2層	10YR3/3	暗褐色土　ローム中粒3%、焼土中粒1%
3層	10YR5/4	鈍い黄褐色土　黒褐色土ブロック30%、ローム粒1%
4層	10YR5/6	黄褐色土　ローム粒1%、崩落土
5層	10YR3/3	暗褐色土　ローム中粒5%
6層	10YR2/1	黒 色 土　ローム粒1%

BSK56

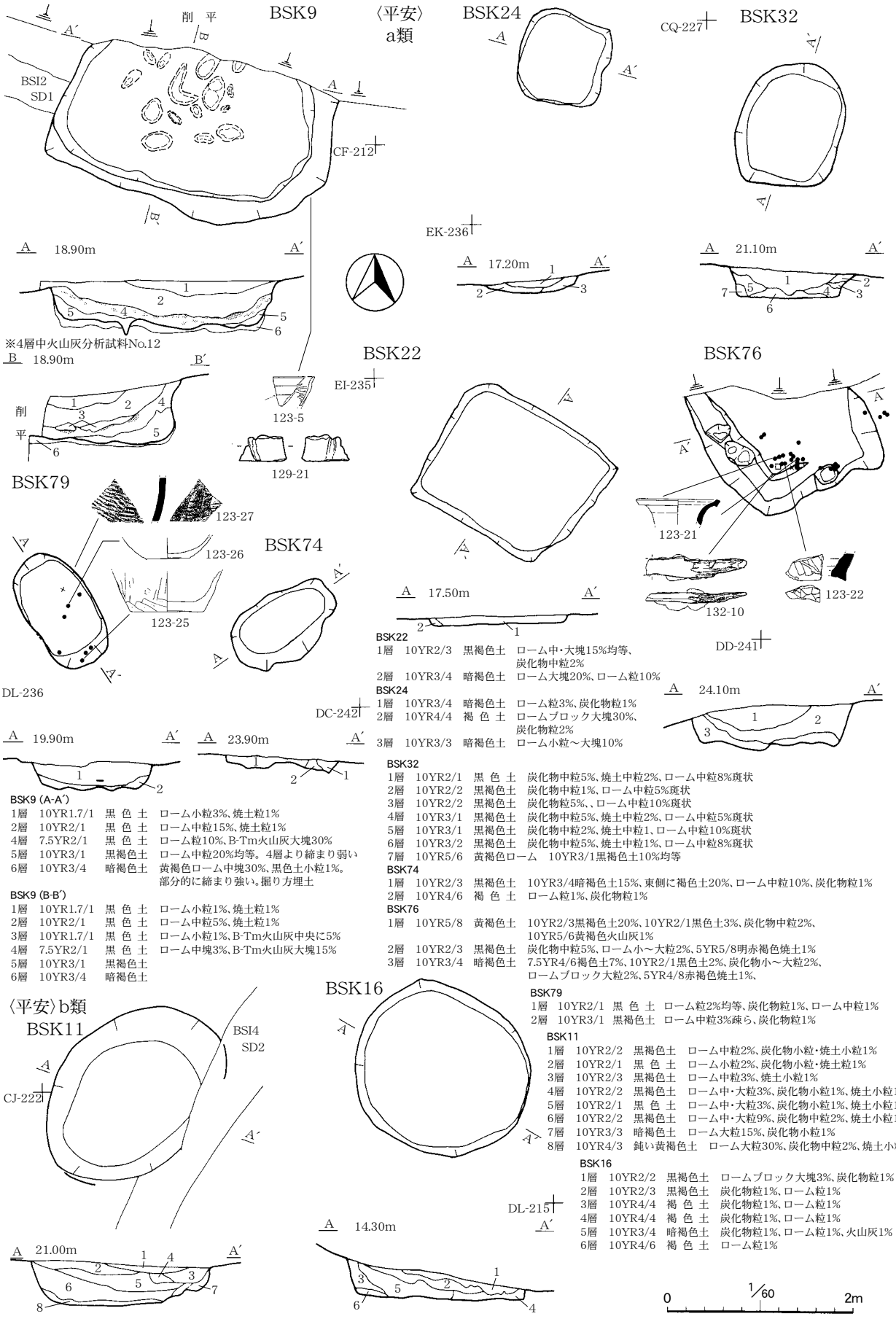
1層	10YR2/3	黒褐色土　白色ローム粒5%、橙色ローム粒5%
2層	10YR4/4	褐 色 土　白色ローム粒2%。全体的に締まりあり
3層	10YR2/2	黒褐色土　橙色ローム粒2%。全体的に締まりあり

BSK57

1層	10YR3/2	黒褐色土　ローム粒7%
2層	10YR2/3	黒褐色土　ローム粒5%
3層	10YR2/1	黒 色 土　ローム粒2%
4層	10YR2/3	黒褐色土

〈縄文〉

図 70　土坑（1）



BSK22
1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中・大塊15%均等、炭化物中粒2%
2層　10YR3/4　暗褐色土　ローム大塊20%、ローム粒10%

BSK24
1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒3%、炭化物粒1%
2層　10YR4/4　褐 色 土　ロームブロック大塊30%、炭化物粒2%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム小粒～大塊10%

BSK32
1層　10YR2/1　黒 色 土　炭化物中粒5%、焼土中粒2%、ローム中粒8%斑状
2層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物中粒1%、ローム中粒5%斑状
3層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物粒5%、、ローム中粒10%斑状
4層　10YR3/1　黒褐色土　炭化物中粒5%、焼土中粒2%、ローム中粒5%斑状
5層　10YR3/1　黒褐色土　炭化物中粒2%、焼土中粒1、ローム中粒10%斑状
6層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物中粒5%、焼土中粒1%、ローム中粒8%斑状
7層　10YR5/6　黄褐色ローム　10YR3/1黒褐色土10%均等

BSK74
1層　10YR2/3　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土15%、東側に褐色土20%、ローム中粒10%、炭化物粒1%
2層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒1%、炭化物粒1%

BSK76
1層　10YR5/8　黄褐色土　10YR2/3黒褐色土20%、10YR2/1黒色土3%、炭化物中粒2%、10YR5/6黄褐色火山灰1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物中粒5%、ローム小～大粒2%、5YR5/8明赤褐色焼土1%
3層　10YR3/4　暗褐色土　7.5YR4/6褐色土7%、10YR2/1黒色土2%、炭化物小～大粒2%、ロームブロック大粒2%、5YR4/8赤褐色焼土1%、

BSK9 (A-A′)
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム小粒3%、焼土粒1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒15%、焼土粒1%
4層　7.5YR2/1　黒 色 土　ローム粒10%、B-Tm火山灰大塊30%
5層　10YR3/1　黒褐色土　ローム中粒20%均等。4層より締まり弱い
6層　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色ローム中塊30%、黒色土小粒1%。部分的に締まり強い。掘り方埋土

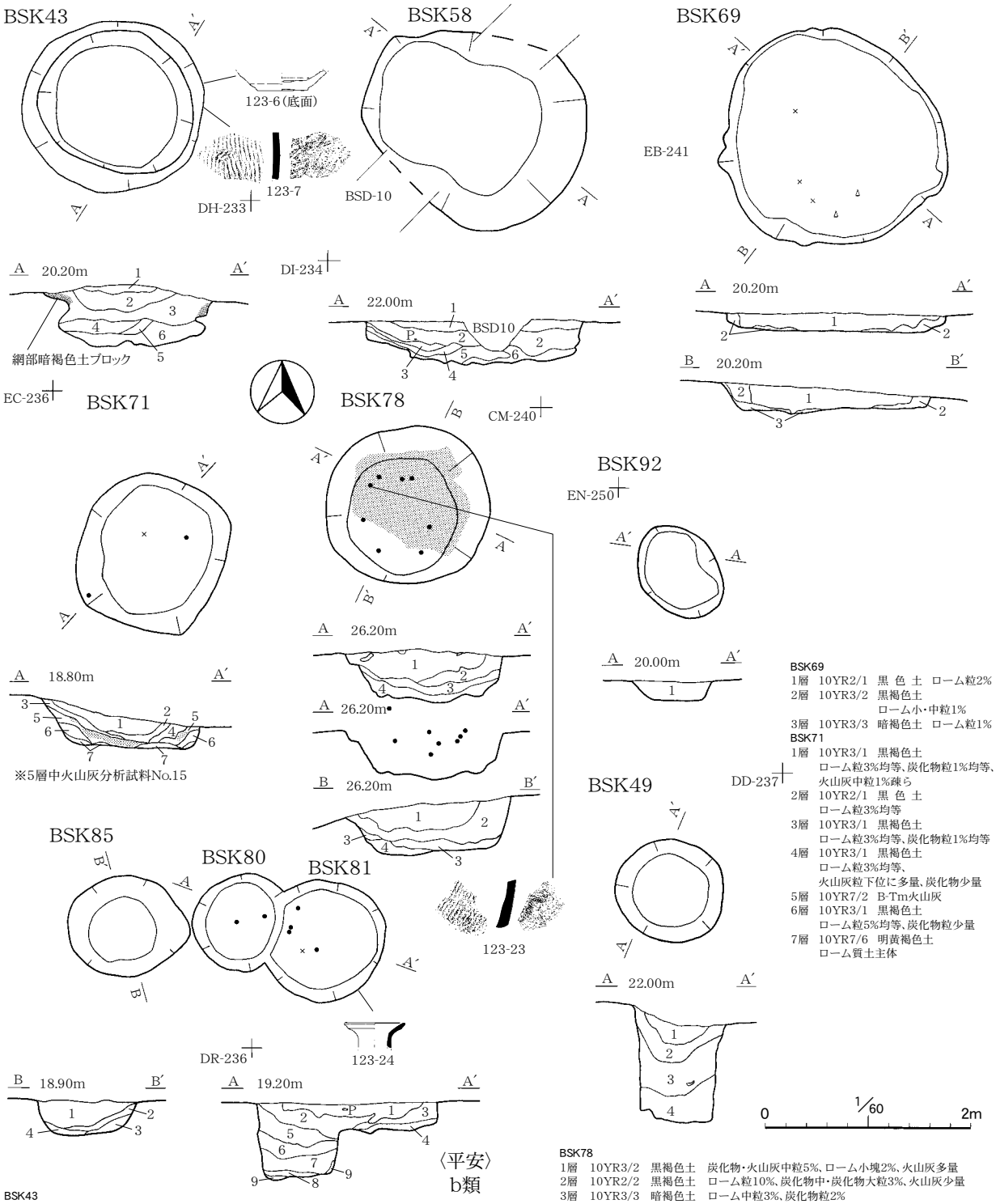
BSK9 (B-B′)
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム小粒1%、焼土粒1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒5%、焼土粒1%
3層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム小粒1%、B-Tm火山灰中央に5%
4層　7.5YR2/1　黒 色 土　ローム中塊3%、B-Tm火山灰大塊15%
5層　10YR3/1　黒褐色土
6層　10YR3/4　暗褐色土

BSK79
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒2%均等、炭化物粒1%、ローム中粒1%
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム中粒3%疎ら、炭化物粒1%

BSK11
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒2%、炭化物小粒・焼土小粒1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒2%、炭化物小粒・焼土粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒3%、焼土小粒1%
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中・大粒3%、炭化物小粒1%、焼土小粒1%
5層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中・大粒3%、炭化物小粒1%、焼土小粒1%
6層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中・大粒9%、炭化物中粒2%、焼土小粒1%
7層　10YR3/3　暗褐色土　ローム大粒15%、炭化物小粒1%
8層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム大粒30%、炭化物中粒2%、焼土小粒1%

BSK16
1層　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロック大塊3%、炭化物粒1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物粒1%、ローム粒1%
3層　10YR4/4　褐 色 土　炭化物粒1%、ローム粒1%
4層　10YR4/4　褐 色 土　炭化物粒1%、ローム粒1%
5層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物粒1%、ローム粒1%、火山灰1%
6層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒1%

図 71　土坑（2）



BSK69
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒2%
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小・中粒1%
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒1%

BSK71
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒3%均等、炭化物粒1%均等、火山灰中粒1%疎ら
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%均等
3層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒3%均等、炭化物粒1%均等
4層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒3%均等、火山灰粒下位に多量、炭化物少量
5層　10YR7/2　B-Tm火山灰
6層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒5%均等、炭化物粒少量
7層　10YR7/6　明黄褐色土　ローム質土主体

BSK43
1層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色火山灰40%、炭化物粒1%、焼土中粒
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒～中塊7%、焼土中粒5%、炭化物粒2%均等
3層　10YR2/2　黒褐色土　暗褐色土15%、ローム小～大塊15%、褐色土7%、炭化物粒3%、焼土小・中粒1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム小粒～中塊7%均等、炭化物粒1%
5層　10YR2/1　黒褐色土　10YR1.7/1黒色土3%、黄褐色土ローム小塊2%、炭化物粒1%
6層　10YR2/2　黒褐色土　10YR1.7/1黒色土5%、ローム小～大塊20%、炭化物粒3%

BSK49
1層　10YR2/2　黒褐色土　焼土粒1%、黄褐色火山灰
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒5%、焼土粒1%
3層　10YR2/2　黒褐色土
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒3%、炭化物粒1%

BSK58
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒1%、炭化物中粒5%、焼土中粒1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小塊～中粒2%、炭化物小塊～中粒7%
3層　10YR3/3　暗褐色土　黒色土5%、ローム小・中塊10%
4層　10YR1.7/1　黒 色 土　炭化物中粒3%、焼土中粒2%
5層　10YR3/3　暗褐色土　黒色土15%、ローム小・中塊10%、炭化物中粒3%、焼土小塊～中粒2%
6層　10YR4/6　褐 色 土　黒色土10%、ローム中・大塊30%、炭化物中粒3%

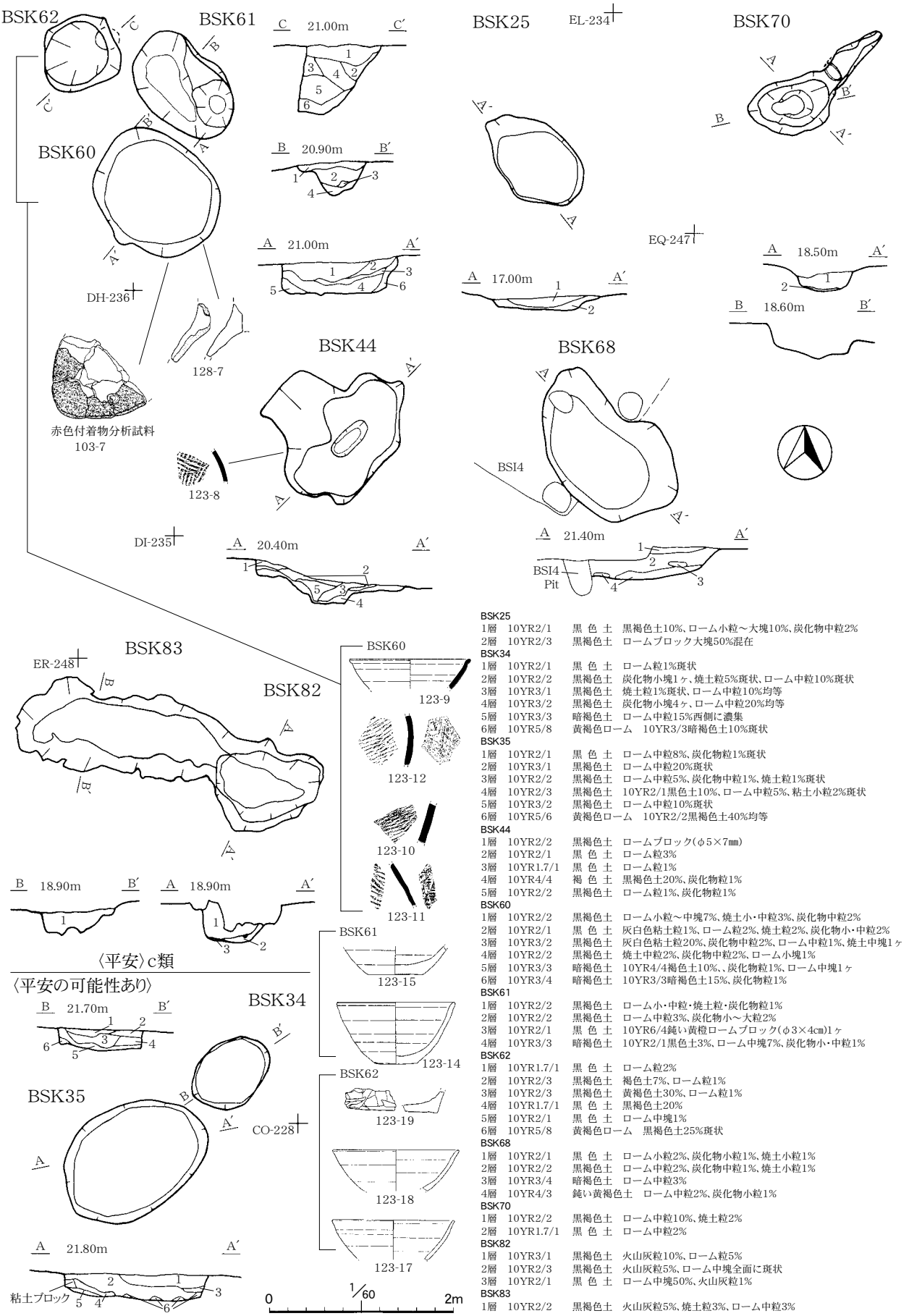
BSK78
1層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物・火山灰中粒5%、ローム小塊2%、火山灰多量
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒10%、炭化物中・炭化物大粒3%、火山灰少量
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒3%、炭化物粒2%
4層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物粒5%、ローム小・中粒5%、焼土粒2%

BSK80・81
1層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒3%、焼土粒1%、炭化物粒1%均等
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小～大粒5%、炭化物粒1%均等
3層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒1%、3層下半に白色塊
4層　10YR4/3　鈍い黄褐色ローム
5層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒3%、ロームブロック1%
6層　10YR3/1　黒褐色土　ローム中粒3%均等、ロームブロック中央に多量
7層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%、炭化物粒1%均等
8層　10YR1.7/1 黒 色 土　ローム粒1%
9層　10YR5/4　鈍い黄褐色土

BSK85
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小・中粒10%、粘土小～大塊2%、炭化物小・中粒1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒5%、炭化物粒1%、粘土小塊1ケ
3層　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土40%、ローム粒10%、暗褐色粘土大塊1ケ
4層　10YR3/4　暗褐色土　黒色土10%、ローム粒20%、暗褐色粘土大塊1ケ

BSK92
1層　10YR5/8　黄褐色土　10YR2/3黒褐色土10%、ローム粒5%、鉄分3%

図 72　土坑（３）



BSK25
1層　10YR2/1　黒 色 土　黒褐色土10%、ローム小粒～大塊10%、炭化物中粒2%
2層　10YR2/3　黒褐色土　ロームブロック大塊50%混在
BSK34
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒1%斑状
2層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物小塊1ヶ、焼土粒5%斑状、ローム中粒10%斑状
3層　10YR3/1　黒褐色土　焼土粒1%斑状、ローム中粒10%均等
4層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物小塊4ヶ、ローム中粒20%均等
5層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒15%西側に濃集
6層　10YR5/8　黄褐色ローム　10YR3/3暗褐色土10%斑状
BSK35
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒8%、炭化物粒1%斑状
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム中粒20%斑状
3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒5%、炭化物中粒1%、焼土粒1%斑状
4層　10YR2/3　黒褐色土　10YR2/1黒色土10%、ローム中粒5%、粘土小粒2%斑状
5層　10YR3/2　黒褐色土　ローム中粒10%斑状
6層　10YR5/6　黄褐色ローム　10YR2/2黒褐色土40%均等
BSK44
1層　10YR2/2　黒褐色土　ロームブロック(φ5×7㎜)
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒3%
3層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒1%
4層　10YR4/4　褐 色 土　黒褐色土20%、炭化物粒1%
5層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%、炭化物粒1%
BSK60
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒～中塊7%、焼土小・中粒3%、炭化物中粒2%
2層　10YR2/1　黒 色 土　灰白色粘土粒1%、ローム粒2%、焼土粒2%、炭化物小・中粒2%
3層　10YR3/2　黒褐色土　灰白色粘土粒20%、炭化物中粒2%、ローム中粒1%、焼土中塊1ヶ
4層　10YR2/2　黒褐色土　焼土中粒2%、炭化物中粒2%、ローム小塊1%
5層　10YR3/3　暗褐色土　10YR4/4褐色土10%、、炭化物粒1%、ローム中塊1ヶ
6層　10YR3/4　暗褐色土　10YR3/3暗褐色土15%、炭化物粒1%
BSK61
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小・中粒・焼土粒・炭化物粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒3%、炭化物小～大粒2%
3層　10YR2/1　黒 色 土　10YR6/4鈍い黄橙ロームブロック(φ3×4cm)1ヶ
4層　10YR3/3　暗褐色土　10YR2/1黒色土3%、ローム中塊7%、炭化物小・中粒1%
BSK62
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒2%
2層　10YR2/3　黒褐色土　褐色土7%、ローム粒1%
3層　10YR2/3　黒褐色土　黄褐色土30%、ローム粒1%
4層　10YR1.7/1　黒 色 土　黒褐色土20%
5層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中塊1%
6層　10YR5/8　黄褐色ローム　黒褐色土25%斑状
BSK68
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒2%、炭化物小粒1%、焼土小粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒2%、炭化物中粒1%、焼土小粒1%
3層　10YR3/4　暗褐色土　ローム中粒3%
4層　10YR4/3　鈍い黄褐色土　ローム中粒2%、炭化物小粒1%
BSK70
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒10%、焼土粒2%
2層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム中粒2%
BSK82
1層　10YR3/1　黒褐色土　火山灰粒10%、ローム粒5%
2層　10YR2/3　黒褐色土　火山灰粒5%、ローム中塊全面に斑状
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中塊50%、火山灰粒1%
BSK83
1層　10YR2/2　黒褐色土　火山灰粒5%、焼土粒3%、ローム中粒3%

図 73　土坑(4)

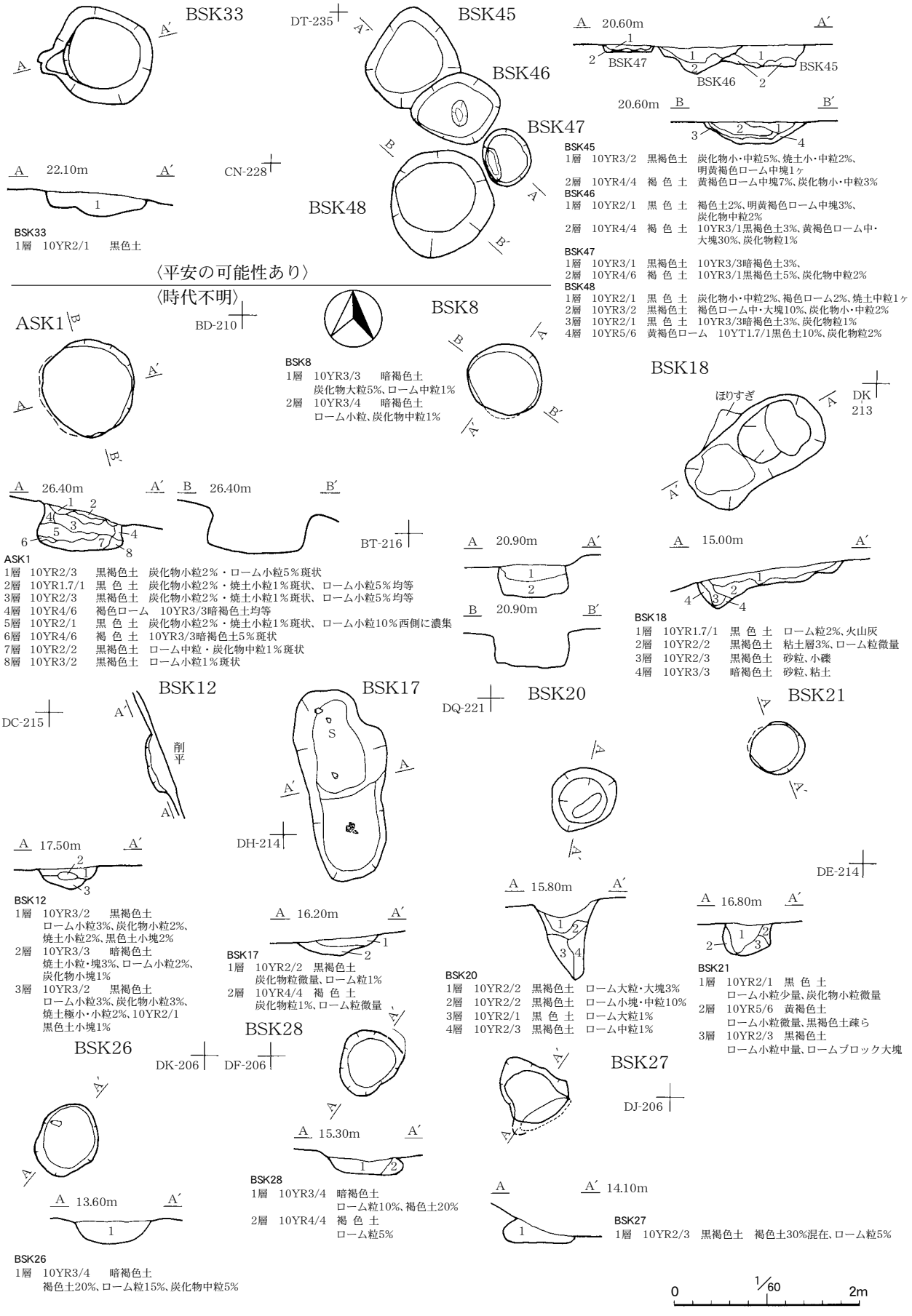
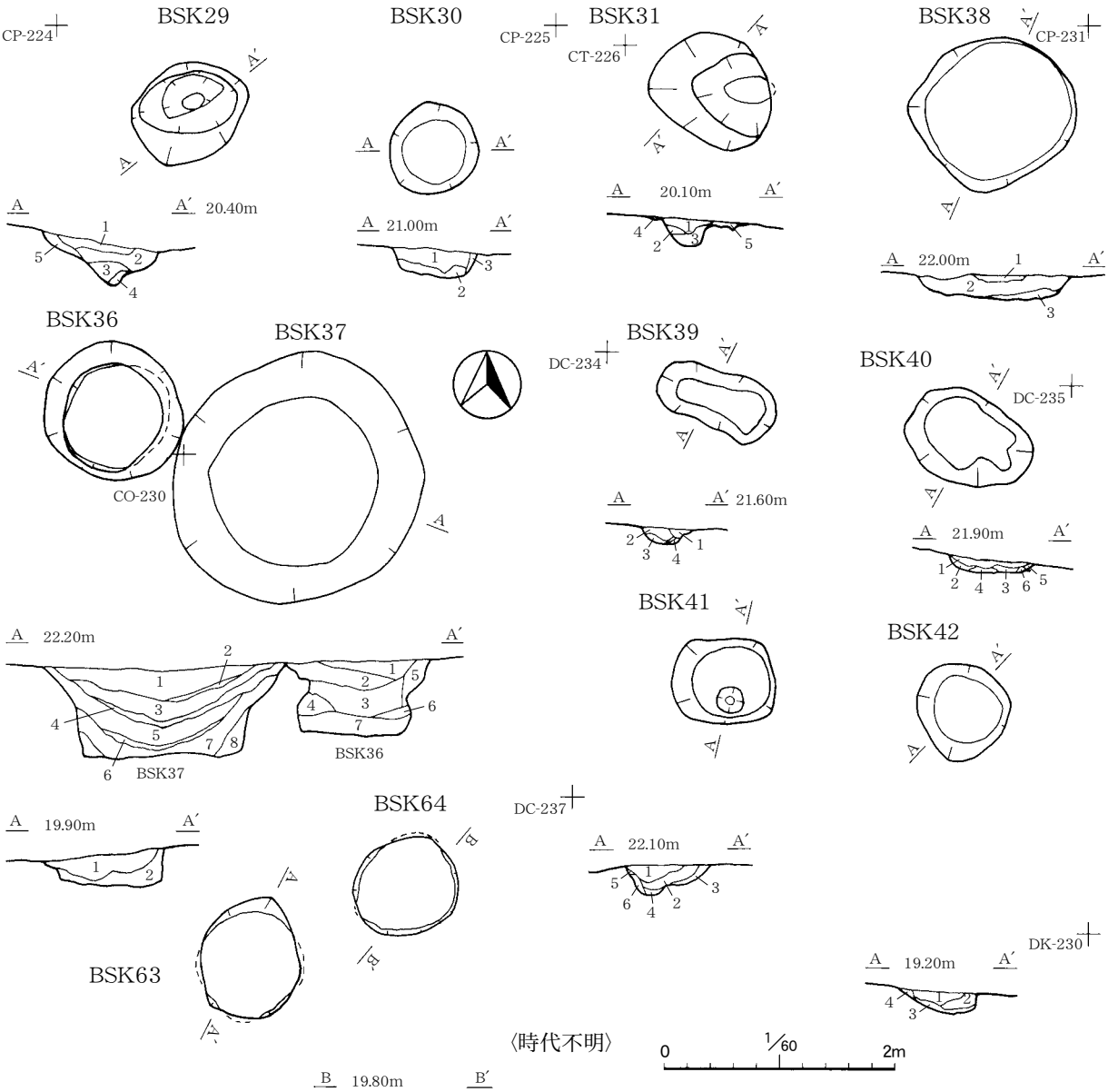

BSK33
A
A′
DT-235
BSK45
BSK46
BSK47
BSK48
B
B′
CN-228
A 22.10m A′
1
BSK33
1層　10YR2/1　黒色土
〈平安の可能性あり〉
〈時代不明〉
ASK1
BD-210
BSK8
BSK8
1層　10YR3/3　暗褐色土
炭化物大粒5%、ローム中粒1%
2層　10YR3/4　暗褐色土
ローム小粒、炭化物中粒1%
A 20.60m A′
BSK47
BSK46
BSK45
20.60m B B′
BSK45
1層　10YR3/2　黒褐色土　炭化物小・中粒5%、焼土小・中粒2%、明黄褐色ローム中塊1ヶ
2層　10YR4/4　褐 色 土　黄褐色ローム中塊7%、炭化物小・中粒3%
BSK46
1層　10YR2/1　黒 色 土　褐色土2%、明黄褐色ローム中塊3%、炭化物中粒2%
2層　10YR4/4　褐 色 土　10YR3/1黒褐色土3%、黄褐色ローム中・大塊30%、炭化物粒1%
BSK47
1層　10YR3/1　黒褐色土　10YR3/3暗褐色土3%、
2層　10YR4/6　褐 色 土　10YR3/1黒褐色土5%、炭化物中粒2%
BSK48
1層　10YR2/1　黒 色 土　炭化物小・中粒2%、褐色ローム2%、焼土中粒1ヶ
2層　10YR3/2　黒褐色土　褐色ローム中・大塊10%、炭化物小・中粒2%
3層　10YR2/1　黒 色 土　10YR3/3暗褐色土3%、炭化物粒1%
4層　10YR5/6　黄褐色ローム　10YT1.7/1黒色土10%、炭化物粒2%
BSK18
ほりすぎ
DK 213
A 26.40m A′
B 26.40m B′
BT-216
ASK1
1層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物小粒2%・ローム小粒5%斑状
2層　10YR1.7/1　黒 色 土　炭化物小粒2%・焼土小粒1%斑状、ローム小粒5%均等
3層　10YR2/3　黒褐色土　炭化物小粒2%・焼土小粒1%斑状、ローム小粒5%均等
4層　10YR4/6　褐色ローム　10YR3/3暗褐色土均等
5層　10YR2/1　黒 色 土　炭化物小粒2%・焼土小粒1%斑状、ローム小粒10%西側に濃集
6層　10YR4/6　褐 色 土　10YR3/3暗褐色土5%斑状
7層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒・炭化物中粒1%斑状
8層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小粒1%斑状
A 20.90m A′
B 20.90m B′
A 15.00m A′
BSK18
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒2%、火山灰
2層　10YR2/2　黒褐色土　粘土層3%、ローム粒微量
3層　10YR2/3　黒褐色土　砂粒、小礫
4層　10YR3/3　暗褐色土　砂粒、粘土
BSK12
DC-215
削平
BSK17
DH-214
BSK20
DQ-221
BSK21
DE-214
A 17.50m A′
BSK12
1層　10YR3/2　黒褐色土
ローム小粒3%、炭化物小粒2%、焼土小粒2%、黒色土小塊2%
2層　10YR3/3　暗褐色土
焼土小粒・塊3%、ローム小粒2%、炭化物小塊1%
3層　10YR3/2　黒褐色土
ローム小粒3%、炭化物小粒3%、焼土極小・小粒2%、10YR2/1黒色土小塊1%
A 16.20m A′
BSK17
1層　10YR2/2　黒褐色土
炭化物粒微量、ローム粒1%
2層　10YR4/4　褐 色 土
炭化物粒1%、ローム粒微量
A 15.80m A′
BSK20
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム大粒・大塊3%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小塊・中粒10%
3層　10YR2/1　黒 色 土　ローム大粒1%
4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒1%
A 16.80m A′
BSK21
1層　10YR2/1　黒 色 土
ローム小粒少量、炭化物小粒微量
2層　10YR5/6　黄褐色土
ローム小粒微量、黒褐色土疎ら
3層　10YR2/3　黒褐色土
ローム小粒中量、ロームブロック大塊
BSK26
DK-206
DF-206
BSK28
BSK27
DJ-206
A 15.30m A′
BSK28
1層　10YR3/4　暗褐色土
ローム粒10%、褐色土20%
2層　10YR4/4　褐 色 土
ローム粒5%
A 13.60m A′
BSK26
1層　10YR3/4　暗褐色土
褐色土20%、ローム粒15%、炭化物中粒5%
A A′ 14.10m
BSK27
1層　10YR2/3　黒褐色土　褐色土30%混在、ローム粒5%
0
1/60
2m

図 74　土坑（５）



BSK29
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム中粒2%斑状
2層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム大粒10%斑状
3層　10YR3/2　黒褐色土　10YR1.7/1黒色土20%、ローム中粒5%斑状
4層　10YR1.7/1　黒 色 土　10YR3/2黒褐色土10%、ローム中粒2%斑状
5層　10YR3/1　黒褐色土　ローム大塊(φ100×20㎜)1ヶ、ローム中粒10%均等

BSK30
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物粒1%、焼土小塊1%
2層　10YR3/4　暗褐色土　黒褐色土10%、ローム粒5%、炭化物粒1%、焼土小塊1%
3層　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色土40%

BSK31
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム中粒2%斑状
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒20%斑状
3層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム中粒5%斑状
4層　10YR1.7/1　黒 色 土
5層　10YR3/1　黒褐色土　ローム中粒15%斑状

BSK36
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、ローム中塊1ヶ、炭化物粒5%、
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒10%、ローム中塊3%、ローム大塊1ヶ
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒3%
5層　10YR3/3　暗褐色土　炭化物粒1%、ローム小～大塊3%
6層　10YR2/2　黒褐色土　褐色土大塊1ヶ、ローム中粒3%、
7層　10YR3/4　暗褐色土　黒色土10%、ローム小・中粒13%、褐色ローム混在

BSK37
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム粒3%、ローム小塊1%
2層　10YR2/1　黒 色 土　黒褐色土10%、ローム粒1%
3層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム中塊3%
4層　10YR2/1　黒 色 土　ローム粒5%
5層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒8%、ローム中塊3%、炭化物粒3%、焼土粒1%
6層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒7%
7層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒8%、ローム小塊3%
8層　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土10%、黄褐色土10%、炭化物粒3%

BSK38
1層　10YR4/4　褐 色 土　10YR3/2黒褐色土(φ5×14㎝)、10YR1.7/1黒色土(φ2×3㎝)、黄褐色ローム小～大粒5%、炭化物粒4%均等
2層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色ローム小・中塊7%、炭化物小～大粒6%均等、5YR3/6暗赤褐色焼土中粒2%
3層　10YR3/3　暗褐色土　10YR4/4褐色土15%、黄褐色ローム小塊3%、炭化物小・中粒2%、締まりあり

BSK39
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒30%下方に濃集
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒20%斑状
3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒10%斑状
4層　10YR5/6　黄褐色ローム

BSK40
1層　10YR1.7/1　黒 色 土　ローム中粒5%、焼土中粒2%、締まりあり
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒10%、焼土中粒2%斑状
3層　10YR3/1　黒褐色土　ローム中粒20%、炭化物粒2%、焼土粒1%斑状
4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒30%、炭化物粒5%、焼土粒2%斑状
5層　10YR3/2　黒褐色土　ローム中粒5%、焼土粒1%
6層　10YR2/1　黒 色 土　ローム中粒5%、焼土粒1%

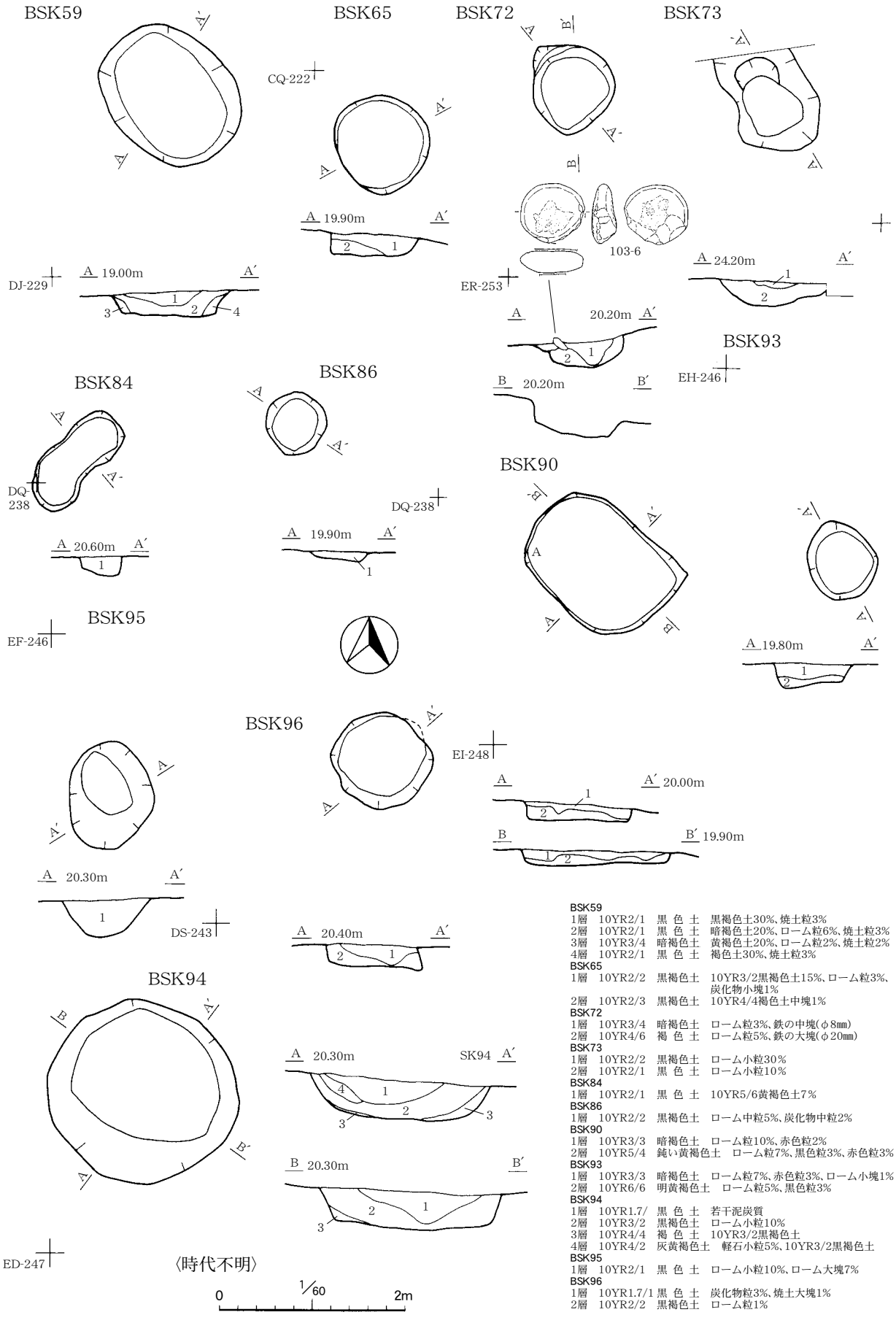
BSK41
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒5%、炭化物粒2%、焼土小塊1ヶ
2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム中粒10%、炭化物中粒5%均等
3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム中粒15%、炭化物粒1%均等
4層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒30%、炭化物粒1%斑状
5層　10YR3/3　暗褐色土　ローム中粒10%、炭化物小塊1ヶ
6層　10YR4/4　褐色ローム　10YR3/2黒褐色土5%、炭化物粒5%斑状

BSK42
1層　10YR2/1　黒 色 土　焼土中粒2%、ローム中粒10%斑状
2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム小塊1ヶ、ローム粒1%斑状
3層　10YR3/1　黒褐色土　焼土中粒2%斑状、ローム中粒20%
4層　10YR3/2　黒褐色土　焼土小塊1ヶ、ローム中粒30%

BSK63
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒・小塊6%、炭化物中粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　10YR3/4暗褐色土15%、ローム粒1%、焼土小塊1ヶ

BSK64
1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小粒・塊4%、焼土粒1%、炭化物粒1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒3%、焼土粒1%

図 75　土坑(6)



BSK59
1層　10YR2/1　黒 色 土　黒褐色土30%、焼土粒3%
2層　10YR2/1　黒 色 土　暗褐色土20%、ローム粒6%、焼土粒3%
3層　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色土20%、ローム粒2%、焼土粒2%
4層　10YR2/1　黒 色 土　褐色土30%、焼土粒3%
BSK65
1層　10YR2/2　黒褐色土　10YR3/2黒褐色土15%、ローム粒3%、炭化物小塊1%
2層　10YR2/3　黒褐色土　10YR4/4褐色土中塊1%
BSK72
1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒3%、鉄の中塊(φ8㎜)
2層　10YR4/6　褐 色 土　ローム粒5%、鉄の大塊(φ20㎜)
BSK73
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム小粒30％
2層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒10％
BSK84
1層　10YR2/1　黒 色 土　10YR5/6黄褐色土7％
BSK86
1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム中粒5%、炭化物中粒2%
BSK90
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒10%、赤色粒2%
2層　10YR5/4　鈍い黄褐色土　ローム粒7%、黒色粒3%、赤色粒3%
BSK93
1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒7%、赤色粒3%、ローム小塊1%
2層　10YR6/6　明黄褐色土　ローム粒5%、黒色粒3%
BSK94
1層　10YR1.7/　黒 色 土　若干泥炭質
2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム小粒10%
3層　10YR4/4　褐 色 土　10YR3/2黒褐色土
4層　10YR4/2　灰黄褐色土　軽石小粒5%、10YR3/2黒褐色土
BSK95
1層　10YR2/1　黒 色 土　ローム小粒10%、ローム大塊7%
BSK96
1層　10YR1.7/1 黒 色 土　炭化物粒3%、焼土大塊1%
2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒1%

図 76　土坑（7）

第 3 章　出土遺物

第 1 節　遺物の概要

本章では遺構内・遺構外の遺物を種別毎に遺物の特徴を報告する。

縄文土器は遺構内と遺構外に区分している。遺構内は少量のため、前章の検出遺構の出土遺物の項目で記載している。本章では遺構外出土の縄文土器について時期毎に区分して掲載した。

土師器・須恵器は遺構内出土のものが主体である。竪穴部の遺物の掲載方法については、本来、堆積土と床面及び・床面直上とに分けて掲載するべきところであるが、調査時における各調査者の遺物取り上げにおける層位認識が幾分異なる点があるため、層位毎の掲載には至っていない。ここでは各器形毎に掲載した。遺構内出土のもので住居堆積土中から出土した遺物は番号のみ、堆積土以外（床面・カマド等）は、出土位置を遺物番号と共に付した。

剥片石器・礫石器は遺構内と遺構外に区分し、遺構内は遺構順に、遺構外は各器種毎に掲載及び記載した。平安時代の住居跡から出土した礫石器は、加工方法などで平安時代の可能性があるものは遺構内として、縄文の可能性が高いものは遺構外として扱った。

土製品は縄文と古代に区分し、時代毎に掲載した。出土量が少ないことから、遺構単位ではなく、種類毎に掲載した。

石製品は、遺構内・外のものの中に時代を特定できないものがあるため、時代区分せず、石製品として一括で掲載した。

上記以外の遺物は出土量が少ないため、遺構内外を区別せず、種類毎に掲載し、遺物番号とともに、遺構名を付した。

第 2 節　A 区出土遺物

A 区は丘陵地へ続く急傾斜面である。出土遺物は少なく、段ボール 1 箱にも満たない。

遺物は ASK1 の周辺から東側で出土した。破片資料が多く、接合するものが少なかった。また、時期・型式が判別できるものも少なかった。復元した縄文土器 1 点、礫石器 3 点を図化し、図は第 3 節の B 区の遺物とともに時期・形状により分類し掲載した。

縄文土器　（図 92 － 26）

時期を特定できるものは少ないが、前期・中期・後期・晩期の破片が出土している。前期の遺物は円筒下層 b 式の一個体と思われる深鉢の胴部片多数と口縁が 1 点出土した。中期に相当するものが最も多く出土した。胴部に単節縄文を施したもの、羽状縄文を施したものがみられる。隆帯を貼り付けたものも 2 点みられる。後期の遺物は 4 点出土した。波状口縁に幅広の沈線を巡らすもの、胴部に沈線を巡らすものなど、十腰内 I 式に相当するものである。晩期の遺物は図化した 92 － 26 で、壷の口頸部が出土した。

石　器　（図 105 － 2 ～ 4）

剥片石器は石匙、石篦が各 1 点出土した。石匙は横型で幅広の大型剥片を素材とし、つまみ部を

素材のバルブ部分に作出している。石篦は基部が欠損している。刃部は直線的で、片面のみに調整が施されている。礫石器は磨り・凹み・敲きの痕跡を複数有する敲磨器類が５点出土し、３点図化した。

土師器

黒色処理された坏の底部片１点、甕の胴部片２点、不明破片１点が出土した。

その他

徳利の頸部と思われる陶器の破片が１点、羽口と思われる粘土塊の破片が１点出土した。

第３節　Ｂ区出土遺物

1. 縄文土器　（図 80 ～ 95）

Ｂ区の縄文土器は遺構外から出土したものがほとんどである。報告にあたっては、出土土器を時期毎に分類し、更に各型式毎に類を用いて細別した。分類は過去の調査を含め、本遺跡からこれまで出土した遺物を基準に設定した。分類は下記の通りである。

土器分類

第Ⅰ群土器（早期）
第Ⅱ群土器（縄文時代前期）
　第Ⅱ群土器ａ類（円筒下層式以前）
　第Ⅱ群土器ｂ類（円筒下層ａ式）
　第Ⅱ群土器ｃ類（円筒下層ｂ式）
　第Ⅱ群土器ｄ類（円筒下層ｃ式）
　第Ⅱ群土器ｅ類（円筒下層ｄ式）
第Ⅲ群土器（縄文時代中期）
　第Ⅲ群土器ａ類（円筒上層ａ式）
　第Ⅲ群土器ｂ類（円筒上層ｂ式）
　第Ⅲ群土器ｃ類（円筒上層ｃ式）
　第Ⅲ群土器ｄ類（円筒上層ｄ式）
　第Ⅲ群土器ｅ類（円筒上層ｅ式）
　第Ⅲ群土器ｆ類（榎林式）
　第Ⅲ群土器ｇ類（最花式）
　第Ⅲ群土器ｈ類（大木 10 式併行期）
第Ⅳ群土器（縄文時代後期）
　第Ⅳ群土器ａ類（前十腰内Ⅰ式）
　第Ⅳ群土器ｂ類（十腰内Ⅰ式）
第Ⅴ群土器（縄文時代晩期）
第Ⅵ群土器（時期不明）

第Ⅰ群土器（縄文時代早期）

本類はＢ区から出土しなかった。

第Ⅱ群土器（縄文時代前期）

第Ⅱ群土器ａ類（円筒下層式以前）

本類はＢ区から出土しなかった。

第Ⅱ群土器ｂ類（円筒下層ａ式）（図 80 － 1 ～ 13）

全体の形状を知り得るものは出土していないが、口縁は平口縁であり、口頸部が内反する深鉢形である。

12 は口唇部に縄文を施文している。色調は暗褐色で焼成は不良な土器が多い。文様区画帯は、一条の横位の太い粘土紐を巡らして区画帯を構成しており、粘土紐の上面には撚糸圧痕・原体末端圧痕・

竹管状圧痕を連続に施文している。口縁部文様帯は幅が狭い文様帯であり、横位方向に展開する絡条体を施文している。胴部文様帯には、縄文（単節・複節）・撚糸文を施文している。

第Ⅱ群土器ｃ類（円筒下層ｂ式）（図 80 － 14 ～ 28）

全体の形状を知り得るものは出土していないが、口縁は平口縁と波状口縁（25）を呈し、口頸部が内反し器厚が薄い深鉢形である。文様区画帯は一条の粘土紐を巡らして区画帯を構成している。口縁部文様帯には横位方向に展開する絡条体を主体として施文している。20 は補修孔のみられるものである。

第Ⅱ群土器ｄ類（円筒下層ｃ式）

本類はＢ区から出土しなかった。

第Ⅱ群土器ｅ類（円筒下層ｄ式）（図 80 － 29 ～ 39、図 81 － 1 ～ 18）

円筒下層ｄ式は d1 式と d2 式に分類されているが、ここでは一括して取り扱う。形状を知り得るものは出土していないが、口縁は平口縁と波状口縁で器厚が薄い深鉢形を呈する。

文様区画帯は一条の粘土紐を巡らすが、厚さは薄く、粘土紐の上面に竹管状の連続刺突を施文している。8 は連続竹管文のみで区画帯を構成している。口縁部文様帯には横位方向に展開する絡状体を施文することが基本であり、2 の様に縦に撚糸圧痕を施文している土器もみられる。7 は横位方向に綾絡文を施文している。胴部文様帯には縄文・絡条体を施文しており、17・18 は木目状撚糸文を施文している。

第Ⅲ群土器（縄文時代中期）

第Ⅲ群土器ａ類（円筒上層ａ式）（図 81 － 19 ～ 37、図 82 － 16）

全体の形状を知り得る資料は出土していないが、平口縁と波状口縁（23・28）がみられ、口唇部上面に連続した撚糸圧痕を施文している。文様区画帯には一条の横位の粘土紐を巡らして区画帯を構成している。口縁部文様帯には波状口縁の頂端部から垂下して弧状の粘土紐を貼り付け（23）ており、粘土紐の上面には、横位及び斜位に撚糸圧痕を施文している。スス状炭化物の付着例が多い。胴部文様には縄文を施文している例が多い（30・31）。

第Ⅲ群土器ｂ類（円筒上層ｂ式）（図 82 － 1 ～ 15・17 ～ 25、図 83 － 2）

本類は波状口縁と平口縁を呈するものがみられる。形状は口頸部が内反するものが多い。

5・11 は器厚の厚い土器である。文様区画帯は横位の粘土紐を 1 ～ 2 条巡らして区画帯を構成している。口縁部文様帯は狭義の文様帯であり、粘土紐を用いて縦位･弧状に粘土紐を貼り付けており、粘土紐の上面に縄文を回転したり連続圧痕している例が多く、粘土紐の断面はかまぼこ状を呈する。なお、19 は粘土紐が素文のものである。粘土紐間には爪形撚糸圧痕及び撚糸圧痕を連続的に施文している。胴部文様帯には羽状縄文を施文している。25 は器表面に赤色顔料を塗布しているものである。

第Ⅲ群土器ｃ類（円筒上層ｃ式）（図 83 － 1・3 ～ 13・28・31）

本類は文様施文の差異から、（3・4・7 ～ 10）と（1・5・6・11 ～ 13）と二分される事が考えられるので分けて記載することとする。

図 83 － 3・4・7 ～ 10 のグループ

器形は深鉢形で、口頸部が内反し平口縁を呈する形状である。粘土紐は口唇部寄りには山形状に、

口頸部には横位に貼り付け、粘土紐の上面に縄文を回転及び圧痕している。粘土紐間には竹管状工具を用いて横位方向に連続して圧痕している。施文方法は器表面に対して斜位方向が主体であるが、４は器表面に対して垂直方向に圧痕している。８は竹管状圧痕と撚糸圧痕を施文しているものである。

図 83 － 1・5・6・11 ～ 13 のグループ

本類は竹管状工具で連続圧痕しているものであり、円筒上層ｃ式の範疇に分類したが、従来の土器様相とは異質なグループである。器表面の無文部はミガキ？がかかっており、前記のグループとは焼成・整形に違いがみられる

全体の形状を知るものは出土していないが、口頸部が内反するもの（13）及び外反するもの（11）の二通りのタイプがあり、深鉢形と考えられる。

文様は口頸部に一条の粘土紐を巡らして文様区画帯を構成し、粘土紐の上面に連続して竹管状圧痕を施文しているもの、粘土紐に沿って一条の沈線を施文している（5・11）ものがある。口縁部文様帯には竹管状工具を用いて縦位及び横位に連続して施文しており（13)、無文のものもみられる（11)。胴部文様帯には縄文を施文している。

第Ⅲ群土器ｄ類（円筒上層ｄ式）（図 83 － 14 ～ 27･30･32 ～ 37、図 84 － 1･2･4･5･7 ～ 23、図 85 － 1）

本類は粘土紐を主体とした文様構成の土器である。粘土紐の貼り付けは下記の３種類の方法がみられる。

Ａ種　粘土紐を貼り付け、粘土紐の上面を押しつける。粘土紐の上面に縄文及び連続刺突がみられ、断面はやや平べったい断面形を呈する（84 － 7)。

Ｂ種　粘土紐を貼り付け、両脇をナデる。大木式土器の隆沈線技法に類似しているが、ナデは弱い。素文のものが多く、断面は鋭利な断面形を呈する。

Ｃ種　下書き線がみられるもの。（近野遺跡では出土していない。三内丸山（6）遺跡では、下書き線のみられる土器が確認されている。）

土器の形状は全体の形状を知り得るものは無いが、平口縁及び波状口縁であり、波状口縁部に貫通孔のみられるものもある（84 － 1・2・4)。形状は口頸部が内反し、胴部が張る深鉢形の形状である。文様は斜位･弧状文様（83 － 18･20）と、縦位粘土紐を中心とした胸骨文のモチーフに近い文様（84 － 5・9）がみられる。地文に斜行縄文及び羽状縄文を施文している例が多い。83 － 37、84 － 2・4・5 は粘土紐を用いて目・口を表す。84 － 2・4 は口部を貫通孔で表しているものと考えられ、人面付土器の文様がくずれたモチーフではないかと考えられるが、断定はできず、遺構外の土器として一括して取り扱った。

第Ⅲ群土器ｅ類（円筒上層ｅ式）（図 84 － 3・6、図 85 － 2 ～ 8）

本類は全体の形状を知り得るものは無いが、平口縁と波状口縁を呈する。口頸部が内反し、胴部が張る形状であり、内反度は円筒上層ｄ式よりは弱い。波状口縁の突起部には三角形状を呈した鋭利な形状を呈し、突起部に粘土紐を貼り付けている。口唇部の上面には連続した撚糸圧痕を施文し、地文縄文には LR・RL を用いた斜行縄文を施文している。文様は、５が突起部の垂下部に縦位沈線を中心として、横位沈線を組み合わせた胸骨文のモチーフであり、他は横位と斜位の文様を施文している。スス状炭化物の付着が多い。

第Ⅲ群土器ｄ・ｅ類（円筒上層ｄ・ｅ式）（図 85 － 9 ～ 24・26）

ｄ類またはｅ類の区分がつかないものを一括した。

本類は平口縁と波状口縁を呈する。9 は突起部に粘土紐を貼り付けている。粘土紐は対に貼り付けているもの（10・12)、山形状に貼りつけているもの（10・12・17）がみられる。口唇部寄りには連続した撚糸圧痕を施文するものが多い。地文縄文は単節の斜行縄文が主体であるが、26 は結束のみられない羽状縄文を施文している。スス状炭化物の付着例が多い。

第Ⅲ群土器ｆ類（榎林式）（図 85 － 27・28、図 86 － 1 ～ 26・28・35）

本類は全体の形状がわかるものは出土していないが、波状口縁と平口縁である。5 は胴部が他の土器と違っているもので壷形を呈することも考えられる。多くは口頸部が内反する深鉢形が主体である。地文縄文には無節・単節・複節を用いているが、この段階では複節の使用頻度は高い。文様は口唇部寄りに狭義の無文帯を構成し、波状口縁の場合は突起部の垂下部に渦巻き文様を施文している。文様二～三条を一単位として円形や斜位・弧状に施文している大柄な文様構成である。

第Ⅲ群土器ｇ類（最花式）（図 86 － 8・27・37 ～ 39、図 87 － 1 ～ 31・33・41・43、図 88 － 1 ～ 17）

本類は全体の形状を知り得るものは出土していないが、平口縁と波状口縁を呈するものである。

86 － 38・39、89 － 6・7 は、口頸部の内反度が強いもので、広口壷形土器と考えられる。今回の報告は、断片的な資料が多く器種毎の細別はせず一括して取り扱うこととする。口頸部の内反部に区画帯を巡らしており、刺突は一条のものが多く、二条のもの（86 － 39）もみられる。また、横位沈線を巡らすもの（87 － 4）や、横位沈線間に刺突を施文するもの（87 － 6）もみられる。口縁部文様帯は無文であり、狭義の文様帯（86 － 37）と広義の文様帯（86 － 38）があり、無文なものが多い。無文部はミガキがかけられている。胴部文様帯には縦位の長楕円形文、二条及び三条の沈線を施文しており、87 － 31 は沈線間に縦位の連続刺突を施文している。

なお、87 － 9・10 は文様の起点部分に刺突を施文しているものである。86 － 13 は一条の縦位沈線と長楕円形文、88 － 4 は長楕円形文と渦巻文、88 － 1･5 ～ 8 は無文の土器であり、ミガキ（？）調整の痕跡がみられ、暗褐色の色調を呈する。88 － 9 ～ 12 は、無文の土器であるが、ミガキが顕著ではなく、後期の十腰内Ⅰ式に併行する土器とも考えられる。

第Ⅲ群土器ｈ類（大木 10 式併行期）（図 87 － 32・42、図 88 － 18 ～ 30）

本類は全体の形状を知り得る資料は無いが、平口縁で口頸部が内反し、器厚が薄く口唇部の断面形が丸みを呈する深鉢形である。文様は地文縄文後に文様を施文するものと、磨消縄文を用いるものがみられる。磨消には磨消技法と充填技法がみられる。文様区画帯は上位に一条の沈線を巡らすが、下位は不明である（24)。文様は弧状文及びＪ字状文が主体であり、26・30 は文様間に連続刺突を施文している。18 は口唇部寄りに器内外面に鰭状突起を有するものである。本類はスス状炭化物の付着が多い。

大木 7b・8a 式（図 83 － 29）

1 点出土した。大きく内湾した口縁部である。弧状に粘土紐を貼付け、その上に刺突を行っている。

第Ⅳ群土器（縄文時代後期）

第Ⅳ群ａ類（前十腰内Ⅰ式）（図 89 － 1・2・7・9 ～ 13、図 90、図 91 － 1 ～ 9・40）

本類は牛ヶ沢 3 式・沖附式・弥栄平式を一括して、前十腰内Ⅰ式として取り扱う。

土器は深鉢形土器で、口頸部が内反し波状口縁（89 － 1）と平口縁（89 － 2）を呈する。波状口縁はゆるやかな波状のものと、突起部が鋭利なもの（89 － 10）がみられる。口頸部が内反するものが主体であるが、口唇部寄りが内湾するものもみられる。

89 － 9・13 は壷形で、平口縁を呈する。89 － 9 は口頸部に二条の粘土紐を巡らし、90 － 11 は横位の磨消縄文を施文している。

90 － 9 は釣手形の胴部であり、張り出し部に突起（貫通孔）を貼り付けている。

90 － 10 は、胴部が張る無文の浅鉢形を呈する。文様区画帯には横位の沈線及び帯状文（磨消）を巡らして文様区画帯を構成しているが、口縁部文様帯は狭義の文様帯である。文様技法は地文縄文地に沈線の技法と、磨消縄文を用いるもの、粘土紐を用いるものの三種の文様技法が存在する。地文縄文には単節の使用が多く、磨消縄文には磨消と縄文充填技法があり、縄文を充填している例が多い。貼り付けは粘土紐の両脇に沈線でナデる隆沈線技法（90 － 12）と、粘土紐の貼り付け（90 － 13）がみられるが、貼り付けの技法は少ない。文様は、渦巻き文を交互に施文しているもの（89 － 1）、弧状文及び斜位状文を組み合わせているもの（89 － 2･7）があり、大柄な文様構成が多くみられる。90 － 1・2 は折り返し口縁の土器であるが、折り返しの部位に縄文を回転している。90 － 9・36 は器内外面に、明らかにスス状炭化物とは違う黒色付着物？が塗布されている。

第Ⅳ群土器ｂ類（十腰内Ⅰ式）（図 89 － 3 ～ 6・8、図 91 － 10 ～ 39・41 ～ 45、図 92 － 1 ～ 7・9・10）

本類の器形は、平口縁で口頸部が内反する深鉢形と、波状口縁（16・17）がみられる。波状口縁の頂端部には限定して、刻み及び指頭圧痕を施文している。89 － 6 は波状口縁で、橋状把手をもつ大形の壷形土器、18・33 は口頸部が短い短頸壷である。

文様技法は沈線文が主体であり、2 ～ 3 本を 1 単位として施文している。沈線の幅は太いものは深鉢形、細いものは浅鉢形に施文されている。なお、92 － 6 は櫛歯状沈線を施文している。磨消縄文は単節を用いた充填技法が多い。

89 － 3 ～ 5 は、無文の鉢形である。底辺部が内反し平口縁を呈する。器表裏面の調整は粗い。

第Ⅴ群土器（縄文時代晩期）（図 92 － 11 ～ 26）

本群土器は出土量が少ないため一括して取り扱う。

11 ～ 13 は口唇部上面に二股状突起があり、口頸部が内反する深鉢形である。文様区画帯には横位沈線と列点を組み合わせた文様区画帯を施文している。口縁部文様には横位に展開する三叉状入組文を施文し、胴部には縄文を施文している。器内外面にスス状炭化物の付着が多い深鉢形であり、晩期前半期に併行すると思われる。14 は平口縁で口唇部寄りに横位の沈線がみられ、鉢形土器と思われる。18 ～ 25 は縄文のみを施文した土器であり、平口縁でスス状炭化物の付着が多い。深鉢形及び鉢形を呈する粗製土器であり、本群の時期に該当すると思われる。

第Ⅵ群土器（時期不明）（図 93 ～ 95 － 29）

時期が確定できない粗製土器を一括して本類とした。

93 － 1 ～ 4 は羽状縄文で結束のみられるものと、みられないものがあり、時期は円筒上層系と考えられる。

94 － 1 ～ 31 は粗製の土器であり、縄文のみを回転して施文するものが多い。平口縁が主体を占めるが、94 － 23 は波状口縁を呈するものである。形状は口頸部が内反するものであるが、94 － 11 は口唇部寄りが内湾している形状であり、器形は深鉢形と思われる。スス状炭化物の付着が多い。時期は、中期～晩期であるが、中期後葉の時期が主体を占めると思われる。94 － 32 ～ 36 は単軸絡状体であり、撚糸文･網目状撚糸文を施文している。スス状炭化物の付着が多い。焼成は不良である。時期は後期前葉期と考えられる。

95 － 1 ～ 7 は底面に文様をもつものであり、95 － 1・5 は底面に一条の沈線を施文しているものであり、95 － 2・6 は網代痕を有するものである。時期は、95 － 5 が後期前葉期と考えられるが、他は中期と考えられる。95 － 8 ～ 22・26 ～ 29 は、底辺部及び底部の土器を一括したもので、器表面は無文または縄文のある粗製土器である。95 － 20・21・26 ～ 29 は底径 5 ㎝未満の小型土器である。器種は深鉢形が主体（95 － 1・2）であるが、95 － 21・22・26 は鉢形と考えられ、26 は器高の低い鉢形土器である。時期は前期～晩期と時期幅がある。95 － 22・23 は赤色顔料を塗布しているもので、22 は底部で器表裏面に、23 は胴部破片で器裏面に塗布しており、顔料の色調は茶色に近い色調を呈する。時期は 22 が後期、23 が中期の円筒上層系と考えられる。95 － 24・25 は口縁部に粘土を縦位に貼り付けたものである。24 は口唇部を覆うように両面に貼りつけられたもので、何らかの形の意匠とも考えられる。25 は外面に縄文、内面に半円形の隆帯を貼り付け、さらに隆帯の上に連続した刺突を施している。（成田）

2. 土製品＜縄文＞（図 95 － 30 ～ 33）

縄文と思われる土製品は遺構外から、4 点出土した。

円盤状土製品（30・31）2 点出土した。土器の胴部片を再利用したものである。周縁を打ち欠いたもので、側面に研磨痕は見られない。2 点とも縄文に沈線が施されたものである。30 は 3 本の平行する幅広の沈線、31 は磨消縄文が施されている。

その他　32・33 は土製品の破片である。32 は厚さ 2.7 ㎝で、本来の形状は楕円または長方形の板状のものと思われる。側面中央に沈線を巡らし、沈線の両側に直径 3 ㎜の円形刺突を等間隔で巡らす。縄文時代後期のものと思われる。33 は直径 1.2 ㎝の円形で上面に一部突起があり、上面・側面に縄文を施されている。環状土製品の一部と思われる。時期は縄文時代晩期以降と思われる。（杉野森）

3. 弥生土器、続縄文土器（図 96）

弥生土器（図 96 － 1 ～ 9）

本群土器は出土量が少ないため一括して取り扱う。

1・2 は壷形の胴部破片であり、斜位状文の文様構成である。4 は横位沈線の下部に山形状文を施文し、下位に縞状の縄文を施文している。6 は蓋の一部であり、弧状の磨消縄文を施文している。（成田）

続縄文土器（図 96 － 10・11）

口縁部破片 2 点（10a, 11）と胴部破片 1 点（10b）が出土した。出土地点はいずれも FA － 248 グリッドの第Ⅱ層である。器面は全般に磨滅しており、状態があまり良くないため実測図と拓影図で示した。

10a と 10b は文様の位置関係から１個体の復元実測図とし、11 は破片のままの実測図としたが、これら 10 と 11 は胎土・焼成の類似性や出土地点のまとまり等より同一個体と推定されることから以下では 10 と 11 の特徴をまとめて記す。

小型の深鉢形土器であり、型式的には後北 C2・D 式と判断される。推定口径は 18.55 ㎝を測り、口縁近くは緩やかに内傾し、体部下半は欠損している。器厚は５～６㎜を測り、胎土にはφ１㎜以下の砂粒が全体的に含まれている。焼成は堅緻で、暗褐色～黒褐色を呈す。炭化物の付着は認められない。

口縁部は波状を呈し、４個の波頂部を有すると思われる。また、口縁部の上面観は４個の波頂部を角にした隅丸方形を呈していると推定される。

内外面の器面調整をみると、外面は文様のためにほとんど確認できないが、内面には幅５～７㎜の横位のナデがわずかに観察される。

口唇部の外面端部には断面三角形の刻目貼付帯が施され、その下部には口縁に平行する横位の帯縄文が巡らされている。波頂部および波頂部間には縦位の帯縄文が施され、さらに波頂部の下位には楕円形の帯縄文が、そしてその楕円形の帯縄文は２段目の横位の帯縄文によって連結されていると推定される。

帯縄文は単節の RL によると思われ、個々の節は条に対してほぼ直角かつ密に並んでいる。帯縄文は蚯蚓腫れ状の微隆起線に縁取られる隆線帯縄文である。微隆起線は丁寧に貼付されているため、帯縄文の微隆起線に近接する部分は消えており、１単位の帯縄文における縄文の条数はわずか３～４条と少なくなっている。

隆線帯縄文間の無文（空白）部分には三角形の連続刺突が沿わされている。刺突の刺先端は尖っており、断面も三角形を呈する。

これら文様の施文順序は、(帯縄文施文)→(貼付帯・微隆起線の貼付)→(微隆起線の接着部縁のナデ)→（刻目・刺突）と観察される。（木村）

4. 剥片石器（図 97 ～ 100）

総数 327 点の剥片石器が出土している。B 区全体の器種組成は石鏃（25 点　8％）、石槍（7 点　2％）、石匙（15 点　5％）、石篦（6 点　2％）、異形石器（2 点　1％）、両極加撃痕跡のある剥片（22 点　7％）、二次調整のある剥片（69 点　21％）、微小剥離痕のある剥片（40 点　12％）、剥片（105 点　31％）、砕片(21 点　6％)、石核(15 点　5％)からなる。石材は珪質頁岩が約 94％を占め、チャート、玉髄、珪質凝灰岩、細粒凝灰岩、鉄石英、流紋岩質砂岩、瑪瑙がわずかに含まれる。縄文時代の遺構から出土したものは 10 点を数える。第 14 号竪穴住居跡では二次調整のある剥片（3 点）、剥片（2 点）、微小剥離痕のある剥片・石鏃（97 － 1）・石槍（97 － 2）・石篦（各 1 点）が出土している。第 15 号土坑では石槍（97 － 3）1 点が出土している。

1）石鏃（図 97 － 1、図 97 － 4 ～ 26）

鋭利な先端部が作り出された偏平で小型の石器を「石鏃」とした。25 点出土している。基部の形状から以下のような類型を設定した。Ⅰａ類（無茎凹基）：茎が無く、基部に抉りが認められるもの。6 点出土している。抉入部の形態、長幅比は多様である（97 － 4 ～ 6･8･9 他）。Ⅰｂ類（無茎平基）:

茎が無く、基部を直線的に加工しているもの。1 点出土している。97 － 12 は斜位平行の二次加工がほぼ全面にわたって施されている。先端部が欠損しており、左側縁に連続的なツブレが認められる。**Ⅰｃ類**（無茎凸基）：茎が無く、基部を凸状に加工しているもの。3 点出土している（97 － 7・10・11）。7 は側縁に不規則な凹凸が認められ、先端部には厚みが残る。また、11 は基部側の調整が粗雑であり、厚みに偏りがある。ともに完成品に到達する前段階で製作を中止した「失敗品」（阿部 2000）の可能性がある。**Ⅱａ類**（有茎凹基）：茎から肩にかけて抉りが認められるもの。3 点出土している（97 － 13 ～ 15）。13 は茎にアスファルト状物質が付着している。**Ⅱｂ類**（有茎平基）：茎から肩にかけて直線的に整形されているもの。4 点出土している（97 － 16 ～ 19）。**Ⅱｃ類**（有茎凸基）：茎から肩にかけて凸状に整形されているもの。7 点出土している（97 － 1・20 ～ 25）。21・22 は茎にアスファルト状物質が付着している。22 は交互剥離によって二次調整が施されており、長さ 7 ㎝に達する。先端部の最終調整は背面側および腹面側の左側縁に、茎は背面側に押圧剥離が施されている。

2）石槍（図 97 － 2・3・27 ～ 29）

一端もしくは両端を鋭利に加工し、石鏃よりも大型で刺突具としての機能を果たし得る石器を「石槍」とした。遺構内で 2 点、遺構外で 5 点出土している。いずれも珪質頁岩を素材とする。2 は直接打法によって調整加工を施している。背面側右側縁は交互剥離で整形されており、腹面側からの加撃で最終調整を行っている。29 は幅広で薄い調整剥離で全体を整えた後、側縁を押圧剥離によって整形している。最大幅は先端部付近にあり、基部を欠損している。残存長は 11 ㎝に達する。

3）石匙（図 97 － 30 ～ 32、図 98 － 1 ～ 11）

素材剥片の一端に抉りを加え、つまみ部を作り出しているものを「石匙」とした。素材剥片の形状、つまみ部と刃部の関係から縦型、横型、斜刃型の類型に分類した。縦型石匙が本器種全体の 3 分の 2 を占める。全体的に摩滅している個体が多く、光沢が顕著に認められる。**Ⅰ類**（縦型）：10 点出土している（97 － 30 ～ 32、98 － 1・2・4・5・7・11 他）。32 はつまみ部が背面側左側縁に寄り、腹面側に顕著な光沢が認められる。4 は腹面側右側縁に打面となる調整剥離が施される「松原型石匙」（秦 1991）の特徴が認められる。11 は調整加工が荒く、刃部が形成されていない。素材剥片の厚みを減じることができず、整形を断念したものと考えられる。**Ⅱ類**（横型）：3 点出土している（98 － 3・9・10）。3 は節理による折れ面に刃部を作出しており、刃部が鋭角をなさない。9 はつまみ部にアスファルト状物質が付着している。腹面側刃部に直交する方向で線状痕と光沢が認められる。**Ⅲ類**（斜刃型）：2 点出土している（98 － 6・8）。8 は背面右側縁に連続的な調整剥離が加えられている。つまみ部分の抉りは背面左側縁で腹面側と背面側の両側から深く加えられており、刃部側には明瞭な抉りが作出されていない。

4）石篦（図 98 － 12 ～ 15）

比較的粗雑な調整加工が全面にわたって不連続に施され、撥形に整形しているものを「石篦」とした。6 点出土している。**Ⅰ類**：調整加工が素材剥片の腹面、背面全体に等しく及ぶもの。2 点出土している（98 － 12・14）。12 は小型で丁寧な調整加工が施されている。背面右側縁に連続的な調整剥離が施されており、明瞭なつまみ部が形成されていないが形態、調整技術は石匙に類する。14 は幅広で薄い調整剥離が全体に施され整形されている。リングの高まりで光沢が発達しており、刃部に階段

状剥離が顕著に認められる。刃部付近の剥離にパティナの差がみられる。**Ⅱ類**：調整加工が腹面側におよばないもの。1 点出土している。13 は厚みの有る素材礫の端部剥片の全周に連続的な調整剥離を加えて整形したものである。主要剥離面末端にほぼ直角の刃部が形成されている。**Ⅲ類**：急角度の調整加工が側縁部に施されるもの。2 点出土している（98 － 15 他）。15 は粗雑な調整剥離が背面側全体におよび、腹面側は側縁以外の部分に調整加工がおよばない特徴をもつ。刃部側で稜が摩滅し、光沢が著しい。刃部に直交する方向で線状痕が認められる。

5）異形石器（図 98 － 16・17）

背面、腹面に細部調整加工を施し、特異な形状で機能が不明確なものを一括して「異形石器」とした。2 点出土している。いずれも DL － 233 グリッドからの出土であり、三日月形を呈する。珪質頁岩を素材とし、同一母岩から作られたものと考えられる。

6）二次調整のある剥片（不定形石器）（図 99・100 － 1 ～ 8）

調整加工が認められ、定形的な石器群に含めることができないものを「二次調整のある剥片」とした。「スクレイパー」、「掻器」、「削器」、定形的な石器の未成品、失敗品、破損品は本器種に含まれる。主要剥離面と調整加工の位置、形状から以下のような類型を設定した。**Ⅰ類**：縦長剥片の片側側縁に連続的な調整加工が施されたもの。7 点出土している（99 － 1 ～ 3・7 他）。**Ⅱ類**：縦長剥片の両側縁に連続的な調整加工が施されたもの。3 点出土している（99 － 4･6･8）。**Ⅲ類**:縦長剥片の両側縁、および先端部に連続的な調整加工が施されたもの 3 点出土している（99 － 5 他）。**Ⅳ類**：不連続な剥離が部分的に施されたもの。32 点出土している（99 － 9、100 － 1 ～ 3 他）。**Ⅴ類**：横長剥片の先端部に連続的な調整加工が施されたもの。2 点出土している（100 － 4 他）。**Ⅵ類**：粗雑な調整加工が施されているもの。失敗品、定形的な器種の未成品も含まれる。22 点出土している（100 － 5 ～ 8 他）。100 － 5 は両極加撃によって素材剥片を作出し、両側縁に押圧剥離による調整加工が連続的に施されているものである。

7）微小剥離痕のある剥片（図 100 － 9 ～ 11）

剥離の幅が 1 ㎜に達しない微細なものを「微小剥離」と総称し、連続的に「微小剥離」が認められるものを「微小剥離のある剥片」として一括してまとめた。これらは使用による刃こぼれ、調整加工、偶発剥離（西秋　1994）いずれかの可能性をもつものである。40 点出土している。

8）両極加撃痕跡のある剥片（図 100 － 12 ～ 15）

両極加撃の痕跡が認められる一群を「両極加撃痕跡のある剥片」とした。「楔形石器」「ピエス・エスキーユ」は本類型に含まれる。両極剥離面の認定基準は以下のように設定した。①一つの剥離面に対して打点が対になる形で 2 点以上存在し、リングが両打点から広がる「剪断面」が形成されている。②打点が複数存在し、縁辺に顕著な階段状剥離が対になって認められる。③バルブの発達が弱く、剥離の末端でリングが密集する。直径 3 ㎝程度の礫に両極打撃を加え半裁している単純なもの（100 － 14・15）から加撃が繰り返されたことによって楔形をなしているもの（100 － 12・13）までを一括している。22 点出土している。剥片石器全体の中では珪質頁岩以外の石材は 1 割に満たないが、本器種のみでは瑪瑙、チャートが 27.8％と比較的高い割合で含まれており、素材と製作技術の間に相関性を認めることができる。

9）剥片、砕片、石核（図 100 － 16・17）

調整加工、微小剥離がなく、最大幅 1 ㎝以上を「剥片」、1 ㎝未満を「砕片」とした。また、ネガ面によって構成され、素材剥片を作出した原石素材の残りを「石核」（100 － 16・17）とした。総点数は剥片 105 点、砕片 21 点、石核 15 点である。（斉藤）

5. 礫石器（図 101 ～ 106）

加工及び明瞭な使用痕跡を有する礫は約 170 点出土した。大半は平安時代の住居跡の竪穴部と外周溝の堆積土中から出土している。そのほかは表土から出土したものが多く、基本層序第Ⅱ層以下から出土したものは僅かである。種類は敲磨器類が 3 分の 1 を占め、石皿・台石類、砥石・加工礫が次ぐ。これらは時代を特定付けられる要素が少なく、縄文時代のものか平安時代のものかを判断できないものが多かった。そのため、平安の遺構内のもので、縄文時代のものと特定できないものは平安の遺構内出土とし、縄文時代のものは遺構外扱いとした。遺構外での出土状況は第 10 号竪穴住居跡から第 12 号竪穴住居跡の周辺にまとまり、この範囲から西側・東側に向かい分布は稀薄になる。

分類の中で、敲磨器類については明瞭な凹みを有するものを凹み石、敲打されているが凹みになっていないものを敲き石とした。石皿・台石類には磨り石の様な平滑な使用面を有すものを含み、石皿と台石の区分はせず一括している。

磨製石斧（図 101 － 1，104 － 1 ～ 3）

縄文時代の竪穴住居跡から 1 点（101 － 1）、遺構外から 4 点（104 － 1 ～ 3）出土した。石材は緑色細粒凝灰岩で、全て破損品である。刃部のみ残存する 2 点は一部磨滅している。104 － 2 は両面ともに研磨調整で除去できなかった成形時の剥離が残存する。104 － 3 は基部に丸味があり、残存する幅から推定するとやや小振りの石斧と思われる。

敲磨器類（図 101 － 4・5・7，102 － 3 ～ 5・10・11，103 － 1・4・5・8，104 － 8 ～ 15，105，106 － 1 ～ 6）

敲磨器類は 92 点出土した。磨り石（A 類）が 54 点と最も多く、敲き石（B 類）19 点、凹み石（C 類）18 点である。このほか、複合痕跡では磨り＋敲き（AB 類）を有するもの 4 点、磨り＋凹み（AC 類）のもの 6 点、敲き＋凹み（BC 類）のあるもの 1 点が出土した。

磨り石（A 類）は器面に滑らかな使用痕跡を有するもの、側面に明瞭な使用面を有するものに区分される。第 6 号竪穴住居跡出土の 101 － 5 は厚さが 9 cm 弱で、器面 8 面に使用痕跡がみられる。各免の使用状況には差があるようで、全体に滑らかな面、原礫面を残し部分的に使用された面がみられる。形状から砥石のように使用されたことも考えられる。敲き石（B 類）は器面中央を使用したもの、端部や側縁を使用したものと多様である。105 － 12 ～ 15 は球状礫を素材とし、敲打による潰れと不規則な剥離がみられる。凹み石（C 類）は円礫よりも楕円の礫を素材とする傾向が見られる。凹みの深さは 5 cm 以下ものがほとんどであるが、大型礫を素材とした 103 － 5 は 15cm と深い凹みである。複合痕跡のものは、AB 類では器面に磨り両端部に敲打痕のあるもの（102 － 4）、2 面に磨り 1 面に敲打痕のあるもの（104 － 15）が出土した。2 AC 類は器面に凹み側面に磨り面を有するもの（102 － 3 ・ 5、104 － 13）、同一面に凹みと磨りの痕跡を有するもの（104 － 12、105 － 16）がみられる。2 BC 類は器面に広範囲な凹み、両端部に敲打痕を合わせ持つもの（105 － 9）

が出土した。

石材については磨り石・敲き石とも安山岩と流紋岩を主体とし、磨り石には輝緑岩・閃緑岩・ホルンフェルス・玢岩、敲き石には珪質頁岩やチャートも加わる。凹み石は流紋岩を主に使用する傾向が伺える。

台石・石皿類（図 102 － 1・2・7，103 － 6・7，106 － 11 ～ 13）

20 点出土した。遺構内から出土したものが 14 点あり、住居跡床面とカマドおよびカマド周辺で出土している。使用痕跡が明瞭なものは少なく、平らな面に滑らかな磨り面をもつものが主体である。第 60 号土坑出土の 103 － 7 は大きめの扁平な礫を使用し、擂り鉢状の凹みがあり、広範囲に褐鉄鉱が付着している。103 － 6 のように浅い敲打痕を有するものもみられる。遺構外から出土した２点（106 － 12・13）は縁を有する。12 は器面中央に平滑な磨り面があり、縁辺には成形時のものと思われる敲打痕が残る。13 にも中央に浅い敲打痕を有するが、これは使用時の痕跡とも考えられる。石材は安山岩・石英質安山岩・凝灰岩・流紋岩が使われ、大きめのものには安山岩を意識的に素材を選択しているようである。

砥石（図 101 － 2・3・6・8 ～ 11，102 － 6・8・9，103 － 2・3）

遺構内から 14 点、遺構外から４点の計 18 点である。平安時代の住居跡や溝跡から出土したものが圧倒的である。石材は主に流紋岩を多用し、凝灰岩・頁岩・砂岩も使用されている。器面・側面と複数面を使用したものが多く、中には破損した面を再利用したものもある（102 － 6）。一部端部・側縁に成形時の敲打痕が残存する。石材は流紋岩と凝灰岩を多用し、頁岩と砂岩も僅かに使用されている。

石錘（図 104 － 4 ～ 8）

４点出土した。大きさ 10cm 前後の円礫の長軸端部に両面加工で抉りが入れられている。４は一器面中央に敲打による使用痕と一側縁に連続した剥離が施されている。５は器面に滑らかな磨り面を有し、中央に浅い敲打痕がある。石材は安山岩と流紋岩を使用されていている。

加工礫（図 106 － 7 ～ 9）

礫の縁辺に剥離加工を施されているものを一括した。12 点出土し、５点図化した。側面加工は片面のもの（106 － 7 ・ 9）、両面のもの（106 － 8・10）がある。106 － 7 は稜の部分にざらつきのある磨り面を有する。石材は流紋岩・頁岩・安山岩・凝灰岩などである。　　（杉野森）

6. 土師器・須恵器　（図 107 ～ 127）

土師器片は甕と坏の破片が圧倒的に多く、埦・小型土器・壷・皿が続く。小型土器は底部径が５cm 以下のものを一括した。須恵器は甕が大半を占め、坏・壷・鉢・硯の破片も出土している。出土量は８対２の割合で土師器が須恵器より多い。

土師器・須恵器は遺構内から出土したものが８割を占める。その内、竪穴住居跡の竪穴部・外周溝から出土したものが圧倒的である。竪穴部の床面・床面直上から出土したものは少なく、堆積土中から出土したものが多い。また、住居跡に付属する外周溝先端部に遺物が密集する傾向が伺える。

遺構外からはダンボール７箱分の土師器片・須恵器片が出土した。主に基本層序第Ⅱ層の黒色土が堆積する第４号・第 10 号竪穴住居跡付近の標高 20 ｍ前後の位置から出土している。特に第 10 号

住居跡周辺では多量の土器だけではなく、鉄関連遺物・羽口・支脚・礫石器・土鈴なども一緒に出土している。このほか、第 21 号･第 6 号竪穴住居跡周辺からも比較的出土している。

遺物は各遺構単位で、層位を問わず、器形毎に掲載している。本来であれば、ここで個々の遺物に関する詳細な記載を述べるところだが、今回は第 2 章検出遺構の各遺構の出土遺物の項目と、簡略的な所見をここで記載するのみに留める。詳細は次年度以降、東側の台地（E 区）の平安時代の遺物を観察した上で報告することとする。

土師器

坏：ロクロ使用で、内外面とも無調整のものが圧倒的である。底面はロクロから切り離された際の回転糸切り痕が認められるものが多く、ナデやケズリ調整が施されたものはごく僅かである。また、内面にミガキ調整や黒色処理が施されたものは破片を含めても 5 点と極めて少ない。口縁部にススが付着したものは 20 点ほどである。器形は口縁がやや内湾するものが多く、底部から口縁にかけて直線的に開くものと体部に屈曲を有するものは少ない。底面と体部の境は明瞭で、中には底面から直線的な立ち上がりをなすものも（108 － 2、109 － 2 他）ある。ヘラ記号のあるものが 2 点出土した。

甕：ロクロを使用せず、胴部上半部で最大の膨らみをなす器形のものが多い。調整は口縁部ヨコナデ、外面ナデ・ケズリ、内面ナデが主体である。外面のケズリの痕跡は不明瞭なものが多く、ナデと区別のつかないものやケズリの方向が観察できないものもみられる。甕の規模は底径 10cm 前後の大形のもの、底径 5 ～ 8 cm で器高が 20cm 以下の中型のものに区分される。大形のものの中には胴部に膨らみを持たず、底部から口縁に直線的に延びるバケツ形を呈するもの、中型のものには胴部中央が膨らむ球胴状のもの、胴部下位から口縁に直立する器形のものもみられる。底部は内面に細かいナデ調整、外面にケズリやナデ調整または砂底・木葉痕が残っているものがある。外面に粘土が付着するものや口縁部にススが付着したもののほか、底部内面に黒色処理が施されたものも 2 点ある。ロクロ使用の甕は少なく、器形は胴部に膨らみを持たず胴部中央から直立し口縁で最大径となるもの、胴部中央で僅かに膨らみをもつものなどがある。内外面ともケズリ・ナデ調整が部分的に施されている。

堝：6 点図化した。口縁部ヨコナデ、外面ナデまたはケズリ、内面にナデ調整で施される。底部はほどんど平底だが、底部に立ち上がりを有するもの（107 － 15 他）と立ち上がりを持たないもの（110 － 16）がある。胴部形状は口縁に向かい直線的に延びるもの（110 － 2 他）、やや内湾し、口縁に屈曲をなすもの（107 － 15）がある。

壷：出土量は堝より少なく、4 点図化した。ロクロ成形後、ナデ調整を行っている。大きさはやや小振りなもの（108 － 20）と 112 － 24 のような大型のものとがある。124 － 11 も大きめの壷の口縁と思われる。焼成は良好で、色調は橙色や灰白色である。

小型土器：8 点図化した。完形品は 120 － 8 の 1 点のみである。甕同様、口縁にヨコナデ、内面にナデ調整が施されている。その他は内外面ともナデ調整が多く、ケズリは稀である。

須恵器

坏：全てロクロ調整で、底面は回転台から切り離し後無調整のままである。外面にヘラナデ・ヘラケズリがみられるものは僅かである。器形はおおかた土師器の坏と類似するが、124 － 30 のみは底面と体部の境に丸みを帯び、他の坏に比べ底面径が広い形状である。ヘラ記号のあるものは 13 点である。

甕：内外面ロクロ調整の小・中型のものと、外面にタタキ調整が施される甕がある。中・小型甕は口縁部が「く」の字に外反するもの、外反せず直立気味なものが半々である。胴部が弧状に張り出すものが多いようである。大甕の内面はナデ調整がほとんどである。ヘラ記号のあるものは４点である。

壷：破片資料が多く、全体の形状のわかるものはなかった。口径は 10 ～ 17cm のものが多く、７～ 10cm 以下は５点と少ない。口径の小さい長頸壷（113 － 3）や大型の壷（113 － 1）もあるが、破片の多くは大・中型の広口壷と推測される。口唇部は平坦なものより尖るものが多く、底面は菊花状の削り出しを施すものが多いようである。ヘラ記号があるものは２点である。

鉢：完形のものが１点出土している（116 － 24）。ロクロ成形で、底面は回転糸切りによる切り離しで、胴部にはヘラ記号がある。器高に対する口径との比率は１：1.2 である。

硯：１点（108 － 9）出土した。「大」のヘラ記号のある蓋を転用したものである。内面中央は黒色でとても滑らかである。このほか、111 － 5 の坏は内面に部分的ではあるがやや光沢があり滑らかな黒色物が付着している。硯に転用された可能性も残る。　（杉野森）

7. 土製品＜古代＞（図 128 － 1 ～ 12、図 129 － 1 ～ 11）

図化することが困難な細片を除く、23 点を図示した。なお、実測図中の割れ部分の表現については、必要に応じて図化した部分と省略した部分がある。

土鈴（図 128 － 1 ～ 12）

遺構内から 11 点、遺構外から１点の 12 点が出土した。そのいずれもが破損品であるため、成形上の特徴、調整、胎土等の相互比較から土鈴と判断した。

〔特徴〕

紐部：形態は土鈴出土の集中する浪岡地域でも多数を占める棒状のものが５点、摘まみ出し程度の小振りな紐部に紐穴を有するものが１点（6）の２種が出土している。紐穴を有さない棒状の紐部では、２本（4）もしくは３本（1・5）の粘土紐を束ねて棒状に成形しているものがある。また、1はさらに側面に厚さ１㎜ほどの化粧粘土を貼り付けた後に、入念にミガキを施している。

体部：形態を判断できるものは限られるが、縦長もしくは横長の長楕円形である。9 は半球形状の上半部、下半部を個別に成形した後に接合して、中空の体部を作出している。そのため内面では、この粗い輪積みに似た接合部の痕跡が明瞭に残る。2 に見られる剥離面は、この接合部の剥落によるものであろう。鈴口は、この中空の球体にヘラ状工具により切れ込みを入れることで作出している。また、紐部と体部が個別成形後に結合された場合、この部分で破損する可能性が高いと考えられ、9 の体部上半の剥離面がこれにあたると思われる。

調整：内外面共にナデによる整形、調整が多い。1・9 は加えて丁寧なミガキが施される。

〔出土状況〕

BSK60 を含む BSI10・11 周辺から 12 点中８点が出土している。なかでも、BSI11 から出土する３点は、いずれもカマド付近からの出土である。また、土鈴と共に土玉が出土する遺構（BSI10、BSI10SD1、BSI13SD1）がある。これらは、すでに指摘のある「住居単位の祭祀」（国生　1992）という土鈴の性格を想起させる出土状態といえる。

土玉（図 129 － 1 ～ 3）

遺構内から 3 点が出土し、いずれも同一の遺構から土鈴が出土している。1・2 は黒褐色を呈し、形状も類似していることから共通の規格性を看取できる。一方、3 は黒色部分にムラがあり、一部が灰白色となる。また成形、調整、穿孔も前者に比べ粗雑である。

球状土製品（図 129 － 4）

遺構内から 1 点が出土した。わずかに扁平であるものの、概ね球状を呈する。用途は不明であるが、土鈴が出土していることから、土鈴の体部に収められた鈴子の可能性がある。

紐状土製品（図 129 － 5）

これまでに「土師質特殊遺物」（青森県教委　1998 ほか）として報告されているものに類似している。そのため、土製品とは分離され得る可能性があるが、1 点のみの出土のため、ここでは土製品に含めて報告する。形態は両端部に向かうにつれ細くなる紐状で、両末端は軽く摘まんである。成形以外の調整は認められない。

その他（図 129 － 6 ～ 11）

土製品としたが、細片であるために種別の判断ができなかったものをここで一括する。個別の観察は観察表に記載した。（荒谷）

8. 焼成粘土塊（図 129 － 12 ～ 16、写真 58 － 1）

胎土中に植物性の繊維の混入が認められる不定形の粘土塊を一括した。全形を窺い知ることの出来るものは皆無で、成形部分が認められない、もしくは欠損したと考えられるものが大部分を占める。さらに成形部分を残すものに関しても、製作者の形状に対する意図や意識が低い、もしくは希薄という印象を受ける。なお、以上の理由により、属性の判定に関しては不確実な要素も多く含むが、今回は 2300.1g を焼成粘土塊として抽出した。

図示は成形の痕跡をとどめるものについてのみ行った。12 ～ 14 は成形による平坦面を残すものである。いずれも平坦面に直線状の圧痕を観察できることから、柾目の板を用いて製作された可能性がある。15 は芯材？痕をもつもの、16 は短軸断面形が円形の円柱状を呈すると考えられるものである。写真 58 － 1 は明確な成形の痕跡を残さないものの、一部が被熱により黒色化している。また、胎土内に直径 3 ㎝程の土質の異なる粘土塊？が混入している。（荒谷）

9. 石製品（図 129 － 17 ～ 26）

石製品は 11 点出土した。大半は平安時代の遺構から出土したものである。遺構外出土のものは時代を特定できる要素が少ないため、時代区分せず一括した。

BSI4 から出土した 2 点（17・18）は軟弱なシルト岩を素材とし、厚さ 5 ㎝の長方形に切り出されたものである。下面には幅 8 ㎜の整形痕が 3 本認められる。表面の大半は被熱により赤または黒に変色している。出土位置からカマドの芯材に使用されたものと考えられる。19 は床面直上から出土したメノウ（瑪瑙）製品である。中央に穿孔があるが、穿孔方向は良く観察できず、不明である。20 は球状に加工されたものの破損品である。器面は粗く、自然面に近い状態である。21 は幅 5 ㎜の沈線を有する。欠損部が多く本来の形状は不明である。BSI18 から出土した 22 はカマドの袖の芯

材に使用されている。厚さ約５㎝の長方形に成形されたもので、器面には部分的に滑らかな磨り面がみられる。石材は流紋岩である。遺構外から出土した 23 ～ 26 は器面を研磨したもの（23・26）、側面に溝を巡らしたもの（23）、器面研磨後、敲打されたもの（26）である。形状とこれまでの類例から、23・24・26 は縄文時代の可能性も考えられる。（杉野森）

10. 製塩土器（図 130）

外面に粘土紐の接合痕跡を明瞭に残し、内面に顕著なナデ調整を施した土器を「製塩土器」として分類し、一部を図示した。本報告における「製塩土器」の認定基準は下記の特徴を満たすものであり、本器種は土師器の一類型に含まれる。①外面に粘土紐の痕跡を残す　②胎土に砂粒を多く含む　③土師器の甕よりも器壁が厚く、土製支脚よりも薄い　④内面のナデ調整が丁寧、同一個体と考えられる底部には柾目状の圧痕が認められる　⑤破片によっては赤色変化が著しく、橙色を呈する。

器形は八戸市根城三丁目遺跡、六ヶ所村表館（1）遺跡出土の復元資料に基づき、バケツ状の深鉢を想定している（北林　1994 他）。体部破片については、輪積み痕を消去する縦方向のナデの有無によって、甕や堝にしばしば認められる輪積み痕跡が残るものと識別する基準とした。また、胎土、色調、輪積み痕跡で共通点の多い支脚は器厚、径の大きさに基づいて選別を行った。

「製塩土器」の可能性がある土器片の総点数は 478 点、総重量は 2670g に達する。一辺４～５㎝程度の方形の破片で出土しており、内面が薄く剥落しているものが多い。色調は外面で赤褐色～橙色、底部付近内面で鈍い橙色を呈する。口縁部、底部付近の破片から粘土紐の接合は内傾を基本としている。内面には非常に丁寧なナデ調整が施されるのに対して、外面はわずかにナデ調整が施されるのみであり、粘土紐の接合痕跡を消す意図的な調整はほとんど認めることができない。

なお、18 ～ 22 は第 21 号住居跡外周溝堆積土からの出土で、胎土、色調、出土状況から同一個体が一括廃棄されたものと考えられる。

口縁部（図 130 － 3・9・13・15・17・23）

６点図示した。３は内面をヨコナデによって成形した後、外面側に端面が押しつぶされている。外面にはヘラ状工具によるナデの痕跡がわずかに認められる。９はヘラ状工具による口唇部切り取りを施した後、ナデ調整を内外面に施している。15・17 はともにヘラ状工具により口縁部内面はナデ、口唇部はヘラ切りによって成形されている。15 は破断面が赤変しており、破損後に二次的な被熱を受けたものと考えられる。

体部（図 130 － 4・10・16・18・20 ～ 22・24）

８点図示した。輪積み痕に直交する縦方向のナデがほとんど認められず、赤変が著しい個体を「製塩土器」に含めた。４は内面が剥落しているが、径の大きさから「製塩土器」と判断した。接合痕跡を残しており、外面は無調整である。24 は胎土に直径５㎜程度の礫を含む。外面にはヘラ状工具による横方向のナデ調整が認められる。内面は剥落している。

底部（図 130 － 1・2・5 ～ 8・11・12・14・19・25・26）

12 点図示した。柾目状圧痕が認められる個体を本類型に含めた。剥落が著しく、厚さを測ることができた個体は 12 のみである。底部破片の中には二次焼成により破断面まで橙色の色調変化が及んでいるもの（1・5・6・12・15）が認められる。１は底部外側から破断面にかけて二次被熱による

変色が認められる。内面は円弧を描くようにユビナデが施されている。2 は底部外側の一部のみが残存している。内面が剥落しており、柾目状圧痕以外の調整、製作技術については不明である。5 は内面から破断面の一部にかけて著しい赤色変化と剥落が認められる。内面にはヘラ状工具によるものと思われるナデが施されている。6 は胎土に砂粒が多く含まれている。底部と器壁内面の接合痕はユビナデによって整えられている。12 は内面に「にぶい赤褐色」(7.5R4/3) の発泡状物質が付着している。破断面に著しい二次被熱痕跡が認められる。26 は胎土に直径 5 ㎜程度の円礫をまばらに含む。内傾接合の特徴が断面に認められる。器壁の立ち上がりはほぼ垂直である。

「製塩土器」は機能形態上の分類概念であり、土器製塩工程の中で煮沸煎熬、精製塩焼成の異なる作業で土器が使用される場合、二者を分かつ属性基準は確立していない。精製塩焼成も含め、土器を使用する際に資料に現れる二次焼成、剥落、付着物質等の客観的な使用属性を実験データから蓄積することが求められる。また、生産遺跡の遺構と器種構成、製作技術上の属性を総合的に検討し、「白砂式土器」の実態把握が俟たれる。（斉藤）

11. 支脚（図 131 － 5 ～ 7）

8 個体の円筒形土製支脚が出土している。5・7 は第 4 号住居跡床面からの出土である。5 は粘土紐で天井部を作り、内面から外面に積み上げを行っている。内面にはユビナデが施され、積み上げ痕跡を部分的に消している。破損しているため、下端部の形状は不明である。7 は下端部に二個一対の斜めに崩れた「U」字状の切り込みが加えられている。天井部を下に据え、内側から外側に粘土紐を積み上げて成形されている。内面には粘土紐の接合痕と直交する方向で部分的にユビナデが施され、外面は無調整である。

6 は第 18 号住居跡のカマド燃焼部中央に直立した状態で出土している。内径 4 ～ 5 ㎝ほどの筒状を呈し、下端部に二個一対の半楕円形の切り込みが入れられている。粘土紐は 7 同様、倒立状態で内側から外側に積み上げている。内面の粘土紐接合痕はヨコナデによって滑らかに仕上げられており、成形後に上端からもわずかにユビナデが施されている。外面には体部中央に指頭圧痕が 3 ㎝ほどの間隔で回り、体部中央から上端、下端に向けてヘラ状工具でナデとケズリが施されている。片手で体部中央を保持し、掌中で転がしながら調整が加えられたものと考えられる。

白頭山火山灰降下前後における青森県内の土製支脚は粘土紐接合痕跡を明瞭に残す中空の「円筒形土製支脚」と中実あるいは穿孔がある「棒状土製支脚」の二種に大別できる。これまでの調査で、近野遺跡からは「円筒形」のみが出土しており、いずれも下端部に逆「V」「U」字状の切り込みをもち、接合痕を明瞭に残すといった特徴が認められる。同様の切り込みをもつ資料は、県内では、六ヶ所村弥栄平（4）遺跡、家ノ前遺跡、青森市三内丸山遺跡、野木遺跡、鰺ヶ沢町平野遺跡、深浦町尾上山遺跡、蓬野遺跡（青森県教育委員会　1987、1993a、1993c、1998、2003、青森市教育委員会 2001）でも確認されており、秋田県能代・山本地方から日本海側沿岸地域に多く分布する（柴田　1993）。青森市内真部 (9) 遺跡では多量の製塩土器に伴って本遺跡出土の支脚と同型のものが確認されている（青森市教育委員会　2000）。製塩遺構が検出されている平内町大沢遺跡では棒状支脚が主体的に出土しているが、円筒状土製支脚の可能性のあるものが報告されている（青森県教育委員会　1998）。（斉藤）

12. 鉄関連遺物（図 131 － 1 ～ 4、図 132 － 1 ～ 11、写真 59 －①～③）

Ｂ区では、製錬および鍛冶作業に伴う羽口、炉壁、鉄滓等の遺物が出土している。これら鉄生産に関連する遺物を一括して「鉄関連遺物」とし、本項でまとめる。観察表の項目、鉄関連遺物の整理分類にあたっては（穴澤　1994）に準じた。「メタル度」は埋蔵文化財用特殊金属探知機により錆化物や遺存しないものまでを４段階「L（●）・M（◎）・H（○）・なし」に分けて評価を行った。「磁着度」は鉄滓分類用標準磁石を用いて、磁着反応が開始する距離を計測し、９段階で評価した。数値が大きいものほど着磁性が強いことを意味する。なお、本項で用いる用語の定義については基本的に（田口・穴澤 1994）に従うものである。（斉藤）

1）羽口（図 131 － 1 ～ 4、写真 59 －①）

遺構内外から 2011.1g が出土した。このうち、短軸の断面形を推定し得るまで復元できたものは２点（1・2）で、他は細片である。ここでは４点を図示した。羽口共有の特徴としては、胎土中へのスサの混入があげられる。スサには、植物性繊維を用い、加えて籾（籾殻）を混入するものも多い。

1 は両末端が欠損するため全形は不明であるが、短軸の断面形はカマボコ状を呈する。外面は溶解部分と還元部分の一部が残存する。この溶解部分の一部表面に、光沢のない茶褐色を呈する部分がある。内孔は最大で 46 ㎜の円形となる。

2 は炉内に挿入された先端の溶解部分と炉壁と接していた還元部分が残存する。先端でも、炉装着時に上方に位置していたと思われる部分は特に溶損が著しく、末端は上方にめくれ上がっている。内孔は最大で 42 ㎜の円形となる。

3 も溶解がみられる先端部であるが、2 と比べると著しいものではない。径残存率が 1/3 と低いものの、推定径も前２点と比べると小振りである。

4 は鞴側の末端部である。孔の末端がラッパ状に開いている。

写真 59 －①は、籾を含むスサが混入することから羽口に含めたが、胎土が脆弱で、形状に関しても不明な部分が多い。他の羽口と比較すると異質な部分が多く、羽口以外の可能性を含むものである。

本調査区から出土した羽口はいずれも散発的な出土状態を呈する。したがって、カマドの構築部材等への転用といった二次利用を意図し、少量ながら持ち込まれたものである可能性が高い。（荒谷）

2）炉壁（図 132 － 1）

鉄滓の付着した炉壁片が第４号竪穴住居跡で１点出土している。実測図正面の右側から左側に向かって滓の流れが認められ、黒錆が表面に現れている。右側には砂鉄が焼結した状態が観察でき、製錬炉操業時には羽口装着位置よりも上位に位置していたものと考えられる。還元質粘土部分には籾殻と砂粒、小礫が含まれている。付着している鉄滓からはメタルチェッカーで金属反応を確認することができた。

3）鉄滓（図 132 － 2 ～ 6、写真 59 －②・③）

出土した鉄滓の総重量は 2082.8g である。滓の形態、特徴から「椀形鍛冶滓」「流動滓」「ガラス質滓」等の分類を行い、形態から分類することができなかったものは「鉄滓」として一括した。各遺構の出土重量は巻末の遺物観察表 12 中に示した。

①含鉄椀形鍛冶滓（図 132 － 2・3）

鍛冶作業にともない、炉底に形成されたものである。総破片数２点、総重量 1055.4g である。2

は第 16 号竪穴住居跡外周溝から出土したもので、短軸 12 ㎝、長軸 14 ㎝、厚さ 6 ㎝である。底面にはわずかに還元質粘土、砂粒が付着しており、上面には径 2.6 ㎜、高さ 5 ㎜程度の盛り上がりが認められる。滓は層状に形成されており、少なくとも 3 回以上の鍛冶作業が炉底に滓を残したまま行われている。滓 1 層あたりの直径は 9 ～ 11 ㎝になる。3 は第 1 号焼土遺構からの出土である。推定直径は約 9 ㎝である。底面にはわずかに還元質粘土と砂粒が付着している。

②含鉄鉄滓（図 132 － 4、写真 59 －②）

総破片数 5 点、総重量 214.1g である。第 23 号溝跡で 1 点出土している。滓の上面に赤錆が膨らみをもって付着している。滓部の破面数は 7 である。直径 3 ～ 4 ㎜の気孔が認められる。第 6 号竪穴住居跡第 1 号土坑から出土したもの（写真 59 －②）は滴状に滓が形成されている。破面近くで黒錆が顕著に生じており、粘土の溶解に由来したものと考えられるガラス質滓が気孔を伴って生じている。羽口、あるいは炉壁近くで生じたものと考えられる。

③流動滓（図 132 － 5・6、写真 59 －③）

総破片数 8 点、総重量は 93g である。5 は第 4 号竪穴住居跡床面からの出土である。滓の上面は赤褐色の酸化色を呈しており、下面には無数の気孔が認められる。製錬作業にともなって生じたものと考えられる。6 は第 7 号竪穴住居跡カマドからの出土である。滓は二段になっており、木炭痕と考えられる繊維状の圧痕が認められる。

4）滓付着礫（図 132 － 7）

ガラス質滓と砂鉄が膜状に付着した礫が第 4 号竪穴住居跡から 2 点出土している。同一遺構内の周辺で炉壁、流動滓が出土しているため「鉄関連遺物」に含めた。煤の付着が著しく、礫の中心まで赤変している。石材はいずれも安山岩である。

5）鉄製品（図 132 － 8 ～ 11）

棒状鉄製品（8）

1 点出土している。第 10 号竪穴住居跡堆積土からの出土である。厚さ 5 ㎜程度の棒状鉄を湾曲させている。製品としての用途・機能については不明である。

刀子（9 ～ 11）

3 点出土している。9 は第 10 号竪穴住居跡堆積土からの出土である。厚さ 3 ㎜、先端部付近の破片と考えられる。11 は第 11 号竪穴住居外周溝堆積土からの出土である。残存長 120 ㎜、幅 13 ㎜である。区の有無については破損のため不明である。10 は第 76 号土坑からの出土である。残存長 74 ㎜、幅 16 ㎜である。柄の部分に木質が残存しており、刃・棟両側に区をもつ。　（斉藤）

13. 近世以降の遺物（図 132 － 12 ～ 14、写真 70）

土人形（12・13）

2 点出土している。いずれも素焼き製、型押しによって成形されている。12 は鶏をモチーフとしたもので羽から尾にかけての部分の破片と考えられる。側面に接合痕跡が残り、内面には型押し時の指紋圧痕が顕著に認められる。弘前市野脇遺跡で類例が確認されている（青森県教育委員会 1993b）。13 は婦人をモチーフとしたもので、12 同様側面に接合痕跡が残る。首より下の部分は欠損している。首の中心部には直径約 1.5 ㎜の空気抜きの小孔が認められる。

古銭（14）

寛永通宝（新寛永）が２点出土している。（斉藤）

陶磁器・土器（写真 70 － 1 ～ 46）

17 世紀から 19 世紀にかけての陶磁器・土器が出土した。いずれも小破片である。図化は行わず、写真のみの報告としたが、Ｂ区から出土した資料のすべてを掲載した。ここでは大まかな時期ごとに概略を記すこととし、個々の資料の出土位置や産地・年代・器種等については観察表を参照されたい。

17 世紀代（1 ～ 6）

1・2・3・6 は陶器で、4・5 は磁器である。いずれも肥前製品で、1・2 は擂鉢、3 は甕、4・5・6 は皿である。1 と 2 の擂鉢は内面に擂目が見られ、両者とも無釉である。3 の外面には鉄釉が施され、6 の内外面には灰釉がかかり、細かい貫入がみられる。5 は染付であるが、焼成不良のためにやや陶質であり、発色も鈍い。1 は 17 世紀の中葉頃、2 ～ 5 は 17 世紀の後半頃かと思われる。

17 世紀後半～ 18 世紀前半（7 ～ 11）

いずれも陶器で、肥前製品である。8･9 は内面に銅緑釉の施される皿で、内野山の製品と考えられる。7 は内外面灰釉の皿で、蛇目釉剥部分に鉄釉が施されている。10･11 は内外面に鉄釉のかかる擂鉢で、口縁は玉縁状を呈する。

18 世紀代（12 ～ 39）

12 ～ 27・34 は磁器、28 ～ 33・35 ～ 39 は陶器である。これらも全て肥前製品である。磁器のほとんどは染付であるが、27 と 34 は青磁釉のものである。35 は外面上半に鉄釉、内面無釉の火入れと推定されるが、内面には鉄錆が付着しており、お歯黒壷としての利用経緯が想定される。38 は鉢で、内面に白化粧土による刷毛目が施された後に口縁の内外面に鉄釉が掛けられている。32・33 は瓶で、外面に白化粧土による刷毛目が施された後に灰釉が掛けられており、内面は無釉である。

19 世紀中葉以降（40 ～ 44）

40 ～ 43 は磁器、44 は土器である。磁器は全てコバルトによる染付で、41・42 は手書き、43 は刷絵によるものである。これらの産地は胎土による判断では 42 のみが肥前で、他は瀬戸と推定される。44 は焜炉の“さな”で、内面から外面に向かって穿孔されている。外面には多量の粗砂が付着していたようであるが、そのほとんどは剥落している。

時期不明（45 ～ 46）

45 は陶器で、内外面に灰釉が掛かる。胎土や釉調より肥前と思われるが断定はできない。46 は無頚壷のような器形の口縁部破片で、内外面に黒色の釉が掛かったものであるが、この釉は焼成後に塗られたものである可能性もある。胎土は陶器と磁器の中間的な状態となっている。外面には梅花？状の文様と圏線が浮文で表現されている。（木村）

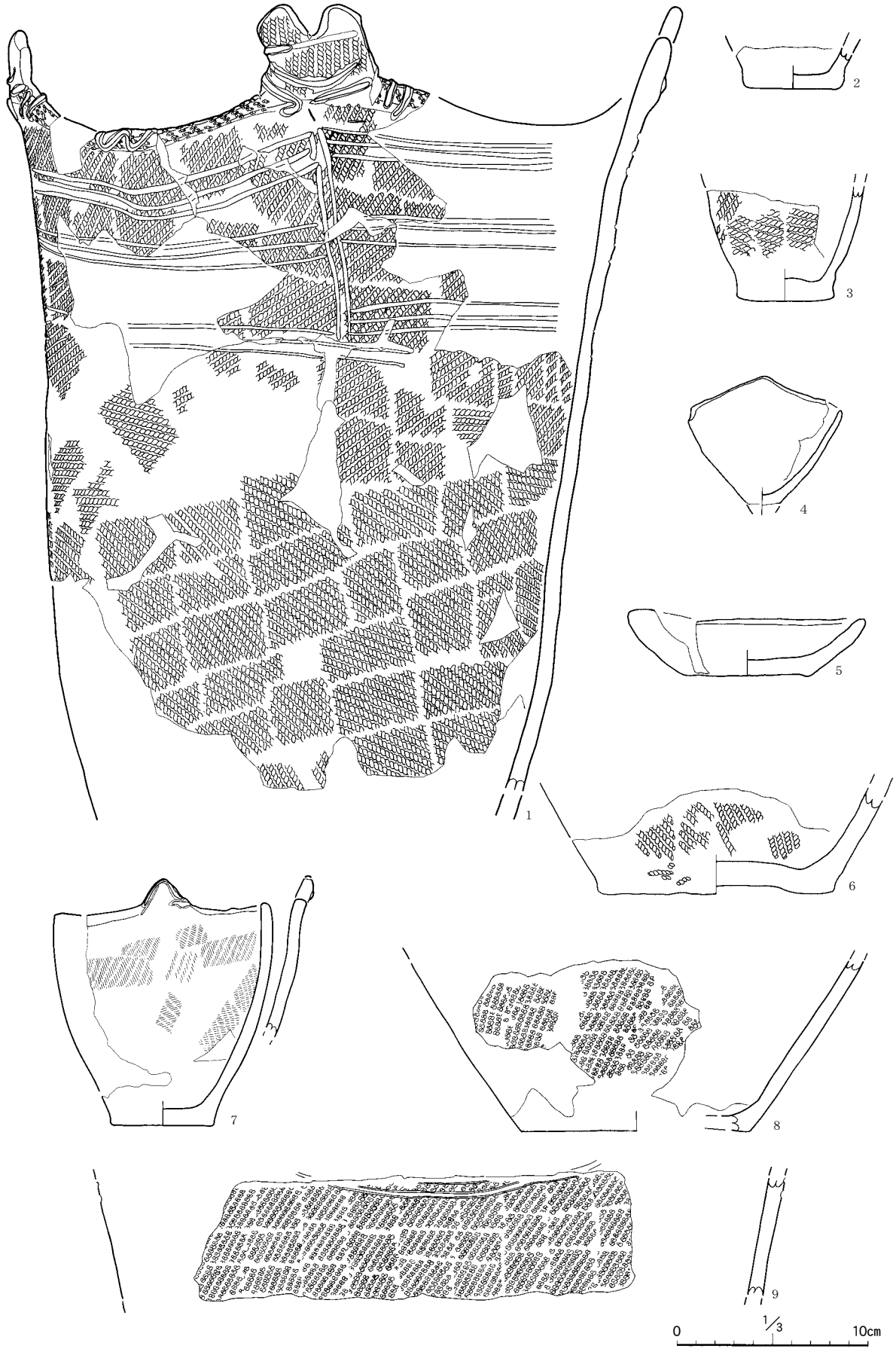


図 77　第 14 号竪穴住居跡出土縄文土器（1）

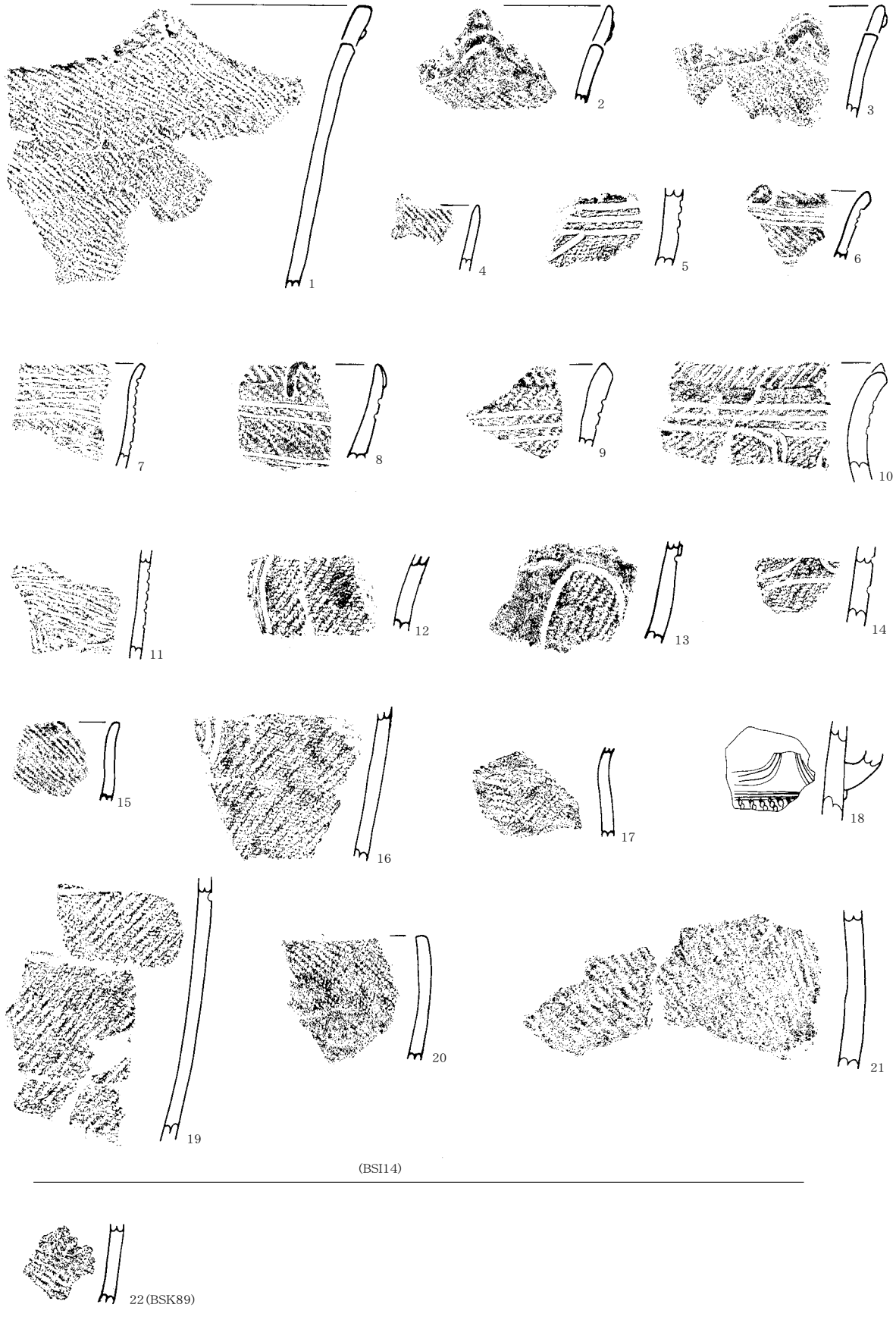


図 78　第 14 号竪穴住居跡（２）、土坑出土縄文土器

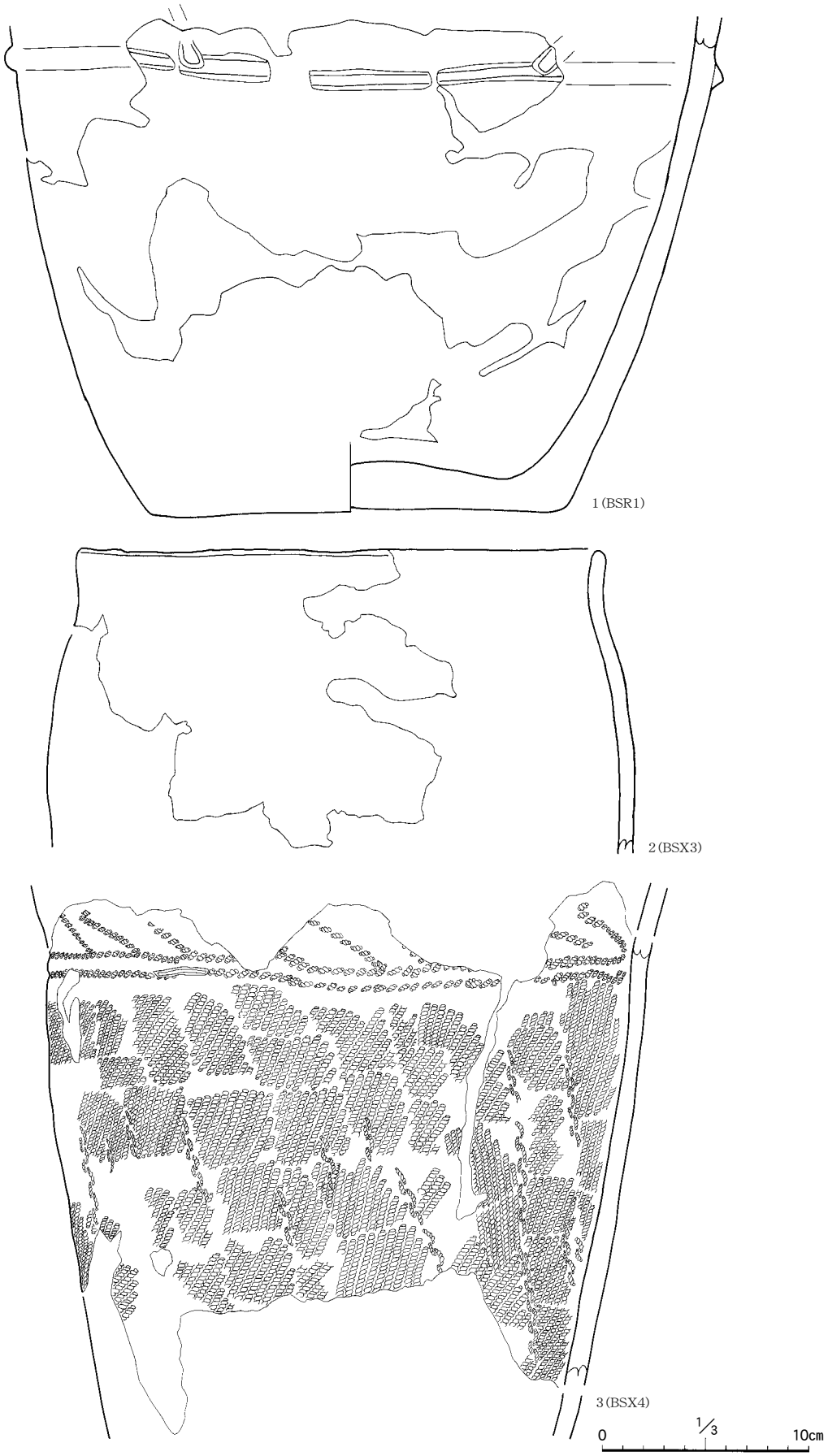


図 79　土器埋設遺構、土器片集積遺構出土縄文土器

図 80　遺構外出土縄文土器（１）

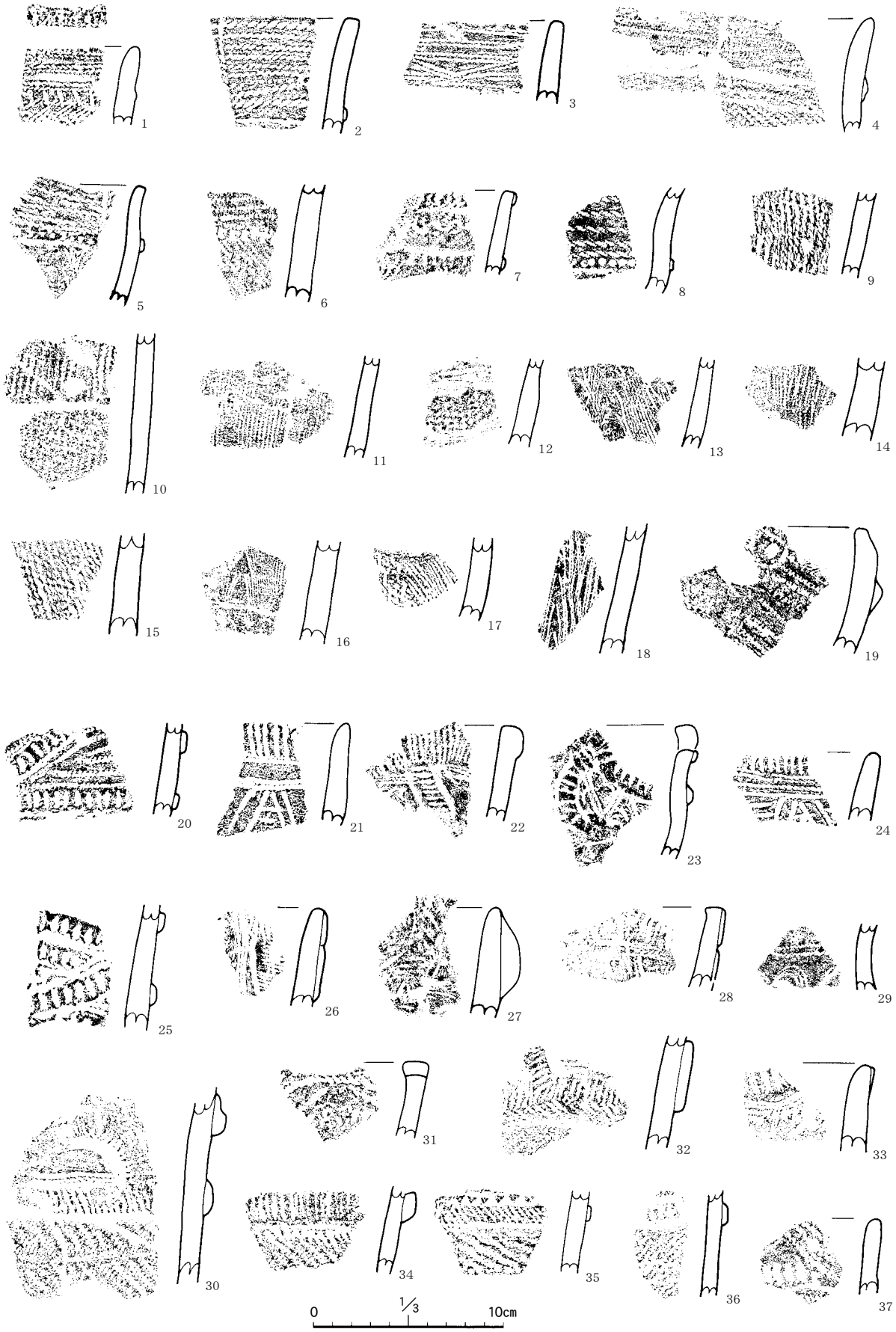


図 81　遺構外出土縄文土器（2）

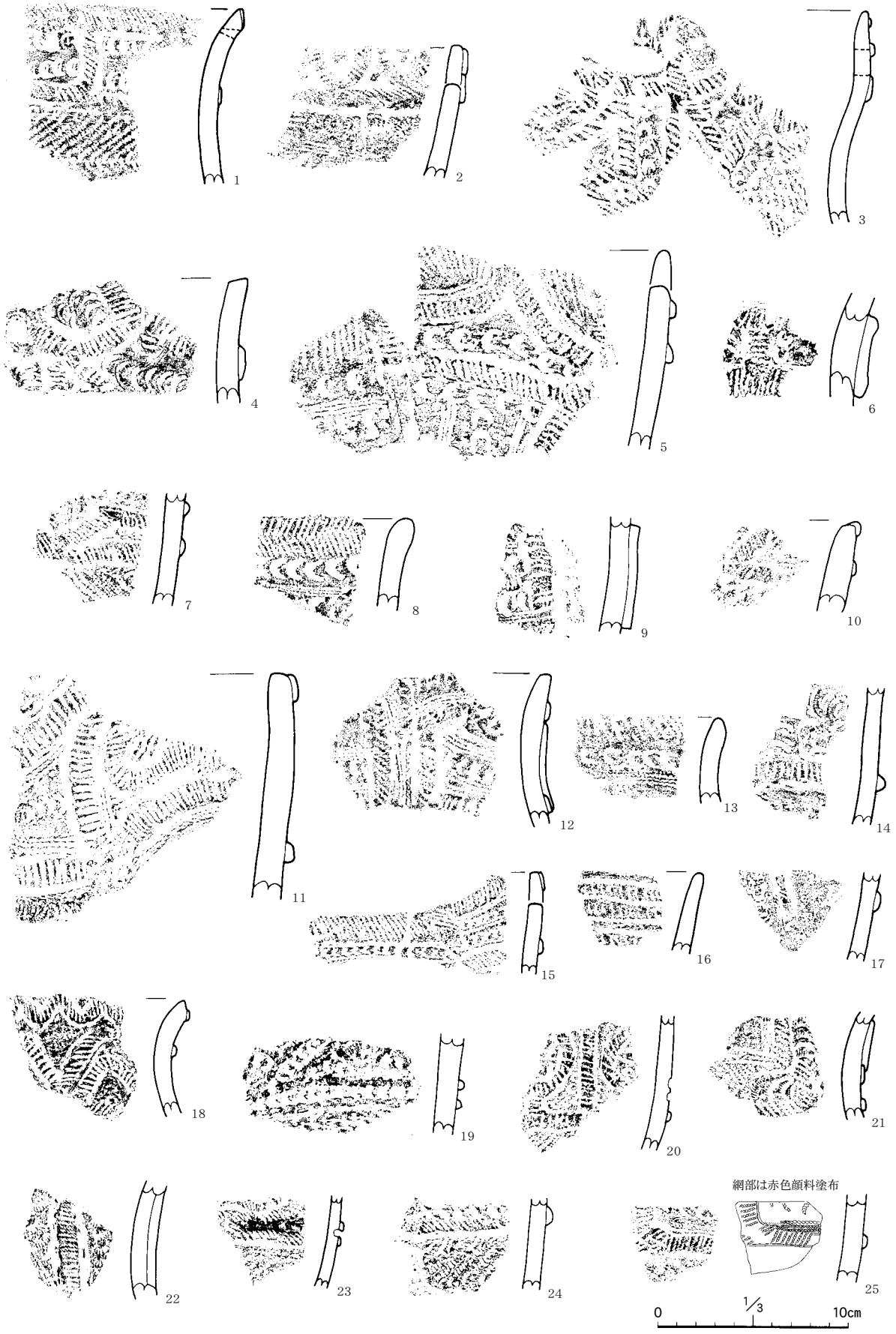


図 82　遺構外出土縄文土器（３）

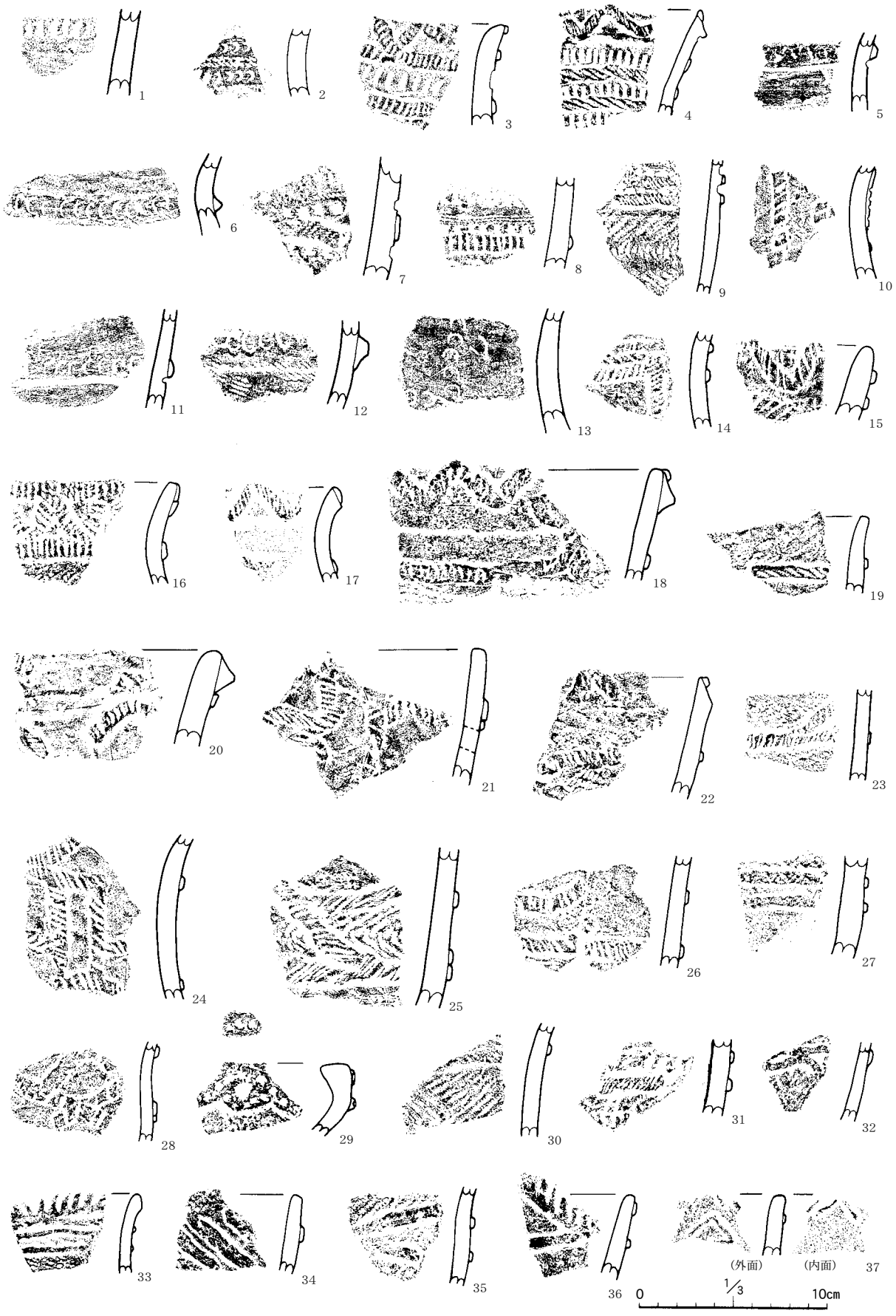


図 83　遺構外出土縄文土器（4）

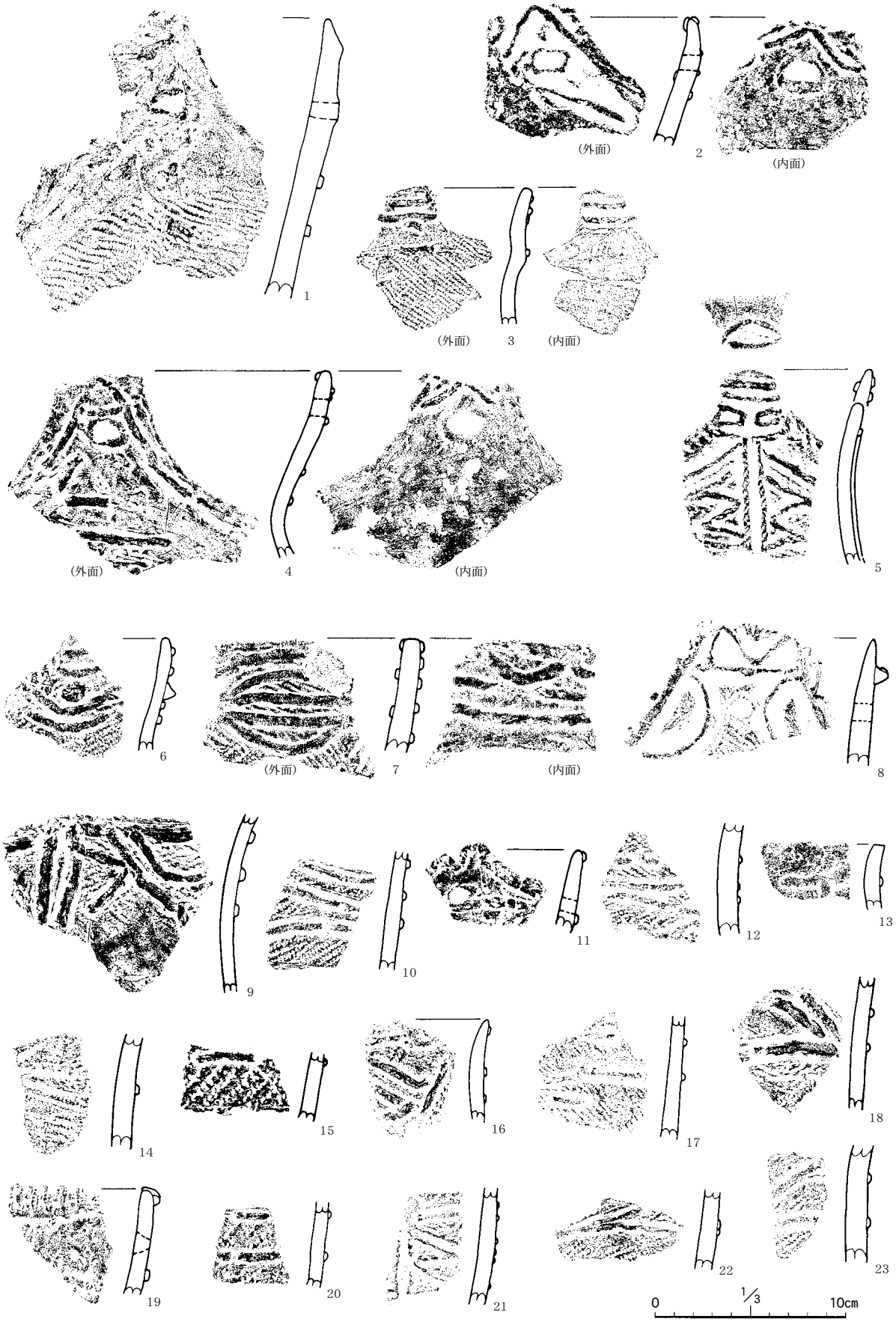


図 84　遺構外出土縄文土器（５）

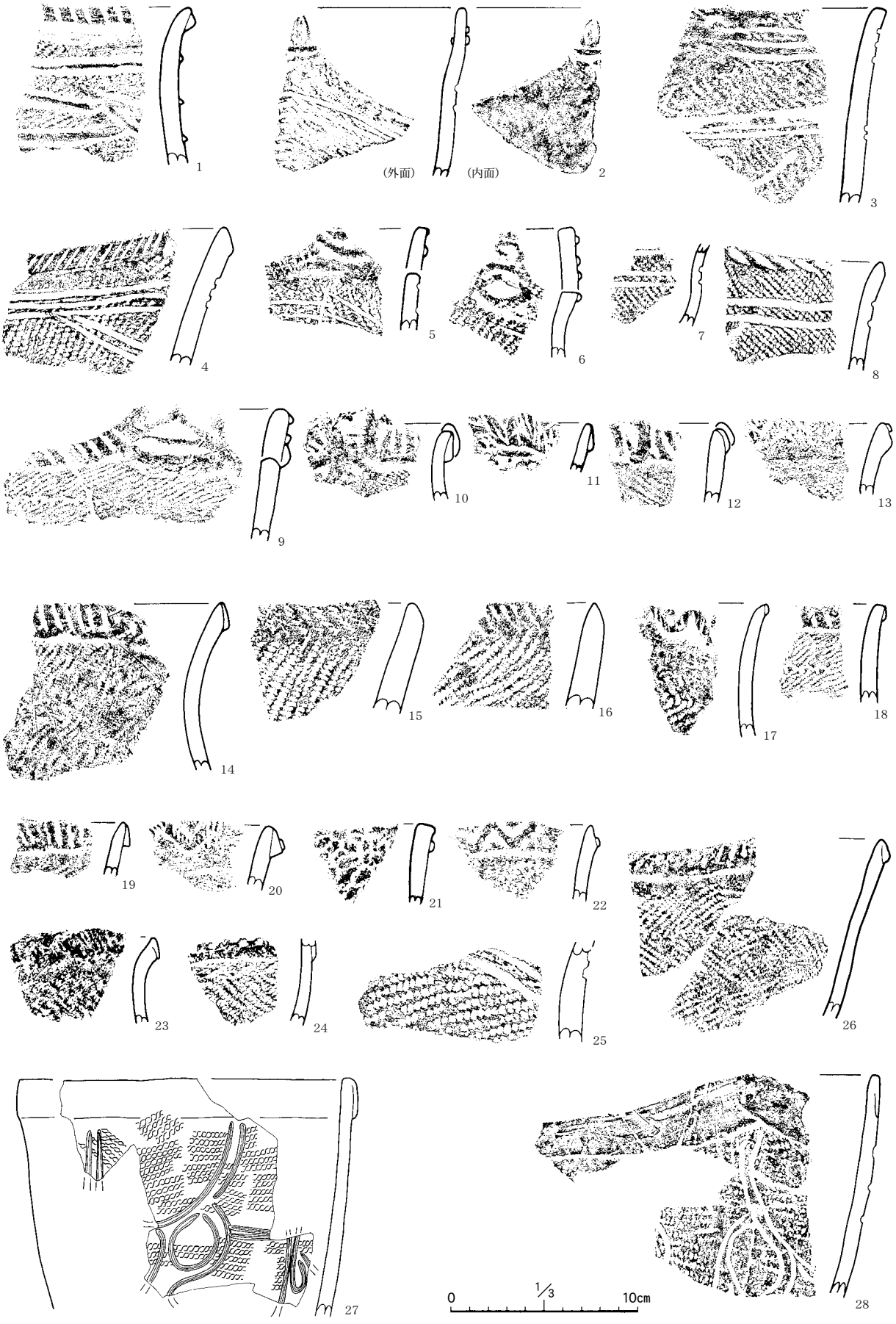


図 85　遺構外出土縄文土器（6）

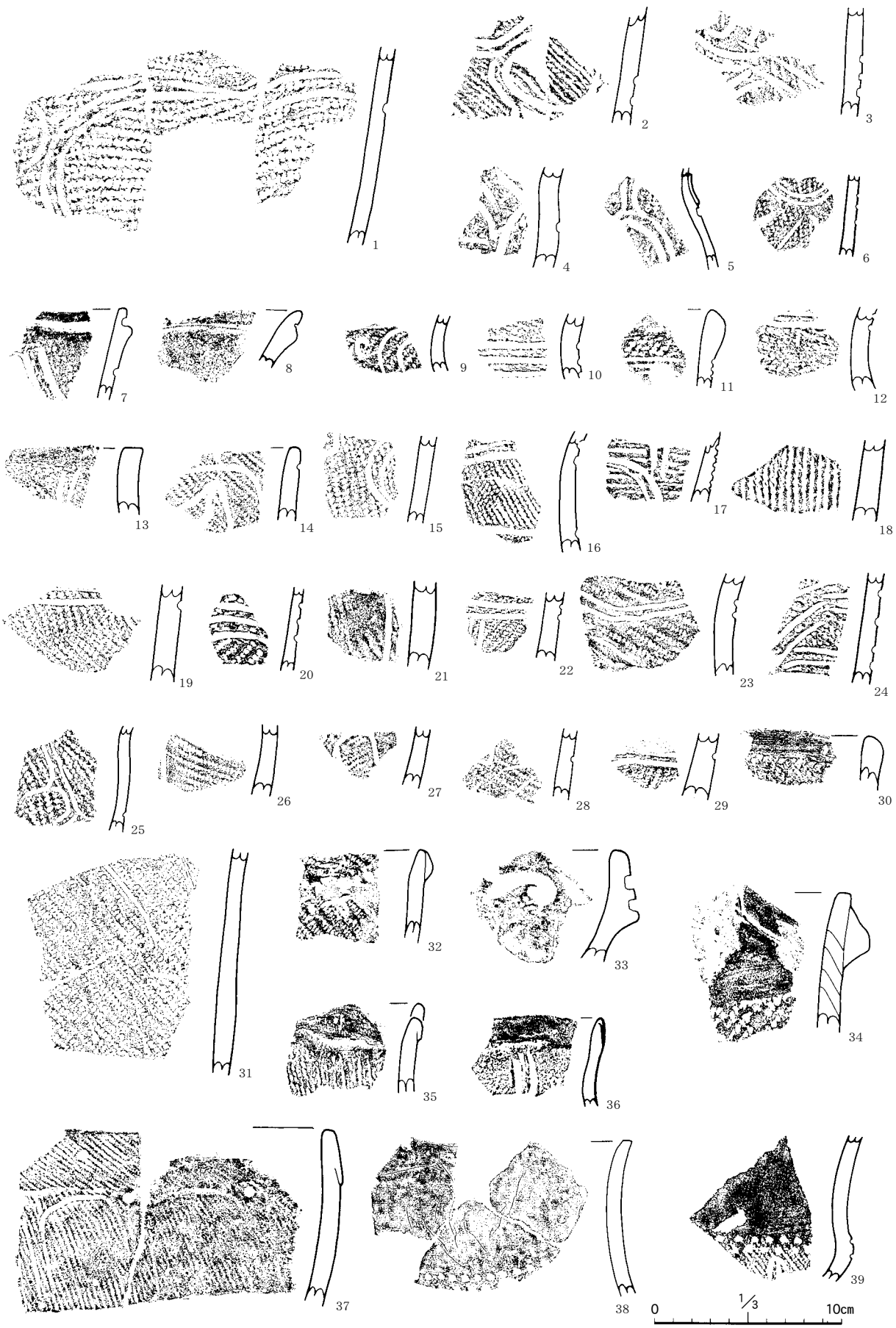


図 86　遺構外出土縄文土器（７）

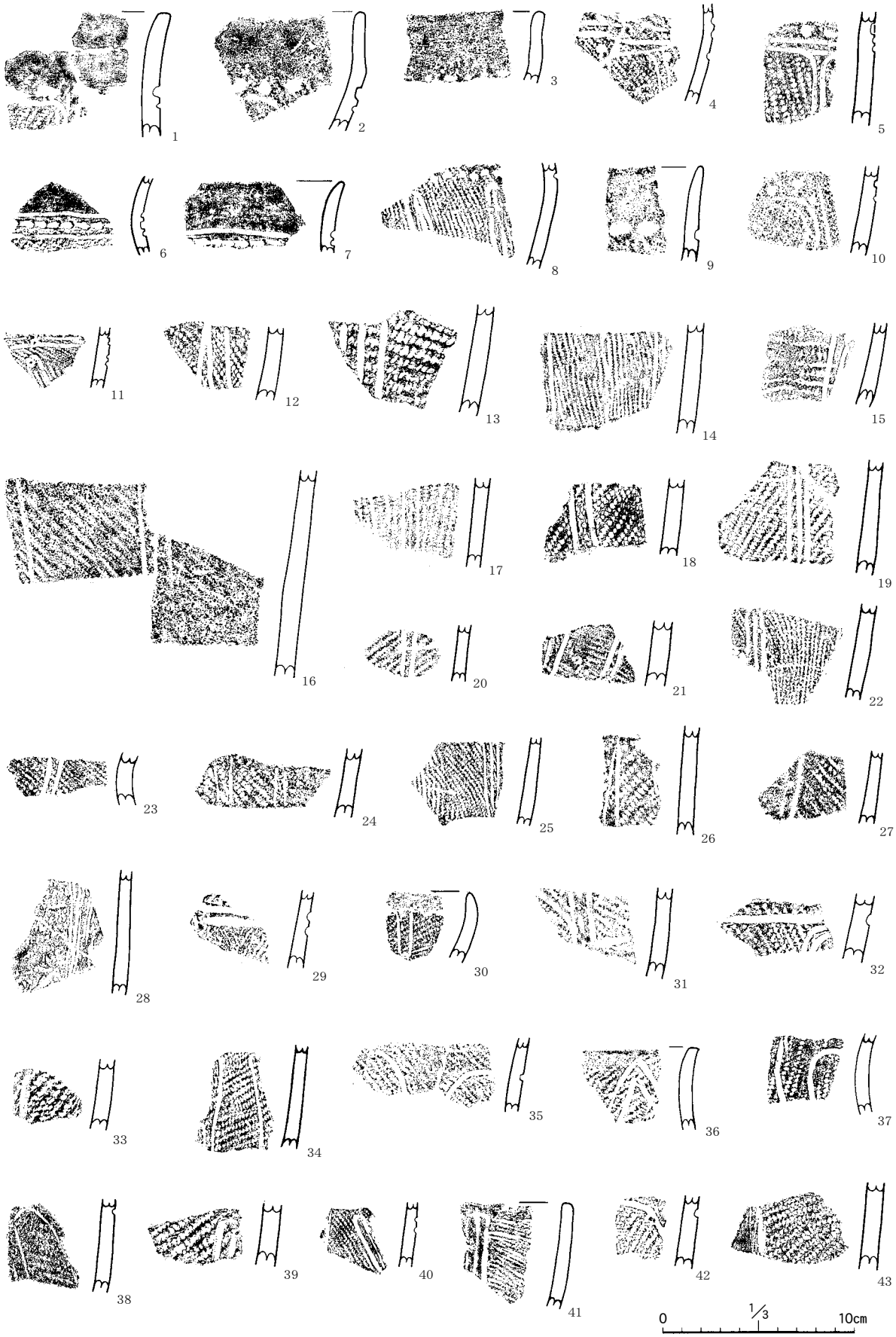


図 87　遺構外出土縄文土器（8）

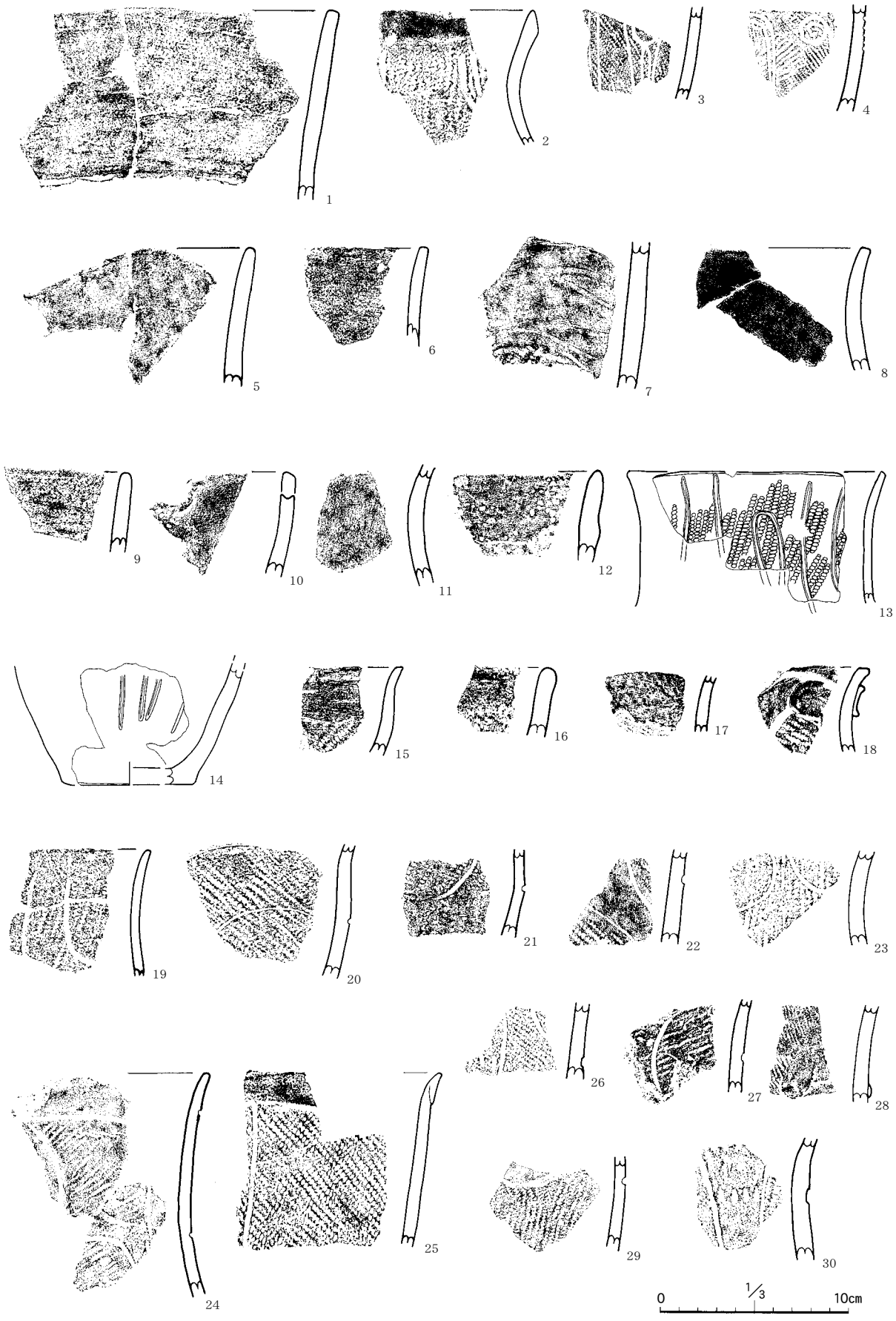


図 88　遺構外出土縄文土器（９）

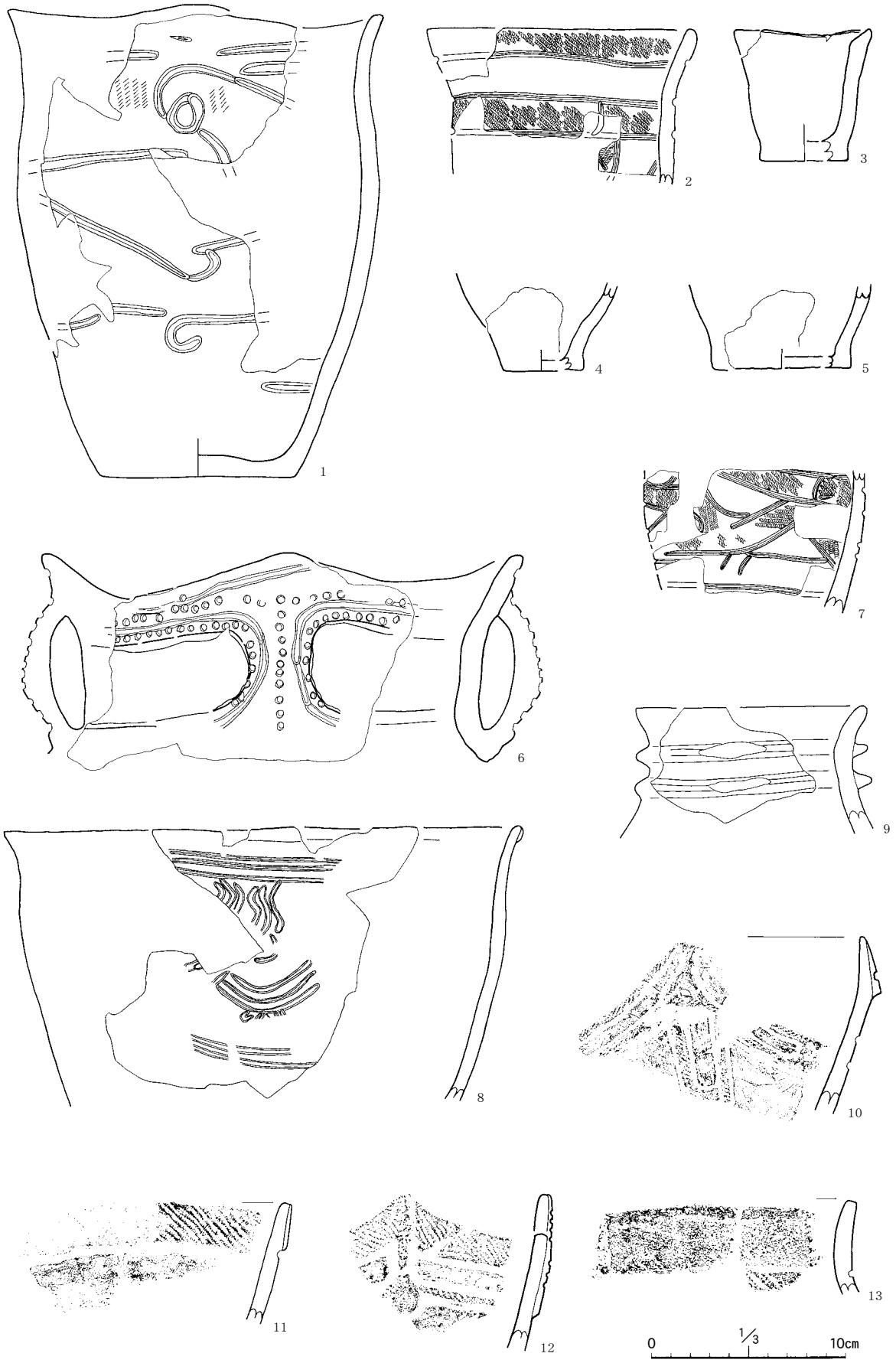


図 89　遺構外出土縄文土器(10)

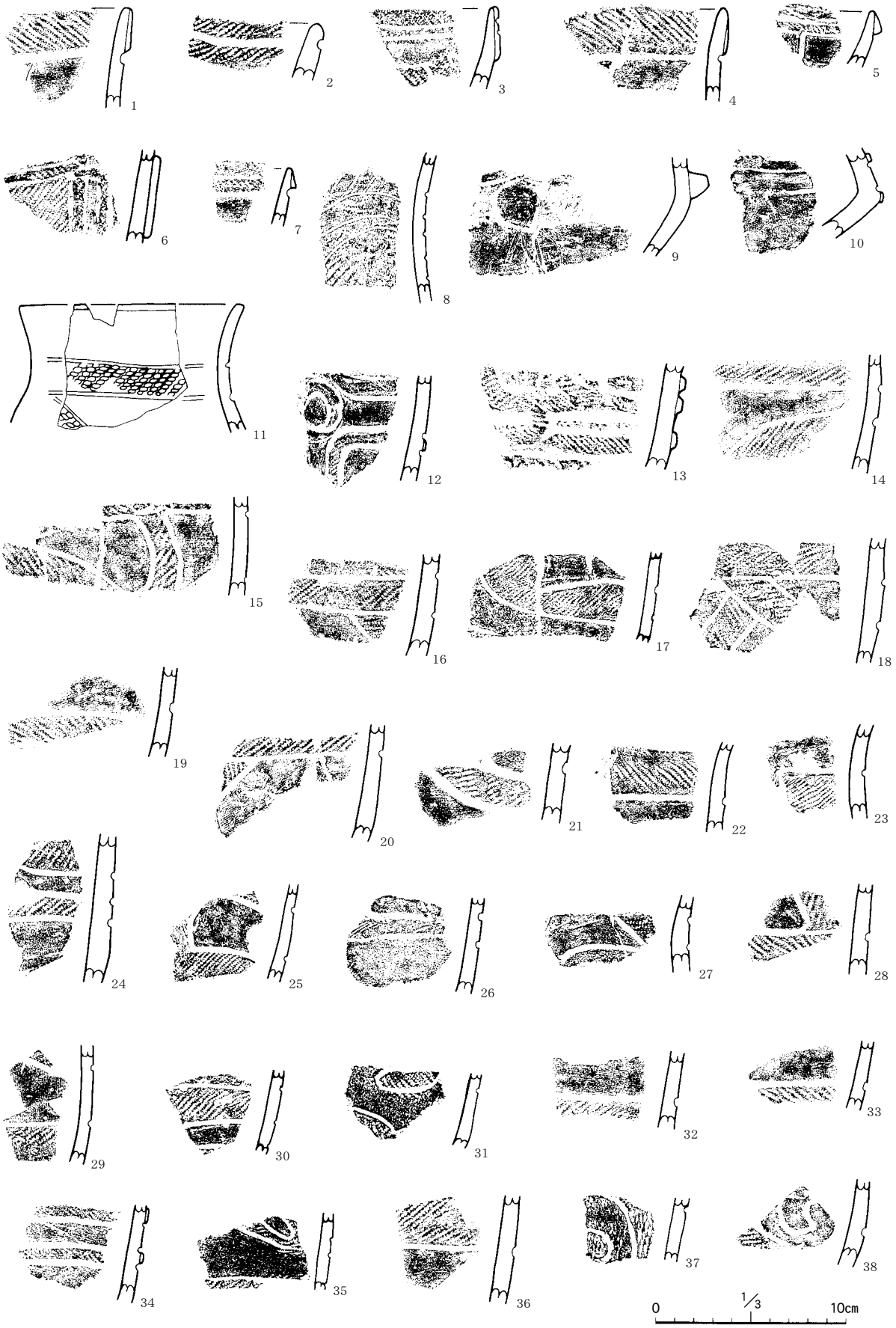


図 90　遺構外出土縄文土器(11)

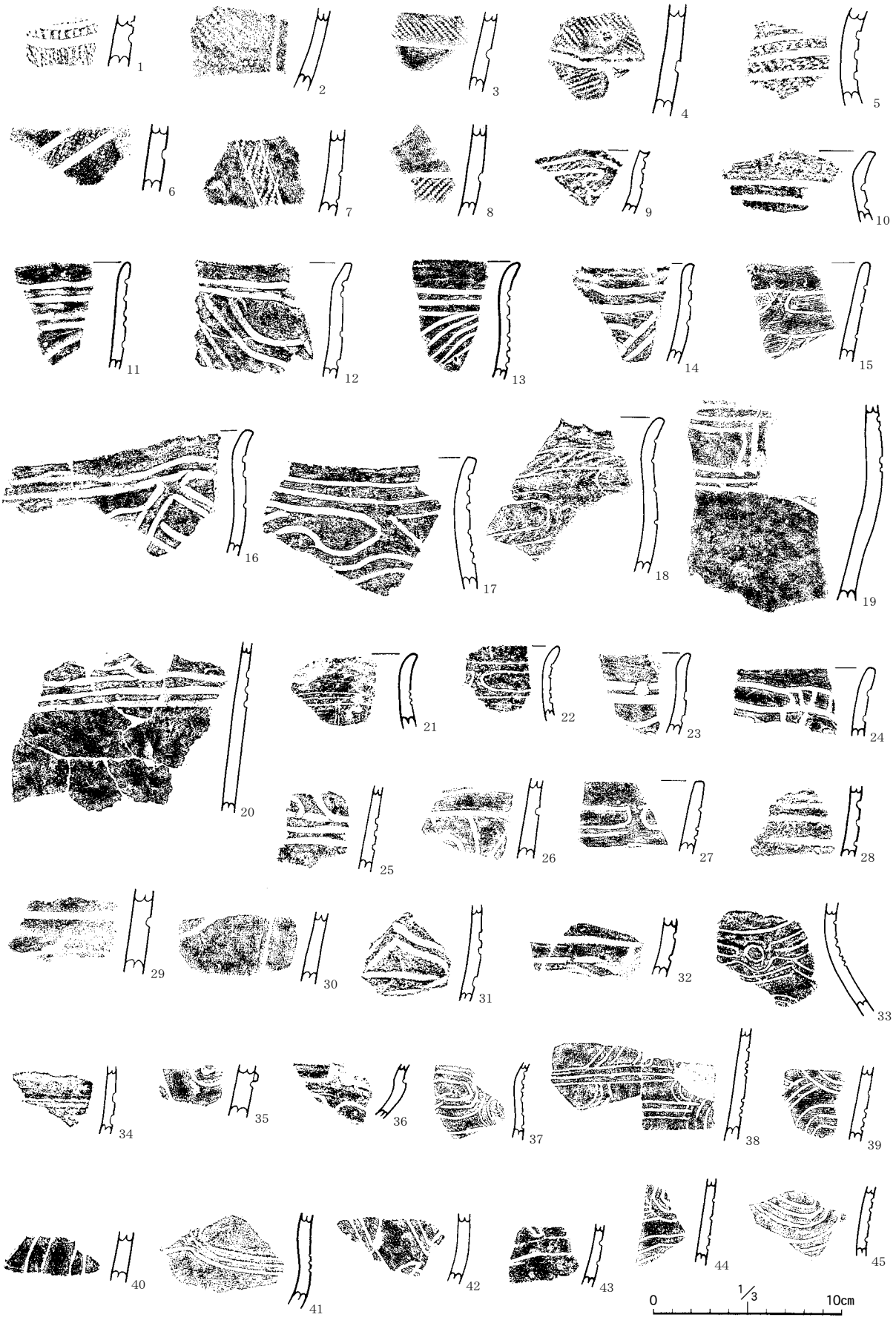


図 91　遺構外出土縄文土器(12)

図 92　遺構外出土縄文土器(13)

図 93　遺構外出土縄文土器(14)

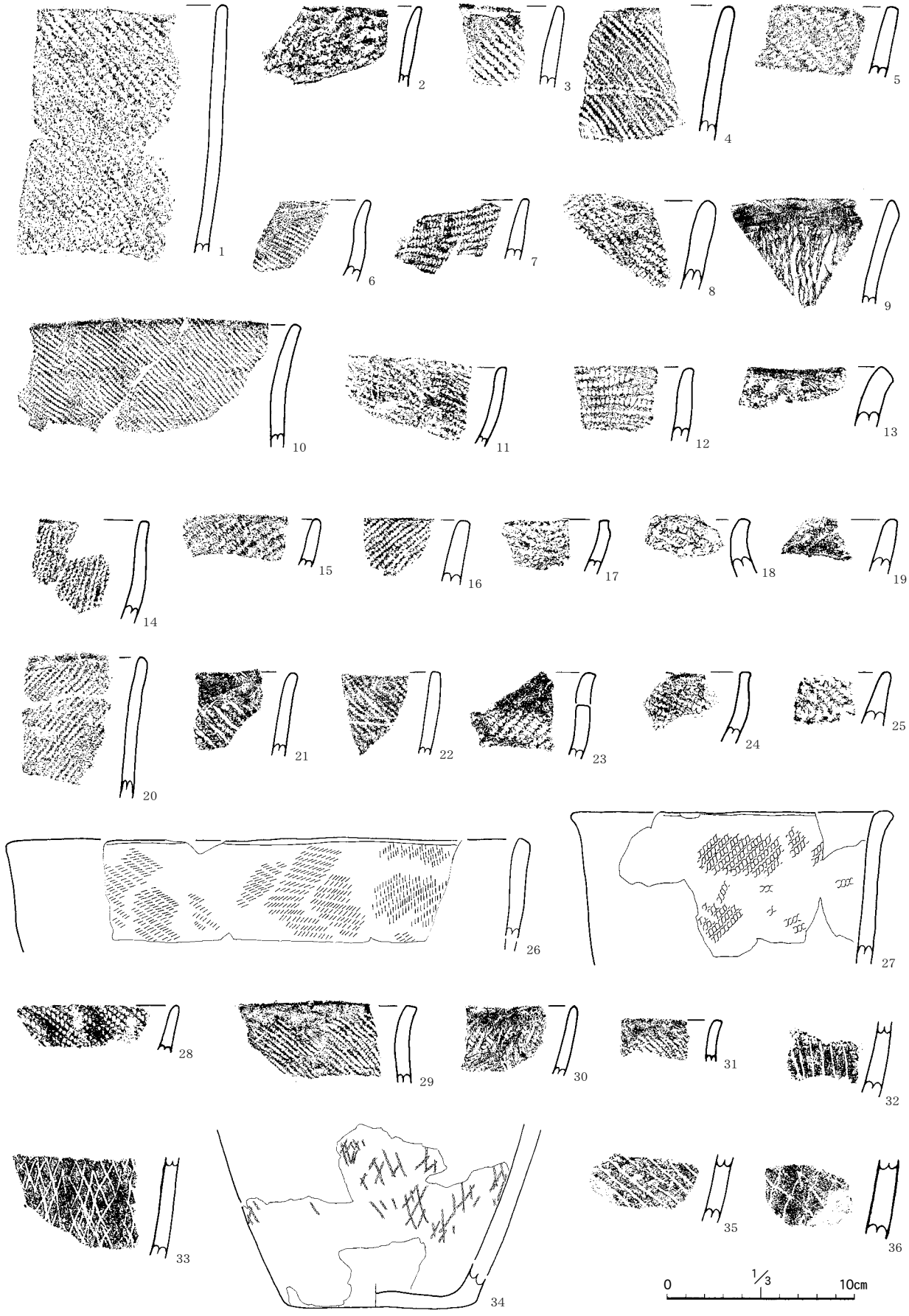


図 94　遺構外出土縄文土器(15)

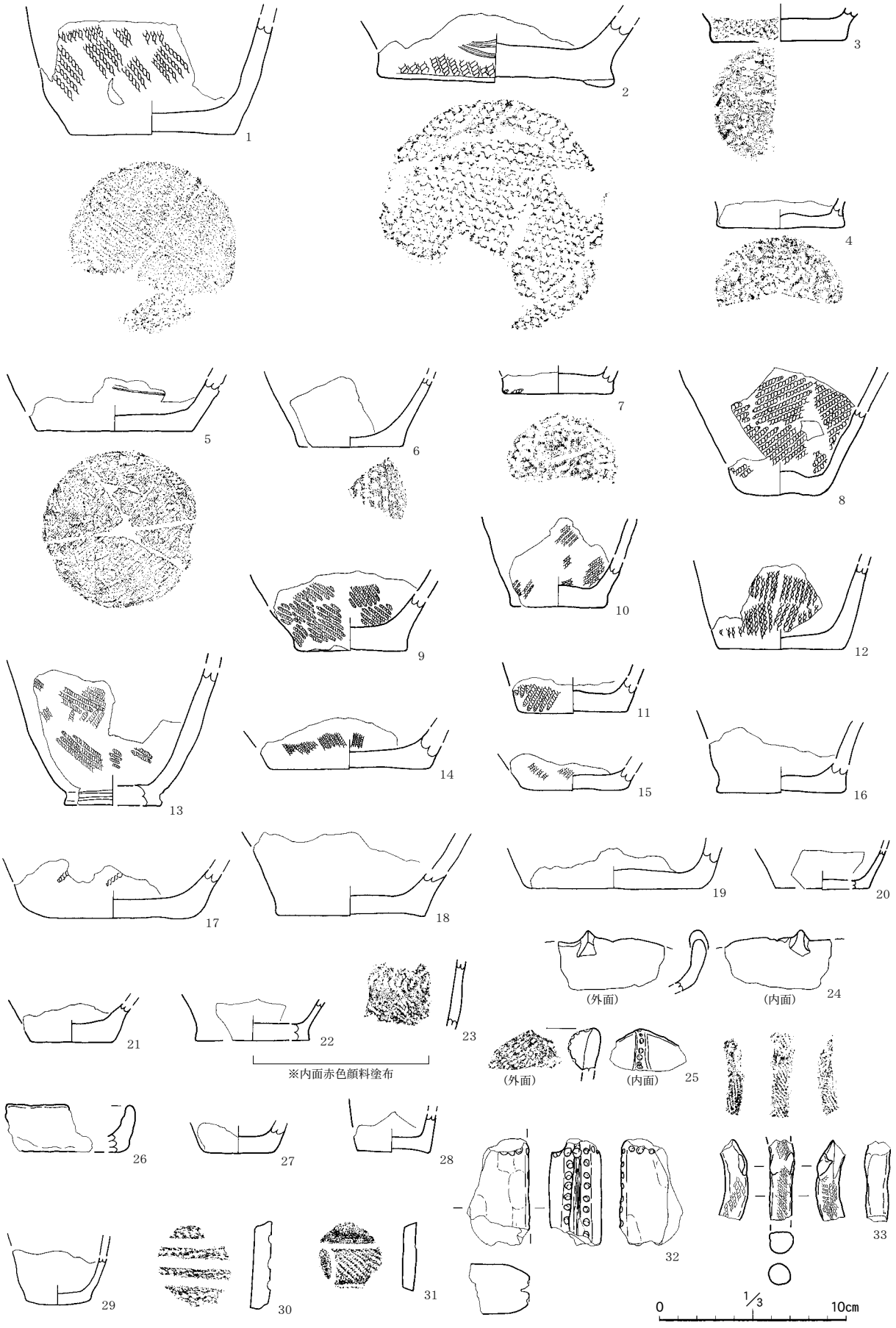
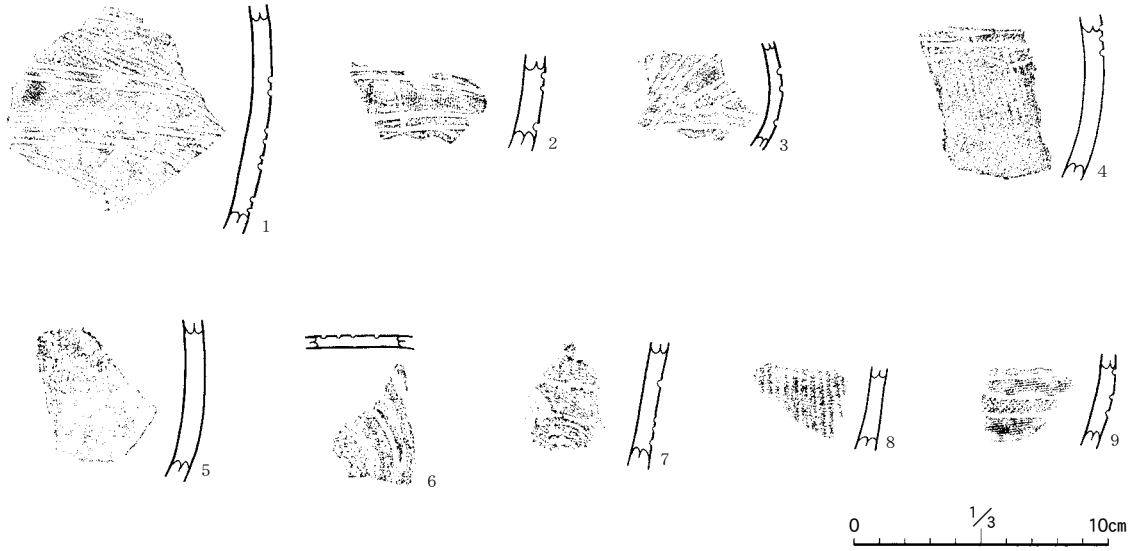
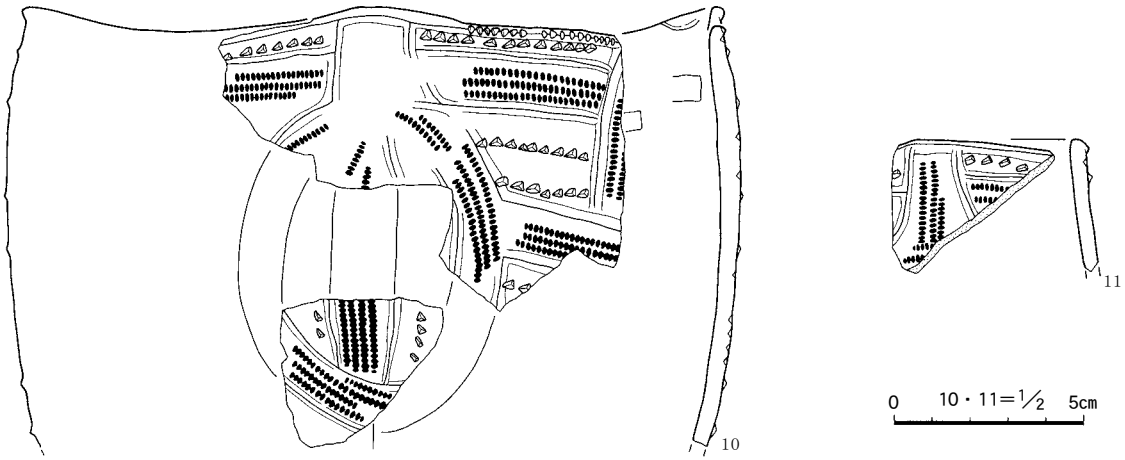


図 95　遺構外出土縄文土器(16)、土製品〈縄文〉





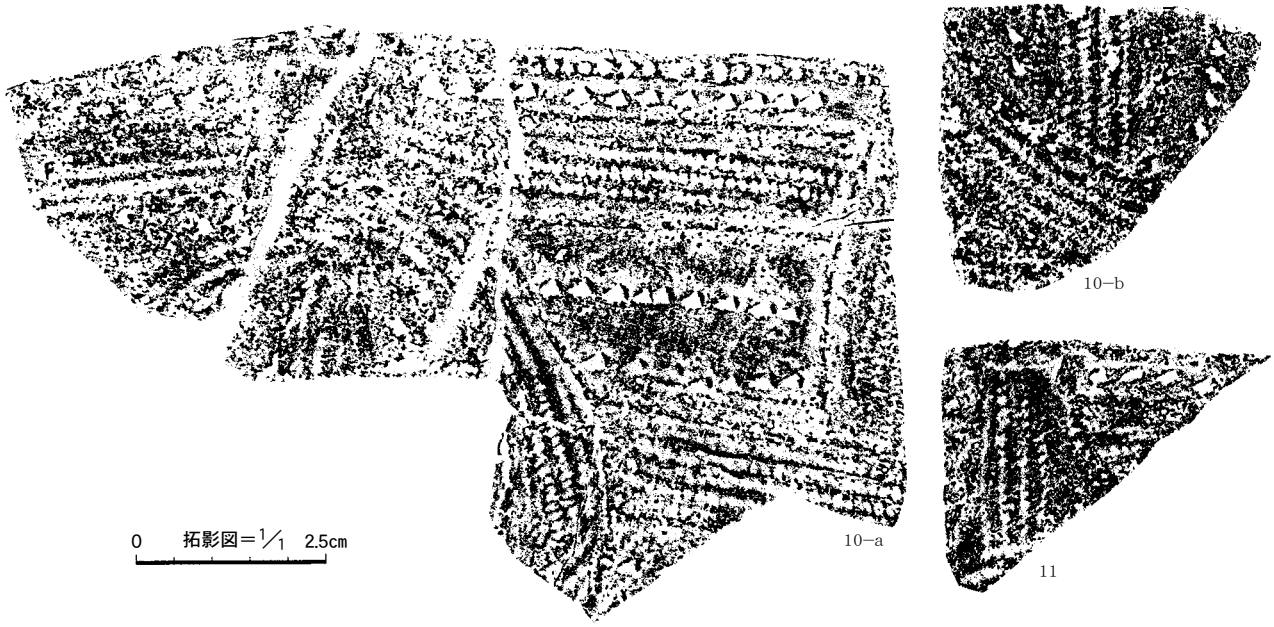


図 96　遺構外出土弥生土器、続縄文土器

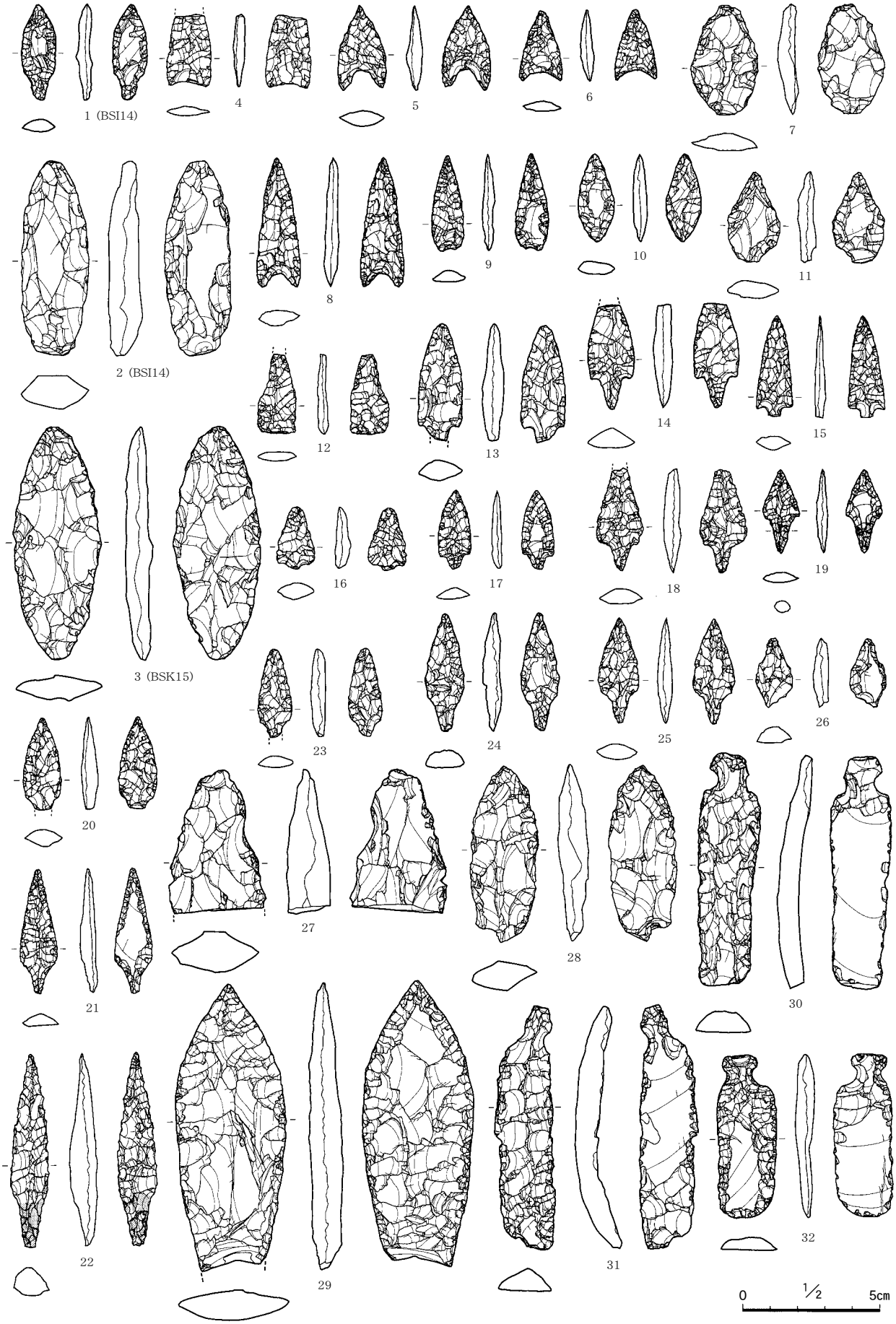


図 97　遺構内・遺構外出土剥片石器（1）

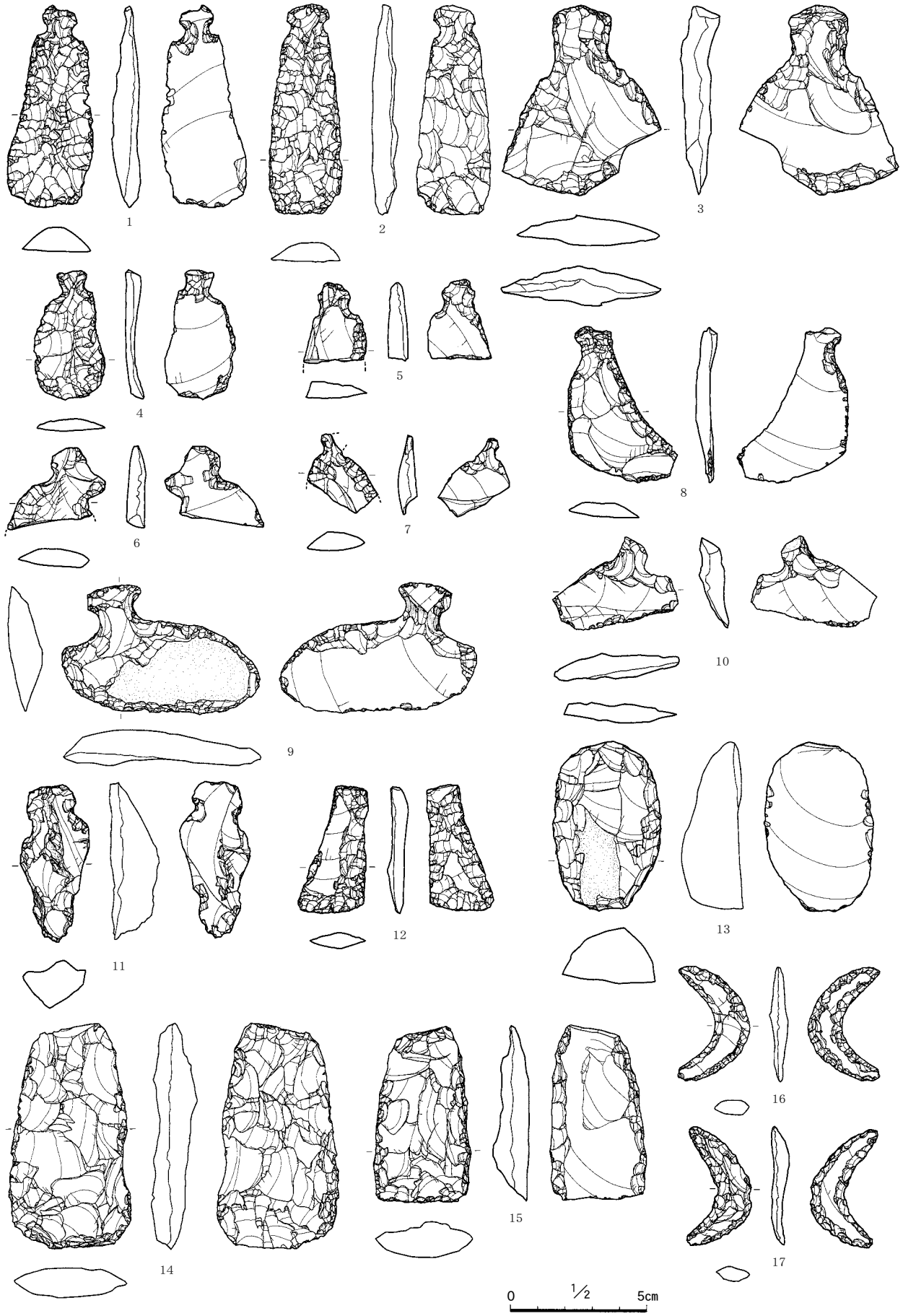


図 98　遺構外出土剥片石器（２）

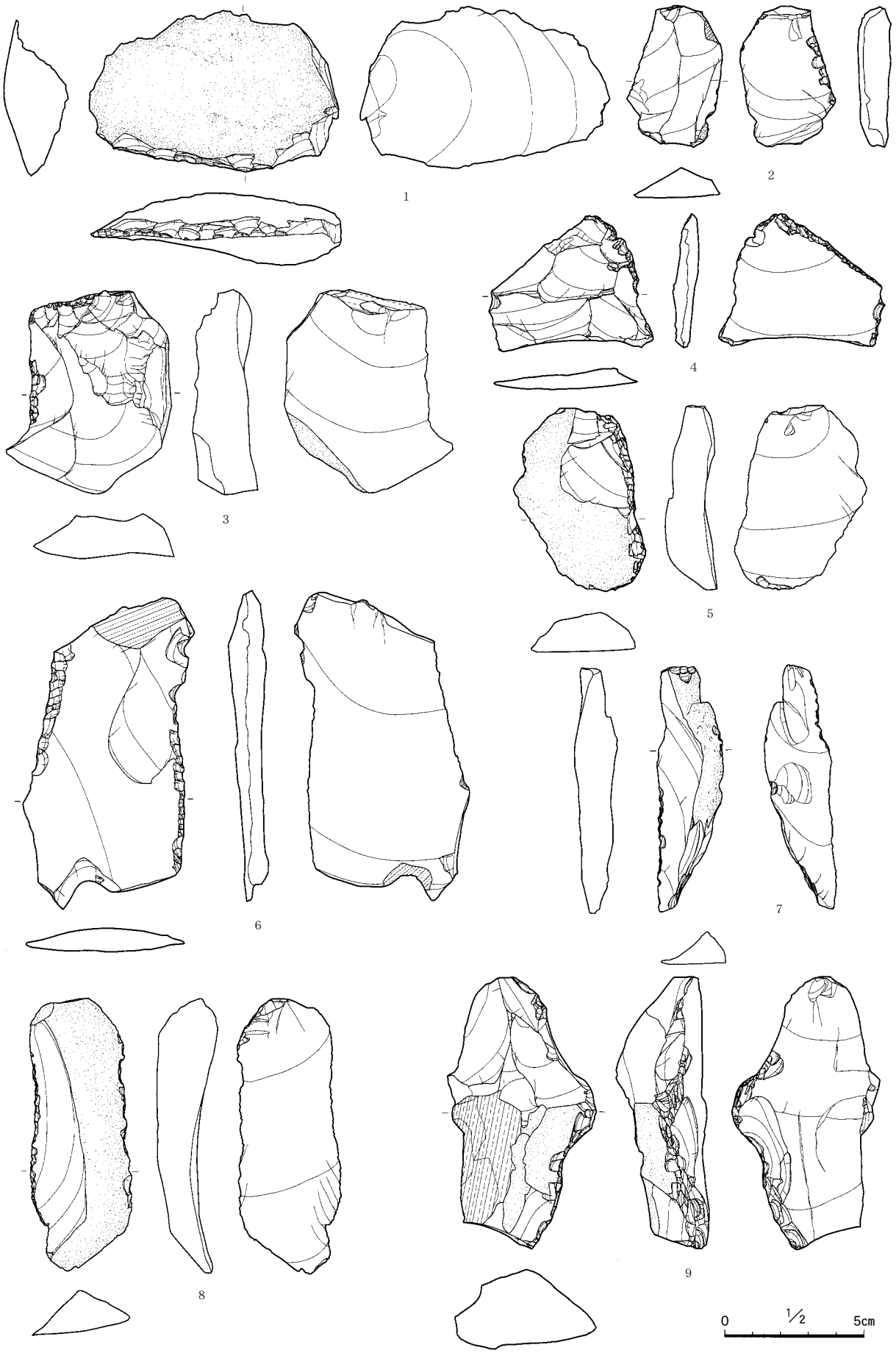


図 99　遺構外出土剥片石器（3）

図 100　遺構外出土剥片石器（４）

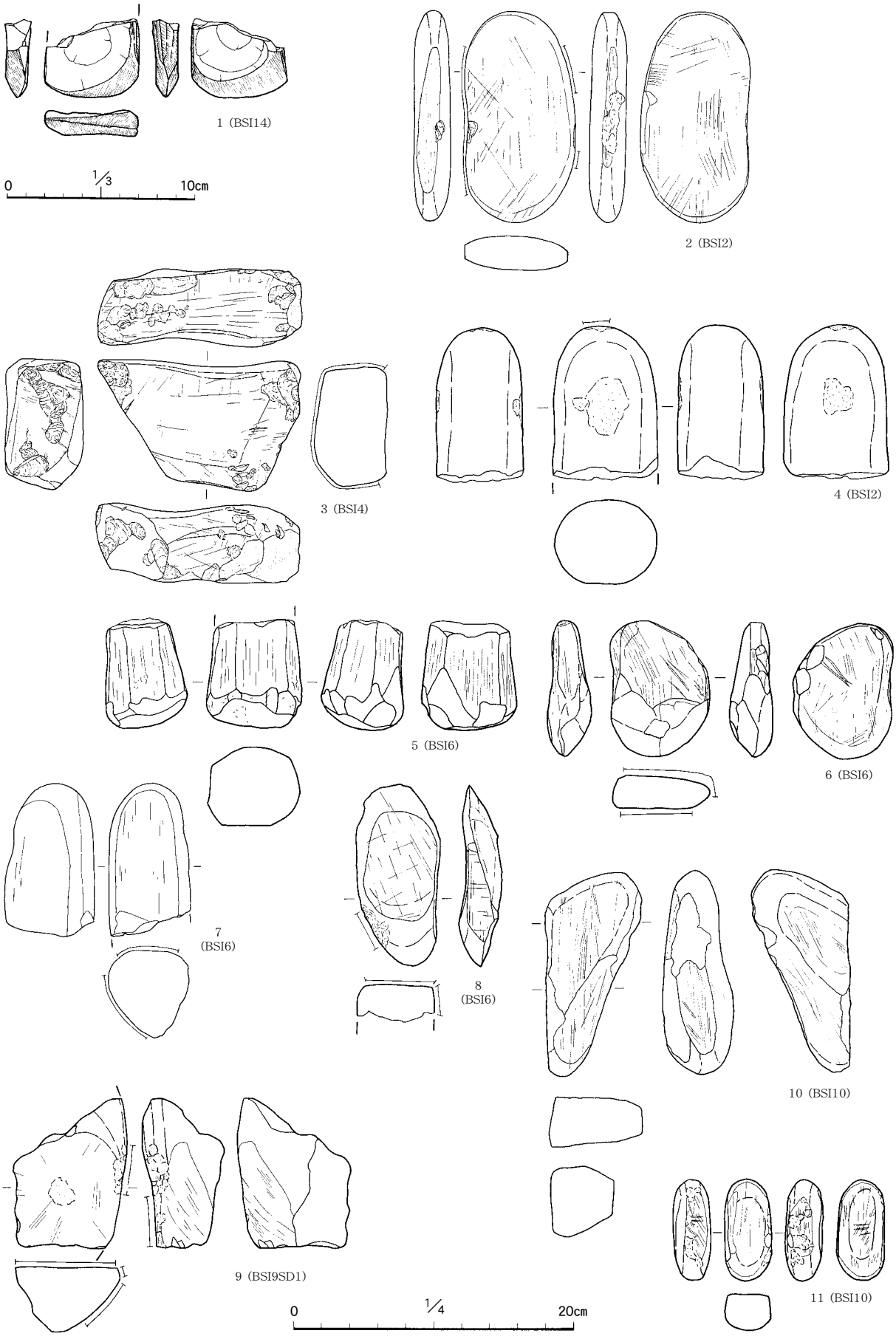


図 101　遺構内出土礫石器（1）

図 102　遺構内出土礫石器（２）

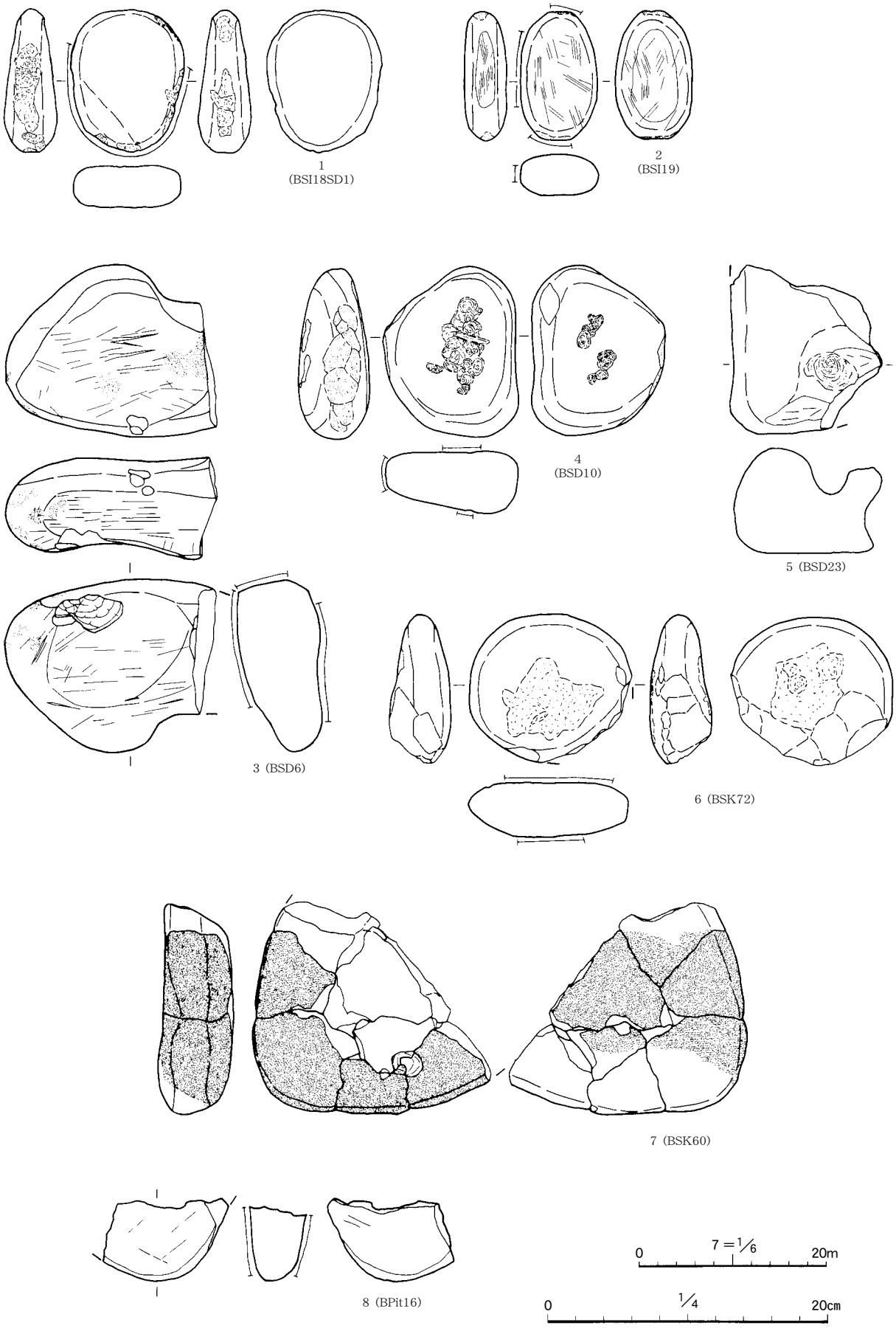


図 103　遺構内出土礫石器（3）

図 104　遺構外出土礫石器（１）

図 105　遺構外出土礫石器（2）

図 106　遺構外出土礫石器（３）

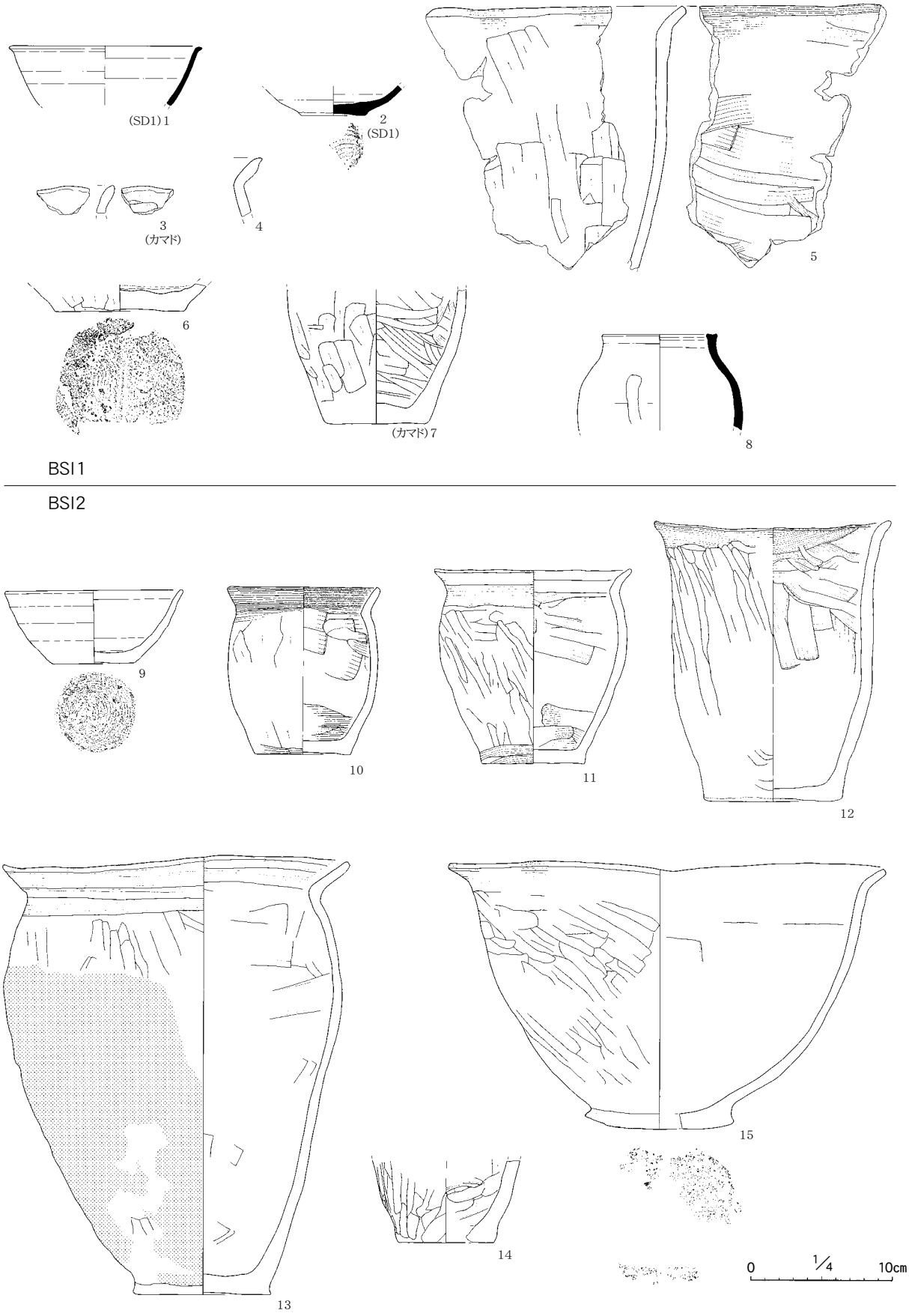


図 107　第 1 号・ 2 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

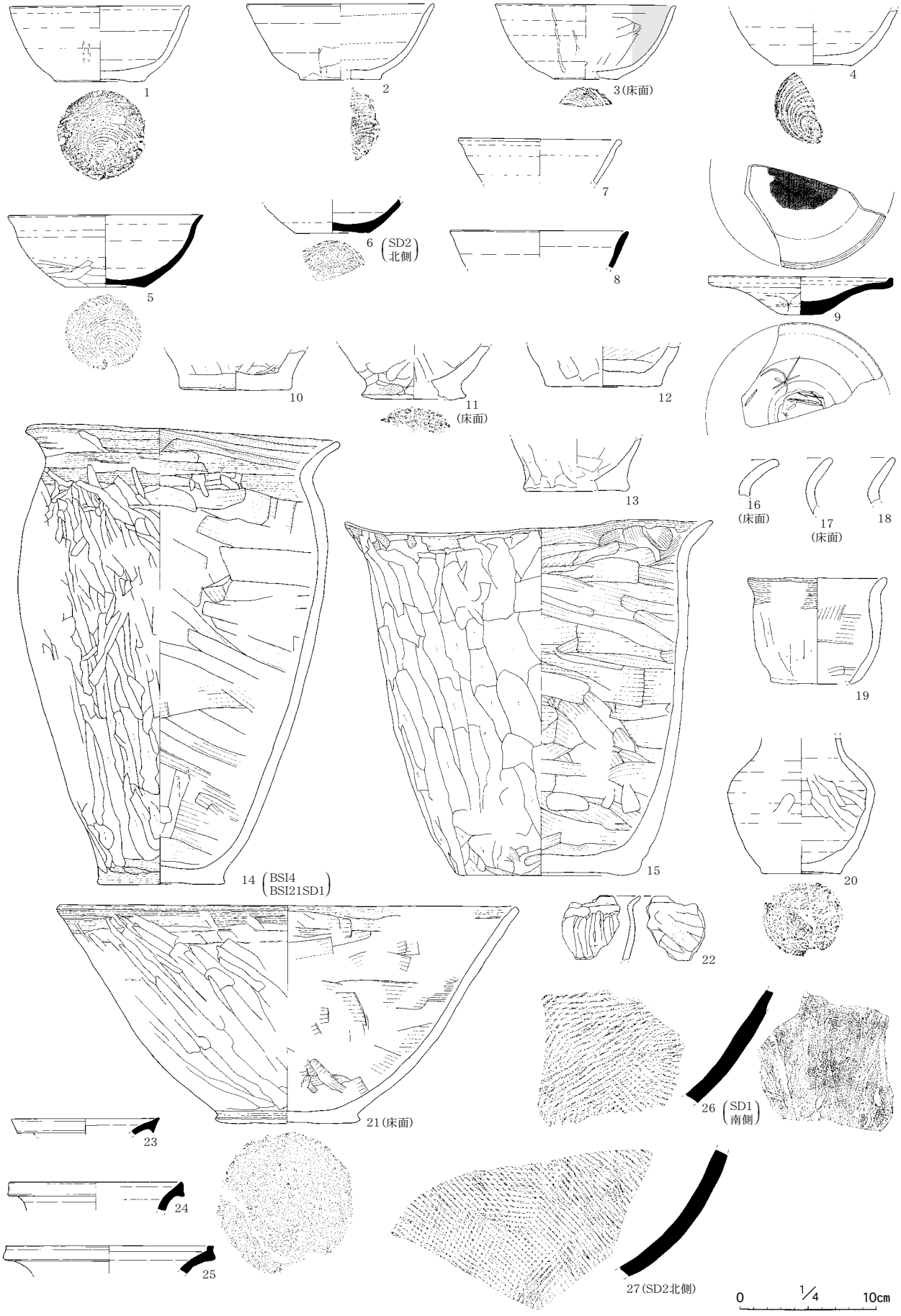


図 108　第４号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

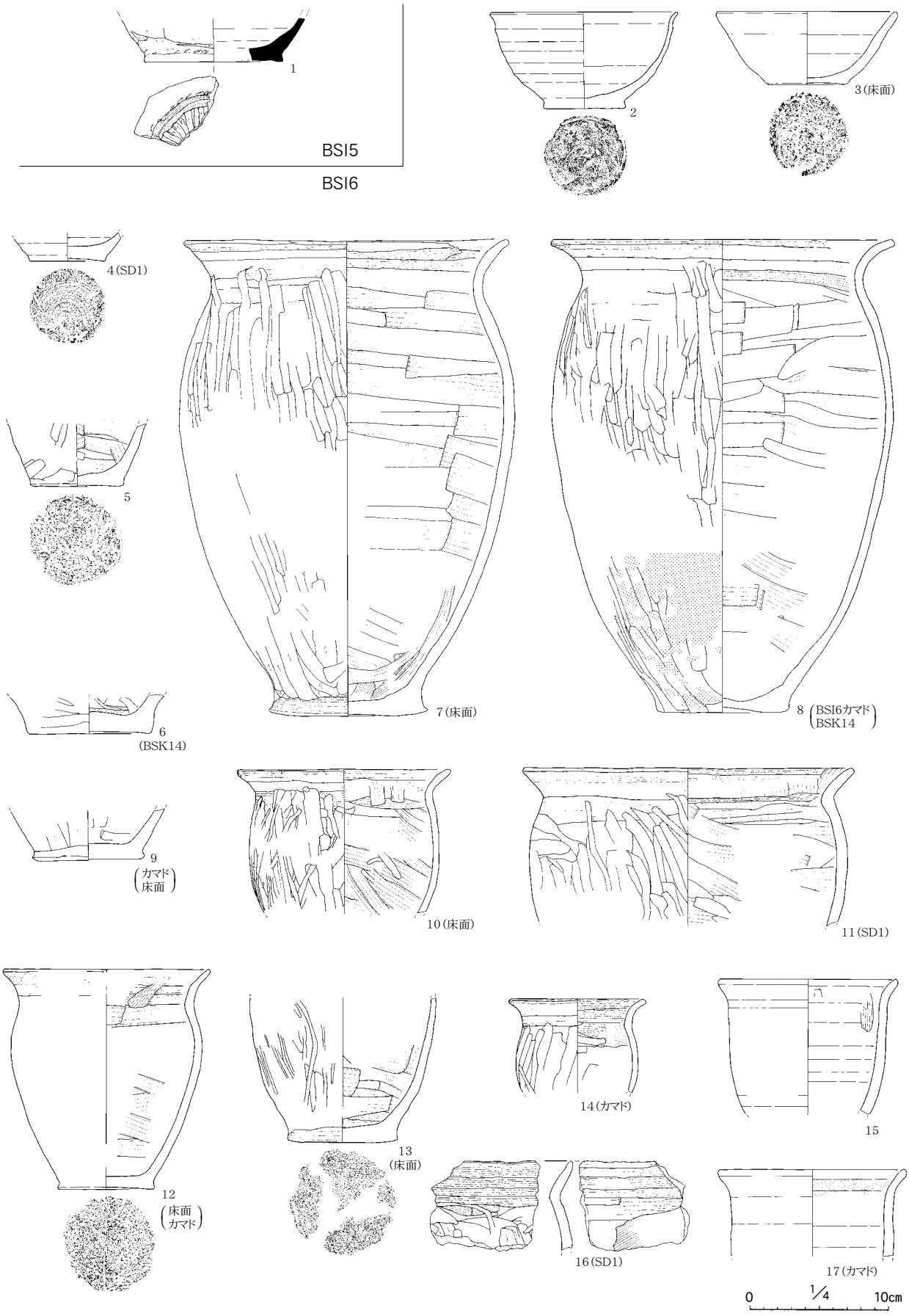


図 109　第 5 号・ 6 号竪穴住居跡（1）、第 14 号土坑出土土師器・須恵器

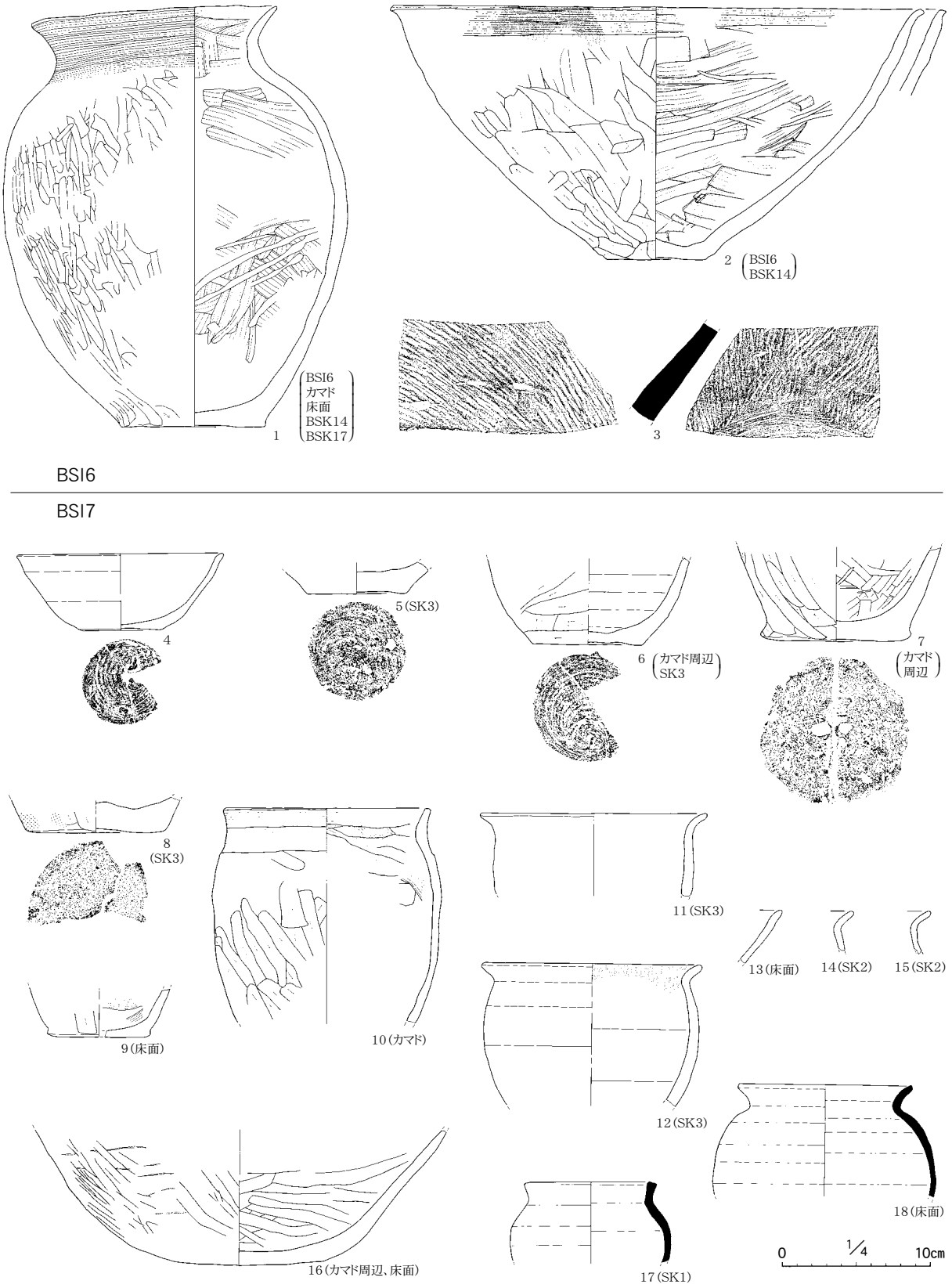


図 110　第６号（２）・７号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

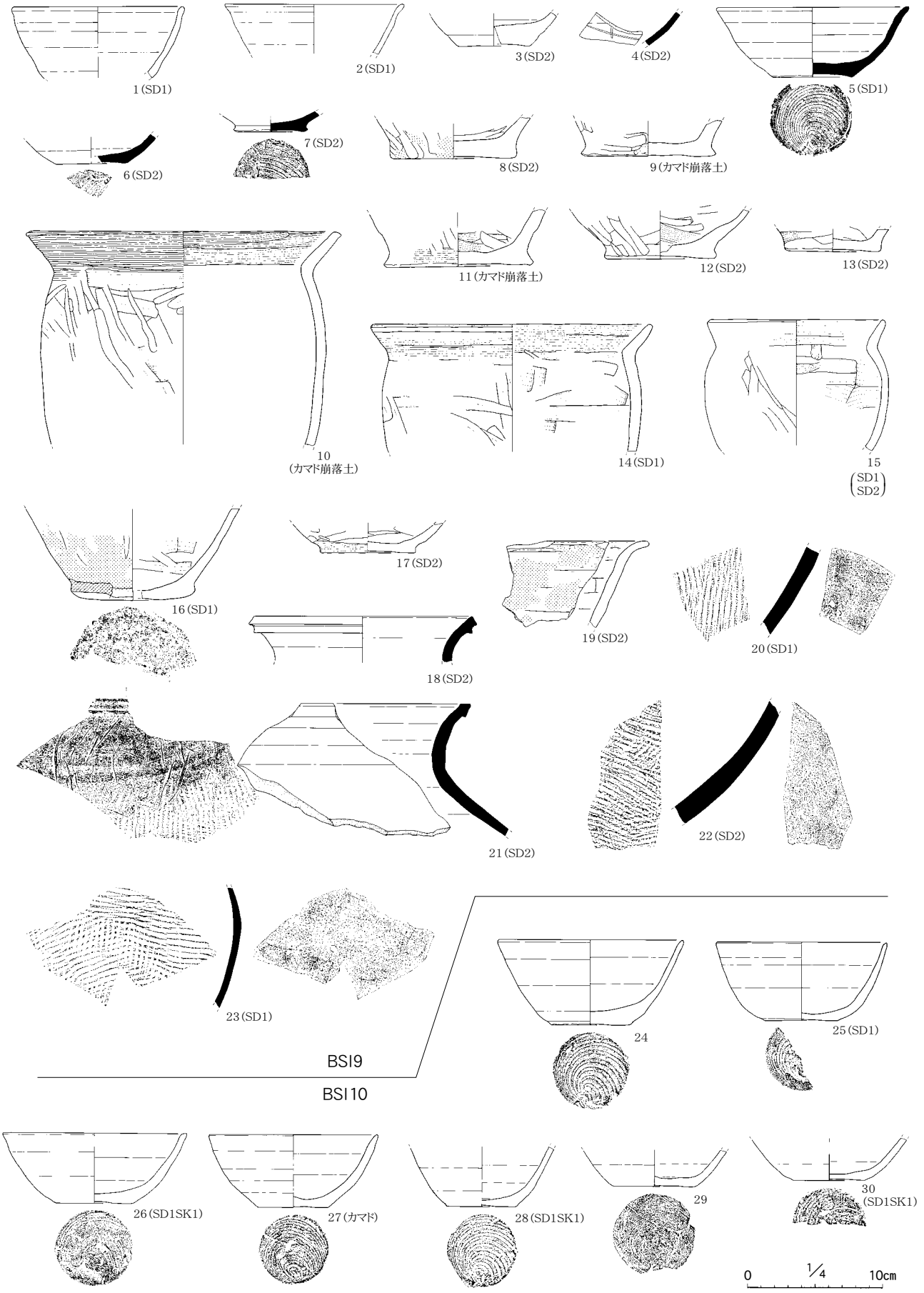


図 111　第 9 号・10 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器(1)

図 112　第 10 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器（２）

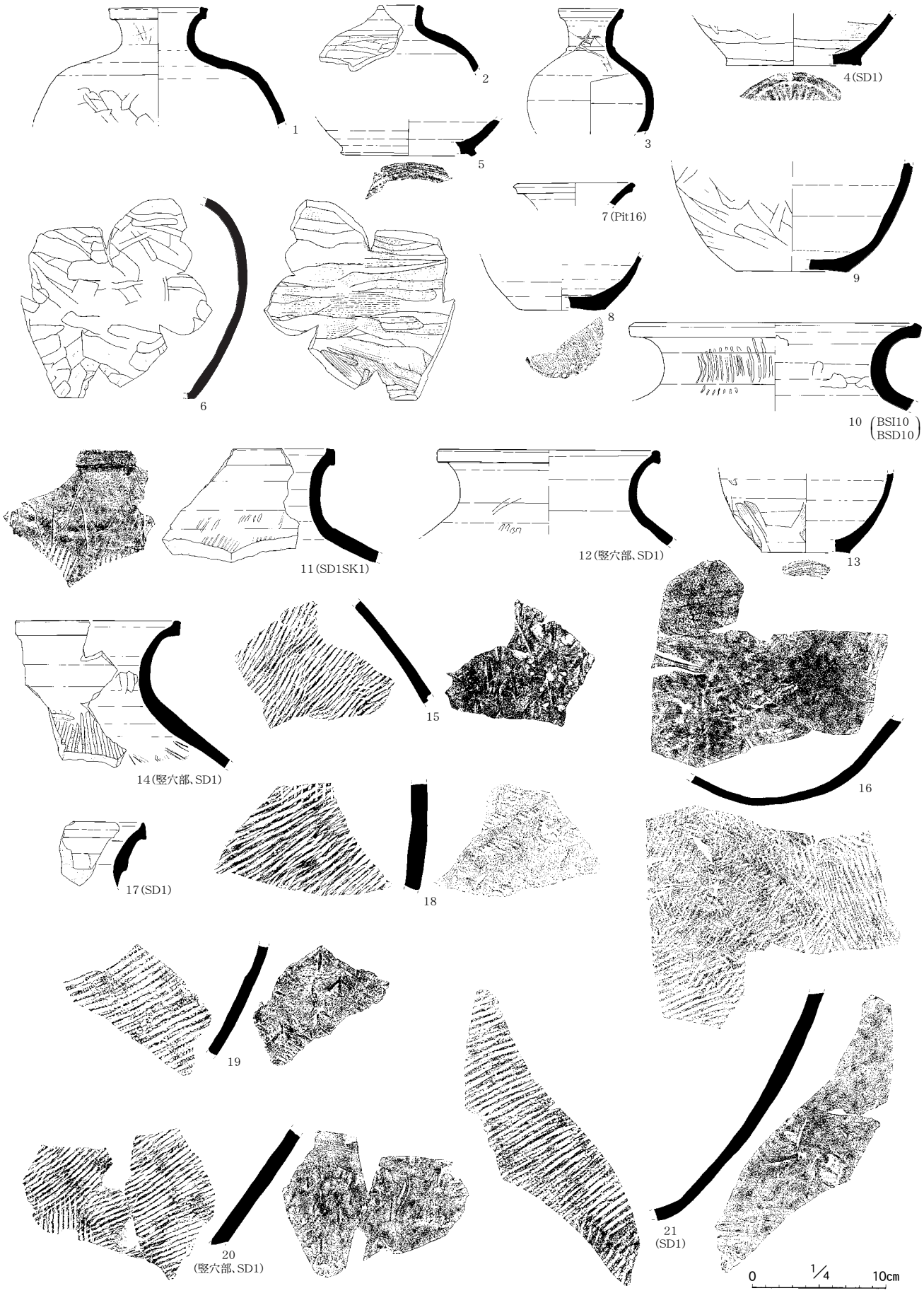


図 113　第 10 号竪穴住居跡出土須恵器（3）

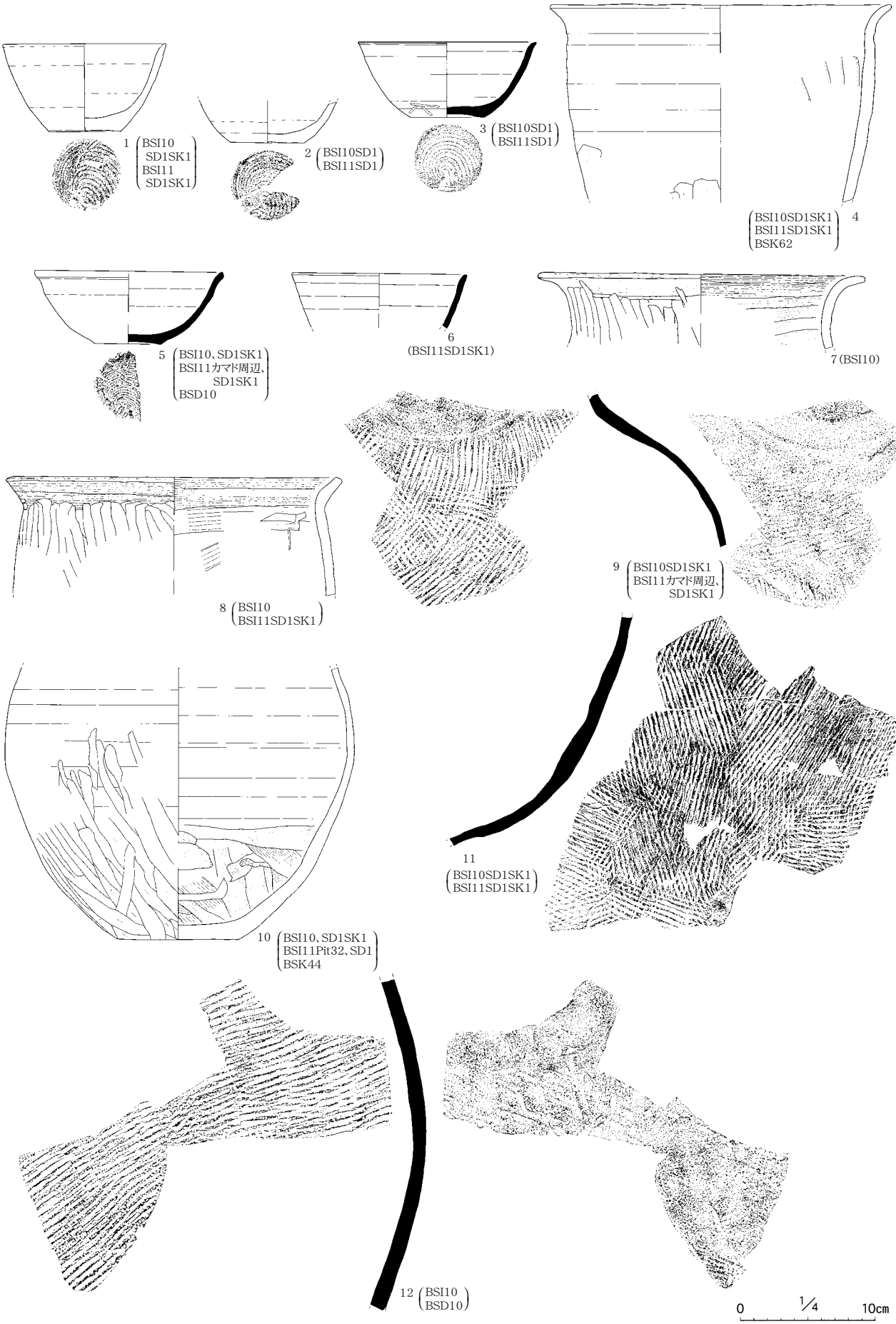


図 114　第 10 号（４）・11 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器（１）

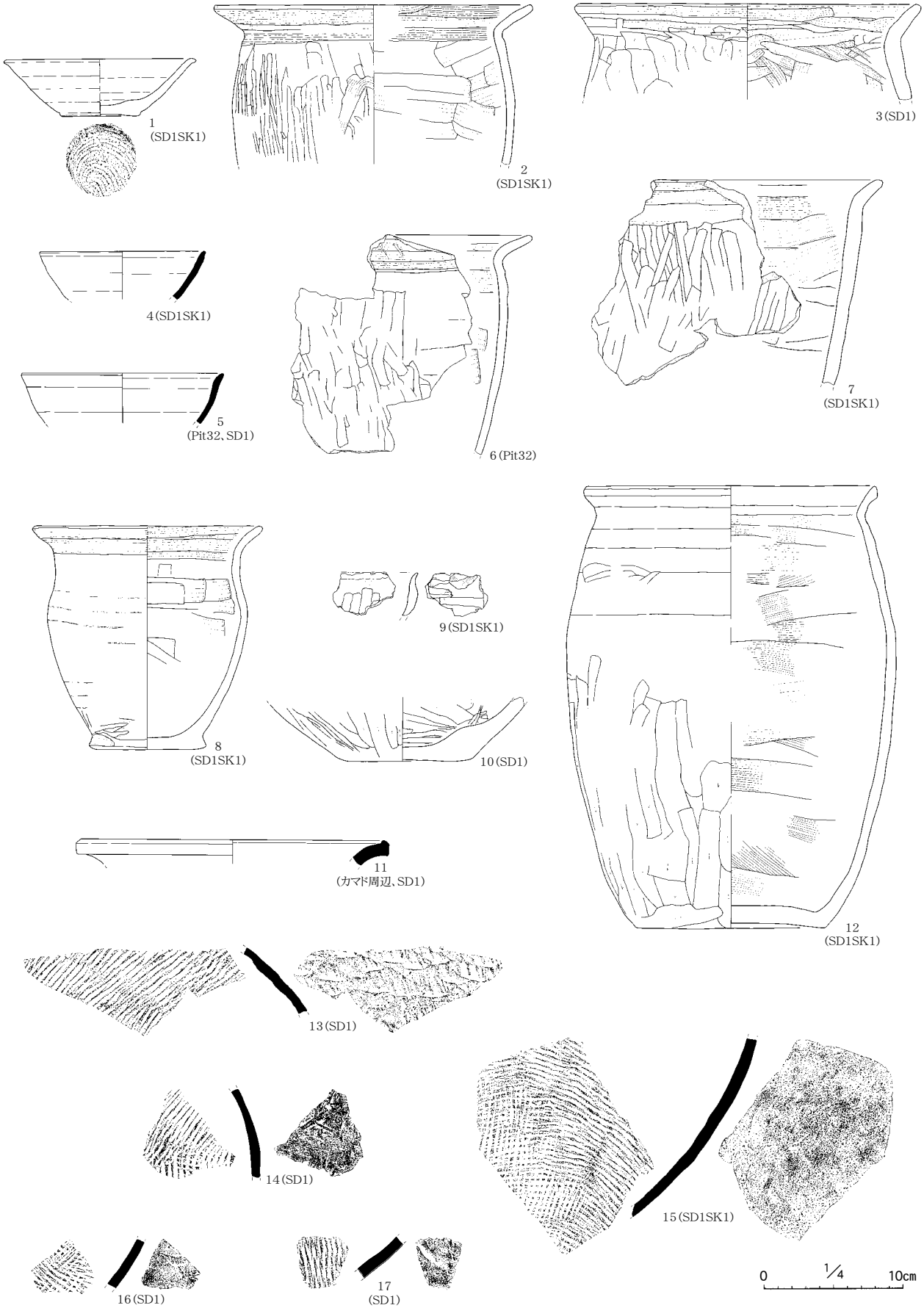


図 115　第 11 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器（2）

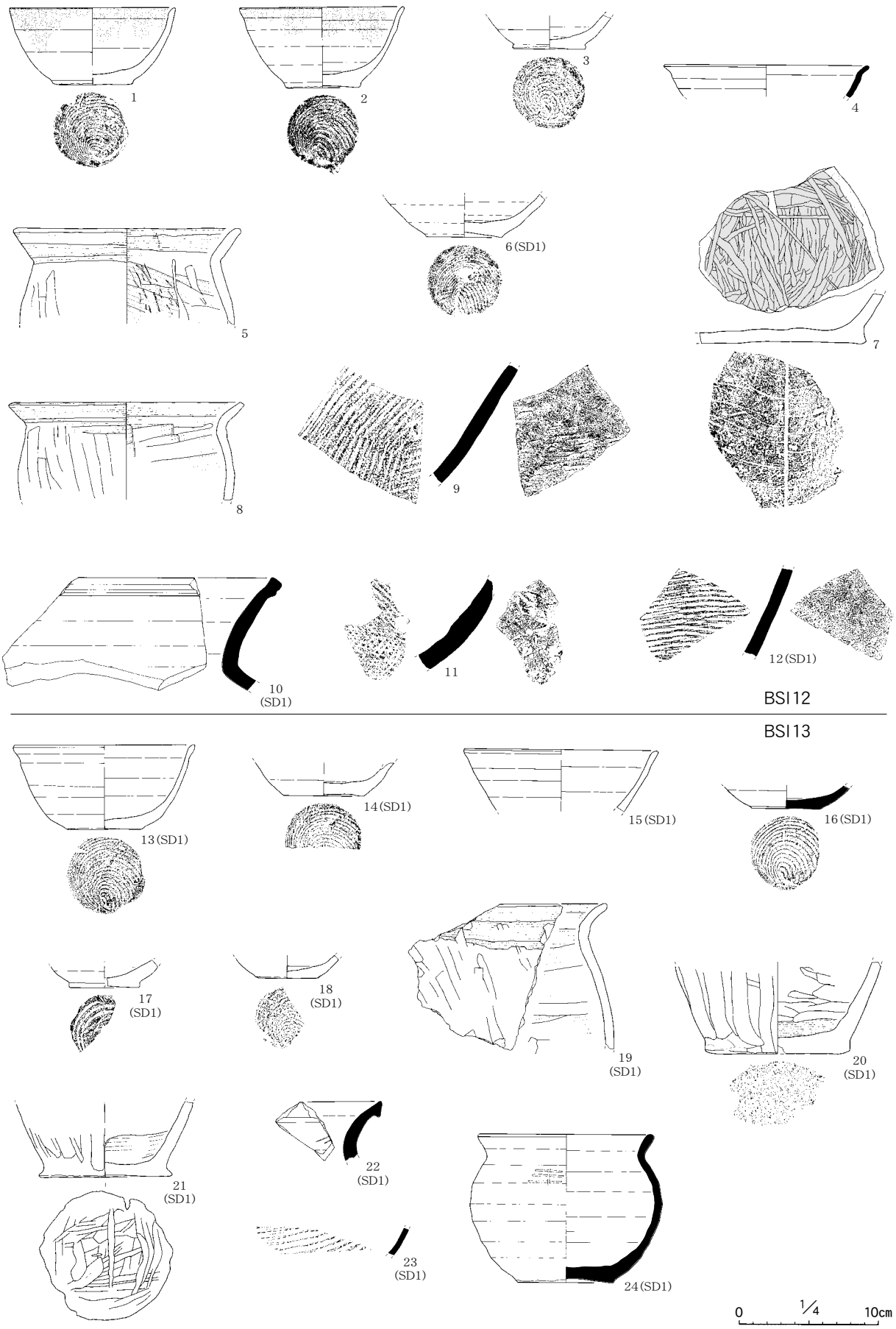


図 116　第 12 号・13 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

図 117　第 15 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

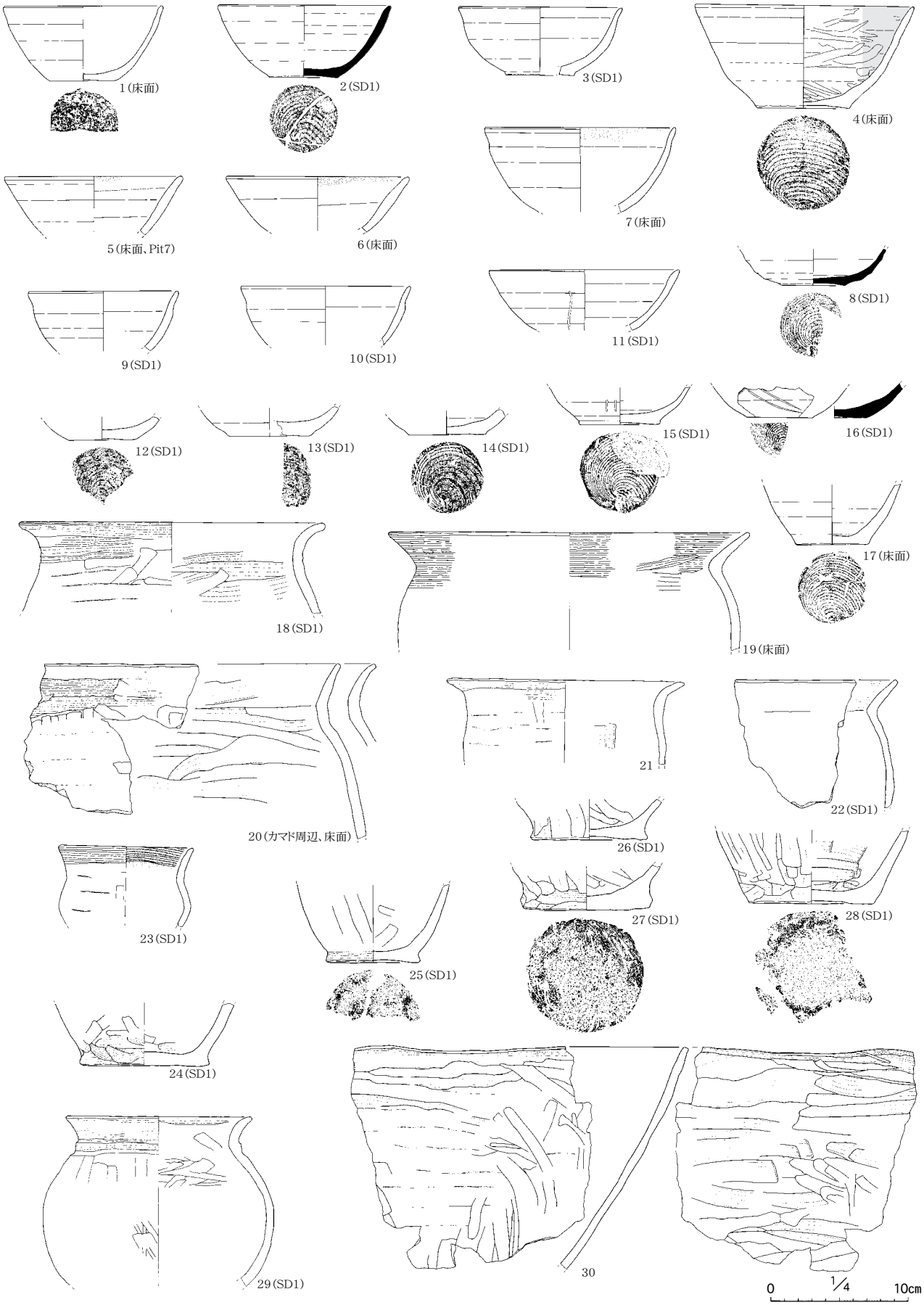


図 118　第 16 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器（１）

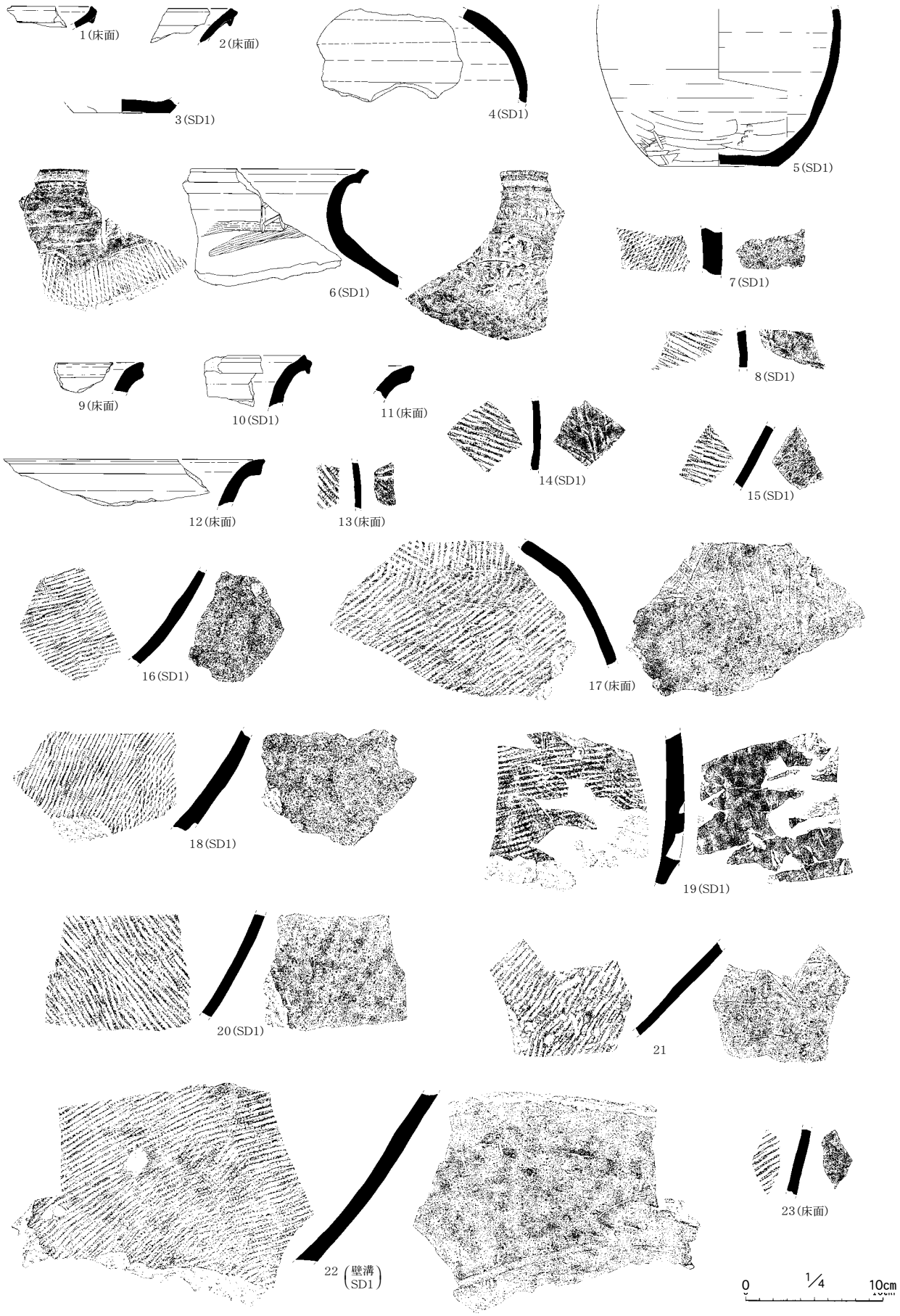


図 119　第 16 号竪穴住居跡出土須恵器(2)

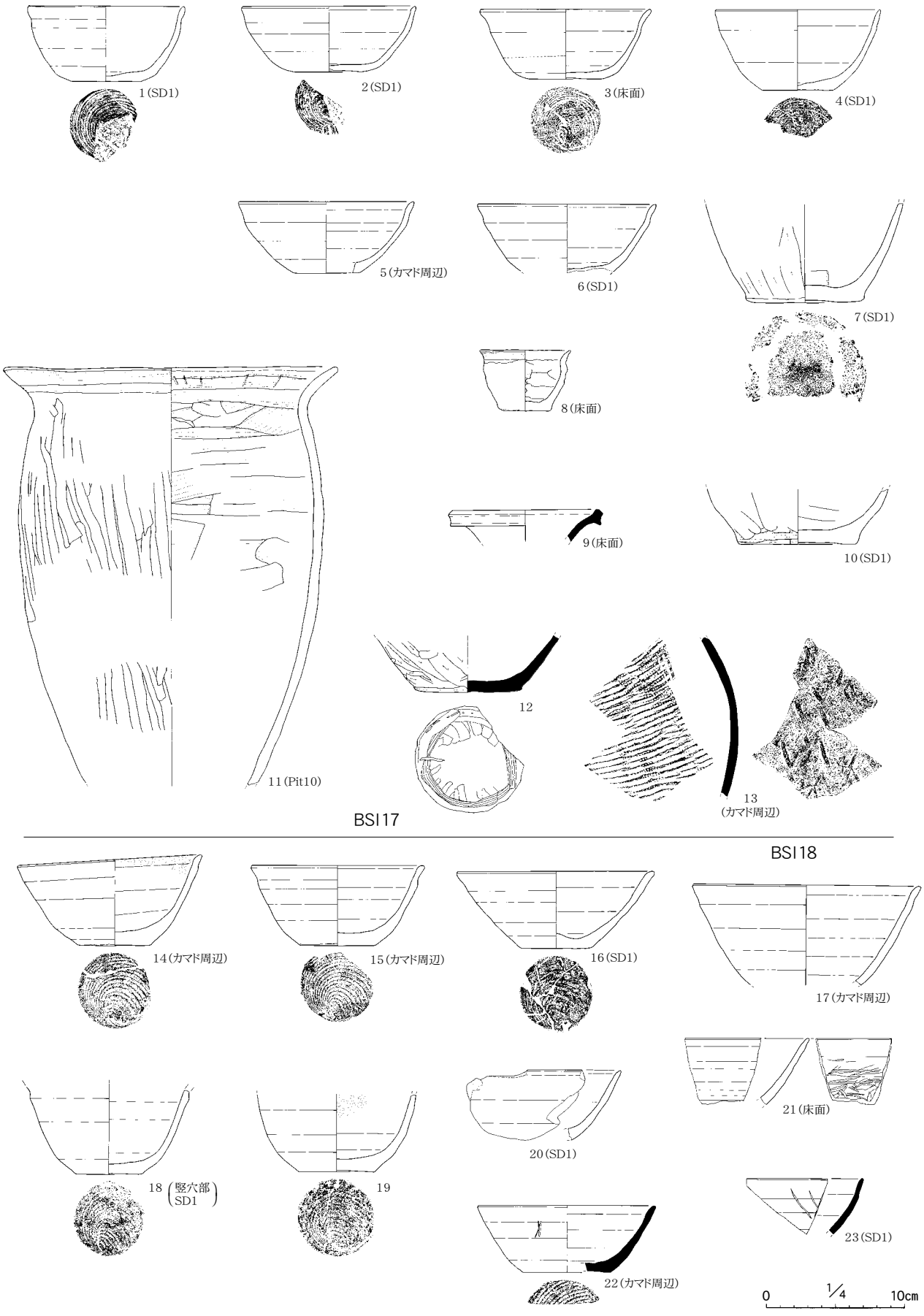


図 120　第 17 号・18 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器（１）

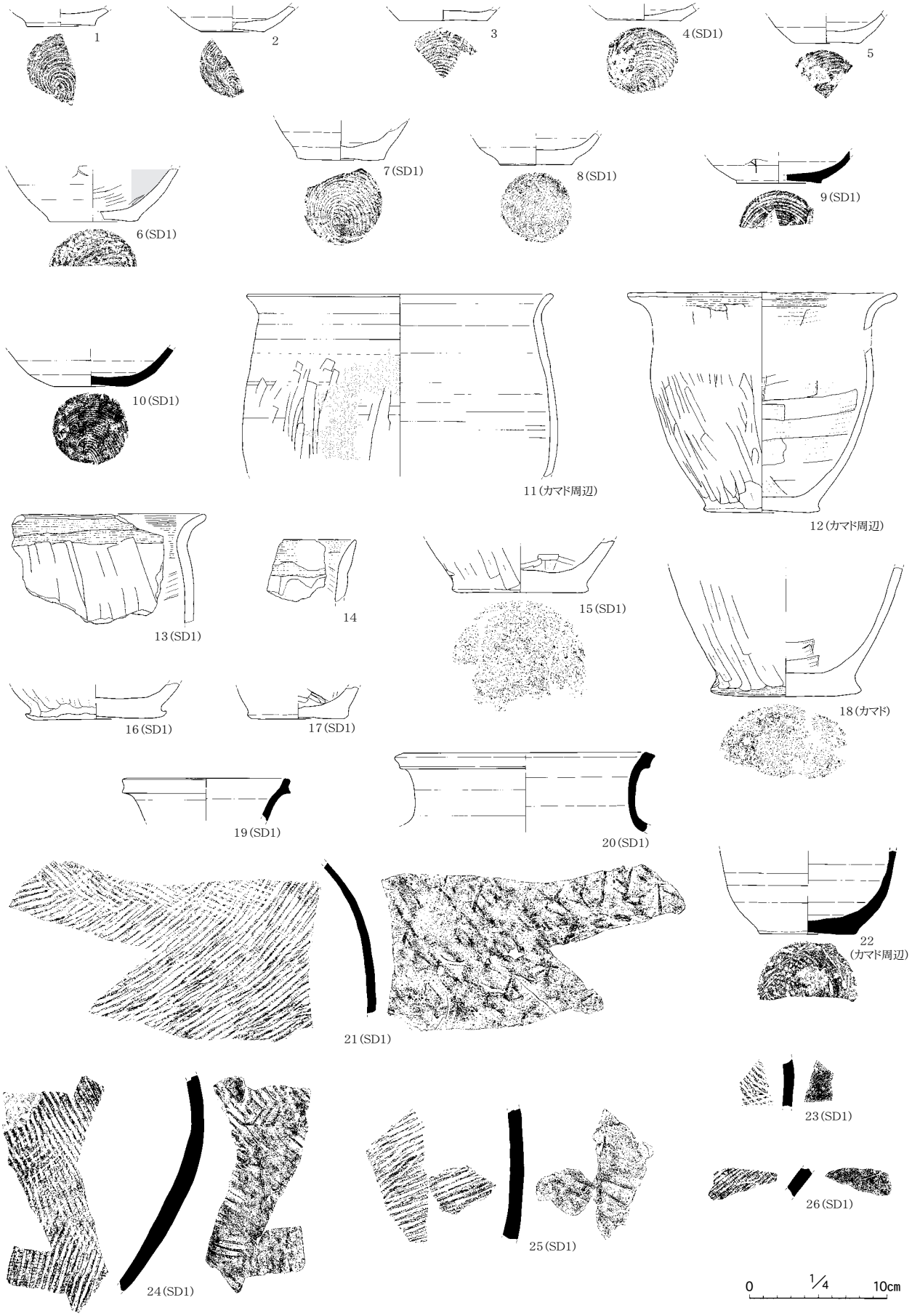


図 121　第 18 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器（2）

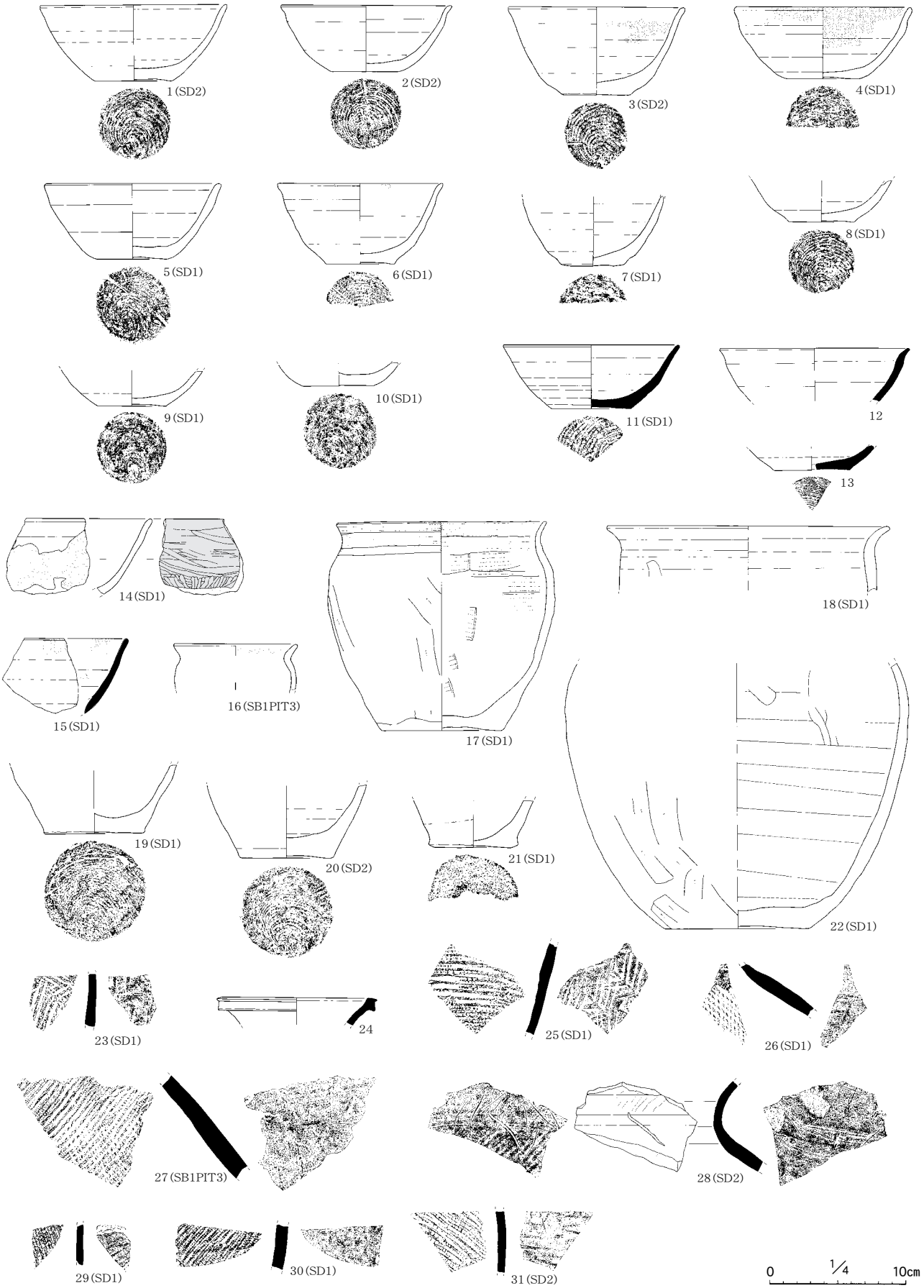


図 122　第 19 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

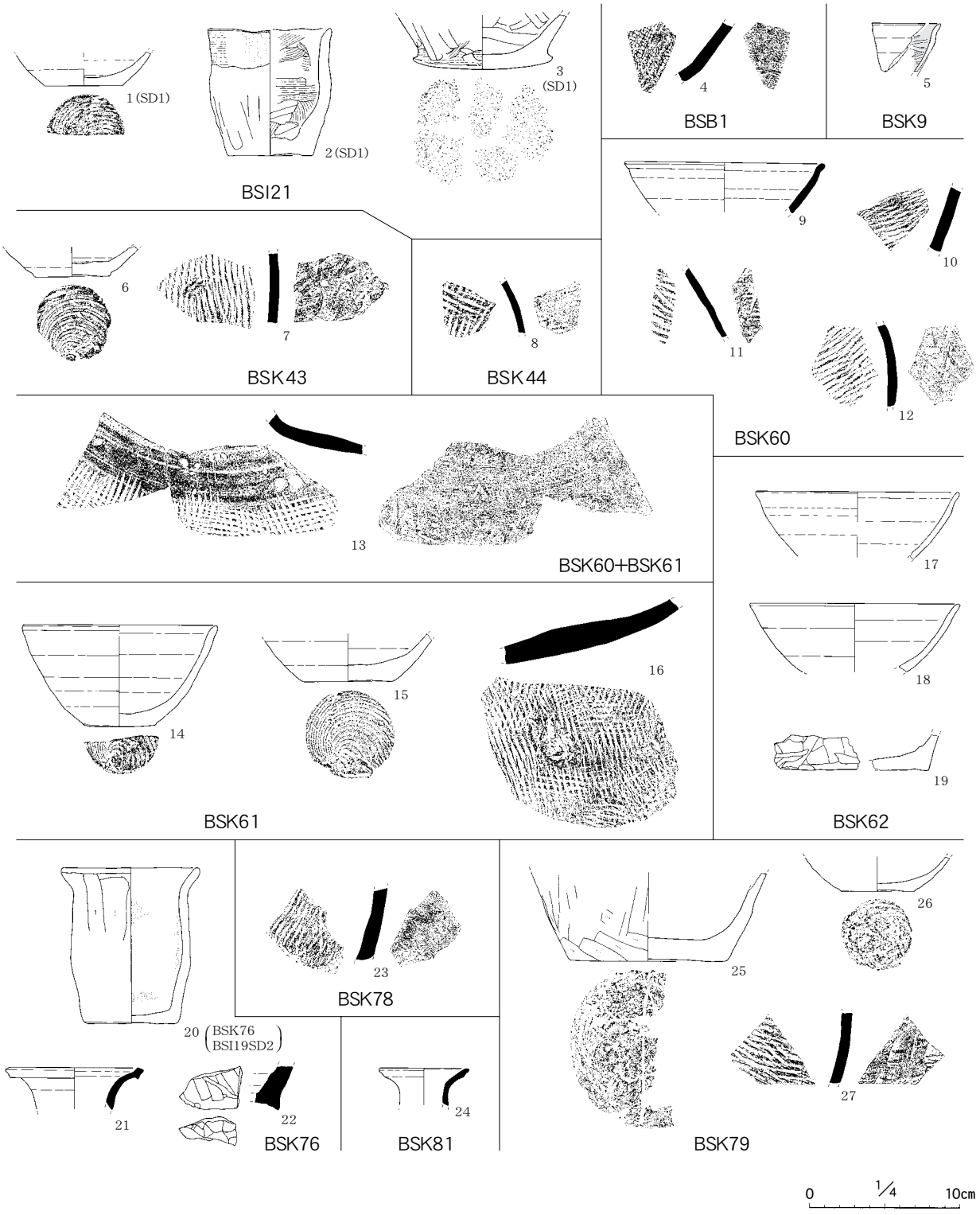


図 123　第 21 号竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑出土土師器・須恵器

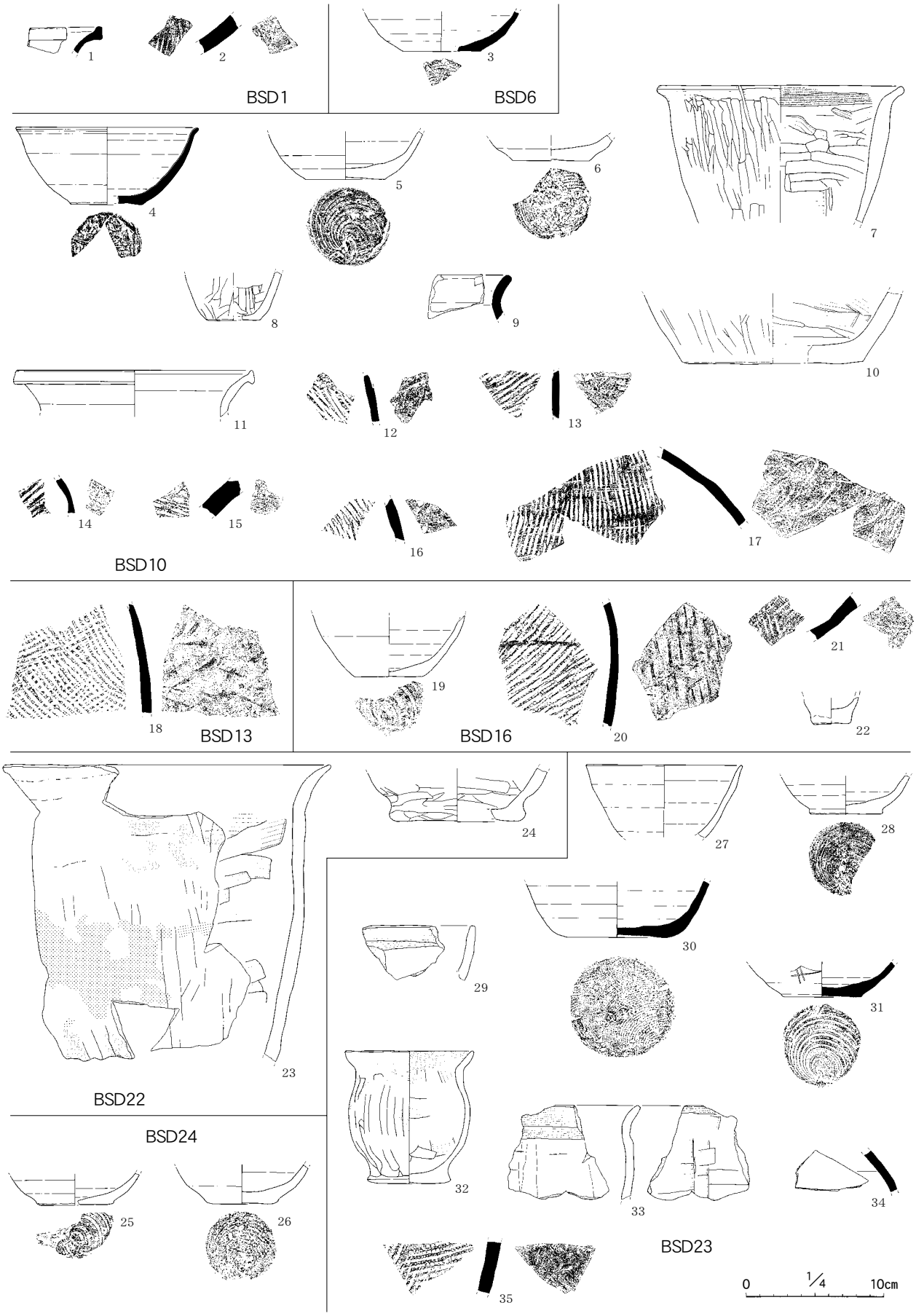


図 124　溝跡出土土師器・須恵器

図 125　遺構外出土土師器・須恵器（1）

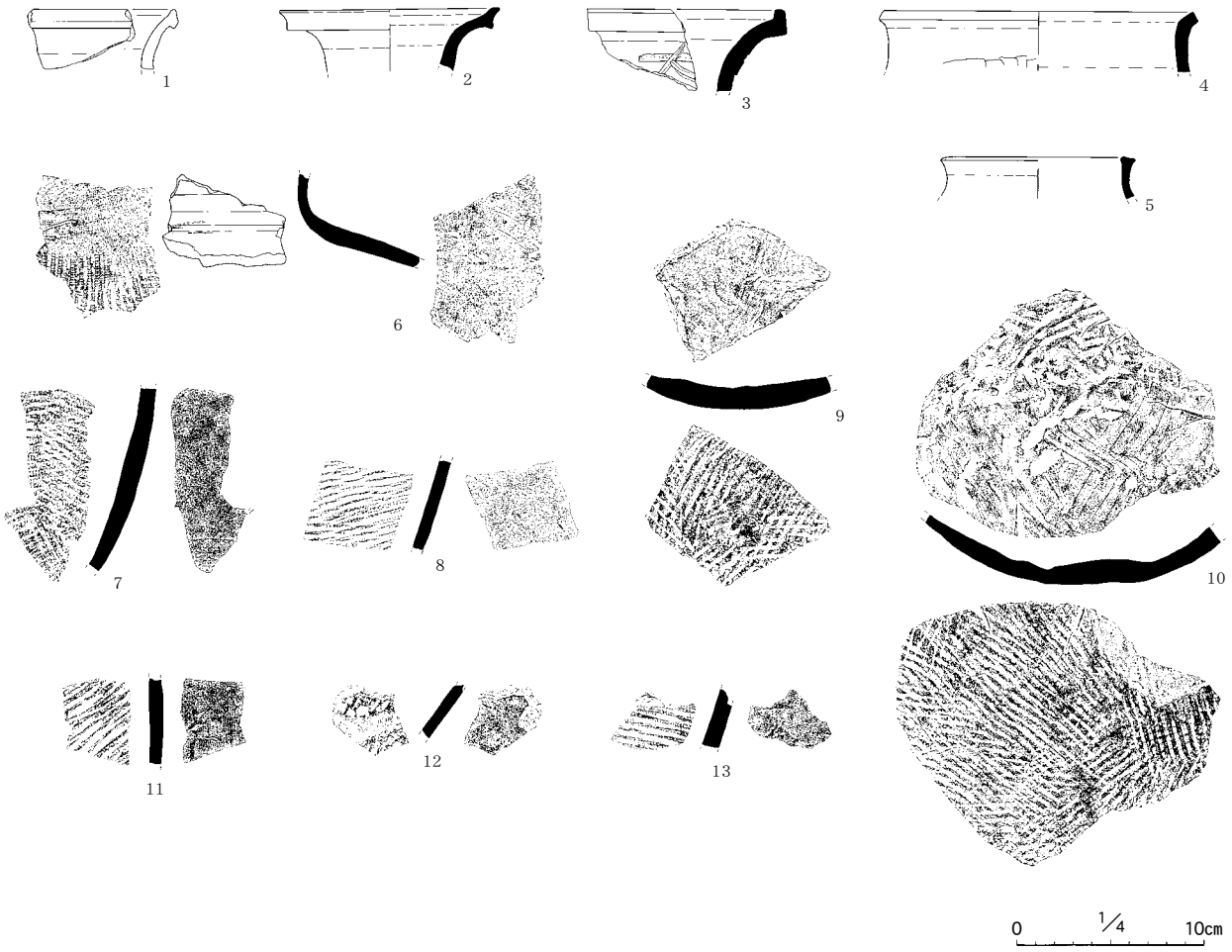


図 126　遺構外出土土師器・須恵器（２）

図108-1

図108-2

土師器

須恵器

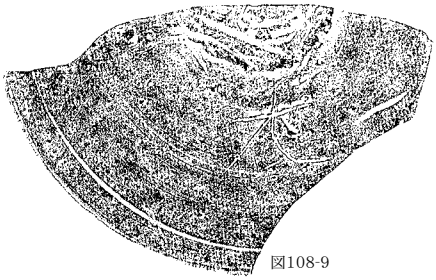


図108-9

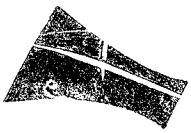


図111-4

図113-17

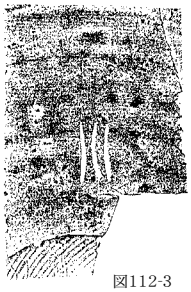


図112-3

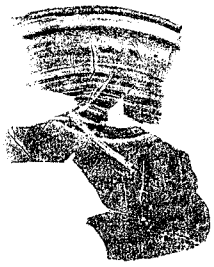


図113-3

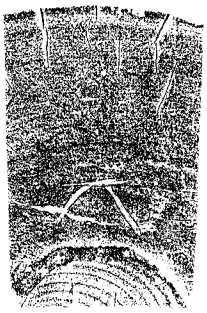


図112-4

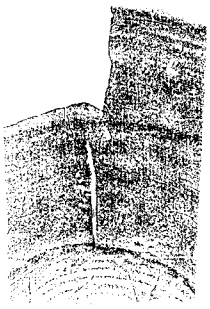


図112-5

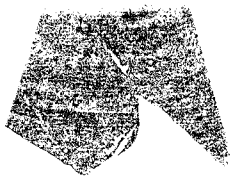


図113-1

図114-3

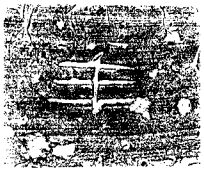


図116-24

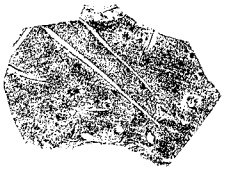


図118-16

図118-11

図118-15

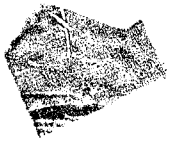


図121-9

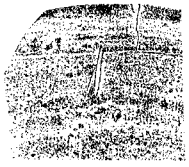


図120-22

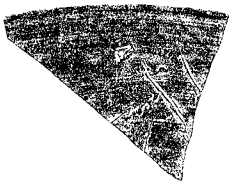


図120-23

図122-12

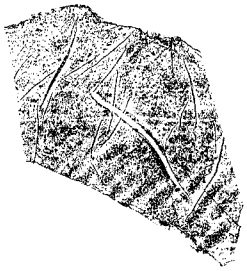


図122-28

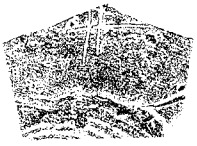


図124-31

図126-6

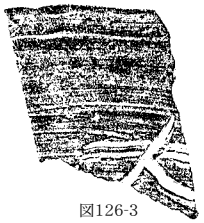


図126-3

0　1/2　5cm

図 127　刻書

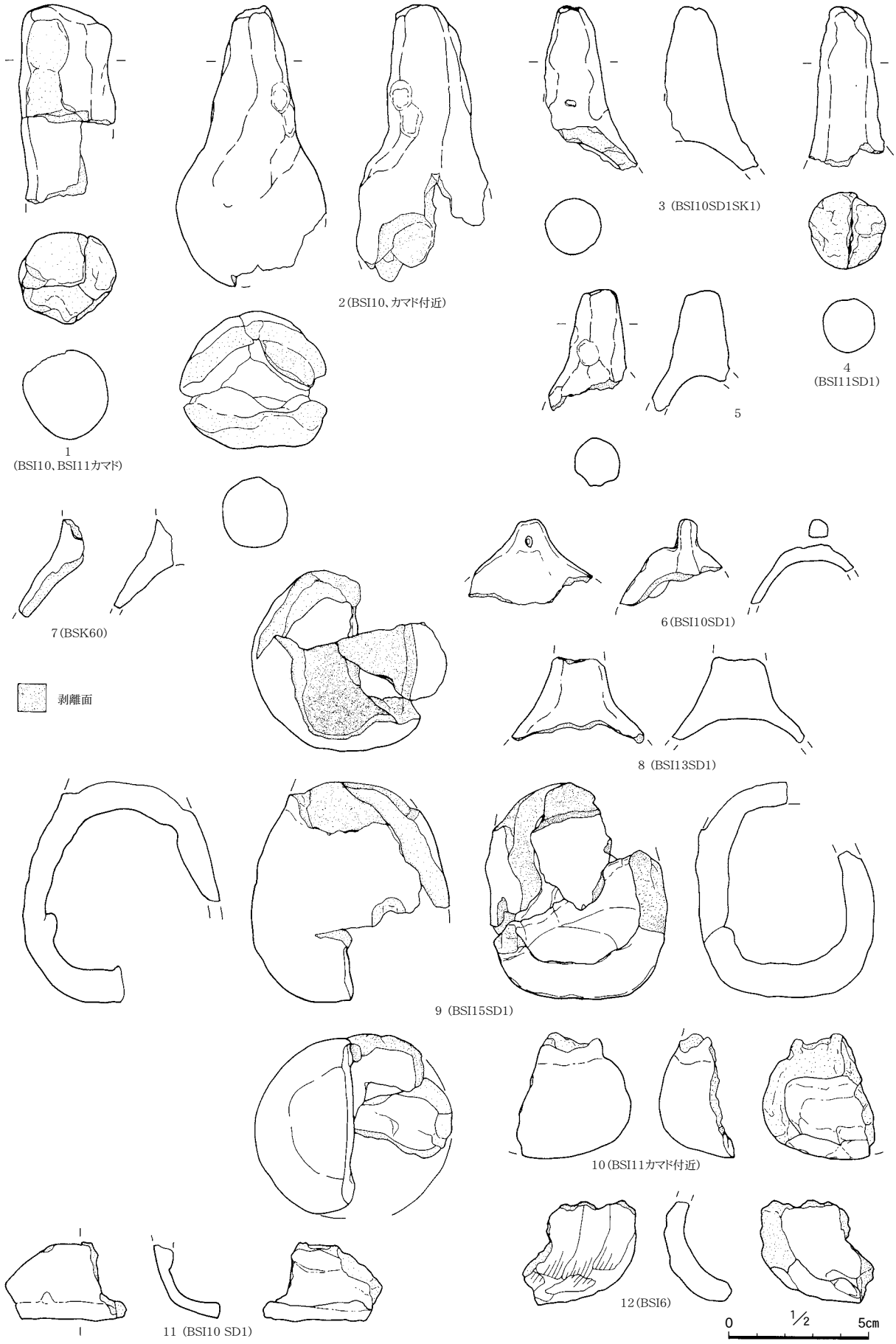

1
(BSI10、BSI11カマド)
2(BSI10、カマド付近)
3 (BSI10SD1SK1)
4
(BSI11SD1)
5
6(BSI10SD1)
7(BSK60)
剥離面
8 (BSI13SD1)
9 (BSI15SD1)
10(BSI11カマド付近)
11 (BSI10 SD1)
12(BSI6)
0
1/2
5cm

図 128　土製品〈古代〉(1)

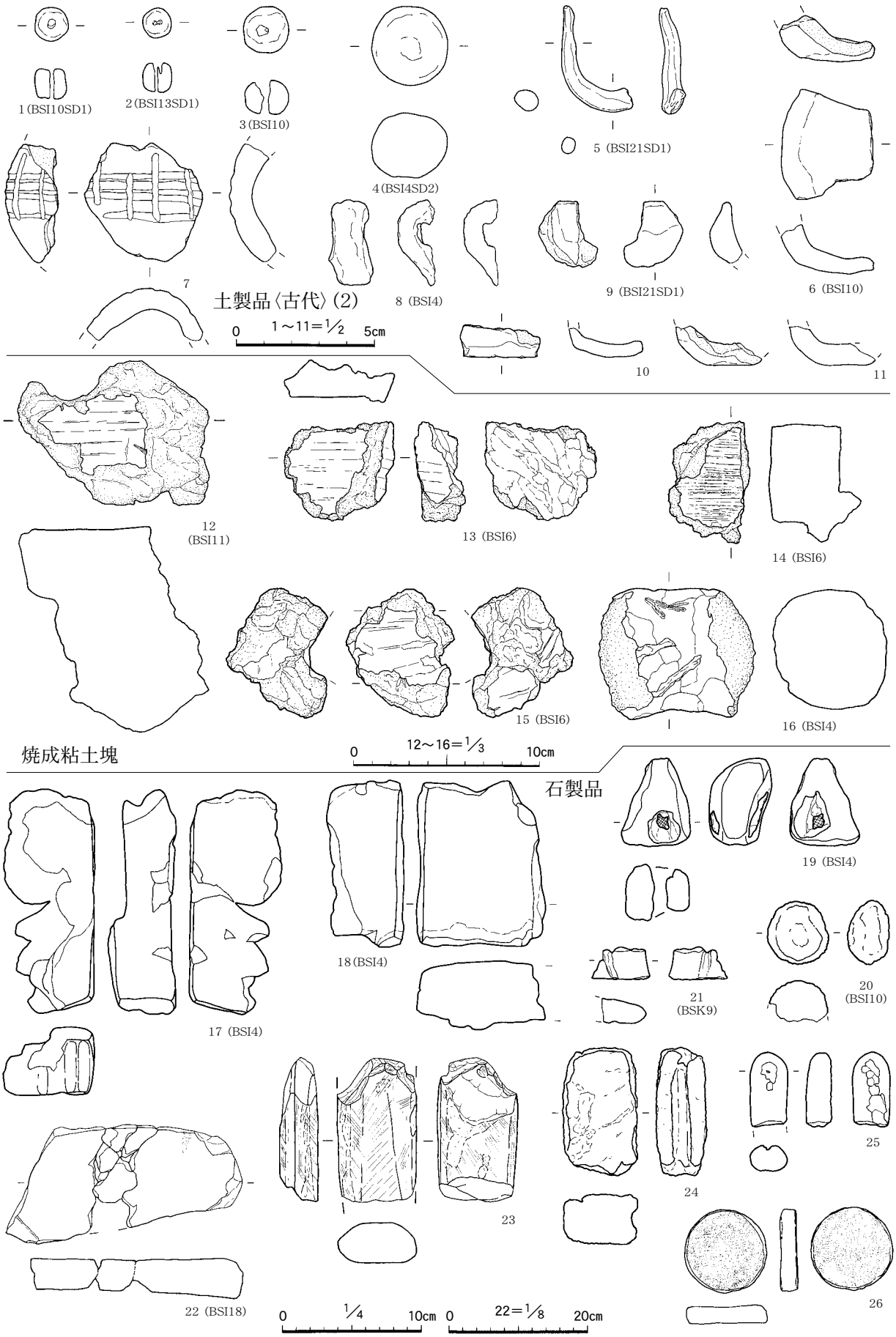
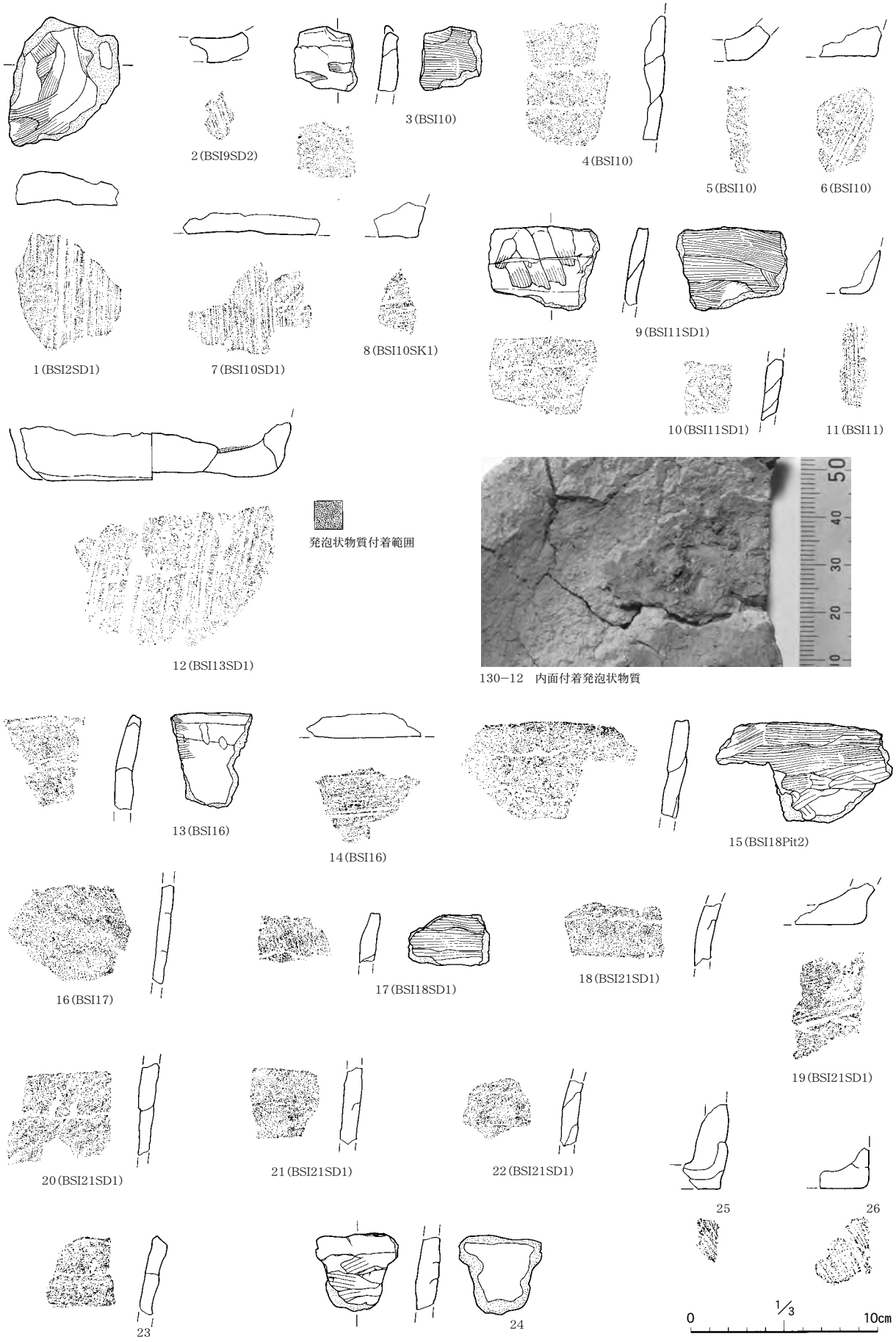


図 129　土製品〈古代〉(２)、焼成粘土塊、石製品



130−12　内面付着発泡状物質

図 130　製塩土器

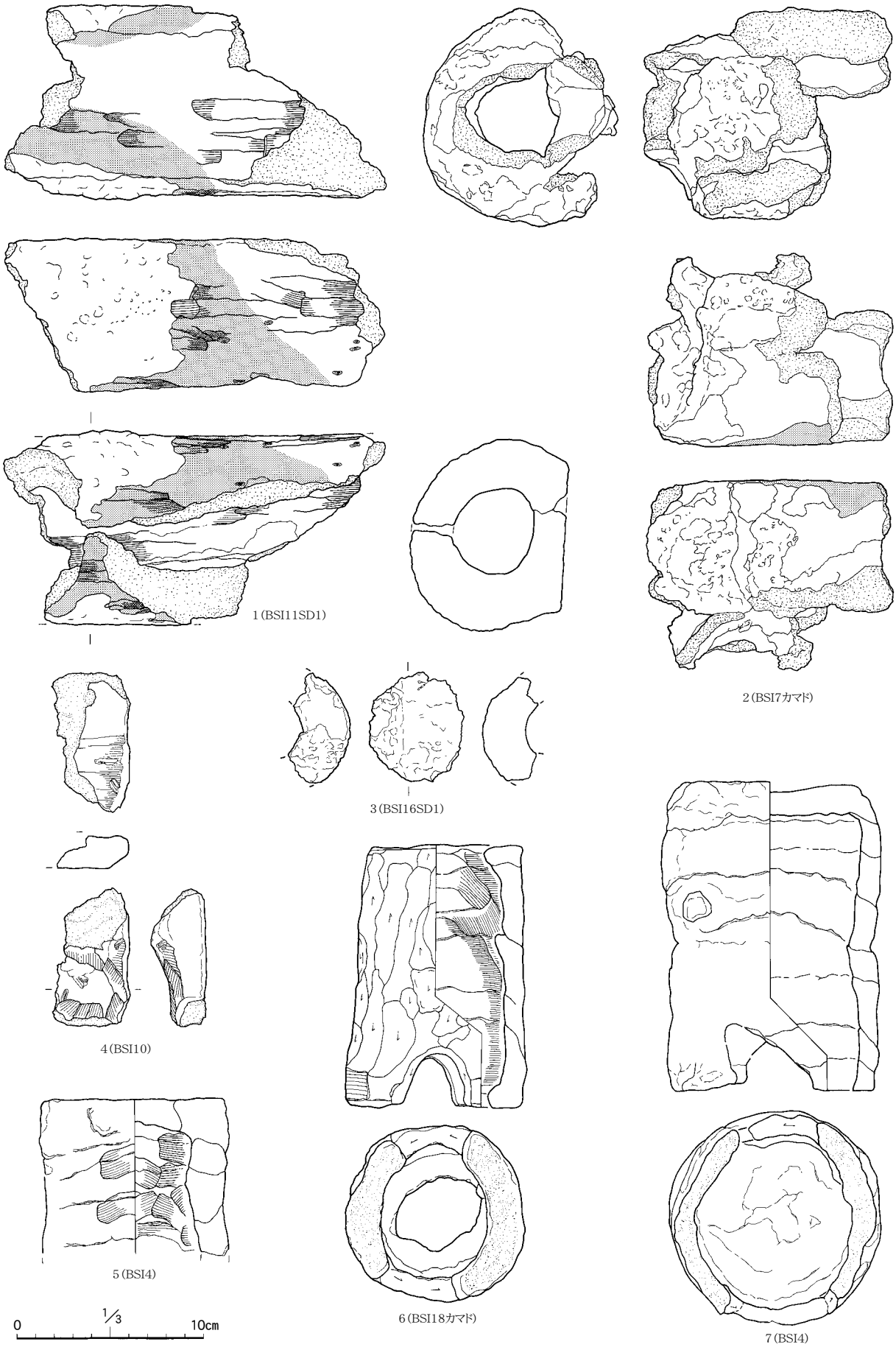

1（BSI11SD1）
2（BSI7カマド）
3（BSI16SD1）
4（BSI10）
5（BSI4）
6（BSI18カマド）
7（BSI4）
0
1/3
10cm

図 131　羽口・支脚

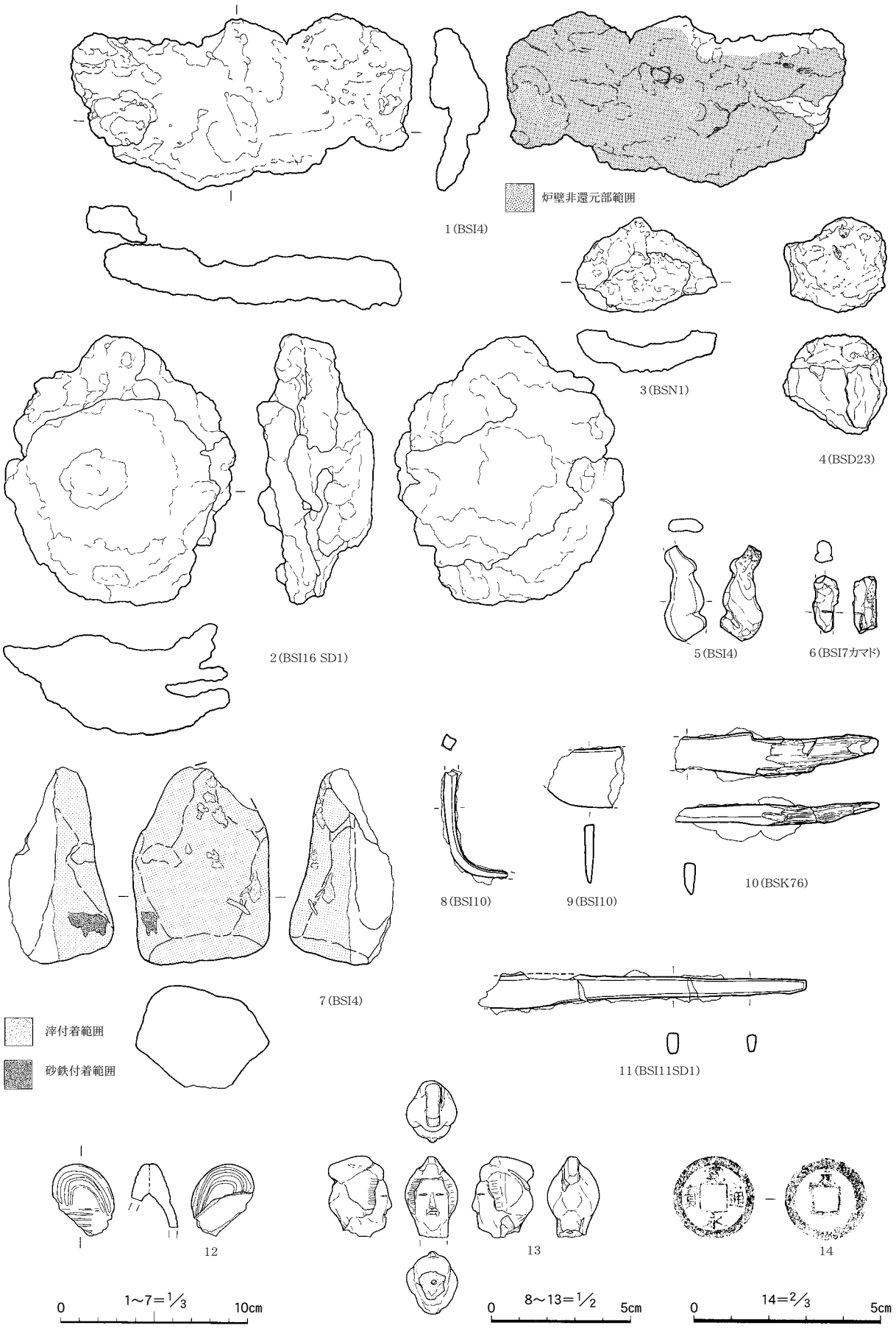


図 132　鉄関連・近世以降の遺物

第４章　自然科学分析

第１節　近野遺跡の火山灰分析

１　近野遺跡出土の火山灰について

弘前大学・理工学部・地球環境学科　　柴　正敏

03 近野遺跡より採集された、火山灰サンプル（26 試料）について、以下の観察・分析を行った。これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメーター以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。その結果を表１に示した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（町田・新井、2003)。火山ガラスの化学組成を決定する方法として、近年、電子プローブマイクロアナライザー（以下 EPMA）がもちいられるようになってきた。本報告では、４試料の火山ガラスについて EPMA 分析を行った。使用したＥＰＭＡは弘前大学・理工学部所有の日本電子製ＪＸＡ－８８００ＲＬ、使用条件は加速電圧１５ｋＶ，試料電流３×10^{-9} アンペアである。

ガラスの形態及び共存鉱物（表１)、EPMA による分析値（表２）により、次の９試料は、主に白頭山苫小牧テフラ起源のガラスよりなる：試料 No.6, No.7-1, No.7-2, No.9-5, No.11-1, No.11-2, No.12,　No.15 及び No.16。試料 No.6 ではエジリンオージャイトが認められた。試料 No.6, No.7-2, No.9-5 及び No.15 では、十和田ａテフラ起源のガラスが混入していると考えられる（表２の分析値参照)。また、試料 No.9-5 では、針状～長柱状ホルンブレンドが認められることより（表１)、十和田八戸テフラが混入している可能性がある。

表２から明らかなように、９成分の含有量について、既存の白頭山苫小牧テフラ起源のガラス組成（Machida、1999；柴ほか、2000）と良く一致する。本遺跡に産する白頭山苫小牧テフラ起源のガラス組成は既存のデータと同様、二つの組成クラスターを持っている。すなわち、比較的肉厚で気泡径が中程度のガラスは、より SiO_2 に乏しく CaO や K_2O に富み（B-Tm（ａ））、一方、気泡径が大きく良く発泡したガラスあるいは気泡径が小さく発泡度の低いガラスは、より SiO_2 に富み CaO や K_2O に乏しい組成を持っている（B-Tm（ｂ））。

全 26 試料のうち、No.8-1 ～ No.8-7, No.9-1 ～ 9-4 の 11 試料から、軽石粒子、褐色ガラス、粗粒な斜長石、石英、斜長石、単斜輝石および斜方輝石が認められた。試料 No.6 及び No.9 の火山ガラスも同様の化学組成を持つことから（表２)、十和田ａ起源とした。試料 No.8-1 ～ No.8-7 及び試料 No.9-1 ～ 9-4 からは、ホルンブレンドが観察された。これら試料については、十和田八戸テフラが混入している可能性が高い。

試料 No.10-2 ～ 10-5 の４試料については、褐色ガラスを含まないが、ホルンブレンドを含むことより、十和田八戸テフラ起源の砕屑粒子からなるものとした。

試料 No.5 は、軽石型火山ガラスは認められるが、ホルンブレンドも褐色ガラスも認められなかったので、火山灰の帰属を十和田系と一括した。今後の課題としたい。

表 1．03 近野遺跡火山灰試料

試料No.	採集地点	層　位	ガラス及び鉱物	ガラスの帰属	備考
5	B区第18号住居跡中央	7 層	ガラス (pm)、斜長石、斜方輝石、単斜輝石	十和田系	
6*	B区第19号住居跡外周溝 1	1 層	ガラス (bw, pm)、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、アルカリ長石、エジリンオージャイト	B-Tm、To-a	
7-1	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション⑥－4 層下	ガラス (bw, pm)、アルカリ長石	B-Tm	
7-2	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション⑥－4 層上	ガラス (bw, pm)、アルカリ長石、斜長石	B-Tm、To-a	
8-1	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション②－4 層	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (2.5～0.5mm)
8-2	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション②－3 層下	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (3.5～0.5mm)
8-3	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション②－3 層上	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (2.5～0.5mm)
8-4	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション②－2 層下	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (1.5～0.5mm)
8-5	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション②－2 層上	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (3.0～0.5mm)
8-6	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション②－1 層下	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-a、To-H	軽石 (1.5～0.5mm)
8-7	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション②－1 層上	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (1.5～0.5mm)
9-1	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション①－4 層	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (3.0～0.5mm)
9-2	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション①－3 層	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (2.0～0.5mm)
9-3	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション①－2 層	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (3.5～0.5mm)
9-4	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション①－1 層下	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-a,To-H	軽石 (3.5～0.5mm)
9-5*	B区第16号住居跡外周溝 1	セクション①－1 層上	ガラス (pm)、褐色ガラス、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	B-Tm,To-a,To-H	軽石 (4.0～0.5mm)
10-1	B区第17号住居跡外周溝 1	セクション①－4 層下	石英、斜長石、ホルンブレンド	火山ガラスなし	粘土鉱物に富む
10-2	B区第17号住居跡外周溝 1	セクション①－4 層上	ガラス(pm)、斜長石、石英、ホルンブレンド	To-H	粘土鉱物に富む
10-3	B区第17号住居跡外周溝 1	セクション①－1 層下	ガラス(pm)、斜長石、石英、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石	To-H	軽石 (1.5～0.5mm)
10-4	B区第17号住居跡外周溝 1	セクション①－1 層中	ガラス(pm)、斜長石、石英、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石	To-H	軽石 (1.5～0.5mm)
10-5	B区第17号住居跡外周溝 1	セクション①－1 層上	ガラス(pm)、斜長石、石英、ホルンブレンド、斜方輝石、単斜輝石	To-H	軽石 (3.5～0.5mm)
11-1	B区第 2 号住居跡外周溝 1	3 層	ガラス (bw, pm)、アルカリ長石、斜長石、単斜輝石	B-Tm	
11-2	B区第 2 号住居跡中央	4 層	ガラス (bw, pm)、アルカリ長石	B-Tm	
12	B区第 9 号土坑	4 層	ガラス (bw, pm)、アルカリ長石	B-Tm	
15	B区第71号土坑	5 層	ガラス (bw, pm)、アルカリ長石、斜長石、褐色ガラス	B-Tm、To-a	
16	BSX8,EA-243、柱状サンプルC5	淡褐色火山灰層	ガラス (bw, pm)、アルカリ長石、斜長石	B-Tm	

ｂｗ＝バブルウォール型、 ｐｍ＝軽石型、B-Tm = 白頭山苫小牧テフラ、 T0-H = 十和田八戸テフラ、 To-a = 十和田ａテフラ
＊　=　EPMA 分析を行った試料

引用文献

青木かおり・新井房夫 2000 三陸沖海底コア KH94 － 3，LM- 8 の後期更新世テフラ層序．第四紀研究，第 39 巻，107-120.
Machida, H. 1999 ,Widespread tephra catalog in and around Japan : Recent progress. 第四紀研究，第 38 巻，194-201.
町田　洋・新井房夫 2003 新編火山灰アトラス　－日本列島とその周辺－．東京大学出版会，pp.336.
柴　正敏・重松直樹・佐々木　実 2000 青森県内に分布する広域テフラに含まれる火山ガラスの化学組成（1）．弘前大学理工学部研究報告，第 1 巻，第 1 号，11-19.
柴　正敏・中道哲郎・佐々木　実 2001 十和田火山，降下軽石の化学組成変化　－宇樽部の一露頭を例として－．弘前大学理工学部研究報告，第 4 巻，第 1 号，11-17.

表2．火山ガラスのEPMAデータ

白頭山苫小牧テフラ

		SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	n	Total	EPMA
試料番号6	最小	66.87	0.21	14.71	3.81	0.05	0.06	0.79	4.82	5.09			
B区第19号住居跡	最大	69.70	0.37	15.69	4.61	0.12	0.12	1.26	5.32	5.76			
外周溝1	平均	68.48	0.28	15.24	4.32	0.09	0.09	1.01	5.12	5.36	3	98.90	WDS
B-Tm (a)	標準偏差	1.45	0.08	0.50	0.44	0.04	0.03	0.23	0.27	0.35			
試料番号9	最小	65.87	0.26	13.72	4.48	0.01	0.13	1.10	4.80	4.18			
B区第16号住居跡	最大	68.83	1.00	15.90	5.27	0.09	0.72	2.33	5.05	5.65			
外周溝1	平均	67.58	0.52	14.74	4.95	0.06	0.37	1.86	4.92	4.99	3	96.86	WDS
B-Tm (a)	標準偏差	1.53	0.41	1.10	0.42	0.05	0.31	0.67	0.13	0.75			
Machida (1999)	B-Tm (a)	68.4	0.4	14.8	4.5	0.1	0.1	1.0	5.4	5.3	15		WDS
試料番号6	最小	73.73	0.07	10.34	3.78	0.01	－	0.24	4.26	4.00			
B区第19号住居跡	最大	76.45	0.24	11.43	4.17	0.06	0.08	0.49	4.80	5.04			
外周溝1	平均	75.43	0.17	10.83	4.04	0.04	0.03	0.34	4.56	4.57	3	98.39	WDS
B-Tm (b)	標準偏差	1.48	0.09	0.55	0.22	0.03	0.05	0.13	0.28	0.53			
試料番号9	最小	71.54	0.06	10.10	3.39	0.02	－	0.25	4.30	4.66			
B区第16号住居跡	最大	77.07	0.32	13.35	4.29	0.08	0.02	0.63	4.90	5.17			
外周溝1	平均	74.41	0.21	11.60	3.75	0.04	0.01	0.44	4.61	4.95	4	96.30	WDS
B-Tm (b)	標準偏差	2.52	0.11	1.58	0.40	0.03	0.01	0.18	0.25	0.24			
Machida (1999)	B-Tm (b)	75.3	0.2	10.7	4.1	0.0	0.1	0.3	4.7	4.5	19		WDS

十和田aテフラ

試料番号6	最小	75.88	0.12	11.98	1.12	－	0.22	1.60	3.52	1.06			
B区第19号住居跡	最大	79.66	0.46	13.67	1.82	0.16	0.52	2.48	4.04	1.41			
外周溝1	平均	78.18	0.29	12.69	1.45	0.06	0.33	1.96	3.78	1.26	19	95.09	WDS
	標準偏差	1.06	0.10	0.51	0.22	0.05	0.08	0.23	0.17	0.11			
試料番号9	最小	76.92	0.15	12.17	1.19	－	0.28	1.71	3.25	1.10			
B区第16号住居跡	最大	79.01	0.39	13.24	1.91	0.17	0.54	2.39	3.92	1.53			
外周溝1	平均	77.96	0.25	12.71	1.62	0.05	0.39	2.02	3.71	1.29	11	94.53	WDS
	標準偏差	0.66	0.08	0.32	0.20	0.06	0.09	0.20	0.18	0.12			
青木・新井 (2000)		77.75	0.36	12.73	1.62	0.09	0.38	1.81	3.90	1.37	19	98.41	WDS

測定値は無水で100%になるように再計算した。FeO*全鉄をFeOとして計算した。 nは分析の点数を表す。
WDS及びEDSは、それぞれ波長分散型EPMA及びエネルギー分散型EPMAを表す。

２　近野遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

はじめに

青森県域とその周辺に分布する後期更新世以降に堆積した地層や土壌の中には、十和田火山や岩木火山などの東北地方北部の火山のほか、九州地方、北海道地方、中国北朝鮮国境などに位置する火山などから噴出したテフラ（tephra，火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く堆積している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代のみならず、遺構や遺物の年代などについても知ることができるようになっている。

そこでテフラの可能性がある土層が検出された近野遺跡においても、発掘調査担当者により遺構堆積土断面から採取された火山灰試料を対象に、屈折率測定を行って示標テフラとの同定を行うことになった。

屈折率測定

（１）測定試料と測定方法

屈折率測定の対象となった試料は、試料Ａ（Ｂ区第１号竪穴住居跡：BSI1）と試料Ｂ（Ｂ区第６号竪穴住居跡：BSI6）の２試料である。屈折率の測定方法は、日本列島とその周辺のテフラ・カタログ作成にも利用された温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）である。

（２）測定結果

屈折率測定の結果を表１に示す。試料Ａ（Ｂ区第１号竪穴住居跡：BSI1）には、無色透明の軽石型やバブル型の火山ガラスが多く含まれている。火山ガラスの屈折率（n）は 1.503-1.523 である。その modal range は 1.517-1.523 と 1.503-1.506 で、bimodal となっている。重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石、角閃石が含まれている。斜方輝石（γ）と角閃石（n_2）の屈折率は各々 1.706-1.708 と 1.669-1.674 である。またほかにアルカリ長石が含まれており、その屈折率（n_1）は 1.523 ±である。試料Ｂ（Ｂ区第６号竪穴住居跡：BSI6）にも、無色透明の軽石型やバブル型の火山ガラスが多く含まれている。火山ガラスの屈折率（n）は、1.518-1.523 である。重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石、角閃石がごく少量含まれている。斜方輝石の屈折率（γ）は、1.706-1.708 である。ほかにアルカリ長石も含まれており、その屈折率（n_1）は 1.523 ±である。

考察

試料Ａ（Ｂ区第１号竪穴住居跡：BSI1）に含まれる火山ガラスのうち屈折率が高いものや、アルカリ長石については、屈折率を含む特徴から、923 年[*1] に北朝鮮と中国の国境付近に位置する白頭山から噴出したとの推定もされている白頭山苫小牧火山灰（B-Tm，町田ほか，1981，町田・福沢，1996）に由来すると考えられる。また、火山ガラスのうち屈折率が低いもの[*2]や斜方輝石については、915 年に十和田火山から噴出した十和田ａ火山灰（To-a，大池，1972，町田ほか，1981）に由来すると考えられる。さらに角閃石については、約 1.2 ～ 1.3 万年前[*3] に十和田火山から噴出した十和田八戸テフラ（To-HP，早川，1983，Hayakawa，1985）あるいは十和田八戸火砕流堆積物（To-H，早川，1983，Hayakawa，1985）に由来すると思われる。

試料Ｂ（Ｂ区第６号竪穴住居跡：BSI6）に含まれる火山ガラスやアルカリ長石については、B-Tm

に由来すると考えられる。また斜方輝石については、To-a に由来すると考えられる。２試料を比較すると、試料Ｂの方に B-Tm 起源の粒子がより多く含まれており、より純度が高いと思われる。なお、より詳細なテフラ同定に関する記載については、分析測定担当者により土層断面を直接観察記載する機会が得られなかったために難しい。

まとめ

近野遺跡において採取されたテフラ試料を対象に、屈折率測定を行った。その結果、白頭山苫小牧火山灰（B-Tm, 10 世紀）起源のテフラ粒子が多く検出された。試料には、ほかに十和田ａ火山灰（To-a, 915 年）や十和田八戸テフラ（To-HP，約 1.2 ～ 1.3 万年前 *3）に由来する可能性をもつテフラ粒子も含まれている。

*1　B-Tm の年代に関しては、A.D.937（池田ほか，1997）や、A.D.946-947（早川・小山，1998）とする説もある。
*2　今回得られた火山ガラスの屈折率は、テフラ・カタログ（町田・新井，1992）に記載されている To-a の値よりも若干高い。この違いは、カタログに記載された試料の採取地点が給源に近いために標準試料に含まれる火山ガラスが分厚く、また To-a の噴出年代が新しいために十分水和が進んでいないこと、遠隔地ではその逆で水和が進んで屈折率に違いが生じていることに起因すると考えられる（新井房夫群馬大学名誉教授談話）。また、フォール・ユニット間で屈折率特性に違いがある可能性も残されている。より高精度の同定のためには、Ｘ線プローブマイクロアナライザー（EPMA）による火山ガラスの主成分化学組成分析などが有効と考えられる。
*3　放射性炭素（^{14}C）年代.

引用文献

新井房夫 1972 斜方輝石･角閃石によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究, 11, p.254-269.
新井房夫 1993 温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法２－研究対象別分析法」，p.138-149.
早川由紀夫 1983 火山豆石として降下堆積した十和田火山八戸火山灰．火山，28，p.25-40.
Hayakawa, Y. 1985 Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo, 60, p.507-592.
早川由紀夫・小山真人 1998 日本海をはさんで 10 世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山．火山，43，p.403-407.
池田まゆみ・福沢仁之・岡村　真・松岡裕美 1997 青森県小川原湖と十三湖における過去 2300 年間の環境変動と地震津波．平成８年度文部省科学研究費補助金（基礎研究Ｃ）研究成果報告書「汽水湖堆積物を用いた過去 2000 年間の気候・海水準・降砂変動の解明」（研究代表者：福沢仁之）．p.124-159.
町田　洋・新井房夫 1992 火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.
町田　洋・新井房夫・森脇　広 1981 日本海を渡ってきたテフラ．科学，51，p.562-569.
町田　洋・福沢仁之 1996 湖底堆積物からみた 10 世紀白頭山大噴火の発生年代．日本第四紀学会講演要旨集, no.26，p.80-81.
大池昭二 1972 十和田火山東麓における完新世テフラの編年．第四紀研究，11，p.232-233.

表１　屈折率測定結果

試料	gl（n）	重鉱物	opx（γ）	ho（n_2）	af（n_1）
A (BSI1)	1.503-1.523 (1.517-1.523,1.503-1.506)	opx,cpx,ho	1.706-1.708	1.669-1.674	1.523±
B (BSI6)	1.518-1.523	(opx,cpx,ho)	1.706-1.708	-	1.523±

屈折率測定は，温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）による．屈折率の（）: modal range.gl : 火山ガラス，opx : 斜方輝石，cpx : 単斜輝石，ho : 角閃石．. af : アルカリ長石．()は，量が少ないことを示す

第２節　Ｂ区住居跡から出土した炭化木材の樹種について

はじめに

ここではパレオ・ラボ及びパリノ・サーヴェイに委託した第４・６・７・10 号住居跡から出土した炭化木材の樹種同定結果をまとめ、内容を要約・加筆して報告する。各住居で分析した試料数は、第４号住居跡 13 点、第６号住居跡 13 点、第７号住居跡８点、第 10 号住居跡４点である。各住居はいずれも平安時代である。

試料と方法

試料は発掘調査時に担当職員が取り上げたものを後日室内で選び､取り上げた状態のまま発送した。これは分析者が樹種だけではなく、木取りや形状などの情報も得られるようにするためである。併せて図面・写真も同封した。同定は炭化材の横断面を（木口）を割り実体顕微鏡下で予察した後、３断面（横・接線・放射断面）の割断面を作成し、走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し同定した。また、クリと同定した炭化材については、連続して数えられた年輪数とその幅に対応する放射方向の径（材の成長方向）を記録した。

結果

同定結果の一覧を表１に示した。表には木取り、年輪幅なども併せて記した。以下各樹種の記載を記す。

スギ　***Cryptomeria japonica D.Don***　スギ科　写真図版２　4-5(BSI7-31)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量はやや多いが、晩材の仮道管壁の肥厚は顕著ではなかった。分野壁孔は大きく、孔口が水平に大きく開いた典型的なスギ型で１分野に主に２個ある。

ヒノキ科　***Cupressaceae***　写真図版１　1-3(BSI10-37)

仮道管・放射組織・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少なく、早材から晩材への移行は緩やかで､晩材部の仮道管の肥厚は目立たない。分野壁孔は小型で１分野に１～４個､壁孔の輪郭は丸く、孔口は軸方向に長いだ円形で大きくはない。ヒノキ属のヒノキまたはアスナロ属に類似するが、特定はできなかった。

アスナロ　***Thujopsis dolabrata sieb. et Zucc.***　ヒノキ科　写真図版２　6-7(BSI6-14)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少ない。分野壁孔は小さなスギ型、１分野に２～５個ある。

ブナ属　***Fagus***　ブナ科　写真図版２　10-12(BSI7-34)

小型の管孔が密在し除々に径を減じてゆき、晩材では極めて小型となり分布数も減る散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は主に単穿孔で階段数が少ない階段穿孔もある。放射組織は異性、１～５細胞幅である。放射組織に広放射組織が不明であった点が気になるが、道管の特徴などからブナ属と同定した。

クリ　***Castanea crenata Sieb. et Zucc.***　ブナ科　写真図版２　8-9(BSI6-15・19)

表１　Ｂ区竪穴住居跡出土炭化材樹種同定結果

遺構名	層位	樹種番号	樹種	木取り 形状など	放射径 (㎜)	年輪数	年輪幅 平均(㎜)	備考
BSI4	床直	1	トネリコ属	芯持ち丸木				
BSI4	床直	2	トネリコ属					
BSI4	床直	3	クリ					
BSI4	床直	4	クリ	ぬか目材				
BSI4	床直	5	クリ					
BSI4	床直	6	クリ	板目板状				
BSI4	床直	7	クリ	板目板状				
BSI4	床直	8	クリ					
BSI4	床直	9	クリ					
BSI4	床直	10	クリ					
BSI4	床直	11	クリ					
BSI4	床直	12	クリ					
BSI4	床直	13	クリ	ぬか目材				
BSI6	6	14	アスナロ					
BSI6	6	15	クリ	板目板状				
BSI6	6	16	クリ					
BSI6	4	17	アサダ					
BSI6	6	18	クリ					
BSI6	4	19	クリ	板目板状				
BSI6	4	20	モクレン属					
BSI6	3c	21	クリ					
BSI6	6	22	クリ	角形の材か？				
BSI6	6	23	クリ					
BSI6	4	24	クリ					
BSI6	3c	25	クリ					
BSI6	6	26	クリ					地点不明
BSI7	床面	27	キハダ					
BSI7	床面	28	トネリコ属	板目板状				
BSI7	床面	29	トネリコ属	板目板状				
BSI7	床面	30	トネリコ属	板目板状・ ぬか目材				
BSI7	床面	31	スギ					
BSI7	床面	32	ハリギリ					大破片複数
			カエデ属					小破片１
			トネリコ属	芯持ち丸木				直径2.0㎝
BSI7	床面	33	クリ					
BSI7	床面	34	ブナ属					
BSI10	床面	35	クリ	分割材	26	10	2.60	
BSI10	床面	36	モクレン属	柾目板材	13	―	―	
BSI10	床面	37	ヒノキ科	斜取り板材	18	―	―	
BSI10	床面	38	クリ	柾目板材	80	47	1.70	
					BSI10 出土クリ材の平均年輪幅：2.15mm			

年輪の始めに大型の管孔が１～３層など多数が配列し、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にチロースが発達している。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

アサダ　***Ostrya japonica Sarg.***　カバノキ科　写真図版２　13-15(BSI6-17)

小型の管孔が単独や２～数個が複合して放射方向に分布する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は同性、１～３細胞幅である。

モクレン属　***Magnolia***　モクレン科　写真図版２　16-18(BSI6-20)

小型で円形の管孔が単独または２～数個が複合して多数が分布する散孔材。道管の壁孔は対列・交互状から多くは階段状、穿孔は主に単穿孔であるが階段穿孔も見られ、内腔には水平や弧状のチロ

－スがある。放射組織は同性に近い異性、主に２細胞幅、上下端に方形細胞があり、道管との壁孔は大きく階段状または対列状に整然と配列している。

カエデ属　***Acer***　カエデ科　写真図版３　19-21(BSI7-32)

小型の管孔が単独または２～３個が複合して均一に分布する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、１～３細胞幅、道管との壁孔は交互状で整然と配列している。

キハダ　***Phellodendron amurense Rupr.***　ミカン科　写真図版３　22-24(BSI7-27)

年輪の始めに大型の管孔が１～２層配列し、その後は多数の非常に小型の管孔が波状に分布する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は同性、主に３～４細胞幅で整った紡錘形、細胞高もほぼ同じ高さである。

ハリギリ　***Kalopanax pictus (Thunb.)Nakai***　ウコギ科　写真図版３　25-27(BSI7-32)

年輪の始めに非常に大型の管孔が間隔を開けて１層配列し、その間に小型の管孔が混在し、孔圏外では急に径を減じて非常に小型の管孔が多数複合して塊状・波状に分布する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は異性、おもに５細胞幅の紡錘形、上下端に方形細胞があり、道管との壁孔は大きく交状である。

トネリコ属　***Fraxinus***　モクセイ科　図版３　28-30(BSI7-32)

大型の管孔が２～３層配列し、その後は単独または２個が複合した小型で厚壁の管孔が分布する環孔材。周囲状柔組織がある。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は同性、１～３細胞幅である。

まとめ

平安時代の第４号・第６号・第７号・第10号竪穴住居跡の４軒からは、スギ・ヒノキ科・アスナロ・ブナ属・クリ･アサダ・モクレン属･カエデ属・キハダ・ハリギリ・トネリコ属が検出された。全試料中クリが最も多く使用されていた事が判った。出土したクリ材の形状や木取りなどが多様である事から、当時クリ材が数量共に豊富で入手容易な建築材資源であったと考えられる。1975年の調査では平安時代住居内からはクリが多くそのほかにクルミ･ケヤキ･トチノキ・ニレ科が報告されている（山田1993)。また三内遺跡の平安時代住居跡では、スギとアスナロの針葉樹の利用が目立つようであるがクリが多い住居跡も１軒報告されている（千野1991)。当遺跡より沖館川上流に所在する岩渡小谷(2)遺跡(高橋2001)や市内南方の低丘陵に位置する野木遺跡（高橋2000）でも、平安時代住居跡から出土した炭化材はクリが多い。平安時代にも青森平野南方及び西方の丘陵部に建築材として利用可能な大きさのクリが多く生育していたことが考えられる。一方で青森県東部の平安住居跡から出土した炭化材の樹種はコナラ節が多く報告されている。太田原(太田原2001)は、岩渡小谷(2)遺跡の平安時代の第７号竪穴住居跡から出土したクリの柱材が、柾目取りの分割材で年輪数は125本以上あり、年輪間隔は1.5～3mm程度と比較的狭く、原木の推定直径は70～80cmの巨木であった事から、平安時代においてもクリの巨木が利用されていて、また利用可能な巨木が遺跡周辺に生育していた可能性を指摘している。現にＦ区谷から出土した平安時代のクリの辺材部を利用した柾目板材は幅32cmあり、大径木から製材されたことが推測される。今回BSI10のクリ材の年輪幅を記録した結果は平均2.15mmであった。BSI4からはぬか目材が検出され、全体的にもクリ材としては１年輪幅

がやや狭い材が多かった。この理由として、樹齢が多く材の成長速度が遅くなった樹木の辺材部の材を利用した可能性や、人の管理干渉が少ない自然林中で樹木間の競争関係の中で生育して来た樹木を利用した可能性、日照条件が悪い北側の材を利用した可能性などが推測される。

またトネリコ属もクリについで多く出土しているが、長谷部（長谷部 2004）によるＦ区谷から出土した木材のＤＮＡ分析結果ではトネリコ属のうちヤチダモ・トネリコ・ヤマトアオダモなどが生育していた可能性があり、これらを使用して住居の構築材としていたことが考えられる。

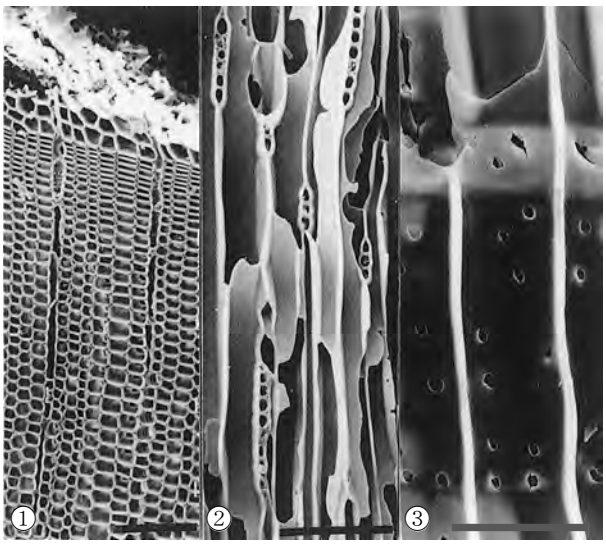
引用文献

太田原 潤　2001　第７号竪穴住居跡出土の柱材について，p.94-96，「岩渡小谷（２）遺跡」，青森県教育委員会.
嶋倉巳三郎　1978　炭化材の樹種同定について，p.425-426，図版 140，「三内澤部遺跡発掘調査報告書」，青森県教育委員会.
嶋倉巳三郎　1979　青森市近野遺跡から出土した炭化材の樹種，p.321-323，写真 51-54，「近野遺跡発掘調査報告書（Ⅳ）」，青森県教育委員会.
嶋倉巳三郎　1980a　永野遺跡出土の炭化材，青森県埋蔵文化財調査報告書第 56 集「永野遺跡発掘調査報告書　昭和 54 年度」，p.370-371，青森県教育委員会.
嶋倉巳三郎　1980b　板留(2)遺跡から出土した炭化材の樹種，青森県埋蔵文化財調査報告書第 59 集「板留(2)遺跡発掘調査報告書」，p.1-2，青森県教育委員会.
嶋倉巳三郎　1982a　青森県の遺跡から出土した炭化材の樹種，青森県埋蔵文化財調査報告書第 70 集「馬場瀬遺跡発掘調査報告書」，p.284-285，青森県教育委員会.
嶋倉巳三郎　1982b　樹種同定，青森県埋蔵文化財調査報告書第 67 集「発茶沢遺跡　むつ小川原開発に係る幹線連絡道路建設及びパイプライン敷設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」，p.383，青森県教育委員会.
嶋倉巳三郎　1987a　山本遺跡出土の炭化木，青森県埋蔵文化財調査報告書第 105 集「山本遺跡－一般国道７号線浪岡バイパス建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書」，p.203-204，青森県教育委員会.
嶋倉巳三郎　1987b　弥栄平(4)遺跡出土の炭化材樹種同定，青森県埋蔵文化財調査報告書第 106 集「弥栄平(4)(5)遺跡発掘調査報告書－むつ小川原開発事業関係埋蔵文化財調査報告書」，p.205-206，　青森県教育委員会.
嶋倉巳三郎　1988　茶毘館遺跡出土の炭化物，青森県埋蔵文化財調査報告書第 110 集「茶毘館遺跡」，p.239-240，青森県教育委員会.
高橋俊彦　2000　青森市野木遺跡出土炭化材の樹種，第６分冊 p.77-82，「野木遺跡Ⅲ」，青森県教育委員会.
高橋俊彦　2001　青森県岩渡小谷(2)遺跡出土材の樹種，p.84-88、「岩渡小谷(2)遺跡」，青森県教育委員会.
千野裕道　1983　縄文時代のクリと集落周辺植生　－南関東地方を中心に－，東京都埋蔵文化財センター研究論集，Ⅱ，p.25-42.
千野裕道、1991　縄文時代に二次林はあったか－遺跡出土の植物性遺物からの検討－，p.214-249，「研究論集 Ｘ」，東京都埋蔵文化財センター.
パリノ・サーヴェイ株式会社　1998　外馬屋前田(1)遺跡出土植物遺体の同定，青森県埋蔵文化財調査報告書第 242 集「外馬屋前田(1)遺跡－県営津軽中部地区広域農道整備事業に伴う遺跡発掘調査報告－」，p.128-133，青森県教育委員会.
パリノ・サーヴェイ株式会社　2000　４．樹種同定，八戸市埋蔵文化財調査報告書第 84 集「－東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－人首沢遺跡　毛合清水（３）遺跡　大仏遺跡　－浅水川河川改修事業関係埋蔵文化財調査報告書－大仏遺跡」，p.263-266，青森県八戸市教育委員会.
パリノ・サーヴェイ株式会社　2001　Ⅵ．酒美平遺跡竪穴住居跡出土炭化材樹種同定，八戸市埋蔵文化財調査報告書第 88 集「酒美平遺跡Ⅱ」，p.109-114，青森県八戸市教育委員会.
山田昌久　1993　「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史」，p.1-142，植生史研究 特別第１号.
吉川純子　2002　三内丸山(6)遺跡から産出した炭化材，p.73-76，「三内丸山(6)遺跡Ⅳ（第二分冊 分析・写真編）」，青森県教育委員会.

表２　近野遺跡各住居跡の検出樹種

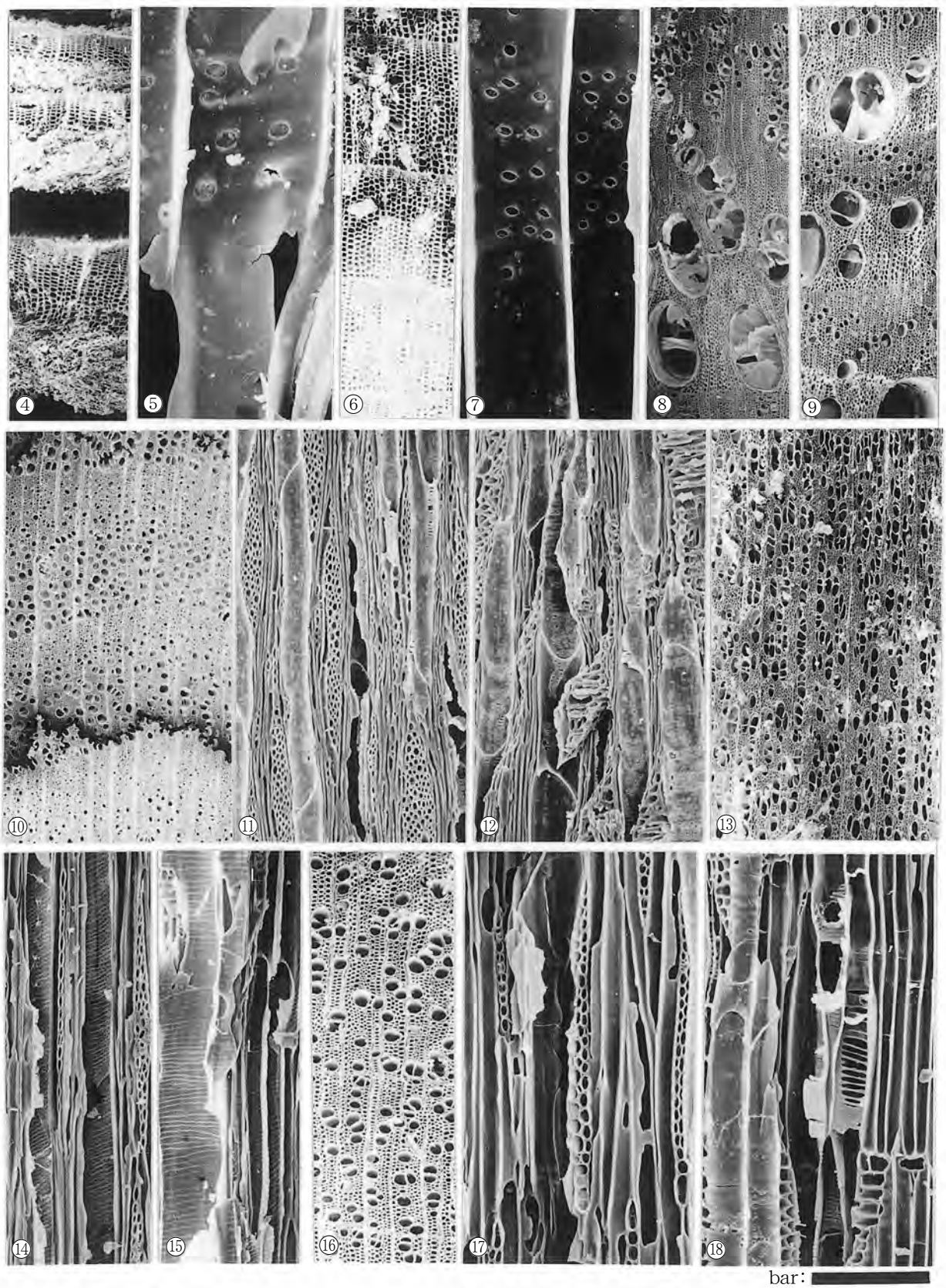
時期・遺構 樹種	BSI4	BSI6	BSI7	BSI10	合計
スギ	0	0	1	0	1
ヒノキ科	0	0	0	1	1
アスナロ	0	1	0	0	1
ブナ属	0	0	1	0	1
クリ	11	10	1	2	24
アサダ	0	1	0	0	1
モクレン属	0	1	0	1	2
カエデ属	0	0	1	0	1
キハダ	0	0	1	0	1
ハリギリ	0	0	1	0	1
トネリコ属	2	0	4	0	6
合計	13	13	10	4	40

3分類群が検出された1試料があり、合計は40となっている。



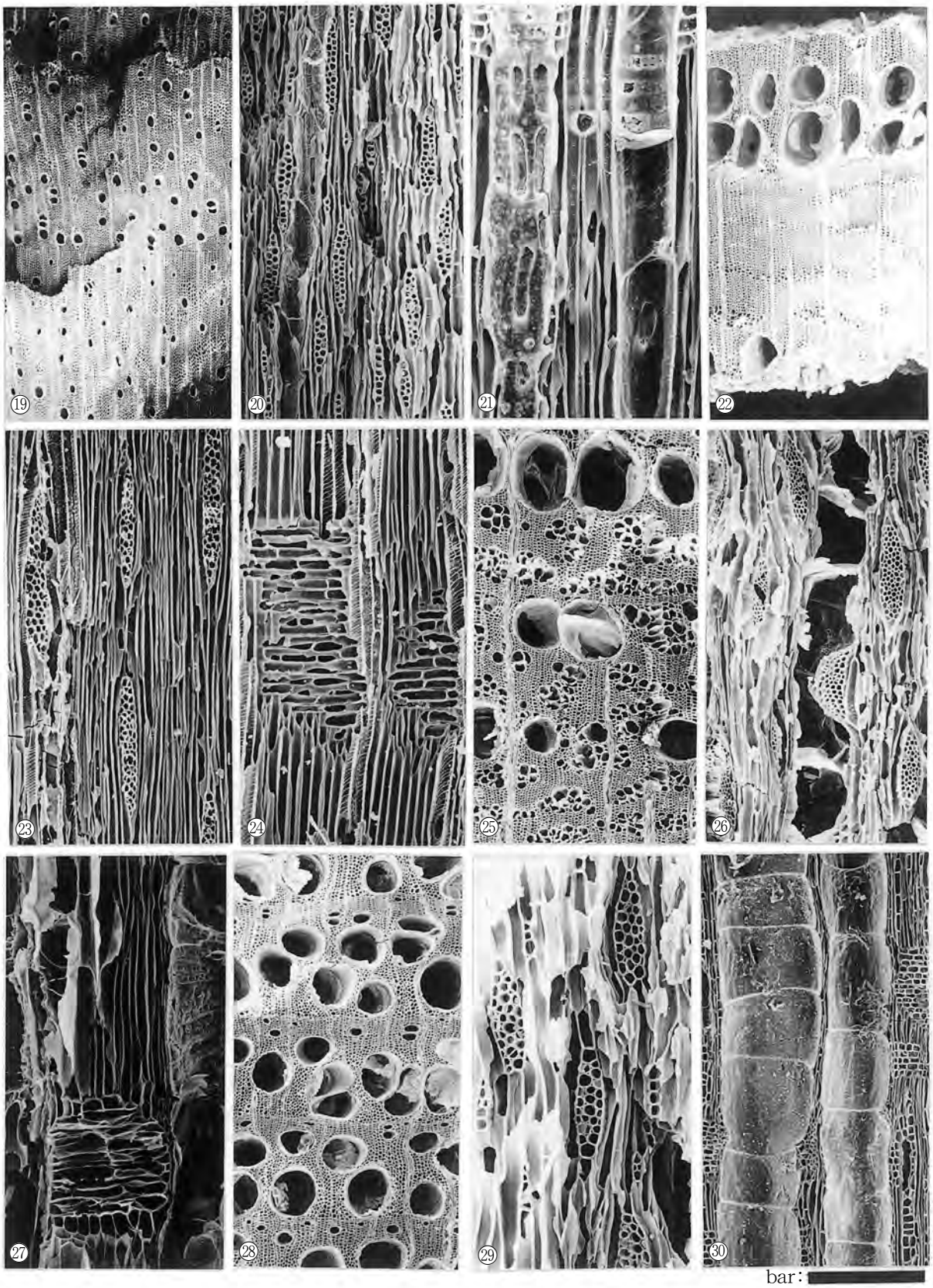
1-3:ヒノキ科(BSI10-37)　1:横断面　bar:約0.18㎜、
2:接線断面　bar:約0.13㎜、3:放射断面　bar:約0.025㎜。

写真図版１



4-5：スギ（BSI7-31）　6-7：アスナロ（BSI6-14）　8：クリ（BSI6-15）　9：クリ（BSI6-19）　10-12：ブナ属（BSI7-34）
13-15：アサダ（BSI6-17）　16-18：モクレン属（BSI6-20）　4・6・8・9・10・13・16：横断面　bar：約0.53㎜、
11・14・17：接線断面　bar：約0.13㎜、5・7：放射断面　bar：約0.03㎜、12・15・18：放射断面　bar：約0.13㎜。

写真図版２　近野遺跡出土炭化材顕微鏡写真



19-21：カエデ属（BSI7-32）　22-24：キハダ（BSI7-27）　25-27：ハリギリ（BSI7-32）　28-30：トネリコ属（BSI7-32）
19・22・25・28：横断面　bar：約0.53㎜、20・29：接線断面　bar：約0.13㎜、23：接線断面　bar：約0.18㎜、
26：接線断面　bar：約0.26㎜、24・27：放射断面　bar：約0.13㎜、30：放射断面　bar：約0.26㎜。

写真図版 3　近野遺跡出土炭化材顕微鏡写真

第３節　畠跡（ＢＳＸ８）土壌分析

株式会社古環境研究所

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生･古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。一方、花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

ここでは、近野遺跡で検出された畠状遺構において、植物珪酸体分析と花粉分析を行い栽培作物の検討と堆積環境の推定を行う。

２．試料

分析試料は、畠状遺構（ＢＳＸ８）において、東側より〈a〉－〈b〉①の黒褐色土（試料１）、黒褐色土（試料２）、〈b〉②の黒褐色土（試料３）、黒褐色土（試料４）、〈c〉④の黒褐色土（試料５）、黒褐色土（試料６）、〈c〉－〈d〉⑥の黒色土（試料７）、黒色土（試料８）、〈d〉⑦の黒褐色土（試料９）、黒色土（試料 10）、〈d〉－〈e〉⑧の黒色土（試料 11）、黄褐色土（試料 12）より採取された計 12 点である。

３．分析法

（１）植物珪酸体分析

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント･オパール定量分析法（藤原, 1976）をもとに、次の手順で行った。

１）試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）

２）試料約１ｇに直径約 40 μｍのガラスビーズを約 0.02g 添加（電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

４）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散

５）沈底法による 20 μｍ以下の微粒子除去

６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

７）検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来する植物珪酸体を同定の対

表１　青森県、近野遺跡の植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名・学名）＼試料		a－b		b		c		c－d		d		d－e	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ科	Gramineae (Grasses)												
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	*17*				*9*		*8*					
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		*9*						*10*				
ススキ属型	*Miscanthus* type	*26*	*34*	*24*	*12*	*60*	*84*	*15*	*51*	*10*	*37*	*53*	*60*
シバ属	*Zoysia*							*8*					
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)												
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type		*17*		*12*	*17*	*12*			*20*		*8*	*15*
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	*1163*	*776*	*205*	*882*	*1254*	*1361*	*993*	*1046*	*430*	*455*	*533*	*420*
その他	Others	*78*	*34*		*35*	*51*	*24*	*38*	*20*	*40*	*19*	*15*	*60*
未分類等	Unknown	*164*	*190*	*302*	*220*	*162*	*251*	*144*	*163*	*160*	*111*	*143*	*180*
植物珪酸体総数		*1448*	*1060*	*531*	*1160*	*1553*	*1731*	*1205*	*1290*	*660*	*622*	*750*	*735*

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡･cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	*0.51*				*0.25*		*0.22*					
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		*0.54*						*0.64*				
ススキ属型	*Miscanthus* type	*0.32*	*0.43*	*0.30*	*0.14*	*0.74*	*1.04*	*0.19*	*0.63*	*0.12*	*0.46*	*0.65*	*0.74*
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type		*0.08*		*0.06*	*0.08*	*0.06*			*0.10*		*0.04*	*0.07*
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	*8.72*	*5.82*	*1.54*	*6.61*	*9.41*	*10.21*	*7.45*	*7.85*	*3.23*	*3.41*	*4.00*	*3.15*

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

象とし、400 倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料１ｇ中の植物珪酸体個数（試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重，単位:10^{-5}g）を乗じて、単位面積で層厚１cm あたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は 2.94（種実重は 1.03）、ヨシ属（ヨシ）は 6.31、ススキ属（ススキ）は 1.24、ネザサ節は 0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は 0.75 である。

（２）花粉分析

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）５％水酸化カリウム溶液を加えて 15 分間湯煎

２）水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

３）25％フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置

４）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す

５）再び氷酢酸を加えて水洗処理

６）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成

７）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで

表２　近野遺跡における花粉分析結果

分類群		B区遺構　SX8（畠跡）											
		a-b地点		b地点		c地点		c-d地点		d地点		d-e地点	
学名	和名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Arboreal pollen	樹木花粉												
Abies	モミ属	1	1										
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属		9	1		1	2	3					
Cryptomeria japonica	スギ	3	1			1	1	4	5	1	1	2	
Juglans	クルミ属					1							
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ	1	2	1	1	1	3	3	3	1	2		1
Alnus	ハンノキ属	12	37	2	5	5	49	26	33	5	3	5	
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ		1				3	1					
Castanea crenata	クリ		1	1	4	5	26	8	14	2	1	3	
Castanopsis	シイ属		1										
Fagus	ブナ属	1	3		1	3	1			1	1		
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	9	9	4	1	3	5	18	7	1	1	3	1
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属							1					
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	1	2		1	1	1	1			1	1	
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ	1		1									
Acer	カエデ属					1				1			
Aesculus turbinata	トチノキ	11	8			9	69	20	25	1			
Tilia	シナノキ属	3	5	3	3	1	2	5	2	3			
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属					1							
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉												
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	1					12	2	2				
Araliaceae	ウコギ科	1	4	1				1				1	
Nonarboreal pollen	草本花粉												
Gramineae	イネ科	24	59	14	9	29	85	129	94	65	32	75	26
Cyperaceae	カヤツリグサ科	3	2				8					2	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科			1					1				
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科						1						
Apioideae	セリ亜科	1					3	1	1				
Lactucoideae	タンポポ亜科	8	3	4	2	6	8	2	5	3	2	1	4
Asteroideae	キク亜科	5	3	1	2	1	3	2	6	4	6	3	3
Xanthium	オナモミ属				1								
Artemisia	ヨモギ属	17	29	9	8	31	54	36	29	9	19	23	9
Fern spore	シダ植物胞子												
Monolate type spore	単条溝胞子	55	101	26	37	37	64	50	53	19	25	4	24
Trilate type spore	三条溝胞子	5	16	4	4	7	5	9	5	3	2	3	2
Arboreal pollen	樹木花粉	43	80	13	16	33	162	90	89	16	10	14	2
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	4	1	0	0	12	3	2	0	0	1	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	58	96	29	22	67	162	170	136	81	59	104	42
Total pollen	花粉総数	103	180	43	38	100	336	263	227	97	69	119	44
Unknown pollen	未同定花粉	5	8	2	2	2	16	8	11	7	3	4	1
Fern spore	シダ植物胞子	60	117	30	41	44	69	59	58	22	27	7	26
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

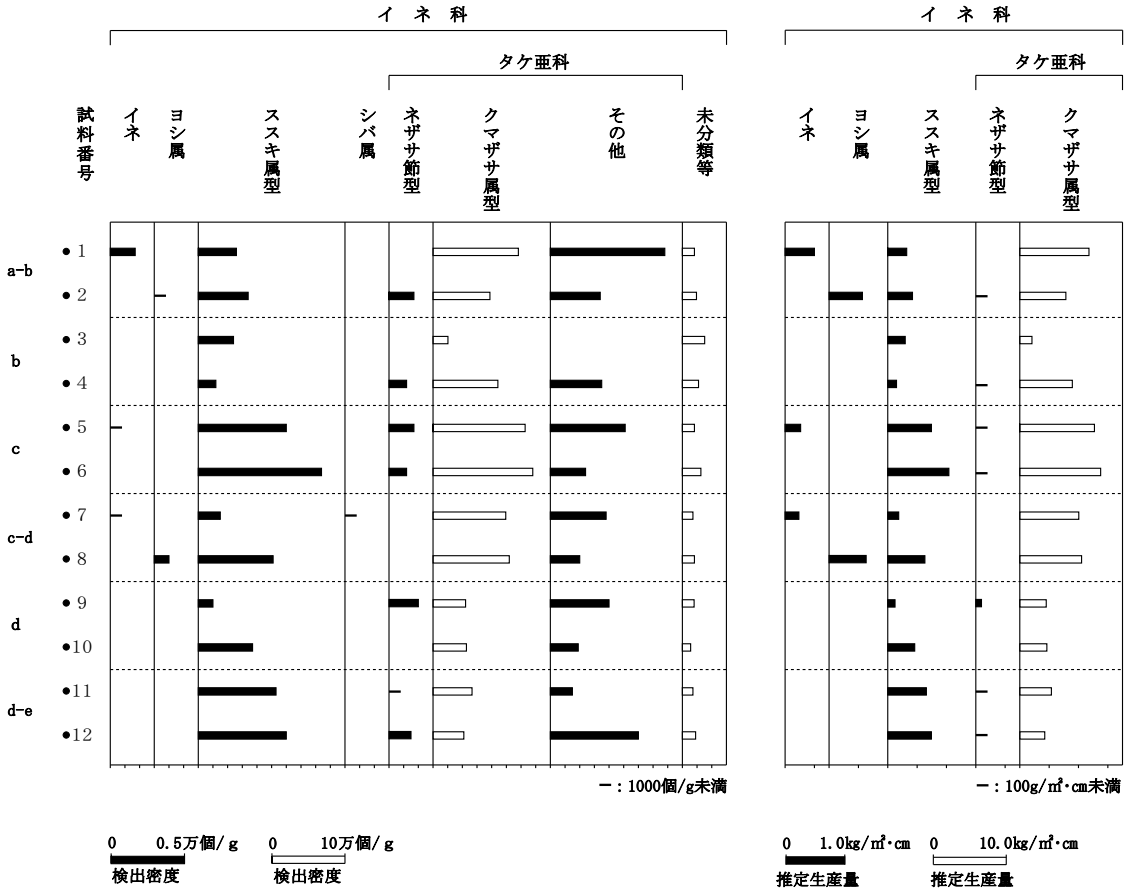


図１　近野遺跡におけるプラント・オパール分析結果

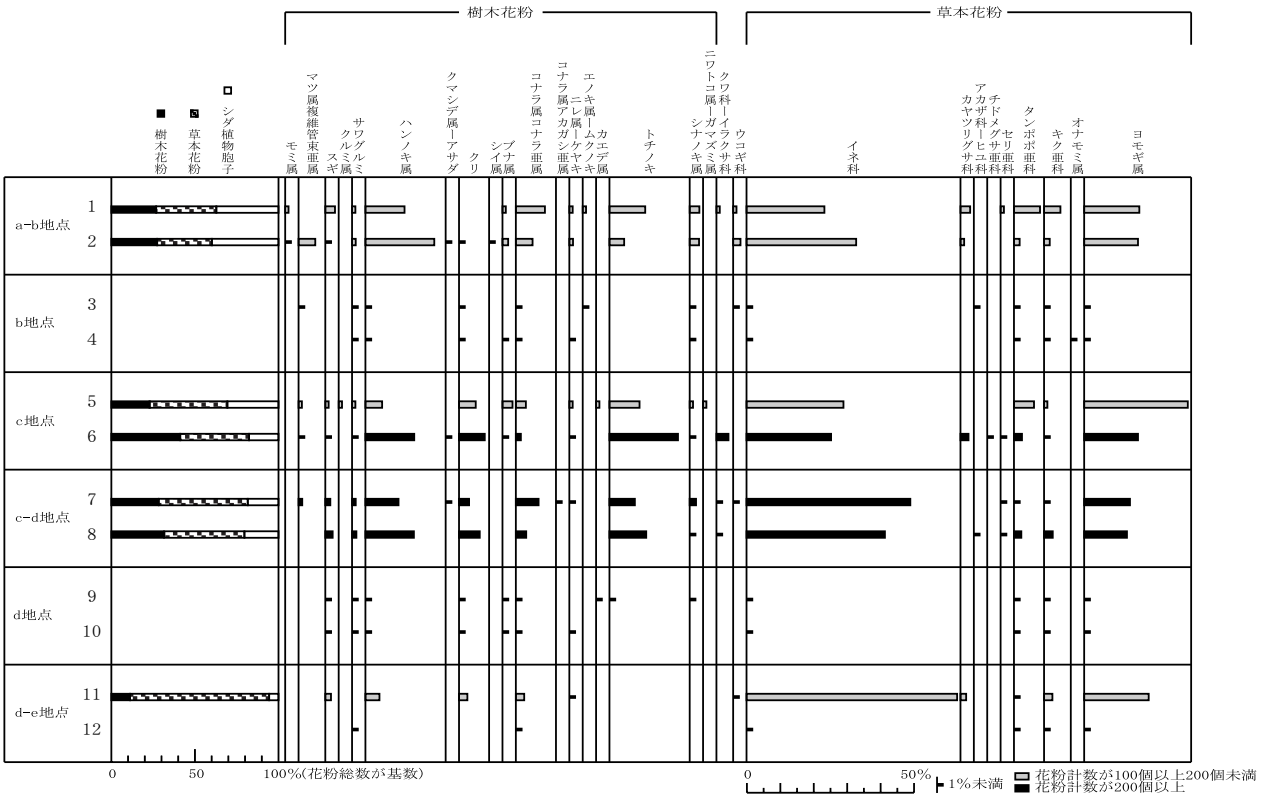


図２　近野遺跡,B区遺構,SX8(畠跡)における花粉ダイアグラム

示した。イネ属については、中村（1974，1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

４．結果

（１）植物珪酸体分析

分析試料から検出された植物珪酸体は、イネ、ヨシ属、ススキ属型、シバ属、タケ亜科（ネザサ節型、クマザサ属型、その他）および未分類である。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１および図１に示す。主要な分類群については顕微鏡写真を示す。以下に植物珪酸体の検出状況を記す。

１）ａ－ｂ地点

３層ではイネ、ススキ属型およびクマザサ属型が同定された。このうちクマザサ属型は非常に高い検出密度である。４層ではヨシ属、ススキ属型、ネザサ節型およびクマザサ属型が同定された。ここでもクマザサ属型が非常に高い密度である。

２）ｂ地点

２ｂ層ではススキ属型とクマザサ属型が同定された。クマザサ属型が高い密度である。４層ではススキ属型、ネザサ節型、クマザサ属型が同定された。クマザサ属型が非常に高い密度である。

３）ｃ地点

１層ではイネ、ススキ属型、ネザサ節型およびクマザサ属型が同定された。ここではススキ属型が高い密度であり、クマザサ属型は非常に高い密度である。３層ではススキ属型、ネザサ節型そしてクマザサ属型が同定された。ススキ属型が高い密度であり、クマザサ属型は非常に高い密度である。

４）ｃ－ｄ地点

Ⅱａ層ではイネ、ススキ属型、シバ属およびクマザサ属型が同定された。ここではクマザサ属型が非常に高い密度である。Ⅱｂ層ではヨシ属、ススキ属型およびクマザサ属型が検出された。このうちススキ属型が高い密度であり、クマザサ属型は非常に高い密度である。

５）ｄ地点

２層ではススキ属型、ネザサ節型およびクマザサ属型が同定された。クマザサ属型が非常に高い密度である。Ⅱｂ層ではススキ属型とクマザサ属型が同定された。クマザサ属型は非常に高い密度である。

６）ｄ－ｅ地点

Ⅱｂ層、Ⅲ層ともススキ属型、ネザサ節型およびクマザサ属型が同定された。いずれもススキ属型が高い密度であり、クマザサ属型は非常に高い密度である。

（２）花粉分析

出現した分類群は、樹木花粉 18、樹木花粉と草本花粉を含むもの２、草本花粉９、シダ植物胞子２形態の計 31 である。これらの学名と和名および粒数を表２に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料は、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図２に示す。なお、200 個未満であっても 100 個以上の試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は写真に示した。また、寄生虫卵についても観察したが、検出されなかった。

以下に出現した分類群を示し、各地点における花粉群集の特徴を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、マツ属複維管束亜属、スギ、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、ニワトコ属－ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

1）ａ－ｂ地点

４層は花粉密度が低い。樹木花粉より草本花粉の占める割合がやや高いが、シダ植物胞子の割合が高く約 40％を占める。樹木花粉ではハンノキ属が多く、マツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属などが伴われる。草本花粉はイネ科が優占し、ヨモギ属などが伴われる。

３層でも花粉密度は低いが、樹木花粉より草本花粉の占める割合がやや高い。ここでもシダ植物胞子の割合が高く約 40％を占める。樹木花粉ではハンノキ属、トチノキ、コナラ属コナラ亜属など出現する。草本花粉はイネ科が優占し、ヨモギ属、タンポポ亜科、キク亜科などが伴われる。

2）ｂ地点

花粉密度が非常に低く、ほとんど検出されなかった。

3）ｃ地点

３層では樹木花粉と草本花粉の占める割合がほぼ等しく、シダ植物胞子も多い。樹木花粉ではトチノキ、ハンノキ属、クリなどが出現する。草本花粉ではイネ科、ヨモギ属、が優占し、カヤツリグサ科、タンポポ亜科などが伴われる。

１層では花粉密度は低く、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。シダ植物胞子の占める割合も３層より高くなっている。樹木花粉ではトチノキ、ハンノキ属、クリなどが出現する。草本花粉ではヨモギ属とイネ科が優占し、タンポポ亜科、キク亜科が伴われる。

4）ｃ－ｄ地点

Ⅱｂ層では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、シダ植物胞子も多い。草本花粉のイネ科が優占し、ヨモギ属、タンポポ亜科、キク亜科などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属、トチノキ、クリ、コナラ属コナラ亜属などが出現する。

Ⅱａ層では樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、シダ植物胞子も多い。草本花粉のイネ科が優占し、ヨモギ属などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属、トチノキ、コナラ属コナラ亜属、クリなどが出現する。

5）ｄ地点

花粉密度が低く、ほとんど検出されなかった。

６）ｄ－ｅ地点

Ⅲ層では花粉密度が低く、ほとんど検出されなかった。

Ⅱｂ層でも花粉密度は低く、樹木花粉より草本花粉の占める割合が非常に高い。草本花粉のイネ科が優占し、ヨモギ属、キク亜科などが伴われる。樹木花粉ではハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、クリ、スギなどが出現する。

５．考察

（１）近野遺跡の農耕

当該遺構で検出された植物珪酸体のうち栽培植物起源のものはイネのみであった。イネが検出された箇所は、ａ－ｂの３層、ｃの１層およびｃ－ｄのⅡａ層である。これらの植物珪酸体密度は 800 ～ 1,700 個 /g と水田跡の検証や探査を行う際の基準とされる 5,000 個 /g に比べると低い値である。ただし、畠作では連作障害を避けるために、同じ圃場で複数年続けてイネを作付けることはあまりない。したがって、そこで検出される植物珪酸体量は連作を行う水田に比べればかなり少なくなる。こうしたことから、積極的とまではいかないが、当該遺構において稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、降霜を避けるために畝を稲藁で覆っていた可能性も考えられることから、あるいは稲作は周辺で行われていたのかも知れない。

イネ以外では栽培植物に由来する植物珪酸体は認められなかった。ただし、イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未分類としたものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性も考えられる。これらの給源植物の究明については今後の課題としたい。

（２）推定される植生と環境

１）ａ－ｂ地点（３層、４層）

下部の４層では、イネ科、ヨモギ属、シダ植物が生育しており、近隣にハンノキ属、トチノキの生育する湿地の分布が推定される。周辺地域にはコナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹林が分布していた。上部の３層になるとタンポポ亜科、キク亜科と、樹木のトチノキの増加が推定される。両層ともクマザサ属型が卓越することから、クマザサ属が群落を形成していたと推定される。

２）ｂ地点（２層、４層）

花粉がほとんど検出されないことから、有機質の分解されるやや乾燥した環境か乾燥と湿潤を繰り返す環境であったと推定される。クマザサ属型の卓越から、近傍にはクマザサ属が群落を形成していたと推定される。

３）ｃ地点（１層、３層）

下部の３層ではイネ科やヨモギ属が生育し、近隣にはトチノキやハンノキ属の生育する湿地が分布していた。周辺地域にはコナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹林が分布していたと推定される。上部のｃ層になると、トチノキ、ハンノキ属が減少するのに対し、ヨモギ属が増加することから、やや乾燥化したとみられる。なお、クマザサ属型の卓越から、近傍にクマザサ属の群落が存在したとみられる。

４）ｃ－ｄ地点（Ⅱａ層、Ⅱｂ層）

Ⅱｂ層、Ⅱａ層ともイネ科を主にヨモギ属が生育し、近隣にトチノキ、ハンノキ属の生育する湿地が分布していた。周辺地域にはコナラ属コナラ亜属、クリの落葉広葉樹とクマザサ属の分布が推定さ

れる。

５）ｄ地点（２層、Ⅱｂ層）

花粉がほとんど検出されないことから、有機質の分解されやすいやや乾燥した環境か乾燥と湿潤を繰り返す環境が推定される。なお、近傍にはクマザサ属が群落を形成していたと推定される。

６）ｄ－ｅ地点（Ⅱｂ層、Ⅲ層）

下部のⅢ層では花粉がほとんど検出されず、花粉等が分解されるやや乾燥した環境か乾湿を繰り返す環境であったと推定される。上部のⅡｂ層ではイネ科を主にモギ属が生育し、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属およびクリの落葉広葉樹とクマザサ属の分布が推定される。

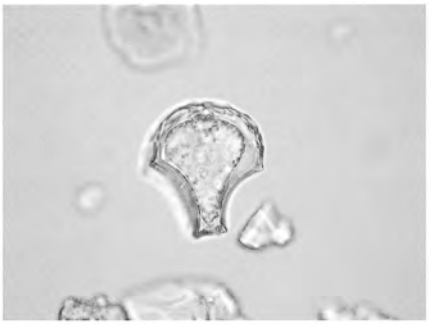
６．まとめ

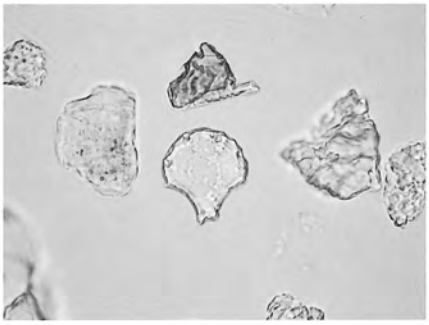
近野遺跡で検出された畠状遺構において植物珪酸体分析と花粉分析を行った。その結果、ａ－ｂの３層、ｃの１層さらにｃ－ｄのⅡａ層においてイネが作付けられていた可能性が積極的ではないものの示唆された。

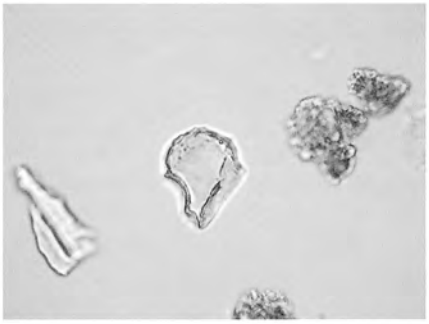
周辺環境は、イネ科、ヨモギ属、タンポポ亜科、キク亜科が分布し、人里植物、耕地雑草の性格を持つ草本の分布が推察された。イネ科にはアワやヒエの栽培植物が含まれ、これらが栽培されていた可能性もあるが、明らかな栽培植物は出現されなかった。近隣にはハンノキ属、トチノキの生育する湿地が分布し、周辺地域にはコナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹林が分布していた。なお、各試料とも共通してクマザサ属型が圧倒的に卓越している。このことから、調査地および周辺はクマザサ属が群落を形成していたと推定された。

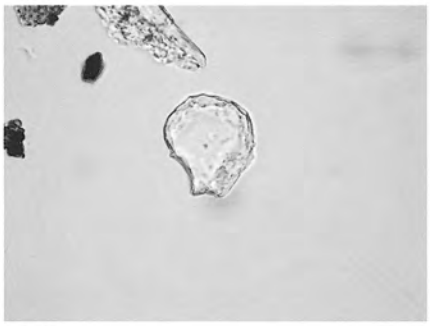
引用文献

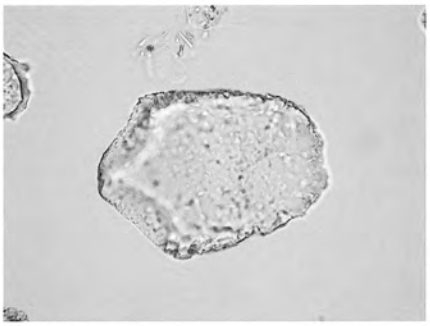
杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第 31 号，p.70-83.
杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.
金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第 10 巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第 5 集，60p.
中村純（1973）花粉分析．古今書院，p.82-110.
中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，p.187-193.
中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第 10 号，p.21-30.
中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第 13 集，91p.

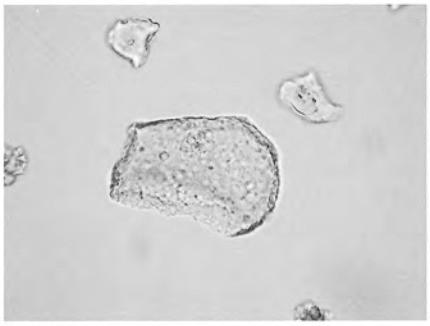

イネ


イネ

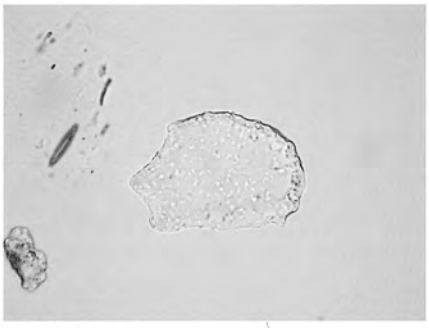

イネ


イネ


ヨシ属

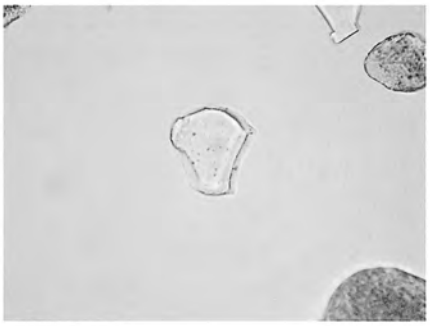

ヨシ属

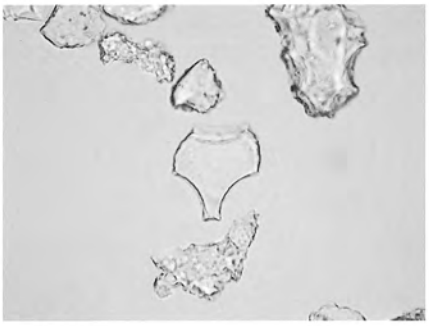
クマザサ属型


クマザサ属型

クマザサ属型

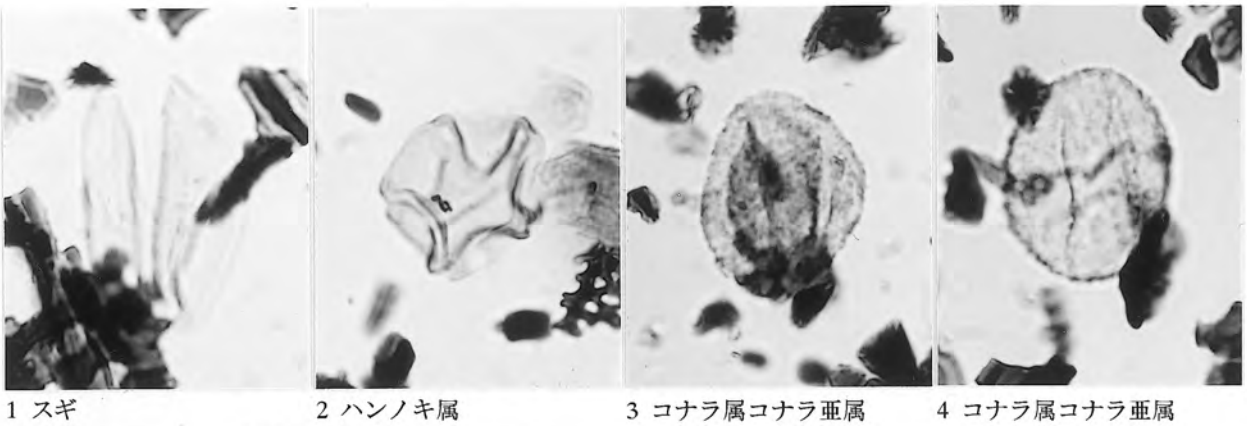
ススキ属型


ススキ属型

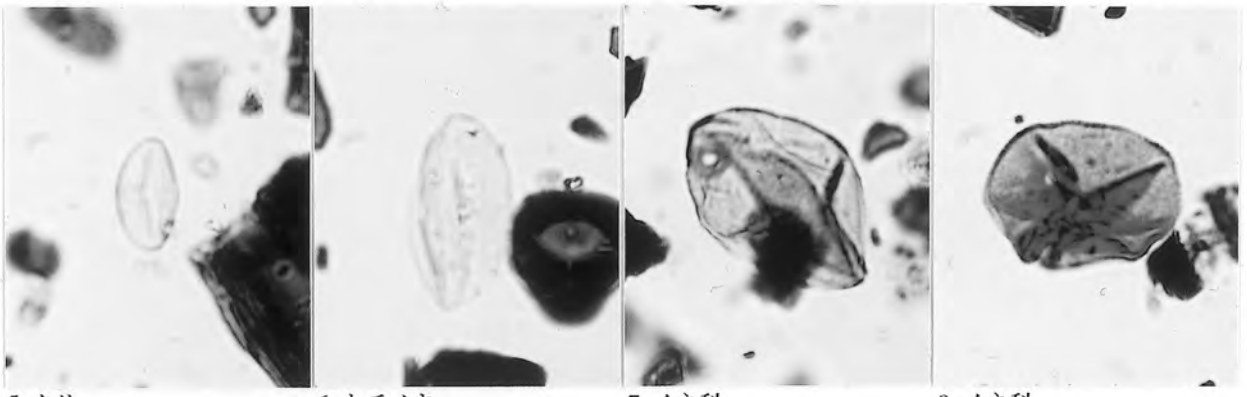

シバ属

プラント・オパールの顕微鏡写真　　50μm

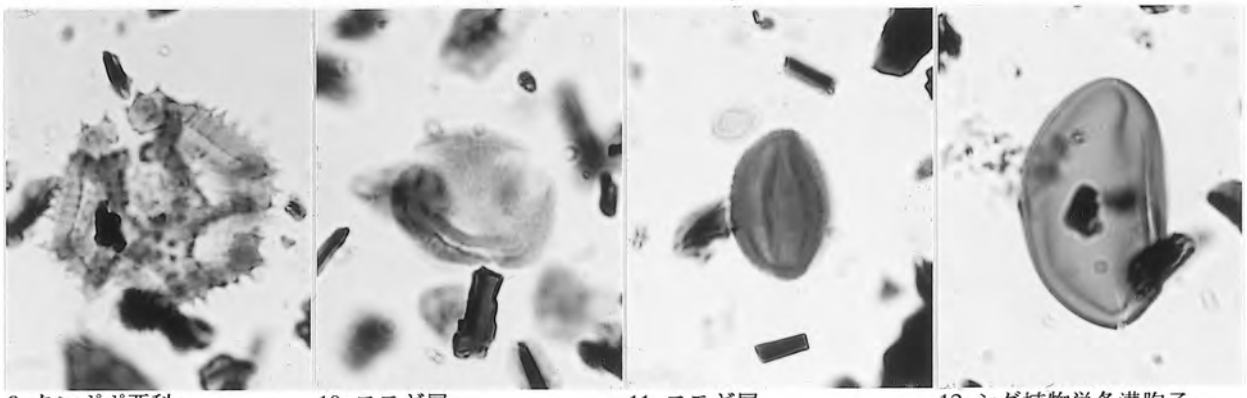
近野遺跡の花粉・胞子



1 スギ　2 ハンノキ属　3 コナラ属コナラ亜属　4 コナラ属コナラ亜属



5 クリ　6 トチノキ　7 イネ科　8 イネ科



9 タンポポ亜科　10 ヨモギ属　11 ヨモギ属　12 シダ植物単条溝胞子

10μm

第４節　埋設土器のリン・カルシウム含量分析

株式会社古環境研究所

１．はじめに

土壌中に含まれるリンやカルシウムの起源としては、土壌の母材、動物遺体、植物遺体などがある。また、遺跡の生活面や遺構内には遺体、排泄物、代謝物、食物残渣、燃料灰などに由来するリンやカルシウムが蓄積している。カルシウムは一般に水に溶解しやすいが、リンは土壌中の鉄やアルミニウムと強く結合して難溶性の化合物となるため、土壌中における保存性が高い。このようなリンやカルシウムの性質を利用して、墓状遺構などにおける生物遺体（人骨など）の確認、および生活面や遺構面の確認などが試みられている。

２．試料

分析試料は、縄文時代後期前葉とされる埋設土器 BSR1 の内部土壌（試料１・試料２・試料３）および比較試料（試料５、試料６、試料７）である。

３．分析方法

エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析システム（日本電子㈱製，JSX3201）を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法(FP 法)による定量分析を行った。試料の処理法は次のとおりである。

１）試料を絶乾（105℃・24 時間）
２）メノウ製乳鉢を用いて試料を粉砕
３）試料を塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力 15t/ □でプレスして錠剤試料を作成
４）測定時間 300 秒、照射径 20mm、電圧 30keV、試料室内真空の条件で測定

４．分析結果

各元素の定量分析結果（wt%）を表１に示し、リン酸（P_2O_5）とカルシウム（CaO）の含量を図１に示す。

５．考察

一般に、未耕地の土壌中におけるリン酸含量は 0.1 ～ 0.5％程度、耕地土壌でリン酸肥料が投入された場合は 1.0％程度である。農耕地では施肥による影響が大きく、目的とする試料の分析結果のみから遺構・遺物内における生物遺体の存在を確認するのは困難である。このため、比較試料（遺物・遺構外の試料）との対比を行う必要がある。

分析の結果、土器内（試料～３）におけるリン酸含量は 1.0 ～ 1.3％であり、一般の土壌よりも比較的高い値であるが、比較試料（試料５～７）の 1.0 ～ 1.1％と比較してとくに明瞭な差異は認められなかった。また、土器内におけるカルシウム含量は 1.5％程度であり、比較試料の 1.5 ～ 1.7％と比較してとくに明瞭な差異は認められなかった。

以上の結果から、埋設土器 BSR1 の内部にリン酸を多く含む何らかの生物遺体が存在していた可能性は考えられるものの、比較試料との差異が明瞭ではないことから、後代の農耕に伴う施肥などの影響も否定できない。

引用文献

竹迫 紘（1993）リン分析法．日本第四紀学会編．四紀試料分析法２，研究対象別分析法．東京大学出版会，p.38-45.

表１　埋設土器BSR1における蛍光Ｘ線分析結果

単位：wt(%)

地点・試料		土器内-上	土器内-下	土器内-底	土器外	土器下	遺構外
原子No.	化学式	試料１	試料２	試料３	試料５	試料６	試料７
11	Na_2O	0.750	0.254	0.497	0.135	0.476	0.494
12	MgO	0.639	0.675	0.559	0.587	0.591	0.596
13	Al_2O_3	23.230	23.314	23.354	23.541	25.834	22.435
14	SiO_2	57.454	57.444	57.577	57.557	56.939	59.225
15	P_2O_5	1.303	1.023	1.112	1.098	0.990	1.102
16	SO_3	0.175	0.238	0.234	0.236	0.000	0.150
19	K_2O	1.467	1.433	1.540	1.474	1.195	1.412
20	CaO	1.478	1.500	1.477	1.542	1.451	1.673
22	TiO_2	1.380	1.418	1.447	1.423	1.426	1.443
23	V_2O_5	0.034	0.020	0.016	0.046	0.007	0.030
25	MnO	0.397	0.400	0.382	0.330	0.215	0.296
26	Fe_2O_3	11.629	12.220	11.743	11.868	10.768	11.049
37	Rb_2O	0.018	0.011	0.013	0.015	0.008	0.034
38	SrO	0.046	0.046	0.052	0.044	0.044	0.015
40	ZrO_2	0.000	0.000	0.000	0.063	0.055	0.047

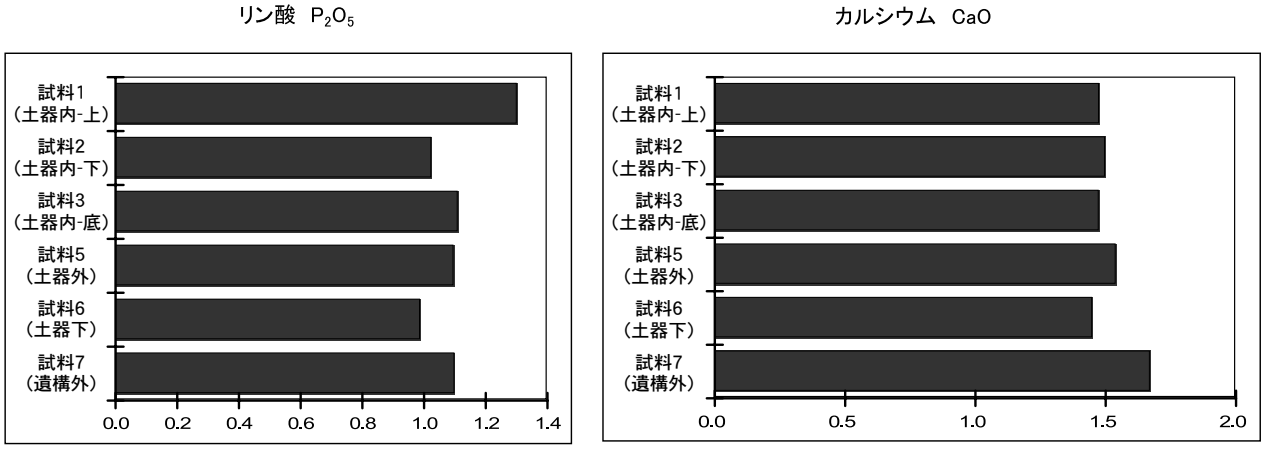


図１　埋設土器BSR1の各試料におけるリン・カルシウム含量

第５節　青森県近野遺跡出土石器にみられる赤色付着物の調査

㈱吉田生物研究所

１　はじめに

青森県に所在する近野遺跡から出土した、古代の年代が与えられている石器の破片１点について、表面の構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

２　調査資料

調査資料は、古代の石器の破片１点である。表面には赤色物質が付着している。

表１　調査資料

遺物名	遺物 No.	出　土　位　置	時　期	概　　要
礫石器	図 103-7	調査区中央、B 区第 60 号土坑（浅い円形土坑）	平安時代	厚さ７cm 強の台石と思われる礫石器である。その表面には赤色の付着物がみられる。

３　調査方法

表１の資料本体の表面から数㎜四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

４　断面観察結果

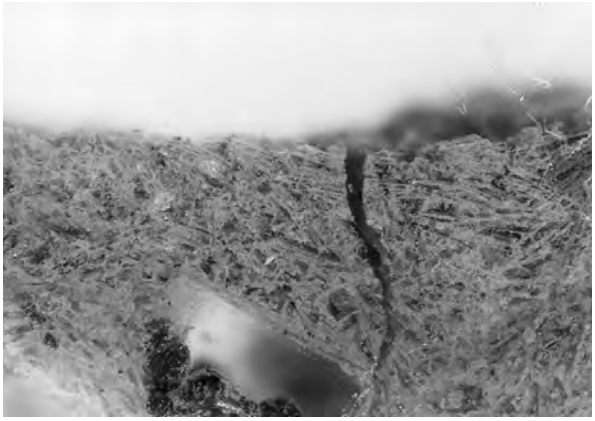
長石が大勢を占める礫の表面を覆い、さらに内部までしみこんだようにみえる赤色物質が観察された。この赤色物質は、透明感はあるが粒子の明確な形状はほとんど見られない。土壌中の鉄分が加熱により赤色を呈した状態のように見受けられる。

５　摘要

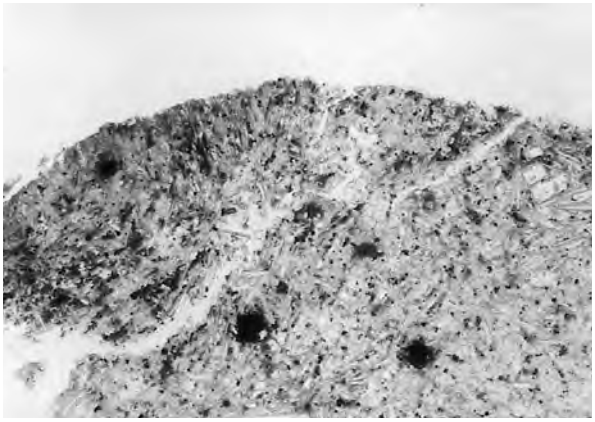
近野遺跡から出土した、古代の年代が与えられている礫石器の破片１点について、表面の構造調査を行った。

表面に付着した赤色物質を顕微鏡下で観察した結果、明瞭な粒子の形状がほとんど認められないことから、鉄さびが付着した可能性が高いと判断した。

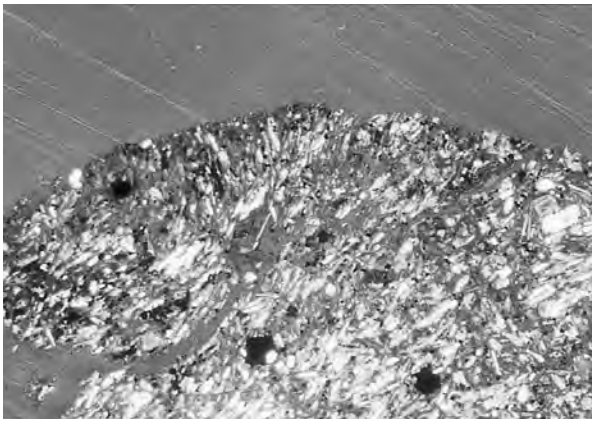
1．資料　第 60 号土坑出土石器（図 103）



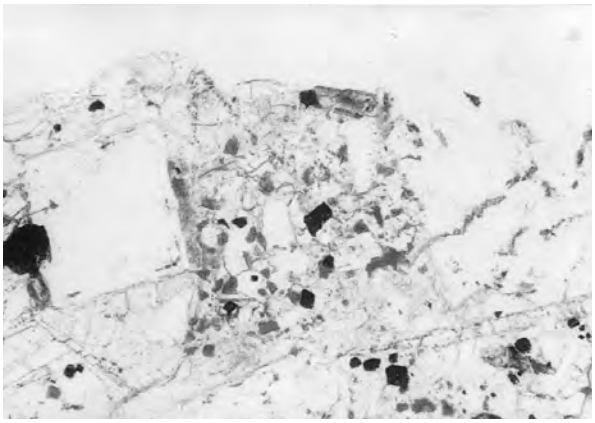
2．表面の断面写真（落射　× 200）



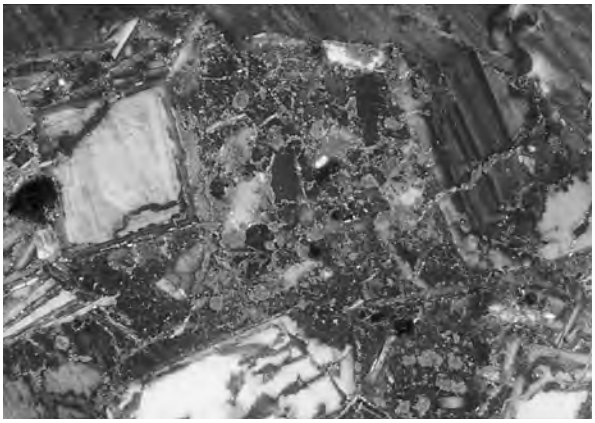
3．表面の断面写真（透過　× 80）



4．表面の断面写真（偏光　× 80）



5．表面の断面写真（透過　× 400）



6．表面の断面写真（偏光　× 400）

写真図版 1　石器破片断面写真

第６節　近野遺跡Ｂ区の放射性炭素年代分析結果

地球科学研究所
パリノ・サーヴェイ株式会社

青森県埋蔵文化財調査センター　　様

No.1406
(株)地球科学研究所

件名：**放射性炭素年代測定**

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

未補正14C年代 (y BP) ：(同位体分別未補正) 14C 年代 "measured radiocarbon age"
試料の 14C／ 12C 比から、単純に現在(AD1950年)から何年前(BP)かを計算した年代。

14C年代 (y BP) ：(同位体分別補正) 14C 年代 "conventional radiocarbon age"
試料の炭素安定同位体比(13C／ 12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り
14C／ 12C の測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。
試料のδ13 C値を−25(‰)に基準化することによって得られる年代値である。
(Stuiver,M. and Polach,H.A.(1977) Discussion:Reporting of 14C data. Radiocarbon, 19 を参照のこと)
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

δ 13C (permil) ：試料の測定 14C／ 12C 比を補正するための 13C／ 12C 比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)
で表現する。

$$\delta\ ^{13}C\ (‰) = \frac{(\ ^{13}C/\ ^{12}C)[試料] - (\ ^{13}C/\ ^{12}C)[標準]}{(\ ^{13}C/\ ^{12}C)[標準]} \times 1000$$

ここで、 13C／ 12C [標準] = 0.0112372である。

暦 年 代 ：過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を
算出する。　具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴのU-Th年代と
14 C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。 最新のデータベース(
"INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3))
により約19000yBPまでの換算が可能となった。*

*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

"The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a "best fit" compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results."

測定方法などに関するデータ

測定方法　AMS　：加速器質量分析
Radiometric　：液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調製・その他　：　試料の前処理、調製などの情報

前処理
acid-alkali-acid：酸－アルカリ－酸洗浄
acid washes：酸洗浄
acid etch：酸によるエッチング
none：未処理

調製、その他
Bulk-Low Carbon Material：低濃度有機物処理
Bone Collagen Extraction：骨、歯などのコラーゲン抽出
Cellulose Extraction：木材のセルローズ抽出
Extended Counting：Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関　BETA ANALYTIC INC.
4985 SW 74 Court, Miami, Fl, U.S.A 33155

Radiocarbon Dating Report　　Geo Science Laboratory

試料データ		未補正14C年代(y BP) (measured radiocarbon age)	σ13C(permil)	14C年代(y BP) (Conventional radiocarbon age)
Beta-　186346		1280±40	-26.1	1260±40
試料名	23994 **No25-BSI4-50**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material		acid/alkali/acid	
Beta-　186347		1130±40	-25.7	1120±40
試料名	23995 **No26-BSI6-7**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material		acid/alkali/acid	
Beta-　186348		1210±40	-25.3	1210±40
試料名	23996 **No27-BSI7-6**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material		acid/alkali/acid	
IAAA-　31815		1180±30	-23.57±0.79	1170±30
試料名	8186-1-1 **No39-BSI2-1**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material		acid/alkali/acid	
IAAA-　31816		1310±30	-26.23±0.70	1290±30
試料名	8186-1-2 **No40-BSI4-46**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material			
IAAA-　31817		1170±30	-24.75±0.75	1170±30
試料名	8186-1-3 **No41-BSI5-2**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material			
IAAA-　31818		1150±30	-30.62±0.70	1060±30
試料名	8186-1-4 **No42-BSI6-34**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material			
IAAA-　31824		1330±40	-28.93±0.83	1270±40
試料名	8186-1-10 **No43-BSI7-2**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material			
IAAA-　31819		1070±40	-24.04±0.68	1080±40
試料名	8186-1-5 **No44-BSI10-2**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material			

試料データ		未補正14C年代(y BP)	σ13C(permil)	14C年代(yBP)
		(measured radiocarbon age)		(Conventional radiocarbon age)
IAAA-	**31820**	１１８０±３０	-24.97±0.77	１１８０±３０
試料名	8186-1-6 **No45-BSI15-1**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material			
IAAA-	**31821**	１１７０±３０	-26.52±0.74	１１５０±３０
試料名	8186-1-7 **No46-BSI16-5**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material			
IAAA-	**31822**	１１９０±３０	-23.53±0.75	１２１０±３０
試料名	8186-1-8 **No47-BSI18-3**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material			
IAAA-	**31823**	１２４０±４０	-27.11±0.93	１２００±４０
試料名	8186-1-9 **No48-BSX6-4**			
測定方法、期間	AMS－Standard			
試料種、前処理など	charred material			

Beta-は地球科学研究所に、IAAA-はパリノ・サーヴェイ株式会社に、それぞれ分析を委託したものである。

試料番号		採取地点	図版番号	樹種
Bata-186346	No25-BSI4-50	第４号竪穴住居跡(BSI4)	28	クリ
Bata-186347	No26-BSI6-7	第６号竪穴住居跡(BSI6)	33	クリ
Bata-186348	No27-BSI7-6	第７号竪穴住居跡(BSI7)	36	クリ
IAAA-31815	No39-BSI2-1	第２号竪穴住居跡(BSI2)	25	クリ
IAAA-31816	No40-BSI4-46	第４号竪穴住居跡(BSI2)	28	クリ
IAAA-31817	No41-BSI5-2	第５号竪穴住居跡(BSI5)	30	クリ
IAAA-31818	No42-BSI6-34	第６号竪穴住居跡(BSI6)	33	クリ
IAAA-31824	No43-BSI7-2	第７号竪穴住居跡(BSI7)	36	トネリコ属
IAAA-31819	No44-BSI10-2	第10号竪穴住居跡(BSI10)	40	クリ
IAAA-31820	No45-BSI15-1	第15号竪穴住居跡(BSI15)	44	クリ
IAAA-31821	No46-BSI16-5	第16号竪穴住居跡(BSI16)	46	オニグルミ
IAAA-31822	No47-BSI18-3	第18号竪穴住居跡(BSI18)	51	カツラ
IAAA-31823	No48-BSX6-4	BSX6	66	トネリコ属

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.1:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-186346**

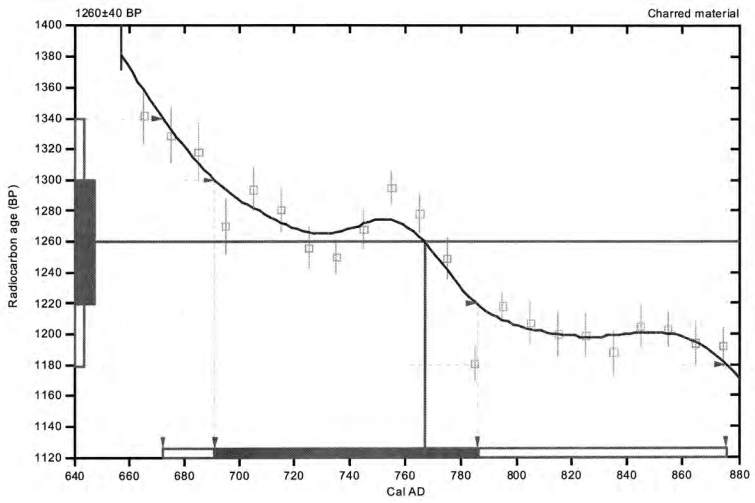
Conventional radiocarbon age: **1260±40 BP**

2 Sigma calibrated result: (95% probability) **Cal AD 670 to 880 (Cal BP 1280 to 1070)**

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal AD 770 (Cal BP 1180)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal AD 690 to 790 (Cal BP 1260 to 1160)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

Bata－186346　No25－BSI4－50

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-25.7:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-186347**

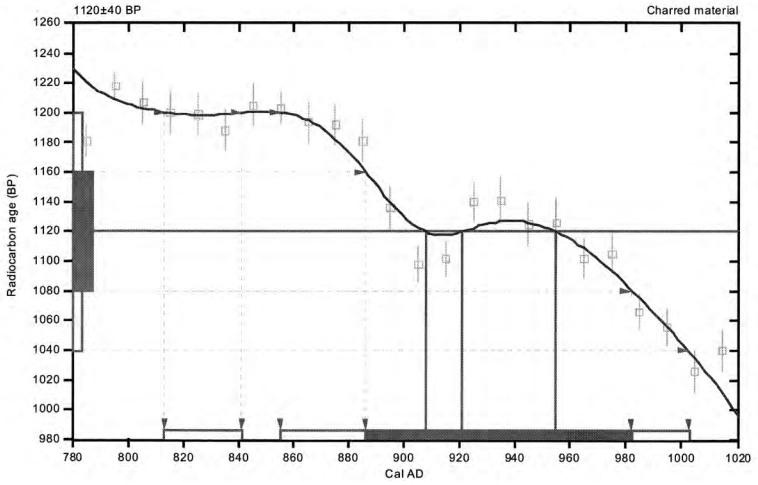
Conventional radiocarbon age: **1120±40 BP**

2 Sigma calibrated results: (95% probability) **Cal AD 810 to 840 (Cal BP 1140 to 1110) and Cal AD 860 to 1000 (Cal BP 1100 to 950)**

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age with calibration curve: Cal AD 910 (Cal BP 1040) and Cal AD 920 (Cal BP 1030) and Cal AD 960 (Cal BP 1000)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal AD 890 to 980 (Cal BP 1060 to 970)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

Bata－186347　No26－BSI6－7

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-25.3:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-186348**

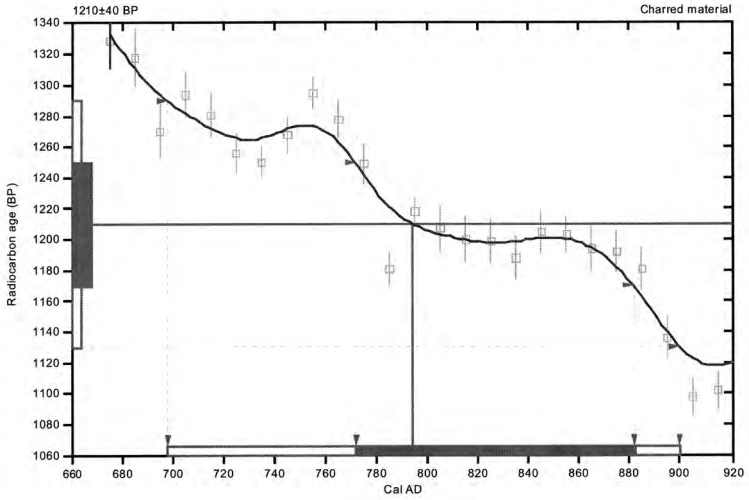
Conventional radiocarbon age: **1210±40 BP**

2 Sigma calibrated result: (95% probability) **Cal AD 700 to 900 (Cal BP 1250 to 1050)**

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal AD 790 (Cal BP 1160)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal AD 770 to 880 (Cal BP 1180 to 1070)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

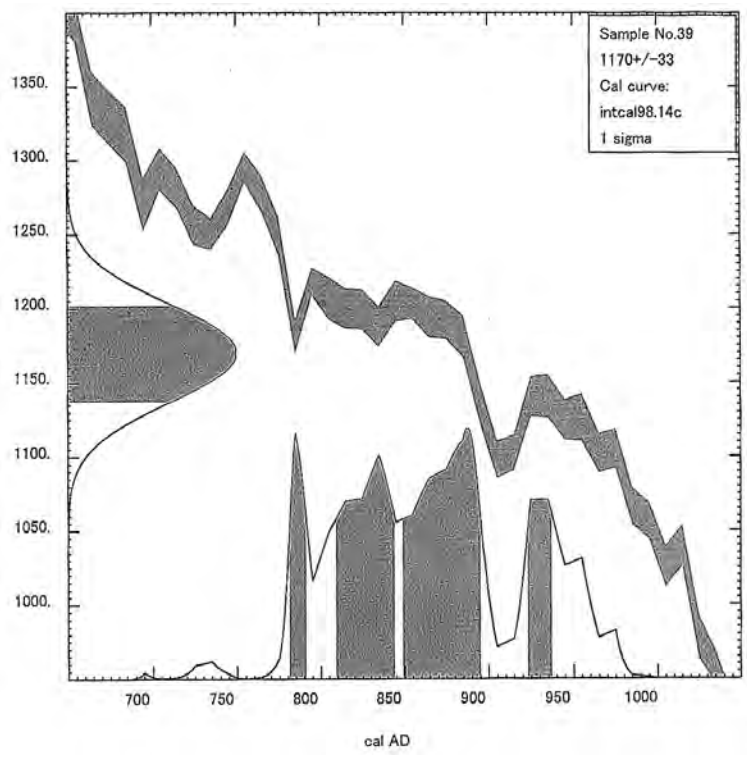
A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

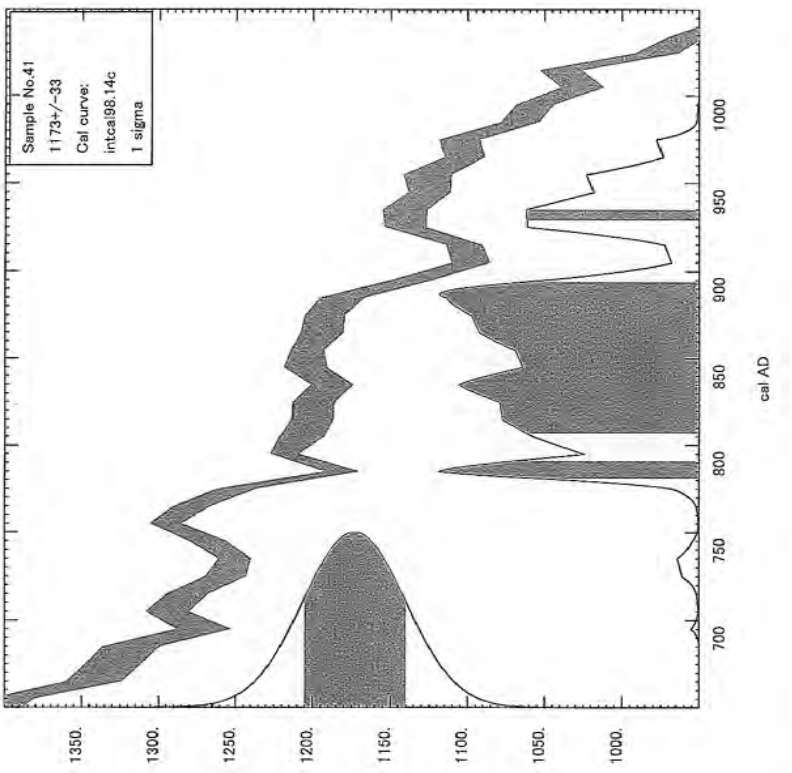
Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

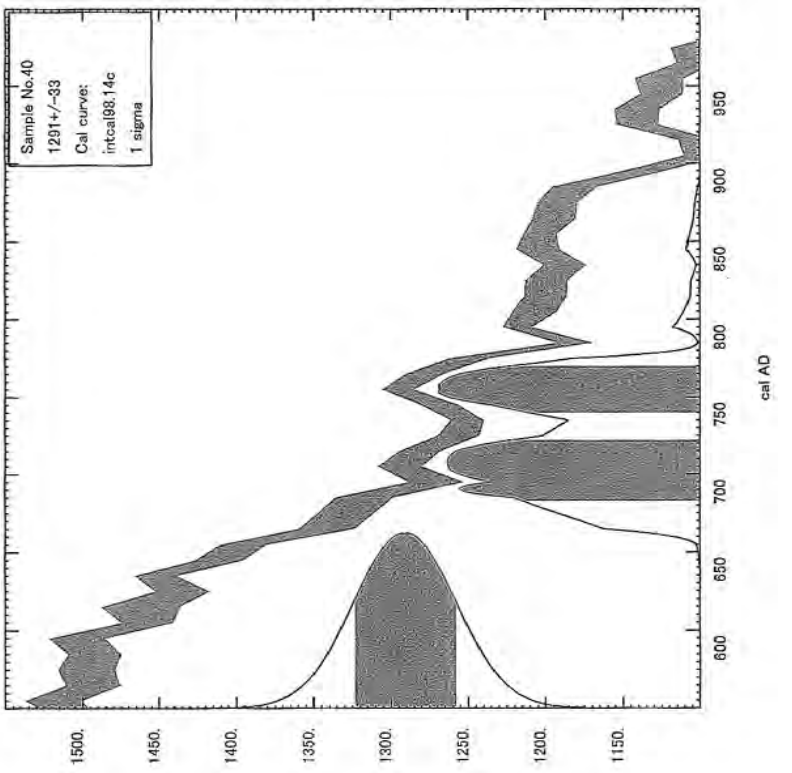
Bata－186348 No27－BSI7－6



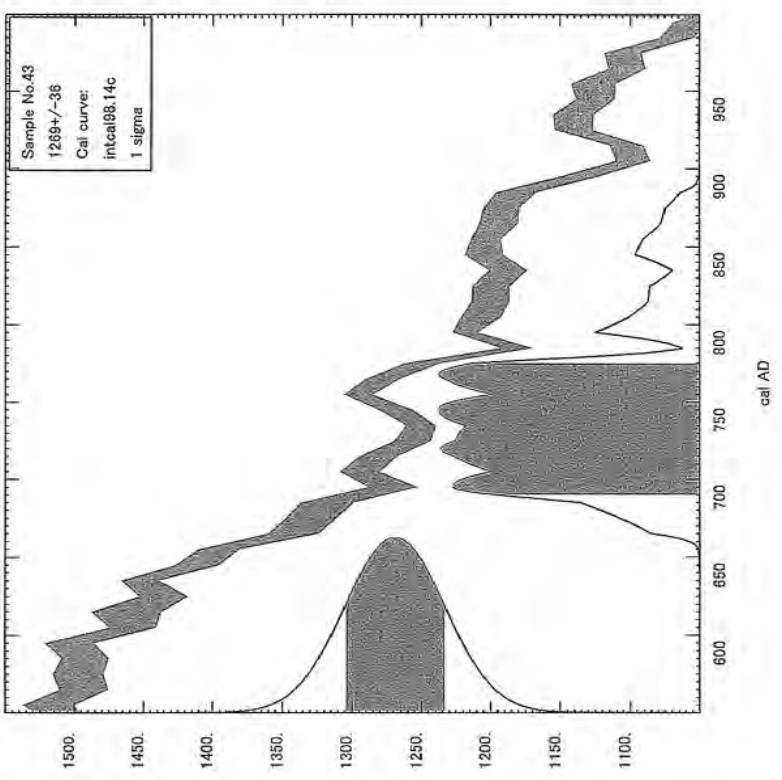
IAAA－31815 No39－BSI2－1



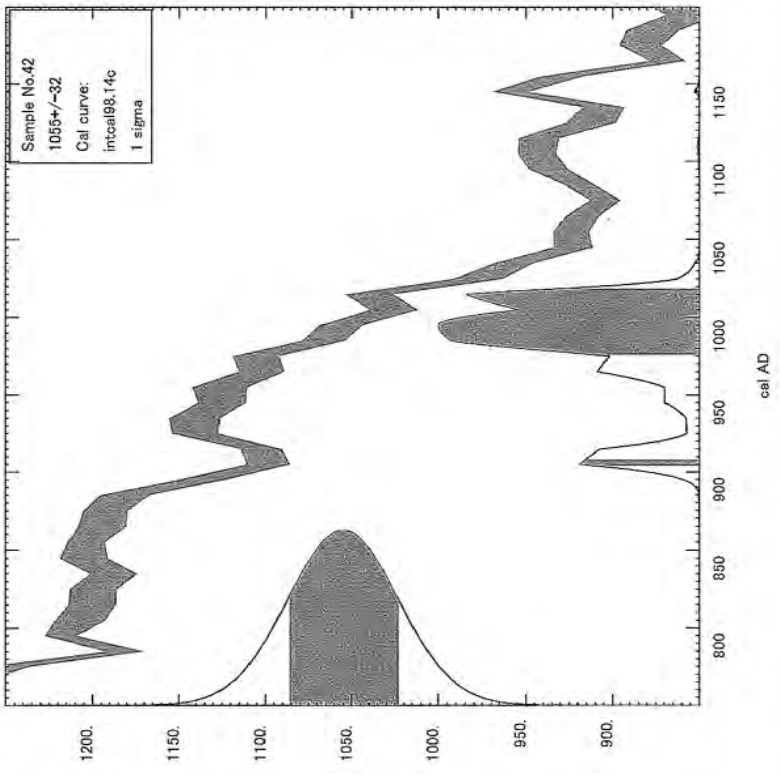
IAAA－31817　No41－BSI5－2



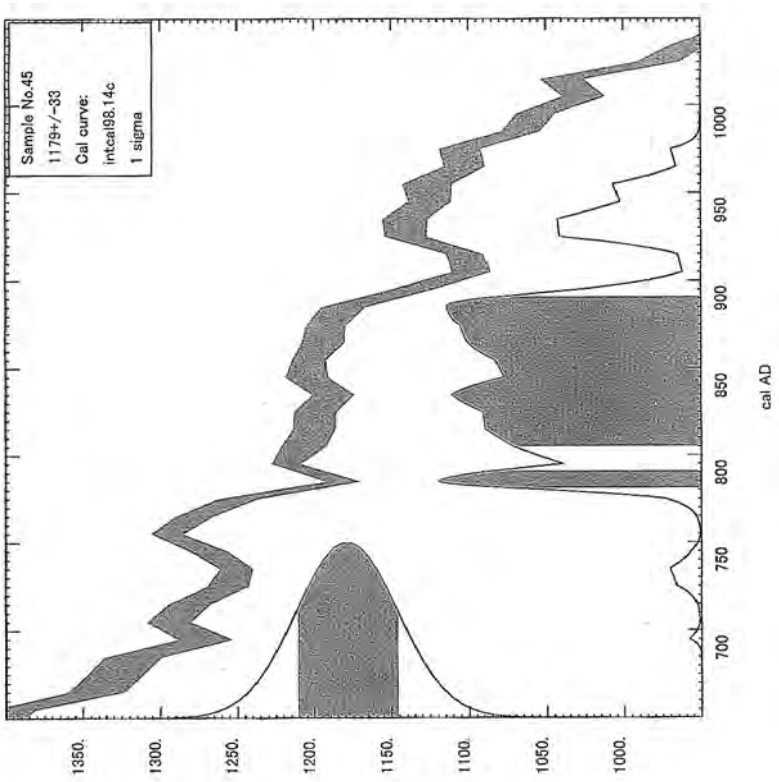
IAAA－31816　No40－BSI4－46



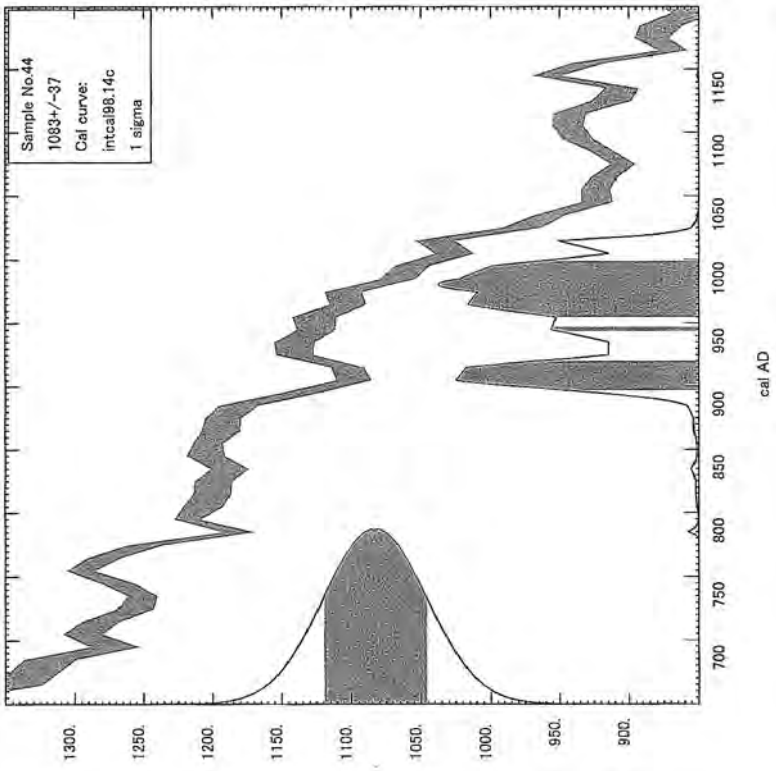
IAAA－31824 No43－BSI7－2



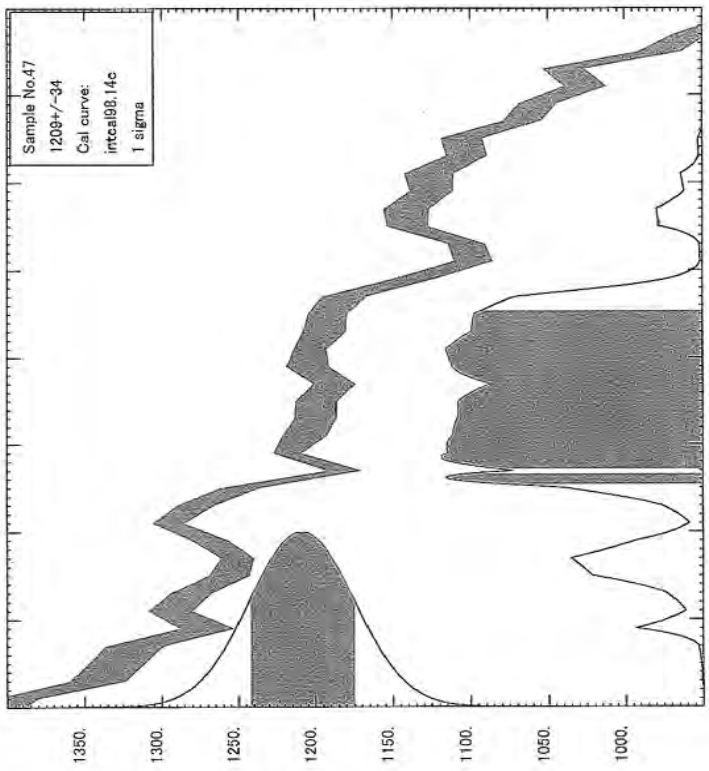
IAAA－31818 No42－BSI6－34



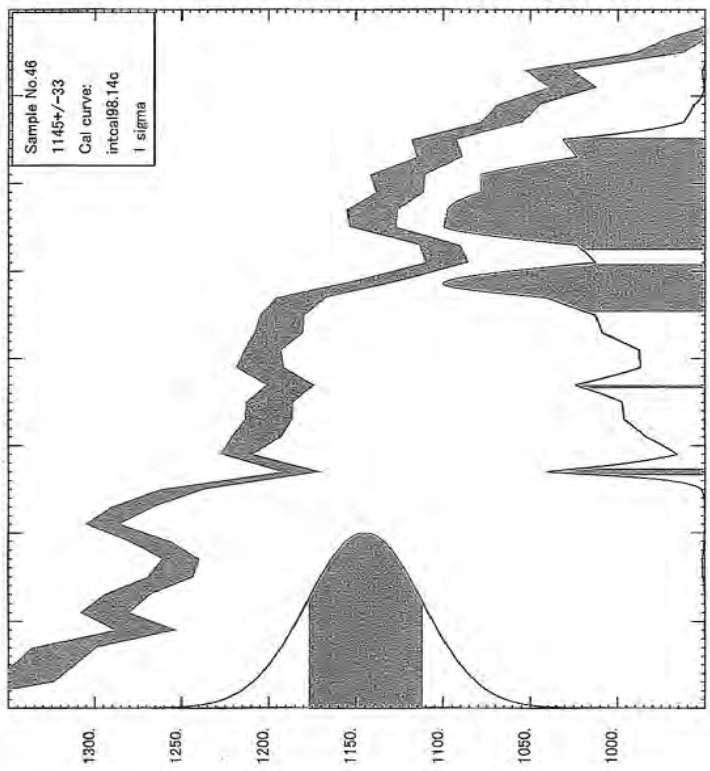
IAAA－31820　No45－BSI15－1



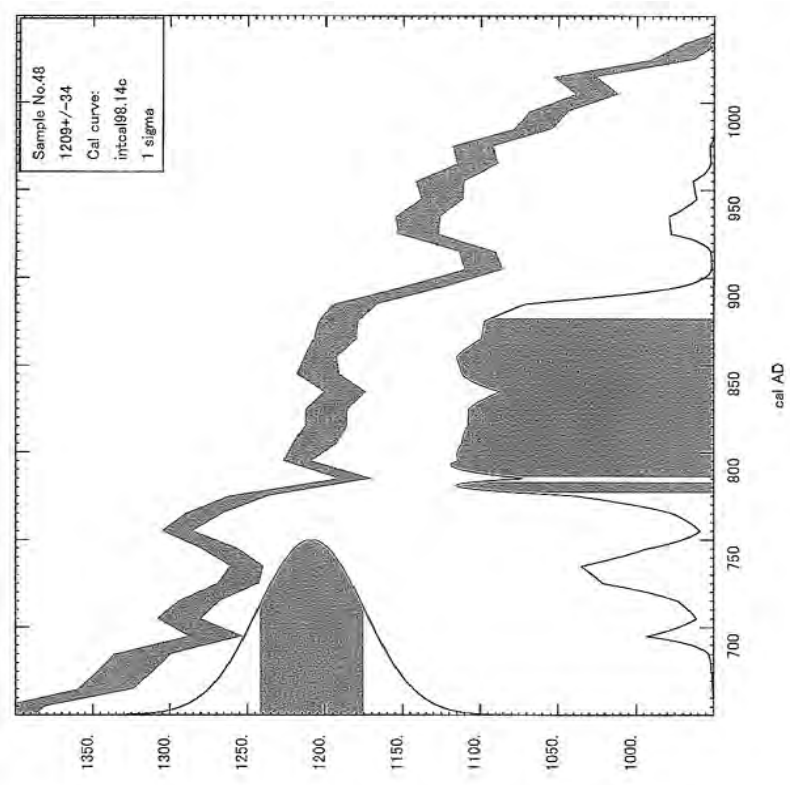
IAAA-31819　No44－BSI10－2



IAAA－31822　No47－BSI18－3



IAAA－31821　No46－BSI16－5



C14 測定結果（B 区）

試料 NO		39	25	40	41	26	42	27	43	44	45	46	47	48
出土位置		BSI2	BSI4-1	BSI4-2	BSI5	BSI6-1	BSI6-2	BSI7-1	BSI7-2	BSI10	BSI15	BSI16	BSI18	BSX6
7C後半	660													
	670													
	680													
	690													
	700													
8C前半	710													
	720													
	730													
	740													
	750													
8C後半	760													
	770													
	780													
	790													
	800													
9C前半	810													
	820													
	830													
	840													
	850													
9C後半	860													
	870													
	880													
	890													
	900													
10C前半	910													
	920													
	930													
	940													
	950													
10C後半	960													
	970													
	980													
	990													
	1000													
11C前半	1010													
	1020													
	1030													
	1040													
	1050													

較正年代値の幅をグラフに表した。濃い網かけ範囲は１σ、薄い網かけ範囲は２σ
グラフの幅が遺構の存続年代の幅を示す物ではない点に注意

第５章　まとめ

今回報告分である西側台地部分のＡ区・Ｂ区からは縄文時代と平安時代の遺構・遺物が検出された。これまでの調査結果に追随する部分が多いが、新しい成果として、縄文時代後期の遺構が検出されたこと、平安時代の生産活動に関わる遺構・遺物が出土したことが加わる。ここでは各時代の特徴と今後の課題について簡略であるがまとめる。

縄文時代

中期中葉の竪穴住居跡１軒、後期前葉の土坑１基・土器埋設遺構１基・土器片集積遺構２基、時期不明の土坑 13 基が検出された。遺構数に反して、遺構外から多くの土器片が出土した。縄文土器片は中期中葉を主体とし、後期前葉までのものがＢ区全体に広く分布する。

主体となる中期中葉の遺構、住居跡１軒は谷へ下る斜面に位置する。住居跡からさらに下の急斜面には時期不明の土坑が比較的まとまっている。谷を挟んで対岸の東側台地（Ｅ区）から同時期の住居跡・土坑等が多数検出されている（次年度報告）。また、Ｂ区北側に隣接する三内丸山遺跡ではこの時期、配石遺構と道路跡が検出されている。特に道路跡は近野遺跡との境界である史跡指定範囲まで確認され、本遺跡側まで延びる可能性が指摘されている。しかし、第２章第１節中で記述した通り、明確な道路跡を本調査区では認めることができなかった。

この時期、谷ではＢ区側の山地を供給源とする湧水を生活に利用した痕跡が複数確認されている。Ｂ区の中でも、中期の遺構は谷へ下る急斜面の限られた箇所にまとまり、西側台地本体は遺構の空白部分となっている。西側台地には住居跡や土坑等の遺構は積極的には構築されず、広場的な空間や、生産活動の場などに利用されていたことが考えられる。また、近野遺跡の集落の本体である東側台地と三内丸山遺跡や他の集落をつなぐ部分であったことも想定される。

後期前半になると、土器埋設遺構と土器片集積遺構が調査区東側で、平成 12 年度の調査では土坑１基（Ｂ区第４号土坑：『近野遺跡Ⅵ』掲載）が調査区西側で検出されている。Ｂ区からさらに南東側（Ｃ区）では、昭和 50・51 年の調査で、十腰内Ⅰ式期の小竪穴遺構と遺物包含層が検出されている。小竪穴遺構については人為堆積の様相を呈し、一括した土器が埋納されたもの 11 基を土壙墓の可能性が高いと報告している（『近野遺跡Ⅲ』）。Ｂ区第４号土坑でも土器が一括で出土し、人為堆積の様相を呈する点で共通することからこれらの遺構に類する。しかし、これらを土壙墓とするのは未報告分を含め、再検討した上で以後報告したい。土器片集積遺構は出土状況から掘り込みの浅い土器埋設遺構が崩落したものとも考えられる。平成 15 年度の調査でもＣ区から同時期の土器棺墓１基と土坑数基を検出している（次年度以降報告）。この時期の周辺の遺跡については本報告第Ⅰ編三内丸山（５）遺跡にて述べられているように極めて少なく、集落が検出されているのは三内丸山（６）遺跡のみである。後期になると、近野遺跡南東側はややまとまりのある墓域の様相を呈する。南東側の低位段丘から西側の高位段丘に位置する三内丸山（５）遺跡にかけて墓の可能性のある遺構が点在することから、断続的に小墓地が存在していたことが伺える。

平安時代

竪穴住居跡 25 軒、掘立柱建物跡５棟、溝跡 18 条、土坑 39 基、畠跡１基、焼土・炭化物集積遺構２基、

柱列１基が検出されている。過去の調査同様、住居跡は竪穴部・外周溝・掘立柱建物跡で構成される。今回の調査では住居跡の構成に規則性があることがわかった。

全ての住居跡の主軸は南東から北東方向をなし、カマドは南東側に設置されている。外周溝は南東側を除く３方向に位置し、コの字に巡る。外周溝の特徴として、先端部が円形または楕円形に広がり一段深く掘り込まれる傾向がある。この部分には土師器・須恵器の他、製塩土器・鉄関連遺物・焼成粘土塊などの多種多様な遺物とともに、焼土・炭化物・粘土が混在する。住居跡に伴う掘立柱建物跡は２間×２間の方形を呈するのが基本形である。規模は竪穴部と同規模またはそれより一回り大きくなる。

住居跡は低位段丘面に散在する。改築が行われたものが半数である。南東側以外の３壁を拡張すると共に、外周溝も外側に再構築される場合と、竪穴部と外周溝全体を西側に何ｍか移動した位置に同規模の住居を建て替える場合とが認められる。広い段丘面に関わらず、同じ場所で構築するのは、各住居にある一定の距離間を保つことが意識的に行われていたことが考えられる。平面形は規模に比例し、小型のものは正方形を、大きくなると東西方向に長い長方形も認められる。竪穴部の構造は規模により異なる傾向がみられる。壁溝はほぼ全ての住居に巡らされ、床面積 20 ㎡を超えると主柱穴が備わる。20 ㎡未満の住居には壁際に柱穴が備わるのみで、さらに小規模の住居には壁柱穴もなく、壁溝のみのものもある。例外として、Ｂ区第４号住居跡は規模が大きい割に、壁溝がなく主柱穴と多数の壁柱穴が巡る構造である。カマドは全て半地下式で、粘土で構築される。袖の芯材に加工した礫を使用したり、カマドの支脚に坏や甕の底部を転用している。炭化材の樹種同定から建築材にクリの木が最も使用されるが、Ｂ区第７号住居跡はクリの木の使用が少なく、トネリコ属の木等が使用される。トネリコ属の材はクリの木に比べ軟質で、分析結果から谷に生育した可能性が示されている。このように住居構成・竪穴部の構造・構築材の種類が他の住居跡と異なることから、他の住居跡とは異なる目的で使用されたことが予想される。特に、谷で検出された平安時代の水場遺構に最も近い位置にあることから、作業場として使用されたことも考えられる。炭化材が検出された焼失家屋は８軒ある。炭化材や遺物の出土状況・カマドの残存状況に、特に傾向をみることが出来ず、焼失の要因が自然発火によるものか意図的なものかを判断できなかった。白頭山火山灰は炭化物検出面またはその上位に堆積する住居跡が４軒、外周溝に堆積する住居跡が９軒ある。分析の結果、肉眼では観察出来なかった十和田ａ火山灰も少なからず含まれていることが判明した。

外周溝と掘立柱建物を伴う住居跡は青森市朝日山（２）（３）遺跡､浪岡町野尻遺跡（１）（４）（３）で多数検出されている。朝日山遺跡では住居の大半が、野尻遺跡ではほとんどの住居が東方向を向いている。地形を比較すると、近野遺跡は南西から北東に、２遺跡は西から東に傾斜する段丘上に立地し、等高線に対する住居跡の軸方向は前者が平行、後者は斜交・直交する位置関係にある。住居の構成については地形に制限される点が大きく、さらに日照や風向・流水方向等を考慮して、構築されたことも推測される。

このほか、生産に関わる畠跡と焼土・炭化物集積遺構が検出されたことも特筆される。

出土遺物は土師器・須恵器を主体とし、製塩土器、焼成粘土塊、鉄関連遺物、羽口、支脚、礫石器などの何らかの生産活動に関する遺物が多種類出土している。特にＢＳＩ 10 および周辺の土坑に集中する。鉄関連遺物・焼成粘土塊に土製品も比較的まとまっている。黒色物や赤色物が付着した自然

礫や被熱した礫などもみられる。これらの遺物が出土する土坑は形状が一定せず、粘土や焼土・炭化物を含む場合が多い。このような分布はほぼ同数の平安時代の住居跡が存在する東側の台地（Ｅ区）では見られない。Ｂ区以外では、谷上流のＥ区側斜面に鉄関連遺物と羽口がまとまって多量に出土している。遺物の出土量と種類から、これまでの調査では検出されていないが、鉄に関わる施設が存在していた可能性が伺える。

大半の住居跡には須恵器を伴う。形状や胎土から五所川原産と思われるものが半数を占める。須恵器は改築された住居の最終段階に伴うものが多く、この場合最初に構築された住居の時期は９世紀後葉以前の可能性もある。炭化物の炭素年代測定結果を見ると、10 世紀に一つの画期が読み取れる。西側台地の集落は９世紀後半から 10 世紀初頭に改築をしながら連続的に営まれた集落で、白頭山火山灰降下時には既に廃棄され埋没途中であったものと考えられる。

近野遺跡全体でみると、谷を挟んで西側の台地（Ｂ区）と東側の台地（Ｅ区）では平安時代の住居跡の構成が大きく異なる。Ｂ区は外周溝・掘立柱建物跡を伴い規則性が高い。反面、東側の台地の住居跡は外周溝と掘立柱建物跡を伴わず、重複するものもあり狭い範囲に密集する。この住居構成の差がどのような意味があるのか、Ｅ区の遺構・遺物と比較し、さらにこれまで報告された分も含め再度検討を要する。

谷では縄文時代と平安時代の水場遺構が存在する。どのように水と関わり活用したかを考えることで、縄文時代と平安時代の生業活動について解明する手がかりになるもの思われる。さらには大規模集落における土地利用・空間利用について追究していきたい。

引用・参考文献

青森県教育委員会　1974 『近野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第 12 集
青森県教育委員会　1975 『近野遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告第 22 集
青森県教育委員会　1977 『近野遺跡Ⅲ・三内丸山(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第 33 集
青森県教育委員会　1993a 『家ノ前遺跡・幸畑(7)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 148 集
青森県教育委員会　1993b 『野脇遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 149 集
青森県教育委員会　2002 『三内丸山(2)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 157 集
青森県教育委員会　1998 『平野遺跡・今須(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 231 集
青森県教育委員会　1998 『新町野遺跡・野木遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 239 集
青森県教育委員会　1998 『隠川(4)遺跡　隠川(12)遺跡Ⅰ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 244 集
青森県教育委員会　1998 『白砂・大沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 246 集
青森県教育委員会　1998 『三内丸山遺跡Ⅻ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 252 集
青森県教育委員会　1999 『三内丸山遺跡ⅩⅢ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 265 集
青森県教育委員会　2002 『近野遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 315 集
青森県教育委員会　2003 『尾上山遺跡・蓬野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 347 集
青森県教育委員会　2003 『朝日山(2)遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 349 集
青森県教育委員会　2003 『野尻(1)遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 349 集
青森市教育委員会　2000 『市内遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 53 集
青森市教育委員会　2001 『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書第 54 集
青森市教育委員会　2002 『近野遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 68 集
五所川原市教育委員会　2003 『五所川原須恵器窯跡群』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第 25 集
穴澤義功　1994 「序章 二 鉄関連遺物の調査法１考古学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』58　pp.14 － 22
阿部朝衛　2000 「先史時代人の失敗と練習－石鏃と磨製石斧の分析から－」『考古学雑誌』86 － 1　pp. 1 － 26
北林八洲晴　1994 「Ⅰ－４　青森県」『日本土器製塩研究』pp.103 － 121　青木書店
北林八洲晴　2003 『断章　青森の製塩跡考』
国生　尚　1992 「土鈴集成」『岩手考古学』第４号　岩手考古学会

田口勇・穴澤義功　1994 「付論　本研究関係用語解説」『国立歴史民俗博物館研究報告』59　pp.337 － 367
西秋良宏　1994 「石器製作時に生じる偶発剥離の問題」『東海大学校地内道路調査団報告』４　pp.111 － 125
秦　昭繁　1991 「特殊な剥離技法をもつ東日本の石匙－松原型石匙の分布と製作時期について－」『考古学雑誌』76 － 4　pp. 1 － 29

B 区住居跡一覧表

通番号	住居番号	規模 m	床面積㎡【】残存部、〈〉推定	壁溝	壁柱穴	主柱穴	カマド	カマド主軸方向【 】は住居軸	火山灰	外周溝：SD	備考	掘立柱建物跡：SB	土師器以外の出土遺物
1	1	6.94 × 6.4	19.4	部分	有り（4 隅）	有り	粘土。カマド作替有り	N-114°-E	B-Tm：竪穴部と外周溝	コの字。東先端部楕円形		2 間×2 間	須恵器
2	2	4.35 × 4.0	14.5	一巡	有り（4 隅）	無し	崩落	N-125°-E	B-Tm：竪穴部炭化物の上、外周溝（分析）	コの字	焼失家屋	－	製塩、礫
3	3	5.8 × 4.4	〈21.0〉	有り	有り（隅）	－	－	【N-125°-E】	－	－	壁溝・柱穴のみ	2 間×2 間	
4	4-Ⅱ	7.0 × 6.6	47.8	無し	有り（4 隅）	有り	粘土。芯材有り	N-122°-E	－	コの字。円形土坑伴う	拡張後：焼失家屋	2 間×2 間	須、鉄、支、土、石、粘土
5	4-Ⅰ	5.5 × 5.3	28.8	無し	有り（4 隅）	有り	－	【N-122°-E】	－	コの字。円形土坑伴う	拡張前	2 間×2 間	
6	5	2.4 ×ー	【2.7】	有り	無し	無し	－	【N-115°-E】	B-Tm：外周溝	コの字？	1/2 残存。焼失家屋	－	須恵器
7	6	6.56 × 5.0	24.8	一巡	有り（4 隅）	有り	粘土	N-128°-E	B-Tm：竪穴部炭化物の上、外周溝	コの字。西端部円形	焼失家屋	1 間×2 間？	須、鉄、土、粘土、礫
8	7-Ⅱ	4.0 × 3.38	11.1	一巡	有り	無し	粘土	N-128°-E	－	J 字状	拡張後：焼失家屋	－	須、鉄
9	7-Ⅰ	－	－	－	－	－	粘土	N-131°-E	－	－	拡張前	－	
10	8	3.66 × 3.26	8.3	有り	無し	無し	－	【N-116°-E】	－	コの字？		－	
11	9-Ⅱ	5.6 × 5.0	23.3	一巡	有り	無し	崩落	【N-118°-E】	B-Tm?：外周溝	コの字。西端部円形	拡張後	－	須、製塩、礫
12	9-Ⅰ	4.0 × 4.0	13.0	一巡	有り（4 隅）	無し	－	【N-118°-E】	－	コの字？	拡張前	－	須恵器
13	10-Ⅱ	7.05 × 6.4	36.0	一巡	有り（4 隅）	有り	粘土。芯材有り	N-130°-E	B-Tm：竪穴部炭化物の上、外周溝	コの字。東端部遺物集中、西端部粘土ﾌﾞﾛｯｸ	拡張後：焼失家屋	2 間×2 間	須、鉄、製塩、土、石、礫
14	11-Ⅰ	－	－	－	有り		火床面残存	N-130°-E	－	コの字。東側楕円形・円形、粘土・焼土・遺物多量	拡張前	－	須、鉄、製塩、土、粘土、礫
15	12	4.5 × 4.3	14.3	一巡	無し	無し	－	【N-116°-E】	－	コの字	SI13 と重複、古い	2 間×2 間	須恵器
16	13	約 5 m？	〈25.3〉	－	有り	－	－	【N-123°-E】	－	コの字	壁柱穴一部。SI12 と重複、新しい	2 間×2 間	須、鉄、製塩、土
17	15	6.3 × 5.75	26.1	一巡	無し	有り	粘土	N-128°-E	B-Tm：竪穴部炭化物の上、外周溝	コの字？西端部遺物集中	焼失家屋	－	須、土、礫
18	16-Ⅲ	6.94 × 6.4	40.9	一巡	有り	有り	火床面残存	N-130°-E	To-a：外周溝、B-Tm：住居検出面・外周溝（分析）	コの字。西側に遺物集中	拡張 2 回目：焼失家屋、排水溝有り	2 間×2 間	須、鉄、製塩、土
19	17-Ⅱ	6.24 × 5.4	29.2	一巡	有り	有り	火床面残存	N-131°-E	－	コの字	拡張 1 回目	Ⅲ期と同じ	須、土、礫
20	20-Ⅰ	5.0 × 4.1	18.1	一巡	無し	有り	火床面残存	【N-114°-E】	－	一部	拡張前	2 間×2 間	
21	18	4.4 × 4.3	16.0	一巡	無し	無し	粘土。芯材有り	N-130°-E	無し ?（分析）	コの字。西側に遺物集中	排水溝有り	1 間×1 間	須、鉄、製塩、支、石、礫
22	19-Ⅲ	－	－	－	－	－	火床面残存	－	To-a、B-Tm：外周溝（分析）	コの字。東端部遺物集中	拡張 2 回目：床面一部	－	須恵器
23	19-Ⅱ	－	【7.7】	－	－	－	火床面残存	【N-116°-E】	－	Ⅲ期と同じ	拡張 1 回目：壁・床面一部	－	須恵器
24	19-Ⅰ	5.0 × 4.9	20.7	一巡	無し	無し	－	【N-122°-E】	－	コの字？		1 間×1 間	礫石器
25	21	－	－	－	－	－	－	－	－	コの字。東側に粘土・焼土・製塩土器多量	竪穴部削平、外周溝のみ	－	製塩土器、土製品

・壁柱穴欄の（4 隅）は壁柱穴が住居の隅にもあるものを表す
・出土遺物欄：須→須恵器、鉄→鉄関連遺物、製塩→製塩土器、支→支脚、粘土→焼成粘土塊、土→土製品、石→石製品、礫→礫石器

1．縄文土器

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
77	1	BSI14	1層	口縁～胴下半	波状口縁、二又状突起、突起部及び口唇部に粘土紐を貼り付け、胸骨文(沈線)、RL	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着
77	2	BSI14	1層	底部	無文、平底	Ⅲ	中期?	鉢
77	3	BSI14	1層	底部	縄文(LR)	Ⅲ	中期後葉	スス状炭付着、鉢
77	4	BSI14	3層	口縁～胴下半	無文、波状口縁	Ⅲ	中期?	焼成良好、小型鉢
77	5	BSI14	3層	略完形	平口縁、無文	Ⅲ	中期?	鉢
77	6	BSI14	床面、掘方埋土:7層	底部	あげ底、RL	Ⅲ	円筒上層系?	
77	7	BSI14	1･3層、掘方埋土:5層	完形	波状口縁、突起部に粘土紐の貼付、無節(L)	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着、鉢
77	8	BSI14	1・3層	底部	複節(LRL)	Ⅲ	中期後葉?	
77	9	BSI14	1・3層	胴	複節(LRL)地に弧状沈線	Ⅲ	榎林式	
78	1	BSI14	3層	口縁	波状口縁、突起部に粘土紐、口唇部に撚糸圧痕、RL	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着
78	2	BSI14	3層	口縁	波状口縁、突起部に粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着、78－3と同一個体
78	3	BSI14	1層	口縁	波状口縁、突起部に粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着、78－2と同一個体
78	4	BSI14	1層	口縁	口縁に突起部、RL	Ⅲ	円筒上層e式	
78	5	BSI14	3層	口頸	地文縄文に横位・斜位の沈線、RL	Ⅲ	円筒上層e式	
78	6	BSI14	2層	口縁	平口縁、口唇部に円形の粘土紐と撚糸圧痕、横位沈線、RL	Ⅲ	円筒上層e式	
78	7	BSI14	1層	口縁	平口縁、地文縄文に横位・弧状の沈線	Ⅲ	円筒上層e式	
78	8	BSI14	3層	口縁	平口縁、口唇部に縦位の粘土紐と撚糸圧痕、地文縄文に横位の沈線、RL	Ⅲ	円筒上層e式	
78	9	BSI14	1層	口縁	平口縁、口唇部に撚糸圧痕、地文縄文に横位の沈線、LR	Ⅲ	円筒上層e式	
78	10	BSI14	1・3層	口縁	波状口縁、口唇部連続の短沈線、地文縄文に横位・弧状の沈線、RL	Ⅲ	榎林式	
78	11	BSI14	1層	胴	地文縄文に斜位・縦位の沈線	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着
78	12	BSI14	1・3層	胴	地文縄文に縦位・弧状の沈線、LRL	Ⅲ	榎林式	
78	13	BSI14	1層	胴	弧状の粘土紐、長楕円形の磨消縄文(充填技法)	Ⅲ	最花式?	
78	14	BSI14	1層	胴	地文縄文に横位・弧状の沈線	Ⅲ	榎林式	
78	15	BSI14	3層	口縁	平口縁、口唇部に撚糸圧痕、RL	Ⅲ	円筒上層e式	
78	16	BSI14	3層	胴	地文縄文に弧状の沈線、LRL	Ⅲ	榎林式	
78	17	BSI14	3層	口頸	縄文、LRとRL	Ⅲ	中期後葉	
78	18	BSI14	3層	頸	横位の粘土紐、RL	Ⅲ	榎林式	壷?
78	19	BSI14	1・3層	胴	縄文(LRL)、沈線	Ⅲ	中期後葉	スス状炭付着
78	20	BSI14	1層	口縁	平口縁、縄文(RL)	Ⅲ	中期後葉	スス状炭付着
78	21	BSI14	1・3層	胴	縄文、RL	Ⅲ	中期後葉?	スス状炭付着
78	22	BSK89	2層	胴	縄文(RL)	Ⅲ	中期	
79	1	BSR1	1層	胴～底部	胴部下半に横位の粘土紐を巡している	Ⅳ	前十腰内I式	
79	2	BSX3	Ⅱ層	口～胴部	平口縁、無文、整形が粗い	Ⅳ	十腰内I式	焼成不良
79	3	BSX4	4層	胴部	RLの縄文地に横位・斜位撚糸痕、縦位撚絡文	Ⅳ	前十腰内I式	牛ヶ沢式?
80	1	ED－240	Ⅲ層	口頸	一条の横位粘土紐、上面に撚糸圧痕、横位の絡条体	Ⅱ	円筒下層a式	
80	2	DB－231	表土	口頸	一条の横位粘土紐、上面に連続の原体末端圧痕、RL	Ⅱ	円筒下層a式	
80	3	CK－224	堆積土	口頸	一条の横位粘土紐、上面に竹管状圧痕、RLR	Ⅱ	円筒下層a式	平BSI4SD2南出土
80	4	調査区西側	Ⅰ層	口頸	一条の横位粘土紐、上面に連続の竹管状圧痕、撚紋	Ⅱ	円筒下層a式	
80	5	DI－226	表土	口頸	一条の横位粘土紐、上面に撚糸圧痕、絡条体	Ⅱ	円筒下層a式	
80	6	DG－227	堆積土	口縁	平口縁、口唇部上面原体末端圧痕、絡条体	Ⅱ	円筒下層a式	平BSI13SD1出土
80	7	CH－222	Ⅰ層	口頸	一条の横位粘土紐、上面に撚糸圧痕、RLR	Ⅱ	円筒下層a式	
80	8	DB－224	表土	口頸	一条の横位粘土紐、上面に撚糸圧痕、絡条体	Ⅱ	円筒下層a式	
80	9	FC－252	Ⅱ・Ⅲ層	口縁	平口縁、一条の横位粘土紐、上面に撚糸圧痕、絡条体、補修孔	Ⅱ	円筒下層a式	
80	10	DQ－237	Ⅱ層	口頸	一条の横位粘土紐	Ⅱ	円筒下層a式	外面剥落顕著
80	11	CM－218	Ⅲ層	口頸	一条の横位粘土紐、上面に撚糸圧痕、縄文LR	Ⅱ	円筒下層a式	
80	12	DE－230	表土	口縁	平口縁、一条の横位粘土紐、上面に撚糸圧痕、絡条体	Ⅱ	円筒下層a式	
80	13	DB－223	表土	口頸	一条の横位粘土紐、上面に撚糸圧痕、絡条体	Ⅱ	円筒下層a式	
80	14	EE－242	Ⅲ層	口頸	一条の横位粘土紐、上面に撚糸圧痕、縄文	Ⅱ	円筒下層b式	
80	15	CR－227	堆積土	口頸	一条の横位粘土紐、横位に絡条体	Ⅱ	円筒下層b式	外面剥落顕著、平BSD1出土
80	16	ED－243	Ⅲ層	口縁	平口縁、横位に絡条体	Ⅱ	円筒下層b式	
80	17	CP－216	Ⅱ層	口縁	平口縁、横位に絡条体	Ⅱ	円筒下層b式	
80	18	CK－215	Ⅰ層	口縁	平口縁、横位に絡条体	Ⅱ	円筒下層b式	

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
80	19	EA−235	Ⅲ層	口縁	平口縁、横位に絡条体、縦位の撚糸圧痕	Ⅱ	円筒下層b式	
80	20	DI−236	堆積土	口縁	平口縁、口唇部上面に縄文、補修孔	Ⅱ	円筒下層b式	平BSI10SD1出土
80	21	ER−249	Ⅰ層	口縁	平口縁、口唇部の上面に撚糸圧痕、横位の絡条体	Ⅱ	円筒下層b式	
80	22	EH−245	Ⅰ層	口頸	一条の横位粘土紐、粘土紐の上面に原体末端圧痕、縦の絡条体	Ⅱ	円筒下層b式	
80	23	CS−220	Ⅰ層	口縁	平口縁、横位に絡条体	Ⅱ	円筒下層b式	
80	24	CP−222	表土	胴	複節	Ⅱ	円筒下層b式	
80	25	DG−235	堆積土	口縁	波状口縁、口唇部に縄文、横位に粘土紐	Ⅱ	円筒下層b式	平BSI10SD1出土
80	26	DE−214	Ⅲ層	口縁	平口縁、横位に絡条体	Ⅱ	円筒下層b式	
80	27	CE−212	5層	口縁	平口縁、横位に絡条体・複節RLR	Ⅱ	円筒下層b式	平BSI2出土
80	28	DJ−227	堆積土	胴	縄文(RL)	Ⅱ	円筒下層b式	平BSI12出土
80	29	DA−223	Ⅰ層	口縁	平口縁、口縁部に横位方向の絡条体、胴部に結束のみられない羽状縄文	Ⅱ	円筒下層b式	
80	30	CS−224、CT−221	堆積土	口縁	平口縁、口縁部に横位方向の絡条体、胴部に羽状縄文	Ⅱ	円筒下層d式	平BSD11出土
80	31	FA−250	Ⅱ層	口縁	平口縁、横位方向の絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	平BSK11出土
80	32	CK−221	堆積土	口縁	平口縁、一条の横位粘土紐、口縁部に絡条体、胴部にRL	Ⅱ	円筒下層d式	
80	33	DR−238	Ⅱ層	口縁	平口縁、口唇部寄りに撚糸圧痕、口縁部に横位方向の絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	
80	34	CK−218	Ⅰ層	口縁	平口縁、区画帯に竹管連続圧痕、口縁部に縦の撚糸圧痕、横位方向に絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	
80	35	DR−238	Ⅲ層	口縁	平口縁、口唇部に撚糸圧痕、口縁部に横位方向の絡条体、円形の貫通坑	Ⅱ	円筒下層d式	
80	36	DD−230	表土	口縁	平口縁、区画に一条の横位粘土紐、口縁部に縦位の撚糸圧痕と横位の絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	
80	37	EN−248	Ⅰ層	口縁	波状口縁、口唇部に撚糸圧痕、口縁部に横位の絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	
80	38	CD−212	Ⅲ層	口頸	区画に連続竹管、胴部に絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	
80	39	CF−222	Ⅰ層	口縁	波状口縁、区画に一条の粘土紐、上面に連続刺突、横位方向に絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	
81	1	CD−230	Ⅰ層	口縁	平口縁、区画に一条の粘土紐、上面に撚糸圧痕、口縁部に絡条体、胴部にLR	Ⅱ	円筒下層d式	スス状炭付着
81	2	EE−243	Ⅰ層	口縁	平口縁、口唇部上面に縄文、区画に一条の粘土紐、口縁部に横位の絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	
81	3	CL−239	Ⅲ層	口縁	平口縁、口縁部に横位の絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	
81	4	DG−232	Ⅰ層	口縁	平口縁、区画に一条の粘土紐、口縁部に横位の絡条体、胴部RLR	Ⅱ	円筒下層d式	スス状炭付着
81	5	CH−215	Ⅰ層	口縁	波状口縁、区画に一条の粘土紐、上面に連続竹管、口縁部に縦位の撚糸圧痕と横位の絡条体	Ⅱ	円筒下層d式	
81	6	CF−212	Ⅰ層	口頸	区画に連続竹管、口縁部に横位の絡条体、胴部にRL	Ⅱ	円筒下層d式	スス状炭付着
81	7	CH−214	Ⅰ層	口縁	平口縁、口唇部寄りと区画に一条の粘土紐、口縁部にLRと横位方向の綾絡文	Ⅱ	円筒下層d式	
81	8	FD−251	Ⅱ層	口頸	横位方向に展開する絡条体、区画に円形刺突	Ⅱ	円筒下層d式	
81	9	DA−224	Ⅰ層	胴	縄文(LR)	Ⅱ	円筒下層d式	
81	10	EA−238、EB−237	1・3層	胴	縄文(LR)	Ⅱ	円筒下層d式	外面剥落顕著。平BSI18出土
81	11	DA−223	Ⅰ層	胴	縄文(LR)	Ⅱ	円筒下層d式	
81	12	DA−223	Ⅰ層	胴	縄文(RLR)	Ⅱ	円筒下層d式	
81	13	CH−215	Ⅰ層	胴	絡条体(斜位方向)	Ⅱ	円筒下層d式	
81	14	CT−229	表土	胴	絡条体、(縦位方向)	Ⅱ	円筒下層d式	
81	15	DE−230	表土	胴	縄文(RLR)	Ⅱ	円筒下層d式	スス状炭付着
81	16	CR−221	Ⅰ層	胴	木目状撚糸文	Ⅱ	円筒下層d式	
81	17	CT−224	Ⅰ層	胴	木目状撚糸文	Ⅱ	円筒下層d式	
81	18	CQ−222	Ⅰ層	胴	木目状撚糸文	Ⅱ	円筒下層d式	
81	19	FA−250	Ⅰ層	口縁	波状口縁、縦位の粘土紐、(剥落)、横位方向の絡条体	Ⅲ	円筒上層a式	
81	20	EE−241	Ⅰ層	口頸	横位・斜位粘土紐、上面に撚糸圧痕、横位方向の絡条体	Ⅲ	円筒上層a式	
81	21	EO−248	Ⅰ層	口縁	平口縁、口唇部に撚糸圧痕、横位・斜位の撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	
81	22	EO−250	Ⅰ層	口縁	波状口縁、斜位の粘土紐上面に縄文、横位の撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	スス状炭付着
81	23	CH−216	Ⅰ層	口縁	波状口縁、弧状の粘土紐上面に縄文、斜位の撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	スス状炭付着
81	24	DG−235	堆積土	口縁	平口縁、口唇部に撚糸圧痕、口縁部に横位・斜位撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	スス状炭付着、平BSI10Pit1出土
81	25	EM−246・248	Ⅰ層	口頸	斜位粘土紐上面に縄文、斜位撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	
81	26	DH−233	堆積土	口縁	縦位粘土紐、縦位の撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	
81	27	CF−213	Ⅰ層	口縁	斜位粘土紐、上面に縄文、撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	
81	28	DK−226	表土	口縁	波状口縁、口唇部に撚糸圧痕、縦位粘土紐	Ⅲ	円筒上層a式	
81	29	FD−254	Ⅰ層	口頸	横位・弧状撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	スス状炭付着

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
81	30	DG−232	表土	口頸	横位・弧状粘土紐、上面に縄文、0段多条	Ⅲ	円筒上層a式	
81	31	DD−231	表土	口縁	口縁、二又状突起、横位・斜位撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	
81	32	DA−223	Ⅰ層	口頸	横位・縦位の粘土紐、上面に縄文	Ⅲ	円筒上層a式	
81	33	DI−236	表土	口縁	斜位・弧状撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	
81	34	EL−248	Ⅰ層	口頸	一条の横位粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層a式	
81	35	EP−249	Ⅰ層	口頸	一条の横位粘土紐、RL、撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	
81	36	CS−226	Ⅰ層	口頸	横位の粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層a式	
81	37	DD−229	表土	口頸	横位・斜位の撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	
82	1	DG・DH−229	堆積土	口縁	平口縁、横位・弧状粘土紐、爪形撚糸圧痕、羽状縄文	Ⅲ	円筒上層b式	ススス状炭付着、平BSI13SD1出土
82	2	CR−227	Ⅰ層	口縁	波状突起部、横・縦位粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	3	CR−222	Ⅰ層	口縁	波状口縁、斜位・弧状粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	4	CR−227	堆積土	口縁	波状口縁、弧状粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	平BSD1出土
82	5	CR−227	Ⅰ層	口縁	波状口縁、横位・弧状粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	6	CC−212	Ⅰ層	口頸	横位・縦位粘土紐・爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	7	CR−227	堆積土	口頸	横位・斜位粘土紐、爪形撚糸圧痕、縄文RL	Ⅲ	円筒上層b式	平BSD1出土
82	8	CG−211	堆積土	口縁	波状口縁、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	平BSI5出土
82	9	CO−221	表土	口頸	縦位・横位粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	10	DD−222	1層	口縁	波状口縁、二又状突起、横位・斜位粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	11	DB−233	Ⅱ層	口縁	波状口縁、弧状粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	12	DK−231	堆積土	口頸	横位・縦位粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	平BSD10出土
82	13	CR−223	Ⅰ層	口縁	平口縁、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	14	CR−227	Ⅰ層	口頸	横位粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	15	CR−227	Ⅰ層	口縁	波状口縁、斜位・弧状粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	16	DG−235	堆積土	口縁	平口縁、横位・爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層a式	平BSI10出土
82	17	DD−221	表土	口頸	斜位粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	18	EL−247	Ⅰ層	口縁	平口縁、山形状粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	19	CC−214	Ⅰ層	口頸	横位・斜位粘土紐・爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	20	CH−215	Ⅰ層	口頸	横・縦位・弧状粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	21	EN−247	Ⅰ層	口頸	横・縦位粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	22	CR−227	Ⅰ層	口頸	縦位粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
82	23	CQ−212	Ⅱ層	口頸〜胴	横位・縦位粘土紐、末端撚糸圧痕、LR	Ⅲ	円筒上層b式	
82	24	CR−232	Ⅰ層	口頸〜胴	横位粘土紐、爪形撚糸圧痕、LR	Ⅲ	円筒上層b式	
82	25	CR−222	Ⅰ層	口頸〜胴	横位・弧状粘土紐、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	赤色顔料塗布
83	1	DE−224	表土	口頸〜胴	横位連続圧痕(竹管)	Ⅲ	円筒上層c式	
83	2	CR−222	Ⅰ層	口頸	撚糸圧痕、爪形撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層b式	
83	3	CH−213	Ⅰ層	口縁	波状口縁、横位・山形状粘土紐、横位連続圧痕(竹管)	Ⅲ	円筒上層c式	
83	4	CL・CM−221	堆積土	口縁	平口縁、横位・山形状粘土紐、横位連続圧痕(竹管)	Ⅲ	円筒上層c式	平BSI4SD2北出土
83	5	DC−223	表土	口頸	横位粘土紐、粘土紐の脇に沈線、粘土紐の上面に連続圧痕	Ⅲ	円筒上層c式?	
83	6	DI−233	堆積土	口頸	横位粘土紐、粘土紐の上面に連続圧痕	Ⅲ	円筒上層c式?	平BSI11SD1SK1出土
83	7	DA−225	Ⅰ層	口頸	斜位粘土紐、連続圧痕(竹管)、撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層c式	
83	8	CS−224	Ⅰ層	口頸	横位粘土紐、連続圧痕(竹管)、撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層c式	
83	9	CQ−212	Ⅱ層	口頸〜胴	横位連続粘土紐、連続圧痕(竹管)、波状縄文(LR・RL)	Ⅲ	円筒上層c式	
83	10	CH−213	Ⅰ層	口頸	縦位の粘土紐、粘土紐の上面に連続刺突	Ⅲ	円筒上層c式	
83	11	DI−234	堆積土	口頸	横位の粘土紐、脇に一条の沈線、粘土紐の上面に連続圧痕(竹管)	Ⅲ	円筒上層c式?	平BSI11SD1SK1出土
83	12	DH−233	堆積土	口頸	横位の粘土紐、粘土紐上面に連続圧痕(竹管)、縄文(LR)	Ⅲ	円筒上層c式?	平BSI10SD1出土
83	13	DH−233	堆積土	口頸	横位・縦位連続圧痕(竹管)	Ⅲ	円筒上層c式?	
83	14	DE−232	表土	口頸	横位・縦位粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	
83	15	CF−212	Ⅰ層	口縁	山形状粘土紐、R	Ⅲ	円筒上層d式	
83	16	CP−221	表土	口縁	平口縁、横位・山形状粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	
83	17	DB−229	表土	口縁	平口縁、横位・山形状粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	ススス状炭付着
83	18	DP−238	Ⅰ層	口縁	平口縁、横位・山形状粘土紐、粘土紐上面に連続圧痕	Ⅲ	円筒上層d式	
83	19	EB−238	1層	口縁	波状口縁、横位粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	平BSI18SD1出土
83	20	DM−235	Ⅲ層	口縁	波状口縁、斜位・弧状粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	
83	21	DA−242	Ⅱ層	口縁	波状口縁、弧状粘土紐、縄文圧痕、貫通孔	Ⅲ	円筒上層d式	
83	22	BPit88	Ⅰ層	口縁	平口縁、山形状・横位粘土紐、R	Ⅲ	円筒上層d式	
83	23	DG−230	堆積土	口頸	横位・斜位粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	平BSI13SD1出土
83	24	DC−243		口頸	横位・縦位粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	ススス状炭付着
83	25	DM−235	Ⅲ層	胴	横位・斜位粘土紐、羽状縄文	Ⅲ	円筒上層d式	
83	26	DC−243		胴	横位・弧状粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	ススス状炭付着
83	27	CK−217	Ⅲ層	胴	横位粘土紐、縄文	Ⅲ	円筒上層d式	

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
83	28	CN−218	Ⅰ層	胴	斜位・弧状粘土紐、粘土紐上面に連続竹管	Ⅲ	円筒上層c式	
83	29	CT−223	Ⅰ層	口縁	山形状突起、弧状粘土紐、突起部上面に刺突	Ⅲ	大木7b・8a式?	
83	30	ED−240	Ⅲ層	胴	横位・斜位粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	
83	31	DR−238	Ⅲ層	胴	横位・斜位粘土紐、連続圧痕（竹管）撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層c式	
83	32	DQ−236	掘り方埋土	胴	横位・斜位粘土紐	Ⅲ	円筒上層d式	平BSI19Ⅱ期出土
83	33	EE−243	Ⅱ層	口縁	平口縁、口唇部撚糸圧痕、横位粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	スス状炭付着
83	34	ER−248	1層	口縁	斜位の粘土紐	Ⅲ	円筒上層d式	平BSK83出土
83	35	EG−244	Ⅰ層	胴	横位・弧状の粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	
83	36	EM−248	Ⅰ層	口縁	波状口縁、口唇部撚糸圧痕、横位の粘土紐	Ⅲ	円筒上層d式	
83	37	DB−223	表土	口縁	波状口縁の両脇に円形の粘土紐、三角形の粘土紐、人面文様?	Ⅲ	円筒上層e式	
84	1	EA−238	Ⅲ層	口縁	波状口縁、斜位粘土紐、RL、貫通孔	Ⅲ	円筒上層d式	
84	2	DB−245	Ⅱ層	口縁	波状口縁、斜位粘土紐、貫通孔、人面文様?	Ⅲ	円筒上層d式	
84	3	CR−241・242	Ⅱ層	口縁	波状口縁、横位の粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層e式	
84	4	DA−247	Ⅲ層	口縁	波状口縁、横位・斜位粘土紐、裏面人面文様?	Ⅲ	円筒上層d式	スス状炭付着
84	5	DC−235	表土	口縁	波状口縁、縦位・斜位粘土紐、口唇部寄りに撚糸圧痕、人面文様?	Ⅲ	円筒上層d式	スス状炭付着
84	6	CD−214	Ⅲ層	口縁	波状口縁、弧状粘土紐、ボタン状突起、LR	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着
84	7	CJ−213	Ⅰ層	口縁	波状口縁、横位・弧状粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	
84	8	DB−229	堆積土	口縁	波状口縁、山形・弧状粘土紐、RL、貫通孔	Ⅲ	円筒上層d式	平BSI9SD1出土
84	9	DA−246	Ⅲ層	口頸〜胴	縦位・横位粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	
84	10	DE−230	表土	胴	横位・斜位粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	スス状炭付着
84	11	EQ−249	Ⅰ層	口縁	波状口縁、山形状粘土紐、貫通孔	Ⅲ	円筒上層d式	
84	12	DH−206	Ⅰ層	胴	横位粘土紐、LR、RL	Ⅲ	円筒上層d式	スス状炭付着
84	13	CR−222	Ⅰ層	口縁	平口縁、横位・縦位粘土紐	Ⅲ	円筒上層d式	
84	14	EA−238	Ⅲ層	胴	斜位粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	
84	15	DB−246	Ⅱ層	胴	横位粘土紐、LRL	Ⅲ	円筒上層d式	
84	16	調査区西側	Ⅰ層	口縁	波状口縁、斜位粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	上段3〜4トレンチ間
84	17	DJ−231	表土	胴	横位粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	スス状炭付着
84	18	DA−246	Ⅲ層	胴	横位・斜位粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	
84	19	DF−215	Ⅲ層	口縁	平口縁、横位・縦位粘土紐	Ⅲ	円筒上層d式	
84	20	CS−243	堆積土	胴	横位粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	平BSI15SD1出土
84	21	CP−222	表土	胴	縦位・斜位粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d式	スス状炭付着
84	22	DB−224	表土	胴	横位・斜位粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	
84	23	DB−230	Ⅰ層	胴	横位・斜位粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d式	
85	1	DB−228	堆積土	口縁	平口縁、横位粘土紐、LR、口唇部寄りに撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層d式	スス状炭付着、平BSI9SD2出土
85	2	ED−240	Ⅲ層	口縁	波状口縁、突起部に粘土紐、横位沈線	Ⅲ	円筒上層e式	
85	3	DF−214	Ⅲ層	口縁	平口縁、三条の縦位沈線、RL	Ⅲ	円筒上層e式	
85	4	DC−211	Ⅲ層	口縁	波状口縁、二〜三条の斜位沈線、RL	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着
85	5	DB−206	Ⅱ層	口縁	波状口縁、突起部に粘土紐、胸骨文（沈線）	Ⅲ	円筒上層e式	
85	6	DR−238	Ⅱ層	口縁	波状口縁、突起部に粘土紐、斜位沈線、LR	Ⅲ	円筒上層e式	
85	7	CF−213	Ⅰ層	口頸	二条の横位沈線、RL	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着
85	8	CP−222	表土	口縁	波状口縁、二条の横位沈線	Ⅲ	円筒上層e式	スス状炭付着
85	9	DD−233	表土	口縁	波状口縁、突起部に粘土紐、口唇部寄りに撚糸圧痕	Ⅲ	円筒上層d・e式	
85	10	CH−215	Ⅰ層	口縁	平口縁、二条の粘土紐、口唇部寄りに連続撚糸圧痕、RL	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着
85	11	CO−222	Ⅰ層	口縁	平口縁、山形状粘土紐	Ⅲ	円筒上層d・e式	
85	12	DL−207	Ⅰ層	口縁	平口縁、二条の粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着
85	13	CS−224	Ⅰ層	口縁	平口縁、山形状の粘土紐	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着
85	14	CH−215		口縁	平口縁、口唇部寄りに撚糸圧痕、LR	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着
85	15	CJ−213	Ⅰ層	口縁	波状口縁、口唇部寄りに撚糸圧痕、LR	Ⅲ	円筒上層d・e式	
85	16	CM−212		口縁	平口縁、口唇部寄りに撚糸圧痕、LR	Ⅲ	円筒上層d・e式	
85	17	CT−223	表土	口縁	平口縁、口唇部寄りに山形状粘土紐、LRとRLの羽状縄文	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着
85	18	DD−233	表土	口縁	平口縁、口唇部寄りに撚糸圧痕、LR	Ⅲ	円筒上層d・e式	
85	19	CH−215	Ⅰ層	口縁	平口縁、口唇部寄りに撚糸圧痕、LR	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着
85	20	CR−222	Ⅰ層	口縁	平口縁、山形状粘土紐	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着
85	21	DE−211	2層	口縁	平口縁、斜位粘土紐	Ⅲ	円筒上層d・e式	平BSI2SD1出土
85	22	DJ−227	堆積土	口縁	平口縁、山形状粘土紐、LR	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着、平BSI1出土
85	23	CL・CM−222	堆積土	口縁	折返口縁、RL	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着、平BSI4SD2北出土
85	24	CE−212	1層	胴	横位・縦位粘土紐、RL	Ⅲ	円筒上層d・e式	平BSI2出土
85	25	ES−250	Ⅰ層	口頸〜胴	弧状沈線	Ⅲ	榎林式	
85	26	BO−209	Ⅰ層	口縁	波状口縁、口唇部寄りに撚糸圧痕、LRとRL	Ⅲ	円筒上層d・e式	スス状炭付着
85	27	CR−222	Ⅰ層	口縁	折返口縁、地文縄文に円形・弧状文沈線、LR	Ⅲ	榎林式	

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
85	28	CP･CR−222	表土	口縁	波状口縁、地文縄文に円形･弧状文沈線、LR	Ⅲ	榎林式	
86	1	ES−250	Ⅰ層	胴	地文縄文に二条の沈線	Ⅲ	榎林式	
86	2	DH−235	堆積土	胴	地文縄文に二条の弧状文沈線、LR	Ⅲ	榎林式	スス状炭付着、86−3と同一個体、平BSD10出土
86	3	DH−235	堆積土	胴	地文縄文に二条の弧状沈線、LR	Ⅲ	榎林式	86−2と同一個体、平BSD10出土
86	4	DF−224	2層	胴	弧状沈線	Ⅲ	榎林式	スス状炭付着、平BSK64出土
86	5	CA−215	Ⅰ層	口頸	二条の弧状沈線	Ⅲ	榎林式	
86	6	DC−229	表土	胴	二条の弧状沈線	Ⅲ	榎林式	
86	7	CI−215	Ⅰ層	口縁	平口縁、口唇部寄りに一条の横位沈線、二条の弧状沈線、LR	Ⅲ	榎林式	スス状炭付着
86	8	CG−211	堆積土	口縁	波状口縁、三条の縦位沈線、LRL	Ⅲ	最花式	平BSI5出土
86	9	DH−232	堆積土	口頸	横位･弧状文沈線、LR	Ⅲ	榎林式	平BSI11SD1出土
86	10	DB−222	表土	口頸	地文縄文に二条の横位沈線、RL	Ⅲ	榎林式	
86	11	CR−222	Ⅰ層	口縁	波状口縁、口唇部寄りに横位沈線、RLR地に三条の横位沈線	Ⅲ	榎林式	
86	12	DB−229	表土	口頸	横位沈線、LRL	Ⅲ	榎林式	
86	13	DB−223	表土	口縁	波状口縁、二条の縦位沈線、LRL	Ⅲ	榎林式	
86	14	DE−233	表土	口縁	平口縁、縦位･弧状文沈線、RL	Ⅲ	榎林式	
86	15	DL−231	表土	胴	地文縄文に二条の弧状(沈線)RLR	Ⅲ	榎林式	
86	16	CQ−222	Ⅰ層	胴	地文縄文に斜位の沈線	Ⅲ	榎林式	スス状炭付着
86	17	DI−234	堆積土	胴	縦位･弧状と沈線、RL	Ⅲ	榎林式	平BSI11SD1SK1出土
86	18	ET−243	Ⅱ層	胴	弧状沈線、LR	Ⅲ	榎林式	
86	19	CR−225	表土	胴	横位沈線、RLR	Ⅲ	榎林式	
86	20	DR−238	Ⅲ層	胴	三条の弧状沈線、LR	Ⅲ	榎林式	
86	21	DJ−234	堆積土	胴	縦位沈線、R	Ⅲ	榎林式	平BSK44出土
86	22	CP−222	表土	胴	横位･縦位沈線、LRL	Ⅲ	榎林式	
86	23	DT−241	Ⅲ層	胴	二条の斜位(沈線)RL	Ⅲ	榎林式	
86	24	CS−226	堆積土	口頸	二条の横位･斜位(沈線)、RLR	Ⅲ	榎林式	平BSD1出土
86	25	DL−231	表土	胴	斜位･弧状沈線、RLR	Ⅲ	榎林式	
86	26	DH−235	堆積土	胴	斜位沈線、RL	Ⅲ	榎林式	平BSK60出土
86	27	DH−235	堆積土	胴	長楕円形文(磨消縄文)、LR	Ⅲ	最花式	平BSI11カマド付近出土
86	28	CP−223	表土	胴	斜位･弧状文(沈線). RL	Ⅲ	榎林式	
86	29	DR−222	Ⅰ層	胴	弧状文様沈線、RLR	Ⅲ	榎林式	
86	30	DK−232	堆積土	口縁	平口縁、RLR	Ⅲ	榎林式	平BSD10出土
86	31	DR−231	表土	胴	斜位沈線、RL	Ⅲ	榎林式	
86	32	CS−226	堆積土	口縁	折返口縁、RL	Ⅲ	榎林式	スス状炭付着、平BSD1出土
86	33	ES−249	Ⅱ層	口縁	波状口縁、突起部に渦巻き沈線	Ⅲ	榎林式	
86	34	EP−249	Ⅰ層	口縁	波状口縁、口唇部寄りに沈線、LR	Ⅲ	榎林式	
86	35	DI−235	堆積土	口縁	波状口縁、LR	Ⅲ	榎林式	スス状炭付着、平BSK48出土
86	36	CD−213	堆積土	口縁	平口縁、口唇部寄りに一条の沈線	Ⅲ	榎林式	平BSI2SD1出土
86	37	DJ−231	表土	口縁	折返口縁、長楕円形文、円形刺突、RL	Ⅲ	最花式	
86	38	EL−248	Ⅰ層	口縁	波状口縁、二条の連続円形刺突	Ⅲ	最花式	
86	39	EL−248	Ⅰ層	口頸	二条の連続刺突、長楕円形文、RL	Ⅲ	最花式	
87	1	EA−236	Ⅲ層	口縁	一条の横位連続刺突、長楕円形文、LRL	Ⅲ	最花式	
87	2	DL−231	表土	口縁	一条の横位の円形連続刺突、長楕円形文	Ⅲ	最花式	
87	3	ER−247	Ⅰ層	口縁	平口縁、横位の連続刺突	Ⅲ	最花式	
87	4	DL−232	表土	口頸	横位沈線、縦位長楕円形文、円形刺突、RL	Ⅲ	最花式	
87	5	DL−232	表土	口頸	縦位の長楕円形文、連続円形刺突、RL	Ⅲ	最花式	
87	6	CT−215	Ⅰ層	口頸	二条の横位沈線間に円形の連続刺突、LR	Ⅲ	最花式	
87	7	CI−215	Ⅰ層	口縁	平口縁、横位沈線と連続刺突	Ⅲ	最花式	
87	8	EM−248	Ⅰ層	胴	横位の連続刺突、縦位の長楕円形文、RL	Ⅲ	最花式	スス状炭付着
87	9	EQ−249	Ⅰ層	口縁	平口縁、横位の連続刺突、RL	Ⅲ	最花式	
87	10	CN−218	Ⅰ層	胴	縦位･長楕円形文、刺突	Ⅲ	最花式	
87	11	CT−223	表土	口頸	横位と長楕円形文、刺突、RL	Ⅲ	最花式	
87	12	CS−229	表土	胴	三条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	
87	13	DR−238	Ⅲ層	胴	三条の縦位沈線、0段多条	Ⅲ	最花式	
87	14	DG−236	3層	胴	二条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	スス状炭付着、平BSI10SD1出土

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
87	15	CS−221	Ⅰ層	胴	二条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	
87	16	ER−249	Ⅰ層	胴	三条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	
87	17	CS−221	Ⅰ層	胴	二条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着
87	18	DG−221	表土	胴	三条の縦位沈線、LR	Ⅲ	最花式	
87	19	DQ−236	Ⅲ層	胴	三条の縦位沈線、LR	Ⅲ	最花式	
87	20	DI−234	堆積土	胴	二条の縦位沈線、LR	Ⅲ	最花式	平BSI10SD1出土
87	21	CQ−221	表土	胴	二条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	
87	22	EL−248	Ⅰ層	胴	三条の楕円形文、RL	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着
87	23	BG−232	表土	胴	二条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着
87	24	DP−231	Ⅰ層	胴	二条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	
87	25	CS−242	1層	胴	三条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着、平BSI15出土
87	26	DK−231	表土	胴	二条の縦位沈線、LR	Ⅲ	最花式	
87	27	調査区西側	Ⅰ層	胴	二条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着
87	28	CR−222	Ⅰ層	胴	三条の縦位沈線、LR	Ⅲ	最花式	
87	29	DJ−234	表土	口頸	二条の横位沈線、LR	Ⅲ	最花式	
87	30	CF−215	Ⅰ層	口縁	平口縁、二条の縦位沈線、LR	Ⅲ	最花式	
87	31	CS−227	表土	胴	二条の縦位沈線間に連続刺突、RL	Ⅲ	最花式	
87	32	DA−231	表土	胴	直線状の磨消縄文、(充填技法)、LR	Ⅲ	大木10式併行期	
87	33	DI−226	表土	胴	縦位沈線、LRL	Ⅲ	最花式	
87	34	CN−240	Ⅲ層	胴	縦位沈線、LR	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着
87	35	CS−226	堆積土	胴	弧状文、RL	Ⅲ	最花式	平BSD1出土
87	36	DI−226	表土	口縁	平口縁、山形文、LR	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着
87	37	FB−250	Ⅱ層	口頸	弧状文、RL	Ⅲ	最花式	
87	38	DA−232	表土	胴	長楕円形文、RL	Ⅲ	最花式	
87	39	CQ−221	表土	胴	長楕円形文、LR	Ⅲ	最花式	
87	40	DC−231	表土	胴	斜位の長楕円形文、RL	Ⅲ	最花式	
87	41	EC−241	1層	口縁	平口縁、長楕円形文、RL	Ⅲ	最花式	平BSK69出土
87	42	CP−222	表土	胴	弧状の磨消縄文(充填技法)、RL	Ⅲ	大木10式併行期	ススス状炭付着
87	43	DB−228	表土	胴	横位と弧状文、RL	Ⅲ	最花式	
88	1	EC−239	1・2層	口縁	平口縁、無文	Ⅲ	最花式	平BPit63出土
88	2	CA−215	Ⅰ層	口縁	波状口縁、二条の縦位沈線、RL	Ⅲ	最花式	
88	3	CO−222	Ⅰ層	口縁	縦位・楕円形文、RL	Ⅲ	最花式	
88	4	DJ−226	表土	胴	長楕円形文と渦巻文、LR・RL	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着
88	5	EL−248	Ⅰ・Ⅲ層	口縁	波状口縁、無文、ミガキ(?)	Ⅲ	最花式	
88	6	DK−231	表土	口縁	平口縁、無文、ミガキ(?)	Ⅲ	最花式	
88	7	DC−228	表土	口頸	LR、無文部ミガキ(?)	Ⅲ	最花式	
88	8	EJ−249	風倒木	口縁	平口縁、無文部、ミガキ(?)	Ⅲ	最花式	
88	9	CP−222	表土	口縁	平口縁、無文	Ⅲ	最花式	
88	10	DI−234	3層	口縁	無文	Ⅲ	最花式	平BSI10SD1出土
88	11	CI−214	Ⅰ層	口頸	無文	Ⅲ	最花式	
88	12	DF−235	底面	口縁	平口縁、無文	Ⅲ	最花式	平BSI11SD1出土
88	13	FA・FB−250	Ⅱ・Ⅲ層	口縁	平口縁、二条の縦位沈線と長楕円形文、RL	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着
88	14	EH−245	Ⅰ層	底辺部	縦位沈線	Ⅲ	最花式	
88	15	DB−228	表土	口縁	平口縁、無文部、ミガキ?とLR	Ⅲ	最花式	
88	16	BP−209	Ⅰ層	口縁	平口縁、RLR	Ⅲ	最花式	ススス状炭付着
88	17	EE−246	2層	胴	無文	Ⅲ	最花式	SK94出土
88	18	CM−221	Ⅰ層	口縁	平口縁、磨消縄文、器表裏面に鰭状突起	Ⅲ	大木10式併行期	
88	19	FA−250	Ⅲ層	口縁	平口縁、地文縄文にJ字状文、RL	Ⅲ	大木10式併行期	ススス状炭付着
88	20	CR−225	表土	胴	地文縄文に弧状沈線、RL	Ⅲ	大木10式併行期	
88	21	FB−250	Ⅱ層	胴	地文縄文に弧状文、RL	Ⅲ	大木10式併行期	ススス状炭付着
88	22	DH−234	堆積土	胴	磨消縄文、RL	Ⅲ	大木10式併行期	ススス状炭付着、平BSI10出土
88	23	DR−236	2層	口頸	地文縄文に弧状文、RL	Ⅲ	大木10式併行期	平BSI19SD1出土
88	24	DJ−231	表土	口縁	地文縄文に弧状文、横の綾絡文	Ⅲ	大木10式併行期	
88	25	BT−212	Ⅰ層	口縁	折返口縁、縦位弧状沈線、RL	Ⅲ	大木10式併行期	ススス状炭付着
88	26	DC−231	表土	胴	地文縄文に縦位弧状文、連続刺突、RL	Ⅲ	大木10式併行期	
88	27	DJ−231	表土	胴	地文縄文に弧状文、LR	Ⅲ	大木10式併行期	
88	28	DS−240	Ⅲ層	口頸	指頭による粘土のまくれあり、RL	Ⅲ	大木10式併行期?	ススス状炭付着
88	29	DR−231	表土	胴	磨消縄文(充填技法)、RL	Ⅲ	大木10式併行期	
88	30	CT−226	表土	胴	磨消縄文、横位の連続刺突	Ⅲ	大木10式併行期	ススス状炭付着
89	1	EE−240	Ⅲ層	完形	波状口縁、無節、渦巻き沈線、磨消縄文	Ⅳ	前十腰内I式	ススス状炭付着
89	2	DE・DF−234	表土	口縁	平口縁、横位文様(磨消縄文)、RL	Ⅳ	前十腰内I式	ススス状炭付着

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
89	3	DM−235	1層	平底	平口縁、無文	Ⅳ	後期前葉	B平BSK79出土、鉢
89	4	EF−238	堆積土	底部	無文、あげ底	Ⅳ	後期前葉	平BSI16Pit7出土、鉢
89	5	EC−237	焼土	底部	無文、平底	Ⅳ	後期前葉	平BSI18出土
89	6	FA−250	Ⅲ層	口頸	波状口縁、沈線と刺突文、橋状把手	Ⅳ	十腰内I式	壷
89	7	DG−234	2層	胴	横位弧状文(磨消縄文)、RL	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI10出土
89	8	ES−248	1層	口縁	平口縁、横位・山形状文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	平BSK82出土
89	9	CK−222〜224	堆積土	口縁	波状折返口縁、突起部に刺突、横位・弧状文(磨消縄文)、充填技法(RL)	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI4SD2出土、壷
89	10	DF−233・234	表土	口縁	折返口縁、口縁部に縄文(RL)、横位(沈線)	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着
89	11	DD−237	Ⅰ層	口縁	波状口縁、突起の垂下部に縦位の粘土紐、上面に連続刺突	Ⅳ	前十腰内I式	
89	12	DG−237	表土	口縁	平口縁、横位沈線、RL	Ⅳ	前十腰内I式	
89	13	DH−226・227	Ⅰ層	口縁	平口縁、帯状文(RL)	Ⅳ	前十腰内I式	
90	1	DD−237	Ⅰ層	口縁	折返口縁、折返部位に縄文(RL)	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着
90	2	DD−237	Ⅰ層	口縁	波状口縁、地文縄文に横位沈線(LR)	Ⅳ	前十腰内I式	
90	3	DH−233	堆積土	口縁	折返口縁、地文縄文に二条横位沈線(RL)	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着
90	4	DD−237	Ⅰ層	口縁	折返口縁、折返部位に縄文(RL)	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着
90	5	DD−237	表土	口縁	折返口縁、横位・縦位(沈線)、RL	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着
90	6	EC−241	1層	胴	横位・縦位の粘土紐、上面に縄文(RL)	Ⅳ	前十腰内I式	平BSK69出土
90	7	DG−232	表土	口縁	折返口縁、折返部位に縄文(RL)	Ⅳ	前十腰内I式	
90	8	CH−213	Ⅰ層	口頸	地文縄文に弧状の沈線	Ⅳ	前十腰内I式	
90	9	DB−235	表土	胴	突起部に貫通孔	Ⅳ	前十腰内I式	内外面に黒色物質塗布?、釣手土器
90	10	DG−234	堆積土	胴	二条の横位沈線	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI10出土、浅鉢
90	11	DF−236、DI−234	表土、 3層	口頸	帯縄文(磨消縄文)、充填技法	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI10SD1出土、壷
90	12	DC−236	3層	胴	円形・弧状文(隆沈線)	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着、平BSI10SD1出土
90	13	CR−227	Ⅰ層	胴	横位・弧状の粘土紐、上面に縄文(RL)	Ⅳ	前十腰内I式	
90	14	DH−235	堆積土	胴	弧状文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI11カマド付近出土
90	15	DD−237	Ⅰ層	胴	弧状文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	
90	16	DH−234	3層	胴	横位・弧状文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI10出土
90	17	ED−236	底面	胴	弧状文(磨消縄文)、LR	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI16SD1出土
90	18	DG−236	3層	胴	斜位状文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI10SD1出土
90	19	DD−237	Ⅰ層	胴	帯縄文(RL)、充填技法	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着
90	20	DC−237	表土	胴	横位・斜位状文(磨消縄文)、LR、、充填技法	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着、平BSI10出土
90	21	DG−235	3層	胴	弧状文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI10出土
90	22	DJ−234	表土	口頸	帯縄文(磨消縄文)、充填技法、RL	Ⅳ	前十腰内I式	
90	23	DI−233	堆積土	口頸	鍵状文(磨消縄文)、RL	Ⅳ	前十腰内I式 前十腰内I式	平BSI11SD1SK1出土
90	24	DF−237	堆積土	胴	弧状文(磨消縄文)、RL	Ⅳ	前十腰内I式	平BSD10出土
90	25	DC−219	Ⅲ層	胴	横位・縦位状文(磨消縄文)、充填技法、RL	Ⅳ	前十腰内I式	
90	26	CM−239	Ⅲ層	胴	帯縄文、(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	
90	27	DF−233	表土	胴	弧状文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	
90	28	DD−237		胴	鍵状文(磨消縄文)、充填技法、(RL)	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着
90	29	DG・DH−236	Ⅱ層	胴	帯縄文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	器内面に黒色物質塗布?
90	30	ES−248	Ⅰ層	胴	帯縄文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	
90	31	CO−215	貼り床埋土	胴	弧状文(磨消縄文)、充填技法、RL	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI1出土
90	32	DD−236	表土	胴	帯縄文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	
90	33	DF−236	堆積土	胴	帯縄文(磨消縄文)、充填技法、RL	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着、平BSI10SD1出土
90	34	DG−236	3層	胴	横位隆沈線、粘土紐の上面、RL	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI10SD1出土
90	35	EN−248	Ⅰ層	胴	弧状文(磨消縄文)、充填技法	Ⅳ	前十腰内I式	
90	36	DF−234	底面	胴	帯縄文(磨消縄文)、LR	Ⅳ	前十腰内I式	内面黒色物質塗布?、平BSI11SD1出土
90	37	BG−208	カクラン	胴	弧状文(磨消縄文)、撚糸文	Ⅳ	前十腰内I式	スス状炭付着
90	38	DG−235	3層	胴	過巻文(磨消縄文)、LR	Ⅳ	前十腰内I式	内面スス状炭付着、平BSI10出土

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
91	1	DB−222	表土	胴	地文縄文に沈線	Ⅳ	前十腰内I式	
91	2	調査区西側	Ⅰ層	胴	地文縄文に縦位沈線、複節?	Ⅳ	前十腰内I式	
91	3	DJ−233	表土	胴	帯縄文(磨消縄文)、RL	Ⅳ	前十腰内I式	
91	4	DD−237	Ⅰ層	胴	弧状文、LR、RL	Ⅳ	前十腰内I式	
91	5	DJ−230	表土	口頸	地文縄文に横位沈線、RLR	Ⅳ	前十腰内I式	
91	6	EE−235	1層	胴	斜位状文(磨消縄文)、充填技法、RL	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI16SD1出土
91	7	CC−214	Ⅰ層	胴	斜位状文(磨消縄文)、充填技法、RL	Ⅳ	前十腰内I式	
91	8	DG･DH−234･235	堆積土	胴	帯縄文(磨消縄文)、充填技法、LR	Ⅳ	前十腰内I式	内面に黒色物質塗布?、平BSI10出土
91	9	EB−236	1層	口縁	波状口縁、突起頂端部に圧痕、渦巻き文(磨消縄文)	Ⅳ	前十腰内I式	平BSI18SD1出土
91	10	CM−239	Ⅲ層	口縁	波状口縁、横位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	11	FC−251	Ⅰ層	口縁	平口縁、横位・斜位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	12	DD−222	Ⅱ層	口縁	平口縁、横位・弧状の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	13	FB−251	Ⅰ層	口縁	平口縁、横位・斜位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	14	DD−222	Ⅱ層	口縁	波状口縁、横位・斜位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	ススス状炭付着
91	15	DE−223	表土	口縁	波状口縁、楕円形文・弧状文の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	16	DD−222	Ⅱ層	口縁	波状口縁、波状突起部刻み、横位・斜位沈線	Ⅳ	十腰内I式	ススス状炭付着
91	17	DG−224	表土	口縁	波状口縁、横位に展開する入組文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
91	18	DC−232	表土	口縁	波状口縁、波状の突起部に指頭圧痕、横位・楕円形文(磨消縄文)、充填技法	Ⅳ	十腰内I式	
91	19	EH−245	Ⅰ層	胴	横位の長方形文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
91	20	DD−222･DC−221	Ⅱ層	胴	横位・弧状文の沈線	Ⅳ	十腰内I式	ススス状炭付着
91	21	FC−251	Ⅰ層	口縁	平口縁、三条の横位沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	22	EB−237	3層	口縁	平口縁、横位の楕円形文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	平BSI18出土
91	23	DD−222	Ⅱ層	口縁	平口縁、横位・弧状文の沈線、補修孔	Ⅳ	十腰内I式	
91	24	ET−248	1層	口縁	波状口縁、横位・縦位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	ススス状炭付着、平BSD13出土
91	25	DD−222	Ⅱ層	胴	横位・斜位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	26	DG−233	表土	胴	横位・斜位・弧状の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	27	DE−223	表土	口縁	平口縁、横位の楕円形文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
91	28	ET−248	1層	胴	横位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	平BSD13出土
91	29	DS−234	堆積土	胴	横位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	平BSI10出土
91	30	DC−236	3層	胴	縦位・弧状の沈線	Ⅳ	十腰内I式	平BSI10SD1出土
91	31	FA−251	Ⅱ層	胴	三角形文の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	32	ET−248	1層	胴	横位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	平BSD13出土
91	33	BQ−208	カクラン	口頸	円形と楕円形文の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	34	EC−237	3層	胴	横位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	ススス状炭付着、平BSI18出土
91	35	DD−237	表土	胴	弧状粘土紐と沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	36	EM−247	Ⅰ層	口頸	長楕円形文の貼り付け文	Ⅳ	十腰内I式	
91	37	DE−223	表土	口頸	三条の楕円形文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
91	38	DE−223	表土	胴	横位と弧状文の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	39	DE−223	表土	胴	三条の弧状文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
91	40	DD−237	表土	胴	縦位の貼り付けと沈線(隆沈線)	Ⅳ	前十腰内I式	
91	41	DD−237	Ⅰ層	胴	弧状文の沈線	Ⅳ	十腰内I式	ススス状炭付着
91	42	DB−203	表土	胴	斜位状文の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	43	EG−240	Ⅱ層	胴	斜位と横位の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	44	DE−223	表土	胴	横位と弧状の沈線	Ⅳ	十腰内I式	
91	45	DE−223	表土	胴	弧状文の沈線	Ⅳ	十腰内I式	ススス状炭付着
92	1	DE−223	表土	胴	三本を一組とし、横位・弧状文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
92	2	ED−236	風倒木	胴	球根状文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	平BSI16SD1出土
92	3	DE−223	表土	胴	横位及び縦位蛇行文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
92	4	FB−251	Ⅱ層	口頸	横・縦位・蛇行文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
92	5	DE−223	表土	胴	三本を一組とし、横位・弧状文(沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
92	6	EC−237	カクラン	胴	横位蛇行文(櫛歯状沈線)	Ⅳ	十腰内I式	
92	7	CM−239	Ⅲ層	胴	曲根状文(磨消縄文)、RL	Ⅳ	十腰内I式	
92	8	DC−218	Ⅲ層	口頸	横位・弧状文(磨消縄文)、RL	Ⅳ	前十腰内I式	
92	9	CM−239	Ⅲ層	胴	曲根状文様(磨消縄文)、充填技法、RL	Ⅳ	十腰内I式	
92	10	EM−247	Ⅰ層	胴	帯状文(磨消縄文)、LR、充填技法	Ⅳ	十腰内I式	
92	11	DH−232	堆積土	口～胴部	二又状突起、入組文、横位沈線間に列点文、LR	Ⅴ	大洞BC式(上ノ国式?)	ススス状炭付着、平BSI11SD1出土
92	12	DC−235	表土	口～胴部	二又状突起、三又入組文、横位沈線間に列点文、LR	Ⅴ	大洞BC式	ススス状炭付着
92	13	DC−235	表土	口縁	二又状突起、三又入組文、LR	Ⅴ	大洞BC式	ススス状炭付着、92−11と同一個体

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
92	14	DS−242	5層	口縁	平口縁、三条の横位沈線、LR	V	晩期	ススス状炭付着、平BSD23出土
92	15	DG−232	表土	口頸	横位沈線間に列点文、LR	V	大洞BC式	ススス状炭付着
92	16	DG−234	堆積土	胴	縄文(LR)	V	晩期	ススス状炭付着、平BSI10SD1出土
92	17	DG−229	堆積土	口縁	平口縁、三条の横位沈線、RL	V	晩期	平BSI13SD1出土、鉢
92	18	DG−234	堆積土	口縁	平口縁、縄文、LRとRL	V	晩期	平BSI10SD1出土
92	19	DI−235	堆積土	口縁	平口縁、縄文(RL)	V	晩期	ススス状炭付着、平BSI10SD1出土
92	20	DC−230	Ⅱ層	口縁	平口縁、縄文(RL)	V	晩期	ススス状炭付着
92	21	DC−235	表土	胴	縄文(RL)	V	晩期	ススス状炭付着
92	22	DG−236	3層	口縁	平口縁、縄文(RL)	V	晩期	平BSI10SD1出土
92	23	DG−233	底面	胴	縄文(RL)	V	晩期	平BSI10SD1出土
92	24	DC−235	表土	胴	縄文(RL)	V	晩期	ススス状炭付着
92	25	DG−229	堆積土	胴	縄文(LR)	V	晩期	平BSI13SD1出土
92	26	A区 BD−212	Ⅱ層	口頸部	突起状貼付、口縁内面に沈線	V	晩期	壺
93	1	DE−231	表土	底辺部	羽状縄文、結束第1種		中期中葉	円筒上層?
93	2	CT−220	Ⅰ層	底辺部	羽状縄文、LR、RL		中期中葉	円筒上層?
93	3	DA−232	Ⅰ層	底辺部	羽状縄文、結束第1種		中期中葉	円筒上層?
93	4	DC−243	堆積土	胴〜底部	羽状縄文、結束第1種		中期中葉	円筒上層?
93	5	DI･DJ−234	堆積土	胴	羽状縄文、(RL)、縦の綾絡文		中期後葉?	平BSK44出土
93	6	DD−233	表土	底部	複節、LRL		中期中葉〜後葉	
93	7	FA−250	Ⅰ層	底部	無文		中期中葉?	
93	8	CR−221	Ⅰ層	口縁	波状口縁、羽状縄文		中期中葉?	ススス状炭付着
93	9	CT−220	Ⅰ層	底辺部	LR、横位の綾絡文		中期中葉?	
93	10	CN−221	Ⅰ層	底部	平底、RL		中期中葉〜後葉	
93	11	DG−236	3層	底部	あげ底、L		中期中葉〜後葉	平BSI10SD1出土
93	12	FC−250	Ⅲ層	胴	縄文(RL)		中期後葉	
93	13	DH−226･227、DM−227	Ⅰ層	口縁	平口縁、縄文(RL)、口唇部上面平坦		中期後葉	
94	1	BT−211	Ⅰ層	口縁	平口縁、RL		中期後葉	ススス状炭付着
94	2	BT−211	Ⅰ層	口縁	平口縁、LR		中期後葉	ススス状炭付着
94	3	BQ−208	カクラン	口縁	平口縁、RL		中期後葉	ススス状炭付着
94	4	BN−208	Ⅰ層	口縁	平口縁、RL		中期後葉	ススス状炭付着
94	5	CF−212	Ⅰ層	口縁	平口縁、RL		中期後葉	
94	6	CT−242	1層	口縁	平口縁、RL		中期後葉	平BSI15出土
94	7	CL−238	Ⅲ層	口縁	波状口縁、LR		中期後葉	
94	8	DR−231	表土	口縁	平口縁、RL		中期後葉	
94	9	CI−215	Ⅰ層	口縁	平口縁、二条の縦位沈線、RL		榎林式?	
94	10	DB−234	表土	口縁	平口縁、RL		中期後葉〜後期前葉	
94	11	CD−223	Ⅰ層	口縁	平口縁、RL		中期後葉	ススス状炭付着
94	12	DK−226	表土	口縁	平口縁、LR		中期後葉	ススス状炭付着
94	13	DC−238	Ⅱ層	口縁	平口縁、無文		中期後葉	
94	14	DK−230	表土	口縁	平口縁、LR		中期後葉	
94	15	DS−242	5層	口縁	平口縁、LR		中期後葉	平BSD23出土
94	16	EA−239	Ⅲ層	口縁	平口縁、LR		中期･後期	
94	17	CR−224	表土	口縁	平口縁、RL、口唇部上面に縄文		中期後葉	
94	18	DB−232	表土	口縁	平口縁、0段多条		中期後葉	
94	19	CP−223	表土	口縁	平口縁、縄文		中期?	
94	20	DB−229	表土	口縁	平口縁、LR		中期後葉	
94	21	EG−244	Ⅰ層	口縁	平口縁、RL		中期後葉	
94	22	EE−242	Ⅰ層	口縁	平口縁、RL		中期後葉	
94	23	FA−251	Ⅱ層	口縁	波状口縁、LR		中期後葉	
94	24	DE−232	表土	口縁	平口縁、RL		中期後葉	
94	25	CS−220	Ⅱ層	口縁	平口縁、RL		中期後葉	ススス状炭付着
94	26	EL･EM−247	Ⅰ層	口縁	平口縁、R		中期後葉	
94	27	DM−235	Ⅲ層	口縁	平口縁、LR		中期後葉	ススス状炭付着
94	28	EF−236	堆積土	口縁	平口縁、RL		中期後葉	ススス状炭付着、平BSI16SD1出土

図	No	出土位置	層位	部位	文様	分類	時期	備考
94	29	CT−241	1層	口縁	平口縁、RL、裏面に一条の沈線		中期後葉	平BSI15出土
94	30	DJ−216	Ⅲ層	口縁	平口縁、LR		中期後葉	ススト炭付着
94	31	CT−241	堆積土	口縁	平口縁、RL		中期後葉	平BSI15出土
94	32	DD−205	表土	胴	撚紋		後期前葉	
94	33	DP−231	Ⅰ層	胴	単軸絡条体(網目状撚糸文)		後期前葉	ススト炭付着
94	34	DP−231	Ⅰ層	底辺部	単軸絡条体(網目状撚糸文)		後期前葉	
94	35	DE−205	表土	胴	撚紋		後期前葉	
94	36	EM−246	Ⅰ層	胴	単軸絡条体(網目状撚糸文)		後期前葉	
95	1	DH−227	Ⅰ層	底部	縄文(RL)、底面に一条の沈線		中期後葉?	
95	2	DA−229	堆積土	底部	縄文(RL)、底面に網代痕		中期中葉〜後葉	平BSI9出土
95	3	CT−231	堆積土	底部	縄文(RLR)、底面に縄文		後期?	
95	4	CQ−212	Ⅱ層	底部	底面に縄文		前・中期?	
95	5	DF−236	表土	底部	底辺部に横位沈線、底面に一条の沈線		後期?	
95	6	CQ−223	Ⅰ層	底部	無文、底面に網代痕		中期?	
95	7	CH−215	Ⅰ層	底部	底面に網代痕		中期?	
95	8	DA−242	Ⅱ層	底部	縄文(LR)、あげ底		中期後葉?	ススト炭付着
95	9	DK−206	Ⅲ層	底部	平底、縄文(RL)		中期?	
95	10	CH−213	Ⅰ層	底辺部	縄文(LR)、あげ底		後・晩期?	
95	11	EJ−247	Ⅰ層	底部	縄文(LR)、あげ底		晩期?	
95	12	DK−230	表土	底辺部	撚紋(R)		中期?	
95	13	EN・EO−248	Ⅰ層	底辺部	底辺部に横位沈線、LRとRL		中期?	
95	14	CS−226	堆積土	底辺部	縄文(RL)		晩期?	平BSD1出土
95	15	DA−232	表土	底辺部	縄文(LR)		晩期?	ススト炭付着
95	16	CP−222	表土	底辺部	無文		中、後期?	
95	17	CR−222	Ⅰ層	底部	縄文(LR)		中期中葉	
95	18	CM−239	Ⅲ層	底部	無文、あげ底		後期?	
95	19	CI−215	Ⅰ層	底部	無文、繊維混入		前期	
95	20	CS−221	Ⅰ層	底部	無文		後・晩期?	小型土器:鉢
95	21	DP−235	底面直上	底部	無文		中期?	平BSI19SD2出土、小型土器:鉢
95	22	CP−222	表土	底部	無文		後期?	内外面赤色顔料塗布
95	23	CO−212	Ⅱ層	胴	羽状縄文		中期中葉:円筒上層系	内面赤色顔料塗布
95	24	DD−238	表土	口縁	平口縁、無文、動物形把手?		後・晩期?	
95	25	DK−231	表土	口縁	山形口縁、内面に半円形隆帯、隆帯に刺突、外面縄文		後・晩期?	
95	26	DF−232	表土	完形	無文		中期?	小型土器:鉢
95	27	CT−238	Ⅲ層	底部	無文		後期?	小型土器
95	28	DP−236	Ⅲ層	底部	無文		後期?	小型土器
95	29	EP−250	Ⅰ層	底部	無文		後期?	小型土器

2．土製品〈縄文〉

図	No	出土位置	層位	種類	規模 mm(長×幅×厚)	文様	時期
95	30	DI－226	表土	円盤状土製品	44.0×44.0×10.0	三条の横位沈線、RL	後期、前十腰内Ⅰ式
95	31	DJ－234	表土	円盤状土製品	38.5×37.5×7.0	RL単節横位→沈線	後期
95	32	DK－231	表土	土製品	58.0×33.5×27.5	側面に沈線巡る、沈線の両側に刺突	後期？
95	33	DJ－226	表土	環状土製品?	43.0×14.0×12.5	表面に粘土貼付、表・側面に縄文	縄文時代晩期か弥生時代

3．弥生土器、続縄文土器

図	No	出土位置	層位	器種	部位	文様	時期	備考
96	1	DH−228	堆積土	壷?	胴	斜位状文(磨消縄文)、RL	弥生	平BSI13SD1出土
96	2	CS−229	堆積土	壷?	胴	横位・斜位状文(磨消縄文)	弥生	平BSI9SD2出土
96	3	CT−220	Ⅰ層	壷?	胴	横位・斜位状文(沈線)	弥生	
96	4	DI−233	堆積土	甕	胴	横位・山形状文(沈線)、縞状縄文	弥生	平BSI11SD1SK1出土
96	5	DI−234	堆積土	甕	胴	縦位の縞状の縄文	弥生	平BSI11SD1SK1出土
96	6	CT−220	Ⅰ層	蓋?		弧状文(磨消縄文)	弥生	
96	7	DC−204	表土	甕	胴	弧状文(磨消縄文)	弥生	
96	8	DH−235	堆積土	甕	胴	縄文、RL	弥生	平BSI11SD1SK1出土
96	9	CT−220	Ⅰ層	甕	胴	帯縄文(LR)	弥生	
96	10	FA−248	Ⅱ層	深鉢	口～胴	波状口縁、帯縄文、微隆起、刻目・刺突	続縄文:後北C2・D式	11と同一個体
96	11	FA−248	Ⅱ層	深鉢	口縁	波状口縁、帯縄文、微隆起、刻目・刺突	続縄文:後北C2・D式	10と同一個体

4．剥片石器

図	No	出土位置	層位	器種	類型	石材	長さmm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	残存部位	備考
97	1	BSI14	3層	石鏃	Ⅱc類	珪質頁岩	35	12	5	2.0	完形	縄文住居跡出土
97	2	BSI14	貼床	石槍	−	珪質頁岩	71	24	11	22.0	完形	縄文住居跡出土
97	3	BSK15	1層	石槍	−	珪質頁岩	85	32	10	24.2	完形	縄文土坑出土
97	4	DI−234	堆積土	石鏃	Ia類	珪質頁岩	25	16	3	1.9	先端部欠損	平BSD10出土
97	5	CR−227	表土	石鏃	Ia類	珪質頁岩	23	17	6	2.3	完形	
97	6	EK−245	Ⅰ層	石鏃	Ia類	珪質頁岩	25	16	4	1.2	完形	装着痕、アスファルト状物質付着
97	7	EN−248	Ⅰ層	石鏃	Ic類	珪質頁岩	41	24	6	5.9	完形	
97	8	DB−224	表土	石鏃	Ia類	珪質頁岩	36	14	5	1.7	完形	
97	9	CF−213	Ⅲ層	石鏃	Ia類	珪質頁岩	35	12	4	1.5	完形	
97	10	CO−215	Ⅳ層	石鏃	Ic類	珪質頁岩	27	13	5	1.8	完形	
97	11	DC−214	Ⅲ層	石鏃	Ic類	珪質頁岩	33	18	6	3.2	完形	
97	12	B区	−	石鏃	Ib類	珪質頁岩	(29)	14	3	1.5	先端部欠損	
97	13	CN−215	2層	石鏃	IIa類	珪質頁岩	42	16	7.5	4.4	茎部欠損	装着痕、アスファルト状物質付着。平BSI1出土
97	14	CK−215	表採	石鏃	IIa類	玉髄	(38)	17	7	3.9	先端部欠損	
97	15	DC−230	表土	石鏃	IIa類	珪質頁岩	37	13	5	1.9	茎部欠損	
97	16	DC−230	表土	石鏃	IIb類	玉髄	23	14	7	1.3	茎部欠損	
97	17	DI−227	堆積土	石鏃	IIb類	珪質頁岩	29	12	45	1.2	完形	平BSI13SD1出土
97	18	DG−230	堆積土	石鏃	IIb類	珪質頁岩	(37)	17	6	3.0	先端部欠損	平BSI13SD1出土
97	19	DJ−234	堆積土	石鏃	IIb類	珪質頁岩	30	13	4	1.2	完形	装着痕、アスファルト状物質付着。平BSK44出土
97	20	DB−222	表土	石鏃	IIc類	珪質頁岩	34	15	6	2.3	茎部欠損	
97	21	EA−243	Ⅱ層	石鏃	IIc類	珪質頁岩	46	14	4	2.1	完形	装着痕、アスファルト状物質付着。平BSX8周辺出土
97	22	DD−204	表土	石鏃	IIc類	珪質頁岩	70	14	10	6.7	完形	装着痕、アスファルト状物質付着
97	23	CM−213	Ⅰ層	石鏃	IIc類	珪質頁岩	(32)	12	5	1.9	茎部欠損	
97	24	CL−224	床直	石鏃	IIc類	珪質頁岩	43	10	7	3.3	完形	平BSI4出土
97	25	CK−215	Ⅰ層	石鏃	IIc類	珪質頁岩	36	15	5	2.1	完形	
97	26	DG−234	堆積土	石鏃	破損	珪質頁岩	25	13	6	1.5	基部欠損	被熱有り。平BSI10出土
97	27	CK−223	Ⅰ層	石槍	−	珪質頁岩	(51)	35	15	24.6	先端部	
97	28	CM−239	Ⅲ層	石槍	−	珪質頁岩	65	24	11	14.3	完形	摩滅・風化有り
97	29	DF−233	堆積土	石槍	−	珪質頁岩	111	40	12	48.4	基部欠損	平BSI11SD1出土
97	30	DE−215	Ⅲ層	石匙	Ⅰ類	珪質頁岩	67	22	8	11.9	先端部欠損	光沢、摩滅・風化有り
97	31	CO−222	Ⅰ層	石匙	Ⅰ類	珪質頁岩	89	21	8	18.2	完形	光沢、摩滅・風化有り
97	32	CE−212	−	石匙	Ⅰ類	珪質頁岩	59	21	5	8.9	完形	光沢、摩滅・風化有り
98	1	B区西側	−	石匙	Ⅰ類	珪質頁岩	74	30	9	16.6	完形	光沢、摩滅・風化有り
98	2	DL−207	Ⅰ層	石匙	Ⅰ類	珪質頁岩	77	22	10	16.7	完形	光沢、摩滅・風化有り
98	3	DG−234	堆積土	石匙	Ⅱ類	珪質頁岩	69	53	11	37.1	完形	光沢有り。平BSI10出土
98	4	DI−236	表土	石匙	Ⅰ類	珪質頁岩	47	24	3	5.8	完形	
98	5	DE−240	2層	石匙	Ⅰ類	珪質頁岩	(24)	(22)	7	4.1	つまみ部	摩滅・風化有り。平BSK76出土

図	No	出土位置	層位	器種	類型	石材	長さmm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	残存部位	備考
98	6	CE−212	5層	石匙	Ⅲ類	珪質頁岩	(26)	(30)	7	4.3	つまみ部	平BSI2出土
98	7	B区西側	−	石匙	Ⅰ類	珪質頁岩	(21)	(23)	7	2.9	つまみ部	摩滅・風化有り
98	8	ED−236	1層	石匙	Ⅲ類	珪質頁岩	57	39	6	9.1	完形	平BSI16SD1出土
98	9	EP−249	Ⅰ層	石匙	Ⅱ類	珪質頁岩	46	71	12	27.9	完形	光沢、装着痕、アスファルト状物質付着
98	10	DJ−235	表土	石匙	Ⅱ類	珪質頁岩	32	43	9	7.8	完形	
98	11	CK−215	Ⅰ層	石匙	Ⅰ類	鉄石英	57	22	18	17.5	完形	
98	12	DH−206	Ⅰ層	石篦	Ⅰ類	珪質頁岩	46	24	5	5.2	完形	
98	13	EO−247	Ⅰ層	石篦	Ⅱ類	珪質頁岩	61	39	21	54.3	完形	
98	14	DR−235	Ⅲ層	石篦	Ⅰ類	珪質頁岩	82	45	15	58.0	完形	
98	15	DD−209	Ⅰ層	石篦	Ⅲ類	珪質頁岩	65	35	13	31.4	完形	光沢、摩滅・風化有り
98	16	DL−233	−	異形石器	−	珪質頁岩	42	13	7	3.6	完形	光沢、摩滅・風化有り
98	17	DL−233	−	異形石器	−	珪質頁岩	38	14	5	4.1	完形	
99	1	FA−249	Ⅰ層	二次調整のある剥片	Ⅰ類	珪質頁岩	57	88	23	98.5	−	
99	2	CG−212	Ⅲ層	二次調整のある剥片	Ⅰ類	珪質頁岩	49	29	11	17.2	−	
99	3	DF−224	2層	二次調整のある剥片	Ⅰ類	珪質頁岩	73	56	20	75.3	−	
99	4	CK−215	Ⅰ層	二次調整のある剥片	Ⅱ類	珪質頁岩	44	54	8	19.1	−	平BSK63出土
99	5	DD−235	表土	二次調整のある剥片	Ⅲ類	珪質頁岩	64	43	14	36.4	−	
99	6	FA−248	Ⅱ層	二次調整のある剥片	Ⅱ類	珪質頁岩	102	58	8	55.2	−	
99	7	DI−235	3層	二次調整のある剥片	Ⅰ類	珪質頁岩	87	24	15	20.0	−	光沢有り。平BSI10SD1SK1出土
99	8	DI−229	−	二次調整のある剥片	Ⅱ類	珪質頁岩	58	37	16	52.7	−	
99	9	CD−212	4層	二次調整のある剥片	Ⅳ類	珪質頁岩	47	52	31.5	110.6	−	平BSI2SD1出土
100	1	FA−249	Ⅲ層	二次調整のある剥片	Ⅳ類	珪質頁岩	61	41	7	15.6	−	微小剥離痕有り
100	2	DB−213	Ⅰ層	二次調整のある剥片	Ⅳ類	珪質頁岩	36	38	16	19.2	−	
100	3	DM−231	堆積土	二次調整のある剥片	Ⅳ類	珪質頁岩	67	57	8	35.2	−	平BSD10出土
100	4	CR−225	−	二次調整のある剥片	Ⅴ類	チャート	61	72	20	67.3	−	
100	5	EO−247	Ⅰ層	二次調整のある剥片	Ⅵ類	珪質頁岩	54	22	10	11.3	−	
100	6	DG−230	堆積土	二次調整のある剥片	Ⅵ類	珪質頁岩	49	25	10	11.5	−	平BSI13SD1出土
100	7	CH−222	Ⅰ層	二次調整のある剥片	Ⅵ類	玉髄	21	31	10	7.8	−	
100	8	DD−213	1層	二次調整のある剥片	Ⅵ類	珪質頁岩	(22)	(38)	9	8.8	−	平BSI6出土
100	9	EE−237	Ⅲ層	微小剥離痕のある剥片	−	珪質頁岩	56	14	8	6.5	−	微小剥離痕有り
100	10	EM−248	−	微小剥離痕のある剥片	−	珪質頁岩	58	26	11	14.9	−	微小剥離痕有り
100	11	CK−224	Ⅰ層	微小剥離痕のある剥片	−	珪質頁岩	67	46	12	41.1	−	
100	12	DC−235	表土	両極剥離痕跡のある剥片	−	珪質頁岩	26	25	6	4.3	−	
100	13	DD−237	−	両極剥離痕跡のある剥片	−	玉髄	31	24	2	8.2	−	
100	14	DF−237	堆積土	両極剥離痕跡のある剥片	−	チャート	26	28	13	8.0	−	平BSD10出土
100	15	CS−221	−	両極剥離痕跡のある剥片	−	玉髄	24	19	7	3.9	−	
100	16	遺構外	堆積土	石核	−	珪質頁岩	41.5	34	28	37.3	−	被熱有り。平BSK9出土
100	17	DG−232	表土	石核	−	珪質頁岩	34	44	40	55.4	−	

5．礫石器

図	No	区	位置:グリッド	層位	器種	時代	長さmm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	備考	石材
101	1	B	BSI14	1層	磨製石斧	縄文	(42.0)	51.0	14.0	36.6	基部欠損。表面ハジケ	細粒凝灰岩
101	2	B	BSI2	5層	砥石	平安	153.0	76.5	25.5	460.8	全面使用、成形痕残る	凝灰岩
101	3	B	BSI4	堆積土	砥石	平安	143.0	91.0	52.0	817	多面使用	凝灰岩
101	4	B	BSI2	1層	敲石	平安	(163.5)	112.0	92.5	2452.6	2面中央・端部敲き	凝灰岩
101	5	B	BSI6カマド	2層	磨石	平安	(115.0)	111.0	86.5	1190.3	砥石？8面使用。上部欠損	安山岩
101	6	B	BSI6	1層	砥石	平安	(96.0)	(70.0)	32.0	265.4	2面・1側使用、使用面平滑、被熱によるハジケ	凝灰岩
101	7	B	BSI6	2層	磨石	平安	(150.0)	59.0	64.5	504.3	端部・側面被熱	石英質安山岩
101	8	B	BSI6	5層	砥石	平安	(127.0)	(59.0)	(26.0)	221.1	裏面欠損。1側面・表面使用	凝灰岩
101	9	B	BSI9SD1:DA−229	堆積土	砥石	平安	(104.0)	(76.0)	(56.0)	427.1	2面使用、側面磨り	流紋岩
101	10	B	BSI10DG−234	堆積土	砥石	平安	145.5	69.0	51.0	431.7	多面使用	凝灰質砂岩
101	11	B	BSI10DG−234	堆積土	砥石	平安	71.0	33.5	26.0	79.6	1面研磨、3面ざらつきあり。	流紋岩
102	1	B	BSI10カマド:DH−235	堆積土	台石	平安	142.0	136.0	44.0	1238.8	1面平坦	安山岩
102	2	B	BSI10SD1:DF･DG−236	3層、堆積土	台石	平安	(103.0)	(74.0)	(82.0)	718.5	2面使用、使用面滑らか	流紋岩
102	3	B	BSI10SD1:DE−235	堆積土	磨石・凹石	平安	110.0	80.0	28.5	364.3	2面使用、2側磨り	安山岩
102	4	B	BSI11SD1SK1:DI−234	堆積土	敲石・磨石	平安	(135.5)	50.0	42.0	479	2面磨り、2端部浅い敲き	安山岩
102	5	B	BSI13SD1:DH−230	堆積土	磨石・凹石	平安	(105.2)	62.5	44.0	299.3	2面・1側使用	流紋岩
102	6	B	BSI17SD1:EG−236	堆積土	砥石	平安	(64.5)	33.0	22.0	76	4面使用。折面を再利用	流紋岩
102	7	B	BSI15カマド:CT−242	3層	台石	平安	(121.0)	(79.0)	68.0	929.2	3面使用、使用面平滑	流紋岩
102	8	B	BSI15:CT−242	4層	砥石	平安	(86.0)	63.0	43.0	341.2	4面使用、使用痕明瞭。端部黒色物付着	流紋岩
102	9	B	BSI18	1層	砥石	平安	(108.0)	42.0	27.0	135.6	2面使用	頁岩
102	10	B	BSI18SD1:EC−238	①−1層	磨石	平安	(101.0)	(48.0)	42.0	272.3	2面・1側使用	安山岩
102	11	B	BSI18SD1:EC−238	①−1層	磨石	平安	(180.0)	(79.0)	(58.0)	793.7	2側使用	流紋岩
103	1	B	BSI18SD1:EC−238	①−1層	敲石	不明	(102.0)	(83.0)	30.0	306.4	1側使用	凝灰角礫岩
103	2	B	BSI19a:DP−237	貼床	砥石	平安	(92.0)	55.0	30.0	210.3	2面・1側使用、使用痕跡明瞭、2端敲き	流紋岩
103	3	B	BSD6:BR−211	堆積土	砥石	平安	(150.0)	122.0	73.0	1295.3	2面・1側使用。黒色物斑状に付着	凝灰岩
103	4	B	BSD10:DH−235	堆積土	敲石	平安	129.0	95.0	49.0	789.3	2面・1側使用	安山岩
103	5	B	BSD23	2層	凹石	平安	(120.0)	(107.0)	76.0	1202.1	深い凹み	流紋岩
103	6	B	BSK72	1層	台石？	平安?	(173.5)	(158.0)	66.0	1890.9	2面中央に広い敲打痕	凝灰岩
103	7	B	BSK60:DH−235	粘土層	台石	平安	(224.0)	(245.0)	(77.5)	4662.2	赤色物広範囲に付着	凝灰岩
103	8	B	Bpit16:DO−234	堆積土	磨石	平安	(60.0)	(91.0)	42.0	284.7	2面使用、1面平坦	石英安山岩
104	1	B	DD−222		磨製石斧	縄文	57.0	50.0	17.0	55.6	基部欠損。成形痕残る	緑色細粒凝灰岩
104	2	B	CL−223	堆積土	磨製石斧	縄文	(39.0)	(43.5)	16.2	33.5	刃部欠損。平BSI4出土	緑色細粒凝灰岩
104	3	B	DC−238	Ⅱ層	磨製石斧	縄文	(28.0)	27.0	16.0	11.2	刃部欠損	緑色細粒凝灰岩
104	4	B	CK−224	Ⅰ層	石錘	縄文	(115.0)	(91.0)	30.5	399.5	上下端抉り、1側剥離加工、1面凹み。被熱あり	安山岩
104	5	B	DG−237	堆積土	石錘	縄文	(76.0)	74.0	26.5	205	片先端部欠損。2器面磨り、中央浅い敲き。平BSI10SD1SK1出土	流紋岩
104	6	B	FC−251	Ⅱ層	石錘	縄文	(78.9)	102.0	28.0	283.3	2側縁に抉り	安山岩
104	7	B	SI17SD1	1層	石錘	縄文	(83.0)	(75.1)	(27.5)	166.3	加工幅広い	流紋岩
104	8	B	DF−215	Ⅲ層	磨石	不明	155.5	69.0	50.0	892.7	1面研磨	輝緑岩
104	9	B	EO−247	Ⅰ層	磨石	不明	(90.0)	82.0	36.5	437.7	1側使用、器面平滑	玢岩
104	10	B	DJ−205	1層	磨石	不明	150.0	80.0	50.0	712.8	1面使用	流紋岩
104	11	B	EH−245	Ⅰ層	磨石	不明	120.0	93.0	27.0	323.4	1面平坦、弱い磨り	流紋岩

図	No	区	位置:グリッド	層位	器種	時代	長さmm	幅 mm	厚さ mm	重量 g	備考	石材
104	12	B	CR−245	Ⅲ層	磨石・凹石	不明	130.0	(112.0)	57.0	1210.1	1面平滑、中央に	安山岩
104	13	B	CG−213	3層	磨石・凹石	不明	121.0	70.0	55.0	540.9	周縁磨り、2面凹み	石英質安山岩
104	14	B	DE−213	3層	磨石	不明	(116.5)	69.0	50.0	648.9	円柱状、一部平坦面をなす、平坦面にざらつきあり	石英質安山岩
104	15	B	CO−222	1層	敲石・磨石	不明	(92.0)	93.4	54.0	480.2	1面敲き、3面磨り	石英質安山岩
105	1	B	ET−251	4層	磨石	縄文	130.0	(67.0)	(42.0)	461.5	1面使用、一部研磨。BSX4周辺	流紋岩
105	2	A	BK−212	Ⅱ層	凹石・敲石	縄文?	(79.0)	88.0	59.0	485.3	2面凹み、側縁敲き	安山岩
105	3	A	BK−212	Ⅱ層	敲石	縄文?	89.0	95.0	65.0	499.3	1面使用	凝灰岩
105	4	A	BF−209	Ⅱ層	凹石・磨石	縄文?	(86.0)	60.0	35.0	254.1	2面敲き、1側磨り	安山岩
105	5	B	CP−221	−	敲石	縄文?	124.0	373.0	56.0	654.5	1面平坦	流紋岩
105	6	B	DI−235	堆積土	敲石	不明	(108.0)	56.0	42.0	343.1	3面使用	安山岩
105	7	B	CK−214	1層	敲石	不明	(95.0)	84.1	51.0	624.7	1面・1側使用	凝灰岩
105	8	B	DC−222	Ⅱ層	敲石	不明	92.0	68.0	28.0	172.4	2面使用	石英質安山岩
105	9	B	CM−288	Ⅰ層	凹石・敲石	不明	125.5	66.0	42.0	495.2	2端敲き・1面凹み	石英質安山岩
105	10	B	DA−227	−	敲石	不明	(124.5)	61.0	51.5	493.3	3面・上下端部使用、使用面平坦。端部一部欠損	安山岩
105	11	B	CP−221	−	敲石	縄文?	(103.0)	46.0	34.0	253.2	上下端部使用、器面全面滑らか	流紋岩
105	12	B	CQ−221	表土	敲石	不明	53.0	52.5	46.0	178.2	球状礫素材。2面使用	チャート
105	13	B	DA−221	−	敲石	不明	56.5	38.0	41.0	107.3	一部欠損。縁辺に敲打痕	頁岩
105	14	B	EN−246	Ⅰ層	敲石	不明	67.0	72.0	60.0	395.3	球状礫素材。2面使用	珪質頁岩
105	15	B	EM−247	Ⅰ層	敲石	不明	(90.0)	84.0	80.0	487.4	4面使用	凝灰岩
105	16	B	DB−224	表土	凹石・磨石	不明	94.0	58.0	38.0	268.5	1面凹み、1側磨り	流紋岩
106	1	B	DQ−238	Ⅱ層	凹石	不明	(93.5)	53.0	37.0	331.5	2面使用、器面平滑	流紋岩
106	2	B	CB−213	−	凹石	不明	(94.0)	60.0	48.5	345.6	2面中央凹み	凝灰岩
106	3	B	ES−251	Ⅰ層	凹石	不明	(90.0)	(54.5)	29.0	176.6	2面中央深い凹み	流紋岩
106	4	B	CP−220	表土	凹石	不明	(88.0)	(46.5)	30.0	112.5	1面深い、1面浅い凹み。被熱あり	流紋岩
106	5	B	EL−247	Ⅰ層	凹石	不明	(106.0)	57.0	53.0	345.9	3面使用	流紋岩
106	6	B	DD−231	−	凹石	不明	68.0	67.0	41.0	205.8	球形、2面中央深い凹み	流紋岩
106	7	B	遺構外	床面	加工礫	縄文?	(105.9)	(68.5)	36.0	291.2	磨面あり、1面周縁加工。平BSI17出土	流紋岩
106	8	B	EG−241	Ⅰ層	加工礫	縄文?	100.5	(63.0)	18.5	144.1	1側縁両面加工	安山岩
106	9	B	CF−214	Ⅱ層	加工礫	縄文?	121.0	(103.0)	28.0	391.9	片刃。平BSI2周辺	石英質安山岩
106	10	B	DG−235	堆積土	加工礫	縄文?	(111.0)	(86.0)	32.0	311.5	1側縁に加工。平BSI10出土	安山岩
106	11	B	EI−241	Ⅰ層	台石	不明	(129.0)	(135.0)	70.0	2019.3	1面平坦	流紋岩
106	12	B	EG−244	Ⅲ層	石皿	不明	(283.0)	(265.0)	(52.5)	4858.1	1面中央使用光沢あり。被熱により縁辺一部変色	安山岩
106	13	B	DE−231	表土	台石	不明	(140.0)	(93.0)	55.0	955.9	縁辺残存。器面中央に敲打痕	安山岩

6．土師器・須恵器

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径)cm	高さ cm	底径(直径)cm	外面	内面	色調	焼成	備考
107	1	BSI1SD1	2層	須恵	坏	(13.2)	(4.2)	－	ロクロ	ロクロ	オリーブ灰	良	
107	2	BSI1SD1	底面	須恵	坏	－	(2.1)	(4.8)	ロクロ	ロクロ	橙	良	
107	3	BSI1カマド	10層	土師	小型土器	－	(2.0)	－	ナデ	ナデ	鈍黄橙	良	
107	4	BSI1	床直	土師	甕	－	(4.2)	－	ナデ	ナデ	橙	良	
107	5	BSI1	床直	土師	甕	－	(18.6)	－	ケズリ、ナデ	ナデ	灰白・鈍黄橙	良	
107	6	BSI1	床直	土師	甕	－	(1.9)	9.0	ケズリ	ナデ	鈍黄橙	良	
107	7	BSI1カマド	5層	土師	甕	－	(9.5)	(7.2)	ケズリ	ナデ	橙	やや良	
107	8	BSI1	堆積土	須恵	甕	(8.2)	(7.8)	－	ロクロ、ナデ	ロクロ	灰	不良	
107	9	BSI2	5層	土師	坏	12.6	5.2	5.8	ロクロ	ロクロ	鈍橙	不良	回転糸切痕
107	10	BSI2	5層	土師	甕	10.8～11.6	11.85	6.9	ケズリ、ナデ	ナデ	鈍橙	不良	
107	11	BSI2	5層	土師	甕	14.0	13.8	7.4	ケズリ→口縁ヨコナデ。	ナデ	鈍褐	良	口縁内面スス付着
107	12	BSI2	5層	土師	甕	16.8	19.9	9.6	ケズリ→ナデ	ナデ	鈍橙	良	
107	13	BSI2	5層	土師	甕	(24.6)	31.1	9.4	ナデ	ナデ	明黄褐～灰黄褐	良	粘土付着
107	14	BSI2	5層	土師	甕	－	(5.8)	(6.8)	ナデ	ナデ	鈍黄褐	良	
107	15	BSI2	5層	土師	鍋	31.0	19.0	(10.5)	ナデ	ナデ	黄灰	良	砂底
108	1	BSI4	床直	土師	坏	13.2	5.6	6.6	ロクロ	ロクロ	黒～灰黄褐	良	刻書。回転糸切痕
108	2	BSI4・Pit1	床直、堆積土	土師	坏	13.8	5.6	(6.0)	ロクロ	ロクロ	灰黄	良	刻書。回転糸切痕
108	3	BSI4	床面	土師	坏	(13.4)	5.5	(4.8)	ロクロ	ミガキ。黒色処理	橙	良	回転糸切痕
108	4	BSI4	床直	土師	坏	－	(3.9)	(5.7)	ロクロ	ロクロ	黄褐	やや良	回転糸切痕
108	5	BSI4	床直、堆積土	須恵	坏	(14.2)	(5.3)	5.7	ロクロ、ナデ	ロクロ	橙	良	回転糸切痕
108	6	BSI4SD2北側	堆積土	須恵	坏	－	(2.5)	(5.4)	ロクロ	ロクロ	灰黄	良	
108	7	BSI4	床直、堆積土	土師	坏	(12.0)	(3.3)	－	ロクロ	ロクロ	橙	良	回転糸切痕
108	8	BSI4	床直	須恵	坏	(13.2)	(2.7)	－	ロクロ	ロクロ	明赤褐	良	ヒダスキ有
108	9	BSI4	堆積土	須恵	硯	(13.6)	2.8	(3.6)	ロクロ	ロクロ	黒	良	刻書
108	10	BSI4	床直	土師	甕	－	(2.9)	(8.2)	ケズリ、ナデ	ナデ	黒褐	良	
108	11	BSI4	床面	土師	甕	－	(4.0)	(7.7)	ナデ	ナデ	オリーブ黒	良	砂底
108	12	BSI4	堆積土	土師	甕	－	(3.0)	8.6～8.8	ケズリ	ナデ	黒褐～灰黄褐	良	
108	13	BSI4	床直	土師	甕	－	(3.9)	(7.4)	ケズリ	ナデ	黒褐	良	
108	14	BSI4 BSI21SD1	床直 1層	土師	甕	22.0～23.2	33.9	9.2～9.7	ケズリ、ナデ、ヘラナデ	ナデ。口縁に工具未端痕跡有	灰黄褐	やや良	遺構間接合
108	15	BSI4	床直	土師	甕	27.1	26.2	12.0	ケズリ→ナデ、縞状のナデ	ナデ	橙～黒	良	
108	16	BSI4	床面	土師	甕	－	(2.6)	－	ナデ	ナデ	鈍黄橙	やや良	
108	17	BSI4	床面	土師	甕	－	(4.2)	－	ナデ	ナデ	明褐	良	
108	18	BSI4	床直	土師	甕	－	(3.4)	－	ナデ	ナデ	明赤褐	やや良	
108	19	BSI4	床直	土師	甕	(10.2)	(7.9)	(6.0)	ケズリ、ナデ	ナデ	鈍黄橙	やや良	
108	20	BSI4	床直、堆積土	土師	壷	－	(10.0)	5.9	ロクロ、ナデ。底面ケズリ	ロクロ、ナデ	鈍赤褐	良	回転糸切痕
108	21	BSI4	床面、床直、堆積土	土師	鍋	(34.0)	16.0	10.6	ナデ、輪積み	ナデ	暗褐～鈍黄橙	良	砂底
108	22	BSI4	床直	土師	甕	－	(4.7)	－	ナデ、輪積み	ナデ	明黄褐	良	
108	23	BSI4	床直	須恵	壷	(10.8)	(1.2)	－	ロクロ	ロクロ	暗灰黄	良	
108	24	BSI4	床直、堆積土	須恵	壷	(12.8)	(2.1)	－	ロクロ	ロクロ	黒	良	
108	25	BSI4・Pit1	堆積土	須恵	壷	(15.2)	(2.0)	－	ロクロ	ロクロ	黒褐	良	
108	26	BSI4SD1南	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	ナデ	褐	良	
108	27	BSI4SD2北側	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	ナデ	オリーブ黒	良	
109	1	BSI5	堆積土	須恵	壷?	－	(3.2)	(10.0)	ケズリ。底面ヘラケズリ菊花文?	ロクロ	灰	良	
109	2	BSI6	1・2層	土師	坏	(13.6)	7.0	6.0	ロクロ	ロクロ	灰白	やや良	
109	3	BSI6	1・2層、床面	土師	坏	13.1	5.3	5.6	ロクロ	ロクロ	鈍橙	良	
109	4	BSI6SD1	1層	土師	坏	－	(2.1)	5.4	ロクロ	ロクロ	明赤褐	良	
109	5	BSI6	焼土	土師	甕	－	(4.5)	6.4～6.8	ナデ	ナデ	鈍赤褐	やや良	
109	6	BSK14	17層	土師	甕	－	(2.8)	8.8	ナデ	ナデ	淡赤橙	良	
109	7	BSI6・カマド周辺	1・2層、床面	土師	甕	23.4	34.4	11.4	ケズリ、ナデ	ナデ	浅黄橙	良	

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径)cm	高さ cm	底径(直径)cm	外面	内面	色調	焼成	備考
109	8	BSI6・カマド	1・2層、カマド9層	土師	甕	(24.0)～(25.0)	34.1	9.6	ナデ、輪積み	ナデ	鈍橙～褐灰	良	遺構間接合。内面籾痕。粘土付着
		BSK14	8・9・10・11・19層										
109	9	BSI6・カマド	4層、床面、掘り方埋土	土師	甕	－	(3.6)	8.1	ケズリ、ナデ	ナデ	鈍黄橙	やや良	カマド支脚
109	10	BSI6	1層、床面	土師	甕	(15.4)	(10.4)	－	ナデ	ナデ	橙	良	
109	11	BSI6SD1	1層	土師	甕	(24.0)	11.4	－	ナデ	ナデ	灰黄褐	良	
109	12	BSI6・カマド	床面、カマド9層	土師	甕	(15.0)	15.9	7.0	ナデ	ナデ	橙	やや良	器面の荒れ顕著
109	13	BSI6	床面	土師	甕	－	(10.5)	7.9	ナデ	ナデ	明赤褐	良	
109	14	BSI6カマド	9層	土師	甕	(10.0)	(6.8)	－	ナデ	ナデ	赤	良	
109	15	BSI6	2層	土師	甕	(13.0)	(9.7)	－	ロクロ	ロクロ、ナデ	鈍褐	良	
109	16	BSI6SD1	1層	土師	甕	－	(6.5)	－	ケズリ、ナデ	ナデ	明赤褐	良	籾痕
109	17	BSI6・カマド	4層、カマド堆積土	土師	甕	(13.6)	(6.3)	－	ロクロ	ロクロ	明褐	良	スス付着
110	1	BSI6	1層、床面、カマド9層	土師	甕	(16.6)	28.6	9.8	ケズリ、ナデ	ナデ	浅黄橙	良	遺構間接合
		BSK14	8・9・11層										
		BSK17	2層										
110	2	BSI6	1層	土師	塝	(36.1)	(17.1)	(6.7)	ケズリ→ナデ→下部ケズリ	ナデ	黒・鈍橙	良	遺構間接合。スス付着
		BSK14	10層										
110	3	BSI6	焼土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	
110	4	BSI7	2層	土師	坏	(14.0)	5.2	5.6	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	回転糸切痕
110	5	BSI7SK3	底面	土師	坏?	－	(2.1)	6.6	摩滅	摩滅	浅黄橙	良	回転糸切痕
110	6	BSI7カマド周辺・SK3	2層、床面、SK3:1層	土師	坏?	－	(6.8)	7.4	調整不明瞭、ケズリ?	ロクロ	鈍橙	良	回転糸切痕
110	7	BSI7・カマド周辺	床面	土師	甕	－	(6.4)	9.5～10.2	ケズリ	ケズリ、ナデ	黒～橙	良	
110	8	BSI7SK3	底面	土師	甕	－	(2.4)	(9.4)	ケズリ、ナデ	摩滅	鈍黄橙	やや良	粘土付着。砂底
110	9	BSI7	床面、2層	土師	甕	－	(3.3)	6.5～7.5	ケズリ	ナデ	橙	やや良	
110	10	BSI7カマド	床面	土師	甕	14.0	(14.5)	－	ケズリ、ナデ	ナデ	黄橙	やや良	口縁段明瞭
110	11	BSI7SK3	底面	土師	甕	(15.3)	(5.6)	－	摩滅	摩滅	浅黄橙	やや良	
110	12	BSI7SK3	底面	土師	甕	(15.0)	(9.6)	－	ロクロ	ロクロ	鈍橙	やや良	スス付着。やや角張
110	13	BSI7	2層、床面	土師	坏	－	(4.0)	－	ロクロ	ロクロ	灰白	やや良	
110	14	BSI7SK2	底面	土師	甕	－	(2.6)	－	ナデ	摩滅	鈍橙	良	15と同個体?
110	15	BSI7SK2	底面	土師	甕	－	(3.0)	－	ナデ	ナデ	灰黄褐	やや良	14と同個体?
110	16	BSI7・カマド周辺	2層、床面	土師	塝	－	(9.2)	12.0	ナデ、輪積み	ナデ	鈍黄橙	やや良	
110	17	BSI7SK1	1層	須恵	甕	(9.0)	(5.5)	－	ロクロ	ロクロ	灰黄	良	
110	18	BSI7	床面	須恵	甕	(11.8)	(7.5)	－	ロクロ	ロクロ	灰	良	
111	1	BSI9SD1	堆積土	土師	坏	12.2～12.8	(5.3)	－	ロクロ	ロクロ	鈍黄褐	良	
111	2	BSI9SD1	堆積土	土師	坏	(13.2)	(3.7)	－	ロクロ	摩滅	黄橙	良	ハジケ
111	3	BSI9SD2	堆積土	土師	甕	－	(2.5)	(5.4)	ロクロ	ロクロ	黄灰	良	
111	4	BSI9SD2	堆積土	須恵	坏	－	(2.5)	－	ロクロ		黄灰	良	刻書
111	5	BSI9SD1	堆積土	須恵	坏	(14.3)	5.2	6.0	ロクロ	ロクロ	灰オリーブ	良	硯に転用?回転糸切痕
111	6	BSI9SD2	堆積土	須恵	坏	－	(2.1)	(5.4)	ロクロ	ロクロ	橙	良	回転糸切痕
111	7	BSI9SD2	堆積土	須恵	坏	－	(1.5)	(5.5)	ロクロ	ロクロ	灰	良	回転糸切痕
111	8	BSI9SD2	堆積土	土師	甕	－	(3.0)	8.6～9.2	ナデ	ナデ	灰黄褐	良	粘土付着
111	9	BSI9カマド	崩落土	土師	甕	－	(2.6)	10.0	ナデ	摩滅	浅黄橙	良	
111	10	BSI9カマド	崩落土	土師	甕	(23.4)	15.7	－	ケズリ、ナデ	ナデ	橙	良	粘土付着
111	11	BSI9カマド	崩落土	土師	甕	－	(4.0)	(11.1)	ナデ	ナデ	橙	良	
111	12	BSI9SD2	堆積土	土師	甕	－	(3.6)	(8.3)	ナデ。底面ケズリ→ナデ	ナデ	鈍黄褐	良	
111	13	BSI9SD2	堆積土	土師	甕	－	(1.7)	(7.0)	ナデ	ナデ	鈍橙	良	
111	14	BSI9SD1	堆積土	土師	甕	(21.0)	(9.4)	－	ケズリ、ナデ、輪積み	ナデ	浅黄橙	良	DA−226
111	15	BSI9SD1・SD2	堆積土	土師	甕	(13.4)	(10.2)	－	ナデ	ナデ	褐灰	やや良	DB−229
111	16	BSI9SD1	堆積土	土師	甕	－	(6.8)	(9.2)	ナデ	ナデ	鈍黄褐	やや良	茶・赤粘土付着。砂底
111	17	BSI9SD2	堆積土	土師	甕	－	(2.2)	(7.0)	ナデ	ナデ	鈍黄橙	良	
111	18	BSI9SD2	堆積土	須恵	壷	(16.2)	(3.4)	－	ロクロ	ロクロ	灰	良	

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径)cm	高さ cm	底径(直径)cm	外面	内面	色調	焼成	備考
111	19	BSI9SD2	堆積土	土師	堝	−	(6.4)	−	ナデ	ナデ	黒褐	良	粘土付着
111	20	BSI9SD1	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	暗緑灰	良	
111	21	BSI9SD2	堆積土	須恵	甕	−	(9.9)	−	ロクロ、タタキ	ロクロ	黒・灰オリーブ	良	
111	22	BSI9SD2	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	暗緑灰	良	
111	23	BSI9SD1	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	灰	良	遺構外と接合
111	24	BSI10	堆積土	土師	坏	(13.8)	6.3	5.8	ロクロ	ロクロ	橙	良	回転糸切痕
111	25	BSI10SD1	堆積土	土師	坏	(12.7)	5.8	5.4	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	回転糸切痕
111	26	BSI10SD1SK1	3層	土師	坏	(13.6)	5.2	5.7	ロクロ	ロクロ	橙～浅黄橙	良	回転糸切痕
111	27	BSI10カマド	20層	土師	坏	12.5	5.4	5.2	ロクロ	ロクロ	橙	良	カマド支脚。回転糸切痕
111	28	BSI10SD1SK1	3層、堆積土	土師	坏	−	(4.5)	5.2	ロクロ	ロクロ	橙	良	回転糸切痕
111	29	BSI10	堆積土	土師	坏	−	(2.7)	6.0	ロクロ	ロクロ	鈍橙	良	回転糸切痕
111	30	BSI10SD1SK1	3層	土師	坏	−	(3.2)	(5.4)	ロクロ。底面ヘラケズリ	ロクロ	橙	良	回転糸切痕
112	1	BSI10カマド周辺	堆積土	土師	坏	(13.2)	(4.4)	−	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙～灰黄褐	良	
112	2	BSI10	堆積土	須恵	坏	14.0	(4.5)	−	ロクロ	ロクロ	橙		焼成失敗?
112	3	BSI10	堆積土	須恵	坏	(13.0)	5.9	5.2	ロクロ	ロクロ	灰	良	刻書。フクレ。回転糸切痕
112	4	BSI10 BSD10	3層 堆積土	須恵	坏	(13.0)	5.4	5.0	ロクロ	ロクロ	灰	良	遺構間接合。刻書。回転糸切痕
112	5	BSI10カマド周辺	堆積土	須恵	坏	13.0	5.3	5.6	ロクロ	ロクロ	鈍赤褐～灰	良	骨針。火ダスキ。刻書。回転糸切痕
112	6	BSI10	堆積土	土師	坏	−	(1.2)	(5.2)	ロクロ、ナデ	ロクロ	鈍黄橙	良	
112	7	BSI10SD1	底面	須恵	坏	−	(1.5)	(4.2)	ロクロ	ロクロ	浅黄	良	
112	8	BSI10 BSK60	堆積土 堆積土	須恵	坏	−	(2.3)	(5.4)	ロクロ	ロクロ	灰白	良	遺構間接合
112	9	BSI10 BSD10	堆積土 堆積土	須恵	坏	(12.0)	(3.4)	−	ロクロ	ロクロ	オリーブ灰	良	遺構間接合
112	10	BSI10	堆積土	土師	甕	−	(3.5)	−	ナデ	ナデ	橙	良	
112	11	BSI10	3層、堆積土	土師	甕	(25.2)	(23.6)	−	ナデ、輪積み	ナデ	鈍黄橙	やや良	
112	12	BSI10カマド周辺 BSD10：DG−235	3層、堆積土 堆積土	土師	甕	(18.6)	22.8	8.4	ナデ：表面に段差生じる	ナデ	黄橙～鈍黄褐	良	遺構間接合
112	13	BSI10	堆積土	土師	甕	(16.0)	(7.8)	−	ナデ	ナデ	黒褐	良	
112	14	BSI10、Pit6・30	堆積土	土師	甕	(18.0)	(11.9)	−	ナデ、ケズリ	ナデ	明赤褐	良	
112	15	BSI10	堆積土	土師	甕	(14.1)	(5.3)	−	ロクロ	ロクロ	鈍赤褐～鈍黄橙	やや良	16と同一個体?
112	16	BSI10	堆積土	土師	甕	(16.2)	7.6	−	ロクロ	ロクロ	暗赤灰	良	
112	17	BSI10	堆積土	土師	甕	−	(8.6)	6.8	ナデ	ナデ	鈍黄褐	良	粘土付着。砂底
112	18	BSI10	堆積土	土師	甕	−	(3.7)	(9.0)	ケズリ、ナデ。底面ヘラケズリ	ナデ	鈍赤褐	良	
112	19	BSI10SD1	堆積土	土師	甕	−	(3.4)	10.4	ナデ	ナデ	鈍黄橙	やや良	
112	20	BSI10SD1	堆積土	土師	甕	−	(5.3)	−		ナデ	橙	良	布痕
112	21	BSI10	堆積土	土師	甕	−	(3.5)	(10.9)	ケズリ、ナデ	ナデ	鈍黄橙	良	木葉痕
112	22	BSI10 BSD10	堆積土 堆積土	土師	甕	−	(6.0)	10.6	ケズリ、ナデ	ナデ	灰黄褐	良	遺構間接合。砂底
112	23	BSI10 BSD10	堆積土 底面	土師	甕	−	(4.8)	11.4	ケズリ、ナデ	ナデ	鈍褐～黄灰	良	遺構間接合。砂底
112	24	BSI10SD1SK1	3層、堆積土	土師	壷	−	−	−	ロクロ、ナデ	ロクロ	橙	良	
112	25	BSI10	堆積土	土師	小型土器	−	(1.2)	(5.2)	ナデ	ナデ	橙	良	
112	26	BSI10	堆積土	土師	小型土器	−	(2.3)	−	ケズリ	ナデ	鈍黄褐	良	
112	27	BSI10	堆積土	須恵	甕	(14.2)	(3.6)	−	ロクロ	ロクロ	灰	良	
112	28	BSI10	堆積土	須恵	甕	(15.2)	(10.7)	−	ロクロ	ロクロ	黒	良	
113	1	BSI10	堆積土	須恵	壷	(7.4)	(8.8)	−	ロクロ、ナデ	ロクロ	暗灰	良	口縁歪み。刻書
113	2	BSI10	堆積土	須恵	壷	−	(5.0)	−	ロクロ、ナデ	ロクロ	灰	良	
113	3	BSI10	堆積土	須恵	壷	5.0	(9.5)	−	ロクロ、ナデ	ロクロ	灰	良	円形剥離。刻書
113	4	BSI10SD1	3層	須恵	壷	−	(3.9)	(10.2)	ケズリ。底面ケズリ	ナデ	灰	良	
113	5	BSI10	堆積土	須恵	壷	−	(2.7)	(10.2)	ロクロ	ロクロ	黒～灰	良	
113	6	BSI10	堆積土	須恵	壷	−	−	−	ケズリ、ナデ	ナデ	鈍黄橙	良	
113	7	BSI10Pit16	堆積土	須恵	壷	(9.2)	(1.6)	−	ロクロ	ロクロ	黒	良	
113	8	BSI10	堆積土	須恵	坏	−	(4.1)	(6.6)	ロクロ	ロクロ	黒～灰	良	回転糸切痕

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径)cm	高さ cm	底径(直径)cm	外面	内面	色調	焼成	備考
113	9	BSI10	堆積土	須恵	甕	−	(8.2)	8.5	ケズリ、ナデ	ロクロ	暗灰	良	
113	10	BSI10 BSD10	堆積土 堆積土	須恵	甕?	21.9	(6.5)	−	ロクロ、タタキ	ロクロ、ナデ	灰	良	遺構間接合
113	11	BSI10SD1SK1	3層	須恵	甕	−	(8.6)	−	ロクロ、タタキ	ロクロ	黒～灰白	良	
113	12	BSI10、 BSI10SD1	堆積土	須恵	甕?	16.0～ 16.7	(7.1)	−	ロクロ、ナデ	ロクロ	暗オリーブ 灰	良	
		DH−235	Ⅱ層										
113	13	BSI10	堆積土	須恵	坏	−	(6.0)	(6.7)	ロクロ、ナデ	ロクロ	灰	良	
113	14	BSI10、BSI10 SD1	堆積土、 SD1：3層	須恵	甕	−	(11.0)	−	ロクロ、タタキ	ロクロ、ナデ	黄灰	良	非五所川原産
113	15	BSI10	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	暗灰	良	
113	16	BSI10	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	暗青灰	良	
113	17	BSI10SD1	堆積土	須恵	甕	−	(4.8)	−	ロクロ		灰黄	良	刻書
113	18	BSI10	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	暗青灰	良	
113	19	BSI10	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	褐灰	良	
113	20	BSI10、BSI10 SD1	堆積土、 SD1底面	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	鈍黄橙	良	
113	21	BSI10SD1	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	
114	1	BSI10SD1SK1 BSI11SD1SK1	堆積土 堆積土	土師	坏	(12.1)	6.5	5.4	ロクロ	ロクロ	灰白	良	遺構間接合。 回転糸切痕
114	2	BSI10SD1	堆積土	土師	坏	−	(3.1)	5.5	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	遺構間接合。 回転糸切痕
		BSI11SD1	堆積土										
114	3	BSI10SD1	堆積土	須恵	坏	(13.2)	5.6	5.4	ロクロ、ナデ	ロクロ	灰	良	遺構間接合。刻書。 回転糸切痕
		BSI11SD1	堆積土										
114	4	BSI10SD1SK1	3層	土師	甕	(25.4)	14.7	−	ロクロ、ケズリ	ナデ	鈍黄橙	良	遺構間接合
		BSI11SD1SK1	堆積土										
		BSK62	堆積土										
114	5	BSI10、BSI 10SD1SK1	堆積土、 SK1：3層	須恵	坏	(14.0)	5.4	5.0	ロクロ	ロクロ	黄灰～ 灰黄	良	遺構間接合。 回転糸切痕
		BSI11カマド周 辺、BSI11 SD1SK1	堆積土										
		BSD10	堆積土										
114	6	BSI11SD1SK1	堆積土	須恵	坏	(13.0)	(4.0)	−	ロクロ	ロクロ	灰～灰白	良	
114	7	BSI10	堆積土	土師	甕	(24.4)	(5.4)	−	ナデ	ナデ	橙	良	
114	8	BSI10	堆積土	土師	甕	(25.0)	(8.8)	−	ナデ	ナデ	黒	良	遺構間接合
		BSI11SD1SK1	堆積土										
114	9	BSI10SD1SK1	3層、堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	114−11と同一 個体
		BSI11カマド周辺、 BSI11SD1SK1	堆積土										
114	10	BSI10、BSI 10SD1SK1	3層、堆積土	土師	甕	−	(20.2)	8.9	ロクロ、ケズリ	ロクロ、ナデ	橙	良	遺構間接合
		BSI11Pit32、 BSI11SD1	堆積土										
		BSK44	堆積土										
114	11	BSI10SD1SK1	3層、堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	鈍黄橙	良	114−9と同一個 体
		BSI11SD1SK1	堆積土										
114	12	BSI10	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	
		BSD10	堆積土										
115	1	BSI11SD1SK1	堆積土	土師	坏	13.8	4.1	5.4	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	回転糸切痕
115	2	BSI11SD1SK1	堆積土	土師	甕	(23.0)	(11.5)	−	ナデ	ナデ	黒褐	良	
115	3	BSI11SD1	堆積土	土師	甕	(25.0)	(6.9)	−	ナタケズリ。ヘラナデ→ケズリ	ナデ	鈍黄褐	良	
115	4	BSI11SD1SK1	堆積土	須恵	坏	(12.0)	(3.5)	−	ロクロ	ロクロ	灰～灰白	良	
115	5	BSI11Pit32、 BSI11SD1	堆積土	須恵	坏	(14.6)	(3.6)	−	ロクロ	ロクロ	浅黄	良	
115	6	BSI11Pit32	堆積土	土師	甕	−	(15.8)	−	ナデ、輪積み	ナデ	黒～灰褐	良	
115	7	BSI11SD1SK1	堆積土	土師	甕	−	(14.8)	−	縦ナデ→口縁ヨコナデ	ナデ	灰黄褐	良	
115	8	BSI11SD1SK1	堆積土	土師	甕	16.6	16.1	8.0～ 8.5	ナデ、輪積み	ナデ	鈍橙	やや良	外面摩滅、器面の 荒れ顕著
115	9	BSI11SD1SK1	堆積土	土師	小型土器	−	−	−	ナデ、輪積み	ナデ	鈍黄橙	良	
115	10	BSI11SD1	堆積土	土師	塙	−	(4.7)	9.6	ケズリ、ナデ。底面ケズリ	ナデ	黒	良	
115	11	BSI11カマド周 辺、BSI11SD1	堆積土	須恵	甕	(22.6)	(1.8)	−	ロクロ	ロクロ	黒褐	良	

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径)cm	高さ cm	底径(直径)cm	外面	内面	色調	焼成	備考
115	12	BSI11SD1SK1	3層、堆積土	土師	甕	21.2	31.9	13.7	ロクロ。幅広ケズリ(上→下)、ナデ	ナデ	鈍黄橙～黒褐	良	
115	13	BSI11SD1	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	
115	14	BSI11SD1	3層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	
115	15	BSI11SD1SK1	3層、堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	暗灰	良	
115	16	BSI11SD1	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	
115	17	BSI11SD1	2層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	
116	1	BSI12	堆積土	土師	坏	12.0	5.6	5.8	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	スス付着。回転糸切痕
116	2	BSI12	堆積土	土師	坏	11.8	5.8	5.5	ロクロ	ロクロ	橙	良	スス付着。回転糸切痕
116	3	BSI12	堆積土	土師	坏	−	(2.5)	5.4	ロクロ	ロクロ	鈍橙	良	回転糸切痕
116	4	BSI12	堆積土	須恵	坏	(14.8)	(2.3)	−	ロクロ	ロクロ	灰	良	
116	5	BSI12	堆積土	土師	甕	(16.4)	(6.9)	−	ナデ	ナデ	鈍赤褐	良	
116	6	BSI12SD1	堆積土	土師	坏	−	(3.2)	5.4	ロクロ	ロクロ	灰白	良	回転糸切痕
116	7	BSI12	堆積土	土師	甕	−	(3.6)	−		ナデ。黒色処理	鈍黄橙～灰	良	木葉痕
116	8	BSI12	堆積土	土師	甕	(17.0)	(7.0)	−	ナデ	ナデ	鈍橙	良	
116	9	BSI12	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	
116	10	BSI12SD1	堆積土	須恵	甕	−	(8.1)	−	ロクロ	ロクロ	灰	良	
116	11	BSI12	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰	良	
116	12	BSI12SD1	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	黒褐	良	
116	13	BSI13SD1	堆積土	土師	坏	(13.3)	6.1	5.7	ロクロ	ロクロ	淡黄	良	回転糸切痕
116	14	BSI13SD1	堆積土	土師	坏	−	(2.4)	5.8	ロクロ	ロクロ	橙	良	回転糸切痕
116	15	BSI13SD1	堆積土	土師	坏	(14.0)	(4.4)	−	ロクロ	ロクロ	橙	良	
116	16	BSI13SD1	堆積土	須恵	坏	−	(1.7)	5.0	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	回転糸切痕
116	17	BSI13SD1	堆積土	土師	坏	−	(2.0)	(5.0)	ロクロ	ロクロ	橙	良	
116	18	BSI13SD1	堆積土	土師	坏	−	(1.7)	4.5	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	回転糸切痕
116	19	BSI13SD1	堆積土	土師	甕	−	(10.5)	−	ナデ	ナデ	鈍黄橙～黒褐	やや良	
116	20	BSI13SD1	堆積土	土師	甕	−	(6.6)	(10.4)	ケズリとナデの中間	ナデ	褐灰～明赤褐	良	砂底
116	21	BSI13SD1	堆積土	土師	甕	−	(5.4)	9.6	ナデ。底面ナデ、ケズリ	ナデ	黒褐	良	
116	22	BSI13SD1	堆積土	須恵	壺	−	(4.25)	−	ロクロ、輪積み	ロクロ	浅黄橙	良	
116	23	BSI13SD1	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	灰	良	
116	24	BSI13SD1	堆積土	須恵	鉢	12.8	10.7	7.0	ロクロ	ロクロ	灰	良	刻書。回転糸切痕
117	1	BSI15	1・4層	土師	甕	(12.6)	(9.9)	−	ナデ	ナデ	鈍褐	良	
117	2	BSI15SD1	1層、堆積土	土師	甕	12.4～13.0	11.2	7.1～7.8	ナデ	ナデ	鈍橙	やや良	
117	3	BSI15カマド	1層、堆積土	土師	甕	12.2	12.1	5.8	ナデ	ナデ	明赤褐	良	
117	4	BSI15	1層	土師	甕	(12.7)	(3.8)	−	ナデ	ナデ	鈍赤褐	良	スス付着
117	5	BSI15SD1	堆積土	土師	甕	−	(5.3)	−	ナデ	ナデ	褐灰	良	
117	6	BSI15	4層、床直	土師	甕	−	(6.2)	−	ナデ	ナデ	黒	良	先端鋭いヘラ工具。内外面真っ黒
117	7	BSI15	1層	土師	甕	−	(7.7)	−	摩滅。ナデ	ナデ	鈍黄褐・灰白	良	粘土付着
117	8	BSI15カマド	1層、堆積土	土師	甕	(12.6)	(7.4)	−			橙	良	117−1と同個体
117	9	BSI15	1層	土師	甕	−	(5.8)	−	ナデ	ナデ	黒・褐灰	良	
117	10	BSI15SD1	堆積土	土師	壺	−	(4.3)	−	ロクロ	ロクロ	灰白	良	
117	11	BSI15	1・4層	土師	甕	−	(26.8)	10.2	ナデ、輪積み	ナデ	鈍赤褐	良	
117	12	BSI15SD1	1層、堆積土	土師	甕	−	(23.3)	−	ナデ	ナデ	黒褐	良	粘土付着
117	13	BSI15SD1	堆積土	土師	甕	−	(3.1)	(11.8)	ケズリ	ミガキを意識したナデ。黒色処理	黒～鈍黄	良	粘土付着。内面漆?砂底
117	14	BSI15SD1	1層	土師	甕	−	(9.0)	8.1	一次調整のケズリ摩滅		橙	良	最終調整不明
117	15	BSI15、遺構外	1層、堆積土、Ⅱ層	土師	甕	−	(3.0)	(8.4)	ケズリ	ナデ	橙	良	砂底
117	16	BSI15SD1	1層	土師	甕	−	(2.2)	9.8	ナデ		鈍黄褐	良	砂底
117	17	BSI15	1層	土師	甕	−	(5.4)	(7.6)	ケズリ	ナデ	鈍橙	良	砂底
117	18	BSI15	1層	須恵	壺	(10.4)	(1.7)	−	ロクロ		黒	良	
117	19	BSI15SD1	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	暗青灰	良	
117	20	BSI15SD1	1層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	暗灰	良	
117	21	BSI15SD1	3層	須恵	壺	(9.4)	(4.0)	−	ロクロ	ロクロ	暗灰	良	

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径)cm	高さ cm	底径(直径)cm	外面	内面	色調	焼成	備考
118	1	BSI16	床面	土師	坏	(11.7)	5.5	5.0	ロクロ		浅黄橙	不良	回転糸切痕?
118	2	BSI16SD1	1層、⑥−4・5層	須恵	坏	12.6	5.3	5.0	ロクロ	ロクロ	灰白	やや良	回転糸切痕
118	3	BSI16SD1	③−2層	土師	坏	(12.0)	5.0	(5.0)	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	回転糸切痕
118	4	BSI16	床面	土師	坏	(16.0)	7.55	6.7〜7.0	ロクロ	ロクロ、ミガキ。黒色処理	鈍黄橙	良	回転糸切痕。割口黒色。丼形。
118	5	BSI16Pit7	床面、堆積土	土師	坏	(13.0)	(4.3)	−	ロクロ	ロクロ	鈍褐	良	スス付着
118	6	BSI16	床面	土師	坏	(13.4)	(4.0)	−	ロクロ	ロクロ	鈍黄褐	良	スス付着
118	7	BSI16	床面	土師	坏	(14.0)	(6.2)	−	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	やや良	スス付着
118	8	BSI16SD1	⑥−4層	須恵	坏	−	(2.7)	4.8	ロクロ	ロクロ	灰	良	回転糸切痕
118	9	BSI16SD1	1層	土師	坏	(11.0)	(4.4)	−	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	
118	10	BSI16SD1	③−3層	土師	坏	(12.4)	(4.3)	−	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	
118	11	BSI16SD1	1層、⑥−4層	土師	坏	(14.0)	(4.4)	−	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	刻書
118	12	BSI16SD1	①−2層	土師	坏	−	(1.7)	(5.0)	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	やや良	回転糸切痕
118	13	BSI16SD1	①−1層	土師	坏	−	(2.1)	(6.2)	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	回転糸切痕
118	14	BSI16SD1	1層	土師	坏	−	(1.8)	5.6		ロクロ	鈍黄橙	良	回転糸切痕
118	15	BSI16SD1	⑥−2層	土師	坏	−	(2.7)	6.0	ロクロ	ロクロ	黒〜鈍黄橙	良	回転糸切痕。刻書。底面平滑
118	16	BSI16SD1	1層	須恵	坏	−	(2.3)	(4.3)	ロクロ	ロクロ	黄灰	良	回転糸切痕。刻書
118	17	BSI16	床面	土師	坏	−	(4.4)	5.1〜5.4	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	回転糸切痕
118	18	BSI16SD1	⑥−4・5層	土師	甕	22.4	(6.6)	−	ナデ、輪積み	ナデ	鈍褐	良	
118	19	BSI16	床面	土師	甕	(26.4)	(8.6)	−	ナデ	ナデ	浅黄橙	良	
118	20	BSI16カマド周辺	床面	土師	甕	−	(12.8)	−	ナデ、輪積み	ナデ	灰黄褐	良	
118	21	BSI16	⑥−4・5層	土師	甕	(17.4)	(6.2)	−	ナデ、輪積み	ナデ	橙	良	
118	22	BSI16SD1	⑥−1層	土師	甕	−	(9.4)	−	ナデ	ナデ	鈍黄橙	やや良	
118	23	BSI16SD1	⑥−5層	土師	甕	(9.9)	(5.8)	−	ナデ、輪積み	ナデ	鈍橙・黒褐	良	スス付着
118	24	BSI16SD1	⑥−2・4層	土師	甕	−	(4.6)	9.5	ナデ	ナデ	赤橙〜灰黄褐	良	
118	25	BSI16SD1	⑥−4・5層	土師	甕	−	(5.7)	6.8	ナデ	ナデ	鈍橙	良	砂底
118	26	BSI16SD1	1層	土師	甕	−	(3.0)	8.6	ケズリ	ナデ	浅黄褐	やや良	
118	27	BSI16SD1	⑥−5層	土師	甕	−	(3.2)	9.2	ケズリ、ナデ	ナデ	鈍黄橙	良	砂底
118	28	BSI16SD1	⑥−5層	土師	甕	−	(5.4)	9.2	ケズリとナデ混在	ナデ	黒	良	
118	29	BSI16SD1	1層、⑥−4・5層	土師	甕	(13.6)	(12.4)	−	ナデ	ナデ	橙	やや良	
118	30	BSI16	①−1・4層	土師	甕	−	(16.3)	−	ナデ、輪積み	ロクロ、ナデ	黒	良	
119	1	BSI16	床面	須恵	壷	−	(1.5)	−	ロクロ、ナデ	ロクロ	灰	良	
119	2	BSI16	床面	須恵	壷	−	(2.5)	−	ロクロ	ロクロ	灰	良	
119	3	BSI16SD1	1層	須恵	壷	−	(1.0)	(7.0)			灰	良	
119	4	BSI16SD1	⑥−5層	須恵	壷	−	−	−	ロクロ	ロクロ	灰白	良	非五所川原産
119	5	BSI16SD1	1層	須恵	壷	−	11.5	(8.6)	ロクロ、ナデ	ロクロ	灰・黒	良	
119	6	BSI16SD1	①−1層	須恵	甕	−	−	−	ロクロ、ナデ、タタキ	ロクロ、ナデ	暗赤灰・黒褐	良	五所川原産(犬走窯)?
119	7	BSI16SD1	②−4層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	当て具痕	黒	良	非五所川原産
119	8	BSI16SD1	⑥−5層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	当て具痕	灰	良	
119	9	BSI16	床面	須恵	甕	−	(2.0)	−	ロクロ	ロクロ	黒	良	
119	10	BSI16SD1	1層	須恵	甕	−	(3.7)	−	ロクロ	ロクロ	オリーブ黒	良	
119	11	BSI16	床面	須恵	甕	−	(2.4)	−			灰	良	
119	12	BSI16	床面、1層	須恵	甕	−	(3.4)	−	ロクロ	ロクロ	黒	良	
119	13	BSI16	床面	須恵	甕	−	−	−	タタキ		灰	良	
119	14	BSI16SD1	⑥−5層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	当て具痕	灰	良	
119	15	BSI16SD1	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ		黒	良	
119	16	BSI16SD1	③−2層	須恵	甕	−	−	−	タタキ		黒	良	
119	17	BSI16	床面	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰・黒	良	
119	18	BSI16SD1	1層	須恵	甕	−	−	−	タタキ		灰黄褐	良	
119	19	BSI16SD1	1層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	灰黄	良	
119	20	BSI16SD1	②−1層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	灰	良	
119	21	BSI16	床面	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	青灰	良	
119	22	BSI16、BSI16SD1	壁溝、SD1 ⑥−4層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	灰	良 良	
119	23	BSI16	床面	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ロクロ	暗オリーブ灰		
120	1	BSI17SD1	堆積土	土師	坏	(11.4)	5.5	5.0	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	内面摩滅。回転糸切痕

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径)cm	高さ cm	底径(直径)cm	外面	内面	色調	焼成	備考
120	2	BSI17SD1	堆積土	土師	坏	(12.7)	4.8	(5.0)	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	回転糸切痕。丸底系
120	3	BSI16	床面	土師	坏	(12.5)	5.1	5.0	ロクロ	ロクロ	鈍橙	良	回転糸切痕。丸底系
		BSI17	床面										
120	4	BSI17SD1	⑥－２層	土師	坏	(12.0)	5.9	(5.0)	ロクロ	ロクロ	橙～灰黄褐	やや良	回転糸切痕
120	5	BSI16	床面	土師	坏	12.8	5.2	(4.6)	ロクロ	ロクロ	橙	良	
		BSI17カマド周辺	床面										
120	6	BSI17SD1	⑥－２層	土師	坏	13.0	(4.8)	－	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	
120	7	BSI17SD1	⑥－１・２層、堆積土	土師	甕	－	(7.2)	8.6	ケズリ	ナデ	浅黄橙～灰褐	やや良	砂底
120	8	BSI17	床面	土師	小型土器	6.4	4.4	3.9	ナデ	ナデ	鈍橙	良	
120	9	BSI16	床面	須恵	壺	(11.2)	(2.3)	－	ロクロ	ロクロ	黄灰	良	
		BSI17	床面										
120	10	BSI17SD1	⑥－２層	土師	甕	－	(4.0)	8.6	ケズリ、ナデ	ナデ	淡赤橙	やや良	
120	11	BSI17Pit10	１層	土師	甕	24.2	(30.4)	－	ナデ	ナデ	黒・浅黄橙	良	
120	12	BSI17	１層	須恵	壺	－	(4.1)	7.8	ケズリ、ナデ		灰	良	
120	13	BSI17カマド周辺	１層	須恵	甕	－	－	－	タタキ	当て具痕	灰	良	
120	14	BSI18カマド周辺	１・９層	土師	坏	13.4	6.7	5.4	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	やや良	スス付着。回転糸切痕
120	15	BSI18カマド周辺	１・７層	土師	坏	12.6	5.8	5.5	ロクロ	ロクロ	黒	良	回転糸切痕
120	16	BSI18SD1	１層	土師	坏	(14.4)	5.6	5.4	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	やや良	回転糸切痕
120	17	BSI18カマド周辺	４層	土師	坏	(16.6)	(7.25)	－	ロクロ	ロクロ	鈍橙	良	
120	18	BSI18、BSI18SD1	１層、②－２層	土師	坏	－	(6.9)	4.8	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	やや良	回転糸切痕
120	19	BSI18	８層	土師	坏	－	(5.6)	5.6	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	やや良	スス付着。回転糸切痕
120	20	BSI18SD1	１層	土師	坏	－	(5.1)	－	ロクロ	ロクロ	鈍橙	良	
120	21	BSI18	２層、床面	土師	坏	－	(4.8)	－	ロクロ	ナデ	灰黄～橙	良	
120	22	BSI18カマド周辺	２層	須恵	坏	(12.9)	4.9	(6.4)	ロクロ	ロクロ	灰黄	良	回転糸切痕。刻書
120	23	BSI18SD1	②－１層	須恵	坏	－	3.6	－	ロクロ	ロクロ	灰	良	刻書
121	1	BSI18	２層	土師	坏	－	(1.3)	(5.1)	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	回転糸切痕
121	2	BSI18	１層	土師	坏	－	(1.9)	(4.8)	ロクロ、ナデ	ロクロ	明黄褐	良	回転糸切痕
121	3	BSI18	堆積土	土師	坏	－	(0.8)	(6.4)			浅黄褐	良	回転糸切痕
121	4	BSI18SD1	②－１層	土師	坏	－	(1.2)	5.4	ナデ	ロクロ	浅黄橙	やや良	二次被熱。外底面粘土空隙。回転糸切痕
121	5	BSI18	７層	土師	坏	－	(2.2)	(5.0)	ロクロ	ロクロ	橙	良	外底面粘土不十分による空隙。回転糸切痕
121	6	BSI18SD1	②－１層	土師	坏	－	(3.8)	6.6	ロクロ、ナデ	ミガキ。黒色処理	橙	やや良	巻き込み?回転糸切痕。刻書。丼形
121	7	BSI18SD1	②－２層	土師	坏	－	(2.9)	6.5	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	回転糸切痕
121	8	BSI18SD1	②－１層	土師	坏	－	(2.3)	5.2	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	回転糸切痕
121	9	BSI18SD1、遺構外	②－１層、Ⅲ層	須恵	坏	－	(2.3)	(6.2)	ロクロ	ロクロ	灰白	良	回転糸切痕。刻書
121	10	BSI18SD1	②－２層	須恵	坏	－	(2.8)	5.2	ロクロ	ロクロ	灰	良	回転糸切痕
121	11	BSI18カマド周辺	１・７層	土師	甕	(22.4)	(13.3)	－	ロクロ、ナデ	ロクロ	橙	やや良	スス付着
121	12	BSI18カマド周辺	１・４・７層	土師	甕	(18.5)	16.0	8.6	ケズリ、ナデ	ナデ	黒～橙	良	砂底。器面の荒れ顕著
121	13	BSI18SD1	②－１層	土師	甕	－	(8.0)	－	ナデ	ナデ	鈍橙	良	
121	14	BSI18	１層	土師	甕	－	(4.5)	－	ナデ	ナデ	灰黄褐	やや良	スス付着
121	15	BSI18SD1	１層	土師	甕	－	(3.8)	10.0	ケズリ	ナデ	鈍黄橙	やや良	砂底
121	16	BSI18SD1	②－１層	土師	甕	－	(2.5)	(10.2)	ケズリ。底面荒いヘラケズリ		橙	やや良	
121	17	BSI18SD1	１層	土師	甕	－	(2.3)	7.4	ロクロ。底面整ったヘラケズリ。	ナデ。底面ナデツケ	鈍黄橙	良	
121	18	BSI18カマド	２・４層	土師	甕	－	(9.4)	(11.0)	ケズリ、ナデ	ナデ	灰黄褐	良	砂底
121	19	BSI18SD1	３層	須恵	壷	(12.2)	(3.1)	－	ロクロ	ロクロ	暗赤褐	良	
121	20	BSI18SD1	②－１層	須恵	甕	(19.0)	(5.8)	－	ロクロ	ロクロ	灰	良	
121	21	BSI18SD1	②－１層	須恵	甕	－	－	－	タタキ	当て具痕	灰	良	
121	22	BSI18カマド周辺	４層	須恵	坏	－	(6.1)	7.2	ロクロ	ロクロ	灰黄	良	回転糸切痕。非五所川原産

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径) cm	高さ cm	底径(直径) cm	外面	内面	色調	焼成	備考
121	23	BSI18SD1	①－１層	須恵	甕	－	－	－	タタキ		暗赤灰	良	
121	24	BSI18SD1	①－１層、②－３層	須恵	甕	－	－	－	タタキ	当て具痕	暗灰	良	
121	25	BSI18SD1	②－１・２層	須恵	甕	－	－	－	タタキ	ナデ	灰	良	遺構間接合
		BSI19SD1	堆積土										
121	26	BSI18SD1	①－１層	須恵	甕	－	－	－	タタキ	ナデ	黒	良	
122	1	BSI19SD2	堆積土	土師	坏	13.6	5.6	5.4	ロクロ	ロクロ	淡黄	良	回転糸切痕
122	2	BSI19SD2	堆積土	土師	坏	(12.6)	4.9	5.3	ロクロ	ロクロ	鈍橙	やや良	回転糸切痕
122	3	BSI19SD2	堆積土	土師	坏	13.0	6.5	5.0	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	スス付着。回転糸切痕
122	4	BSI19SD1	堆積土	土師	坏	(13.1)	5.3	(5.6)	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	やや良	スス付着。回転糸切痕
122	5	BSI19SD1	２・３層上面	土師	坏	13.0	5.6	5.0	ロクロ	ロクロ	灰白	良	回転糸切痕
122	6	BSI19SD1	２・３層上面	土師	坏	(12.2~13.4)	6.1	(5.0)	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	やや良	スス付着。回転糸切痕
122	7	BSI19SD1	堆積土	土師	坏	(10.4)	(5.1)	(5.0)	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	不良	回転糸切痕。器面の摩耗顕著
122	8	BSI19SD1	３層上面	土師	坏	－	(3.1)	4.9	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	やや良	回転糸切痕
122	9	BSI19SD1	堆積土	土師	坏	－	(2.6)	5.2	ロクロ		浅黄橙	やや良	回転糸切痕
122	10	BSI19SD1	堆積土	土師	坏	－	(1.7)	5.2			浅黄橙	やや良	回転糸切痕
122	11	BSI19SD1	２層	須恵	坏	(13.0)	4.7	(5.8)	ロクロ	ロクロ	灰白	良	回転糸切痕
122	12	BSI19Ⅰ・Ⅱ	貼床埋土	須恵	坏	(14.0)	(3.9)	－	ロクロ	ロクロ	黄灰	良	刻書
122	13	BSI19Ⅰ・Ⅱ	貼床埋土	須恵	坏	－	(1.75)	(5.6)	ロクロ	ロクロ	黄灰	良	回転糸切痕
122	14	BSI19SD1	３層上面	土師	坏	－	(5.6)	－	ロクロ	ミガキ。黒色処理	浅黄橙	良	回転糸切痕
122	15	BSI19SD1	堆積土	須恵	坏	－	(5.5)	－	ロクロ	ロクロ	浅黄橙～橙	良	スス付着
122	16	BSI19SB1 PIT3	堆積土	土師	甕	(9.1)	(3.3)	－			鈍褐	良	スス付着
122	17	BSI19SD1	３層上面、堆積土	土師	甕	(15.4)	15.4	(9.0)	ケズリ、ナデ。大きなヘラの一部が当たり細く見える。	ナデ	鈍橙	やや良	器面の荒れ顕著
122	18	BSI19SD1	１・２層	土師	甕	(20.8)	(4.8)	－	ロクロ、ナデ	ロクロ	浅黄橙	良	
122	19	BSI19SD1、遺構外	堆積土、Ⅱ層	土師	甕	－	(5.0)	7.5	ロクロ	摩滅	橙	不良	回転糸切痕
122	20	BSI19SD2	堆積土	土師	甕	－	(5.4)	7.0	ロクロ	ロクロ	淡橙	不良	回転糸切痕
122	21	BSI19SD1	堆積土	土師	甕	－	(3.5)	(6.6)	ロクロ、輪積み		鈍黄橙	良	砂底
122	22	BSI19SD1	３層上面	土師	甕	－	(19.6)	10.4	ケズリ	ロクロ、ナデ	浅黄橙	不良	
122	23	BSI19SD1	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	当て具痕	灰	良	
122	24	BSI19Ⅰ・Ⅱ期	貼床埋土	須恵	壷	(11.8)	2.0	－	ロクロ。口縁断面三角凸帯貼付	ロクロ	褐灰	良	
122	25	BSI19SD1	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	ナデ	灰	良	
122	26	BSI19SD1	３層上面	須恵	甕	－	－	－	タタキ	当て具痕	灰赤	良	
122	27	BSI19SB1 PIT3	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	ナデ	灰	良	
122	28	BSI19SD2	堆積土	須恵	甕	－	－	－	ロクロ、タタキ	ロクロ	黒灰	良	刻書
122	29	BSI19SD1	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	ナデ	暗灰	良	
122	30	BSI19SD1	３層上面	須恵	甕	－	－	－	タタキ		灰	良	
122	31	BSI19SD2	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	当て具痕	暗灰	良	
123	1	BSI21SD1	⑦－１層	土師	坏	－	(2.2)	5.3	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	回転糸切痕
123	2	BSI21SD1	⑦－１層	土師	甕	(8.2)	8.5	5.8	ナデ	ナデ	鈍黄橙	良	スス付着
123	3	BSI21SD1	③－１層	土師	甕	－	(3.6)	9.3	ナデ	ナデ	橙	やや良	砂底
123	4	BSB1PIT3	２層	須恵	甕	－	－	－	タタキ	ナデ	灰赤	良	
123	5	BSK9	堆積土	土師	坏	－	－	－	ロクロ	ミガキ。黒色処理	鈍黄橙	良	
123	6	BSK43	底面	土師	坏	－	(2.0)	5.2	ロクロ	ロクロ	灰黄褐～鈍黄橙	良	回転糸切痕
123	7	BSK43	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ		灰	良	
123	8	BSK44	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ		灰	良	
123	9	BSK60	堆積土	須恵	坏	(13.4)	(3.3)	－	ロクロ	ロクロ	淡黄	良	
123	10	BSK60	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ		灰	良	
123	11	BSK60	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	当て具痕	灰	良	
123	12	BSK60	堆積土	須恵	甕	－	－	－	タタキ	当て具痕	灰	良	
123	13	BSK60	粘土層	須恵	甕	－	－	－	タタキ、ロクロ	ロクロ、ナデ	黄灰	良	遺構間接合
		BSK61	堆積土										

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径)cm	高さ cm	底径(直径)cm	外面	内面	色調	焼成	備考
123	14	BSK61	堆積土	土師	坏	(13.0)	6.8	4.9	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	
123	15	BSK61	堆積土	土師	坏	−	(3.2)	6.0	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	
123	16	BSK61	粘土層	須恵	甕	−	−	−	タタキ		黄灰	良	
123	17	BSK62	堆積土	土師	坏	(13.6)	(4.45)	−	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	
123	18	BSK62	堆積土	土師	坏	(14.0)	(4.5)	−	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	
123	19	BSK62	堆積土	土師	甕	−	(2.4)	(9.0)	ナデ。底面ケズリ		黒	良	
123	20	BSK76 BSI19SD2	堆積土 2・3層	土師	甕	(9.5)	10.4	6.4	ケズリ	摩滅	鈍黄橙	やや良	遺構間接合。ススト付着。砂混入
123	21	BSK76	2・3層	須恵	壷	(9.2)	(2.8)	−	ロクロ	ロクロ	オリーブ黒〜灰オリーブ	良	
123	22	BSK76	2層	須恵	?	−	(2.9)	−	ナデ、布痕。底面指頭圧痕		鈍橙	良	非五所川原産
123	23	BSK78	1層	須恵	甕	−	−	−	タタキ		暗灰	良	
123	24	BSK81	2層	須恵	壷?	(6.0)	(2.5)	−	ロクロ	ロクロ	灰	良	
123	25	BSK79	1層	土師	甕	−	(5.9)	(10.8)	ケズリ、ナデ	摩滅	黄灰〜鈍橙	やや良	木葉痕?
123	26	BSK79	1層	土師	坏	−	(2.3)	4.9	摩滅	摩滅	浅黄橙	やや良	回転糸切痕
123	27	BSK79	1層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	当て具痕	暗オリーブ灰	良	
124	1	BSD1:CP−224	堆積土	須恵	壷	−	(1.9)	−	ロクロ	ロクロ	暗青灰	良	
124	2	BSD1:CR−227	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ		灰褐	良	
124	3	BSD6:CH−222	堆積土	須恵	坏	−	(2.9)	(5.8)	ロクロ	ロクロ	灰	良	回転糸切痕?
124	4	BSD10:DH−235	堆積土	須恵	坏	13.4	5.6	5.3	ロクロ。底面ヘラ調整(器肉削除)	ロクロ	灰褐	良	
124	5	BSD10:DG−235	堆積土	土師	坏	−	(3.5)	5.8	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	回転糸切痕
124	6	BSD10:DG−235	堆積土	土師	坏	−	(1.9)	5.6	ロクロ	ロクロ	鈍橙	良	回転糸切痕
124	7	BSD10	堆積土	土師	甕	(18.0)	(10.0)	−	ナデ	ナデ	橙	良	ススト付着
124	8	BSD10:DJ−233	堆積土	土師	小型土器	−	(3.5)	(4.0)	ナデ	ナデ	鈍黄橙	良	
124	9	BSD10:DH−235	堆積土	須恵	甕	−	(3.2)	−	ロクロ、ナデ		灰	良	
124	10	BSD10:DH−235	堆積土	土師	甕	−	(5.2)	13.2	ナデ	ナデ	黒褐	良	
124	11	BSD10:DH−235	堆積土	土師	壷	(17.4)	(3.4)	−	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	
124	12	BSD10:DG−235	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ		灰	良	
124	13	BSD10:DH−235	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	当て具痕	暗オリーブ灰	良	
124	14	BSD10:DJ−233	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	当て具痕	灰	良	
124	15	BSD10:DF−237	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	灰〜褐	良	
124	16	BSD10:DG−235	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	灰	良	
124	17	BSD10:DG−235	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ→横沈線	当て具痕	浅黄	良	
124	18	BSD13	2層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	灰	良	
124	19	BSD16	2層	土師	坏	−	(4.5)	4.9	ロクロ	ロクロ	灰白	やや良	回転糸切痕
124	20	BSD16	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	当て具痕	暗灰	良	
124	21	BSD16	堆積土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	灰	良	
124	22	BSD16	堆積土	土師	小型土器	−	(1.9)	2.8			灰白	良	
124	23	BSD22	確認面	土師	甕	−	(21.6)	−	ナデ、輪積み	ナデ	浅黄橙	良	ススト付着。粘土付着
124	24	BSD22	1層	土師	甕	−	(3.9)	(9.6)	ナデ	ナデ	浅黄橙	やや良	
124	25	BSD24	1層	土師	坏	−	(2.3)	(5.6)	ロクロ	ロクロ	鈍橙	良	回転糸切痕
124	26	BSD24	4層	土師	坏	−	(2.9)	5.2	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	やや良	回転糸切痕
124	27	BSD23	2層	土師	坏	(11.4)	(5.3)	−	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	
124	28	BSD23	4a層	土師	坏	−	(2.8)	5.4	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	回転糸切痕
124	29	BSD23	1層	土師	坏?	−	(4.0)	−	ナデ		鈍黄橙	やや良	外面摩滅

図	No	出土位置	層位	種別	器種	口径(直径)cm	高さ cm	底径(直径)cm	外面	内面	色調	焼成	備考
124	30	BSD23	3層	須恵	坏	−	(4.1)	7.4	ロクロ	ロクロ	暗青灰	良	回転糸切痕。非五所川原産
124	31	BSD23	2層	須恵	坏	−	(2.6)	5.8	ロクロ	ロクロ	灰白	良	回転糸切痕。刻書
124	32	BSD23	5層	土師	甕	(9.4)	9.7	6.0	ナデ	ナデ	褐灰・浅黄橙	やや良	スス付着。砂底
124	33	BSD23	4層	土師	甕	−	(6.9)	−	ナデ、輪積み	ナデ	橙	やや良	
124	34	BSD23	2層	須恵	甕	−	−	−			灰～オリーブ黒	良	
124	35	BSD23	2層	須恵	甕	−	−	−	タタキ		暗灰	良	
125	1	遺構外	Ⅱ・Ⅲ層	土師	坏	(12.0)	6.4	5.4	ロクロ。底面×字沈線	ロクロ	灰黄褐	やや良	回転糸切痕。BSX8周辺
125	2	遺構外	Ⅱ層	土師	坏	(13.1)	5.4	(5.2)	ロクロ、ナデ	ロクロ	橙	良	籾痕。回転糸切痕
125	3	遺構外	Ⅰ層	土師	坏	(12.4)	(5.1)	−	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	良	
125	4	遺構外	−	土師	坏	(13.1)	(3.6)	−	ロクロ	ロクロ	橙	良	BSI5SD1周辺
125	5	遺構外	Ⅱ層	土師	坏?	−	(1.8)	−	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	
125	6	遺構外	表土	須恵	坏	(15.1)	5.0	(5.6)	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	
125	7	遺構外	撹乱	須恵	坏	(15.0)	(4.1)	−	ロクロ	ロクロ	灰黄	良	
125	8	遺構外	Ⅱ・Ⅲ層	須恵	坏	−	(2.1)	(5.6)	ロクロ、ケズリ	ロクロ	灰	良	BSI10SD1周辺。回転糸切痕
125	9	遺構外	Ⅱ層	須恵	坏	−	(1.8)	(6.0)	ロクロ	ロクロ	黄褐	良	BSI10SD1周辺。回転糸切痕
125	10	遺構外	Ⅲ層	須恵	坏	(13.8)	5.2	5.6	ロクロ、ナデ	ロクロ	灰	良	回転糸切痕
125	11	DB−229	撹乱	土師	甕	−	(12.3)	−	ナデ	ナデ	浅黄橙	やや良	粘土付着。BSI9SD1周辺
125	12	遺構外	撹乱	土師	甕	(14.8)	(9.0)	−	ナデ	ナデ	鈍橙	不良	BSI16・17SD1周辺
125	13	CE−213・214	撹乱	土師	甕	24.5	(28.5)	−	ナタケズリ状、ナデ	ナデ	灰褐	やや良	BSI2周辺
125	14	DQ−238	風倒木	土師	甕	(22.0)	(24.1)	−	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ	灰黄褐	良	
125	15	FA−250	Ⅰ層	土師	甕?	−	(4.2)	−	ナデ	ナデ	鈍黄橙～橙	良	
125	16	DP−238	撹乱、風倒木	土師	甕	−	(6.45)	8.2	ケズリ、ナデ	ナデ	橙	やや良	砂底
125	17	DG−234	2層、堆積土	土師	甕	−	(1.2)	(9.8)			鈍黄橙	やや良	BSI10・11周辺。木葉痕
125	18	CE−214	撹乱	土師	甕	−	(9.1)	−	ロクロ、ケズリ、ナデ	ロクロ、ナデ	鈍黄橙	良	BSI2周辺
125	19	遺構外	表土	土師	塝	−	(6.3)	−	ナデ	ナデ	鈍橙	良	
125	20	FC−253	Ⅱ層	土師	小型土器	−	(3.1)	4.0～4.3	ナデ	ナデ	暗灰	良	
125	21	DQ−238	風倒木	土師	甕	−	(4.7)	6.3	ナデ	ナデ	鈍橙	良	
125	22	遺構外	表土	土師	甕	−	(3.5)	(5.7)	ナデ	ナデ	鈍橙	良	
125	23	遺構外	Ⅰ層	土師	甕	−	(2.2)	(4.7)	ナデ。底面指頭圧痕・ナデ痕	ナデ	灰	良	
126	1	DH−235	Ⅱ層	土師	壷	−	(3.2)	−	ロクロ	ロクロ	鈍黄橙	良	BSI10SD1周辺
126	2	CK−218	Ⅰ層	須恵	壷	(11.8)	(3.3)	−	ロクロ	ロクロ	暗オリーブ灰	良	
126	3	DG−231	表土	須恵	甕	−	(4.4)	−	ロクロ、ナデ。口唇部貼付	ロクロ	灰	良	刻書
126	4	CH−215	Ⅰ層	須恵	甕	(16.4)	(3.3)	−	ロクロ、ナデ	ロクロ	灰	良	
126	5	DP−237	撹乱	須恵	壷	(10.4)	2.2	−	ロクロ		黒	良	
126	6	DQ−238	Ⅱ層	須恵	甕	−	(4.95)	−	ロクロ→タタキ	ナデ	灰	良	刻書
126	7	EA−243	Ⅲ層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	暗灰	良	BSX8周辺
126	8	CE−214	撹乱	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ、当て具痕	暗緑灰	良	BSI2周辺
126	9	DG−237	表土	須恵	甕	−	−	−	タタキ	当て具痕	灰	良	
126	10	DQ−237	Ⅱ層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	当て具痕	黒・黄褐	良	
126	11	EA−243	撹乱	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	暗灰	良	BSX8周辺
126	12	EE−237	撹乱	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	青灰	良	BSI20周辺
126	13	EA−243	Ⅳ層	須恵	甕	−	−	−	タタキ	ナデ	灰	良	BSX8周辺

7．土製品〈古代〉

図	No	分類	出土位置	グリッド	層位	残存長mm	残存幅mm	残存厚mm	重量g	特徴・備考
128	1	土鈴	BSI11カマド周辺	DH−235	堆積土	72	35	33	60.0	紐部。外面：化粧粘土→ミガキ。BSI10堆積土出土破片と接合
128	2	土鈴	BSI11カマド	DH−235	堆積土	101	53	49	50.3	紐部～体部上半。外面：ナデ、指圧痕
128	3	土鈴	BSI10SD1SK1	DI−235	3層	59	33	31	13.8	紐部～体部上半。紐部下半に粘土粒貼付（付着?）
128	4	土鈴	BSI11SD1	DF−234	堆積土	57	27	27	13.8	
128	5	土鈴	遺構外	CH−214	Ⅰ層	43	27	22	7.3	紐部～体部上半。外面：指圧痕
128	6	土鈴	BSI10SD1	DI−235	堆積土	30	44	32	5.7	紐部～体部上半。側面図右側より焼成前に紐穴穿孔
128	7	土鈴	BSK60	DI−236	堆積土	35	21	22	2.3	紐部下半～体部上半
128	8	土鈴	BSI13SD1	DH−230	堆積土	30	48	34	11.0	紐部下半～体部上半
128	9	土鈴	BSI15SD1	CS−243	1層、堆積土	79	71	63	108.7	体部、鈴口部残存。外面：ミガキ、内面：ナデ
128	10	土鈴	BSI11カマド周辺	DH−235	堆積土	45	41	27	12.0	体部、鈴口部残存。内面：ナデ
128	11	土鈴	BSI10SD1	DI−234	堆積土	28	43	24	4.5	体部下半。鈴口部残存。内面：ナデ
128	12	土鈴	BSI6		掘方埋土	38	41	28	10.4	体部下半。鈴口部残存。外面：ナデ、内面：ナデ
129	1	土玉	BSI10SD1	DI−235	堆積土	12	12	11	0.7	黒褐色。焼成前穿孔
129	2	土玉	BSI13SD1	DG−230	堆積土	12	12	11	0.6	黒褐色。穿孔中途断念、再施工により貫通。焼成前穿孔
129	3	土玉	BSI10	DG−235	堆積土	17	17	13	1.3	灰白色～黒褐色。形状歪み。焼成前穿孔
129	4	球状	BSI4SD2		堆積土	29	27	23	8.2	土鈴の鈴子?
129	5	紐状	BSI21SD1	DB−214	1層	37	25	7	1.4	両先端摘まみ
129	6	−	BSI10	DG−234	堆積土	19	40	34	6.1	末端部鈴口?土鈴?
129	7	−	遺構外	DP−230	Ⅲ層	42	42	19	8.0	沈線文
129	8	−	BSI4	CL−224	堆積土	31	16	12	1.6	把手状。剥離面平坦
129	9	−	BSI21SD1	DB−214	1層	24	21	12	1.5	内外面調整不明
129	10	−	遺構外	GI−235	堆積土	7	29	26	2.0	末端部鈴口?土鈴?内面：ナデ
129	11	−	遺構外	DL−232	表土	14	26	31	2.8	土鈴?

8．焼成粘土塊

図	No	種類	出土位置	グリッド	層位	残存長mm	残存幅mm	残存厚mm	重量g	特徴・備考
129	12	焼成粘土塊	BSI11	DH−234	堆積土	77	102	60	413.6	平坦面残存
129	13	焼成粘土塊	BSI6	DD−214	6層	48	59	49	48.9	平坦面残存
129	14	焼成粘土塊	BSI6	DD−214	6層	41	65	49	81.5	平坦面残存
129	15	焼成粘土塊	BSI6	DD−214	6層	67	57	44	94.5	芯材?痕
129	16	焼成粘土塊	BSI4	CL−223	床直	84	70	60	294.7	円柱状。両末端欠損
写真58	①	焼成粘土塊	BSI11	DH−234	堆積土	78	124	56	343.4	被熱により一部黒色化

9．石製品

図	No	出土位置	層位	種類	時代	石材	備考	残存長mm	残存幅mm	残存厚mm	重量g
129	17	BSI4カマド周辺	床面	カマド芯材	平安	シルト岩		(161.0)	(65.0)	(45.0)	226.8
129	18	BSI4カマド周辺	床面	カマド芯材	平安	シルト岩		(118.0)	(92.0)	(54.0)	406.9
129	19	BSI4	床直	不明	平安	メノウ	完形	47.0	37.0	33.0	64.8
129	20	BSI10：DH－234	堆積土	不明	平安	凝灰岩	完形	34.0	33.0	(22.0)	18.5
129	21	BSK9	堆積土	不明	平安	凝灰岩	破片	(18.0)	(32.0)	(14.0)	6.3
129	22	BSI18カマド	7層	カマド芯材	平安	流紋岩		309.0	165.0	57.0	3282.6
129	23	FA－249	Ⅱ層	不明	縄文?	細粒凝灰岩	端部成形剥離、全面研磨、整形痕残存	(103.0)	57.5	28.5	282.8
129	24	EE－240	Ⅲ層	不明	縄文?	軽石	完形	69.0	40.0	27.0	21.1
129	25	CN－218	Ⅰ層	不明	不明	流紋岩質凝灰岩	破片	(40.0)	14.0	14.0	10.3
129	26	DC－218	Ⅲ層	円盤状石製品	縄文?	軽石凝灰岩	完形	60.0	59.0	59.0	63.0

10. 製塩土器

図	No	出土位置	グリッド	層位	部位	胎土	内面色調	外面色調	内面調整	外面調整	口縁整形	底面	器厚mm
130	1	BSI2SD1	－	堆積土	底部	砂粒	灰褐 (5YR6/2)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	ユビナデ	なし	－	柾目状 圧痕	16
130	2	BSI9SD2	CT－231	堆積土	底部	砂粒(多)	－	明赤褐 (2.5YR5/6)	－	なし	－	柾目状 圧痕	14
130	3	BSI10	DG－235	堆積土	口縁	砂粒、海綿 状骨針	にぶい橙 (5YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	ユビナデ	ヘラナデ	オサエ	柾目状 圧痕	9
130	4	BSI10	DG－234	堆積土	体部	砂粒(多)	－	橙 (7.5YR7/6)	－	ユビナデ	－	－	(10)
130	5	BSI10	DG－235	堆積土	底部	砂粒	橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/6)	ヘラナデ	指頭圧痕	－	柾目状 圧痕	13
130	6	BSI10	DG－235	堆積土	底部	砂粒(多)	にぶい赤褐 (10R6/4)	橙 (2.5YR6/6)	ナデ	なし	－	柾目状 圧痕	9
130	7	BSI10SD1	DH－235	2層	底部	砂粒	橙 (5YR6/6)	にぶい橙 (2.5YR6/4)	ナデ	なし	－	柾目状 圧痕	(9)
130	8	BSI10SK1	DH－236	3層	底部	砂粒(多)	－	橙 (5YR6/6)	－	なし	－	柾目状 圧痕	(13)
130	9	BSI11SD1	DF－234	堆積土	口縁	砂粒	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	ヘラナデ →ユビナデ	ユビナデ	ヘラ切り	－	8
130	10	BSI11SD1	DG－236	3層	体部	砂粒	にぶい橙 (5YR7/4)	橙 (7.5YR6/6)	ユビナデ	ユビナデ	－	－	8
130	11	BSI11	DG－233	堆積土	底部	砂粒(多)	－	橙 (2.5YR6/8)	－	指頭圧痕	－	柾目状 圧痕	(7)
130	12	BSI13SD1	－	堆積土	底部	砂粒	橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	ナデ	なし	－	柾目状 圧痕	21
130	13	BSI16	EE－239	2層	口縁	砂粒	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	ヨコナデ	なし	ヘラ切り →ナデ	－	9
130	14	BSI16	EF－238	床面	底部	砂粒、海綿 状骨針	－	橙 (2.5YR6/6)	－	なし	－	柾目状 圧痕	(11)
130	15	BSI18Pit2	EC－287	1層	口縁	砂粒(多)	口縁側:橙 (7.5YR7/6) 体部側:にぶい橙 (2.5YR6/4)	橙 (5YR6/6)	ヘラナデ →ユビナデ	なし	ヘラ切り	－	11
130	16	BSI17	EF－237	床面	体部	砂粒(多)	橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/3)	－	ユビナデ	－	－	8
130	17	BSI18SD1	EC－238	1層	口縁	砂粒	にぶい赤褐 (5YR5/4)	明赤褐 (5YR5/6)	ユビナデ	なし	ヘラ切り	－	9
130	18	BSI21SD1	CT－213	1層	体部	砂粒	にぶい橙 (5YR6/3)	淡橙 (5YR8/3)	ナデ	ユビナデ	－	－	9
130	19	BSI21SD1	CT－213	1層	底部	砂粒	橙 (2.5YR6/6)	橙 (5YR6/6)	ユビナデ	ユビナデ	－	柾目状 圧痕	14
130	20	BSI21SD1	CT－213	1層	体部	砂粒	にぶい橙 (2.5YR6/4)	橙 (5YR7/6)	ナデ	ユビナデ	－	－	9
130	21	BSI21SD1	CT－213	1層	体部	砂粒	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	－	ユビナデ	－	－	(8)
130	22	BSI21SD1	CT－213	1層	体部	砂粒	橙 (2.5YR6/8)	橙 (7.5YR6/6)	ヘラナデ	ナデ	－	－	9
130	23	BSI16･17 SD1	EG－236	撹乱	口縁	砂粒	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	ユビナデ	ユビナデ	ユビオサ エ	－	9
130	24	BSI16･17 SD1	EG－236	撹乱	体部	φ3mmを超 える丸みを 帯びた小礫	橙 (5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	－	ヘラナデ	－	－	(12)
130	25	BSI16･17 SD1	EG－236	撹乱	底部	φ3mmを超 える丸みを 帯びた小礫	－	橙 (7.5YR7/6)	－	指頭圧痕	－	柾目状 圧痕	(16)
130	26	遺構外	EG－236	Ⅲ層	底部	φ3mmを超 える丸みを 帯びた小礫	橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	－	ナデ	－	柾目状 圧痕	(22)

11. 支脚

図	No	出土位置	層位	部位	色調	上端外径mm	上端内径mm	下端径mm	器厚mm	器高mm	接合	外面調整	内面調整	胎土
131	5	BSI4	床直	上端部	浅黄橙 (10YR8/3)	(97)	－	－	16	－	外傾	ユビナデ	ユビナデ	砂粒
131	6	BSI18 カマド	燃焼部 2層	完形	灰白 (10YR8/2)	81	－	90	10	140	外傾	ヘラケズリ、 ヘラナデ	ユビナデ	砂粒
131	7	BSI4	床直	ほぼ完形	にぶい褐 (7.5YR5/4)	92	46	105	13	167	外傾		ユビナデ	砂粒

12. 鉄関連連遺物

羽口、炉壁、鉄滓

図	No	種別	種類	出土位置・グリッド	層位	特徴・備考	残存長mm	残存幅mm	残存厚mm	重量g	磁着度	メタル度
131	1	羽口	－	BSI11SD1SK1	堆積土	炉側溶解部～還元部。スサ(植物性繊維、籾)混入。外面:ナデ、内面:直線状痕(心棒抜き取り痕)。内孔径46mm。	204	102	83	819.4	3	－
131	2	羽口	－	BSI7カマド	床直	炉側溶解部(先端)～還元部。スサ(植物性繊維、籾)混入。内外面調整不明。内孔径42mm。	131	112	102	482.2	3	－
131	3	羽口	－	BSI16SD1	5層	炉側溶解部(先端)。	50	58	23	64.9	4	－
131	4	羽口	－	BSI10:DG－235	堆積土	輞側末端部。スサ(植物性繊維、籾)混入。内面:ナデ。	40	73	30	61.9	1	－
写真59	①	羽口？	－	BSI7カマド	床直	スサ(植物性繊維、籾)混入。胎土脆弱。内外面調整不明。	86	75	21	90.8	1	－
132	1	炉壁	－	BSI4	床面	気孔多く、比重軽い。籾殻、砂粒を多量に含む還元粘土に鉄滓付着。内面に砂鉄焼結が認められる	51	180	51	329.7	5	H(○)
132	2	鉄滓	含鉄椀形鍛冶滓	BSI16SD1:EH－236	2層	3層以上。底面:砂粒少量付着。	31	121	61	976.1	6	L(●)
132	3	鉄滓	含鉄椀形鍛冶滓	BSN1:FD－254	2層	約1/2残存、破面1。	74	51	23	79.3	9	H(○)
132	4	鉄滓	含鉄鉄滓	BSD23:DT－234	4層	破面7。上面、銹化。木炭圧痕。	143	55	50	198	5	H(○)
132	5	鉄滓	流動滓	BSI4:CM－223	床面	下面、粒状付着物少量。酸化色。滓は緻密で重量感有。	92	22	7	12.8	2	－
132	6	鉄滓	流動滓	BSI7カマド	不明	上下2本の流動単位。木炭圧痕。	53	13	12	7.5	2	－
写真59	②	鉄滓	含鉄鉄滓	BSI6SK1	5層	含鉄鍛冶滓、炉壁溶解物	105	25	16	16.1	4	H(○)
写真59	③	鉄滓	流動滓	遺構外	表土	破面3。酸化色。幅8mm程度の木炭圧痕が認められる。	30	25	26	26.4	2	－
132	7	鉄滓	滓付着礫	BSI4	床直	ガラス質滓、砂鉄?付着。安山岩。受熱にともなう黒色変化が認められる。加工、使用の痕跡はない。	24	74	54	422.7	3	－

鉄製品

図	No	種別	種類	出土位置	グリッド	層位	長：mm	幅：mm	厚：mm	重量：g
132	8	鉄製品	棒状鉄製品	BSI10	DG－235	堆積土	39	23	5	1.7
132	9	鉄製品	刀子	BSI10	DG－234	堆積土	28	22	3	2.8
132	10	鉄製品	刀子	BSK76	DE－240	3層	74	16	4	9.1
132	11	鉄製品	刀子	BSI11SD1	DG－233	堆積土	120	13	4	10.6

鉄関連遺物重量表（単位：g）

出土位置	鉄製品	羽口(重量：g)	鉄滓（重量(g)/点数）					
			流動滓	炉壁	含鉄鉄滓	含鉄椀形鍛冶滓	鉄滓	ガラス質滓
BSI4			342.4					
			12.7/1	329.7/1				
BSI6SK1			342.4					
					16.1/1			
BSI7		874.9	7.5					
			7.5/1					
BSI10	4.5	98.9	71.8					
			21.0/1				50.8/1	
BSI10SD1SK1			4.1					
			4.1/1					
BSI11SD1	10.6							
BSI13SD1			17.0					
			4.7/1					12.3/1
BSI16SD1		64.9	976.1					
						976.1/1		
BSI18SD1		97.4						
BSK61			10.9					
			10.9/1					
BSK76	9.1		27.6					
							27.6/1	
BSD10			5.7					
			5.7/1					
BSD23			198.0					
					198.0/1			
BSN1			79.3					
						79.3/1		
遺構外		66.9	26.4					
			26.4/1					
合計		1203.0	2109.2					
			93.0/8	329.7/1	214.1/2	1055.4/2	78.4/2	12.3/1

13. 近世以降の遺物

古銭

図	No	種別	外径（mm）	穿径（mm）	重量（g）	備考
132	14	寛永通宝(新寛永)	23	6	1.7	完形、「元」

土人形

図	No	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	色調	焼成	胎土
132	12	土人形(鶏)	23	26	19	4.6	にぶい褐(7.5YR5／4)	良	良、海綿状骨針含む
132	13	土人形(婦人)	19	29	22	7.5	明褐(7.5YR5／6)	良	良、海綿状骨針含む

陶磁器

写真	No	種別	出土位置	グリッド	層位	器種	産地	年代	特徴
70	1	陶器	遺構外	CS−244	Ⅱ層	擂鉢	肥前	17C中葉?	内外面無釉、内面櫛描による擂目。胎土軟質
70	2	陶器	BSI11SD1	DF−234	底面	擂鉢	肥前	17C後半	口縁部。内外面無釉、内面櫛描による擂目（引きっぱなし）、口縁部玉縁状
70	3	陶器	遺構外	DF−233	表土	壷	肥前	17C後半	外面櫛描・鉄釉、内面無釉で格子状叩目
70	4	磁器	遺構外	DC−231	表土	皿	肥前	17C後半	口縁部。外面貫入
70	5	磁器	遺構外	CA−288	表土	皿	肥前	17C後半	口縁部。内面染付。焼成不良により胎土陶質で発色も不良
70	6	陶器	遺構外	DD−235	表土	皿	肥前	17C代	口縁部。内外面灰釉で貫入あり
70	7	陶器	遺構外	DB−212	Ⅰ層	皿	肥前	17C後半～18C前半	内外面灰釉で貫入あり、蛇目釉剥に鉄釉
70	8	陶器	遺構外	CF−222	Ⅰ層	皿	肥前	17C後半～18C前半	内面銅緑釉、外面透明釉
70	9	陶器	遺構外	−	Ⅰ層	皿	肥前	17C後半～18C前半	口縁部。内面銅緑釉、外面透明釉
70	10	陶器	遺構外	DB−228	表土	擂鉢	肥前	17C後半～18C前半	内外面鉄釉、口縁部玉縁状
70	11	陶器	BSI9SD1	DB−229	堆積土	擂鉢	肥前	17C後半～18C前半	内外面鉄釉、口縁部玉縁状
70	12	磁器	遺構外	CI−214	Ⅰ層	瓶	肥前	18C代	頚部。外面染付、内面無釉
70	13	磁器	遺構外	CN−218	Ⅰ層	碗	肥前	18C代	外面染付、高台内に銘
70	14	磁器	遺構外	CG−213	Ⅰ層	碗	肥前	18C代	外面染付、高台内に銘
70	15	磁器	遺構外	CE−216	Ⅰ層	皿	肥前	18C代	口縁部
70	16	磁器	遺構外	−	Ⅰ層	碗	肥前	18C代	外面染付
70	17	磁器	遺構外	CI−236	Ⅱ層	皿	肥前	18C代	内面蛇目釉剥
70	18	磁器	遺構外	−	Ⅰ層	碗	肥前	18C代	外面染付
70	19	磁器	遺構外	−	Ⅰ層	皿	肥前	18C代	内外面染付
70	20	磁器	遺構外	CI−214	Ⅰ層	碗	肥前	18C代	外面染付
70	21	磁器	遺構外	FC−252	Ⅱ層	皿	肥前	18C代	口縁部。内面染付
70	22	磁器	遺構外	DA−242	Ⅰ層	瓶	肥前	18C代	外面染付、内面無釉
70	23	磁器	BSX8周辺	EA−243	4層	皿	肥前	18C代	外面染付、高台内釉とぎれ
70	24	磁器	遺構外	DC−231	表土	碗	肥前	18C代	内外面透明釉
70	25	磁器	遺構外	−	Ⅰ層	碗	肥前	18C代	内外面透明釉
70	26	磁器	遺構外	−	Ⅰ層	皿?	肥前	18C代	内外面透明釉
70	27	磁器	遺構外	−	Ⅰ層	皿?	肥前	18C代	青磁釉
70	28	陶器	BSI9SD2	CA−231	堆積土	擂鉢	肥前	18C代	口縁部。内外面鉄釉、内面櫛描による擂目
70	29	陶器	遺構外	CT−229	表土	擂鉢	肥前	18C代	内外面鉄釉、内面櫛描による擂目（上端揃え）
70	30	陶器	遺構外	CF−213	撹乱	擂鉢	肥前	18C代	内外面剥落、高台との接合部か、外面鉄釉
70	31	陶器	遺構外	DB−214	Ⅱ層	瓶?	肥前	18C代	外面鉄釉、内面無釉
70	32	陶器	遺構外	DA−231	表土	瓶	肥前	18C代	外面白化粧土による刷毛目、内面無釉で鉄付着
70	33	陶器	遺構外	CN−218	Ⅰ層	瓶	肥前	18C代	外面白化粧土による刷毛目、内面無釉
70	34	磁器	遺構外	CI−214	Ⅰ層	皿	肥前	18C代	青磁釉
70	35	陶器	遺構外	CH−222	Ⅰ層	火入れ?	肥前	18C代	外面上位鉄釉下位露胎、内面無釉で鉄付着
70	36	陶器	遺構外	調査区西側	Ⅰ層	擂鉢	肥前	18C代	内外面鉄釉？、内面櫛描による擂目
70	37	陶器	遺構外	CS−229	表土	壷	肥前	18C代	外面鉄釉、内外面格子状叩目
70	38	陶器	遺構外	DA−212	Ⅰ層	鉢	肥前	18C代	内面白化粧土による刷毛目､内外面口縁鉄釉､外面下位露胎
70	39	陶器	遺構外	DF−230	表土	擂鉢	肥前	18C代?	片口部。外面鉄釉、内面無釉？、内面櫛描による擂目（引きっぱなし）
70	40	磁器	遺構外	EF−244	Ⅰ層	碗	瀬戸?	19C中葉以降	小碗。内外面染付（コバルト）
70	41	磁器	遺構外	ED−243	Ⅰ層	碗	瀬戸?	19C中葉以降	内外面染付（コバルト）
70	42	磁器	遺構外	CI−214	Ⅰ層	碗	肥前	19C中葉以降	外面染付（コバルト）
70	43	磁器	BSI16･17	−	堆積土	碗	瀬戸?	19C後葉以降	内外面型紙刷による染付（コバルト）
70	44	土器	遺構外	CH−213	Ⅰ層	焜炉	不明	19C中葉以降	“さな”部分。外面は全面粗砂付着痕、一部粗砂付着
70	45	陶器	遺構外	CT−223	表土	皿	肥前?	不明	内外面灰釉
70	46	中間	遺構外	DI−219	Ⅱ層	不明	不明	不明	口縁部。胎土は陶器と磁器の中間的。内外面鉄釉？付着、外面浮文による文様と圏線

A区　検出（NW →）

A区　作業風景：平成 14 年（SE →）

B区中央　遠景：平成 14 年（N →）

B区南側段丘上：平成 15 年（NW →）

B区中央　全景：平成 14 年（NW →）

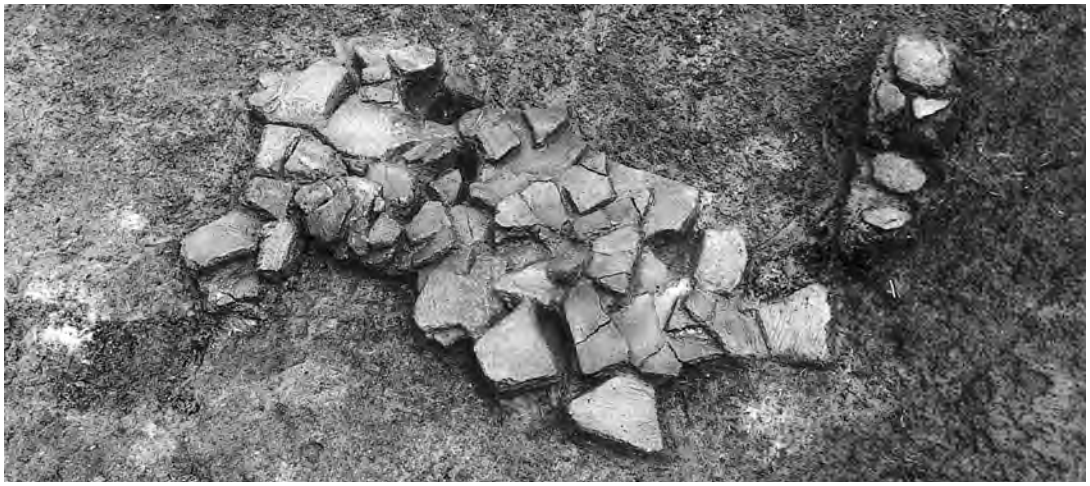
B区中央　全景：平成 14 年（N →）

写真 11　A区・B区全景

完掘（E →）

土層（S →）

土層（E →）



遺物出土状況（N →）

写真 12　第 14 号竪穴住居跡

第 1 号土器埋設遺構(BSR1)確認（NE →）

第 1 号土器埋設遺構側面（E →）

第 1 号土器埋設遺構土層（E →）

第 1 号土器埋設遺構底面（E →）

土器片集積遺構 1(BSX3)確認（N →）

土器片集積遺構 1(BSX3）土層、遺物出土状況（SW →）

土器片集積遺構 2(BSX4)土層（SE →）

土器片集積遺構 2(BSX4)遺物出土状況（SW →）

写真 13　土器埋設遺構、土器片集積遺構

土層（W →）

完掘（W →）

カマド完掘（W →）

カマド土層（S →）

外周溝土層：C － C′（W →）

外周溝西側工具痕（S →）

写真 14　第 1 号竪穴住居跡

完掘（W →）

土層（S →）

土層（W →）

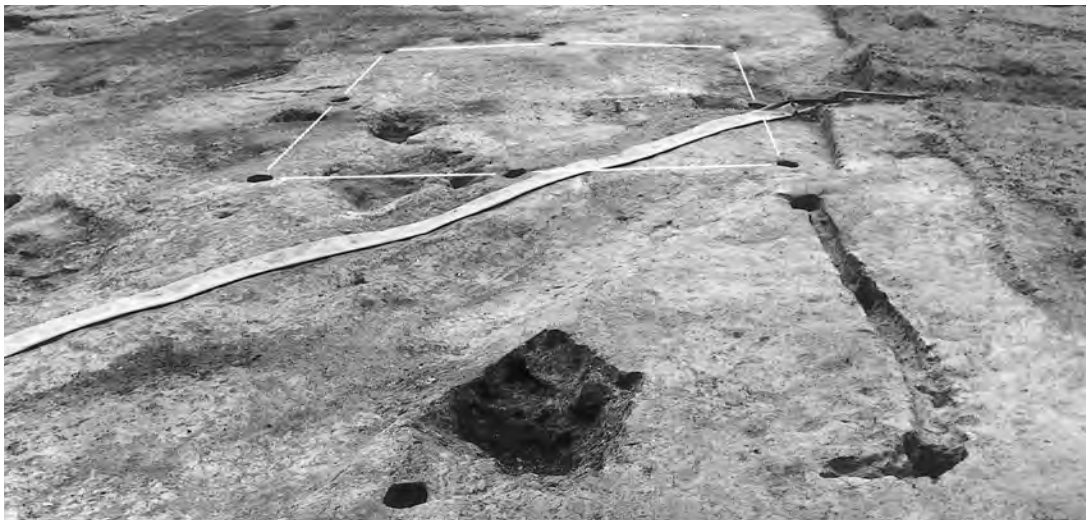
炭化材出土状況（W →）

外周溝土層：A － A′（S →）

遺物出土状況（S →）

外周溝南側工具痕（W →）

写真 15　第 2 号竪穴住居跡



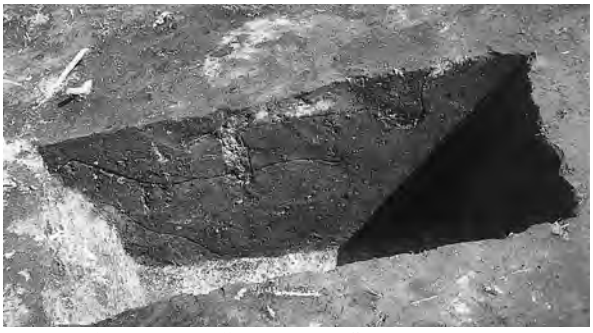
第 3 号竪穴住居跡完掘（W →）

第 3 号竪穴住居跡 SB1 Pit2 土層（S →）

第 3 号竪穴住居跡壁溝土層：D － D′（W →）

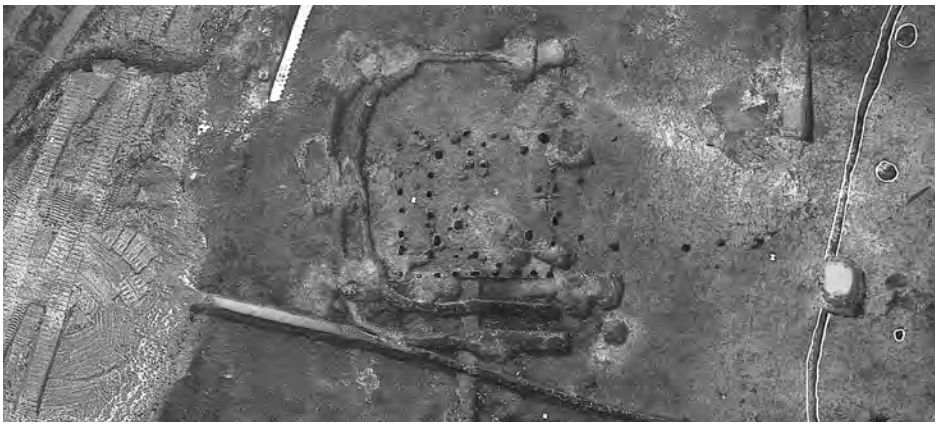
第 5 号竪穴住居跡完掘（N →）

第 5 号竪穴住居跡炭化材出土状況（N →）



第 5 号竪穴住居跡外周溝土層（E →）

写真 16　第 3 ・ 5 号竪穴住居跡



完掘（真上）

完掘（S →）

炭化材出土状況（S →）

写真 17　第 4 号竪穴住居跡（1）

第 4 号竪穴住居跡カマド完掘（W →）

第 4 号竪穴住居跡カマド土層（S →）

第 10 号(右)・67 号(左)土坑完掘（W →）

第 10 号土坑土層（S →）

第 6 号竪穴住居跡完掘（W →）

第 6 号竪穴住居跡土層（S →）

写真 18　第 4 号（2）・第 6 号竪穴住居跡（1）、第 10・67 号土坑

第 6 号竪穴住居跡炭化材・遺物出土状況（W →）

第 6 号竪穴住居跡カマド完掘（NW →）

第 6 号竪穴住居跡遺物出土状況（W →）

第 6 号竪穴住居跡外周溝土層：F － F′（S →）

第 14 号土坑土層（E →）

第 14 号土坑遺物出土状況（E →）

第 14 号土坑 B-Tm 火山灰検出状況（E →）

写真 19　第 6 号竪穴住居跡（2）、第 14 号土坑

完掘（真上）

第 7 号竪穴住居跡完掘（W →）

第 7 号竪穴住居跡土層断面（S →）

第 9 号溝跡完掘（W →）

第 7 号竪穴住居跡炭化物・焼土出土状況（W →）

第 9 号溝跡土層（W →）

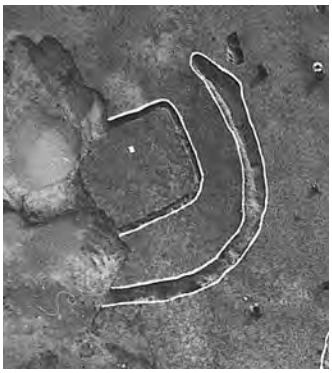
写真 20　第 7 号竪穴住居跡（1）、第 9 号溝跡

第 7 号竪穴住居跡第Ⅱ期カマド遺物出土状況（W →）

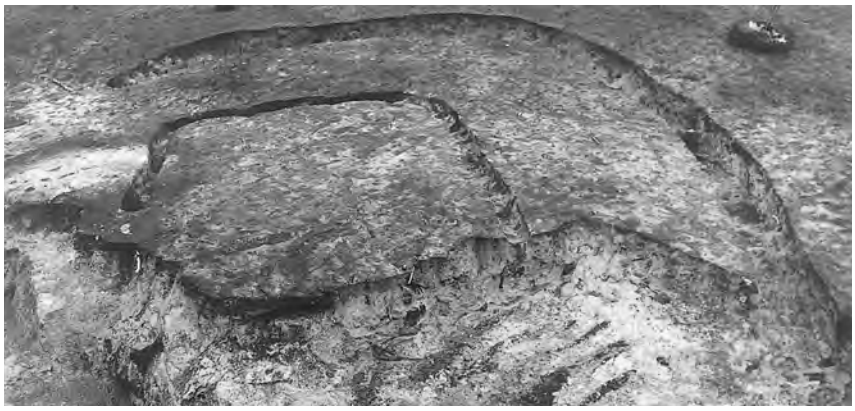
第 7 号竪穴住居跡第Ⅰ期カマド完掘（W →）

第 7 号竪穴住居跡
カマド遺物（W →）

第 7 号竪穴住居跡第 3 号土坑
遺物（E →）



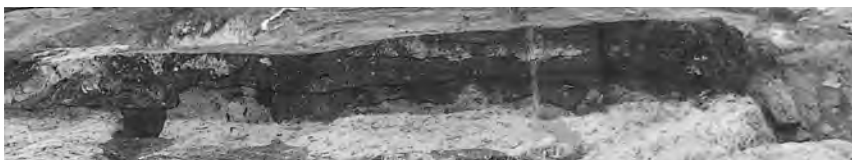
第 8 号竪穴住居跡（真上）



第 8 号竪穴住居跡完掘（N →）

第 9 号竪穴住居跡（真上）

第 9 号竪穴住居跡完掘（W →）



第 9 号竪穴住居跡土層（W →）

外周溝 1（右）・ 2（左）土層：G － G′（W →）

外周溝 1（右）・ 2（左）土層：H － H′（W →）

写真 21　第 7 号（2）・ 8 号・ 9 号竪穴住居跡

第 10・11 号竪穴住居跡（真上）

完掘（N →）

土層（N →）

土層（E →）

炭化材出土状況（E →）

写真 22　第 10・11 号竪穴住居跡（1）

第 11 号竪穴住居跡カマド土層（NE →）

第 10 号(右)・第 11 号(左)カマド完掘（NW →）

第 10 号カマド完掘（NW →）

第 10 号カマド支脚（NW →）

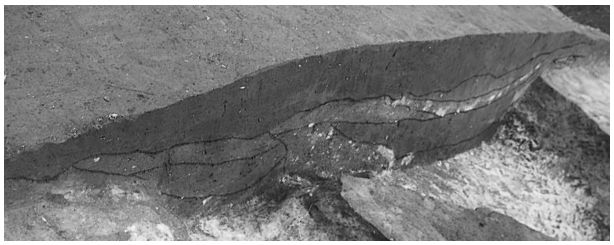
第 10 号カマド土層 B（NW →）

第 10 号カマド土層 C（NE →）

写真 23　第 10・11 号竪穴住居跡（2）

第 11 号住居跡外周溝土坑焼土・遺物（NW →）

第 10 号住居跡外周溝（上）、第 11 号住居跡外周溝（下）
土層：N － N′（NE →）


第 10 号住居跡外周溝（右）、第 11 号住居跡外周溝（左）
土層：Q － Q′（NW →）

第 12 号竪穴住居跡完掘（NW →）

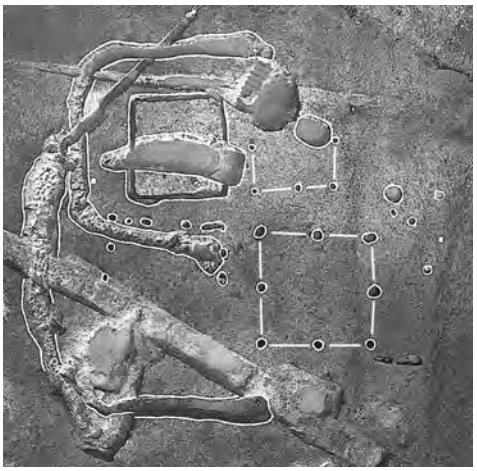
第 12 号竪穴住居跡土層（NW →）

住居跡壁溝土層②（S →）

住居跡遺物出土状況（S →）

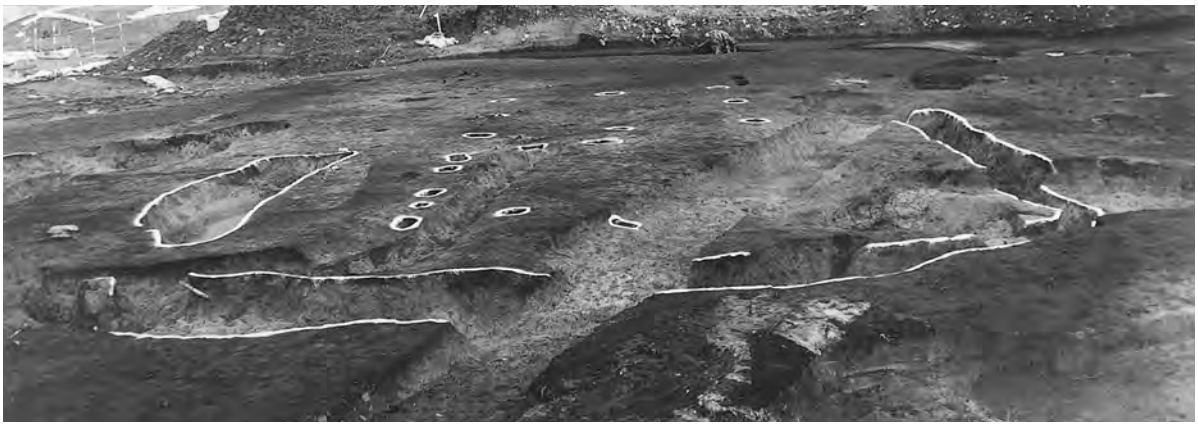
第 12 号竪穴住居跡外周溝：C － C′（W →）

写真 24　第 10・11 号（3）、第 12・13 号竪穴住居跡（1）



第 12・13 号竪穴住居跡（真上）

第 13 号竪穴住居跡外周溝土層：F － F′（E →）



第 13 号竪穴住居跡完掘（NW →）

第 12 号住居跡外周溝（左）、第 13 号住居跡外周溝（右）切り合い（N →）

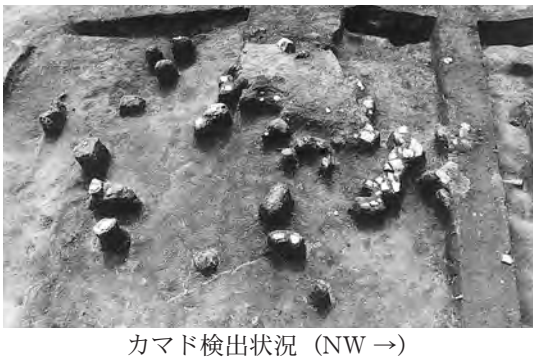
写真 25　第 12・13 号竪穴住居跡（2）

完掘（SE →）

土層（SE →）

遺物出土状況（SE →）

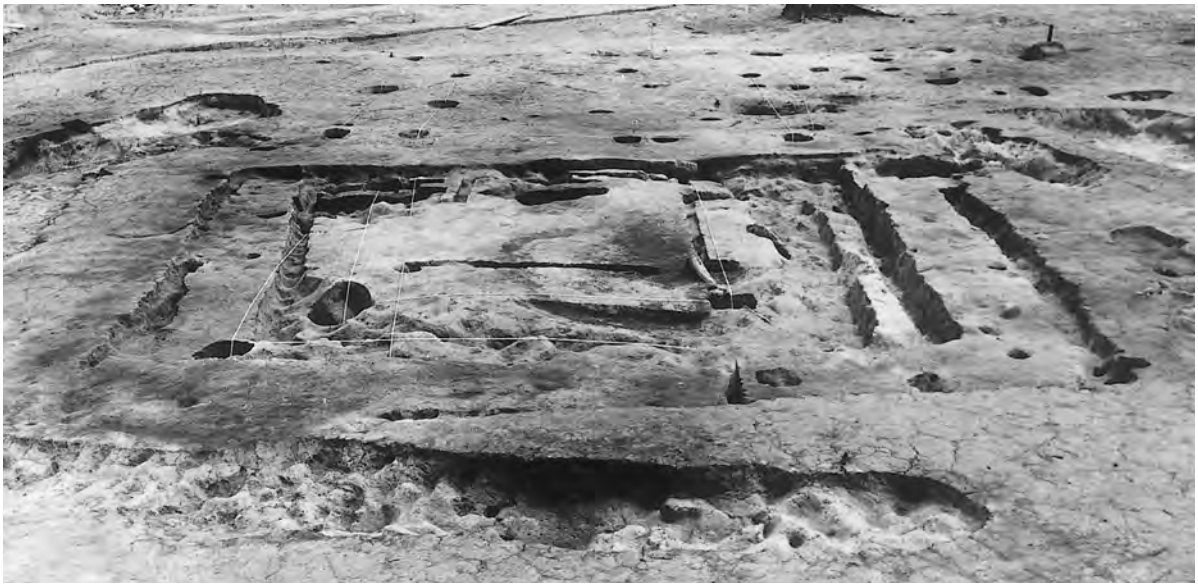
外周溝土層（SE →）



カマド検出状況（NW →）

写真 26　第 15 号竪穴住居跡

第 16・17・20 号竪穴住居跡完掘①（W →）



第 16・17・20 号竪穴住居跡完掘②（W →）

第 16・17 号住居跡土層（SE →）

第 16 号住居跡
ピット 1 柱痕完掘（W →）

第 16 号住居跡
ピット 1 土層（W →）

第 17 号住居跡ピット 10 遺物出土状況（NE →）

第 16 号住居跡カマド土層（SW →）

写真 27　第 16・17・20 号竪穴住居跡（1）

第 20 号竪穴住居跡カマド（N →）

第 16 号住外周溝(左)、第 17 号住外周溝(右)土層：C － C′（E →）

第 20 号竪穴住居跡カマド土層（W →）

第 17 号住居跡外周溝土層：F － F′（N →）

第 21 号竪穴住居跡検出状況（S →）

第 21 号竪穴住居跡完掘（S →）

第 21 号住居跡外周溝北側焼土･遺物出土状況（N →）

第 21 号住居跡外周溝土層：C － C′（N →）

写真 28　第 16・17・20 号(２)、第 21 号竪穴住居跡

完掘（W →）

外周溝先端部（S →）

土層（W →）

カマド完掘（W →）

外周溝土層：J － J′（W →）

遺物出土状況（S →）

外周溝遺物出土状況（E →）

写真 29　第 18 号竪穴住居跡

第 15 号溝跡土層：M － M′（W →）

第 17 号溝跡
土層：R － R′（S →）

第 17 号溝跡工具跡（S →）

第 17 号溝跡完掘（S →）

第 19 号竪穴住居跡完掘（E →）

第 19 号竪穴住居跡土層（N →）

外周溝 2
土層：H － H′（E →）

第 19 号竪穴住居跡外周溝 1（左）、外周溝 2（右）土層：F － F′（E →）

外周溝 1 先端部
遺物出土状況（S →）

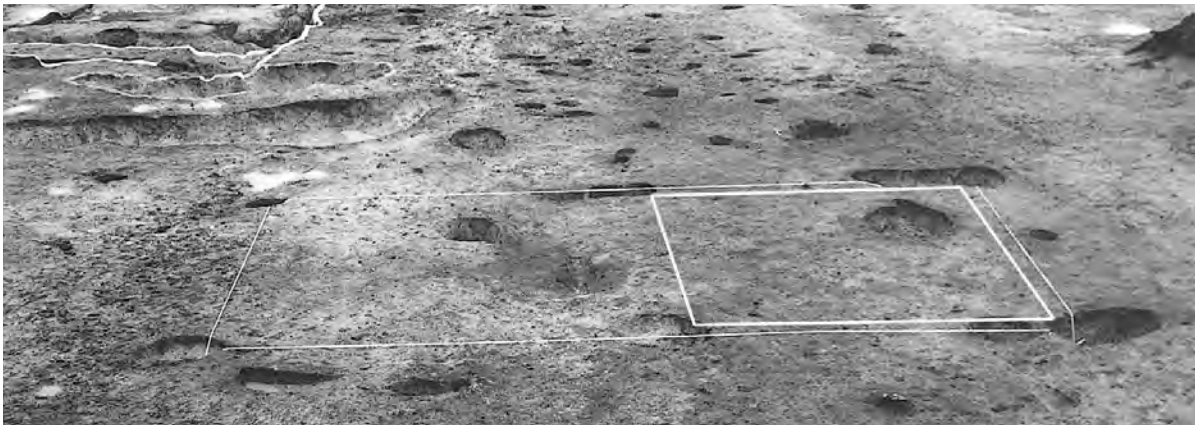
写真 30　第 19 号竪穴住居跡、第 15・17 号溝跡

第 1 号掘立柱建物跡完掘（S →）

第 1 号掘立柱建物跡ピット 4 完掘（W →）

第 1 号掘立柱建物跡ピット 1 完掘 (SE →)

第 1 号掘立柱建物跡ピット 4 土層断面（E →）



第 2 号 (外)・第 5 号 (内) 掘立柱建物跡完掘（S →）

第 2 号掘立柱建物跡ピット 2 完掘 (W →)

第 2 号掘立柱建物跡ピット 8 完掘（S →）

第 2 号掘立柱建物跡ピット 8 土層 (S →)

写真 31　第 1 ・ 2 ・ 5 号掘立柱建物跡

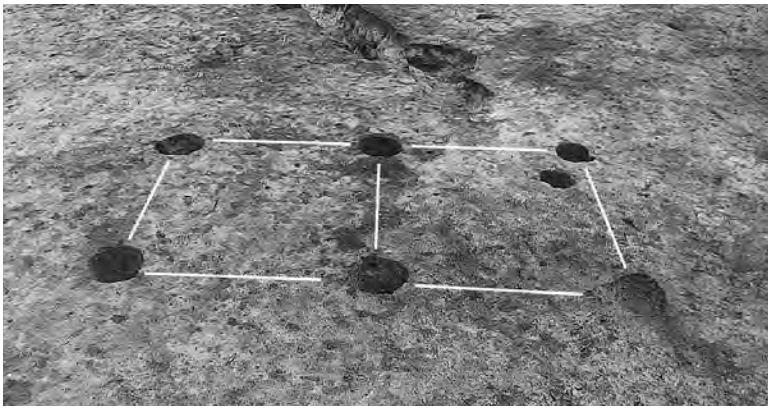
第 3 号掘立柱建物跡完掘（SE →）

第 3 号掘立柱建物跡ピット 5 完掘（SE →）

第 3 号掘立柱建物跡ピット 3 完掘（SE →）

第 3 号掘立柱建物跡ピット 3 土層（SE →）

第 3 号掘立柱建物跡ピット 5 土層（SE →）


第 4 号掘立柱建物跡完掘（E →）

第 4 号掘立柱建物跡ピット 3 完掘（SE →）

第 4 号掘立柱ピット 5 完掘（SE →）

第 4 号掘立柱ピット 5 土層（E →）

第 4 号掘立柱ピット 3 土層（E →）

写真 32　第 3 ・ 4 号掘立柱建物跡

第 1 号溝跡完掘（SW →）

第 1 号溝跡完掘（W →）

第 1 号溝跡土層：C － C′（NE →）

第 6 号溝跡完掘（SE →）

第 6 号溝跡南側完掘（NW →）

第 11 号溝跡完掘（S →）

第 6 号溝跡土層：B － B′（SE →）

第 6 号溝跡土層：F － F′（E →）

第 11 号溝跡土層：A － A′（N →）

写真 33　第 1 ・ 6 ・ 11 号溝跡

第 8 号溝跡完掘（NW →）

第 10 号溝跡完掘（E →）

第 10 号溝跡完掘（W →）

第 8 号溝跡土層（E →）

第 10 号溝跡土層：A － A′（E →）

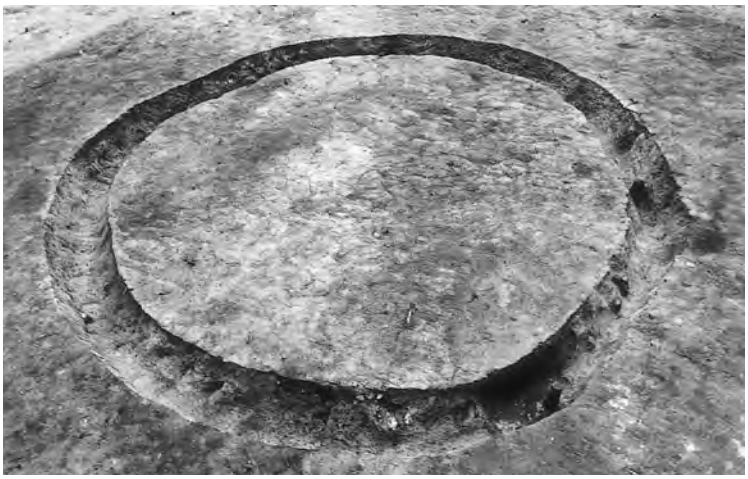
第 13 号溝跡完掘（E →）

第 13 号溝跡完掘（S →）

第 13 号溝跡土層：E － E′（S →）

第 13 号溝跡土層：C － C′（SE →）

写真 34　第 8 ・ 10 ・ 13 号溝跡



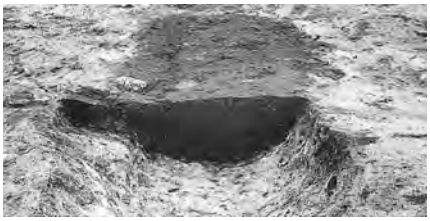
第 16 号溝跡完掘（N →）

第 20 号溝跡完掘（NE →）

第 22 号溝跡完掘（NW →）

第 16 号溝跡土層：C － C′（S →）

第 22 号溝跡土層:C － C′(S →)



第 20 号溝跡土層：A － A′（E →）

第 23(右)・24 号(左)溝跡完掘（SE →）

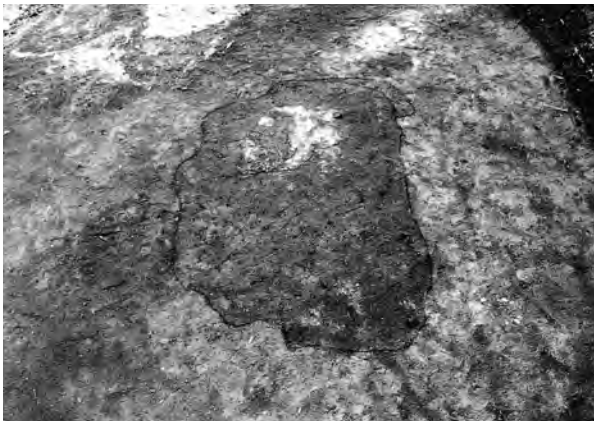
第 23 号溝跡炭化材出土状況（NE →）

第 23(左)・24 号(右)溝跡土層：B － B′（N →）

写真 35　第 16・20・22 ～ 24 号溝跡

焼土遺構(BSN1)焼土範囲（S →）

BSN1 土層（S →）



焼土・炭化物集積遺構(BSX6)検出（SE →）

BSX6 土層①（NW →）

BSX6 土層②（NE →）

BSX6 ピット 1 完掘（S →）

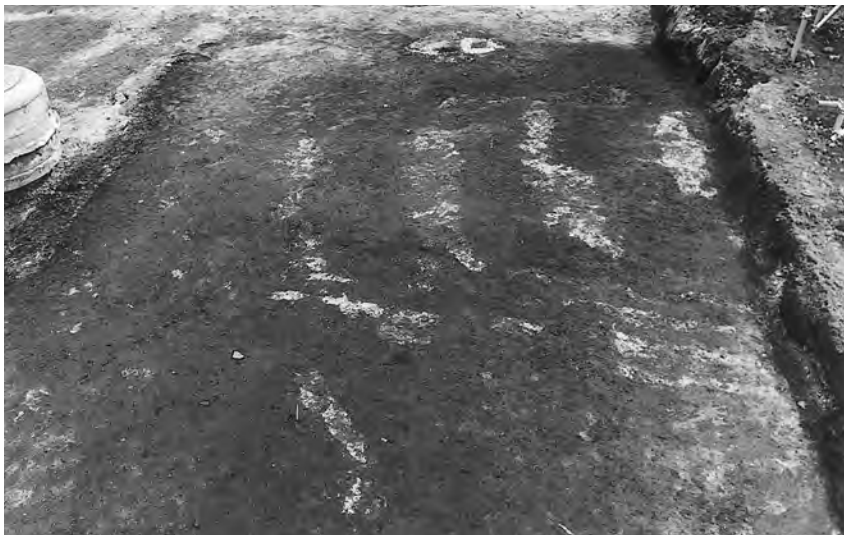
BSX6 掘り方（E →）

ピット 2 炭化物出土状況（N →）

ピット 1 土層（S →）

写真 36　焼土・炭化物集積遺構

柱列(BSX5)完掘（SE →）

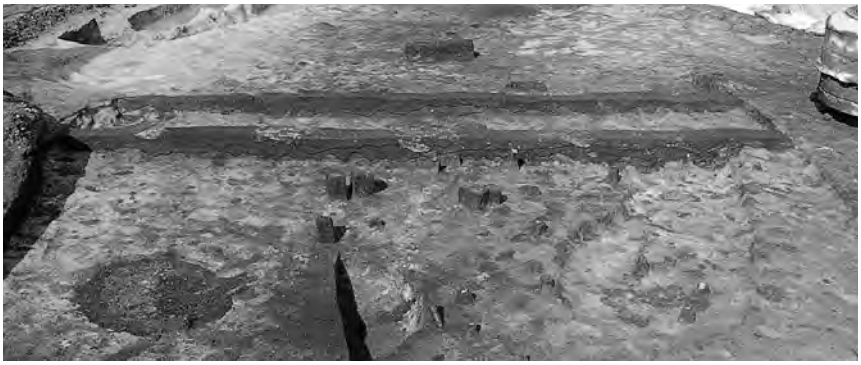


畠跡(BSX8)検出（W →）

柱列ピット２土層（S →）

畠跡土層①（SE →）

畠跡完掘（E →）



畠跡土層②（SE →）

土壌サンプル採取地点

写真 37　柱列、畠跡

BPit12 ～ 23 完掘（S →）

BPit77 ～ 82 完掘（S →）

BPit36 完掘（W →）

BPit36 土層（W →）

BPit12 完掘（E →）

調査区中央（NW →）

BSX1：当初、道路跡と思われた箇所

調査区西側（SE →）

土層①（E →）

土層②（E →）

写真 38　ピット群、その他

第 50 号土坑土層（S →）

第 50 号土坑完掘（S →）

第 51 号土坑土層（S →）

第 51 号土坑完掘（S →）

第 54(左)・55 号(右)土坑土層（S →）

第 54(左)・55 号(右)土坑完掘（S →）

第 75 号土坑土層（E →）

第 75 号土坑完掘（N →）

第 89 号土坑土層（NE →）

第 89 号土坑完掘（S →）

写真 39　土坑（1）

第 9 号土坑土層（N →）

第 9 号土坑完掘（W →）

第 9 号火山灰検出状況（N →）

第 79 号土坑遺物出土状況（S →）

第 79 号土坑土層（S →）

第 79 号土坑完掘（S →）

第 76 号土坑土層（N →）

第 76 号土坑完掘（S →）

第 16 号土坑土層（SW →）

第 16 号土坑完掘（W →）

写真 40　土坑（2）

第 43 号土坑土層（SE →）

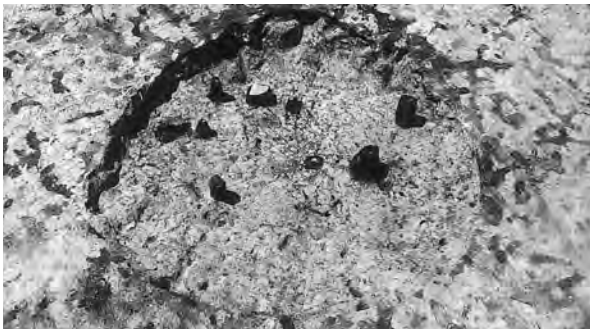
第 43 号土坑完掘（NE →）

第 49 号土坑土層（SE →）

第 49 号土坑完掘（SE →）

第 58 号土坑土層（NE →）

第 58 号土坑完掘（NW →）



第 69 号土坑遺物出土状況（N →）

第 71 号土坑火山灰検出状況（E →）

第 71 号土坑土層（SE →）

第 71 号土坑完掘（SE →）

写真 41　土坑（3）

第 60 号土坑土層（NW →）

第 60 号土坑完掘（NW →）

第 60 号土坑遺物出土状況（NW →）

第 62 号土坑完掘（N →）

第 61 号土坑土層（NW →）

第 61 号土坑完掘（SW →）

第 70 号土坑土層（SW →）

第 70 号土坑完掘（SW →）

第 83 号土坑土層（W →）

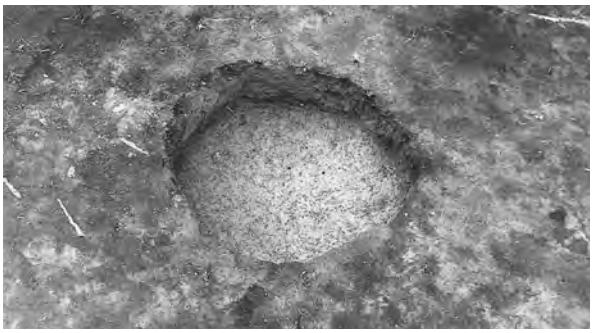
第 83 号土坑完掘（W →）

写真 42　土坑（4）

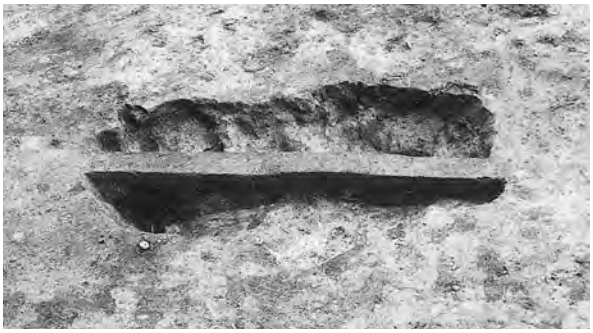
第 45(右)・46(中)・47(左)号土坑土層（NE →）

第 45(右)・46(中)・47(左)・48(奥)号土坑完掘（NE →）

A 区第 10 号土坑土層（S →）

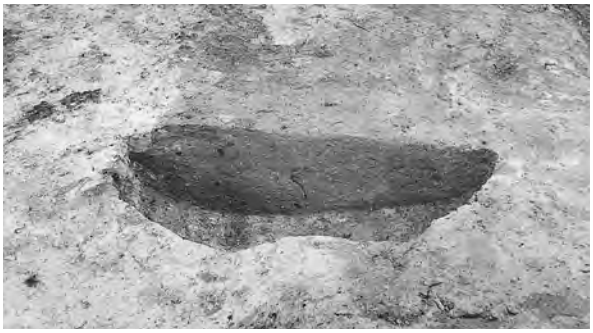


A 区第 10 号土坑完掘（E →）



第 18 号土坑土層（NW →）

第 18 号土坑完掘（NW →）



第 26 号土坑土層（SE →）

第 26 号土坑完掘（SE →）

第 27 号土坑土層（SE →）

第 27 号土坑完掘（NE →）

写真 43　土坑（5）

第 36 号土坑完掘（S →）

第 37 号土坑完掘（S →）

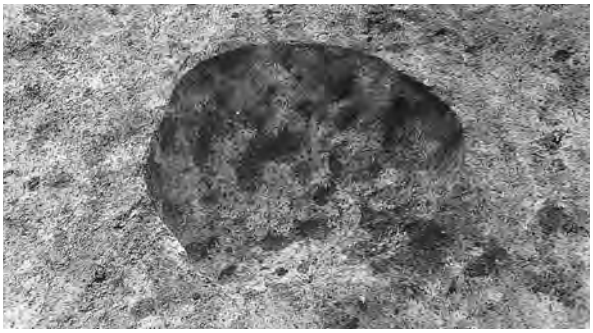
第 38 号土坑土層（E →）

第 38 号土坑完掘（SE →）

第 40 号土坑土層（E →）

第 40 号土坑完掘（E →）

第 42 号土坑土層（SE →）

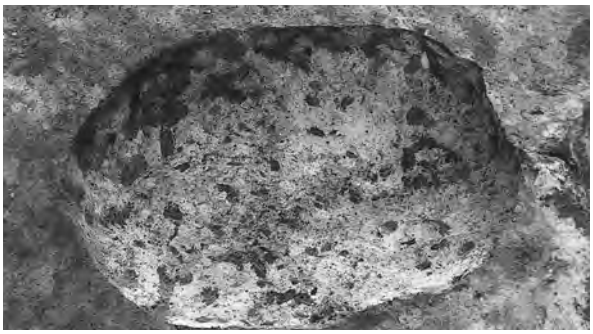

第 42 号土坑完掘（SE →）

第 64 号土坑土層（NW →）

第 63（右）・64 号（左）土坑完掘（NW →）

写真 44　土坑（6）

第 59 号土坑土層（E →）



第 59 号土坑完掘（SW →）

第 72 号土坑土層（SW →）

第 72 号土坑完掘（NE →）

第 86 号土坑土層（SW →）

第 86 号土坑完掘（SW →）

第 90 号土坑土層（NE →）

第 90 号土坑完掘（SW →）

第 94 号土坑土層（NE →）

第 94 号土坑完掘（E →）

写真 45　土坑（7）

第 32 号土坑（W→）

第 32 号土坑完掘（W→）

第 44 号土坑土層（SE →）

第 44 号土坑完掘（NE →）

第 78 号土坑土層（S →）

第 78 号土坑完掘（S →）

第 80・81 号土坑土層（S →）

第 80 号土坑完掘（S →）

第 87 号土坑土層（N →）

第 87 号土坑完掘（N →）

写真 46　土坑（8）

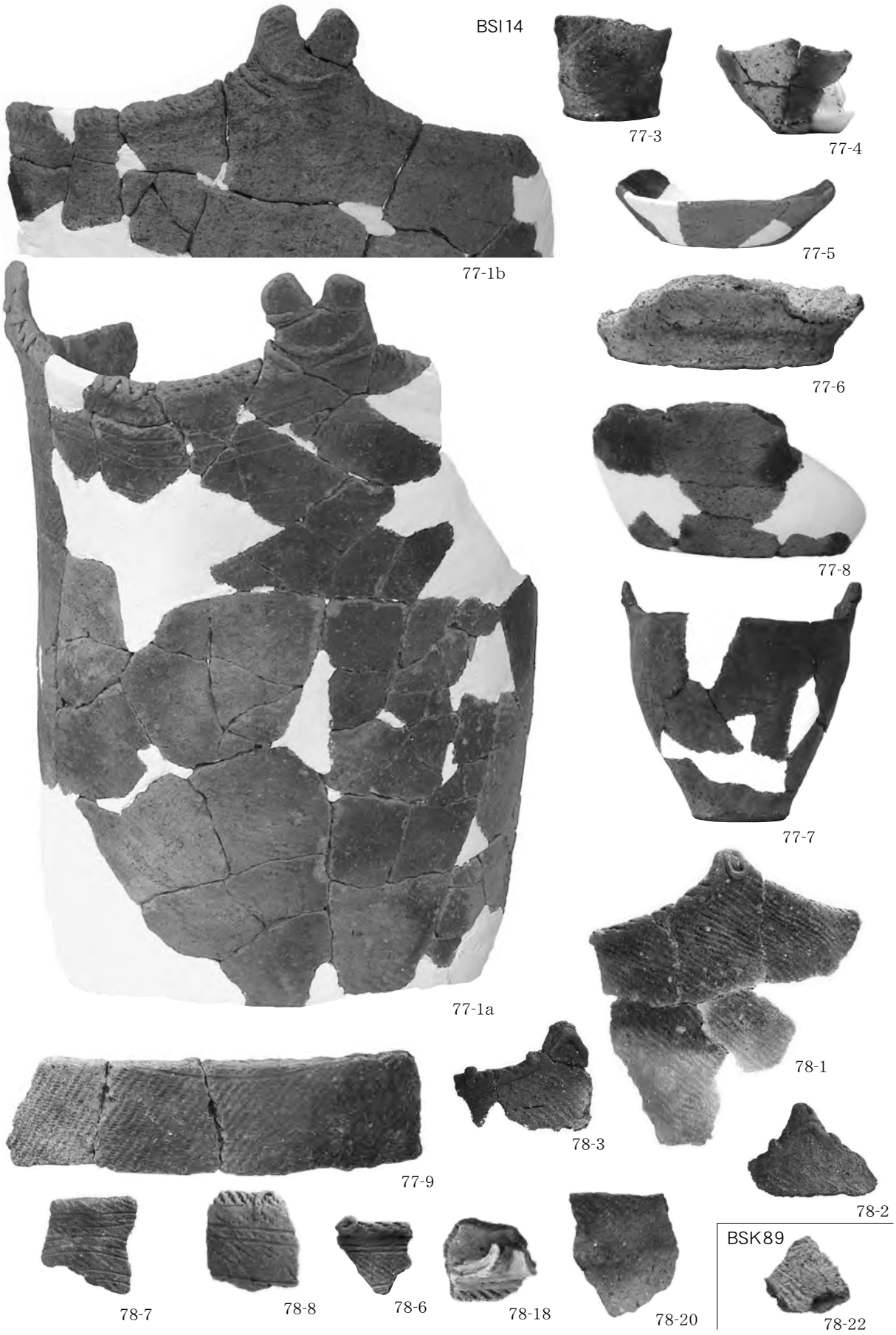
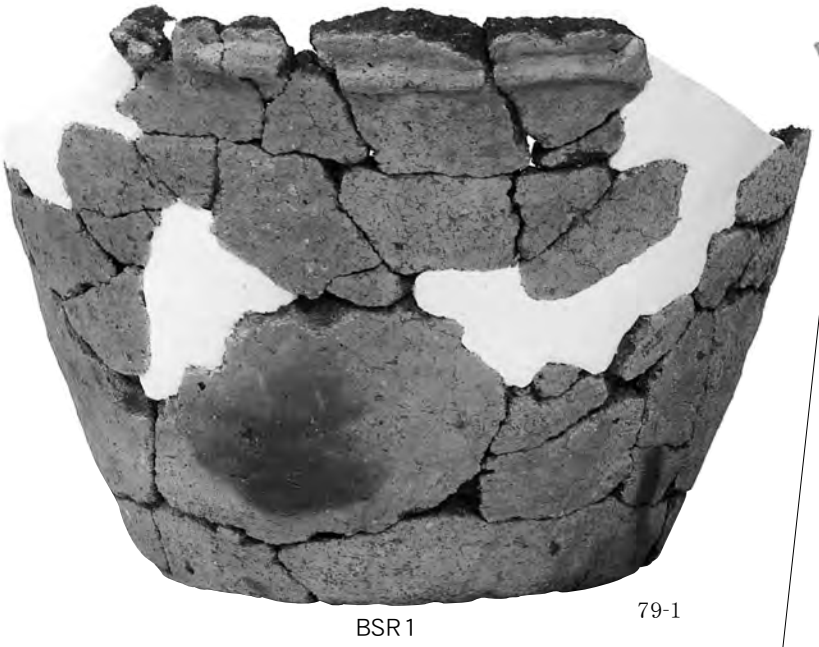
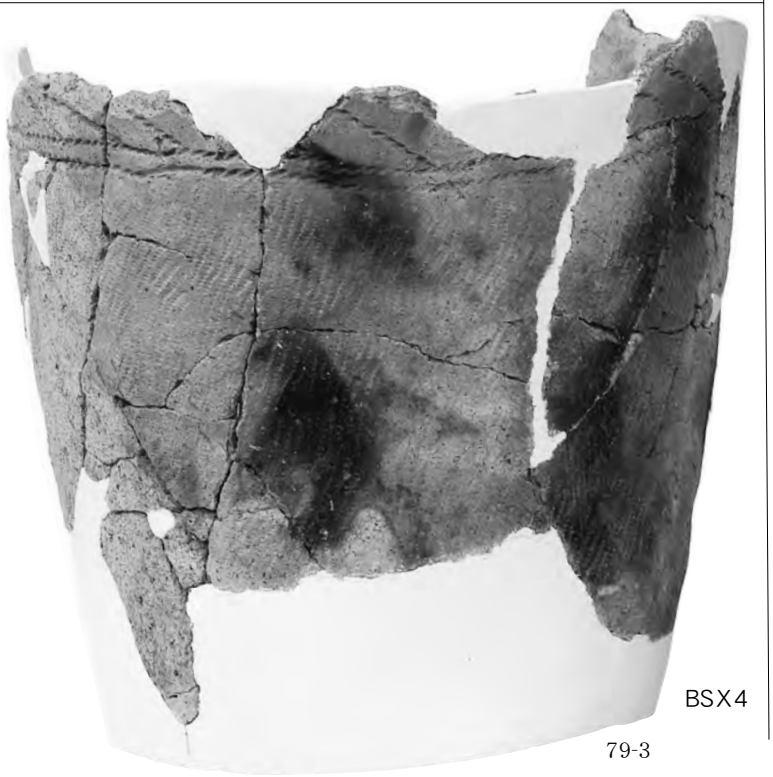
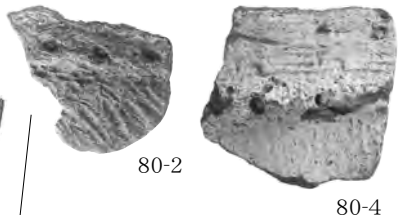


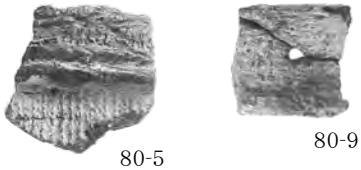
写真 47　遺構内出土縄文土器（1）

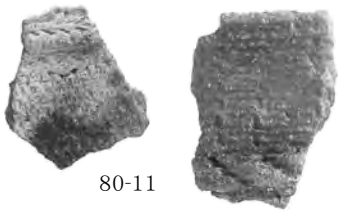

BSR1　79-1

BSX3　79-2

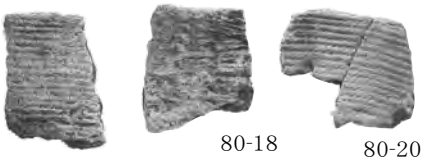

BSX4　79-3

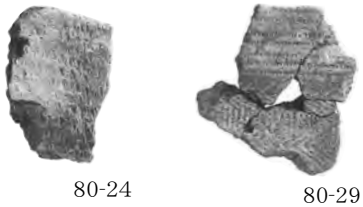

80-2　80-4

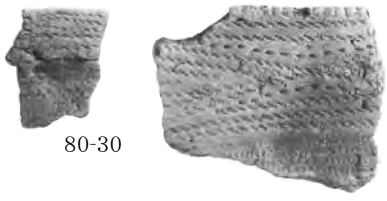

80-5　80-9

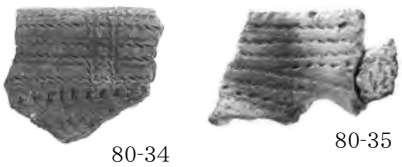

80-11　80-12

遺構外


80-17　80-18　80-20


80-24　80-29


80-30　80-33


80-34　80-35

80-36　81-1

写真 48　遺構内（2）・遺構外出土縄文土器（1）

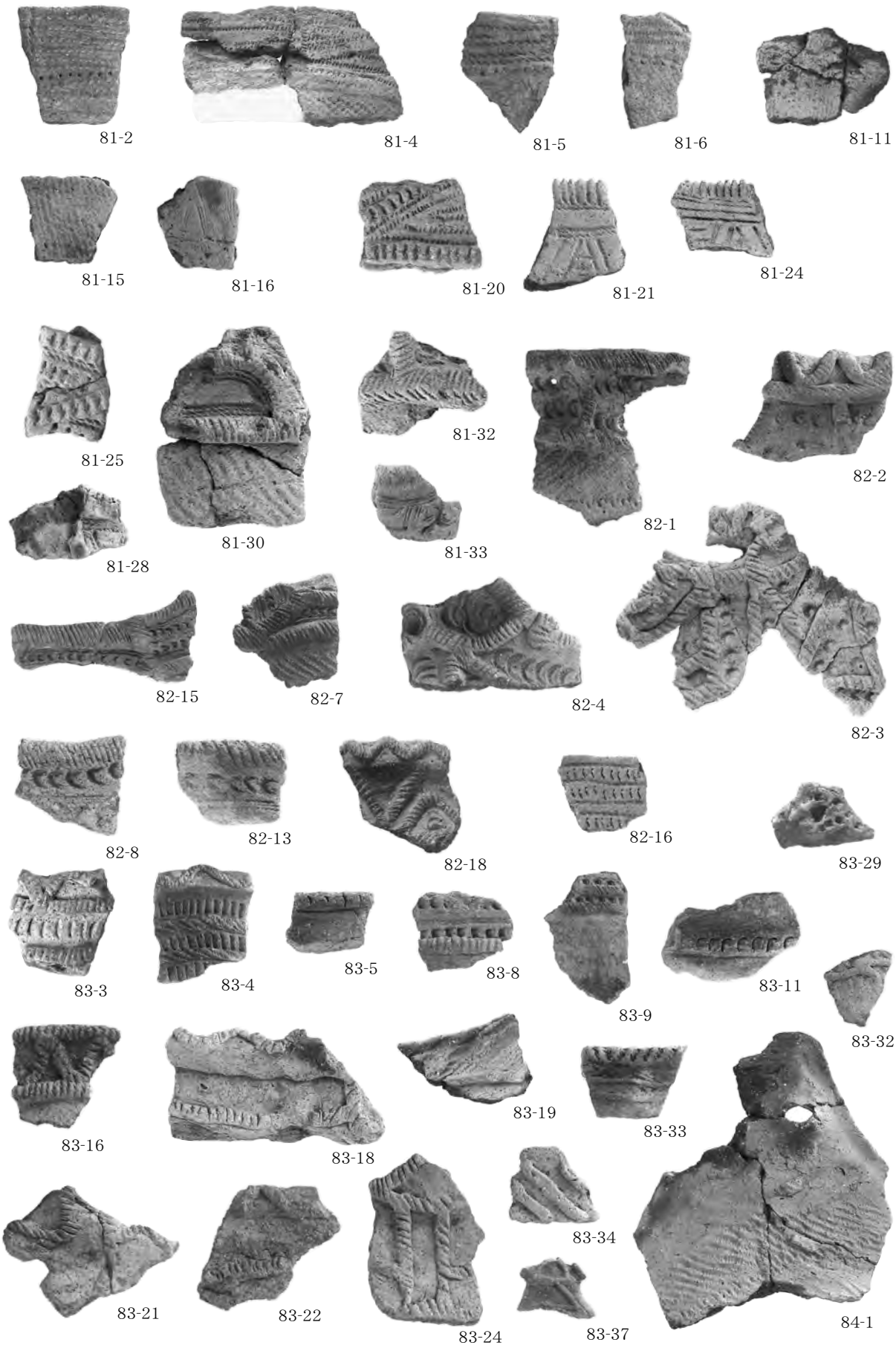


写真 49　遺構外出土縄文土器（2）

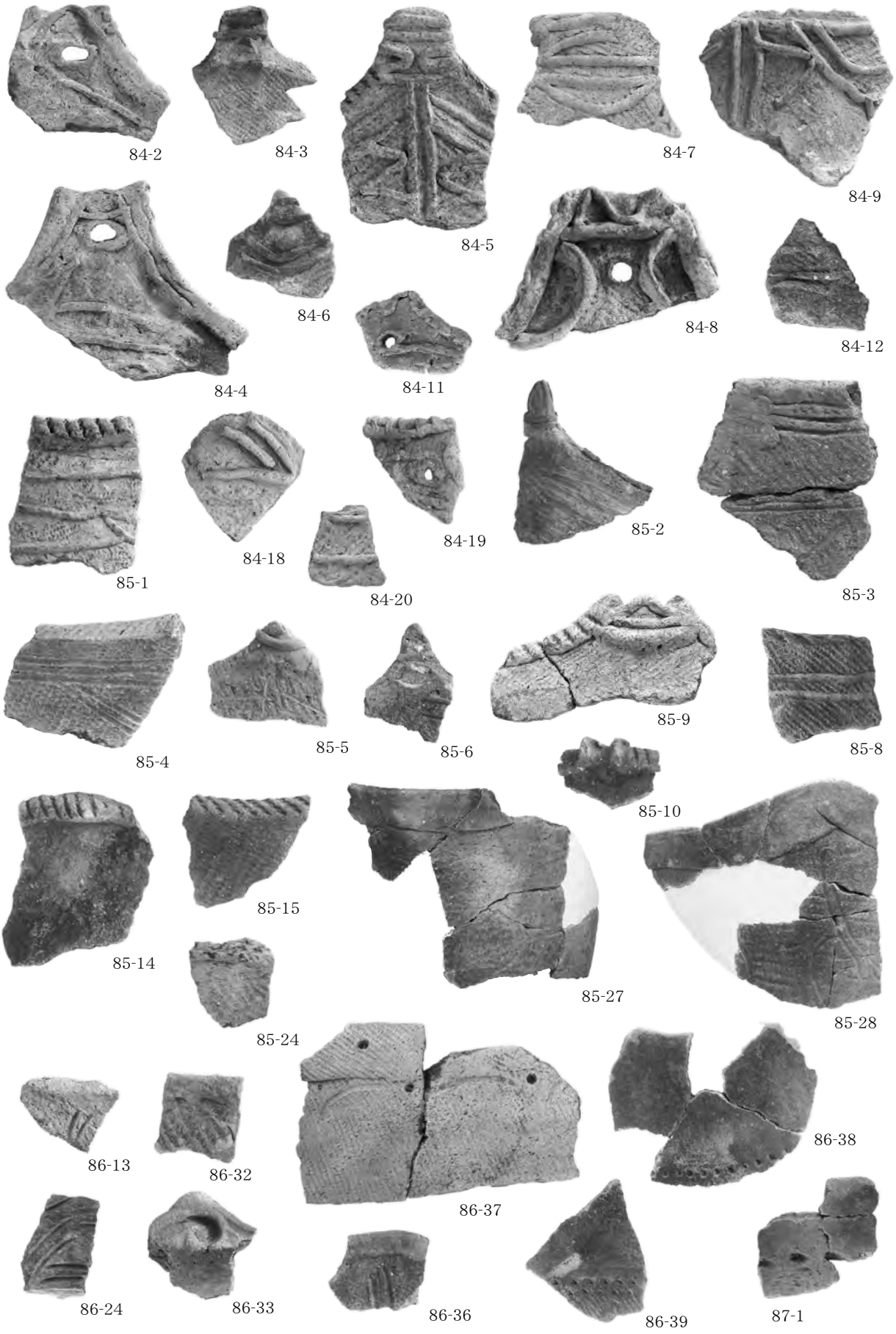


写真 50　遺構外出土縄文土器（３）

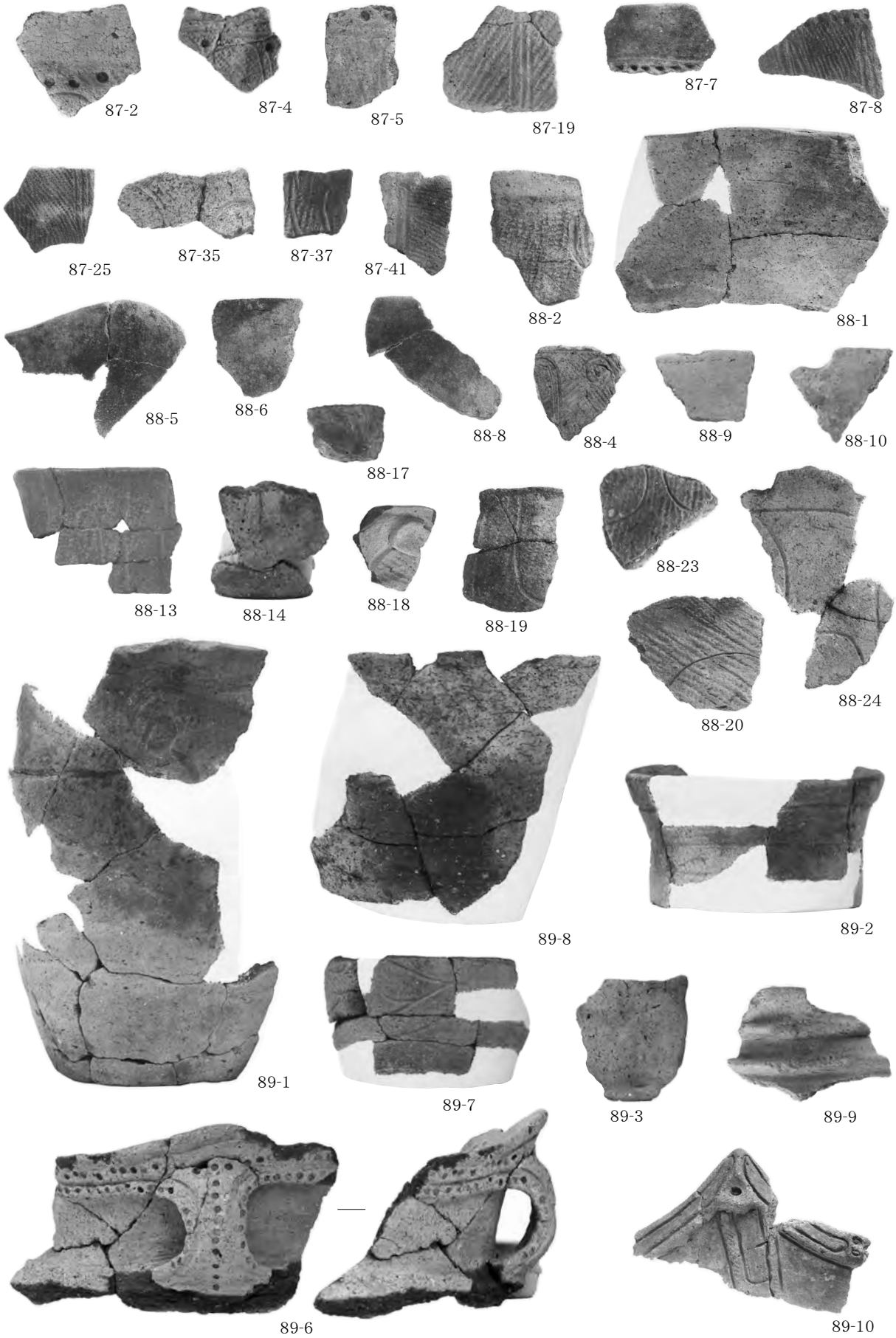


写真 51　遺構外出土縄文土器（４）

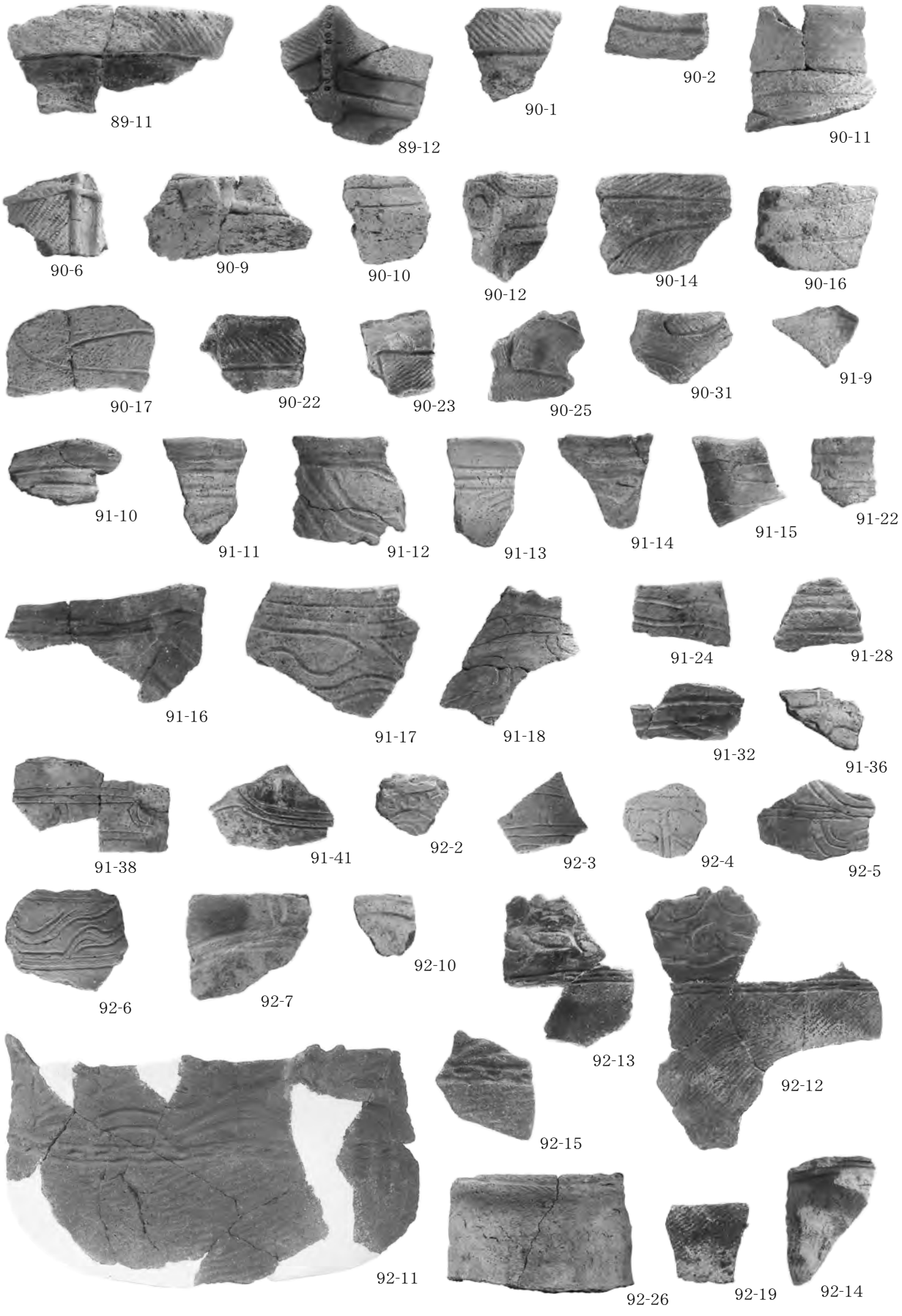
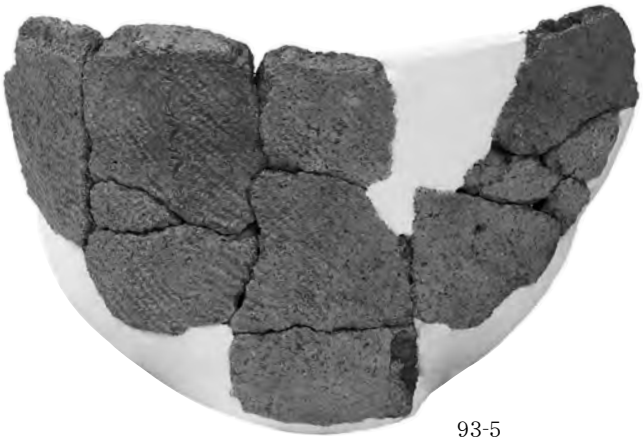
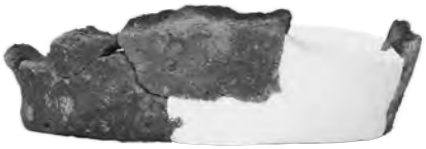


写真 52　遺構外出土縄文土器（５）

93-4


93-5


93-7

93-10

93-11

93-13

93-12

94-8

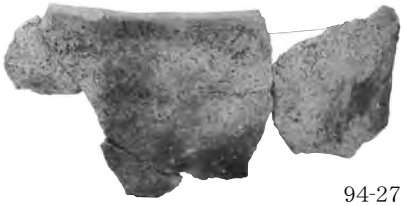
94-9

94-26

94-11

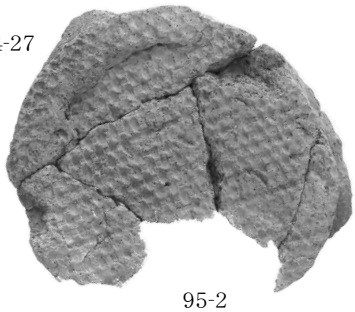
94-34

94-15


94-27

94-29

95-1


95-2

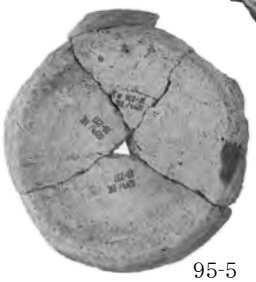

95-5

写真 53　遺構外出土縄文土器（6）

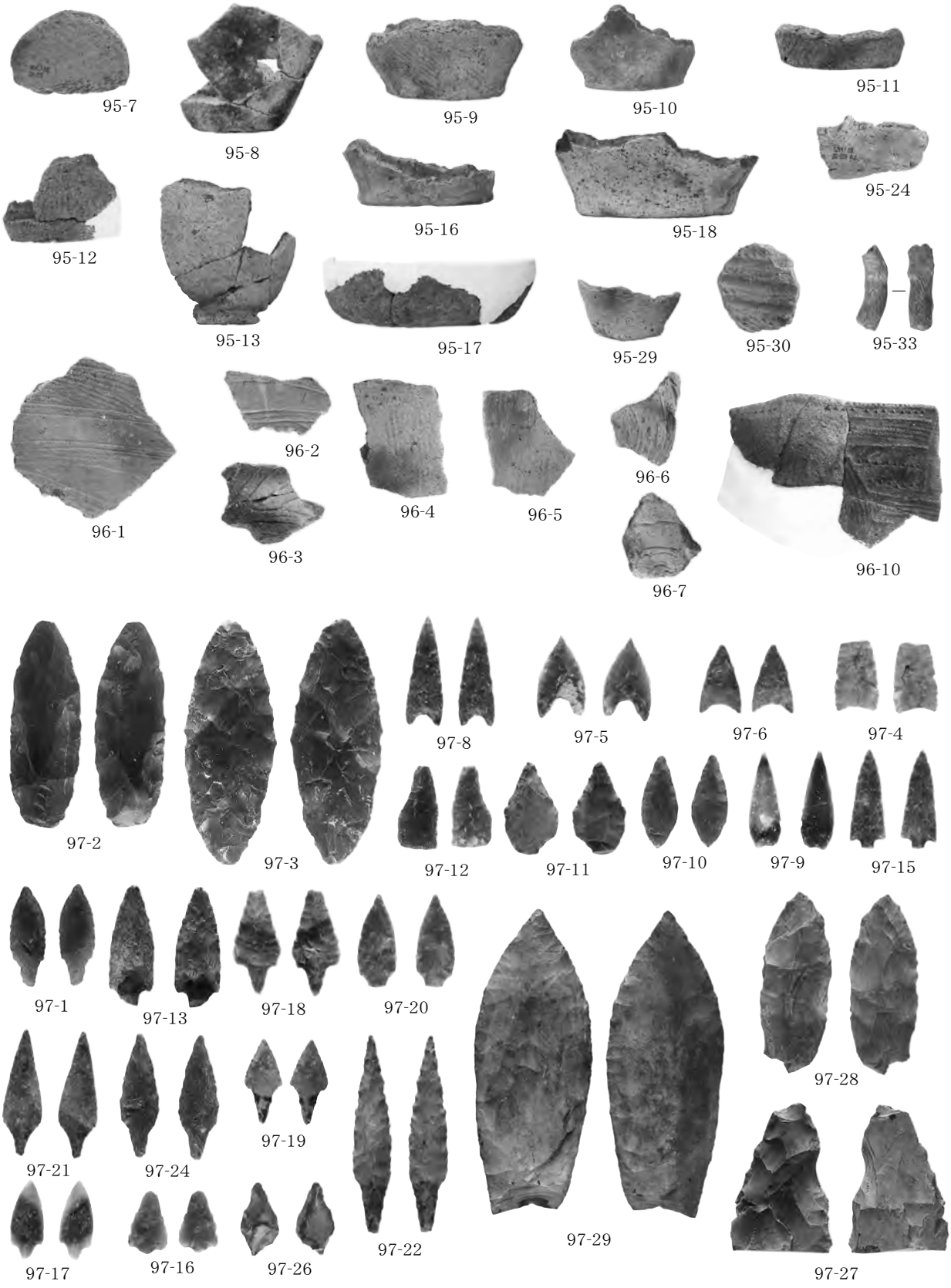


写真 54　遺構外出土縄文（7）・弥生・続縄文土器、土製品〈縄文〉、剥片石器（1）

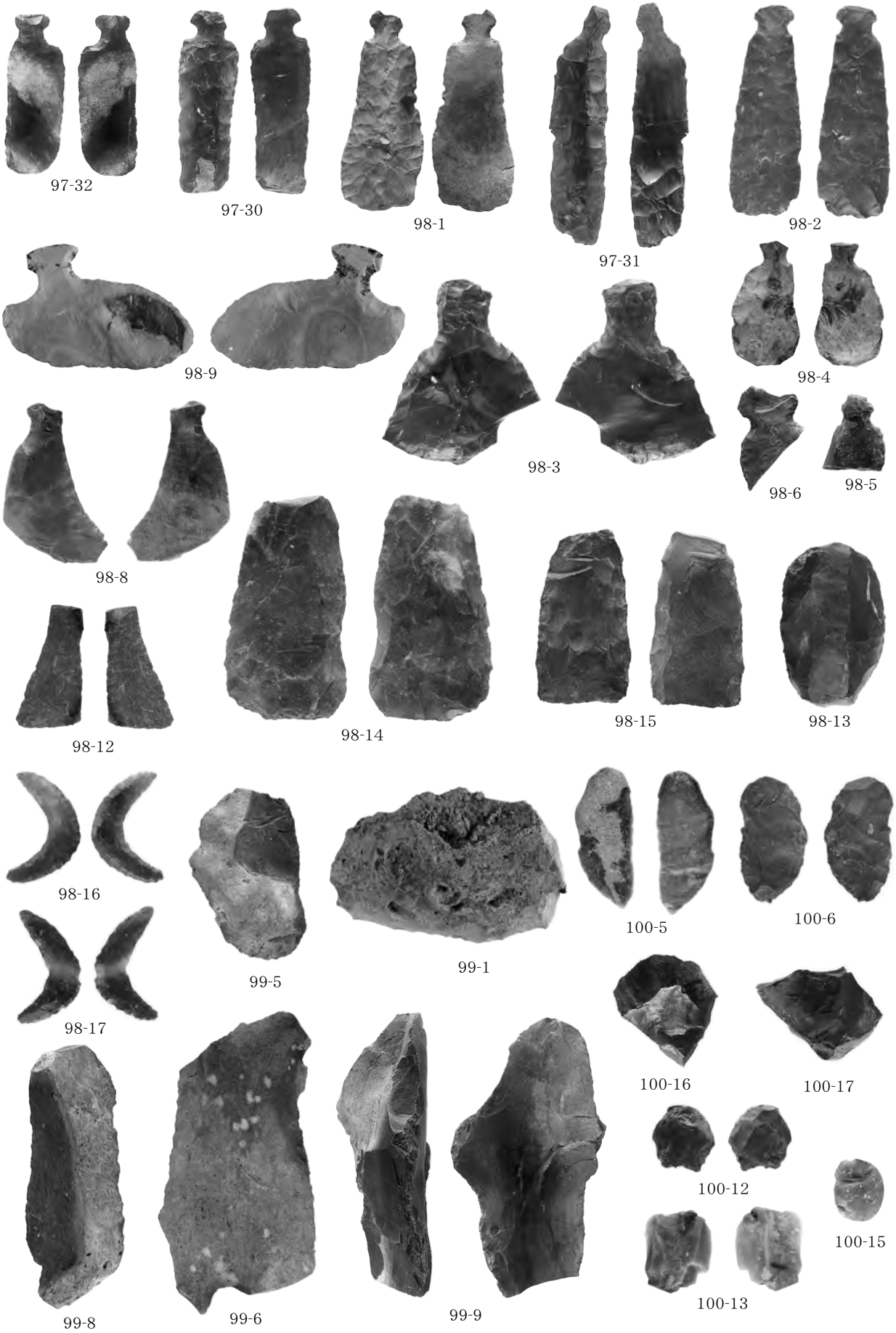

97-32
97-30
98-1
97-31
98-2
98-9
98-4
98-3
98-6
98-5
98-8
98-12
98-14
98-15
98-13
98-16
98-17
99-5
99-1
100-5
100-6
100-16
100-17
100-12
100-15
100-13
99-8
99-6
99-9

写真 55　剥片石器（2）

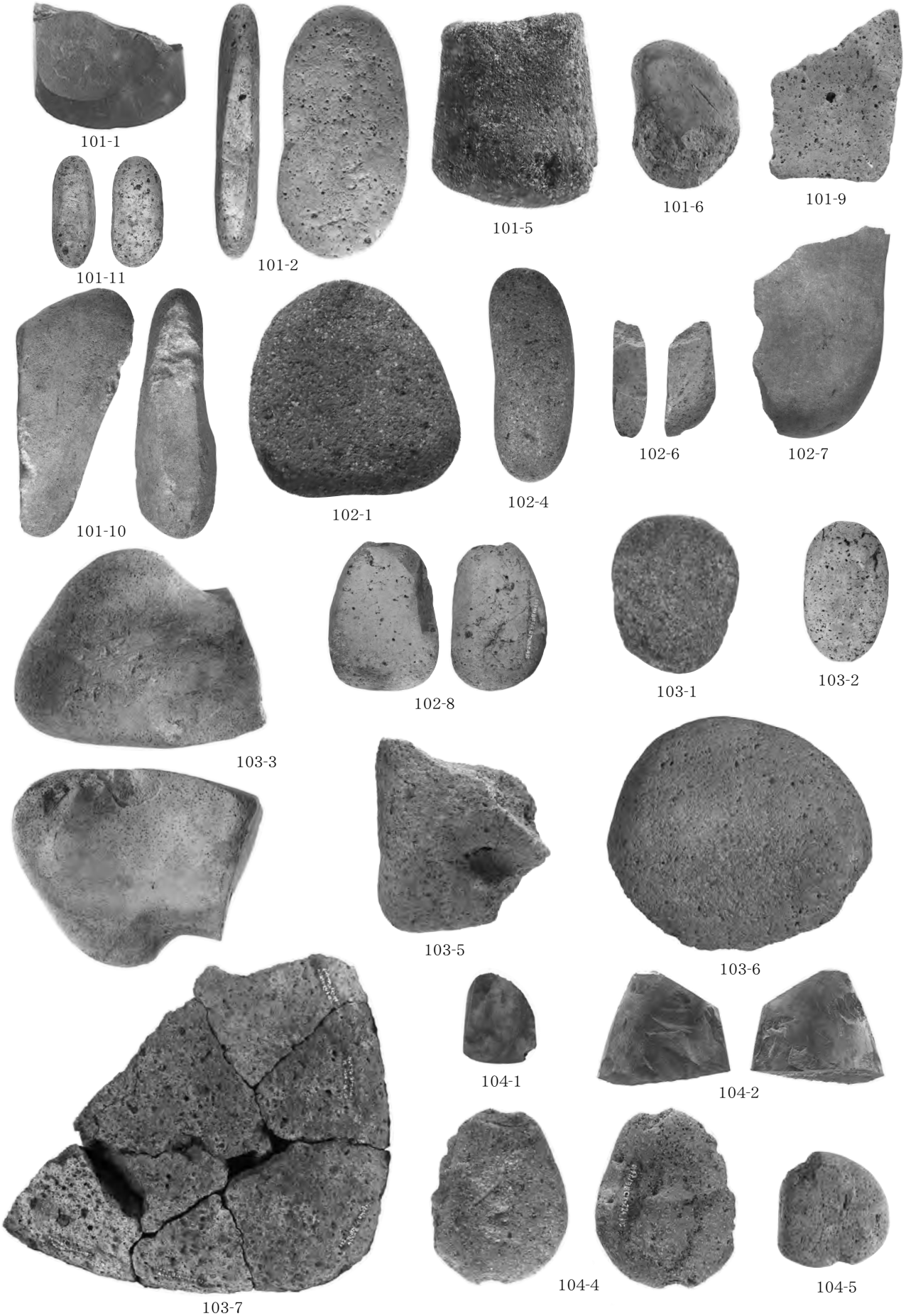

101-1
101-11
101-2
101-5
101-6
101-9
101-10
102-1
102-4
102-6
102-7
102-8
103-1
103-2
103-3
103-5
103-6
104-1
104-2
103-7
104-4
104-5

写真 56　礫石器（1）

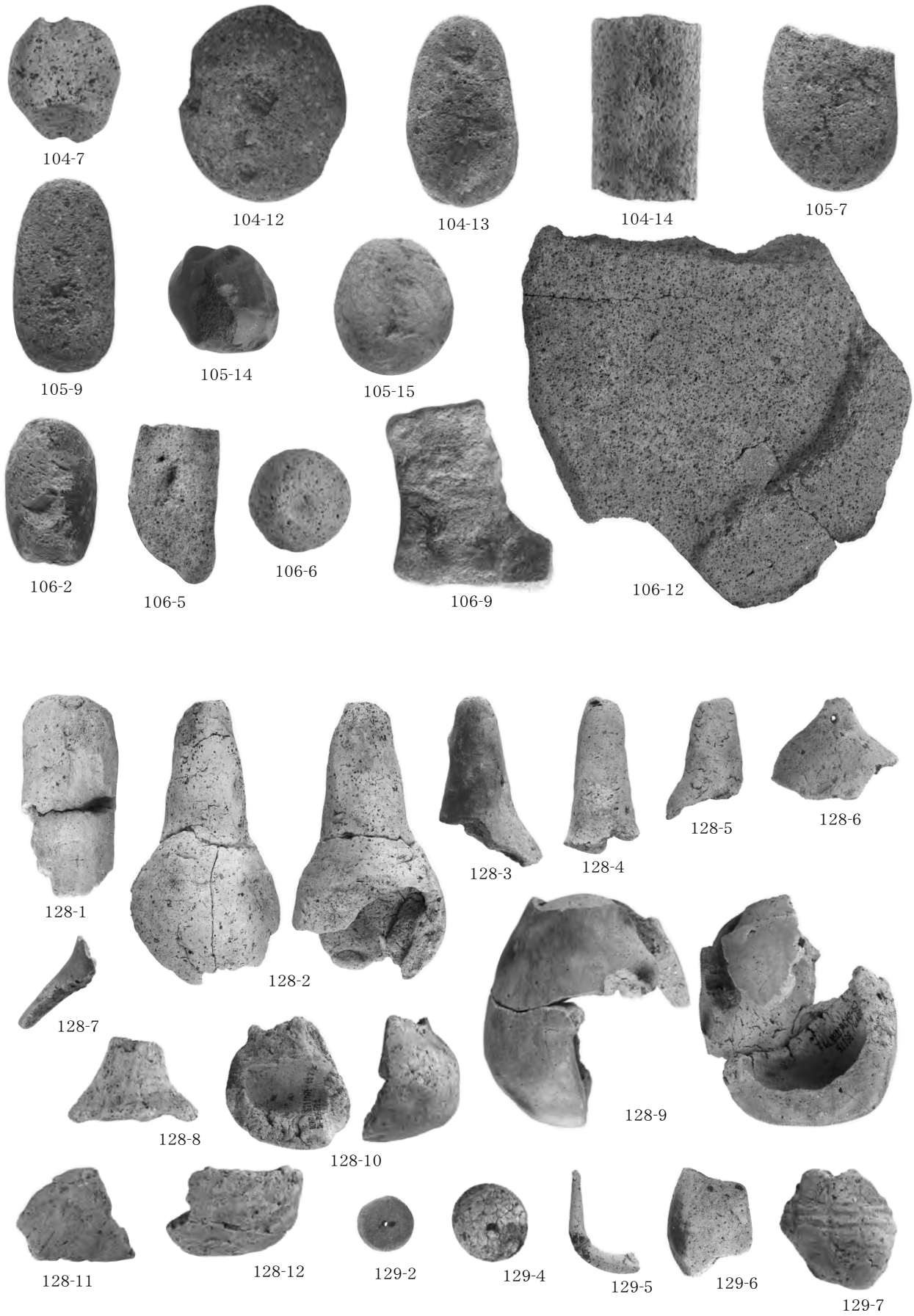


写真 57　礫石器（2）、土製品〈古代〉

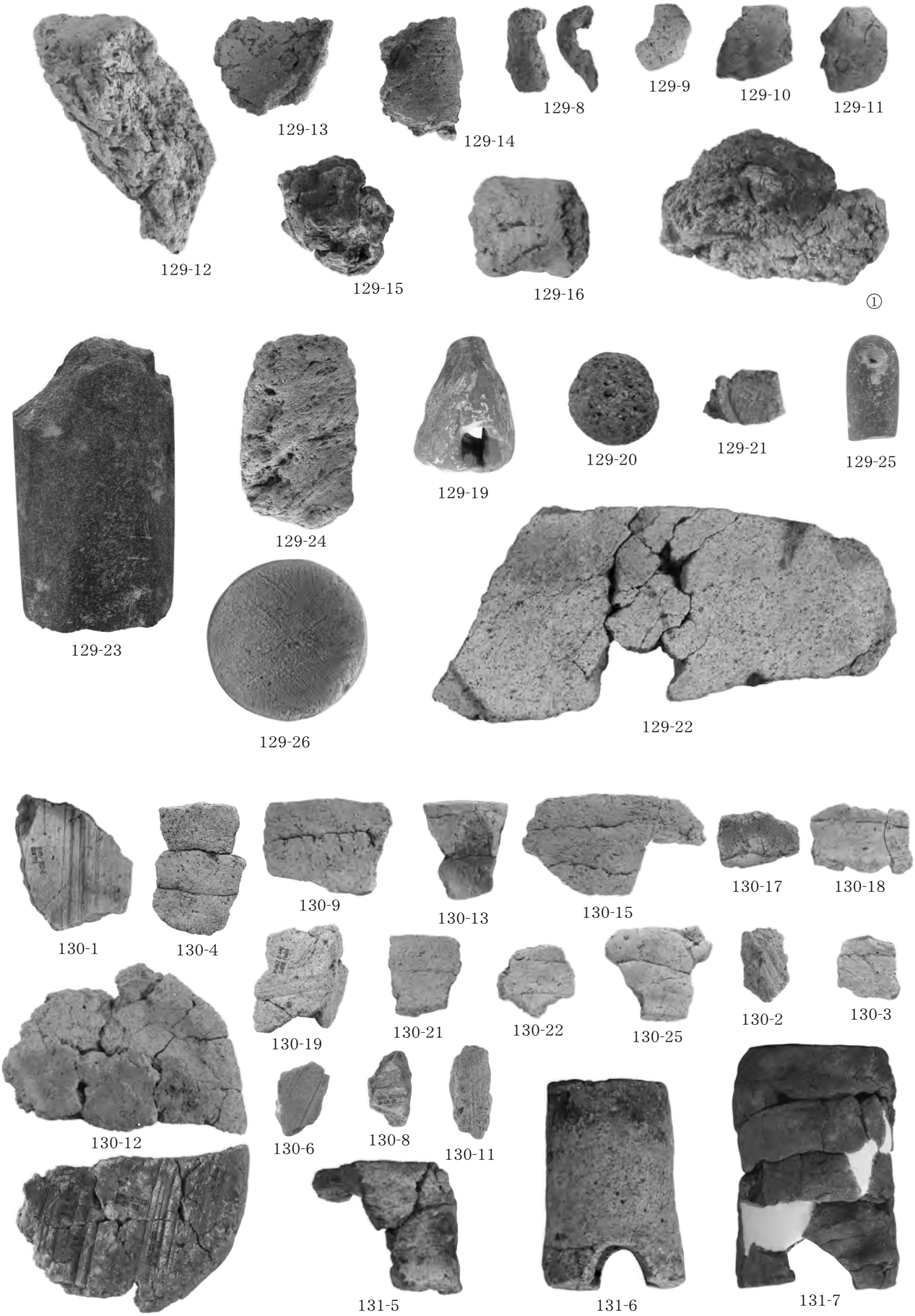


写真 58　焼成粘土塊、石製品、製塩土器、支脚

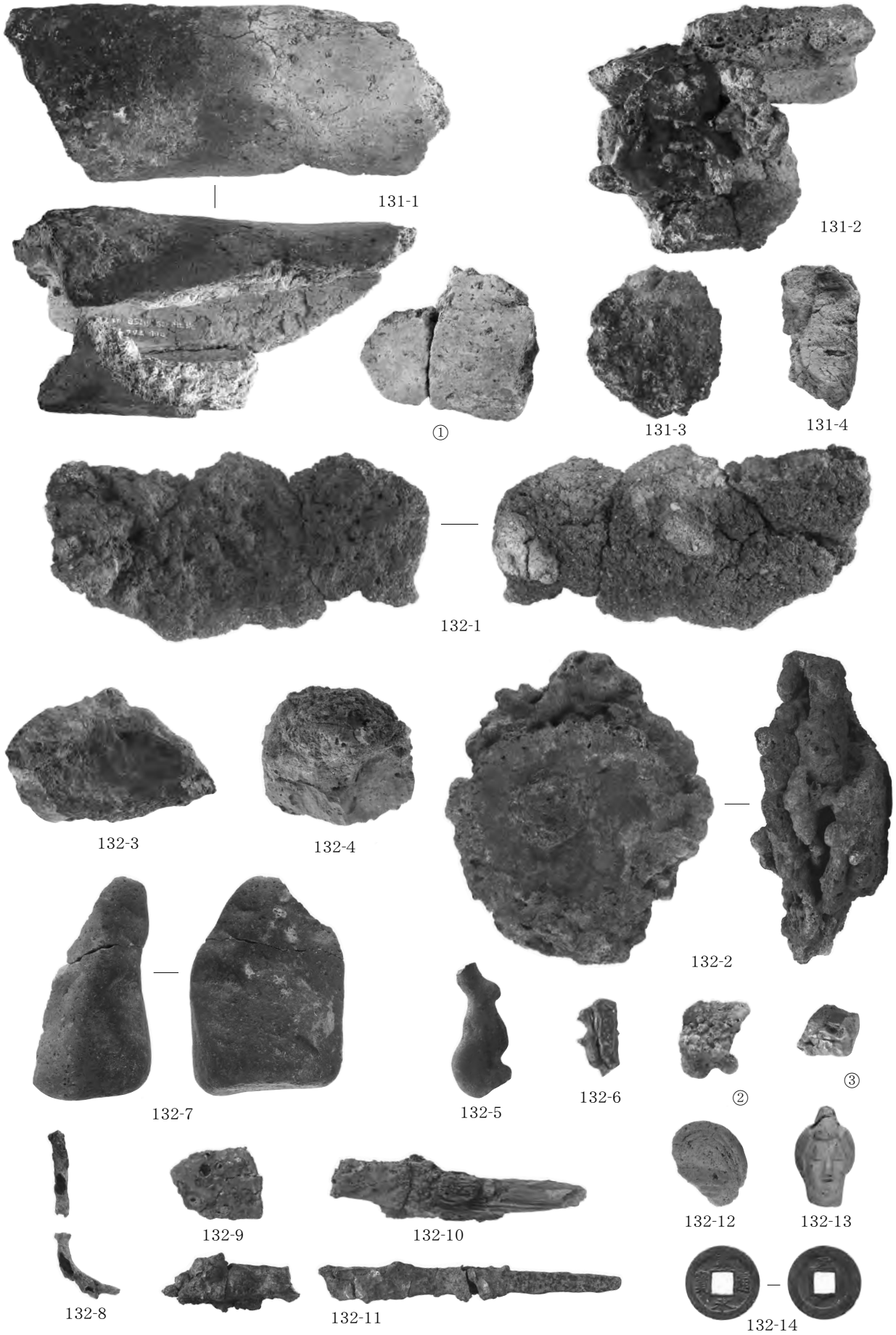


写真 59　羽口、鉄関連遺物、土人形、古銭

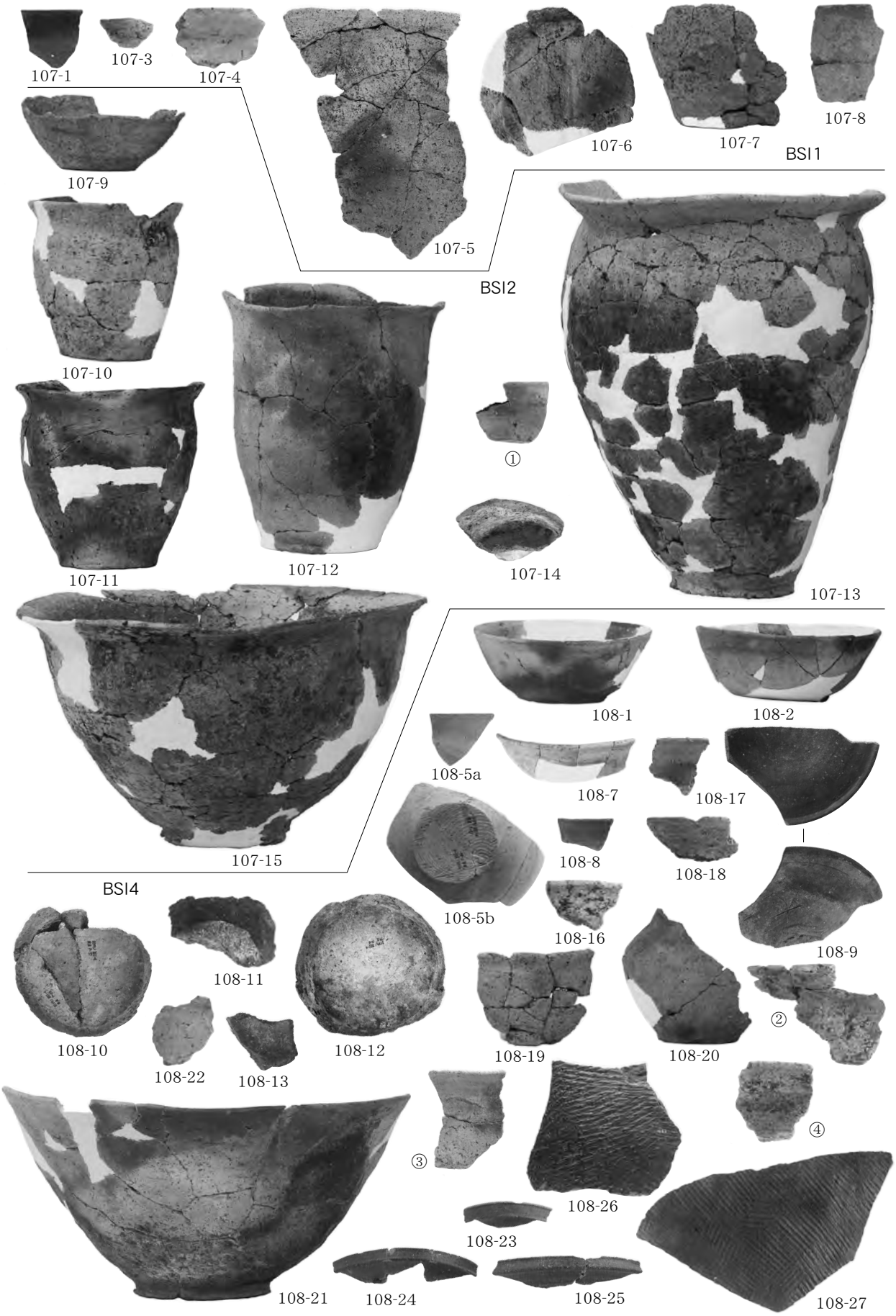


写真 60　第 1 ・ 2 ・ 4 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

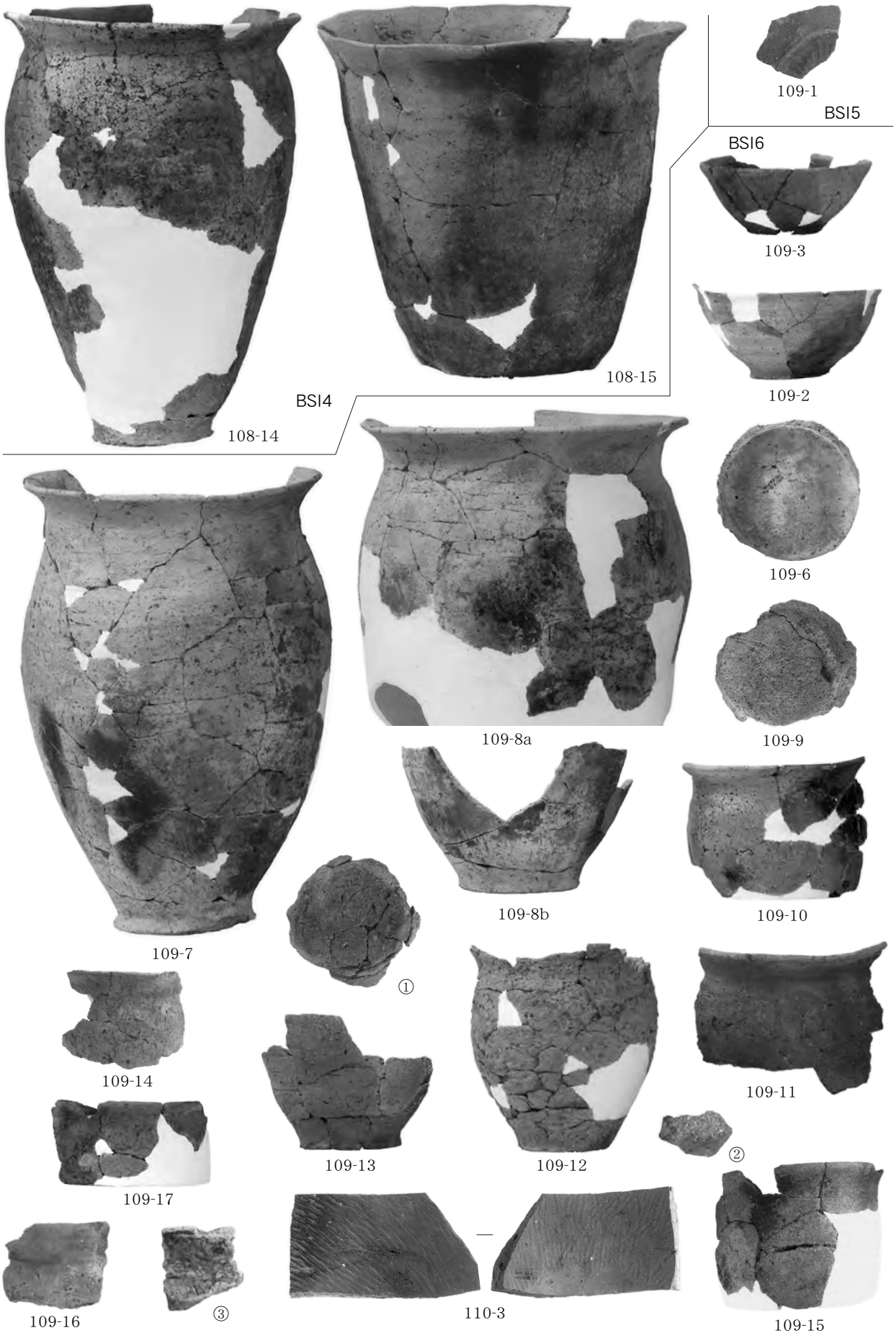


写真 61　第４・５・６号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

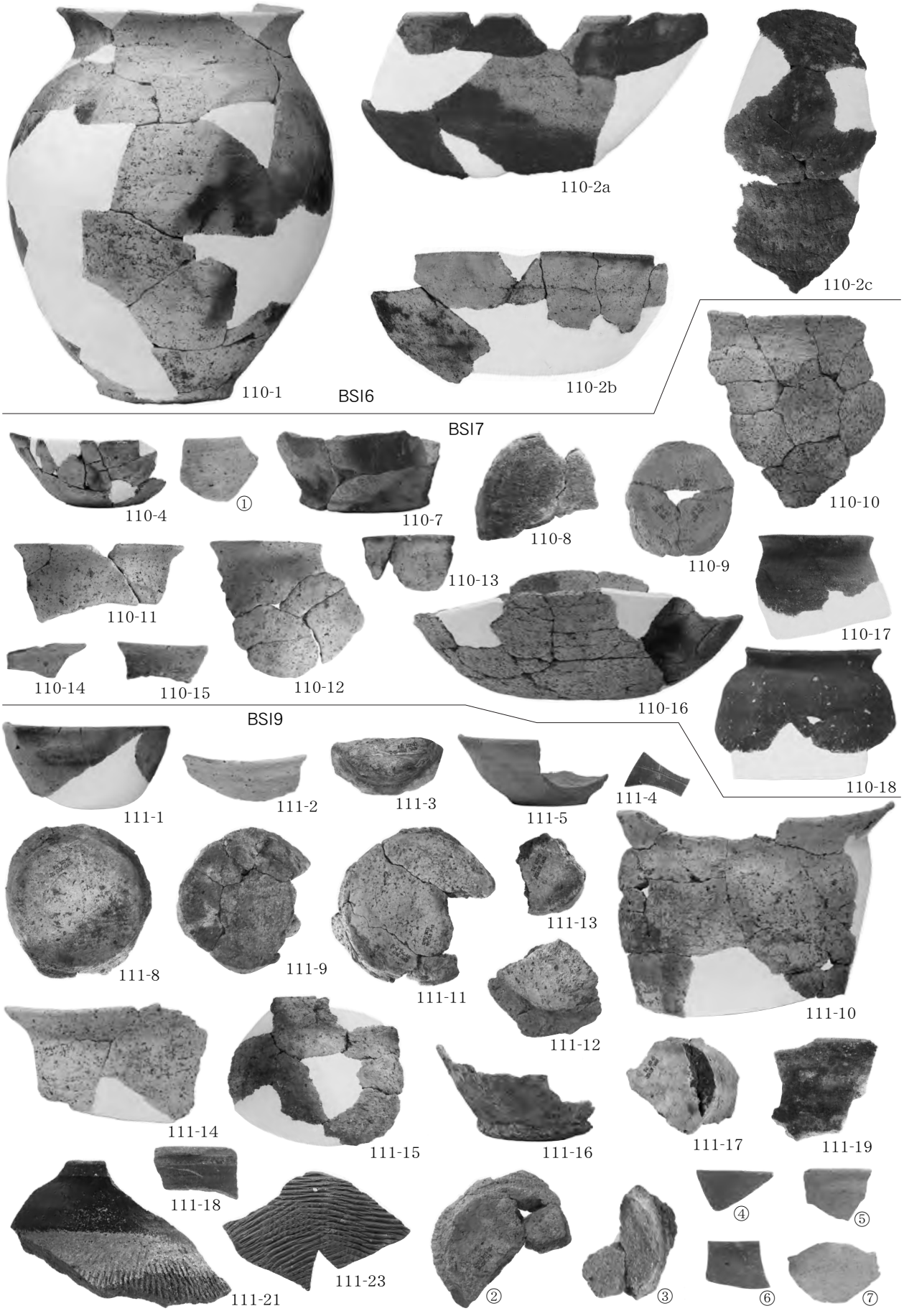


写真 62　第 6 ・ 7 ・ 9 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

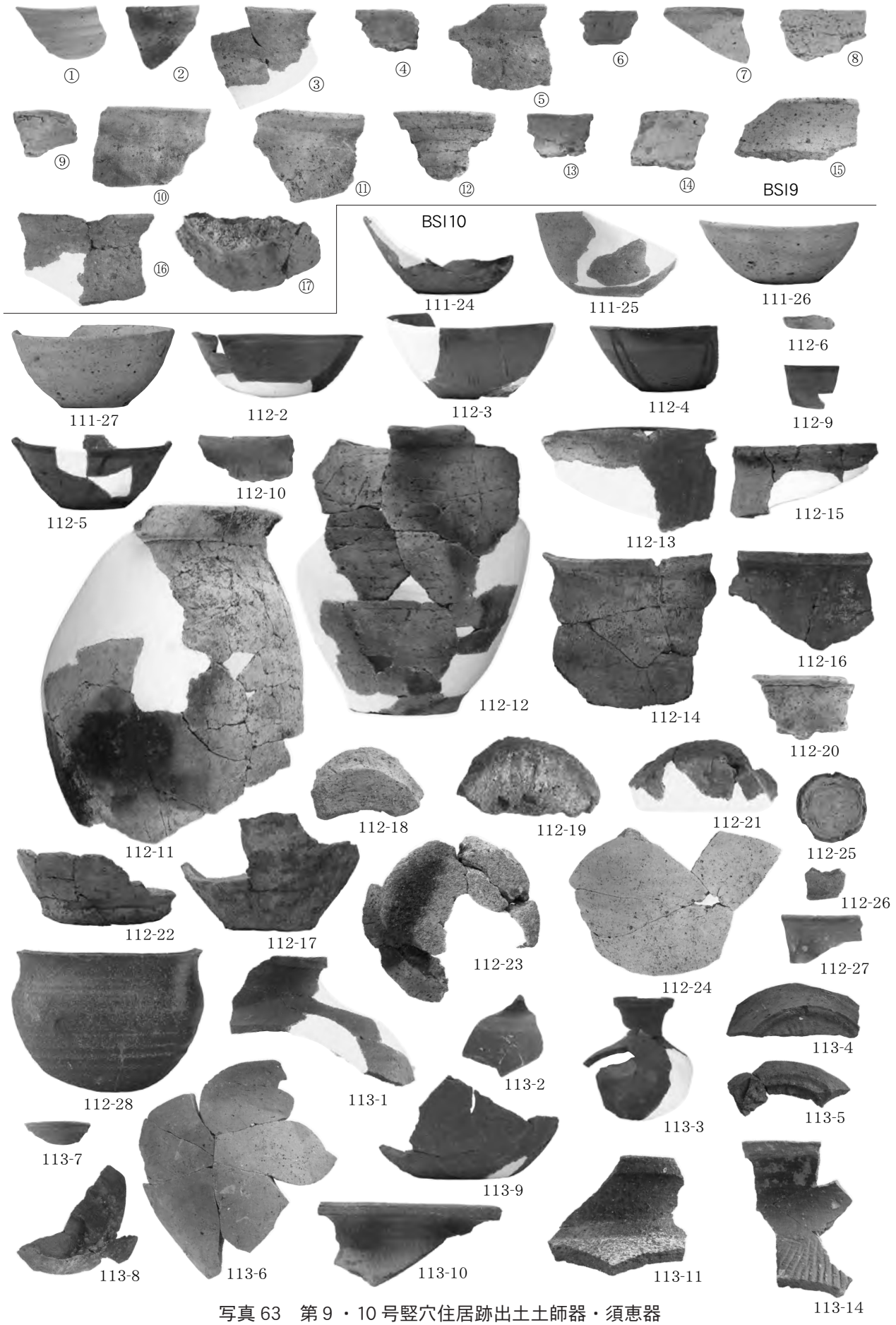


写真 63　第 9 ・ 10 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

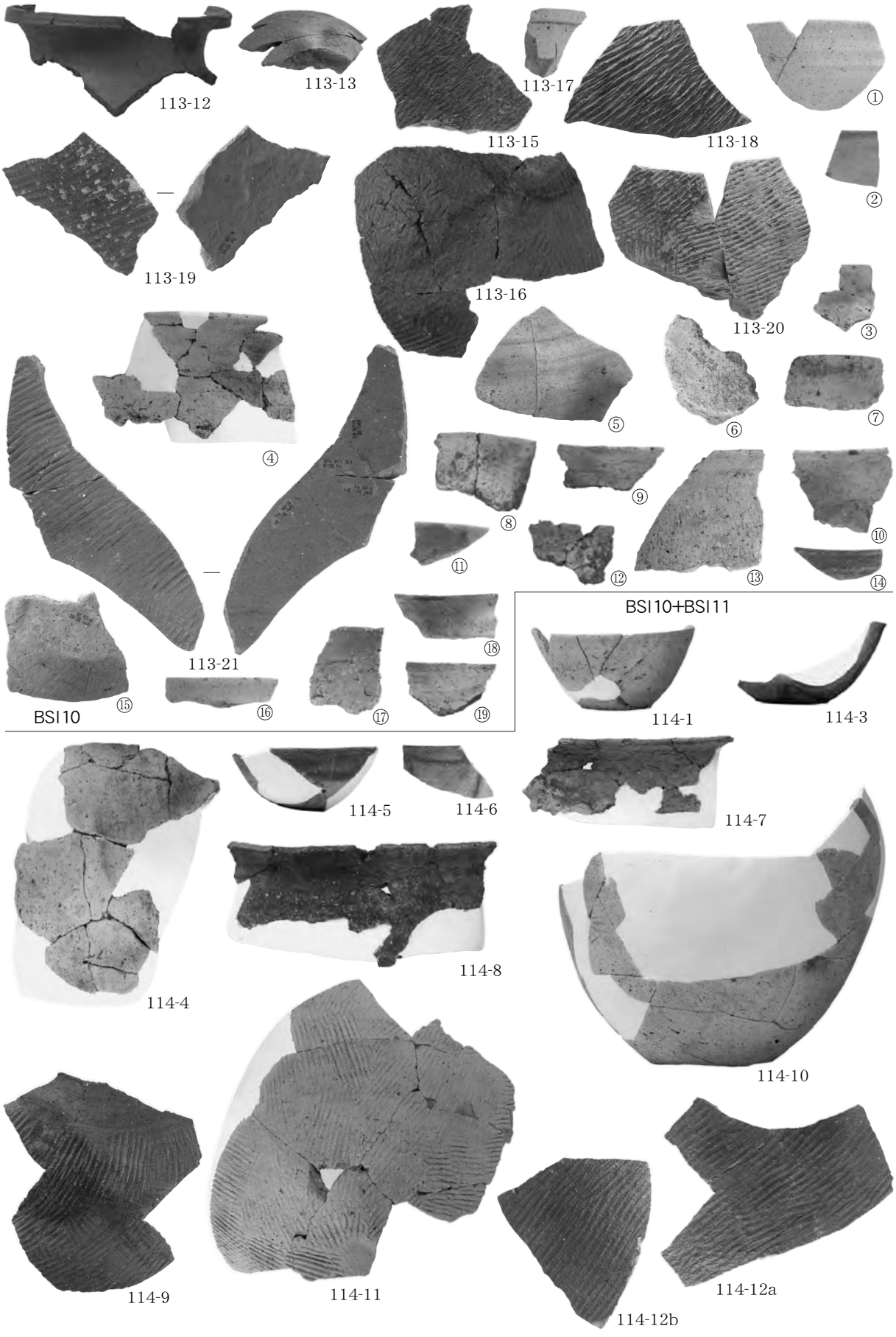


写真 64　第 10・11 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

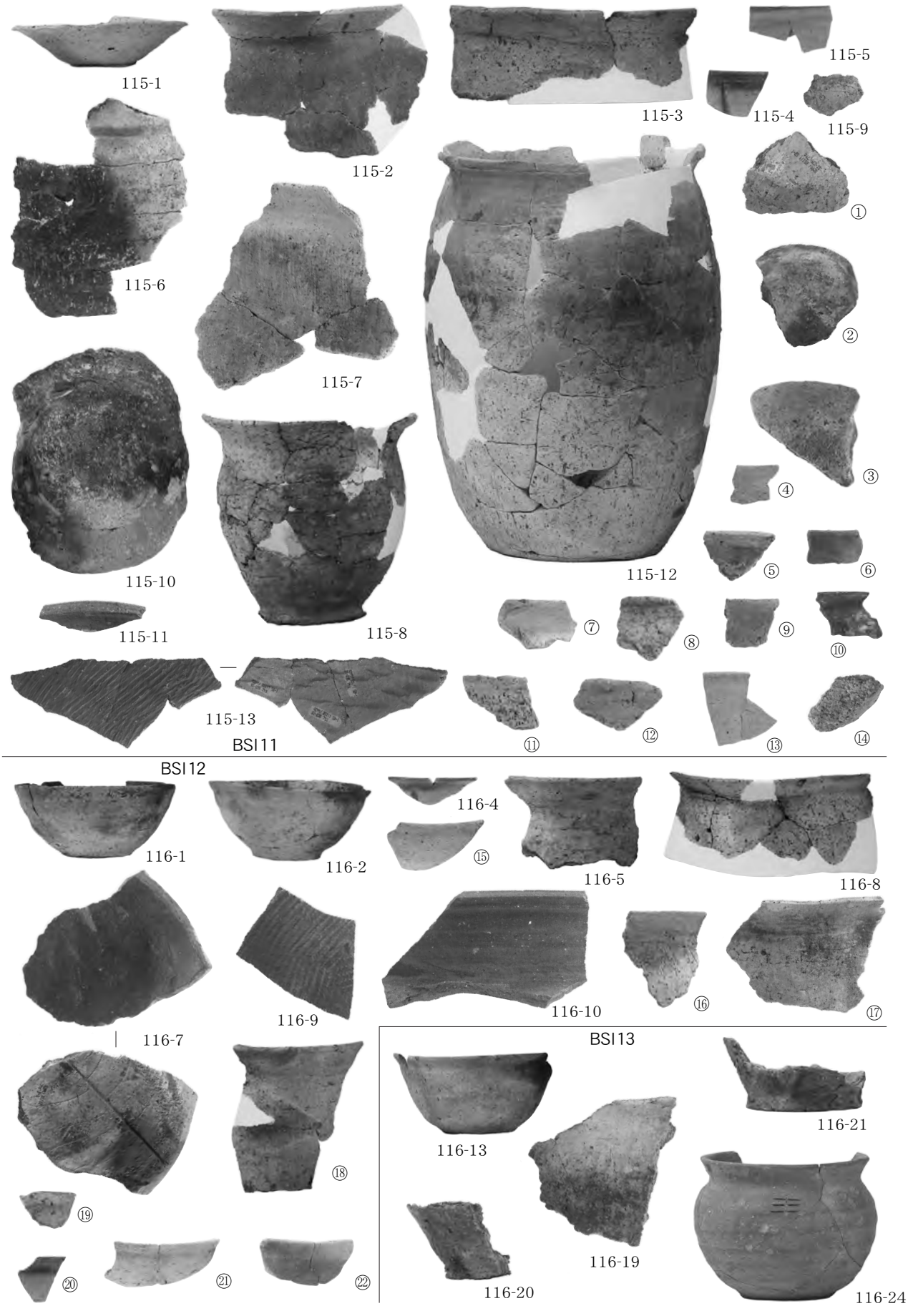
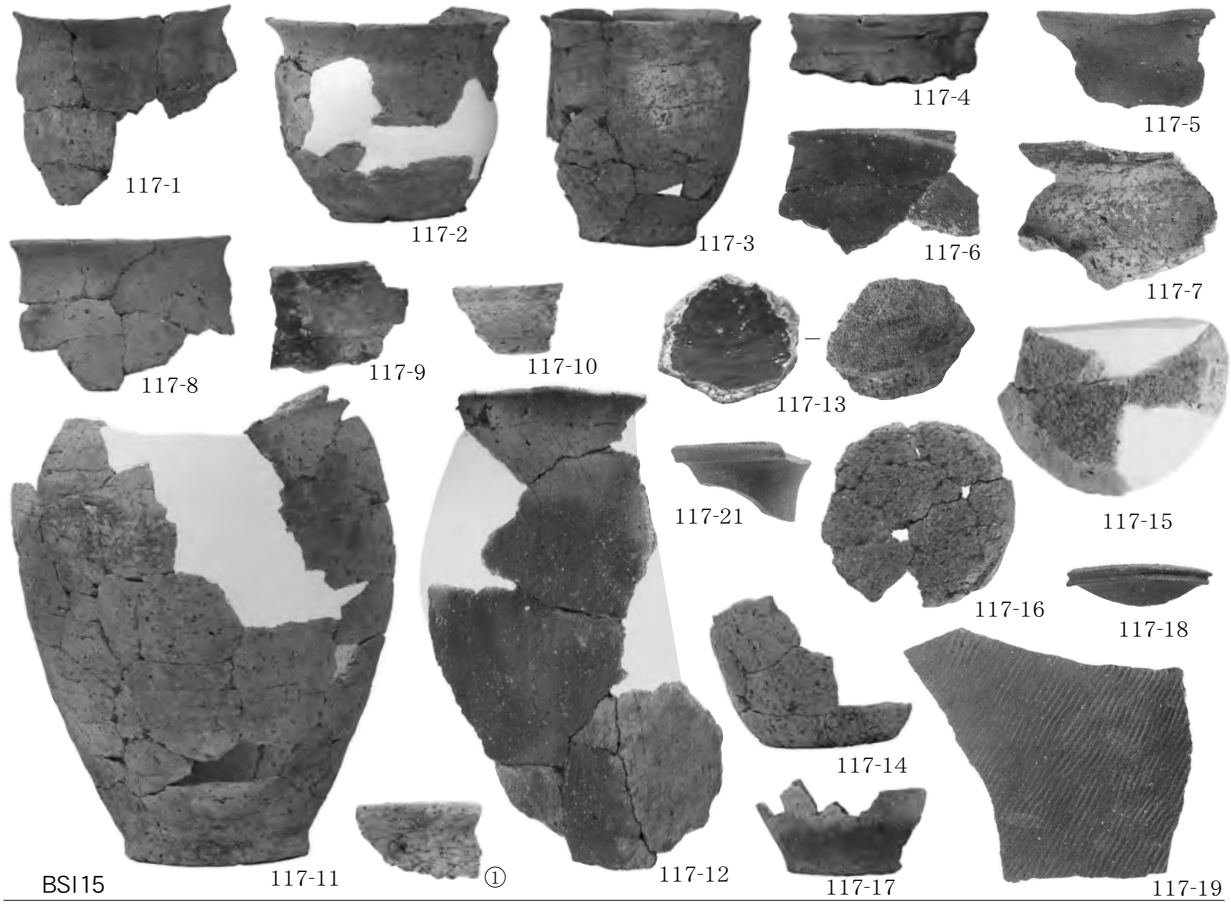


写真 65　第 11・12・13 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器



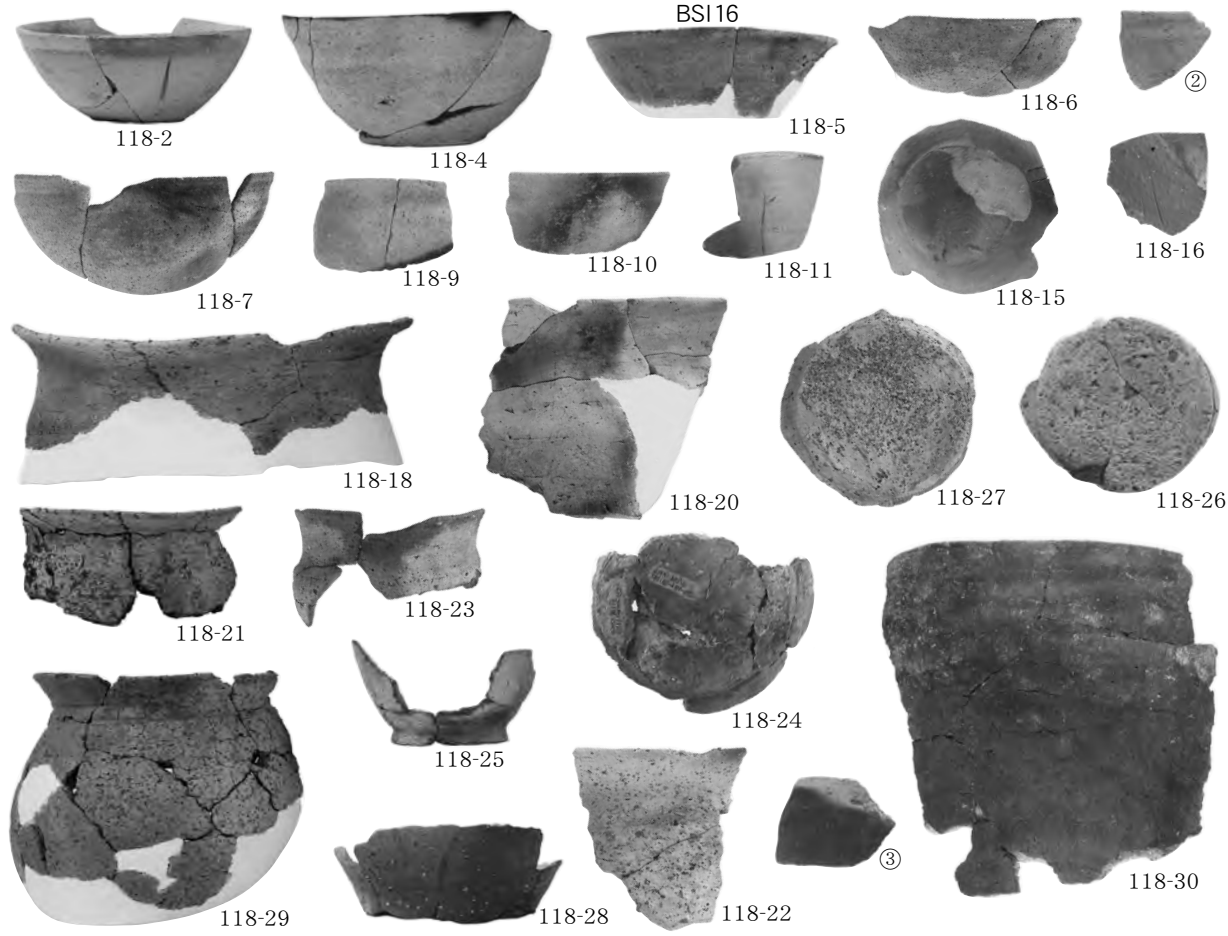


写真 66　第 15・16 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

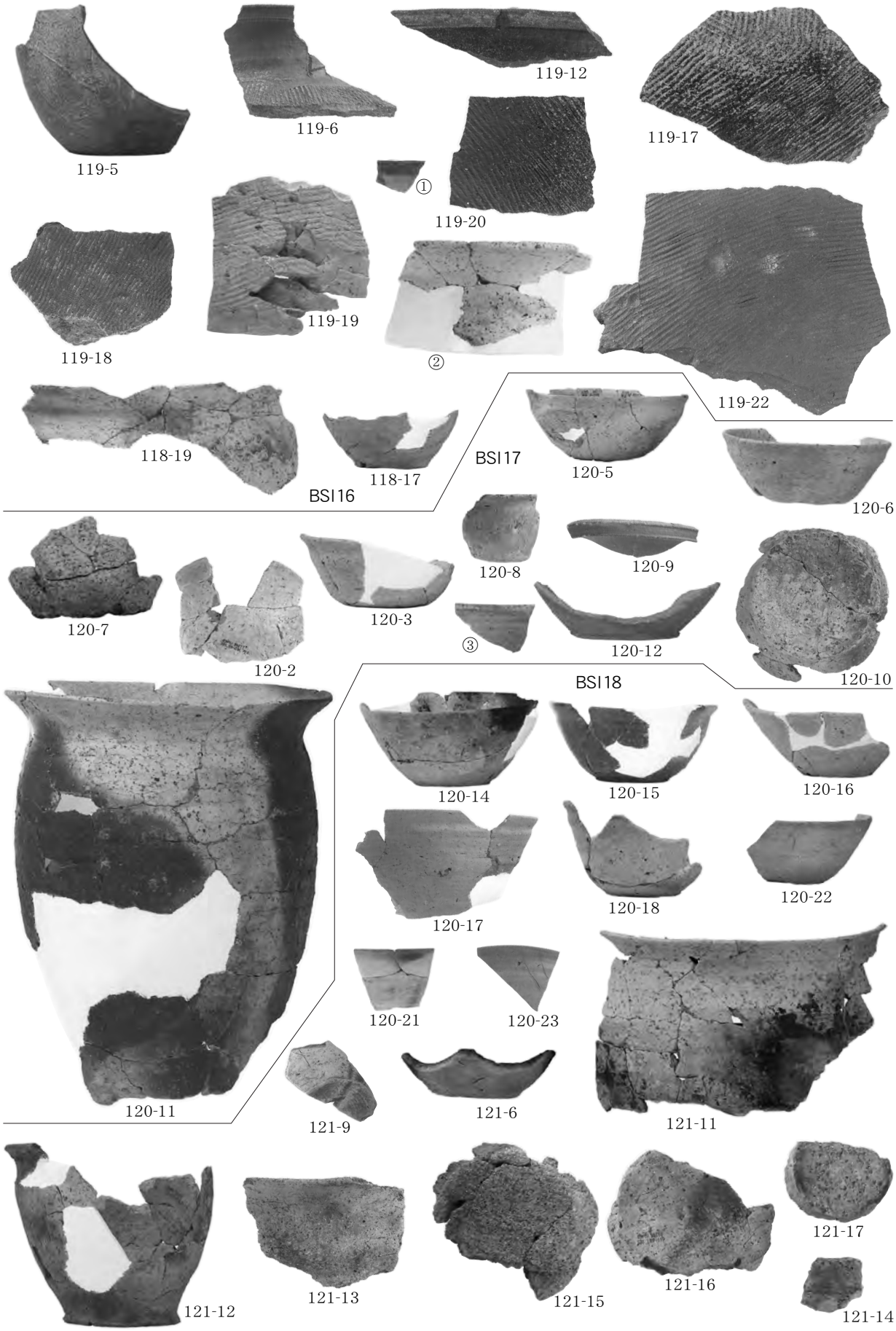


写真 67　第 16・17 号竪穴住居跡出土土師器・須恵器

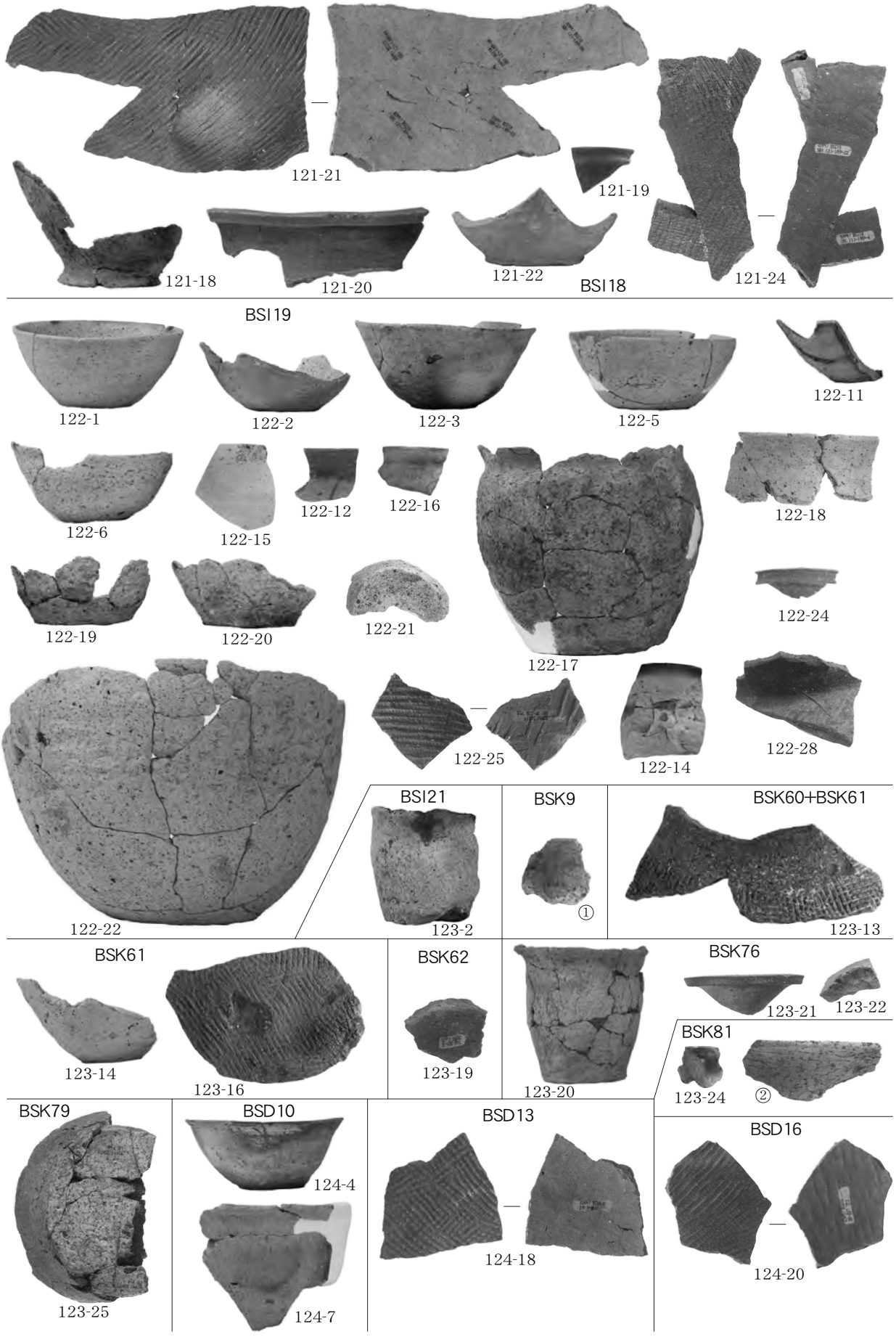


写真 68　第 18・19・21 号竪穴住居跡、土坑、溝跡出土土師器・須恵器

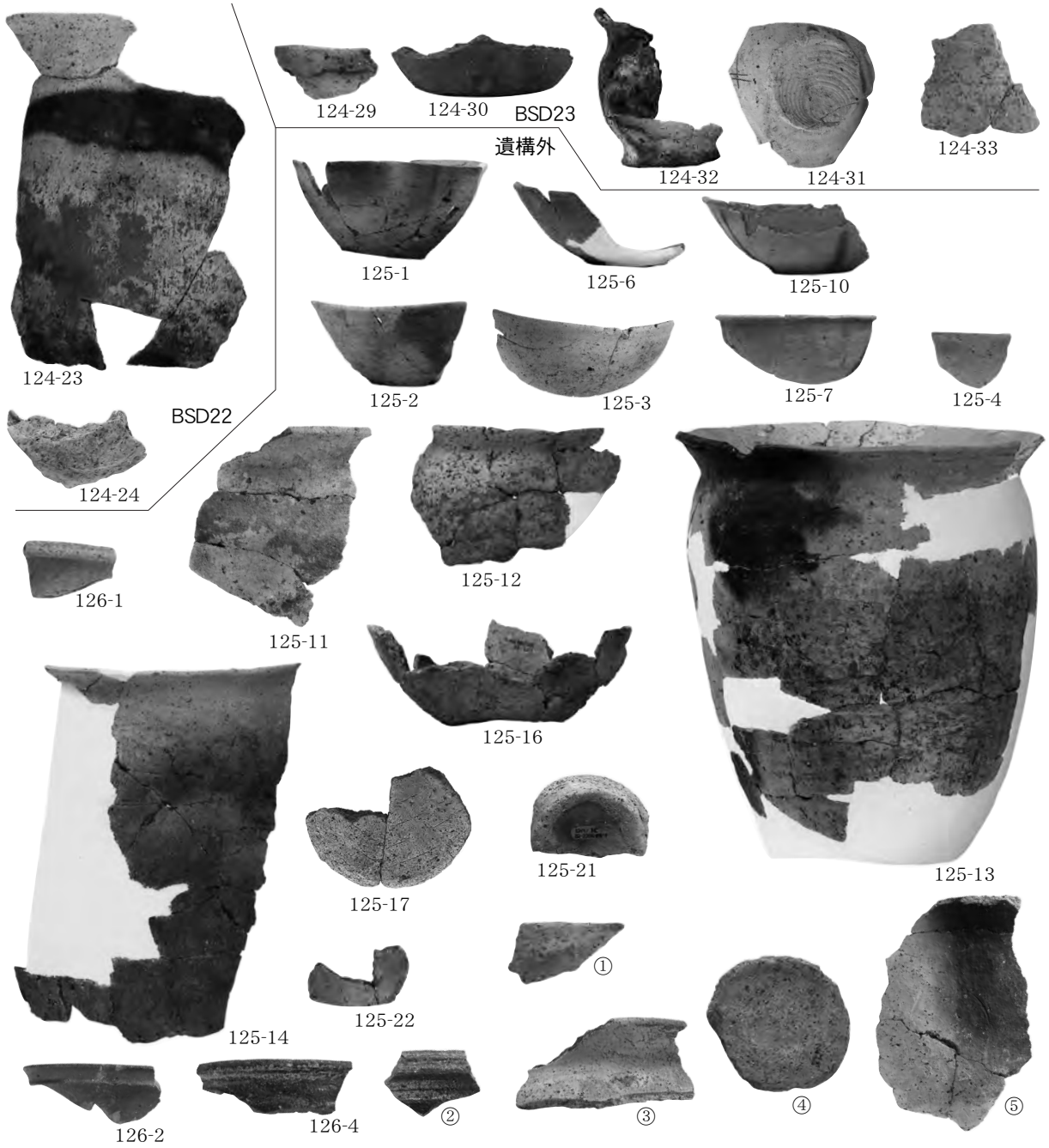


写真 69　溝跡、遺構外出土土師器・須恵器

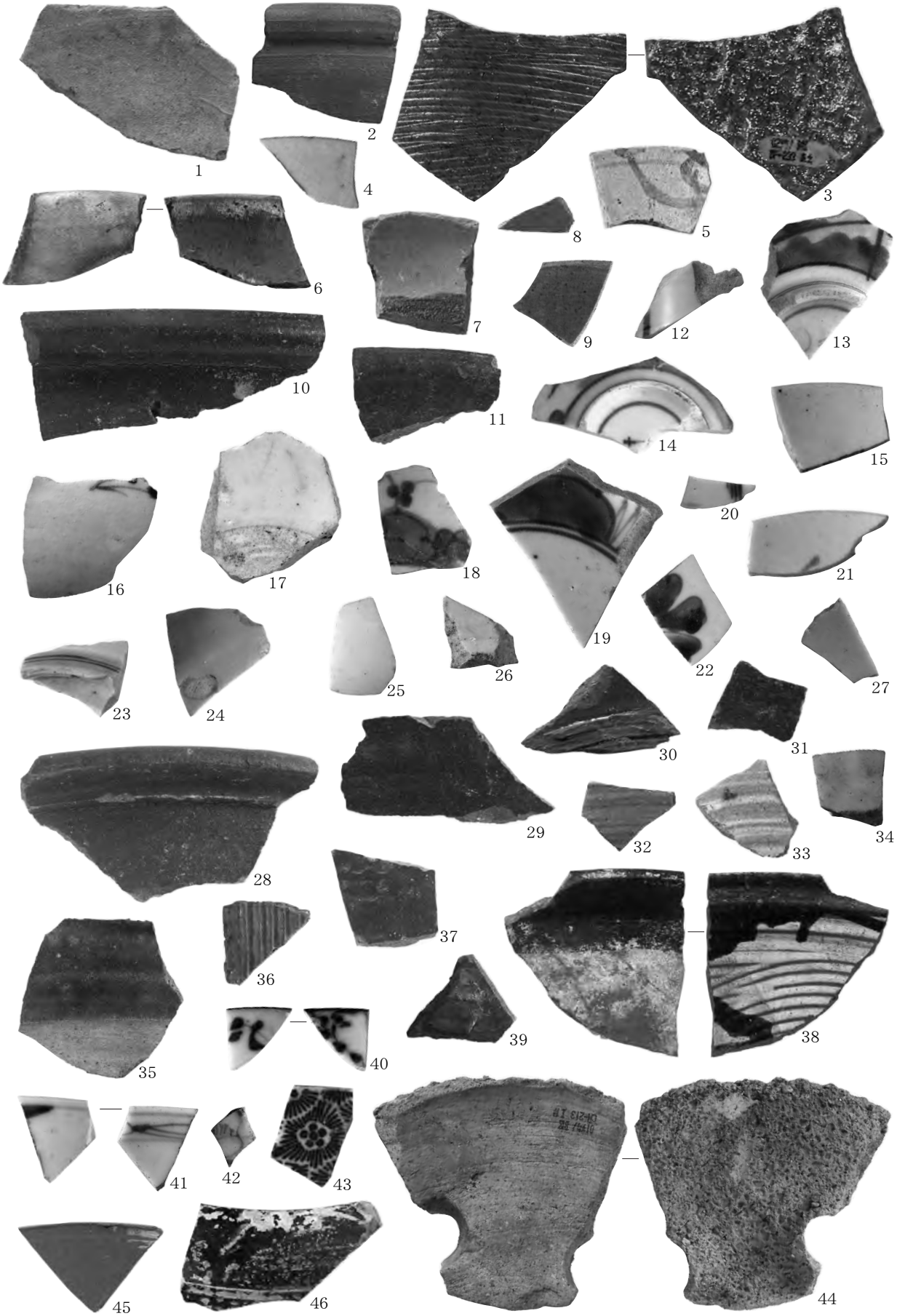

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46

写真 70　陶器、磁器、土器

ふりがな	さんないまるやま　　ちかの
書名	三内丸山(5)遺跡Ⅱ・近野遺跡Ⅶ
副書名	県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第370集
編著者名	(三内丸山(5)遺跡) 水谷真由美 (近野遺跡) 杉野森淳子・木村　高・伊藤由美子・斉藤　慶吏・成田　滋彦・荒谷　伸郎・工藤　大・畠山　　昇・小笠原雅行・坂本　真弓
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038－0042　青森市大字新城字天田内152－15　TEL　017－788－5701
発行期間	青森県教育委員会
発行年月日	西暦2004年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		旧日本測地系(TokyoDatum) 世界測地系(JGD2000)右		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
さんないまるやま 三内丸山 (5) 遺跡	あおもりけん 青森県 あおもり し おおあざ 青森市大字 さんないあざまるやま 三内字丸山	02201	01250	42°(42°) 48′(48′) 25″(33”)	140°(140°) 43′(43′) 24″(10″)	20010418 ～ 20010531	1,500	県立美術館及び県道里見丸山線建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
さんないまるやま 三内丸山 (5) 遺跡	集落跡	縄文時代後期主体 後期 中期	土坑　6基 土器棺墓　3基 道跡　1条	土器・石器	縄文時代後期の土器棺墓3基が良好な状態で検出。
		縄文時代 前・中・後・晩期	なし	土器・石器・ミニチュア	
	散布地	続縄文時代	なし	土器片	
	集落跡	平安時代	溝跡　1条 道跡　1条		

ふりがな	さんないまるやま　　ちかの
書名	三内丸山(5)遺跡Ⅱ・近野遺跡Ⅶ
副書名	県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第370集
編著者名	(三内丸山(5)遺跡) 水谷真由美 (近野遺跡) 杉野森淳子・木村　高・伊藤由美子・斉藤　慶吏・成田　滋彦・荒谷　伸郎・工藤　大・畠山　　昇・小笠原雅行・坂本　真弓
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038－0042　青森市大字新城字天田内152－15　TEL　017－788－5701
発行期間	青森県教育委員会
発行年月日	西暦　2004年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		旧日本測地系 (TokyoDatum)		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
近野(ちかの)遺跡 A区 (斜面) B区 (西側台地)	青森県(あおもりけん) 青森市(あおもりし)大字(おおあざ) 安田(やすだ)字近野(あざちかの) 219、外	02201	01065	40° 48′ 18″	140° 42′ 17″	20010418 ～ 20011122 (A･B区は2001 1031で終了)	B区 (西側台地西側) 8,400	県立美術館及び県道里見丸山線建設に伴う事前調査
				世界測地系 (JGD2000)		20020415 ～ 20021220 (B区は2002 1122で終了)	A区 (斜面) 1,100 B区 (西側台地中央) 6,600	
				40° 48′ 27″	140° 42′ 04″	20030417 ～ 20031022	B区 (西側台地東側) 7,400	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
近野（ちかの）遺跡 A区 （斜面） B区 （西側 台地）	散布地	縄文時代 前・晩期	なし	土器（中期中葉～後期前葉を主体） 剥片石器 礫石器 土製品（円盤状土製品・その他）	・中期中葉の住居跡検出 ・調査区東側で後期の遺構検出 ・谷への急斜面で土坑検出（水場遺構関連か）
	集落跡?	縄文時代 中期 後期 時期不明	竪穴住居跡　1軒 土坑　1基 土器埋設遺構　1基 土器片集積遺構　2基 土坑　13基		
	散布地	弥生時代 続縄文時代	なし	土器 後北Ｃ2・Ｄ式土器	
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡　25軒 （建替え含む） 掘立柱建物跡　5棟 溝跡　18条 畠跡　1基 焼土・炭化物集積遺構　2基 柱列　1基 土坑　39基	土師器・須恵器、土製品 （土鈴・土玉・球状土製品・紐状土製品）、 焼成粘土塊、 石製品、 製塩土器、 支脚、 鉄関連遺物 （羽口・炉壁・鉄滓・鉄製品）	・平安時代の集落跡 ・外周溝と掘立柱建物跡を伴う。 ・斉一性のある住居、南東方向カマド設置 ・同じ場所で建替えを行う ・焼失家屋 ・外周溝先端部に遺物･焼土･粘土が集中 ・出土遺物から何らか（鉄？）の生産に関わる遺構の存在が伺える。
	散布地	近世以降	なし	土人形、古銭、陶磁器・土器	
		時期不明	ピット（柱穴群）　61基 土坑　35基 （A区1基含む）		ピットは平安時代の可能性のあるものも含む

青森県埋蔵文化財調査報告書　第370集

三内丸山(5)遺跡Ⅱ・近野遺跡Ⅶ

― 県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 ―

発行年月日　2004年3月25日

発　　行　青森県教育委員会

編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042　青森市大字新城字天田内152番15号

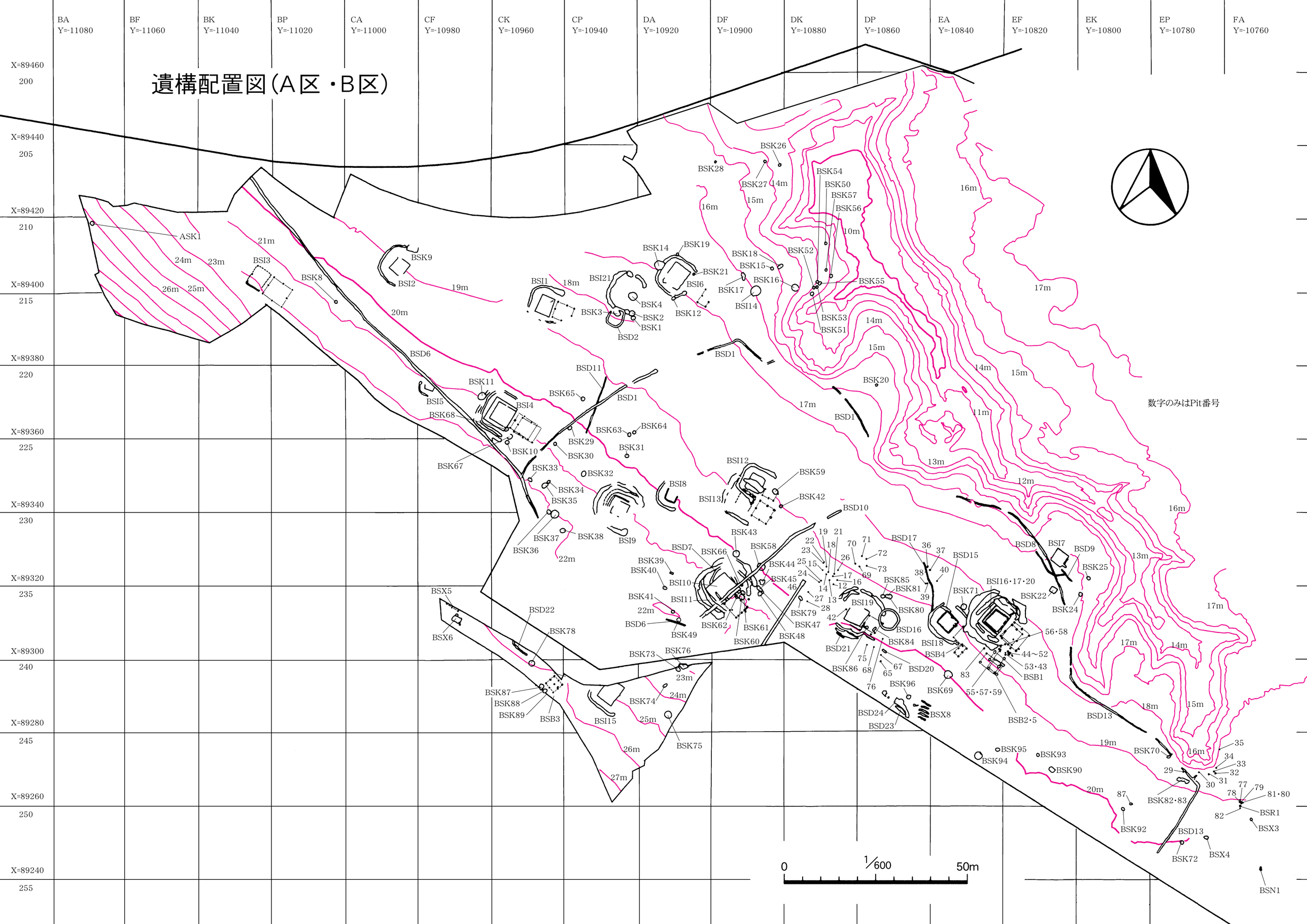
TEL 017-788-5701　FAX 017-788-5702

印　　刷　第一印刷株式会社

〒038-0003　青森市石江字江渡3番1号

TEL 017-782-2333　FAX 017-781-9153

遺構配置図（A区・B区）



BA Y=-11080
BF Y=-11060
BK Y=-11040
BP Y=-11020
CA Y=-11000
CF Y=-10980
CK Y=-10960
CP Y=-10940
DA Y=-10920
DF Y=-10900
DK Y=-10880
DP Y=-10860
EA Y=-10840
EF Y=-10820
EK Y=-10800
EP Y=-10780
FA Y=-10760
X=89460 200
X=89440 205
X=89420 210
X=89400 215
X=89380 220
X=89360 225
X=89340 230
X=89320 235
X=89300 240
X=89280 245
X=89260 250
X=89240 255
数字のみはPit番号
0 1/600 50m